

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第 351 集

村道生品下り線埋蔵文化財発掘調査報告書

生 品 西 浦 遺 跡

～ 終末期・馬具出土古墳の調査 ～

2005

群 馬 県 沼 田 土 木 事 務 所
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

正誤表

頁		誤	正
4	33行	薄根側	薄根川
7	7	諸磯B・C	諸磯b・c
7	7	有坂式	有尾式
85	C区5号掘立柱建物	FPを含まず。	FPを含む。
85	〃	第4四半期	第1四半期
120	B区7~24号土坑	「第5章-5」	「第5章-4」

村道生品下り線埋蔵文化財発掘調査報告書

NAMA SHINA NISHI URA

生品西浦遺跡

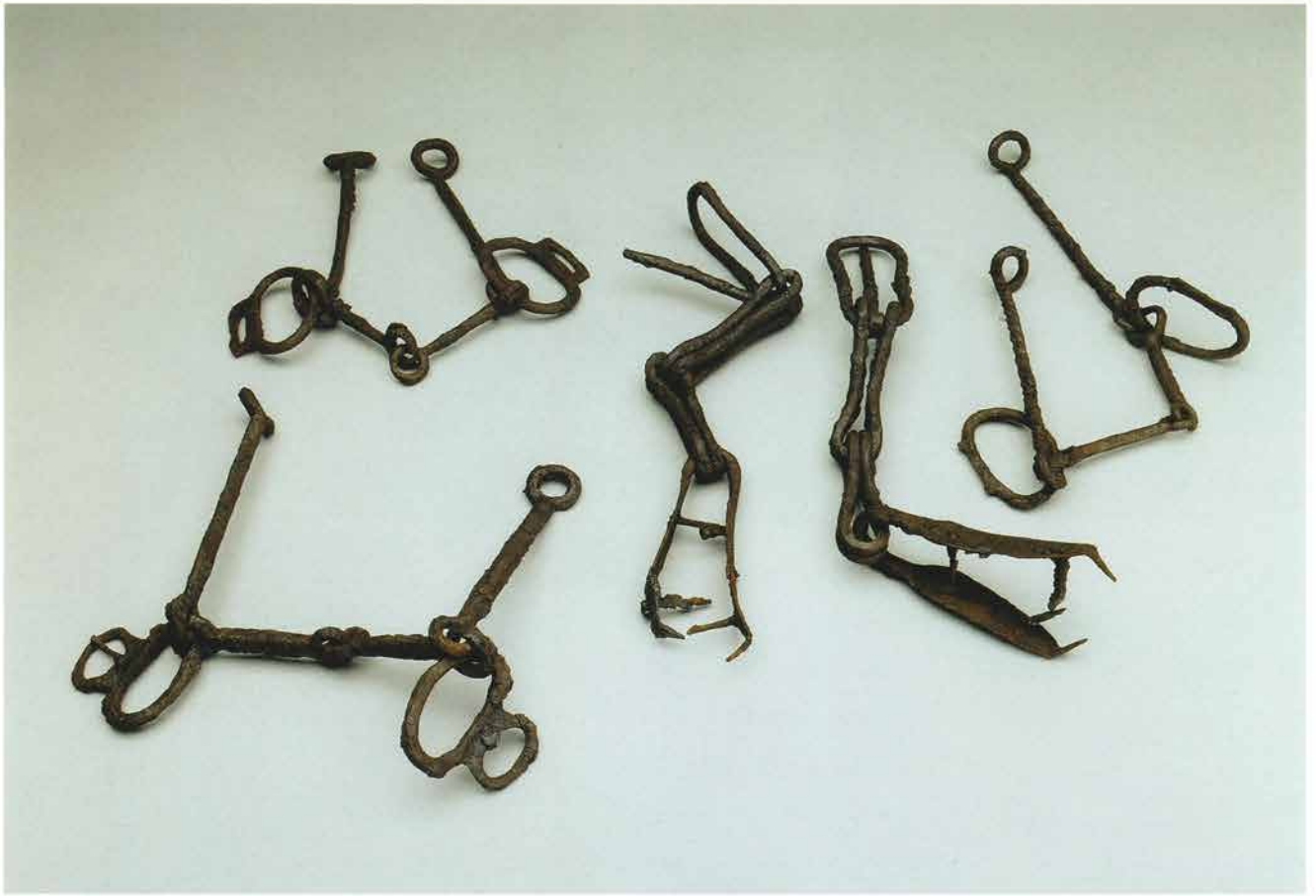
～ 終末期・馬具出土古墳の調査 ～

2005

群馬県沼田土木事務所
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団



古墳出土遺物



B区1号古墳出土馬具



古墳出土玉類

序

生品西浦遺跡は利根郡川場村大字生品に所在し、平成13年から平成15年にかけて、村道生品下り線の道路工事に先立って発掘調査された遺跡です。

発掘調査は群馬県土木部（現県土整備局）沼田土木事務所からの委託を受け、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が実施し、平成16年6月から平成17年3月にかけて整理事業を実施しました。今回の調査では縄文時代から近世にかけての遺構・遺物が多数発見されました。特に古墳時代の調査では、7世紀の小型円墳（A区1・2号古墳、B区1号古墳）から、武器や馬具等の鉄製品をはじめ須恵器や玉類など多くの遺物が出土しました。ことに鉄製品の遺存状態はたいへん良好で、今でも実際に使えるのではないかと考えるほどです。このような出土状況は薄根川対岸の沼田市奈良古墳群でも同様です。これほどに豊富な馬具が出土するのは極めて希なことで、本古墳群にかかわる集団が馬と非常に深い関係にあったことをうかがわせます。

また、平安時代の調査では、竪穴住居から村内で発掘例の少ない墨書土器や刻書土器が出土し、古代川場村の様子を明らかにする上で貴重な資料を提供してくれています。

本報告書が考古学の研究者はもちろん、郷土の歴史に関心をお持ちの県民の皆様、さらには学校教育における郷土学習にも、大いに役立つものと確信しております。

最後に、群馬県教育委員会文化課、群馬県沼田土木事務所、川場村教育委員会、および地元関係者の皆様には発掘調査から報告書刊行まで終始ご協力を賜り、感謝の意を表すとともに、発掘調査・整理事業に携わった担当者、作業員の方々、整理補助員の方々の労をねぎらい序とします。

平成17年3月

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長 小野 宇三郎

例 言

1. 本書は、村道生品下り線事業に伴い事前調査された、生品西浦遺跡の発掘調査報告書である。
2. 本遺跡は、群馬県利根郡川場村生品地内に所在する。
3. 事業主体 群馬県土木部（沼田土木事務所）
4. 調査主体 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
5. 調査期間 平成13年7月1日～平成13年9月30日
平成14年8月1日～平成14年11月30日
平成15年6月1日～平成15年9月30日
6. 整理期間 平成16年6月1日～平成17年3月31日
7. 調査・整理組織
事務担当 小野宇三郎・吉田 豊・住谷永市・赤山容造・神保侑史・住谷 進・萩原利通・矢崎俊夫
能登 健・巾 隆之・右島和夫・真下高幸・中束耕志・相京建史・大島信夫・植原恒夫
丸岡道雄・笠原秀樹・小山建夫・高橋房雄・竹内 宏・須田朋子・吉田有光・森下弘美
田中健一・阿久沢玄洋・栗原幸代・今井もと子・内山佳子・若田 誠・佐藤美佐子
本間久美子・北原かおり・狩野真子・松下次男・吉田 茂
調査担当 平成13年度 根岸 仁・小林 徹・本間 昇 平成14年度 平方篤行・井原陽一
平成15年度 廣津英一・齊田智彦
整理担当 齊田智彦
整理補助 伊藤淳子・星野春子・吉沢やよい・猪野熊洋子・船津博子
遺物写真 佐藤元彦
保存処理 関 邦一・土橋まり子・小材浩一
機械実測 富沢スミ江・伊東博子・岸 弘子・田中精子・酒井史恵・廣津真希子
8. 分析・委託
石材同定 飯島静男（群馬県地質研究会） 口絵写真撮影 小川忠博
9. 本文執筆 第1章1 中束耕志 第4章2 杉山秀宏 第4章3 佐藤信孝（専修大学大学院）
第5章1・2 古環境研究所 第5章3・4 檜崎修一郎
遺物観察表 縄文 関根慎二 弥生 大木紳一郎 鉄鎌 杉山秀宏
上記以外 齊田智彦
10. 本書編集 齊田智彦
11. 本遺跡の出土遺物及び図面・写真等の資料は群馬県埋蔵文化財調査センターに保管してある。

凡 例

1. 遺構図に使用した方位は、座標の北を表している。

2. 本報告書で使用したテフラの略号は以下の通りである。

浅間粕川テフラ（1128年） As-Kk 浅間B軽石（1108年） As-B

榛名二ツ岳伊香保テフラ（6世紀中葉） FP

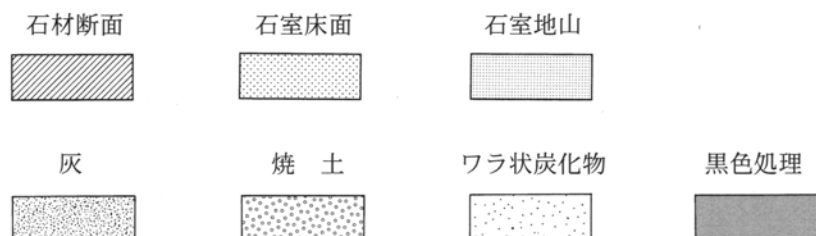
3. 遺構図・遺物図の縮尺は、原則として以下の通りである。

遺構図 住居・掘立柱建物・土坑・畑・集石 1：60 炉・竈・土坑墓 1：30 古墳 1：120

遺物図 玉類 1：1 鉄製品 1：2 土器（坏・高坏） 1：3 土器（それ以外） 1：4

ただし、図によってはその限りではなく、異なる場合は各々スケールを付した。

4. 遺構図・遺物図中で使用したスクリーントーンは以下の通りである。



5. 古墳玄室遺物出土図中の記号は以下の通りである。

鉄片 ■ 小玉 ● 切り子玉 ○ 管玉 □ 骨片 ▲ 歯 □

6. 本文の記載方法は以下の通りである。

竪穴住居の「位置」はその遺構の含まれる代表的なグリッドを記した。「方位」は炉付設住居長軸、竈付設竪穴住居は竈が付設された壁の、それぞれ真北から角度を記した。「形状」は、方形・隅丸方形・長方形・隅丸長方形に分類して記した。「規模」は遺構確認面の上端で計測した。「面積」は上端でデジタルプランニメーターの3回平均値を記した。「重複」は重複する遺構の新旧関係を「旧→新」で示した。「埋土」は全体的な傾向や特徴的なものについて記した。「貯蔵穴」「柱穴」の規模は長軸×短軸×深さを計測した。その他の遺構についても住居に準じて記述した。

7. 遺物写真の倍率は原則として遺物図の縮尺に近づけたが、この限りでない。

8. 本書で使用した地図は下記のとおりである。

国土地理院 2万5千分の1地形図「後閑」「沼田」

20万分の1地勢図「高田」「日光」「長野」「宇都宮」

目次

口絵	
序	
例言	
凡例	
本文目次	
挿図目次	
表目次	
写真目次	
報告書抄録	

第1章 発掘調査経過と概要

1. 発掘調査に至る経緯	1
2. 発掘調査の方法と経過	2
3. 基本土層	3

第2章 遺跡地の環境

1. 地理的環境	4
2. 歴史的環境	4

第3章 検出された遺構と遺物

1. 縄文時代の遺構と遺物	
(1) 概要	7
(2) 土坑	7
(3) 遺構外出土遺物	25
2. 弥生時代の遺構と遺物	
(1) 概要	27
(2) 竪穴住居	27
(2) 遺構外出土遺物	29
3. 古墳～平安時代の遺構と遺物	
(1) 概要	30
(2) 竪穴住居	30
(3) 掘立柱建物	79
(4) 古墳	86
(5) 集石・土坑	114
(6) 遺構外出土遺物	118

4. 中近世の遺構と遺物

(1) 概要	119
(2) 屋敷跡	119
(3) 畑跡	119
(4) 土坑墓	120
(5) 土坑	129
(6) 遺構外出土遺物	131

第4章 まとめと考察

1. 調査のまとめ	159
2. 生品・奈良古墳群出土の鉄鏃について	161
3. B区1号古墳出土馬具について	162

第5章 自然科学分析と鑑定

1. A区の自然科学分析	164
2. C区の自然科学分析	
(1) 火山灰分析	169
(2) 樹種同定	172
(3) 植物珪酸体分析	174
3. 生品西浦古墳出土人骨	175
4. 生品西浦遺跡出土人骨	178

写真図版

挿図目次

第 1図	生品西浦遺跡の位置	1	第 60図	C区7号住居出土遺物(2)	61
第 2図	村道生品下り線路線図	2	第 61図	C区9号住居と出土遺物	62
第 3図	グリッド設定図	2	第 62図	C区10号住居(1)	63
第 4図	土層柱状図	3	第 63図	C区10号住居(2)と出土遺物	64
第 5図	生品西浦遺跡周辺の遺跡分布	6	第 64図	C区11号住居と出土遺物	65
第 6図	A区1号土坑・B区1・2号土坑と出土遺物	7	第 65図	C区15号住居と出土遺物(1)	66
第 7図	B区3・4・5・6号土坑と出土遺物	8	第 66図	C区15号住居出土遺物(2)	67
第 8図	B区25・26・27号土坑	9	第 67図	C区16号住居と出土遺物	67
第 9図	B区28・29・30・31号土坑と出土遺物	10	第 68図	C区1号住居(1)	68
第10図	B区32・33・34・35号土坑	11	第 69図	C区1号住居(2)	69
第11図	B区36・37・38号土坑・C区1号土坑	12	第 70図	C区1号住居出土遺物(1)	70
第12図	C区2・3・4号土坑	13	第 71図	C区8号住居(1)	71
第13図	C区5・6・7号土坑	14	第 72図	C区8号住居(2)と出土遺物	72
第14図	C区8・9・10・11号土坑	15	第 73図	C区12号住居(1)	73
第15図	C区12・13・14・15号土坑	16	第 74図	C区12号住居(2)	74
第16図	C区16・17・18・19号土坑	17	第 75図	C区12号住居出土遺物	75
第17図	C区20・21・22・23号土坑と出土遺物	18	第 76図	C区13号住居(1)	76
第18図	C区46・49・50号土坑	19	第 77図	C区13号住居(2)	77
第19図	C区58・59・60・61号土坑	20	第 78図	C区13号住居出土遺物	78
第20図	C区62・63・64・65号土坑	21	第 79図	C区14号住居	78
第21図	C区66・67・68・69号土坑	22	第 80図	A区1号掘立柱建物	79
第22図	C区70・71・72・73号土坑	23	第 81図	B区1号掘立柱建物	79
第23図	C区74・75・76・78号土坑	24	第 82図	B区2号掘立柱建物	80
第24図	C区77号土坑と遺構外出土遺物	25	第 83図	B区3号掘立柱建物	80
第25図	B区3号住居(1)	27	第 84図	B区4号掘立柱建物	81
第26図	B区3号住居(2)と出土遺物(1)	28	第 85図	B区5号掘立柱建物	81
第27図	B区3号住居出土遺物(2)と遺構外出土遺物	29	第 86図	B区6号掘立柱建物	82
第28図	A区1号住居(1)	31	第 87図	C区1号掘立柱建物	83
第29図	A区1号住居(2)	32	第 88図	C区4号掘立柱建物	83
第30図	A区1号住居出土遺物(1)	33	第 89図	C区2号掘立柱建物	84
第31図	A区1号住居出土遺物(2)	34	第 90図	C区3号掘立柱建物	85
第32図	A区2号住居(1)	35	第 91図	C区5号掘立柱建物	85
第33図	A区2号住居(2)	36	第 92図	A区1号古墳全体図	86
第34図	A区2号住居(3)	37	第 93図	A区1号古墳石室	87
第35図	A区2号住居出土遺物	38	第 94図	A区1号古墳玄室・玄室出土遺物(1)	88
第36図	B区1号住居と出土遺物	39	第 95図	A区1号古墳玄室出土遺物(2)	89
第37図	B区2号住居(1)	39	第 96図	A区1号古墳玄室出土遺物(3)・石室外出土遺物(1)	90
第38図	B区2号住居(2)	40	第 97図	A区1号古墳石室外出土遺物(2)	91
第39図	B区2号住居出土遺物	41	第 98図	A区1号古墳石室外出土遺物(3)	92
第40図	C区2号住居と出土遺物	42	第 99図	A区2号古墳全体図	93
第41図	C区3号住居(1)	43	第100図	A区2号古墳石室	94
第42図	C区3号住居(2)	44	第101図	A区2号古墳玄室・玄室出土遺物(1)	95
第43図	C区3号住居(3)	45	第102図	A区2号古墳玄室出土遺物(2)	96
第44図	C区3号住居出土遺物(1)	46	第103図	A区2号古墳玄室出土遺物(3)	97
第45図	C区3号住居出土遺物(2)	47	第104図	A区2号古墳玄室出土遺物(4)・石室外出土遺物(1)	98
第46図	C区3号住居出土遺物(3)	48	第105図	A区2号古墳石室外出土遺物(2)	99
第47図	C区4号住居(1)	49	第106図	B区1号古墳全体図	100
第48図	C区4号住居(2)	50	第107図	B区1号古墳石室	101
第49図	C区4号住居(3)と出土遺物(1)	51	第108図	B区1号古墳玄室	102
第50図	C区4号住居出土遺物(2)	52	第109図	B区1号古墳玄室出土遺物(1)	103
第51図	C区5号住居(1)	52	第110図	B区1号古墳玄室出土遺物(2)	104
第52図	C区5号住居(2)	53	第111図	B区1号古墳玄室出土遺物(3)	105
第53図	C区5号住居と出土遺物(1)	54	第112図	B区1号古墳玄室出土遺物(4)	106
第54図	C区5号住居出土遺物(2)	55	第113図	B区1号古墳玄室出土遺物(5)	107
第55図	C区6号住居(1)	56	第114図	B区1号古墳玄室出土遺物(6)	108
第56図	C区6号住居(2)と出土遺物(1)	57	第115図	B区1号古墳玄室出土遺物(7)	109
第57図	C区6号住居出土遺物(2)	58	第116図	B区1号古墳石室外出土遺物	110
第58図	C区7号住居(1)	59	第117図	B区2号古墳周堀・出土遺物(1)	111
第59図	C区7号住居(2)と出土遺物(1)	60	第118図	B区2号古墳出土遺物(2)	112

第119図	C区1号古墳周堀・出土遺物(1)	113
第120図	C区1号古墳出土遺物(2)	114
第121図	A区1号集石と出土遺物	114
第122図	A区2号集石と出土遺物	115
第123図	A区3号集石と出土遺物	115
第124図	A区4号集石と出土遺物	115
第125図	A区6号集石と出土遺物	116
第126図	C区1号集石	116
第127図	C区35・36号土坑	116
第128図	C区33・34・42・44・57号土坑と出土遺物	117
第129図	C区52号土坑と出土遺物・遺構外出土遺物	118
第130図	C区1号屋敷跡・C区1号畑跡(1)	119
第131図	C区1号畑跡(2)・B区7～24号土坑(1)	120
第132図	B区7～24号土坑(2)	121
第133図	B区8～14号土坑出土遺物	122

第134図	B区14・15号土坑出土遺物	123
第135図	B区16～18号土坑出土遺物	124
第136図	B区18～20号土坑出土遺物	125
第137図	B区20～22号土坑出土遺物	126
第138図	B区22・23号土坑出土遺物	127
第139図	B区23・24号土坑・7～24号土坑出土遺物	128
第140図	B区24・25号土坑・C区26・28～30号土坑	129
第141図	C区31・32・37～41・43号土坑と出土遺物	130
第142図	C区53～55号土坑・遺構外出土遺物	131
第143図	馬具(轡)の計測値	153
第144図	馬具(鍔)の計測値・鉄鍔の分類	154
第145図	生品・奈良古墳群出土鉄鍔	160
第146図	A区火山灰分析結果	167
第147図	C区火山灰分析結果	170

表目次

第1表	周辺の遺跡	5
第2表	縄文時代土坑一覧表	26
第3表	古墳～平安時代土坑一覧表	118
第4表	中近世土坑墓一覧表	129
第5表	中近世土坑一覧表	131

第6表	A区におけるテフラ検出分析結果	166
第7表	A区における屈折率測定結果	166
第8表	C区におけるテフラ検出分析結果	170
第9表	生品西浦遺跡における樹種同定結果	173

写真目次

PL1-1	A区第1面調査区全景(南から)	7
2	C区第1面調査区全景(南から)	8
PL2-1	C区第2面調査区全景(南から)	2
2	A区1号土坑全景(北東から)	3
3	B区1号土坑全景(西から)	4
4	B区2号土坑全景(南西から)	5
5	B区3号土坑全景(西から)	6
PL3-1	B区4号土坑全景(西から)	7
2	B区5号土坑全景(南から)	8
3	B区6号土坑全景(南西から)	5
4	B区25号土坑全景(東から)	6
5	B区26号土坑全景(南から)	7
6	B区27号土坑全景(西から)	8
7	B区28号土坑全景(南西から)	5
8	B区29号土坑全景(西から)	6
PL4-1	B区30号土坑全景(北西から)	7
2	B区31号土坑全景(南から)	8
3	B区32号土坑全景(西から)	5
4	B区33号土坑全景(西から)	6
5	B区34号土坑全景(西から)	7
6	B区35号土坑全景(南から)	8
7	B区36号土坑全景(西から)	5
8	B区37号土坑全景(東から)	6
PL5-1	B区38号土坑全景(西から)	7
2	C区1号土坑全景(南から)	8
3	C区2号土坑全景(西から)	5
4	C区3号土坑全景(西から)	6
5	C区4号土坑全景(西から)	7
6	C区5号土坑全景(西から)	8

PL6-1	C区8号土坑全景(北から)	2
2	C区9号土坑全景(西から)	3
3	C区10号土坑全景(西から)	4
4	C区11号土坑全景(東から)	5
5	C区12号土坑全景(西から)	6
6	C区13号土坑全景(西から)	7
7	C区14号土坑全景(西から)	8
8	C区15号土坑全景(西から)	5
PL7-1	C区16号土坑全景(西から)	6
2	C区17号土坑全景(東から)	7
3	C区18号土坑全景(東から)	8
4	C区19・22号土坑全景(西から)	5
5	C区20号土坑全景(南西から)	6
6	C区21号土坑全景(東から)	7
7	C区23号土坑全景(南から)	8
8	C区46号土坑全景(西から)	5
PL8-1	C区49号土坑全景(西から)	6
2	C区50号土坑全景(北から)	7
3	C区58号土坑全景(北から)	8
4	C区59号土坑全景(北から)	5
5	C区60号土坑全景(北から)	6
6	C区61号土坑全景(北から)	7
7	C区62号土坑全景(北から)	8
8	C区63・64号土坑全景(北から)	5
PL9-1	C区66号土坑全景(北から)	6
2	C区67号土坑全景(北から)	7
3	C区69号土坑全景(東から)	8

- | | | | |
|--------|-----------------------|--------|----------------------|
| 4 | C区70号土坑全景 (西から) | 4 | C区10号住居電使用面全景 (南から) |
| 5 | C区71号土坑全景 (西から) | 5 | C区9号住居全景 (西から) |
| 6 | C区72号土坑全景 (東から) | 6 | C区11号住居全景 (西から) |
| 7 | C区73号土坑全景 (北から) | 7 | C区15号住居遺物出土状況 (西から) |
| 8 | C区74号土坑全景 (西から) | 8 | C区15号住居掘り方全景 (西から) |
| PL10-1 | C区75号土坑全景 (西から) | PL18-1 | C区16号住居遺物出土状況 (南から) |
| 2 | C区76号土坑全景 (北から) | 2 | C区16号住居掘り方全景 (南から) |
| 3 | C区77号土坑全景 (東から) | 3 | C区16号住居生活面全景 (西から) |
| 4 | C区78号土坑全景 (北から) | 4 | C区1号住居電使用面全景 (西から) |
| 5 | B区3号住居全景 (西から) | 5 | C区1号住居掘り方全景 (西から) |
| PL11-1 | B区3号住居遺物出土状況 (北東から) | 6 | C区1号住居電掘り方全景 (西から) |
| 2 | B区3号住居遺物出土状況 (東から) | 7 | C区8号住居生活面全景 (西から) |
| 3 | B区3号住居炉全景 (北から) | 8 | C区8号住居電使用面全景 (西から) |
| 4 | B区3号住居北側工具痕 (南から) | PL19-1 | C区12号住居生活面全景 (西から) |
| 5 | A区1号住居生活面全景 (西から) | 2 | C区12号住居電使用面全景 (西から) |
| PL12-1 | A区1号住居遺物出土状況 (西から) | 3 | C区12号住居掘り方全景 (西から) |
| 2 | A区1号住居電使用面全景 (西から) | 4 | C区12号住居電掘り方全景 (西から) |
| 3 | A区1号住居掘り方全景 (西から) | 5 | C区13号住居遺物出土状況 (西から) |
| 4 | A区1号住居電掘り方全景 (西から) | PL20-1 | C区13号住居生活面全景 (西から) |
| 5 | A区2号住居生活面全景 (西から) | 2 | C区13号住居電使用面全景 (西から) |
| 6 | A区2号住居電使用面全景 (西から) | 3 | C区13号住居掘り方全景 (西から) |
| 7 | A区2号住居掘り方全景 (西から) | 4 | C区13号住居電掘り方全景 (西から) |
| 8 | A区2号住居電掘り方全景 (西から) | 5 | C区14号住居全景 (南から) |
| PL13-1 | B区1号住居全景 (西から) | 6 | A区1号掘立柱建物全景 (南から) |
| 2 | B区1号住居電全景 (西から) | 7 | B区1号掘立柱建物全景 (西から) |
| 3 | B区2号住居生活面全景 (東から) | 8 | B区2号掘立柱建物全景 (南から) |
| 4 | B区2号住居電使用面全景 (東から) | PL21-1 | B区3号掘立柱建物全景 (南から) |
| 5 | B区2号住居掘り方全景 (東から) | 2 | B区4号掘立柱建物全景 (南から) |
| 6 | B区2号住居電掘り方全景 (東から) | 3 | B区5号掘立柱建物全景 (西から) |
| 7 | B区2号住居貯蔵穴全景 (東から) | 4 | B区6号掘立柱建物全景 (西から) |
| 8 | C区2号住居全景 (西から) | 5 | C区1号掘立柱建物全景 (東から) |
| PL14-1 | C区3号住居掘り方全景 (西から) | 6 | C区2号掘立柱建物全景 (北から) |
| 2 | C区3号住居生活面全景 (北から) | 7 | C区3号掘立柱建物全景 (西から) |
| 3 | C区3号住居電使用面全景 (西から) | 8 | C区4号掘立柱建物全景 (南から) |
| 4 | C区3号住居電遺物出土状況 (西から) | PL22-1 | A区1号古墳全景 (南から) |
| 5 | C区3号住居貯蔵穴遺物出土状況 (南から) | 2 | A区1号古墳周堀セクション (東から) |
| PL15-1 | C区4号住居生活面全景 (西から) | 3 | A区1号古墳石室入り口 (南から) |
| 2 | C区4号住居電使用面全景 (西から) | 4 | A区1号古墳玄室遺物出土状況 (西から) |
| 3 | C区4号住居掘り方全景 (西から) | 5 | A区1号古墳玄室舗石面 (南から) |
| 4 | C区4号住居工具痕 (北から) | PL23-1 | A区2号古墳全景 (南から) |
| 5 | C区5号住居生活面全景 (北から) | 2 | A区2号古墳周堀セクション (南から) |
| 6 | C区5号住居電遺物出土状況 (西から) | 3 | A区2号古墳周堀全景 (南西から) |
| 7 | C区5号住居掘り方全景 (北から) | 4 | A区2号古墳羨道部閉塞状況 (南から) |
| 8 | C区5号住居電掘り方全景 (西から) | 5 | A区2号古墳玄室遺物出土状況 (南から) |
| PL16-1 | C区6号住居遺物出土状況 (西から) | PL24-1 | A区2号古墳玄室床面 (北から) |
| 2 | C区6号住居生活面全景 (西から) | 2 | A区2号古墳玄室右壁 (西から) |
| 3 | C区6号住居電使用面全景 (西から) | 3 | A区2号古墳玄室舗石面 (南から) |
| 4 | C区6号住居掘り方全景 (西から) | 4 | A区2号古墳石室裏込状況 (東から) |
| 5 | C区6号住居電掘り方全景 (西から) | 5 | B区1号古墳全景 (南から) |
| PL17-1 | C区7号住居遺物出土状況 (西から) | PL25-1 | B区1号古墳羨道部閉塞状況 (南から) |
| 2 | C区7号住居掘り方全景 (北から) | 2 | B区1号古墳玄室遺物出土状況 (西から) |
| 3 | C区10号住居生活面全景 (西から) | 3 | B区1号古墳馬具出土状況 (西から) |
| | | 4 | B区1号古墳人骨出土状況 (南から) |
| | | 5 | B区1号古墳奥壁 (南から) |

- 6 B区1号古墳石室舗石面（北から）
7 B区2号古墳全景（西から）
8 B区2号古墳周堀遺物出土状況（南東から）
- PL26-1 C区1号古墳周堀遺物出土状況（西から）
2 C区1号古墳検出状況（南から）
3 A区1号集石全景（東から）
4 A区2号集石全景（南から）
5 A区3号集石全景（東から）
6 A区4号集石全景（北西から）
7 A区6号集石全景（南西から）
8 C区1号集石全景（西から）
- PL27-1 C区33号土坑遺物出土状況（南から）
2 C区34号土坑遺物出土状況（西から）
3 C区35号土坑全景（南から）
4 C区36号土坑全景（東から）
5 C区42号土坑全景（東から）
6 C区44号土坑全景（北から）
7 C区52号土坑全景（西から）
8 C区57号土坑全景（南から）
- PL28-1 C区1号屋敷跡全景（北から）
2 C区1号畑全景（北から）
3 B区7～24号土坑全景（東から）
4 B区9・10・18号土坑遺物出土状況（北から）
5 B区11号土坑遺物出土状況（南から）
6 B区12号土坑遺物出土状況（南から）
7 B区14号土坑遺物出土状況（西から）
8 B区15号土坑遺物出土状況（西から）
- PL29-1 B区16・19号土坑遺物出土状況（南から）
2 B区18号土坑遺物出土状況（西から）
3 B区17号土坑全景（東から）
4 B区17号土坑遺物出土状況（東から）
5 B区20号土坑遺物出土状況（南から）
6 B区21号土坑遺物出土状況（北から）
7 B区22号土坑遺物出土状況（南から）
8 B区23号土坑遺物出土状況（北東から）
- PL30-1 C区24・25号土坑全景（西から）
2 C区26号土坑全景（東から）
3 C区28号土坑全景（北から）
4 C区29号土坑全景（南から）
5 C区30号土坑全景（南から）
6 C区31号土坑全景（南から）
7 C区32号土坑全景（南から）
8 C区37号土坑全景（南から）
- PL31-1 C区38号土坑全景（南から）
2 C区39号土坑全景（北から）
- 3 C区40号土坑全景（南から）
4 C区41号土坑全景（西から）
5 C区43号土坑全景（南から）
6 C区53号土坑全景（北から）
7 C区54号土坑全景（西から）
8 C区55号土坑全景（南から）
- PL32 土坑・遺構外出土遺物（縄文） B区3号住居出土遺物
PL33 B区3号住居出土遺物
PL34 遺構外遺物（弥生） A区1号住居出土遺物
PL35 A区1号住居出土遺物
PL36 A区1号住居・2号住居出土遺物
PL37 A区2号住居・B区1号住居・B区2号住居出土遺物
PL38 B区2号住居・C区2号住居・C区3号住居出土遺物
PL39 C区3号住居出土遺物
PL40 C区3号住居出土遺物
PL41 C区3号住居出土遺物
PL42 C区4号住居・C区5号住居出土遺物
PL43 C区5号住居出土遺物
PL44 C区5号住居・C区6号住居出土遺物
PL45 C区6号住居・C区7号住居出土遺物
PL46 C区7号住居出土遺物
PL47 C区7号住居・C区9号住居・C区10号住居・C区11号住居・C区15号住居出土遺物
PL48 C区15号住居・C区16号住居・C区1号住居出土遺物
PL49 C区1号住居・C区8号住居・C区12号住居出土遺物
PL50 C区13号住居・A区1号古墳出土遺物
PL51 A区1号古墳出土遺物
PL52 A区1号古墳・A区1号古墳玄室出土遺物
PL53 A区1号古墳玄室出土遺物
PL54 A区2号古墳出土遺物
PL55 A区2号古墳・A区2号古墳玄室出土遺物
PL56 A区2号古墳玄室出土遺物
PL57 A区2号古墳玄室出土遺物
PL58 B区1号古墳・B区1号古墳玄室出土遺物
PL59 B区1号古墳玄室出土遺物
PL59 B区1号古墳玄室出土遺物
PL60 B区1号古墳玄室出土遺物
PL61 B区1号古墳玄室出土遺物
PL62 B区1号古墳玄室出土遺物
PL63 B区1号古墳玄室出土遺物
PL64 B区1号古墳玄室・B区2号古墳出土遺物
PL65 B区2号古墳・C区1号古墳出土遺物
PL66 A区1～4・6号集石・C区33号土坑出土遺物
PL67 C区34号土坑・C区52号土坑・C区44号土坑・A・B区遺構外（古墳～平安）遺物・B区9・10・12・14・15号土坑出土遺物
PL68 B区15・17～20号土坑出土遺物
PL69 B区21～24号土坑・B区土坑墓・C区37・38号土坑・B・C区遺構外出土遺物

報告書抄録

書名ふりがな	なましなにしうらいせき
書名	生品西浦遺跡
副書名	村道生品下り線に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	351
シリーズ名	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	
編著者名	齊田智彦/榎崎修一郎/佐藤信孝/杉山秀宏/中東耕志
編集機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20050315
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県勢多郡北橘村大字下箱田784-2
遺跡名ふりがな	なましなにしうらいせき
遺跡名	生品西浦遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんとなぐんかわばむらなましなあざにしうら
遺跡所在地	群馬県利根郡川場村生品字西浦
市町村コード	10444
遺跡番号	
北緯(日本測地系)	364017
東経(日本測地系)	1390510
北緯(世界測地系)	364029
東経(世界測地系)	1390459
調査期間	20010701-20010930/20020801-20021130/20030601-20030930
調査面積	971/2000/1867
調査原因	道路建設工事
種別	集落/田畑/墓/古墳/その他
主な時代	縄文/弥生/古墳/奈良平安/中近世
遺跡概要	集落-縄文-土坑68-縄文土器/集落-弥生-竪穴住居1-弥生土器/集落-古墳-竪穴住居15+土坑8-土師器+須恵器+鉄製品+石製品/古墳-古墳5-土師器+須恵器+鉄製品+銅製品+石製品/集落-奈良平安-竪穴住居5-土師器+須恵器/集落-中近世-屋敷跡1+畑1+土坑17-陶器+磁器/墓-中近世-土坑墓18-陶器+磁器+銅製品+鉄製品
特記事項	7世紀の古墳 馬具・大刀などの鉄製品

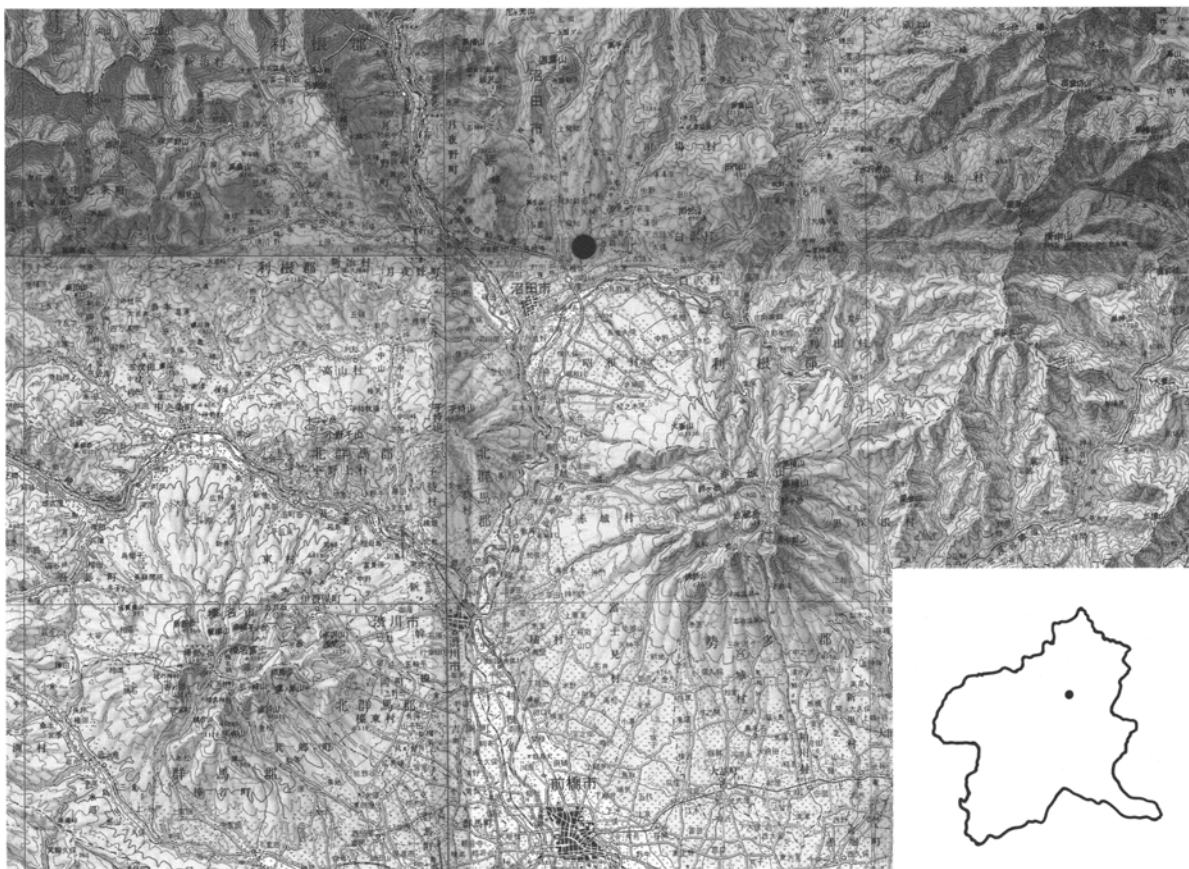
第1章 発掘調査経過と概要

1. 発掘調査に至る経緯

本事業は、沼田土木事務所により計画された村道生品下り線緊急地方道路整備A(代行)事業に伴い、県教育委員会文化財保護課(現文化課)が平成12年12月12日～13日に試掘調査を実施した。試掘調査方法は、事業対象地である利根郡川場村大字生品地内の約2,200㎡に幅1～3.5mの試掘溝を設定し、重機を使用して掘削をおこなった。調査では遺構検出面の認定、遺構有無の確認、遺物包含の有無を判断した。本確認調査において、埋没した古墳とその下位から住居跡を検出した。事業地内は遺跡地として認定され、今後本調査の必要があると判断された。また、文化財保護課と川場村教育委員会の協議によ

り、本遺跡は「生品西浦遺跡」と命名された。

よって、平成13年6月1日付けで群馬県知事(現県土整備局)と当事業団の間で、埋蔵文化財発掘調査の契約を締結した。同年6月に県教育委員会文化財保護課と沼田土木事務所及び本事業団の三者により、事前の現地立合をおこない、同年7月から第一年次目の調査を実施した。縄文時代の陥し穴、古墳時代の集落と墳墓、平安時代の集落、近世の墓等3面から4面の調査が必要であることが判明した。さらに、平成14年6月24日に文化課は、古墳の墳丘と判断されていた地点付近の試掘調査を実施した。その結果、墳丘と推定されていた部分は古墳ではないことが判明した。



第1図 生品西浦遺跡の位置 0 20km

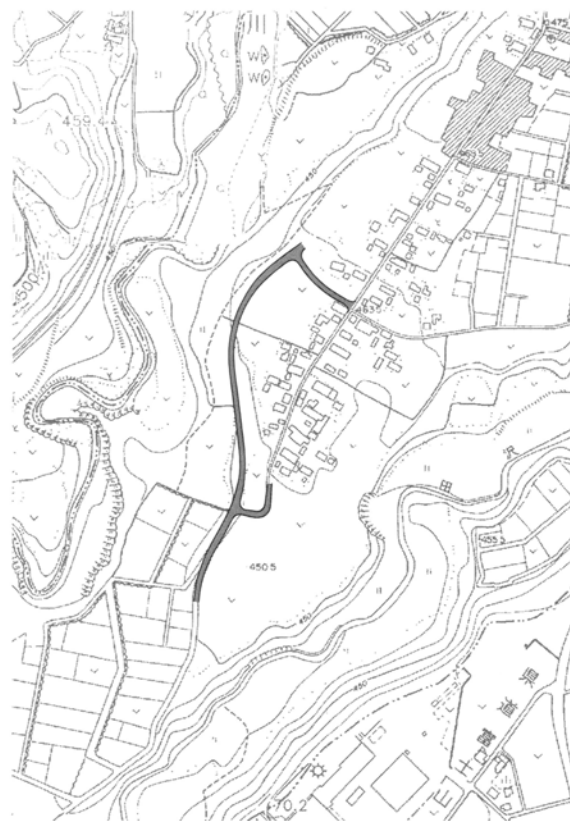
2. 発掘調査の方法と経過

調査にあたってグリッドの設定は、国家座標IX系（2002.4改正前日本測地系）を用い、10mを基準とした。各グリッドの名称は、X軸・Y軸ともに座標値の下3桁のみを表記している。一例としてX=74,800、Y=-66,760の場合、800-760となる。本遺跡の調査は、複数年次に渡ることが予想されたため、初年度調査予定区から順にA区、B区、C区と設定した。遺構名称は、区名にあたるアルファベットを冠し、遺構の種類別に算用数字を用いて通番とした。A区1号住居・B区1号古墳等である。

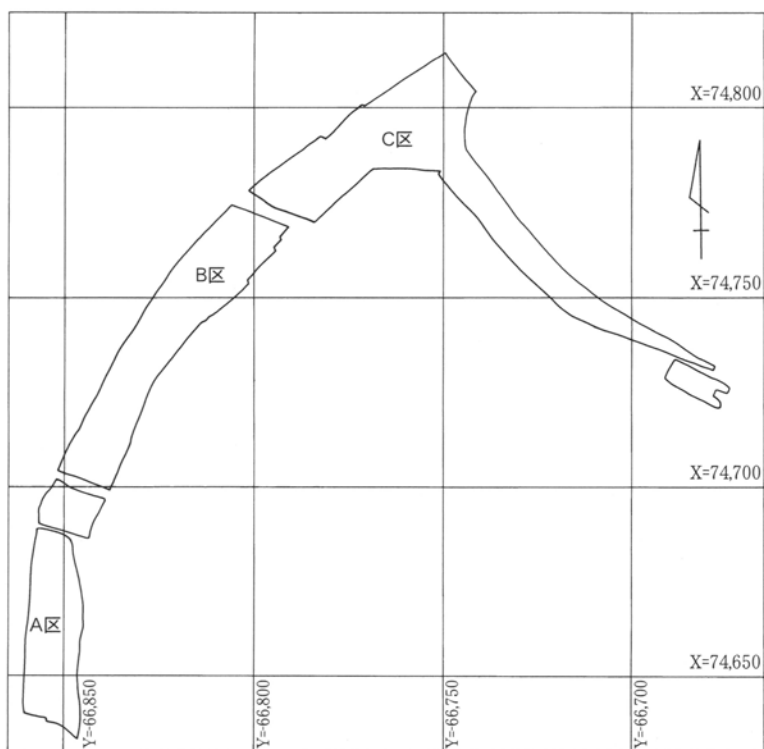
平成13年度は、調査対象域の南端部から調査を開始した。A区の面積は971㎡で、FP上面と下面、ローム上面の3面を調査した。その結果、竪穴住居、掘立柱建物、古墳、集石遺構等を検出した。最終面のローム土の堆積は20~30cmと浅く、その下は薄根川旧河道と思われる段丘砂礫層となっていたため遺構はないものと判断し、調査を終了した。

平成14年度は、A区のすぐ北側から村道への取り付け道部分南の農道までをB区として調査した。対象面積は2000㎡である。当初、複数の文化層の存在が想定されたが、FPの堆積が良好な地点がB区南端の古墳直下に限られたため、ローム上面での遺構確認が基本となった。検出された遺構は、竪穴住居、古墳、土坑、近世土坑墓などである。古墳出土の鉄製品は腐食が少なく、遺存状況がきわめて良好である。

平成15年度は、調査対象区域の残りの部分をC区として調査した。試掘の結果からFP下の住居が、また前年度の調査から縄文時代の陥し穴群が確認され



第2図 村道生品下り線路線図



第3図 グリッド設定図

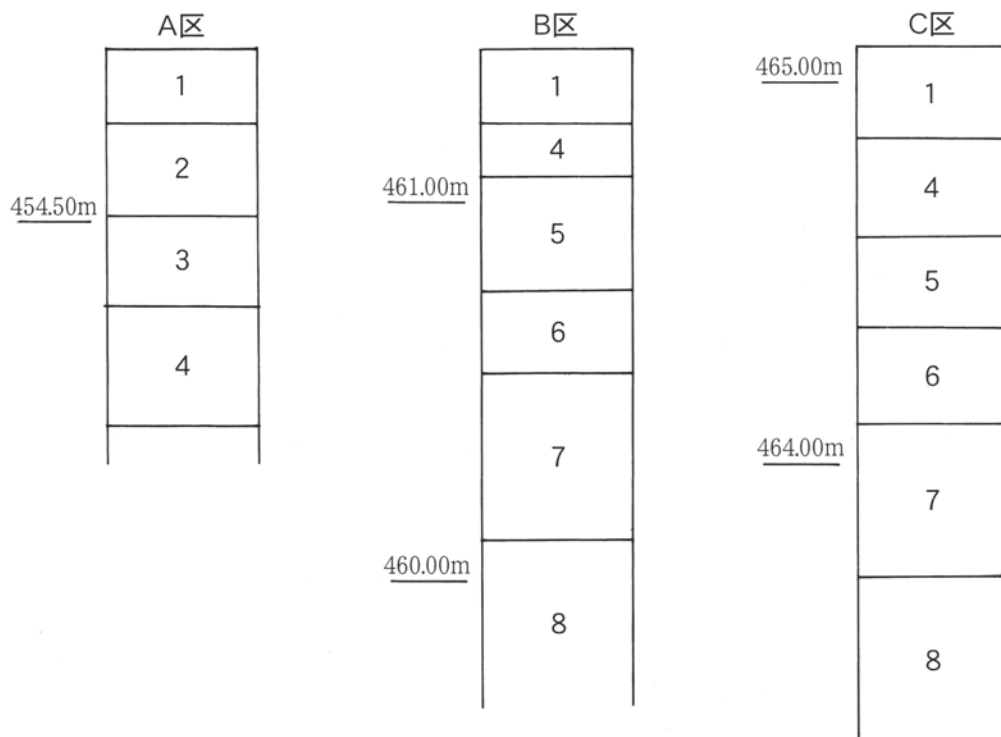
2. 発掘調査の方法と経過

ていたため、FP下面とローム上面で遺構確認を行った。1面では竪穴住居、掘立柱建物、屋敷跡、古墳、土坑等が検出された。竪穴住居群からは完形に近い土師器や須恵器が多数出土した。2面では縄文時代の陥し穴を検出し、平成15年9月に全ての調査を終了した。

3. 基本土層

生品西浦遺跡は薄根川左岸の河岸段丘上にある。B区北側およびC区は1段高い段丘に位置し、北東から南西へ傾斜する。A区ではAs-KkおよびAs-Bが、A・B区古墳の下面やC区住居の上面にはFPの一次堆積層が残されていた。FP下にはいわゆる黒色土、ローム漸移層、ロームが続く。下に示した基本土層図は遺構の調査をもとに、各調査区における土層をモデル化したものである。

1. 現耕作土。色調は概ね黒褐色を呈する。As-KkやFPを多量に含んでいる。
2. As-Kk。A区古墳の周堀やB区の低地部などで確認できる。C区においては後世の耕作により鋤き込まれているため、層位としては確認できない。
3. 暗褐色土層。FPを多量に含む土層である。B・C区においても4層がない地点ではこの土層が存在する。
4. FP。A・B区古墳下や、古墳時代の竪穴住居跡の上層に堆積している。
5. 黒褐色土層。いわゆる黒色土。含有物はほとんどなく、各調査区で確認できる。
6. ローム漸移層。
7. ハードローム層。(詳細は第5章-2)
8. ソフトローム層。(同上)



第4図 土層柱状図

第2章 遺跡地の環境

1. 地理的環境

川場村は、県の東北部、武尊山（2158m）の南斜面に位置する。標高は同村役場付近で約520mを測る。気候は冷涼であり、年平均気温は、11.0℃、冬は平均気温6.6℃まで下がる。山岳地帯の積雪量は多い時で2～3mに達する。

南西部を除いて三方を武尊山、赤倉山、浅松山、田代山、雨乞山、剣ヶ峰、高山山に囲まれ、面積85.29km²のうち約80%が山林で占められている。これらの山地から流れ出す薄根川・桜川・溝又川・田沢川が標高約600mにかかるあたりからその流域に平地を形成する。この平地は、幅約1km・長さ約4kmにわたり、各河川に沿ってほぼ北東から南西に続くが、上記の四河川がほぼ並行している（全て村内で薄根川に合流）ため、利根郡内の他の利根川の支流の平地より広いのが特徴である。

この平地上にはかなり起伏があり、微高地上に集落・畑地が、低地部に水田が展開していることがわかる。しかし、近年、ほ場整備等でこれらの起伏がならされてしまった地区が多い。

川場村への交通路としては、現在、県道平川・沼田線、富士山・横塚線が主要道路として沼田市から通じて村内各集落を結んでいるが、北を険しい武尊山に遮られているため、袋小路の感は否めない。しかし、現在の平川・沼田線は、かつての会津街道の一路として重要な路線であった。川場湯原から木賊と、薄根川を遡行し、赤倉山と武尊山の鞍部の花咲（背嶺）峠を越え、現在の片品村花咲を経て戸倉に至る路線が本道とされているが時代によりそれぞれの路線の盛衰があったと考えられる。

2. 歴史的環境

川場村の遺物散布地は、上記の河川に沿った平地、及び平地縁辺部の丘陵斜面に集中する。しかし、調

査例が少なく詳細は不明な点が多い。そこで、生品古墳群の周辺地域における歴史的環境を、発掘調査された遺跡を中心に概観してみたい。

旧石器時代 この時代の遺跡は、村内では確認されていない。桜川左岸の谷地の不動川原では、生物化石としてナウマン象の臼歯が川場湖成層の粘土層中から発見されている。

縄文時代 村内の橋詰遺跡では、前期の竪穴住居跡が内手遺跡では陥し穴と思われる土坑が確認されている。村内では他に発掘例はなく、平地部及び縁辺部の丘陵斜面に遺物の散布が見られる。また白沢村寺谷遺跡では、縄文中期の竪穴住居跡が30軒ほど確認された。

弥生時代 利根郡内において川場村は、弥生時代の遺物集中地の一つである。各河川に沿った平地部を中心に中期から後期の遺物の散布が見られる。村内の橋詰遺跡・舩海戸遺跡・高野原遺跡では、後期の竪穴住居跡が確認されているが、いずれも樽式の土器が出土している。白沢村寺谷遺跡では、中期・後期の竪穴住居跡がそれぞれ確認されている。

古墳時代 この時期の利根沼田地域では集落の発達が目立つ。古墳時代前期及び後期の集落が多い。村内の舩海戸遺跡・高野原遺跡では、S字甕をとまなう古墳時代前期の住居が見つまっている。白沢村寺谷遺跡では、和泉期や鬼高期の住居跡が確認された。

FP降下後、多くの古墳が造られるようになるが、埴輪が樹立された古墳はほとんどない。7世紀になると薄根川兩岸を中心に横穴式石室を主体部とする小円墳の造営がピークを迎える。昭和14年発行の川場村誌によると、村内には94基（『上毛古墳総覧』には89基）が存在していた。そのうち薄根川左岸の生品地区には、34基の古墳が確認されている。また薄根側右岸には、天神古墳群、沼田市秋塚古墳群、奈良古墳群が存在する。秋塚古墳群・奈良古墳群からは、武器（直刀・鉄鏃等）や馬具（轡・鍔金具）などの副葬品が豊富に出土している。

2. 歴史的環境

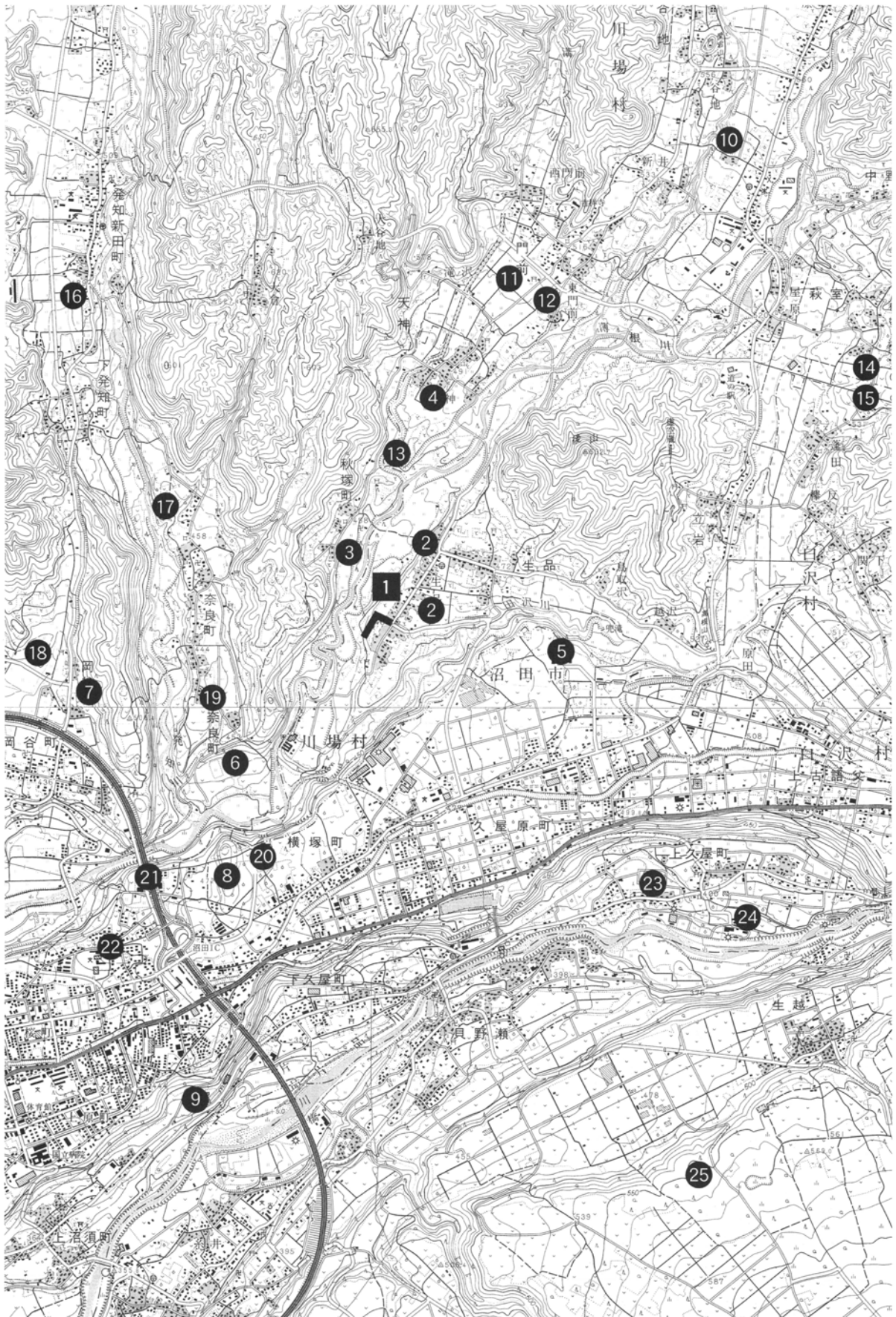
奈良・平安時代 平安時代に編集された「和名類聚抄」によれば、上野国利根郡には、^{ぬまた}渭田・^{なましな}男信（奈万之奈）・^{かきしな}笠科・^{なぐるみ}吳桃の四郷が記されている。川場村はこのうち「男信郷」に比定されている。橋詰遺跡の溝状遺構からは「車」の墨書土器が出土している。また高野原遺跡では、9世紀代の遺物を伴った墓坑が検出されている。

中近世 中世には、谷地の大友館、天神の天神城が

存在する。大友館は桜川の左岸に位置し、正平18年（1363）に大友刑部氏時が創始したと伝えられる。大友氏は、南北朝時代の利根庄の地頭職を有している豊後の守護である。門前の吉祥寺や別所の観音堂の創建も大友氏による。昭和58年の調査では、土塁・堀跡が検出されている。天神城は溝又川右岸にあり、永禄年間に沼田顕泰が隠居した単郭城と考えられている。

第1表 周辺の遺跡

No.	遺跡名	概要	文献
1	生品西浦遺跡		
2	生品古墳群	古墳後期群集墳	
3	秋塚古墳群	古墳後期円墳 12	『秋塚古墳群Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』沼田市教委 1991・1992・1994
4	天神古墳群	古墳後期群集墳	
5	高野原遺跡	弥生後期竪穴住居 2 土坑 2 古墳前期竪穴住居 5 後期円墳 4 平安墓坑 4	『門前橋詰・舩海戸遺跡 高野原遺跡』（財）群埋文 1989
6	奈良古墳群	古墳後期群集墳	『奈良古墳群』沼田市教委 2001
7	峰山古墳群	古墳後期群集墳	
8	愛宕山古墳群	古墳後期群集墳	
9	追墓古墳群	古墳後期円墳1	『追墓古墳（旧利根村第8号墳）』沼田市教委 1989
10	大友館	中世城館	『大友館跡発掘調査報告書』川場村教委 1983
11	橋詰遺跡	縄文諸磯竪穴住居 1 弥生後期竪穴住居 1 平安溝 1（墨書）	『門前橋詰・舩海戸遺跡 高野原遺跡』（財）群埋文 1989
12	舩海戸遺跡	弥生後期竪穴住居 1 古墳前期竪穴住居 1 平安竪穴住居 1	『門前橋詰・舩海戸遺跡 高野原遺跡』（財）群埋文 1989
13	天神城	中世城館	『群馬県古城墨址の研究』
14	内手遺跡	縄文陥し穴 1	『内手遺跡』川場村教委 1981
15	寺谷遺跡	縄文阿玉台竪穴住居 1 加曾利E竪穴住居 4 炉 4 縄文竪穴住居 1 土坑14 埋甕 2 弥生中期竪穴住居 1 後期竪穴住居 1 古墳中～後期竪穴住居 4 古墳土坑 2 祭祀 1 平安竪穴住居 1	『寺谷遺跡（図版編）』白沢村教委 1981
15	寺谷遺跡Ⅱ	縄文中期竪穴住居25 弥生中期竪穴住居 1 弥生後期竪穴住居 4 古墳中期竪穴住居12 平安竪穴住居 8	『寺谷Ⅱ遺跡』白沢村教委 2003
16	上光寺遺跡	縄文堀之内～加曾利B敷石住居1 堀之内敷石遺構 1 中～後期土坑14 後期炉 2 埋設土器 3 弥生後期竪穴住居 2 平安掘立柱建物 2	『上光寺遺跡（発知南部地区遺跡群）』沼田市教委 1997
17	奈良原遺跡	縄文前期前半竪穴住居 8 弥生後期竪穴住居 7 平安竪穴住居 2	『奈良地区遺跡群（奈良原遺跡）』沼田市教委 1991
18	岡谷十二遺跡	縄文竪穴住居 3 陥し穴 6 土坑12 古墳後期竪穴住居 3 平安竪穴住居 6 掘立柱建物 1	『沼田北部地区遺跡群Ⅴ』沼田市教委 1996
19	奈良田向遺跡	弥生後期竪穴住居 3 平安竪穴住居12 小鍛冶 1	『奈良地区遺跡群（奈良田向遺跡）』沼田市教委 1991
20	清水遺跡	古墳前期竪穴住居 1	『沼田市史 資料編1』沼田市 1995
21	鎌倉遺跡	縄文早～中期土器 縄文陥し穴 2 弥生後期竪穴住居 9 土坑 3	『師遺跡・鎌倉遺跡』（財）群埋文 1989
22	鎌倉台遺跡	縄文前～中期陥し穴 3 土坑13	『鎌倉台遺跡』沼田市埋蔵文化財調査事業団 1990
23	下清水遺跡	縄文加曾利E竪穴住居 4	『上久屋地区遺跡群』沼田市教委 1993
24	上久屋橋場遺跡	弥生後期竪穴住居 2 溝状 1	『上久屋橋場遺跡』沼田市教委 1988
25	貝野瀬中泉坂ノ上遺跡	縄文陥し穴60	『貝野瀬中泉坂ノ上遺跡』昭和村教委 1994



第5図 生品西浦遺跡周辺の遺跡分布

第3章 検出された遺構と遺物

1. 縄文時代の遺構と遺物

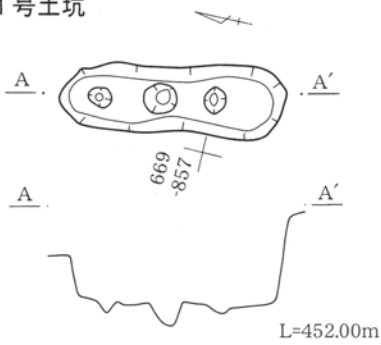
(1) 概要

縄文時代の遺構は土坑68基である。C区の北西側からB区の北側にかけて集中する。調査区西側の地形は急激に傾斜し、薄根川に達する。土坑の長軸は概ね等高線に平行している。形状は隅丸長方形のものが多数を占め、底部に1から3基ピットを伴うものと伴わないものが確認された。

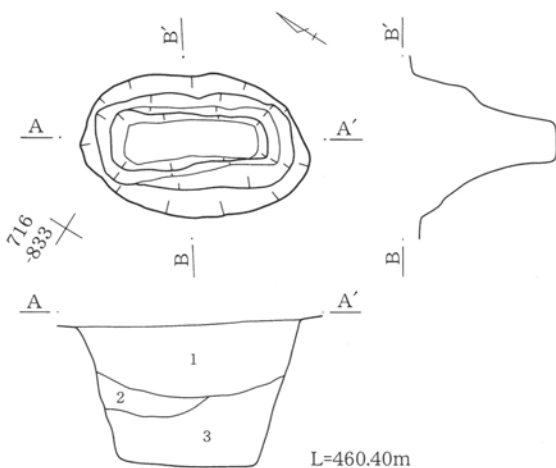
遺物は少ないが、諸磯B・C式土器片や有坂式土器片が出土している。

(2) 土坑

A区1号土坑



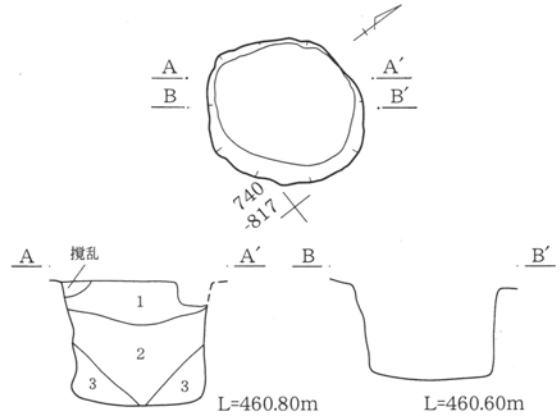
B区1号土坑



B区1号土坑

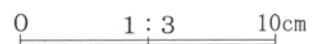
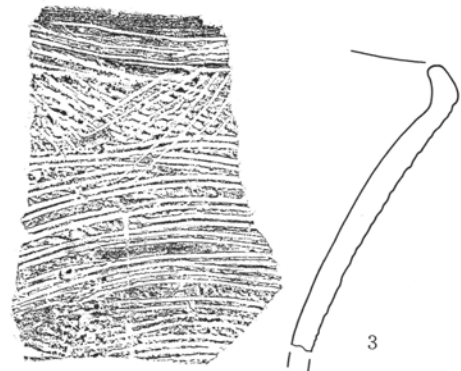
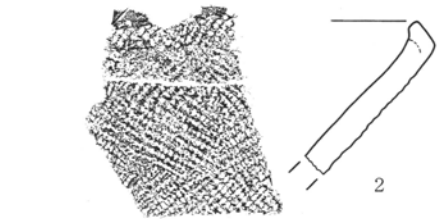
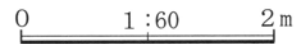
- 1 黒褐色土層 ローム粒を微量含む。
- 2 黒褐色土層 ローム粒、ロームブロックを少量含む。
- 3 黒褐色土層 ローム粒、ロームブロックをやや多量含む。

B区2号土坑



B区2号土坑

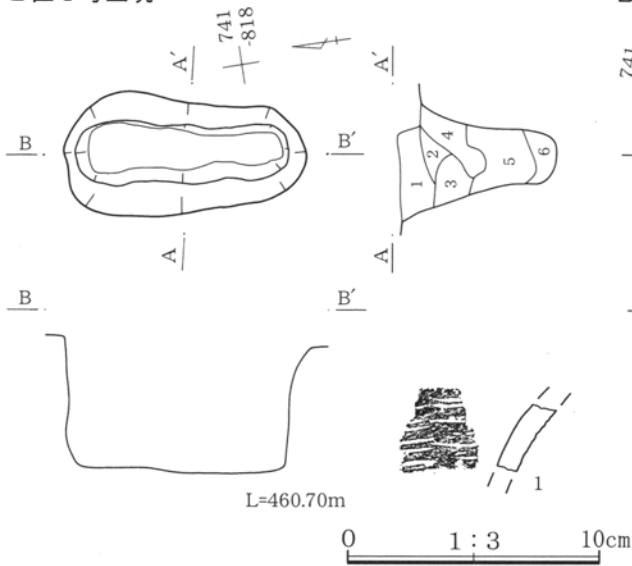
- 1 黒褐色土層 ローム粒を微量含む。
- 2 黒褐色土層 ローム粒を少量含む。
- 3 褐色土層 ローム粒をやや多量含む。



第6図 A区1号土坑・B区1・2号土坑と出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

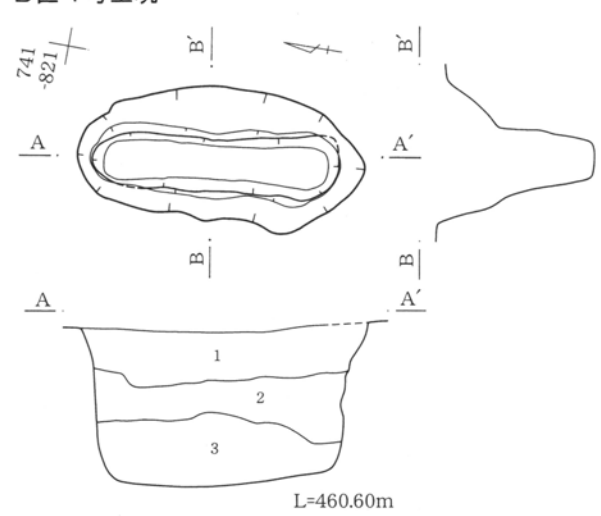
B区3号土坑



B区3号土坑

- 1 黒褐色土層 ローム粒、炭化物を微量含む。
- 2 黒褐色土層 ローム粒を微量、炭化物を少量含む。
- 3 黒褐色土層 ローム粒をやや多量含む。
- 4 黒褐色土層 ローム粒、炭化物を微量含む。
- 5 黄褐色土層 ローム粒、ロームブロックをやや多量含む。
- 6 黄褐色土層 ローム粒をやや多量含む。

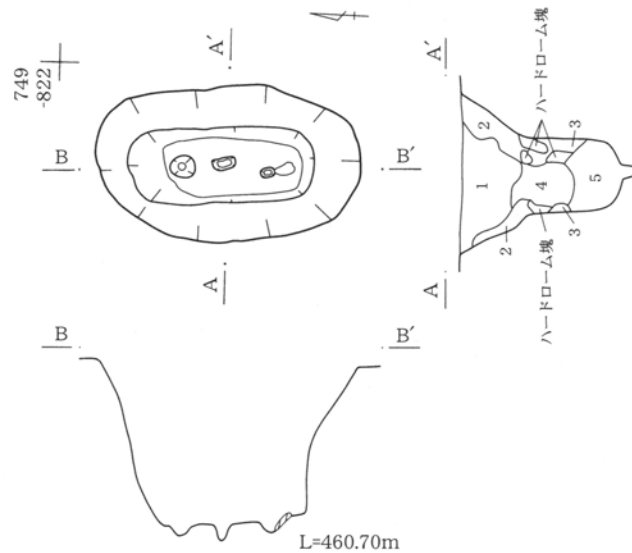
B区4号土坑



B区4号土坑

- 1 黒褐色土層 ローム粒を少量、炭化物を微量含む。
- 2 黒褐色土層 ローム粒、ロームブロックをやや多量含む。
- 3 褐色土層 ローム粒、ロームブロックを多量含む。

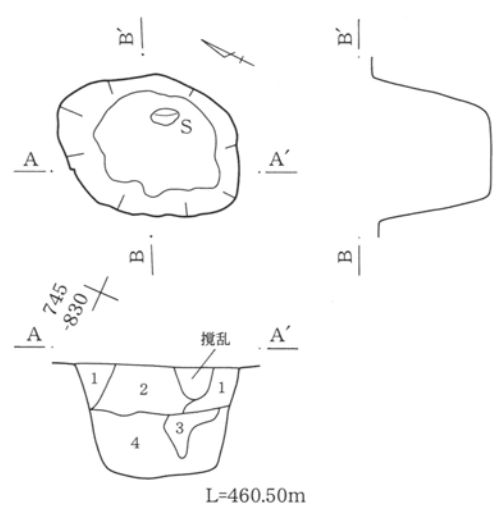
B区5号土坑



B区5号土坑

- 1 黒褐色土層 ローム漸移層土を少量、ローム粒を微量含む。
- 2 褐色土層 ローム粒をやや多量含む。
- 3 明黄褐色土層 ローム粒、ロームブロックを多量含む。
- 4 暗褐色土層 ローム粒、ロームブロックをやや多量含む。
- 5 暗褐色土層 ソフトロームをやや多量、ロームブロックを少量含む。

B区6号土坑



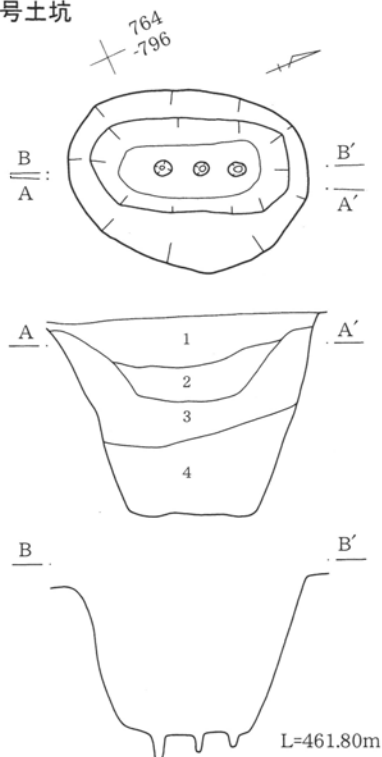
B区6号土坑

- 1 黒褐色土層 ローム粒を少量含む。
- 2 黒褐色土層 ローム粒、暗褐色土を少量含む。
- 3 黒褐色土層 ローム粒を少量、暗褐色土をやや多量含む。
- 4 褐色土層 ローム粒を少量含む。

第7図 B区3・4・5・6号土坑と出土遺物

2. 発掘調査の方法と経過

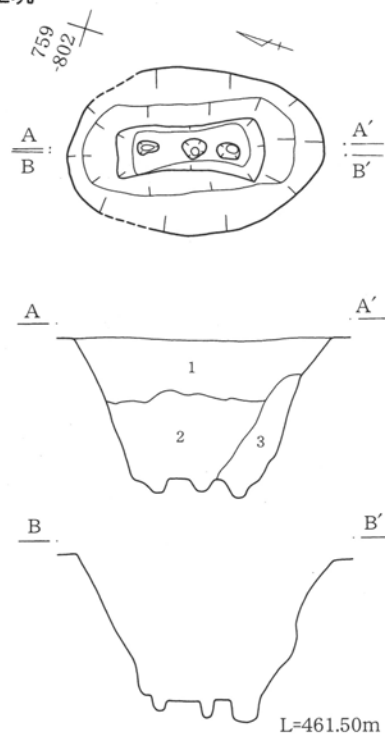
B区 25号土坑



B区25号土坑

- 1 黒色土層 ローム粒を微量、ローム漸移層土をやや多量含む。
- 2 黒色土層 ローム粒を微量含む。
- 3 黒褐色土層 ローム粒をやや多量、ロームブロックを少量含む。
- 4 褐色土層 ローム粒、ロームブロックをやや多量含む。

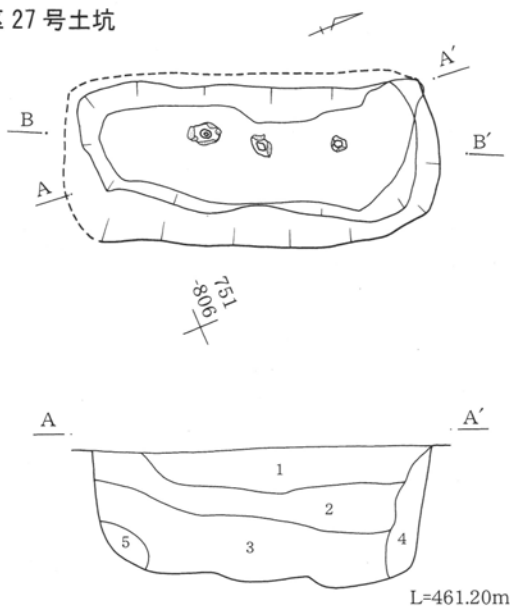
B区 26号土坑



B区26号土坑

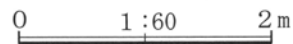
- 1 黒褐色土層 ローム粒を少量、ローム漸移層土をやや多量含む。
- 2 褐色土層 ハードロームとソフトロームの混土。
- 3 黒褐色土層 ソフトロームをやや多量含む。

B区 27号土坑



B区27号土坑

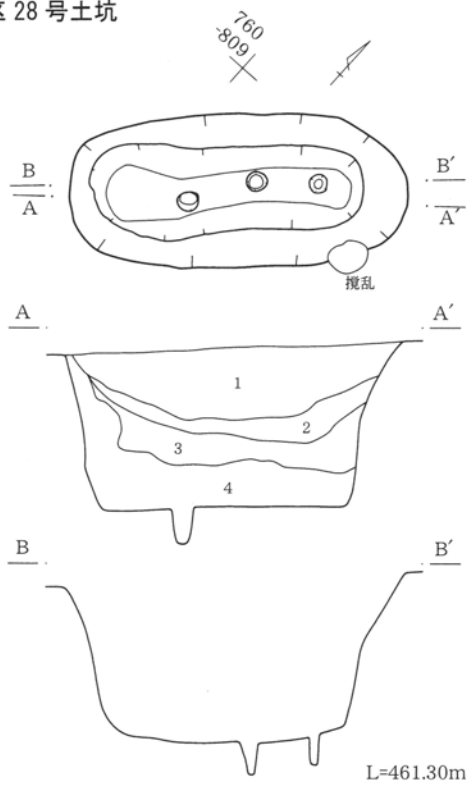
- 1 黒褐色土層 ローム漸移層土をやや多量、ローム粒を微量含む。
- 2 黒褐色土層 ローム漸移層土をやや多量、ローム粒、ロームブロックを微量含む。
- 3 褐色土層 ローム粒、ロームブロックをやや多量含む。
- 4 褐色土層 ローム粒、ロームブロックを多量含む。
- 5 褐色土層 ハードロームブロックをやや多量含む。



第8図 B区25・26・27号土坑

第3章 検出された遺構と遺物

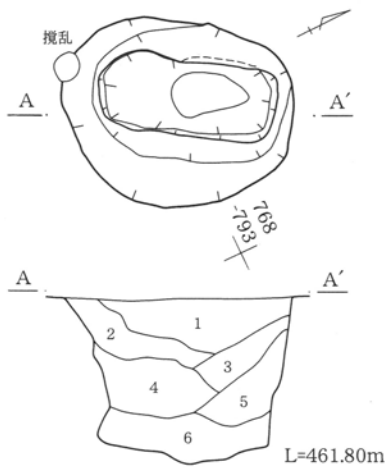
B区28号土坑



B区28号土坑

- 1 黒色土層 ローム漸移層土をやや多量、ローム粒を微量含む。
- 2 黒色土層 ローム粒を少量含む。
- 3 黒褐色土層 ローム粒を少量含む。
- 4 褐色土層 ハードローム主体土。

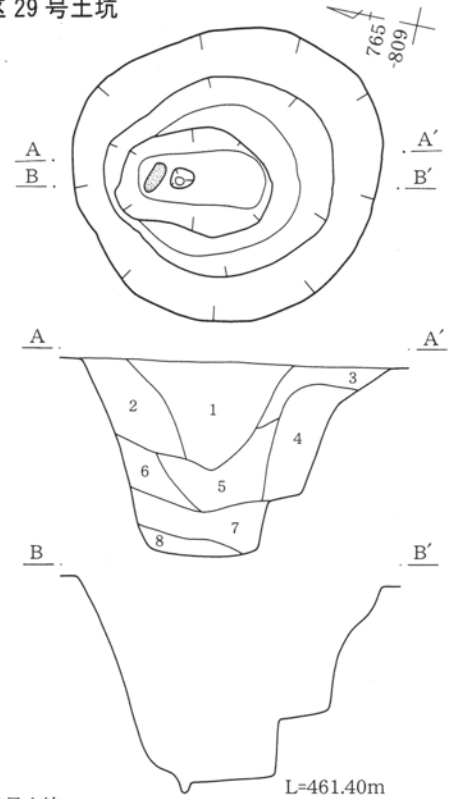
B区31号土坑



B区31号土坑

- 1 黒褐色土層 漸移層土をやや多量、ローム粒を微量含む。
- 2 褐色土層 ローム粒をやや多量含む。
- 3 褐色土層 ローム粒をやや多量、ロームブロックを少量含む。
- 4 明黄褐色土層 ロームブロックを多量含む。
- 5 褐色土層 ローム粒を多量含む。
- 6 褐色土層 ローム粒をやや多量含む。

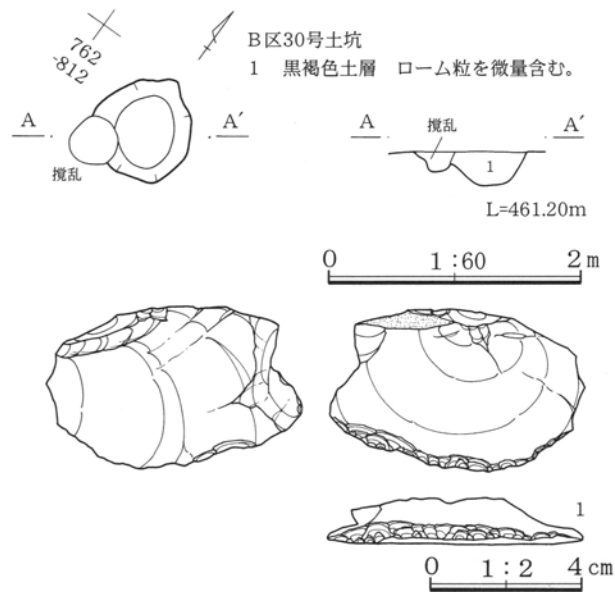
B区29号土坑



B区29号土坑

- 1 黒褐色土層 ローム漸移層土をやや多量、ローム粒を微量含む。
- 2 暗褐色土層 ローム漸移層土をやや多量、ローム粒を微量含む。
- 3 褐色土層 ソフトロームをやや多量含む。
- 4 褐色土層 ソフトロームを少量、ローム粒を微量含む。
- 5 黒褐色土層 ローム粒を微量含む。
- 6 黒褐色土層 ローム粒を少量含む。
- 7 黒褐色土層 ローム粒をやや多量含む。
- 8 褐色土層 ソフトローム主体土。

B区30号土坑



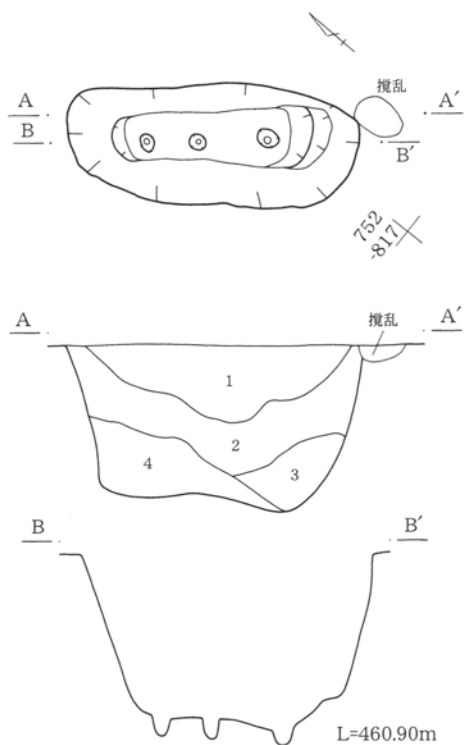
B区30号土坑

- 1 黒褐色土層 ローム粒を微量含む。

第9図 B区28・29・30・31号土坑と出土遺物

1. 縄文時代の遺構と遺物

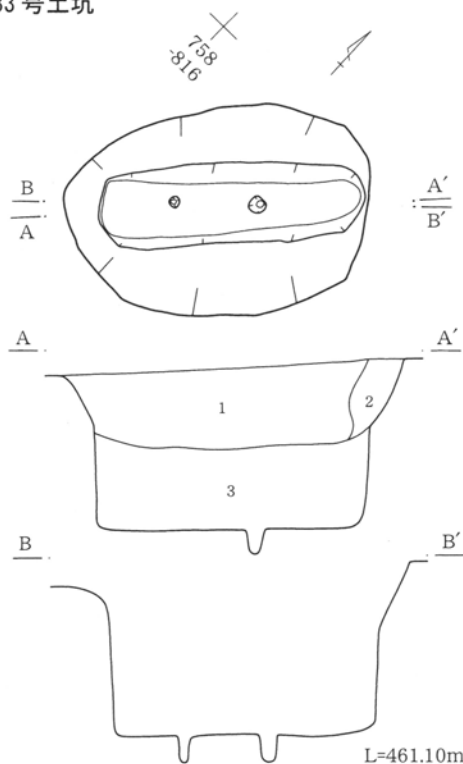
B区 32号土坑



B区32号土坑

- 1 黒褐色土層 漸移層土をやや多量、ローム粒を少量含む。
- 2 黒褐色土層 漸移層土、ローム粒をやや多量含む。
- 3 黒褐色土層 ローム粒を微量含む。
- 4 褐色土層 ハードローム主体土。

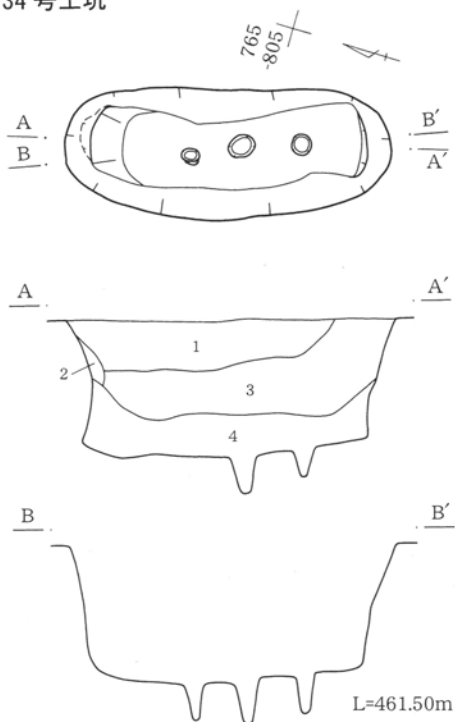
B区 33号土坑



B区33号土坑

- 1 黒褐色土層 漸移層土をやや多量、ローム粒を少量含む。
- 2 褐色土層 ソフトロームとハードロームの混土。
- 3 褐色土層 ソフトローム主体土。ハードロームブロックをやや多量含む。

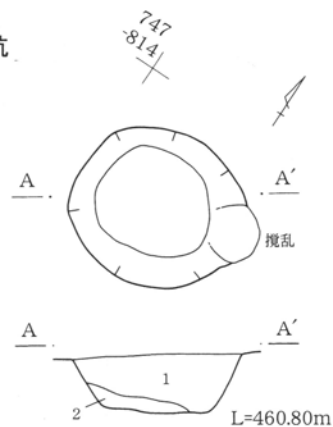
B区 34号土坑



B区34号土坑

- 1 黒褐色土層 漸移層土をやや多量、ローム粒を少量含む。
- 2 褐色土層 ローム粒を多量含む。
- 3 褐色土層
- 4 褐色土層

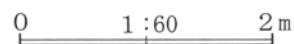
B区 35号土坑



B区35号土坑

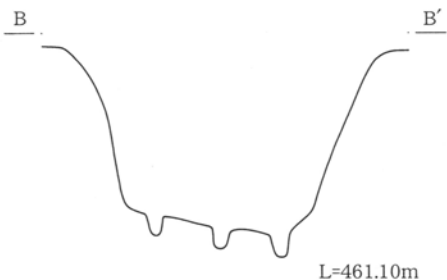
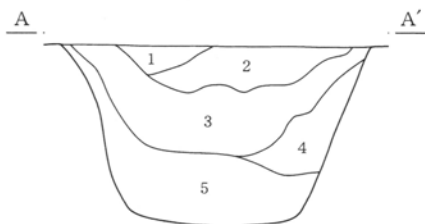
- 1 黒色土層 ローム粒を微量含む。
- 2 黒色土層 ロームブロック、ローム粒を微量含む。

第10図 B区32・33・34・35号土坑



第3章 検出された遺構と遺物

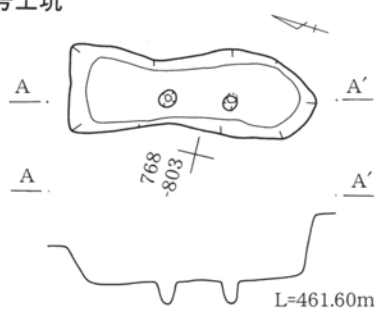
B区36号土坑



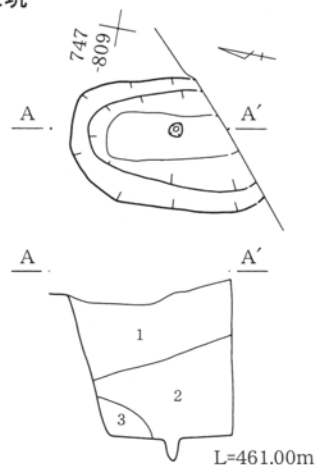
B区36号土坑

- 1 黒褐色土層 ローム粒、ロームブロックを少量含む。
- 2 黄褐色土層 ローム粒、ロームブロックを多量含む。
- 3 黒褐色土層 漸移層土をやや多量、ローム粒を少量含む。
- 4 褐色土層 ロームブロック、ローム粒をやや多量含む。
- 5 褐色土層 ロームブロック、ローム粒を多量含む。

B区37号土坑



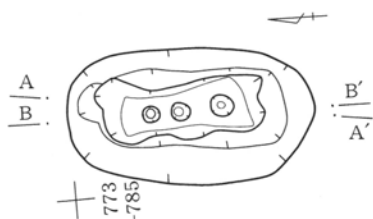
B区38号土坑



B区38号土坑

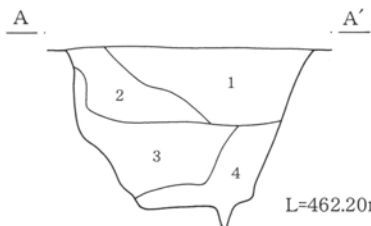
- 1 黒色土層 漸移層土をやや多量、ローム粒を少量含む。
- 2 黄褐色土層 ロームブロックを多量含む。
- 3 褐色土層 ローム粒を多量含む。

C区1号土坑



C区1号土坑

- 1 黒色土層 ローム粒、漸移層土を微量含む。
- 2 黒褐色土層 漸移層土を少量、ローム粒を微量含む。
- 3 黄褐色土層 ロームブロックを多量含む。
- 4 黒褐色土層 ローム粒、ロームブロックをやや多量含む。



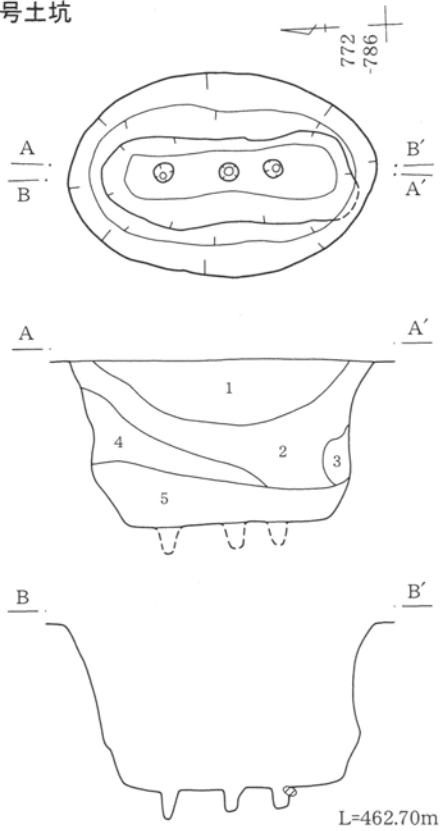
L=462.20m

0 1:60 2m

第11図 B区36・37・38号土坑・C区1号土坑

1. 縄文時代の遺構と遺物

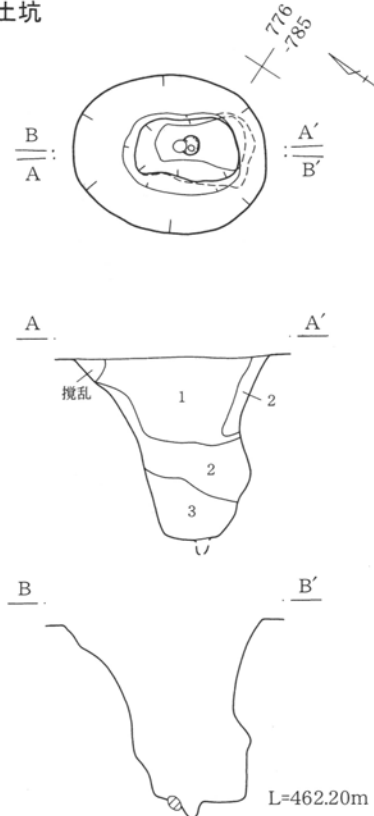
C区2号土坑



C区2号土坑

- 1 黒色土層 漸移層土をやや多量含む。
- 2 黒褐色土層 漸移層土を多量含む。
- 3 褐色土層 ロームブロック、ローム粒を多量含む。
- 4 黒褐色土層 ローム粒を少量含む。
- 5 黄褐色土層 ロームブロックを多量含む。

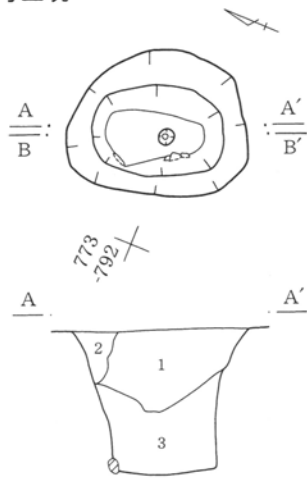
C区3号土坑



C区3号土坑

- 1 黒褐色土層 漸移層土をやや多量、ローム粒を少量含む。
- 2 褐色土層 ロームブロックを多量含む。
- 3 黒褐色土層 ローム粒をやや多量含む。

C区4号土坑



C区4号土坑

- 1 黒色土層 漸移層土を少量、ローム粒を微量含む。
- 2 黄褐色土層 ロームブロックを多量含む。
- 3 褐色土層 ローム粒をやや多量含む。

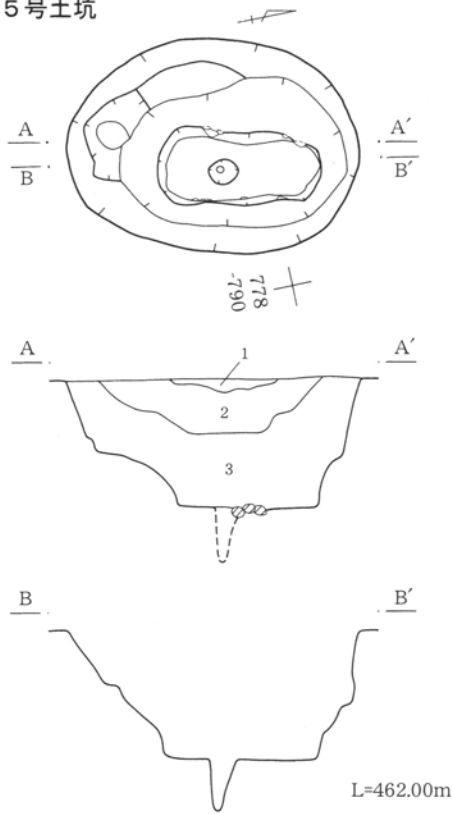
L=462.00m

0 1:60 2m

第12図 C区2・3・4号土坑

第3章 検出された遺構と遺物

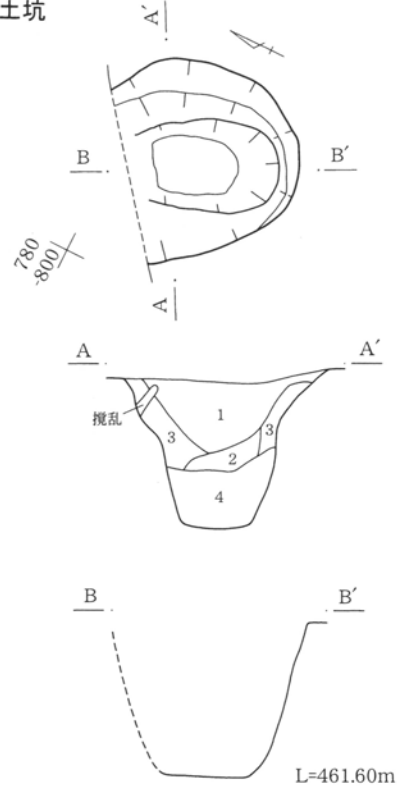
C区5号土坑



C区5号土坑

- 1 黒色土層
- 2 黒褐色土層 漸移層土をやや多量、ローム粒を微量含む。
- 3 黒褐色土層 ローム粒をやや多量含む。

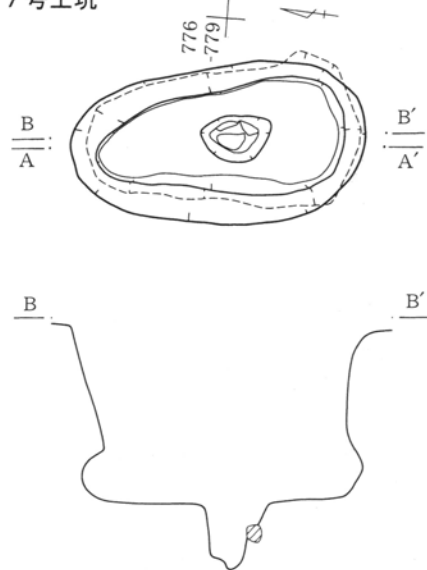
C区6号土坑



C区6号土坑

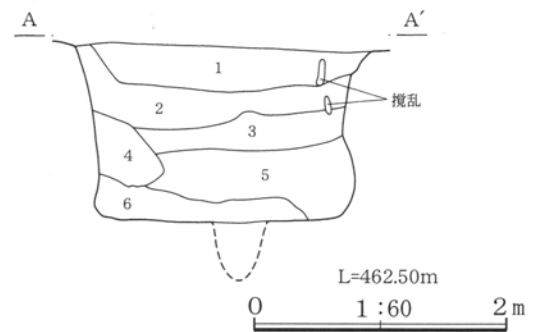
- 1 黒褐色土層 漸移層土をやや多量、ローム粒を少量含む。
- 2 褐色土層 ローム粒をやや多量含む。
- 3 黄褐色土層 ロームブロックを多量含む。
- 4 黄褐色土層 ハードローム主体土。

C区7号土坑



C区7号土坑

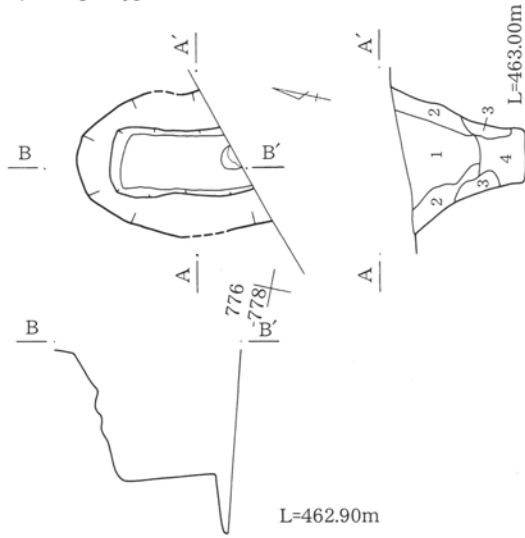
- 1 黒色土層 漸移層土をやや多量含む。
- 2 黒褐色土層 漸移層土を多量含む。
- 3 明黄褐色土層 ロームブロックを多量含む。
- 4 明黄褐色土層 ハードロームブロック。
- 5 褐色土層 ハードロームとソフトロームの混土。
- 6 黄褐色土層 ロームブロックを多量含む。



第13図 C区5・6・7号土坑

1. 縄文時代の遺構と遺物

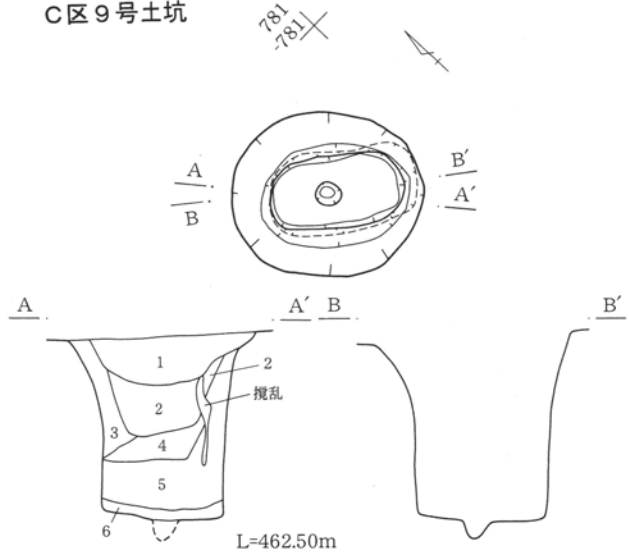
C区8号土坑



C区8号土坑

- 1 黒褐色土層 ローム粒をやや多量含む。
- 2 黒褐色土 ハードロームを多量含む。
- 3 黄褐色土層 ハードロームブロック主体土
- 4 黒褐色土層 ハードロームブロック・粒をやや多量含む。

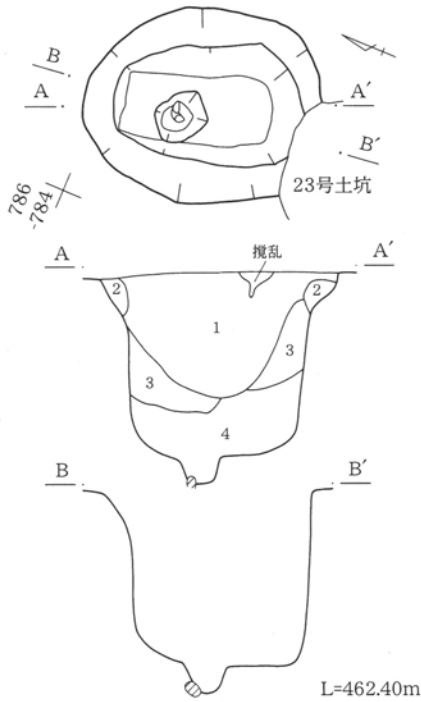
C区9号土坑



C区9号土坑

- 1 黒褐色土層 ローム漸移層部ブロックを少量含む。
- 2 黒褐色土層 ローム粒を微量含む。
- 3 褐色土層 ハードロームブロックをやや多量含む。
- 4 褐色土層 ハードロームブロック多量含む。
- 5 褐色土層 ハードロームブロック主体土。
- 6 黒褐色土層 ハードローム粒を少量含む。

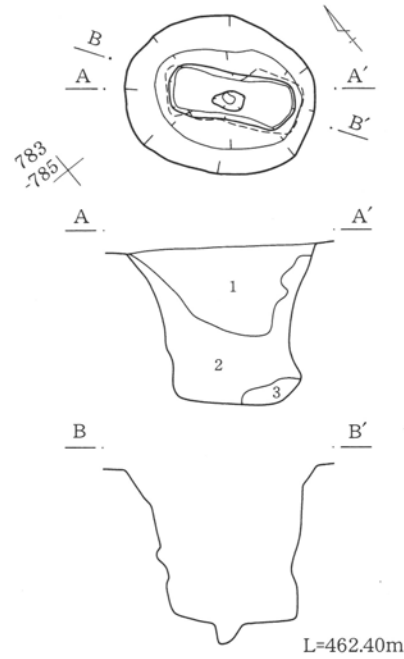
C区11号土坑



C区11号土坑

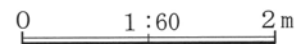
- 1 黒褐色土層 ローム漸移層ブロックをやや多量含む。
- 2 褐色土層 ローム粒を微量含む。
- 3 褐色土層 ローム粒を多量含む。
- 4 褐色土層 ローム粒を多量、ソフトロームを少量含む。

C区10号土坑



C区10号土坑

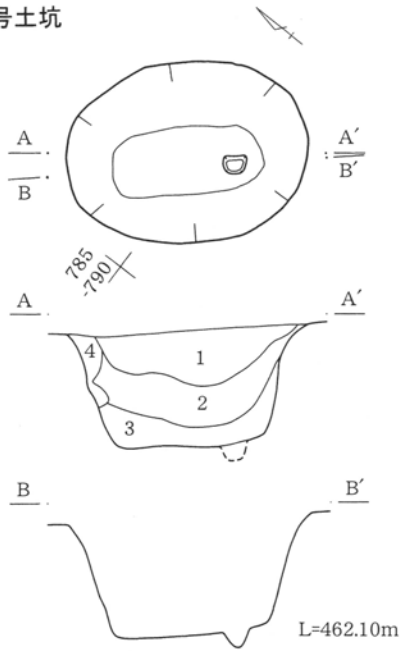
- 1 黒褐色土層 ローム漸移層ブロックを少量含む。
- 2 褐色土層 ハードロームブロック主体土。
- 3 明褐色土層 ローム粒を多量含む。



第14図 C区8・9・10・11号土坑

第3章 検出された遺構と遺物

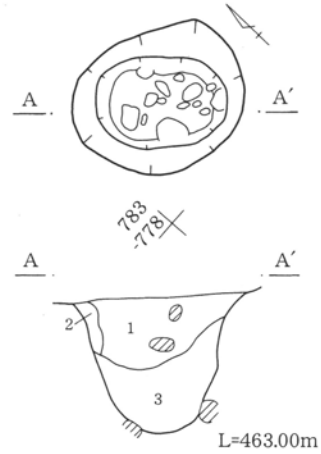
C区12号土坑



C区12号土坑

- 1 黒褐色土層 ローム漸移層ブロックを微量含む。
- 2 黒褐色土層 ハードロームブロックを多量含む。
- 3 褐色土層 ハードロームブロックにソフトロームを少量含む。
- 4 褐色土層 ハードロームブロック主体土。

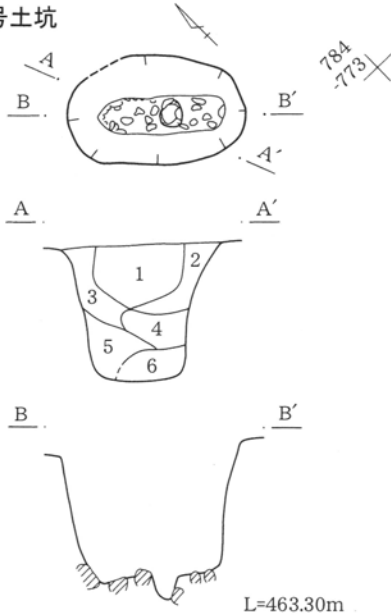
C区13号土坑



C区13号土坑

- 1 黒褐色土層 ハードローム粒を少量含む。
- 2 褐色土層 ソフトロームを多量含む。
- 3 褐色土層 ソフトローム主体土。

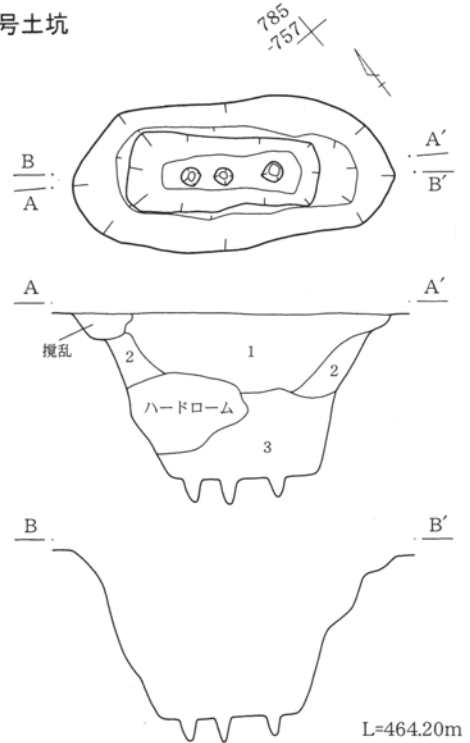
C区14号土坑



C区14号土坑

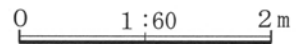
- 1 黒褐色土層 ローム漸移層粒を少量含む。
- 2 黒褐色土層 ローム粒を微量含む。
- 3 黄褐色土層 ハードローム粒を多量含む。
- 4 明黄褐色土層 ハードローム主体土。
- 5 明黄褐色土層 ソフトローム主体土。
- 6 褐色土層 ロームを多量含む。

C区15号土坑



C区15号土坑

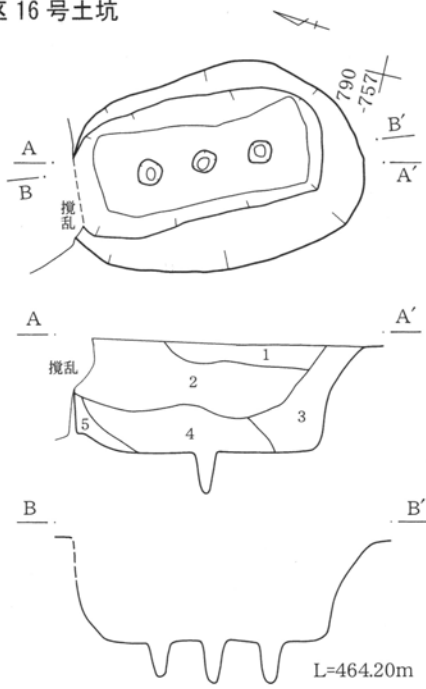
- 1 黒褐色土層 ローム粒を微量含む。
- 2 褐色土層 ローム粒を少量含む。
- 3 褐色土層 ハードロームブロックを少量、ローム粒を多量含む。



第15図 C区12・13・14・15号土坑

1. 縄文時代の遺構と遺物

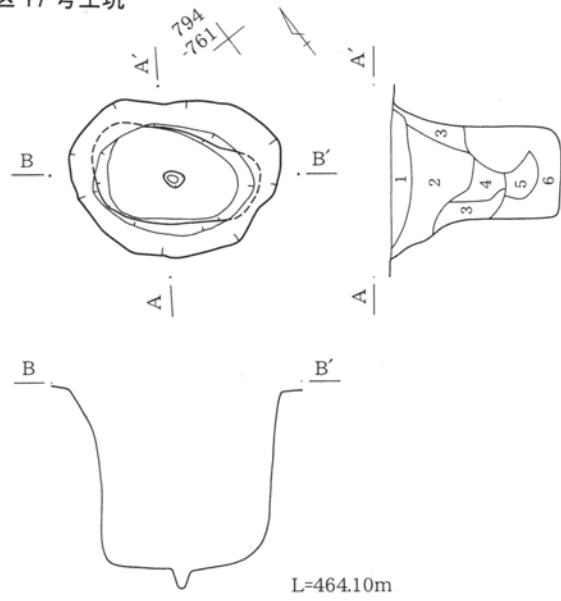
C区16号土坑



C区16号土坑

- 1 黒褐色土層 ローム漸移層土主体土。
- 2 黒褐色土層 ローム漸移層土をやや多量含む。
- 3 黒褐色土層 ローム漸移層土を少量、ローム粒を多量含む。
- 4 黒褐色土層 ローム粒を多量含む。
- 5 黒褐色土層 ローム粒を少量含む。

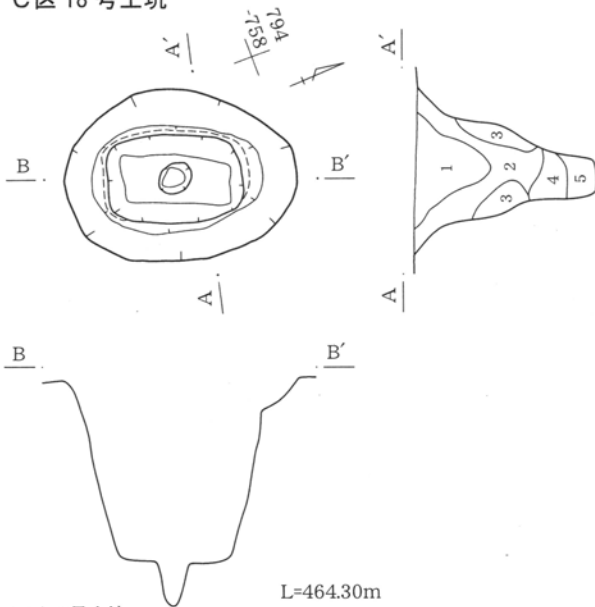
C区17号土坑



C区17号土坑

- 1 黒褐色土層 ローム粒を微量含む。
- 2 黒褐色土層 ローム粒を少量含む。
- 3 褐色土層 ローム粒を少量含む。
- 4 黒褐色土層 ローム粒をやや多量含む。
- 5 黒褐色土層 ローム粒を多量含む。
- 6 黄褐色土層 ソフトローム主体土。

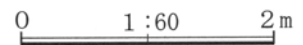
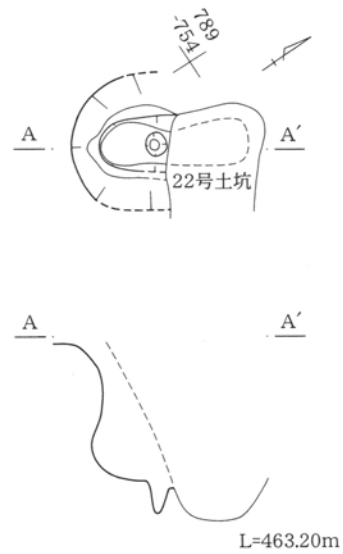
C区18号土坑



C区18号土坑

- 1 黒褐色土層 ローム粒を少量含む。
- 2 暗褐色土層 ローム粒を多量含む。
- 3 黄褐色土層 ハードロームブロックを多量含む。
- 4 明黄褐色土層 ソフトローム主体土。
- 5 暗褐色土層 ローム粒を多量含む。

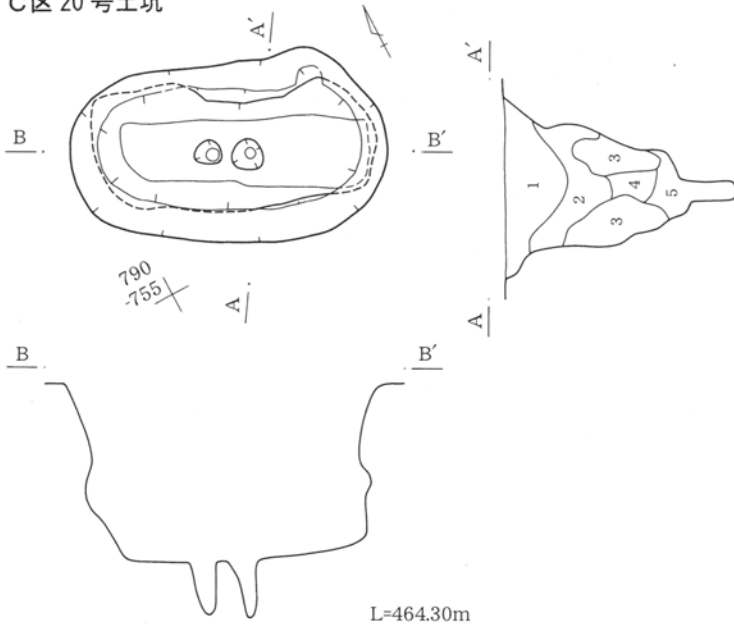
C区19号土坑



第16図 C区16・17・18・19号土坑

第3章 検出された遺構と遺物

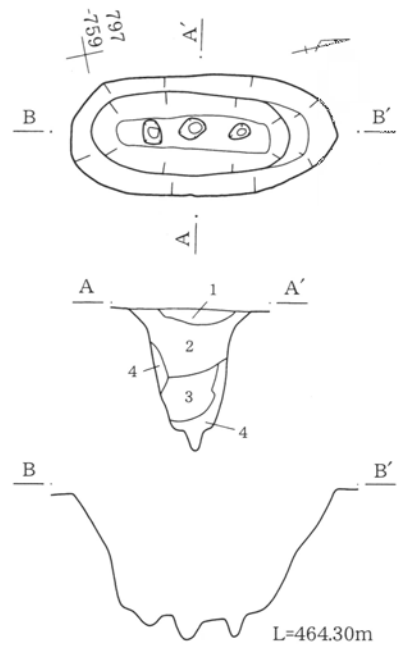
C区20号土坑



C区20号土坑

- 1 黒色土層 ローム粒を微量含む。
- 2 黒色土層 ローム粒をやや多量含む。
- 3 黄褐色土層 ローム粒主体土。
- 4 黒褐色土層 ハードローム粒を少量含む。
- 5 黒褐色土層 ハードローム粒を微量含む。

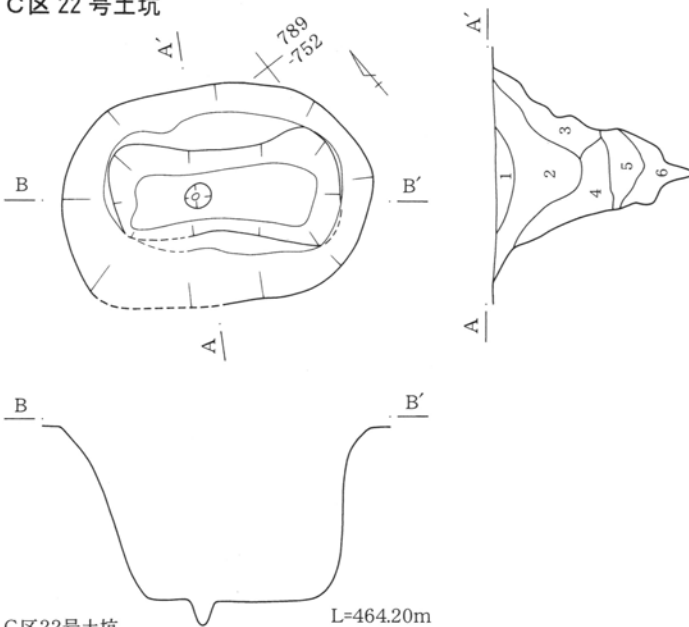
C区21号土坑



C区21号土坑

- 1 黒色土層 ローム粒を微量含む。
- 2 黒褐色土層 ローム粒を少量含む。
- 3 黄褐色土層 ローム粒を多量含む。
- 4 黄褐色土層 ハードローム主体土。

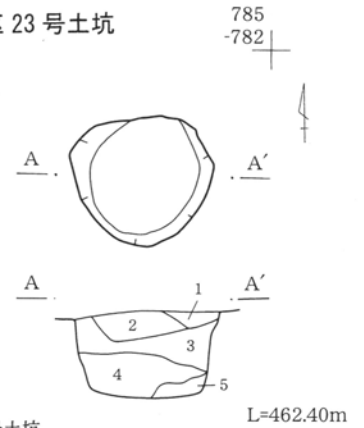
C区22号土坑



C区22号土坑

- 1 黒色土層 ハードローム粒を微量含む。
- 2 黒色土層 ローム漸移層土を多量含む。
- 3 褐色土層 ハードローム粒をやや多量含む。
- 4 黒褐色土層 ハードローム粒を少量含む。
- 5 黒褐色土層 ハードローム粒をやや多量含む。
- 6 褐色土層 ハードロームを多量含む。

C区23号土坑



C区23号土坑

- 1 黒褐色土層 ローム粒を少量含む。
- 2 橙色土層 焼土を多量含む。
- 3 褐色土層 ハードローム粒を少量含む。
- 4 黄褐色土層 ハードロームブロック主体土。
- 5 黒色土層 ハードロームブロックを少量含む。

0 1:60 2m

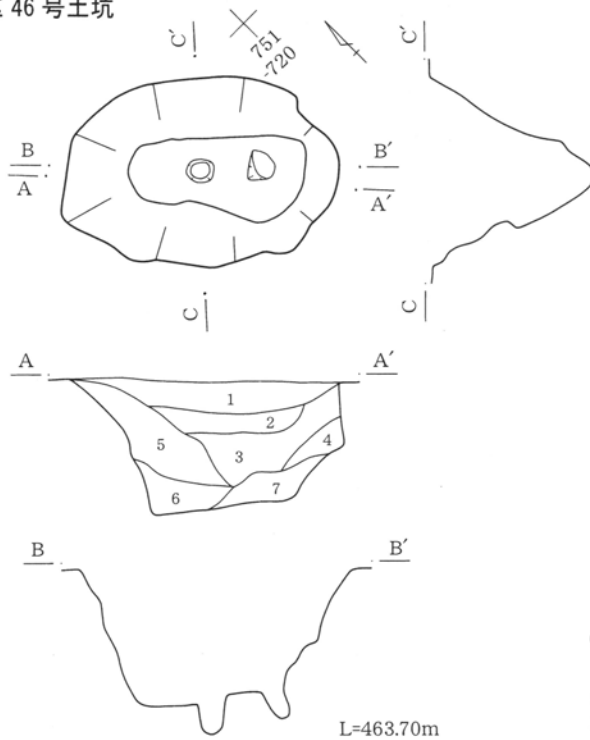


0 1:3 10cm

第17図 C区20・21・22・23号土坑と出土遺物

2. 発掘調査の方法と経過

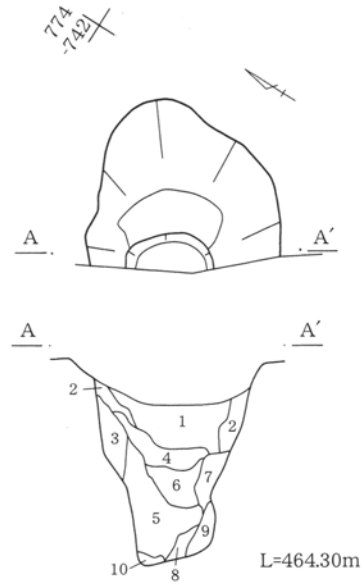
C区46号土坑



C区46号土坑

- 1 黒褐色土層 しまりあり。
- 2 黒褐色土層 ローム粒を少量含む。
- 3 褐色土層 ローム粒をやや多量、白色パミスを微量含む。
- 4 褐色土層 3層土に黄色パミスを微量含む。
- 5 黄褐色土層 ローム粒を多量、白色パミスを微量含む。
- 6 明黄褐色土層 ハードローム主体土。褐色土を少量含む。
- 7 黄褐色土層 ローム粒を多量含む。白色パミス、黄色パミスを微量含む。

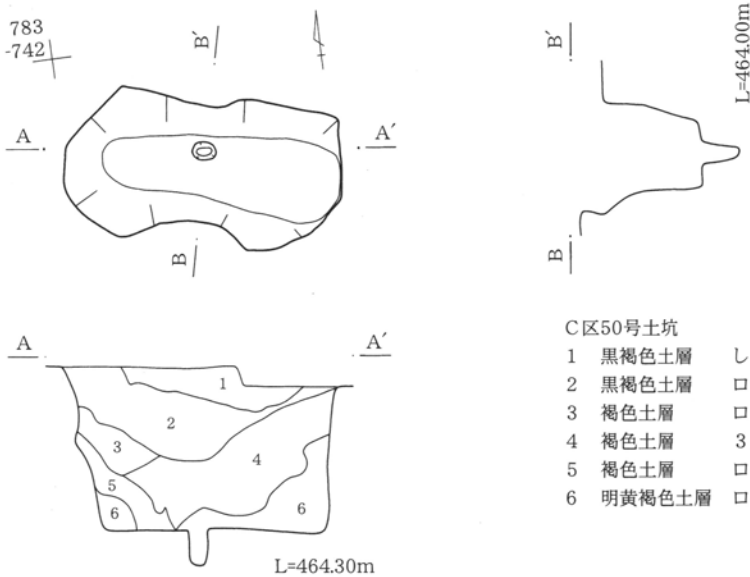
C区49号土坑



C区49号土坑

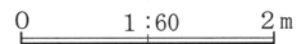
- 1 黒褐色土層 白色パミスを微量含む。
- 2 暗褐色土層 ローム粒を少量、白色パミスを微量含む。
- 3 褐色土層 ロームを多量、白色パミスを微量含む。
- 4 褐色土層 ロームを多量、白色パミスを少量含む。
- 5 褐色土層 ローム粒・ソフトロームをやや多量、黄色パミスを微量含む。
- 6 暗褐色土層 ロームブロック、ローム粒をやや多量含む。
- 7 黄褐色土層 ハードローム主体土
- 8 褐色土層 ローム粒を多量、黄色パミスを微量含む。
- 9 暗褐色土層 ローム粒をやや多量、黄色パミスを微量含む。
- 10 にぶい黄橙色土層 ソフトローム主体土。

C区50号土坑



C区50号土坑

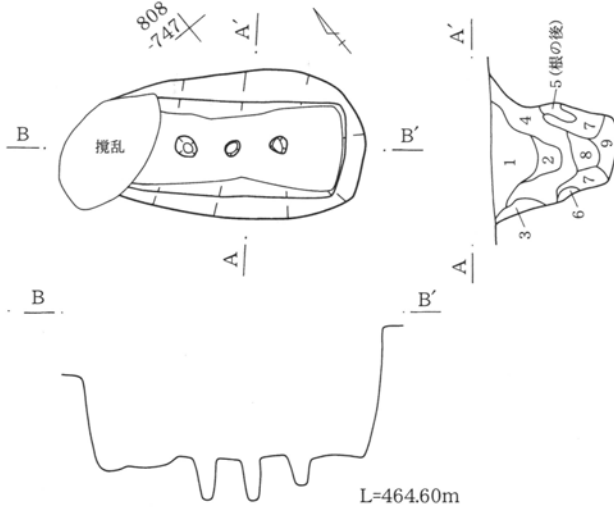
- 1 黒褐色土層 しまりあり。
- 2 黒褐色土層 ローム粒を少量含む。
- 3 褐色土層 ローム粒をやや多量、白色パミスを微量含む。
- 4 褐色土層 3層土に黄色パミスを微量含む。
- 5 褐色土層 ローム粒をやや多量含む。
- 6 明黄褐色土層 ロームブロックを少量含む。



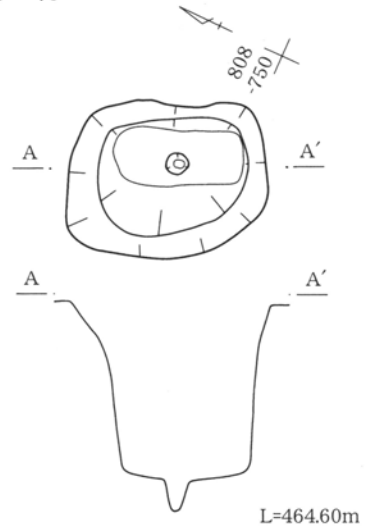
第18図 C区46・49・50号土坑

第3章 検出された遺構と遺物

C区 58号土坑



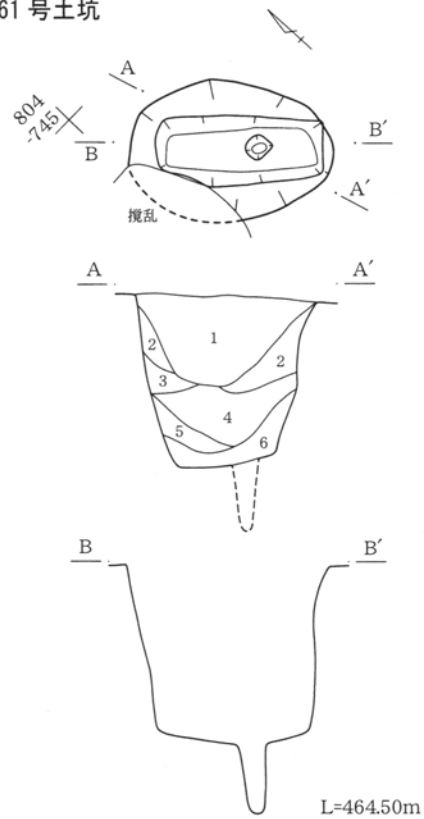
C区 59号土坑



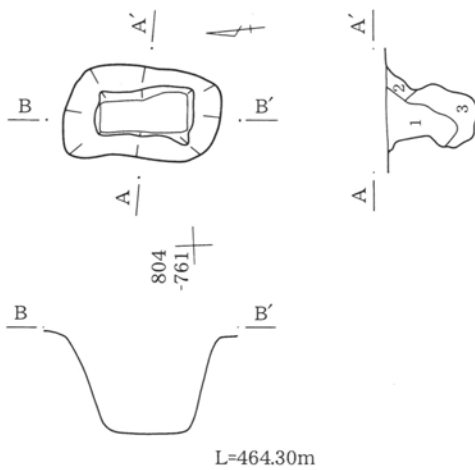
C区58号土坑

- 1 黒褐色土層 白色パミスを微量含む。
- 2 黒褐色土層 白色パミス、ロームを微量含む。
- 3 褐色土層 ロームと黒褐色土の混土。
- 4 暗褐色土層 ローム粒をやや多量含む。
- 6 ハードロームブロック
- 7 暗褐色土層 ロームを多量、黄色パミスをやや多量含む。
- 8 褐色土層 ローム粒をやや多量、黄色パミスを少量含む。
- 9 暗褐色土層 ローム粒、黄色パミスを少量含む。

C区 61号土坑



C区 60号土坑



C区60号土坑

- 1 暗褐色土層 ローム粒をやや多量、白色パミスを微量含む。
- 2 褐色土層 ローム主体土。
- 3 褐色土層 ローム粒を多量、白色パミスを微量含む。

C区61号土坑

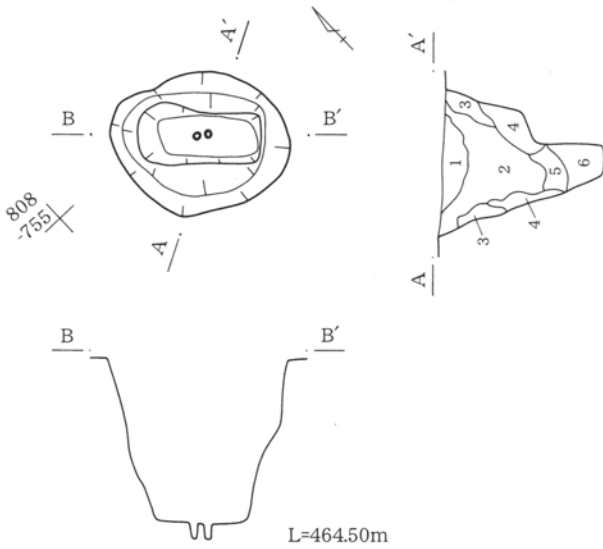
- 1 黒褐色土層 ローム粒、白色パミスを微量含む。
- 2 暗褐色土層 ローム粒をやや多量、白色パミスを微量含む。
- 3 褐色土層 ローム粒を多量、白色パミスを微量含む。
- 4 暗褐色土層 ローム粒をやや多量含む。
- 5 明黄褐色土層 ローム主体土。黄色パミスを微量含む。
- 6 暗褐色土層 ロームを多量、黄色パミスを微量含む。

0 1:60 2m

第19図 C区58・59・60・61号土坑

1. 縄文時代の遺構と遺物

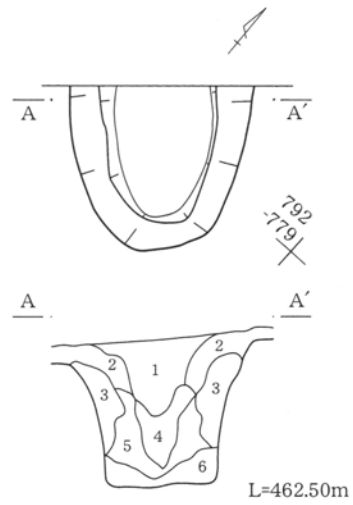
C区 62号土坑



C区62号土坑

- 1 暗褐色土層 ローム粒をやや多量、白色パミスを微量含む。
- 2 黒褐色土層 ローム粒を少量、白色パミスを微量含む。
- 3 褐色土層 ローム粒を多量含む。
- 4 明黄褐色土層 ローム主体土。黄色パミスを微量含む。
- 5 暗褐色土層 ロームブロックを少量、黄色パミスを微量含む。
- 6 浅黄橙色土層 ソフトローム主体土。

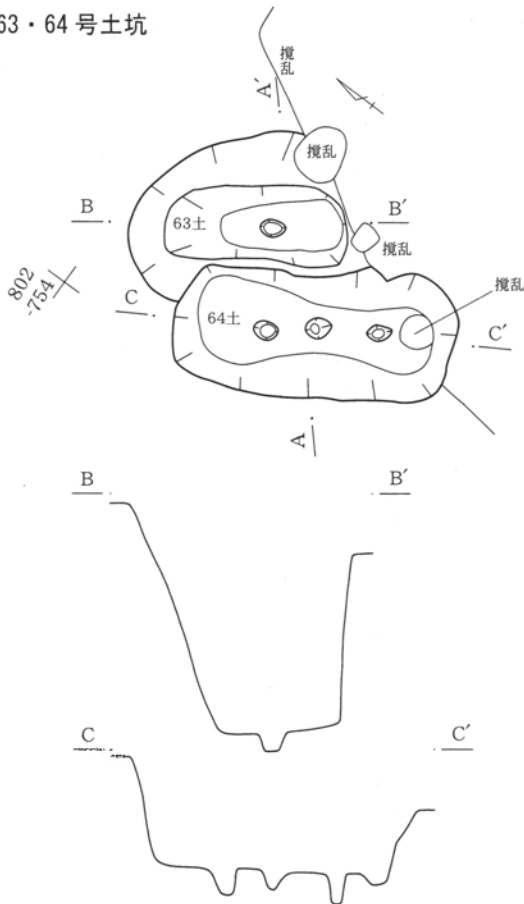
C区 65号土坑



C区65号土坑

- 1 黒褐色土層 白色パミスを微量含む。
- 2 褐色土層 ローム粒をやや多量、白色パミスを少量含む。
- 3 ハードロームブロック
- 4 褐色土層 ローム粒をやや多量、白色パミスをやや多量含む。
- 5 褐色土層 ローム粒をやや多量、白色パミス、黄色パミスを微量含む。
- 6 褐色土層 黄色パミス主体土。

C区 63・64号土坑



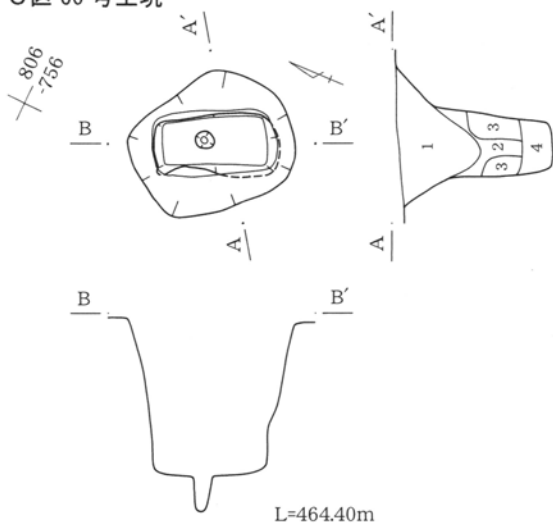
C区63・64号土坑

- 1 黒褐色土層 ローム粒を微量含む。
- 2 黒褐色土層 ローム粒、白色パミスを微量含む。
- 3 暗褐色土層 ローム粒をやや多量含む。
- 4 黒褐色土層 ローム粒を少量含む。
- 5 褐色土層 ロームブロックをやや多量含む。
- 6 褐色土層 ロームと黒褐色土の混土。
- 7 明黄褐色土層 ハードローム主体土。
- 9 暗褐色土層 漸移層土の流れ込み。
- 10 褐色土層 ローム粒をやや多量含む。

0 1:60 2m

第20図 C区62・63・64・65号土坑

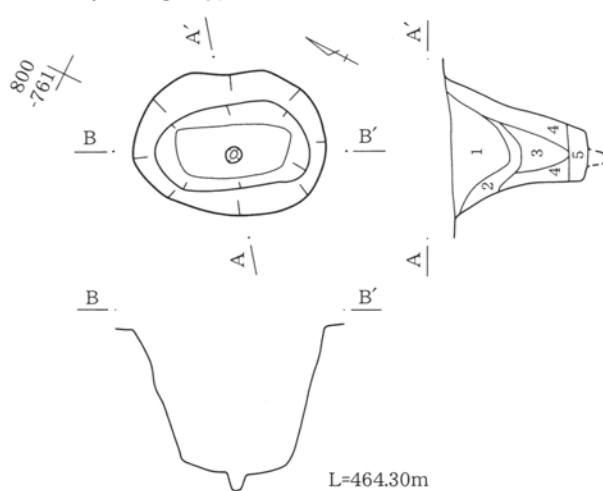
C区66号土坑



C区66号土坑

- 1 黒褐色土層 ローム粒を微量含む。
- 2 暗褐色土層 ローム粒、白色パミスを微量含む。
- 3 黄褐色土層 ハードロームとソフトロームの混土。
- 4 暗褐色土層 ローム粒を少量含む。

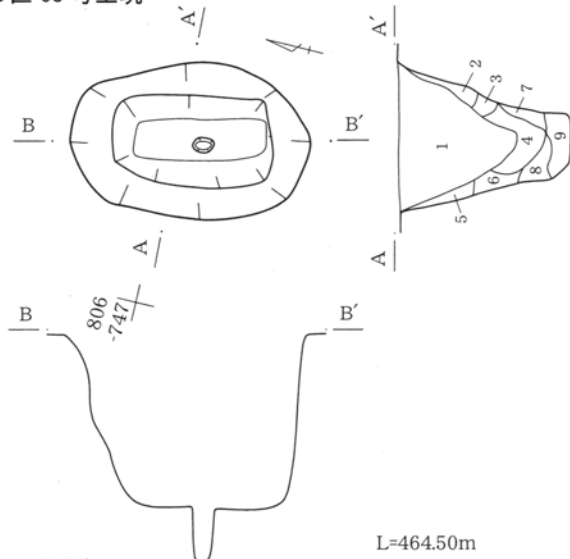
C区67号土坑



C区67号土坑

- 1 黒褐色土層 ローム粒を少量含む。
- 2 暗褐色土層 ローム粒、白色パミスを少量含む。
- 3 暗褐色土層 ローム粒、ロームブロックをやや多量含む。
- 4 黄褐色土層 黒色土、白色パミスを少量含む。
- 5 暗褐色土層 ローム粒を少量含む。

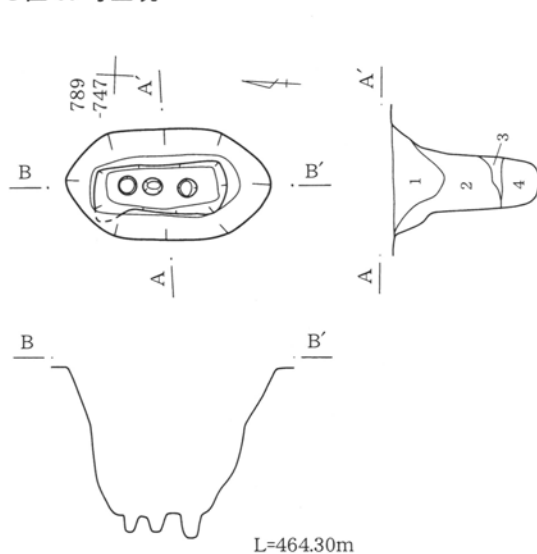
C区68号土坑



C区68号土坑

- 1 黒褐色土層 ローム粒を微量含む。
- 2 黒褐色土層 ローム粒を少量含む。
- 3 明黄褐色土層 ロームブロック。
- 4 褐色土層 ローム粒、ソフトロームブロックをやや多量含む。
- 5 黄褐色土層 ローム粒をやや多量含む。
- 6 黄褐色土層 ソフトロームを多量含む。
- 7 浅黄橙色土層 ソフトローム。
- 8 浅黄橙色土層 黒褐色土を少量含む。
- 9 褐色土層 ローム粒を少量含む。

C区69号土坑



C区69号土坑

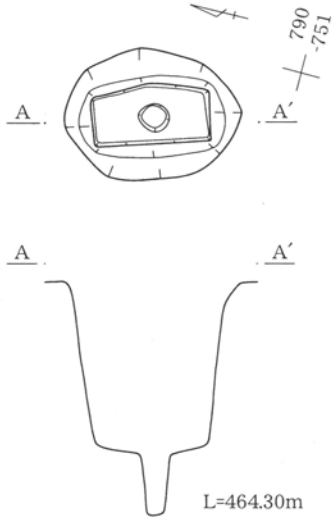
- 1 黒褐色土層 しまりあり。
- 2 暗褐色土層 ローム粒、ロームブロックを少量含む。
- 3 褐色土層 ローム粒、ロームブロックをやや多量含む。
- 4 黒色土層 ローム粒を微量含む。

0 1:60 2m

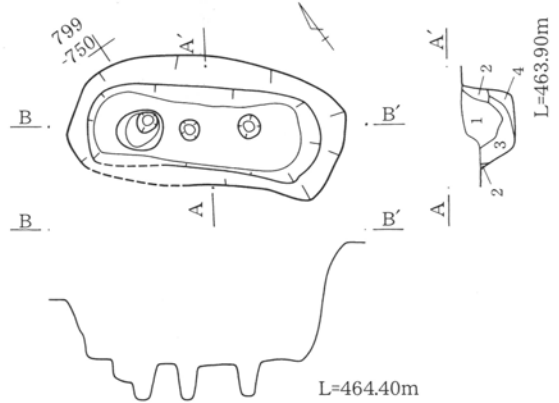
第21図 C区66・67・68・69号土坑

1. 縄文時代の遺構と遺物

C区70号土坑



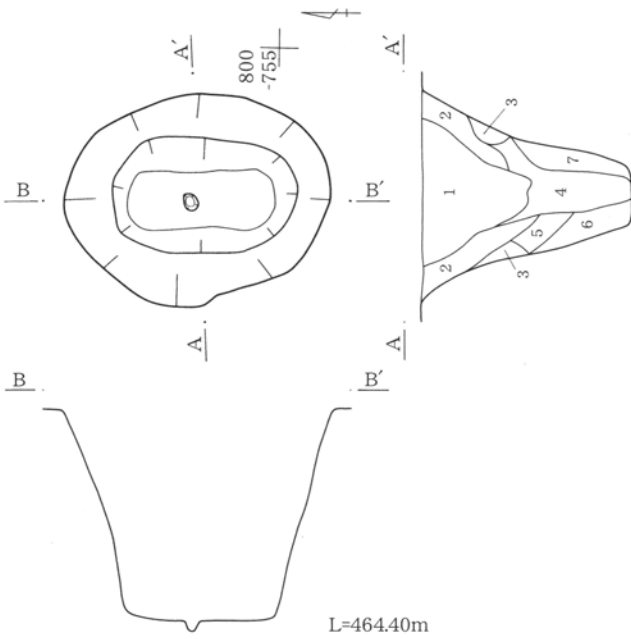
C区71号土坑



C区71号土坑

- 1 黒褐色土層 ローム粒を少量、白色パミスを微量含む。
- 2 ハードロームブロック
- 3 暗褐色土層 ローム粒をやや多量含む。
- 4 暗褐色土層 ローム粒を多量含む。

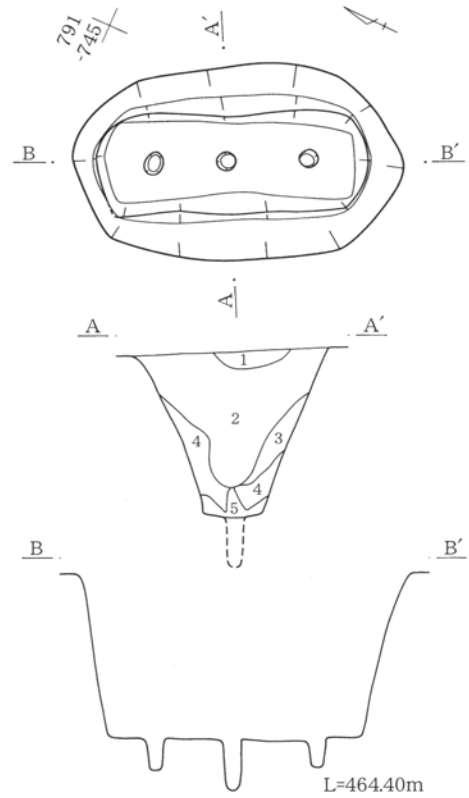
C区72号土坑



C区72号土坑

- 1 黒褐色土層 ローム粒を少量、白色パミスを微量含む。
- 2 褐色土層 ローム粒を多量、白色パミスを微量含む。
- 3 ハードロームブロック
- 4 暗褐色土層 ローム粒をやや多量、白色パミス、黄色パミスを微量含む。
- 5 褐色土層 ローム粒を多量、白色パミス、黄色パミスを微量含む。
- 6 黄褐色土層 ローム粒を多量含む。
- 7 明黄褐色土層 ローム主体土。黄色パミスを微量含む。

C区73号土坑



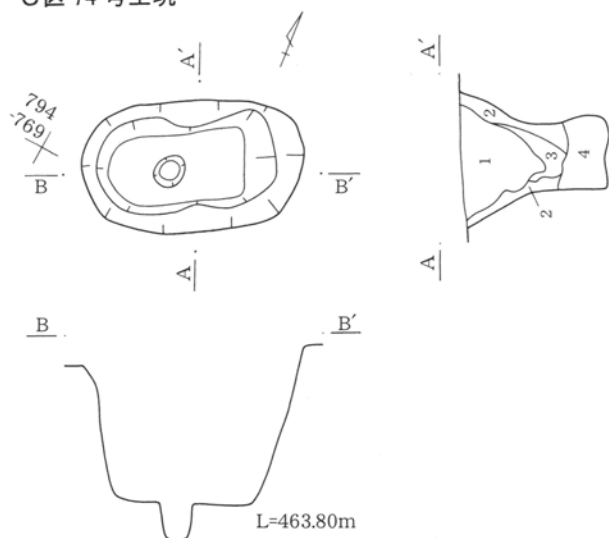
C区73号土坑

- 1 黄褐色土層 ローム粒を少量含む。
- 2 黒褐色土層 ローム粒を微量含む。
- 3 黄褐色土層 ロームと黒褐色土の混土。
- 4 黄褐色土層 3層土に橙色ロームをやや多量含む。
- 5 褐色土層 黒褐色土、ローム粒、橙色ロームの混土。

0 1:60 2m

第22図 C区70・71・72・73号土坑

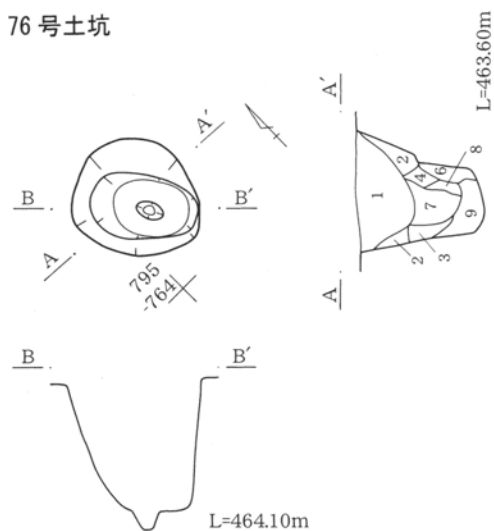
C区74号土坑



C区74号土坑

- 1 黒褐色土層 ローム粒を少量、白色パミスを微量含む。
- 2 褐色土層 ローム主体土。黒褐色土をやや多量含む。
- 3 褐色土層 ローム主体土。黒褐色土を多量含む。
- 4 暗褐色土層 ロームを少量、白色パミス、黄色パミスを微量含む。

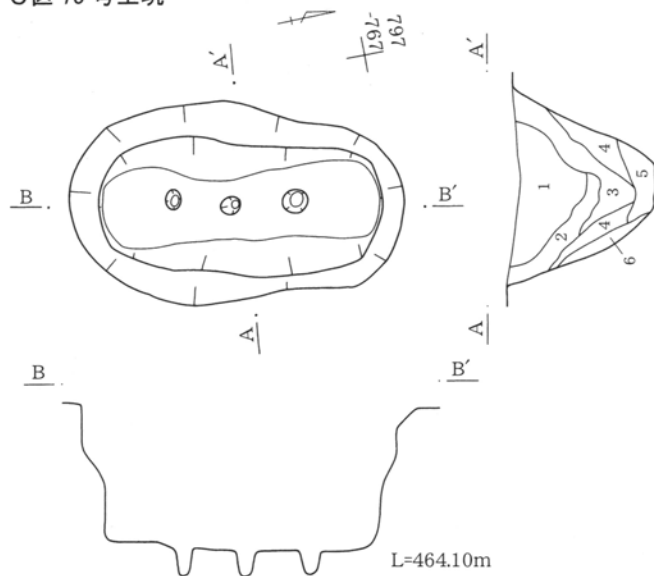
C区76号土坑



C区76号土坑

- 1 黒褐色土層 ローム粒、白色パミスを微量含む。
- 2 褐色土層 ローム粒をやや多量、白色パミスを微量含む。
- 3 褐色土層 ローム粒を多量、白色パミスを微量含む。
- 4 明黄褐色土層 ローム主体土。黒褐色土を少量含む。
- 6 浅黄褐色土層 ソフトローム主体土。
- 7 褐色土層 ロームと黒褐色土の混土。
- 8 褐色土層 7層よりロームを多く含む。
- 9 褐色土層 7層より黒褐色土を多く含む。

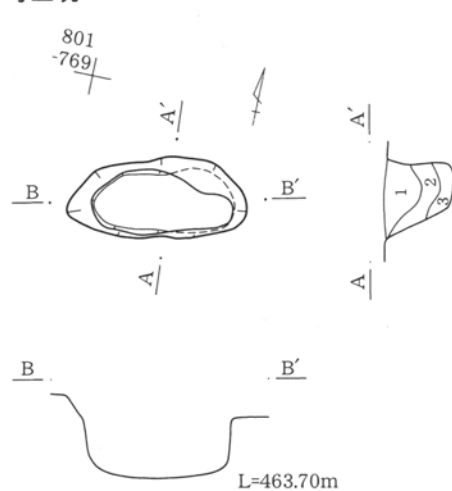
C区75号土坑



C区75号土坑

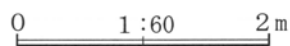
- 1 黒褐色土層 ローム粒、白色パミスを微量含む。
- 2 褐色土層 ローム粒をやや多量、白色パミスを微量含む。
- 3 褐色土層 ローム粒を多量、白色パミスを微量含む。
- 4 明黄褐色土層 ローム主体土。黒褐色土を少量含む。
- 5 褐色土層 ソフトロームを多量、黒褐色土を少量含む。
- 6 浅黄褐色土層 ソフトローム主体土。

C区78号土坑



C区78号土坑

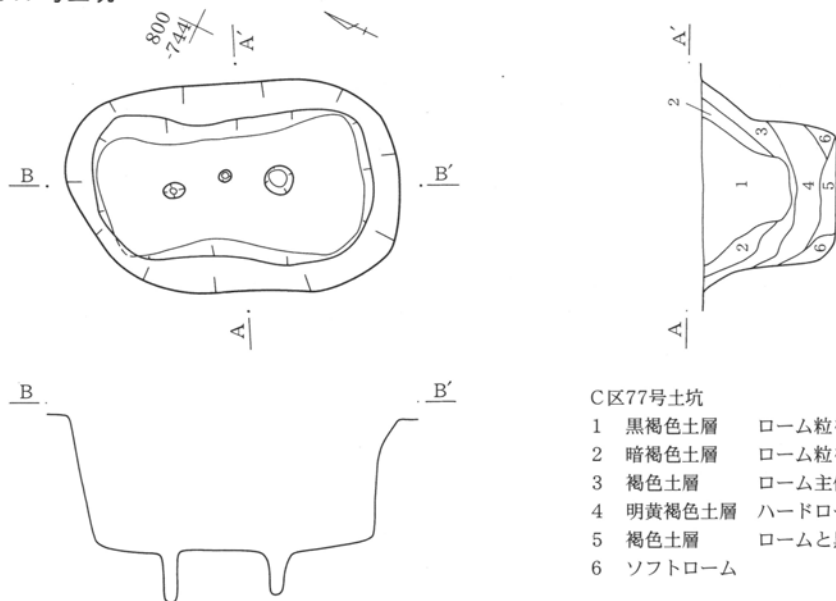
- 1 褐色土層 ローム粒、白色パミスを微量含む。
- 2 黄褐色土層 ロームブロック、ローム粒を少量含む。
- 3 黄褐色土層 ハードロームとソフトロームの混土。



第23図 C区74・75・76・78号土坑

1. 縄文時代の遺構と遺物

C区 77号土坑

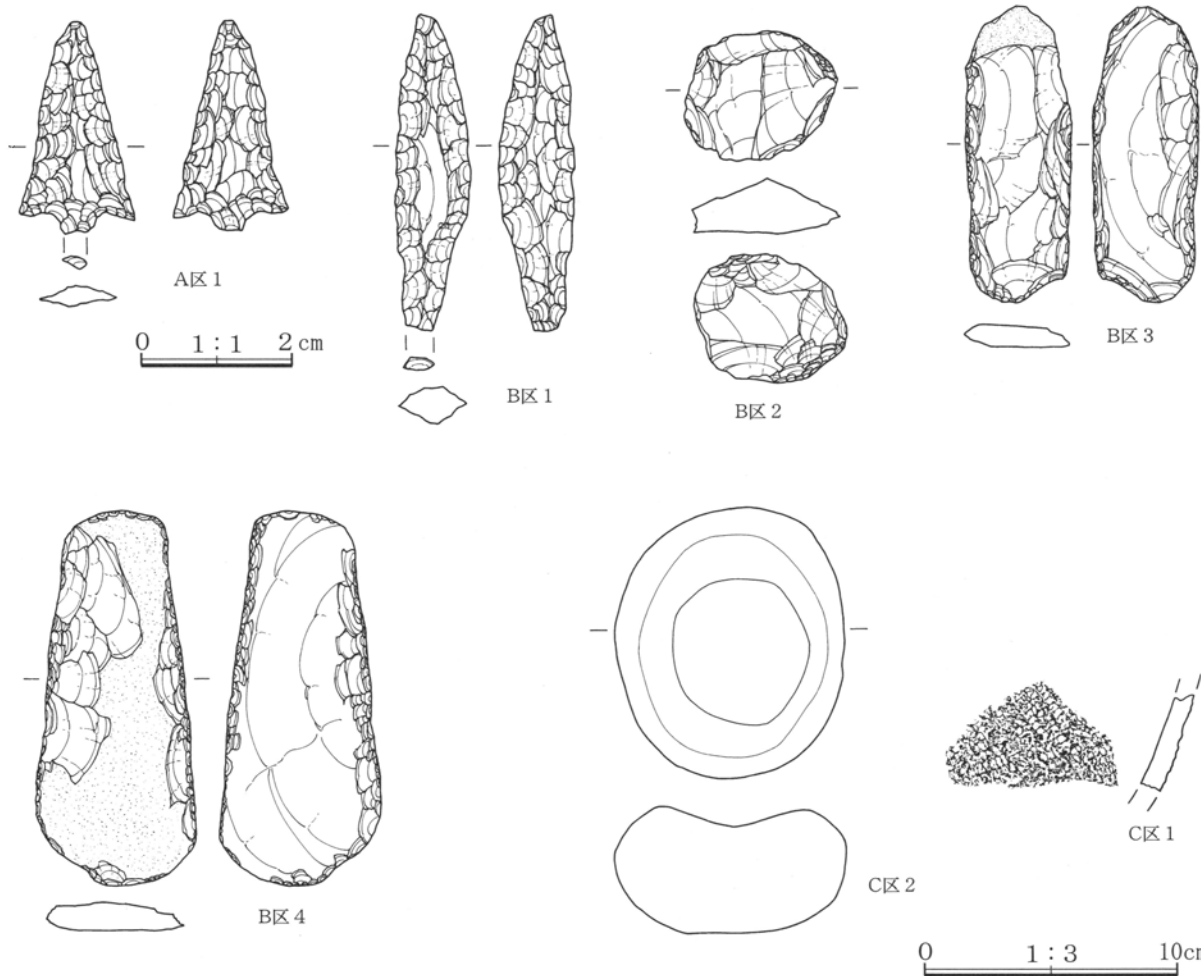


C区77号土坑

- 1 黒褐色土層 ローム粒を微量含む。
- 2 暗褐色土層 ローム粒をやや多量、白色パミスを微量含む。
- 3 褐色土層 ローム主体土。黒褐色土を少量含む。
- 4 明黄褐色土層 ハードローム主体土。黒褐色土を少量含む。
- 5 褐色土層 ロームと黒褐色土混土。
- 6 ソフトローム

L=464.50m
0 1:60 2m

(3) 遺構外出土遺物



第24図 C区77号土坑と遺構外出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

第2表 縄文時代土坑一覧表（第6～24図 PL.2～10）

遺構名	グリッド	長軸方位	形状		規模 (cm)			底面 ビット数	備 考
			上面	下面	長軸	短軸	深さ		
A区1号土坑	669-857	N-14°-W	隅丸長方形	隅丸長方形	174	54	90	3	
B区1号土坑	716-833	N-33°-W	長楕円形	隅丸長方形	186	114	117	0	
B区2号土坑	740-817	N-38°-E	楕円形	楕円形	126	117	72	0	
B区3号土坑	741-818	N-85°-E	長楕円形	隅丸長方形	198	99	108	0	
B区4号土坑	741-821	N-7°-W	長楕円形	隅丸長方形	231	108	129	0	
B区5号土坑	749-822	N-15°-W	楕円形	隅丸長方形	213	123	144	3	
B区6号土坑	745-830	N-26°-W	楕円形	楕円形	144	111	90	0	
B区25号土坑	764-796	N-24°-E	長楕円形	隅丸長方形	195	144	147	3	
B区26号土坑	759-802	N-18°-W	長楕円形	隅丸長方形	204	141	138	3	
B区27号土坑	751-806	N-21°-E	隅丸長方形	隅丸長方形	288	141	123	3	
B区28号土坑	760-809	N-49°-E	長楕円形	隅丸長方形	270	123	153	3	
B区29号土坑	765-809	N-15°-W	楕円形	隅丸長方形	249	231	174	1	
B区30号土坑	762-812	N-26°-E	楕円形	楕円形	186	150	132	0	
B区31号土坑	768-793	N-8°-W	楕円形	隅丸長方形	90	81	28.5	0	
B区32号土坑	752-817	N-38°-W	長楕円形	隅丸長方形	234	99	162	3	
B区33号土坑	758-816	N-46°-E	楕円形	隅丸長方形	240	168	162	2	
B区34号土坑	765-805	N-14°-W	長楕円形	隅丸長方形	258	105	141	3	
B区35号土坑	747-814	N-56°-E	円形	円形	144	96	48	0	
B区36号土坑	759-815	N-45°-W	楕円形	隅丸長方形	264	159	171	3	33号土坑が新。
B区37号土坑	768-803	N-12°-W	隅丸長方形	隅丸長方形	198	72	75	2	
B区38号土坑	747-809	N-10°-W	隅丸長方形	隅丸長方形	135	105	141	1	
C区1号土坑	773-785	N-10°-E	長楕円形	隅丸長方形	198	111	147	3	
C区2号土坑	772-786	N-90°-W	楕円形	隅丸長方形	246	162	156	3	
C区3号土坑	776-785	N-33°-W	楕円形	隅丸長方形	153	126	156	1	
C区4号土坑	773-792	N-24°-W	楕円形	楕円形	174	117	138	1	
C区5号土坑	798-790	N-12°-E	楕円形	隅丸長方形	234	171	147	1	
C区6号土坑	780-800	N-29°-W	楕円形	隅丸長方形	126	159	123	0	
C区7号土坑	776-779	N-11°-W	長楕円形	楕円形	237	129	198	1	
C区8号土坑	776-778	N-12°-W	長楕円形	隅丸長方形	144	114	144	1	
C区9号土坑	781-781	N-49°-W	楕円形	隅丸長方形	153	144	162	1	
C区10号土坑	783-785	N-35°-W	楕円形	隅丸長方形	153	126	138	1	
C区11号土坑	786-784	N-33°-W	楕円形	隅丸長方形	192	156	168	1	23号土坑が新。
C区12号土坑	785-790	N-35°-W	楕円形	隅丸長方形	192	144	111	1	
C区13号土坑	783-778	N-44°-W	長楕円形	隅丸長方形	126	114	114	1	
C区14号土坑	784-773	N-47°-W	楕円形	隅丸長方形	144	90	129	1	
C区15号土坑	785-757	N-50°-W	長楕円形	隅丸長方形	252	117	150	3	
C区16号土坑	790-757	N-20°-W	長楕円形	隅丸長方形	228	162	117	3	
C区17号土坑	794-761	N-23°-W	楕円形	楕円形	171	126	159	1	
C区18号土坑	794-758	N-20°-E	楕円形	隅丸長方形	189	138	180	1	
C区19号土坑	789-754	N-31°-E	長楕円形	隅丸長方形	189	0	135	1	22号土坑が新。
C区20号土坑	790-755	N-62°-W	楕円形	隅丸長方形	255	159	186	2	
C区21号土坑	797-759	N-70°-W	長楕円形	隅丸長方形	210	96	117	3	
C区22号土坑	789-752	N-53°-W	楕円形	隅丸長方形	249	174	162	1	
C区23号土坑	785-782	N-90°-W	円形	円形	114	102	69	0	
C区46号土坑	751-720	N-44°-W	楕円形	隅丸長方形	219	153	129	2	
C区49号土坑	774-742	N-57°-E	不明	不明	141	156	165	不明	
C区50号土坑	783-742	N-15°-E	隅丸長方形	隅丸長方形	249	222	159	1	
C区58号土坑	808-747	N-50°-W	長楕円形	隅丸長方形	240	120	141	3	
C区59号土坑	808-750	N-25°-W	楕円形	隅丸長方形	159	129	165	1	
C区60号土坑	804-761	N-5°-E	隅丸長方形	隅丸長方形	123	75	66	0	
C区61号土坑	804-745	N-45°-W	楕円形	隅丸長方形	165	114	198	1	
C区62号土坑	808-755	N-46°-W	楕円形	隅丸長方形	14	114	144	2	
C区63号土坑	802-754	N-36°-W	楕円形	隅丸長方形	177	120	180	1	64号土坑が新。
C区64号土坑	802-754	N-31°-W	隅丸長方形	隅丸長方形	228	105	102	3	
C区65号土坑	792-779	N-41°-W	不明	不明	132	144	126	0	
C区66号土坑	806-756	N-25°-E	楕円形	隅丸長方形	144	114	126	1	
C区67号土坑	800-761	N-27°-W	楕円形	隅丸長方形	153	144	129	1	
C区68号土坑	806-747	N-13°-W	長楕円形	隅丸長方形	192	126	180	1	
C区69号土坑	789-747	N-3°-W	長楕円形	隅丸長方形	90	165	135	3	
C区70号土坑	790-751	N-16°-W	楕円形	隅丸長方形	141	105	186	1	
C区71号土坑	799-750	N-56°-W	長楕円形	隅丸長方形	225	105	123	3	
C区72号土坑	800-755	N-7°-W	楕円形	隅丸長方形	216	171	165	1	
C区73号土坑	791-745	N-24°-E	長楕円形	隅丸長方形	261	153	174	3	
C区74号土坑	794-769	N-31°-W	長楕円形	隅丸長方形	180	105	150	1	
C区75号土坑	797-766	N-10°-E	長楕円形	隅丸長方形	267	165	132	3	
C区76号土坑	795-764	N-44°-W	楕円形	楕円形	105	96	120	1	
C区77号土坑	800-744	N-27°-W	長楕円形	隅丸長方形	267	171	150	3	
C区78号土坑	801-769	N-77°-E	不定形	不定形	141	66	69	0	

2. 弥生時代の遺構と遺物

(1) 概要

この時期の遺構はB区で検出された住居1軒のみである。C区では遺物の破片のみで遺構の検出には至らなかった。

(2) 竪穴住居

B区3号住居(第25図 PL11)

位置 753-808 方位 N-4°-W

形状 隅丸長方形。

規模 5.4×4.2m 面積 18.3㎡

重複 B区27号土坑→B区3号住居→B区2号古墳。

床面 確認面より55cmで床面となる。貼床は存在

せず、掘削した地山面をそのまま床とする。

周溝 なし

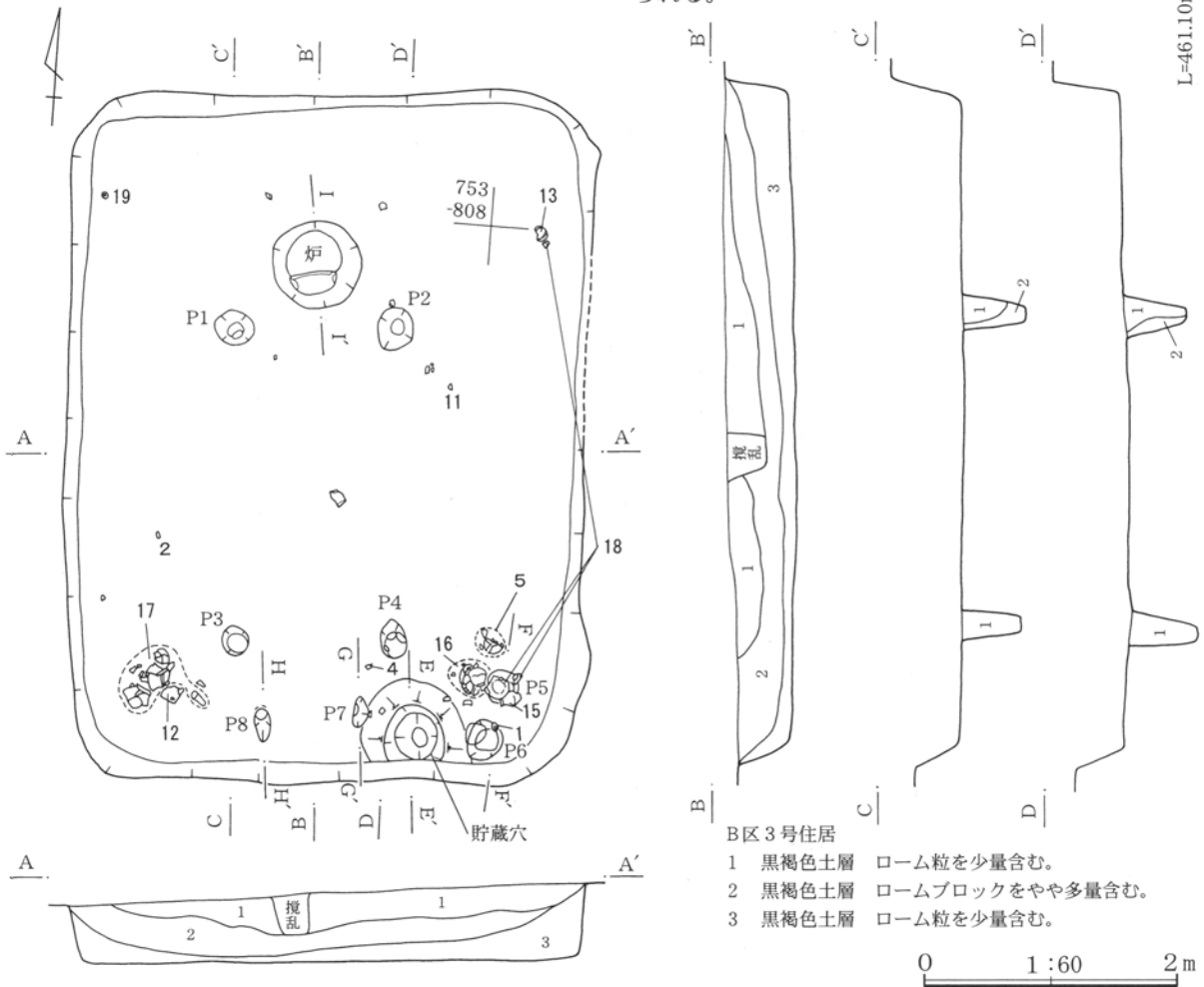
炉 P1とP3のほぼ中間に位置する。規模は76×66×14cmで形状は円形である。南側に扁平な枕石を設置していた。

貯蔵穴 南壁東寄りに位置する。

柱穴 ピットを8基検出した。P1～P4が主柱穴である。規模はP1が32×28×49cm、P2が35×29×49cm、P3が24×22×47cm、P4が31×20×53cmである。

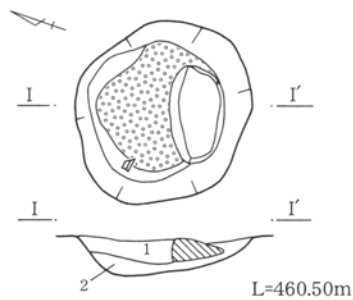
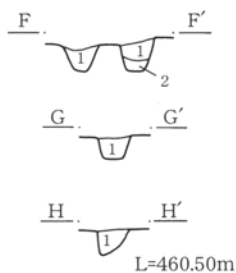
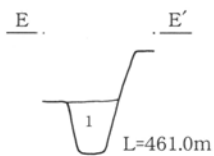
遺物 床面より高坏、蓋、甕が出土した。(観P133・134)

所見 出土遺物から弥生時代後期後半の住居と考えられる。



第25図 B区3号住居 (1)

第3章 検出された遺構と遺物

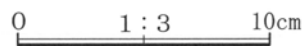
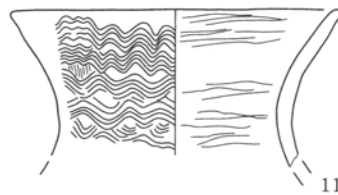
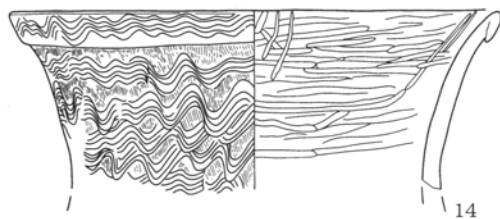
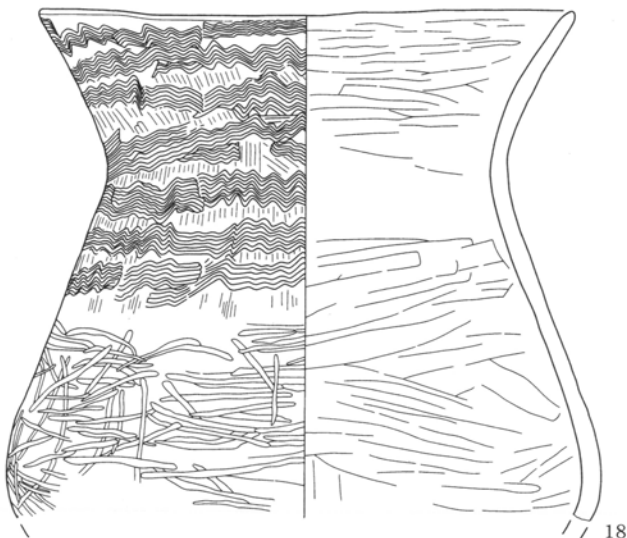
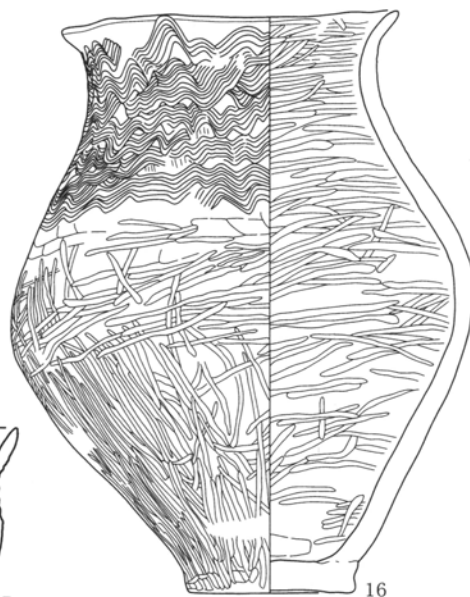
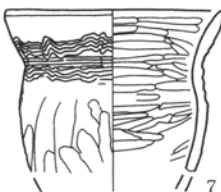
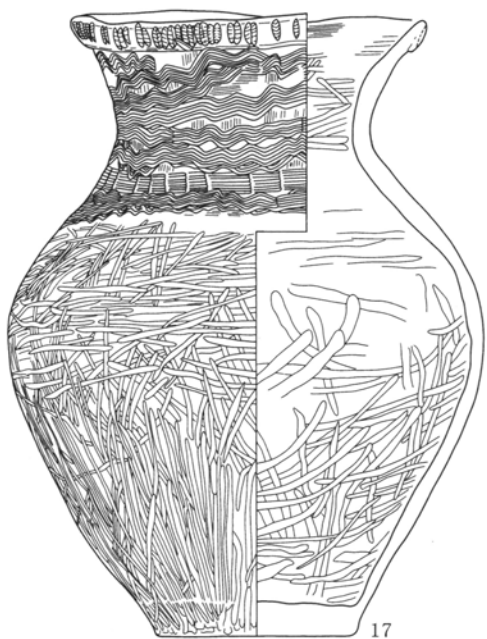
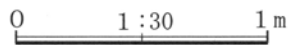
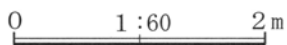


B区3号住居P5~9

- 1 黒褐色土層 ローム粒を多量含む。
- 2 褐色土層 ロームブロックをやや多量含む。

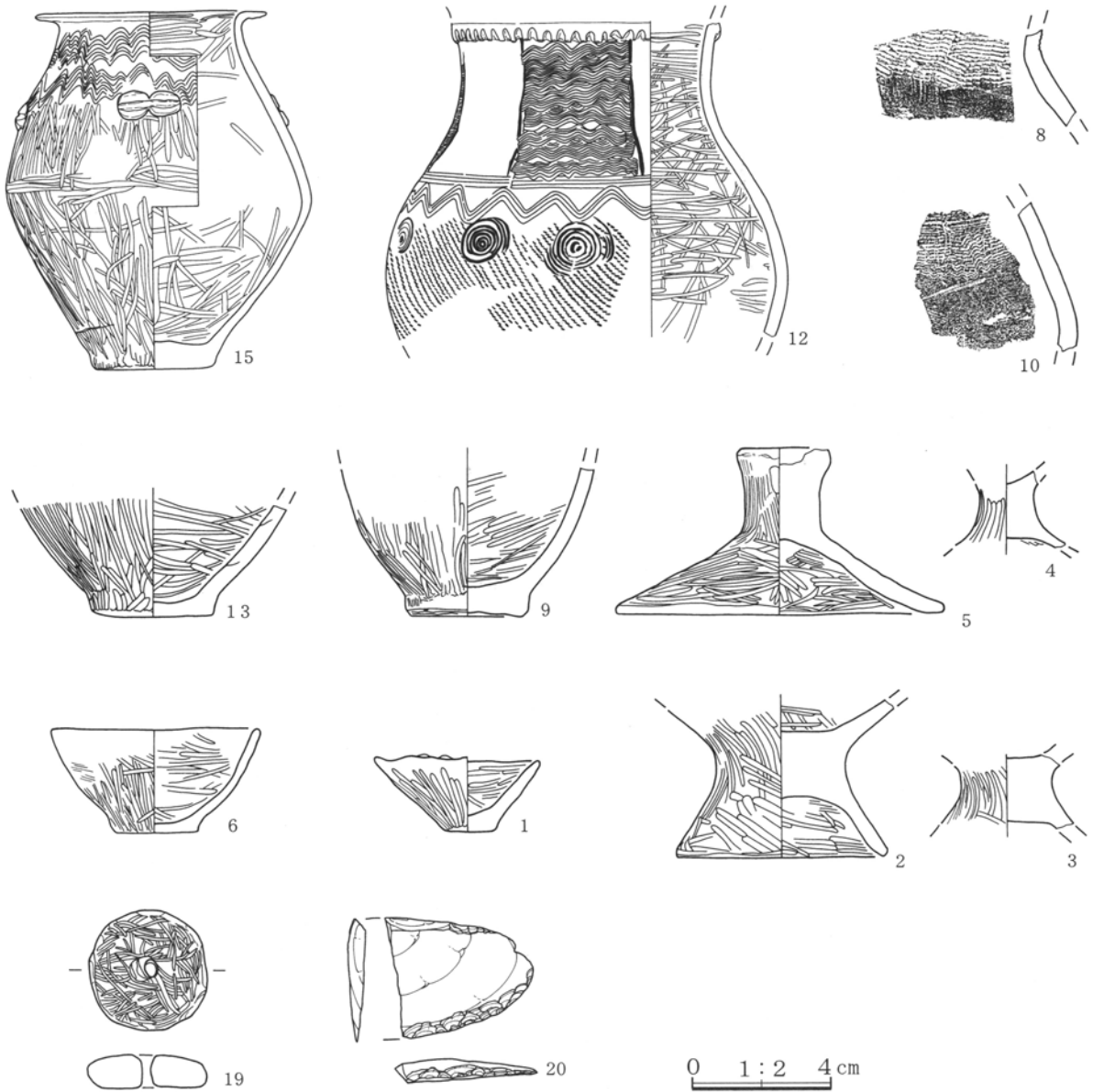
B区3号住居炉

- 1 黒褐色土層 ローム粒を少量含む。
- 2 褐色土層 ロームをやや多量含む。

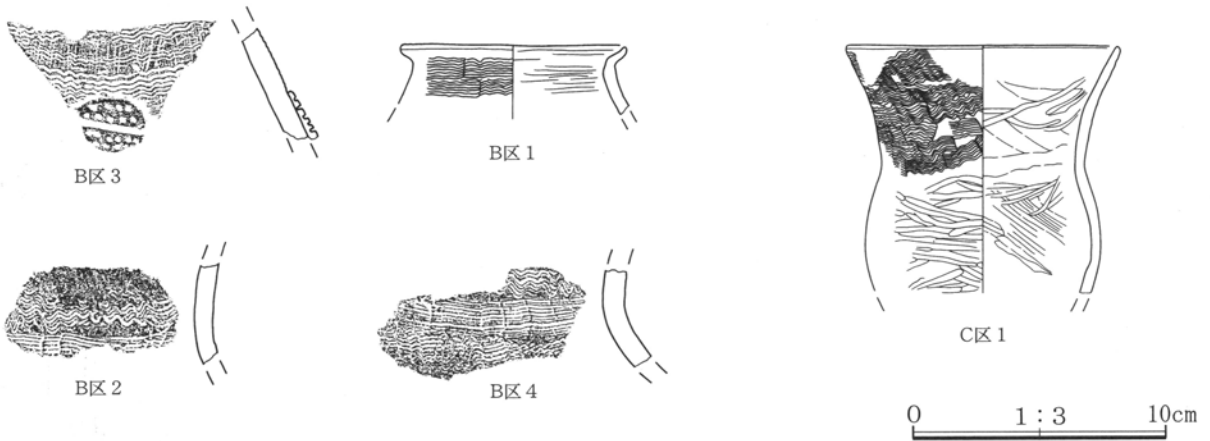


第26図 B区3号住居(2)と出土遺物(1)

2. 弥生時代の遺構と遺物



(3) 遺構外出土遺物



第27図 B区3号住居出土遺物(2)と遺構外出土遺物

3. 古墳～平安時代の遺構と遺物

(1) 概要

竪穴住居20軒、掘立柱建物12棟、古墳5基、集石6基、土坑8基を調査した。

竪穴住居は古墳時代15軒、平安時代4軒、時期不明1軒である。これらの住居のほとんどがC区の比較的平坦な部分に集中する。周辺の地形を考慮すると、住居群は、調査区の南北および東へ伸びていくものと思われる。

古墳時代の竪穴住居は5世紀中葉～7世紀前葉のものである。A区で2軒、B区で2軒、C区で11軒調査された。ほとんどの住居は遺存状態が良好で、確認面から床面まで深さ60cm以上のものが多い。このうちC区3・5・6・7・9・11号住居は廃絶からFP降下までの間に埋没していた。

平安時代の竪穴住居は、C区で4軒確認された。出土須恵器は、胎土や轆轤の回転方向などから月夜野古窯跡群から供給されたと思われるものを含んでいる。また、住居2軒からは「万」「森」の墨書土器、「大井」の刻書土器が出土した。

掘立柱建物はA区で1棟、B区で6棟、C区で5棟検出された。遺物が出土していないため詳細な時期は不明であるが、埋土や他の遺構との重複関係から、古墳時代後期～平安時代の遺構であると考えられる。

5基の古墳のうちA区1・2号古墳、B区1号古墳は住居群よりも1段低い段丘上に存在する。B区2号古墳とC区1号古墳は大部分が調査区域外のため周堀の一部のみ調査された。いずれの古墳も昭和13年の『上毛古墳綜覧』には記載されていない。このうちB区1号古墳はもっとも副葬品の遺存状態がよく、馬具、大刀、鉄鏃など鉄製品が多量に出土した。他の古墳からも須恵器等が出土している。

集石はA区で5基、C区で1基確認された。A区の集石は全てFP直下の遺構である。A区の東側斜面の低位に存在する。いずれも径1～2mほどの不定形の範囲に拳～人頭大の円礫が集中する。周辺か

らは土師器の破片が数多く出土している。C区1号集石は、扁平な川原石が方形に並べられていた。

土坑はC区で8基検出された。形状は円形、楕円形、矩形などさまざまな形態を呈し、規模も大小さまざまである。遺物はC区33・34・44号土坑から須恵器が、C区52号土坑から土師器片が出土している。

(2) 竪穴住居

A区1号住居 (第28～31図 PL11・12・34～36)

位置 667-858 方位 N-2°-E

形状 隅丸方形。

規模 5.7×5.4m 面積 29.2㎡

重複 A区1号土坑→A区1号住居

埋土 FPを含む黒褐色土。

床面 確認面から75cm下にロームと黒色土を用いて厚さ約13cmの貼床を施す。凹凸はほとんどなく平坦である。

周溝 竈を除き幅20cm×深さ5cmで全周する。

竈 東壁面の中心からやや北よりに位置する。ロームを袖材として使用し一部礫を用いて補強する。確認長は136cm、燃焼部幅34cm。

貯蔵穴 45×40×45cmの規模で北東隅に設ける。土師器甕がまとまって出土した。

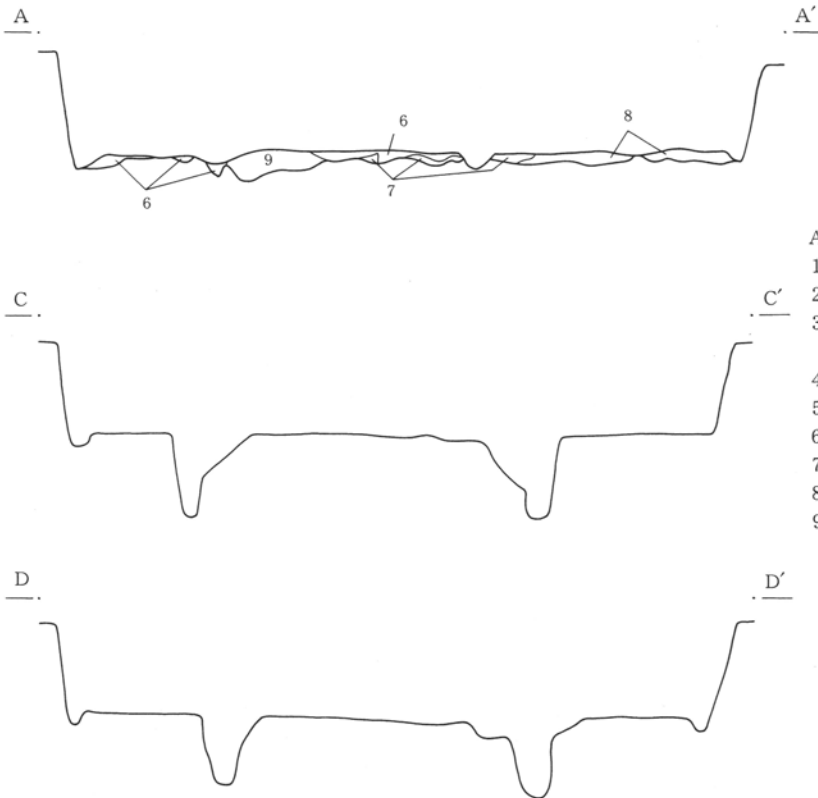
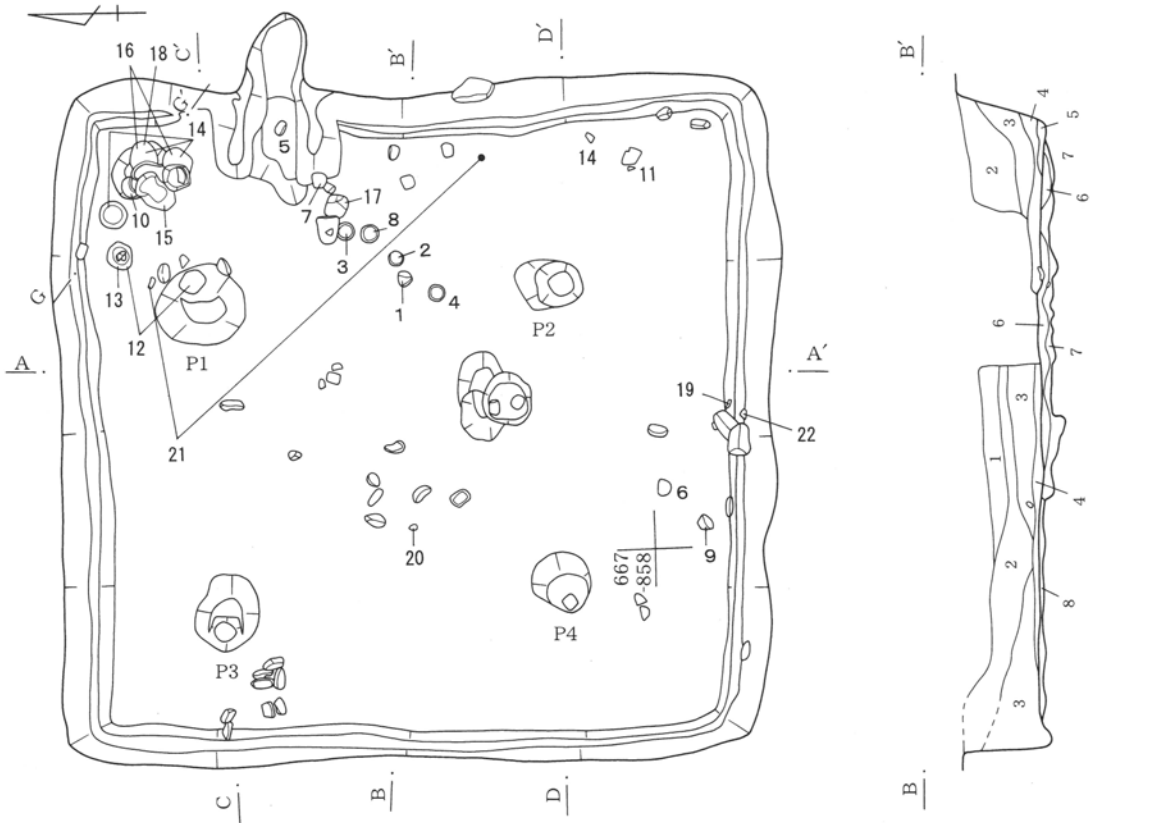
柱穴 ピットを4基検出した。P1は71×65×57cm、P2は55×38×60cm、P3は63×50×61cm、P4は50×48×53cmである。

掘り方 床面から10～20cm下で掘り方面となる。間仕切り溝2条を確認した。

遺物 住居の東半分の床直上から多量の遺物が出土した。貯蔵穴からは甕(10・12・13・14・15・16・18)口縁を上に向けた状態でまとまって出土した。鉄製品(19～21)、砥石(22)も出土している。(観P.134・135)

所見 出土遺物から6世紀後葉と考えられる。

3. 古墳～平安時代の遺構と遺物



A区1号住居

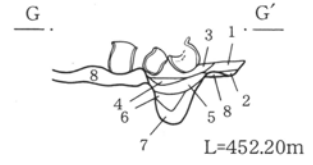
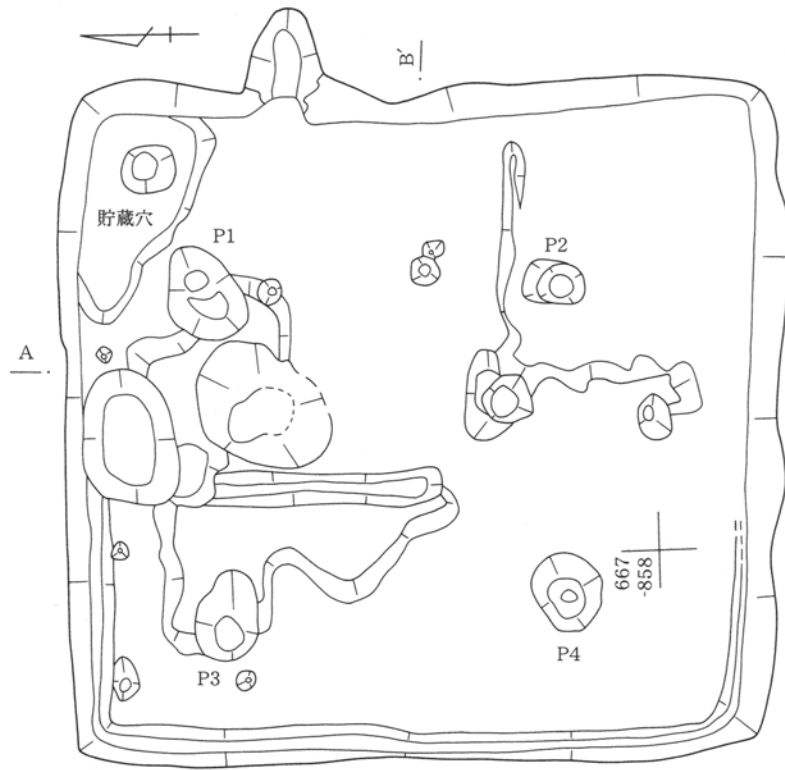
- | | |
|----------|-----------------------|
| 1 黒褐色土層 | FPを多量含む。 |
| 2 黒褐色土層 | FPを少量含む。 |
| 3 褐色土層 | ローム粒・ブロックを少量、FPを微量含む。 |
| 4 黒褐色土層 | ロームブロックを少量含む。 |
| 5 暗褐色土層 | ロームと黒色土の混土。 |
| 6 黒色土層 | 黒色土主体。 |
| 7 暗黄褐色土層 | ローム主体土。 |
| 8 暗灰色土層 | 焼土をやや多量含む。 |
| 9 暗褐色土層 | ロームと黒色土の混土。 |

L=452.90m

0 1:60 2m

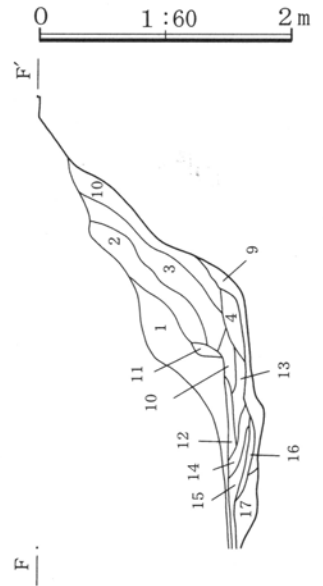
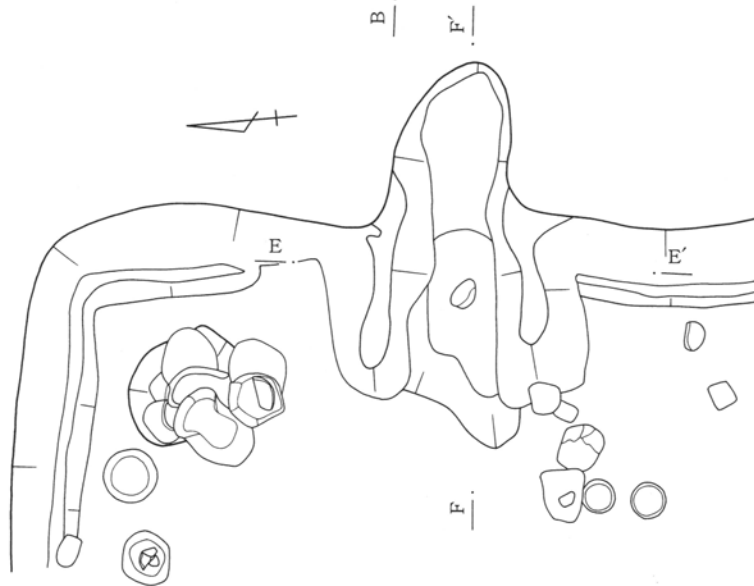
第28図 A区1号住居(1)

第3章 検出された遺構と遺物



A区1号住居貯蔵穴

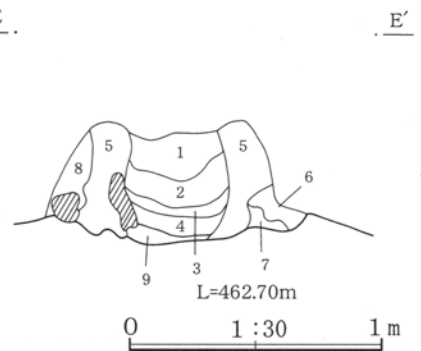
- 1 暗黄褐色土層 焼土、ローム粒をやや多量含む。
- 2 黄褐色土層 ロームブロックをやや多量含む。
- 3 暗赤褐色土層 焼土粒を多量含む。
- 4 黒褐色土層 ローム粒を少量含む。
- 5 暗黄褐色土層 ローム主体土。
- 6 黄褐色土層 ロームブロックを多量含む。
- 7 暗黄褐色土層 ロームと暗褐色土の混土。
- 8 暗褐色土層 ローム漸移層と黒色土の混土。



A区1号住居

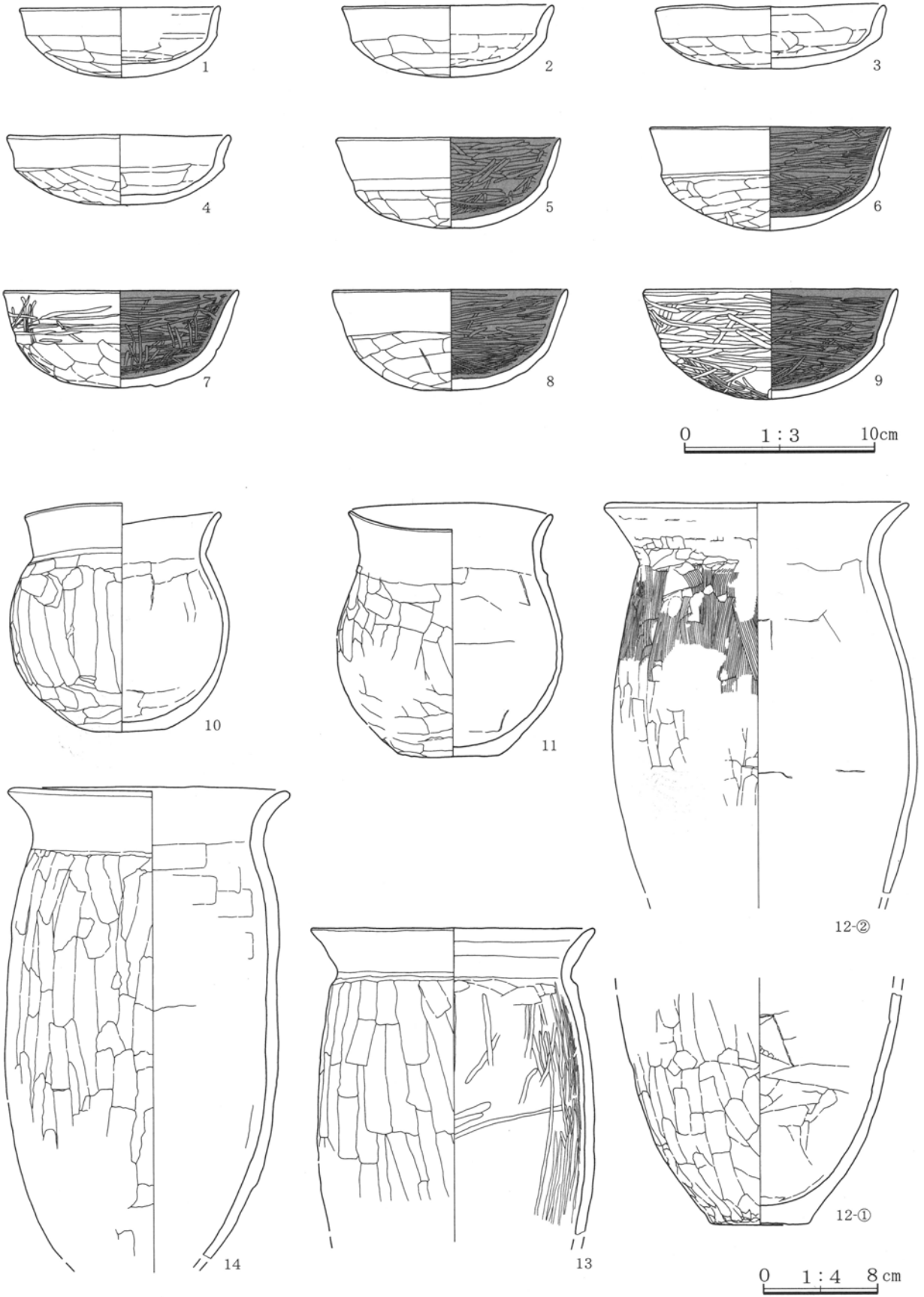
- 1 黄褐色土層 焼土を含む。
- 2 暗赤褐色土層 焼土を多量含む。
- 3 赤褐色土層 灰に焼土が混じる。
- 4 灰黄褐色土層 焼土ブロックを少量含む。
- 5 黄褐色土層 ローム主体土。
- 6 暗黄褐色土層 ローム主体土。
- 7 暗褐色土層 黒色土にロームブロックを少量含む。
- 8 褐色土層 ロームブロック・粒をやや多量含む。

- 9 暗赤褐色土層 焼土ブロックをやや多量含む。
- 10 暗赤褐色土層 焼土粒を多量含む。
- 11 暗赤褐色土層 ローム主体土。
- 12 黄褐色土層 焼土ブロックをやや多量含む。
- 13 暗赤褐色土層 少量粒を多量含む。
- 14 黄橙色土層 灰、炭化物をやや多量含む。
- 15 暗赤褐色土層 灰、焼土粒を多量含む。
- 16 暗褐色土層 焼土粒を多量含む。
- 17 黒褐色土層 暗褐色土を少量含む。

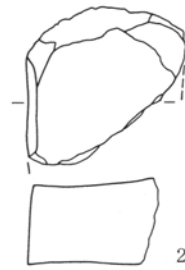
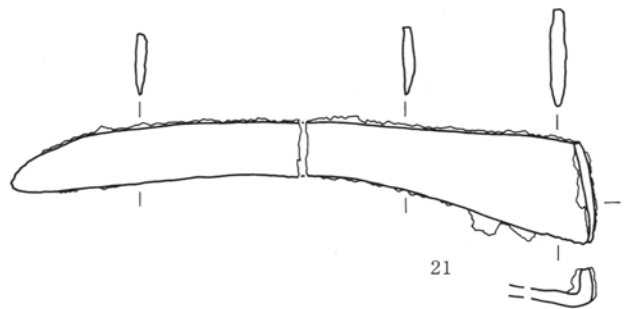
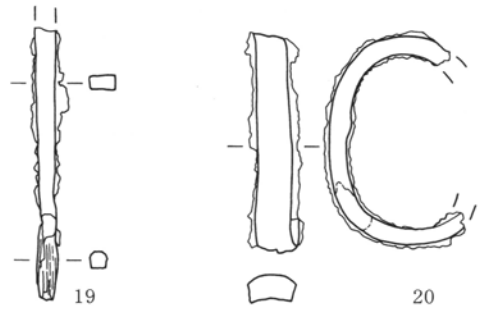
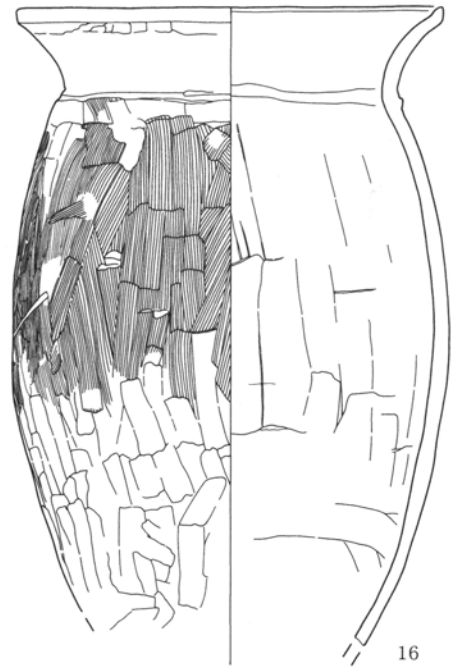
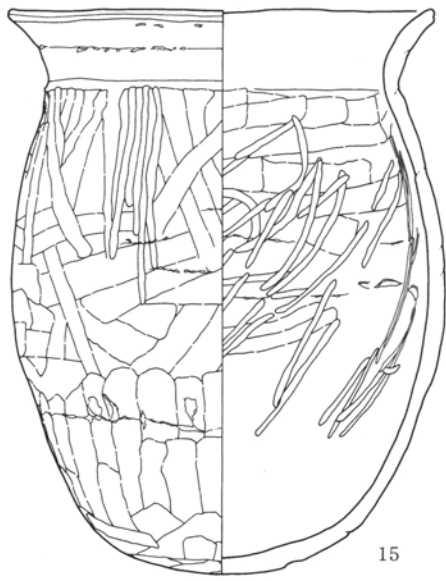


第29図 A区1号住居(2)

3. 古墳～平安時代の遺構と遺物



第30図 A区1号住居出土遺物(1)



0 1:4 8cm

0 1:2 4cm

0 1:3 10cm

第31図 A区1号住居出土遺物(2)

3. 古墳～平安時代の遺構と遺物

A区2号住居 (第32～35図 PL12・36・37)

位置 655-860 方位 N-10°-E

形状 隅丸方形。

規模 6.3×5.5m 面積 24.7㎡

重複 なし。埋土 FPを少量含む暗褐色土。

床面 確認面から110cm下にロームと黒色土を用いて厚さ約20cmの平坦な貼床を施す。

周溝 幅15cm×深さ5cmの規模で南壁側を除いて全周する。

竈 東壁面のほぼ中央に位置する。ローム地山を掘り残して袖としている。確認長は117cm、燃烧部幅は70cm。

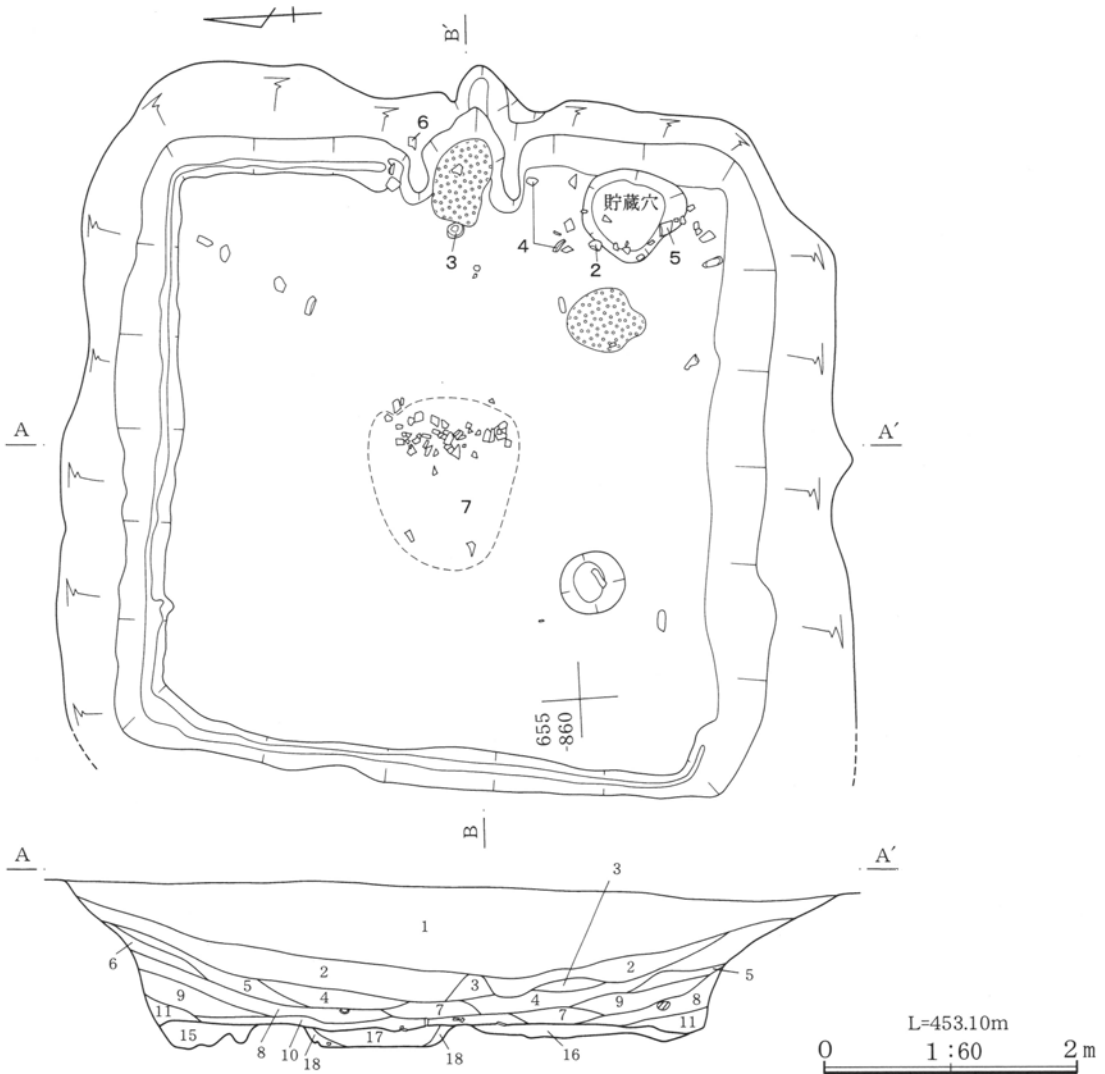
貯蔵穴 形状は長楕円形。85×75×45cmの規模で南東隅に設ける。

柱穴 ピットを4基検出した。P1は45×35×32cm、P2は25×25×31cm、P3は45×35×38cm、P4は45×45×40cmである。P1～4が柱穴であると思われる。

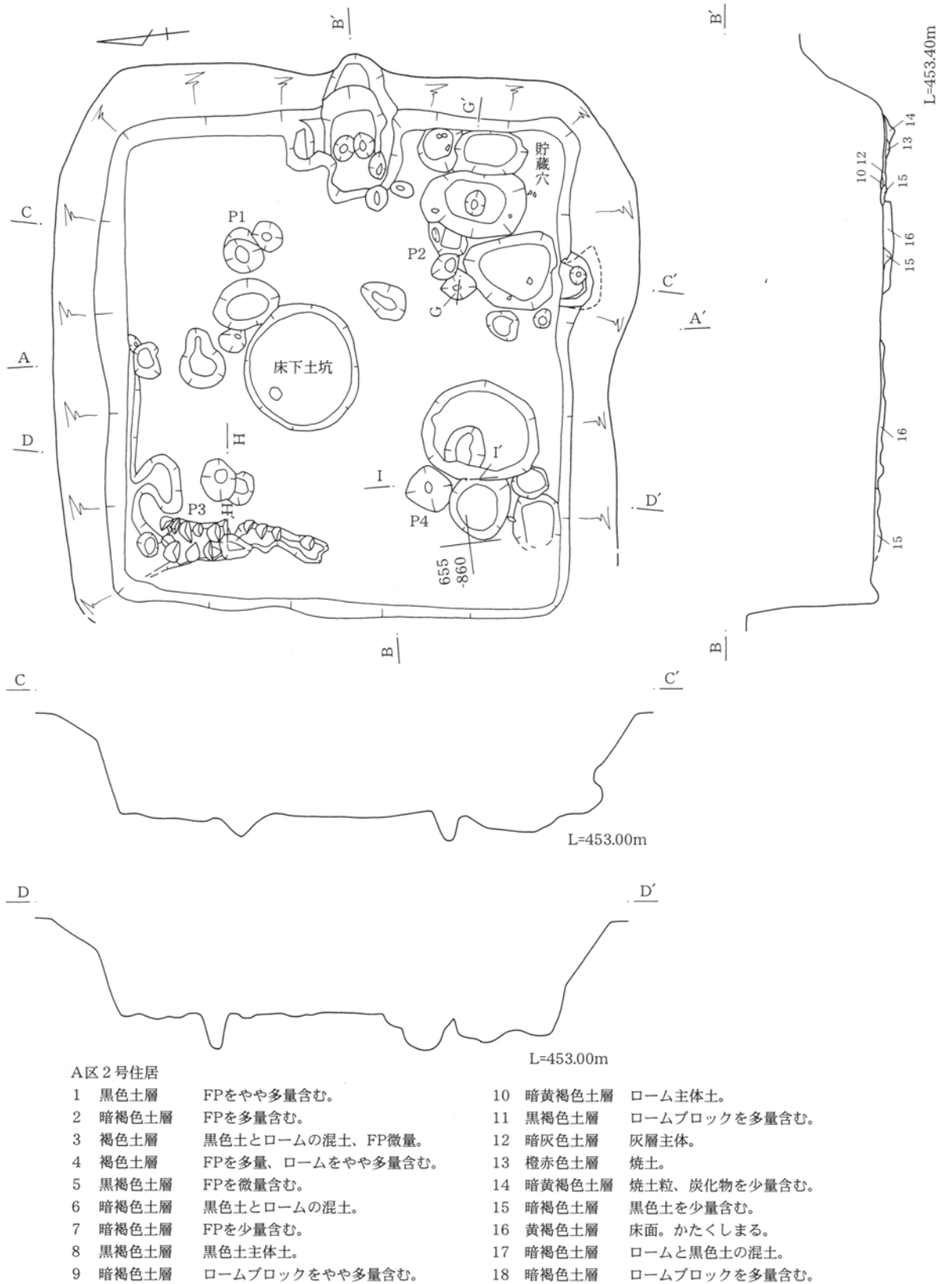
掘り方 床面から10～23cm下で掘り方面となる。中央やや北寄りに130×115×16cmの床下土坑を確認した。北西隅には住居を掘削したときの工具痕が認められた。南壁のやや東よりに幅21cm×深さ5cmの掘り込みを確認した。

遺物 坏(3)は竈の正面の床直上から、甕(7)はほぼ中央から細片の状態で出土した。(観P.135)

所見 出土遺物から6世紀後葉であると考えられる。



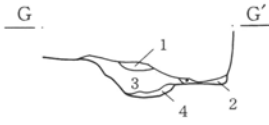
第32図 A区2号住居 (1)



第33図 A区2号住居 (2)

0 1:60 2m

3. 古墳～平安時代の遺構と遺物



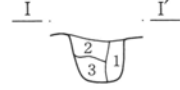
A区2号住居貯蔵穴

- 1 赤褐色土層 焼土ブロックを多量含む。
- 2 黄褐色土層 ローム主体土。焼土を含む。
- 3 黄褐色土層 ロームに黒色土を少量含む。
- 4 暗褐色土層 焼土、炭化物を含む。



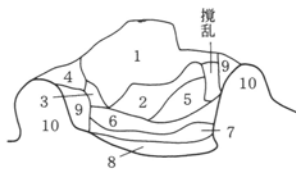
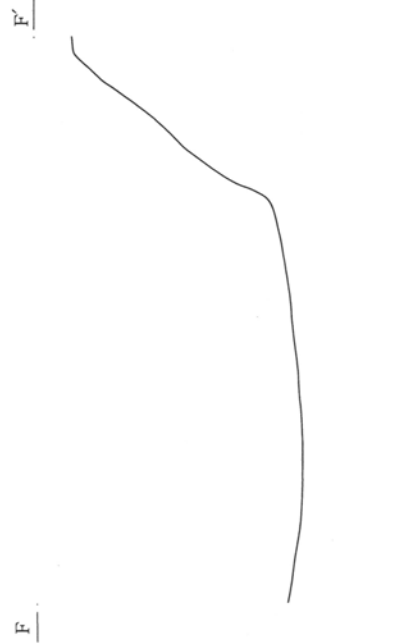
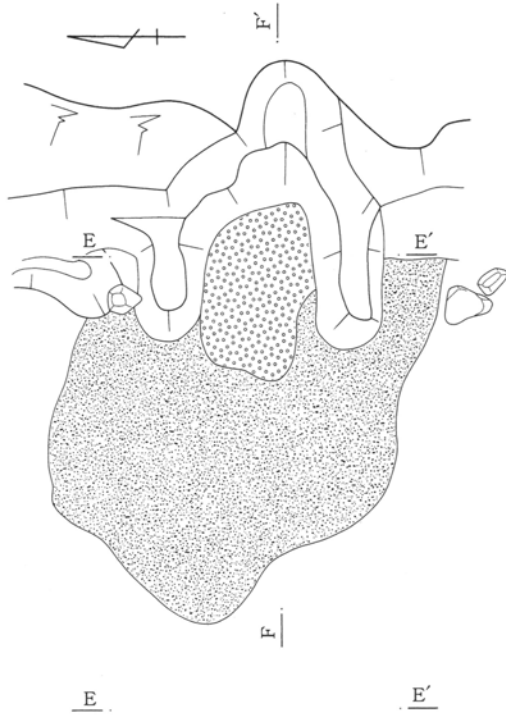
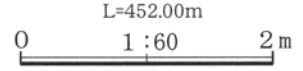
A区2号住居P3

- 1 暗褐色土層 ロームを含む。
- 2 黄褐色土層 ローム主体土。



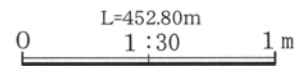
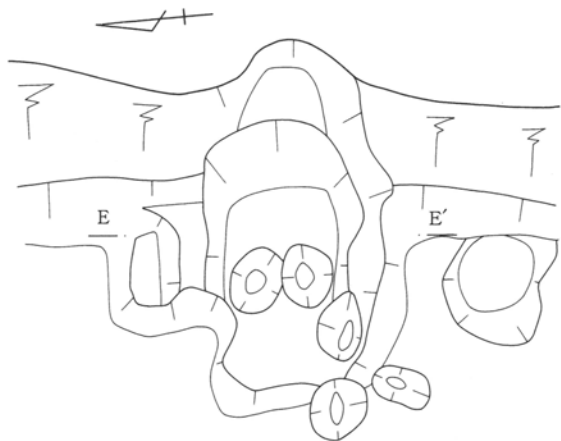
A区2号住居P4

- 1 黄褐色土層 ロームブロックを含む。
- 2 暗褐色土層 黒色土を含む。
- 3 黄褐色土層 ロームブロックを多量含む。



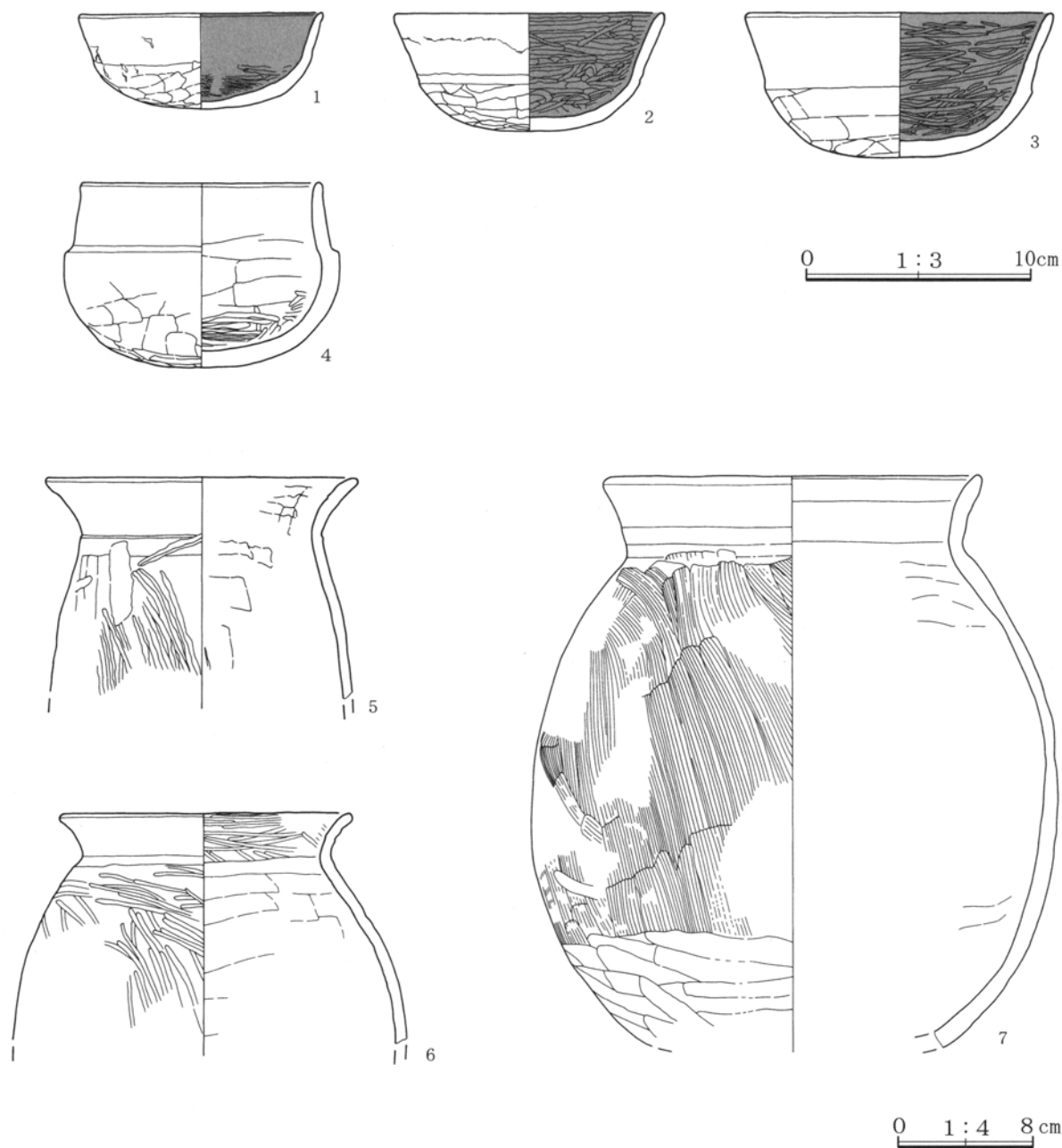
A区2号住居竈

- 1 黄褐色土層 ローム主体土。
- 2 橙褐色土層 ローム主体土。焼土を多く含む。
- 3 黒色土層 焼土ブロックを含む。
- 4 暗褐色土層 ロームをやや多量含む。
- 5 赤褐色土層 焼土を少量含む。
- 6 黒褐色土層 ローム・焼土を少量含む。
- 7 黒色土層 灰を多量に含む。
- 8 暗赤褐色土層 焼土ブロックを多量含む。
- 9 明黄褐色土層 ローム主体土。
- 10 暗褐色土層 竈袖（地山のローム）。



第34図 A区2号住居(3)

第3章 検出された遺構と遺物

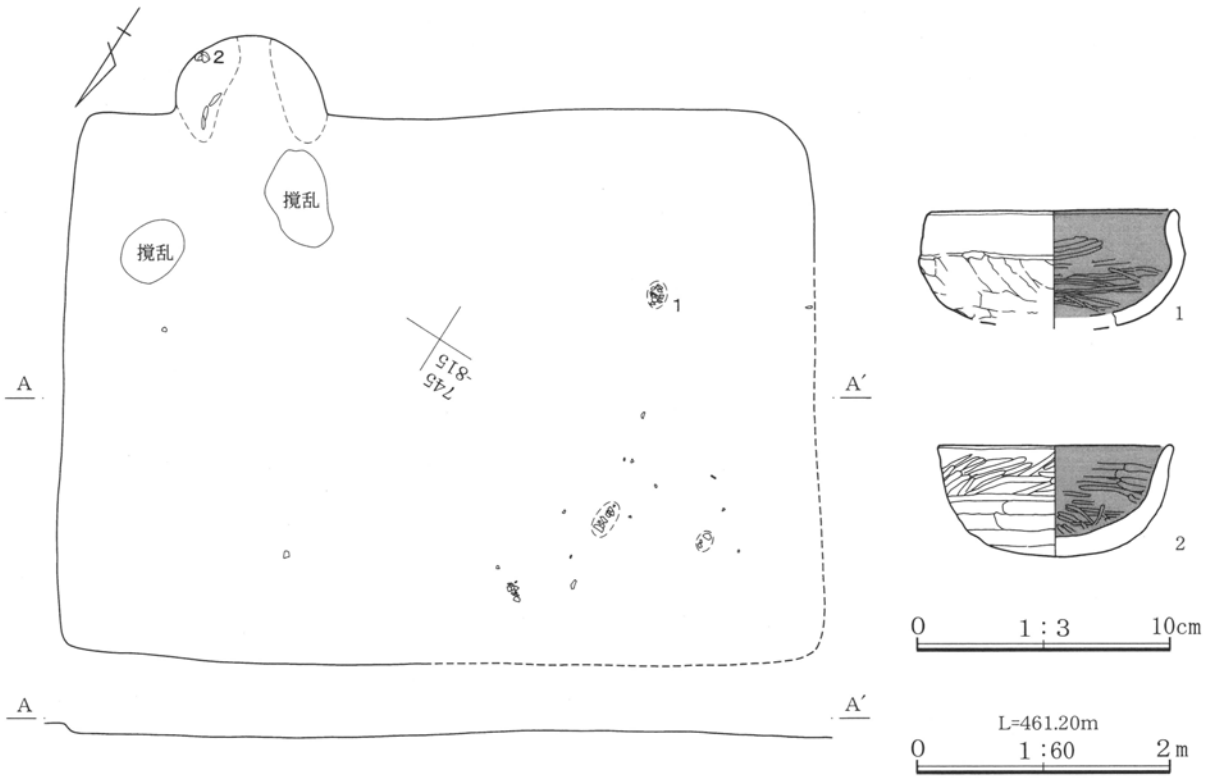


第35図 A区2号住居出土遺物

B区1号住居 (第36図 PL13・37)
 位置 745-815 方位 N-55°-E
 形状 隅丸方形と思われる。
 規模 6.0×4.3m 面積 26.6㎡
 重複 B区35号土坑→B区1号住居→B区6号掘
 立柱建物
 周溝 確認できなかった。
 竈 東壁面やや北寄りに位置する。遺存状態が悪く、

左袖がわずかに残る程度である。
 貯蔵穴・柱穴 確認できなかった。
 掘り方 なし。
 遺物 坏(1)が住居の南寄りの床直上から、坏
 (2)が竈袖付近から出土した。(観P.136)
 所見 出土遺物から5世紀代と考えられる。

3. 古墳～平安時代の遺構と遺物



第36図 B区1号住居

B区2号住居 (第37～39図 PL13・37・38)

位置 768-803 方位 N-55°-E

形状 隅丸方形。

規模 3.8×3.7m 面積 12.7㎡

重複 B区37号土坑→B区2号住居

埋土 FPを少量含む黒色土。

床面 確認面から65cm下にロームと黒色土を用いて厚さ約30cmの平坦な貼床を施す。

周溝 規模は幅18cm×深さ5cmで、北壁と東壁に確認した。

竈 西壁面のほぼ中央に位置する。ロームの地山を掘り残して袖の芯材とする。確認長は105cm、燃燒部幅は34cm。

貯蔵穴 形状は円形。規模は50×45×80cmで南西隅に設ける。

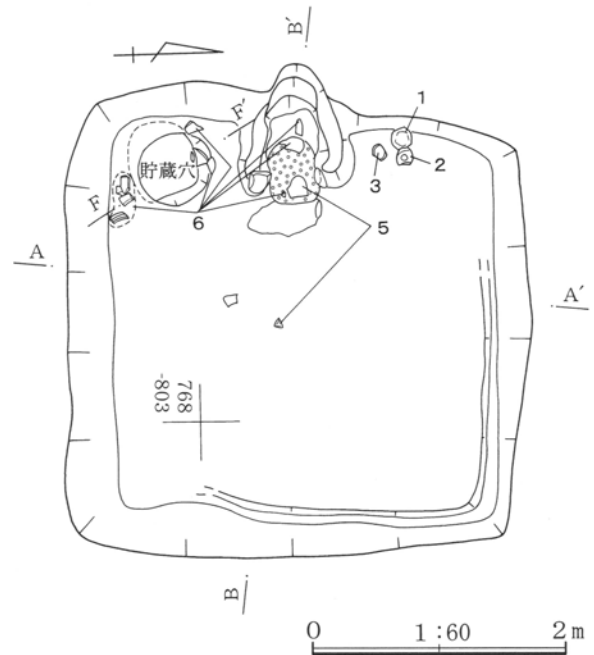
柱穴 なし。

掘り方 床面から8～30cm下で掘り方面となる。

中央やや西寄りに115×110×55cmの円形の床下土坑を確認した。

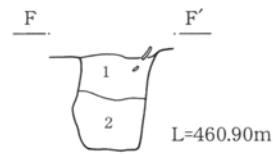
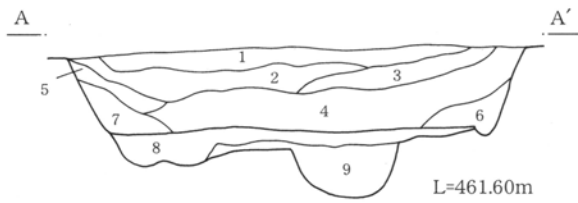
遺物 坏(1・3)は竈の北側の床直上から出土した。甕(5)は竈の埋土中、甕(6)は貯蔵穴の周りと竈の埋土中から出土した。高坏(4)は埋土中から出土した。(観P.136)

所見 出土遺物から6世紀中葉と考えられる。



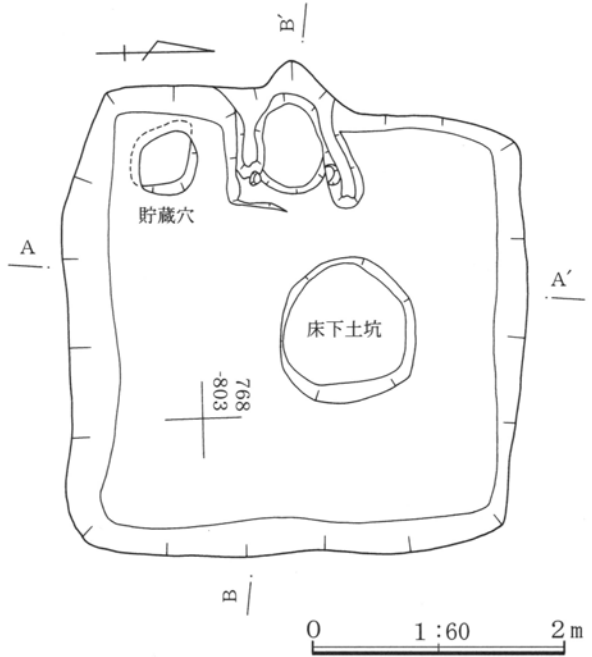
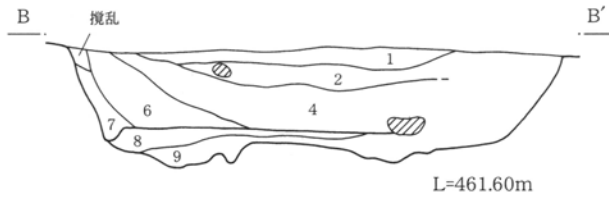
第37図 B区2号住居(1)

第3章 検出された遺構と遺物



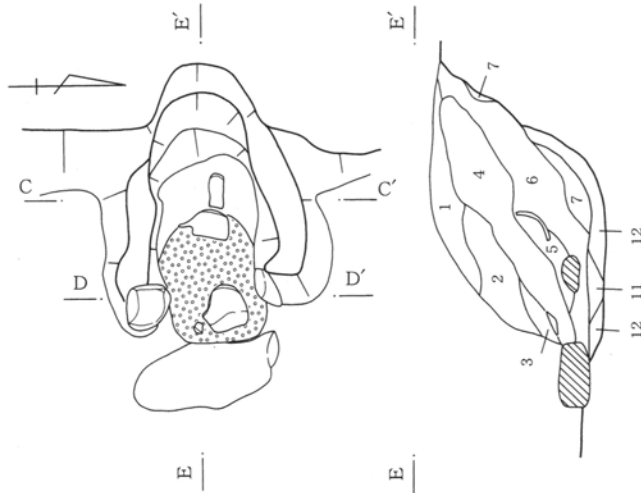
B区2号住居貯蔵穴

- 1 黒褐色土層 ローム粒を少量含む。
- 2 黒褐色土層 ローム粒をやや多量含む。



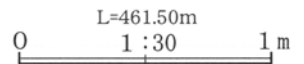
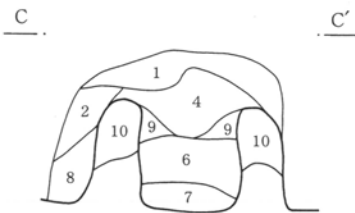
B区2号住居

- 1 黒色土層 FPを微量含む。
- 2 黒色土層 FPを微量、ローム粒を少量含む。
- 3 黒色土層 FPを多量含む。
- 4 黒褐色土層 FPを微量、ローム粒を少量含む。
- 5 黒色土層 FP・ローム粒を微量含む。
- 6 黒褐色土層 ローム粒をやや多量含む。
- 7 黒色土層 ローム粒を少量含む。
- 8 褐色土層 ローム粒・ブロックを多量含む。
- 9 黒褐色土層 ローム粒・ブロックをやや多量含む。



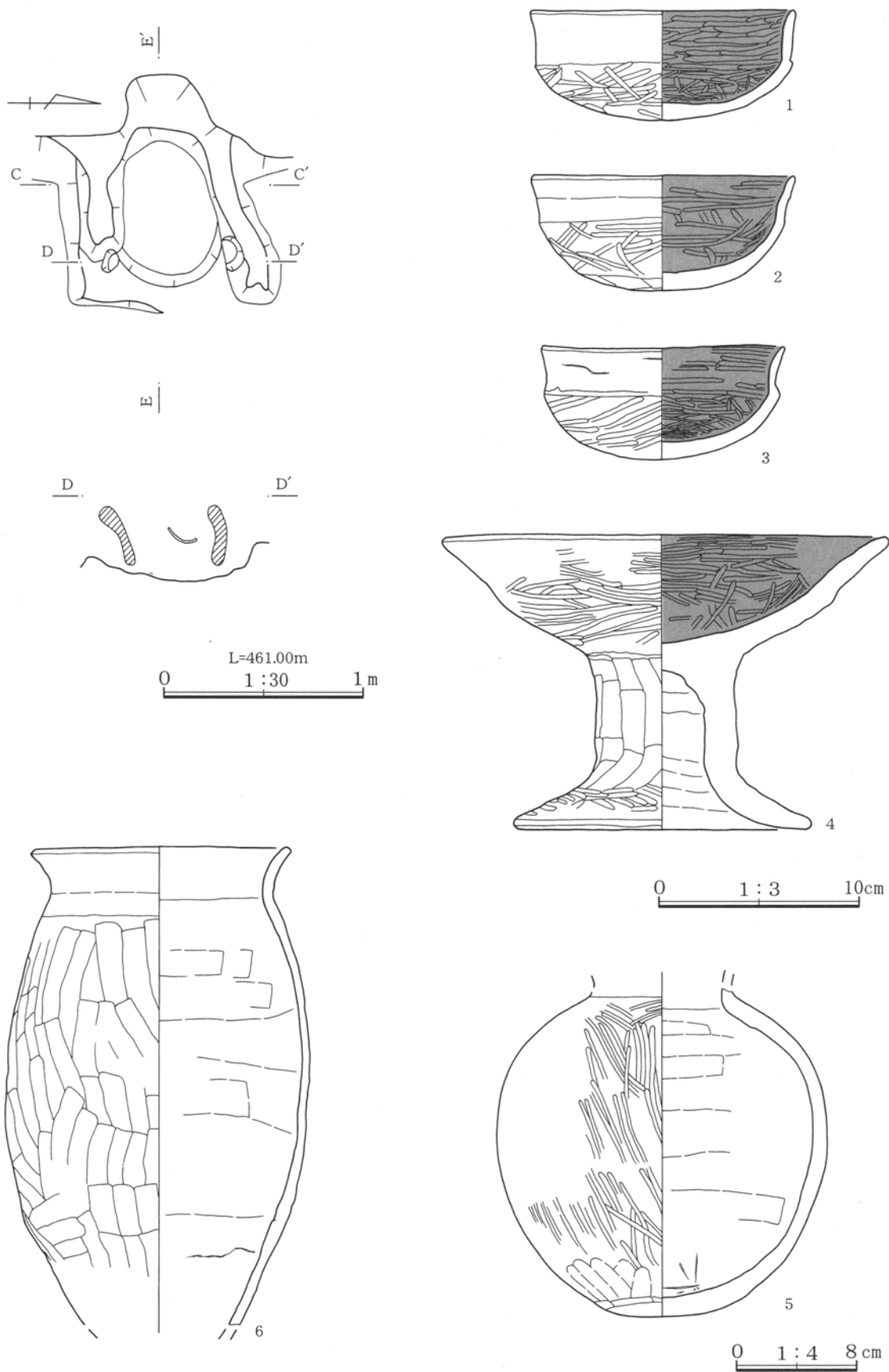
B区2号住居竈

- 1 黒褐色土層 ローム粒を微量含む。
- 2 黒褐色土層 ローム粒をやや多量含む。
- 3 黒褐色土層 ローム粒を少量含む。
- 4 黄褐色土層 粘質土を多量含む。
- 5 にぶい黄褐色土層 焼土粒を微量含む。
- 6 褐色土層 焼土粒を微量、粘質土をやや多量含む。
- 7 黒褐色土層 焼土粒を微量含む。
- 8 黒褐色土層 焼土粒を少量含む。
- 9 にぶい褐色土層 粘質土。
- 10 にぶい黄褐色土層 竈袖材。
- 11 赤褐色土層 焼土層。
- 12 黒褐色土層 焼土粒を微量含む。



第38図 B区2号住居(2)

3. 古墳～平安時代の遺構と遺物



第39図 B区2号住居出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

C区2号住居 (第40図 PL13・38)

位置 749-707 方位 N-90°-E

形状 ほとんどが調査区外のため未確認。

規模 4.1×2.4m以上 面積 5.0㎡以上

重複 なし。

埋土 FPをやや多量含む褐色土。

床面 確認面より85cm下で床面となる。貼床は施されておらず、ローム地山を平らに掘り込んで床面としている。

周溝 規模は幅8cm×深さ5cmで、南・西壁に確

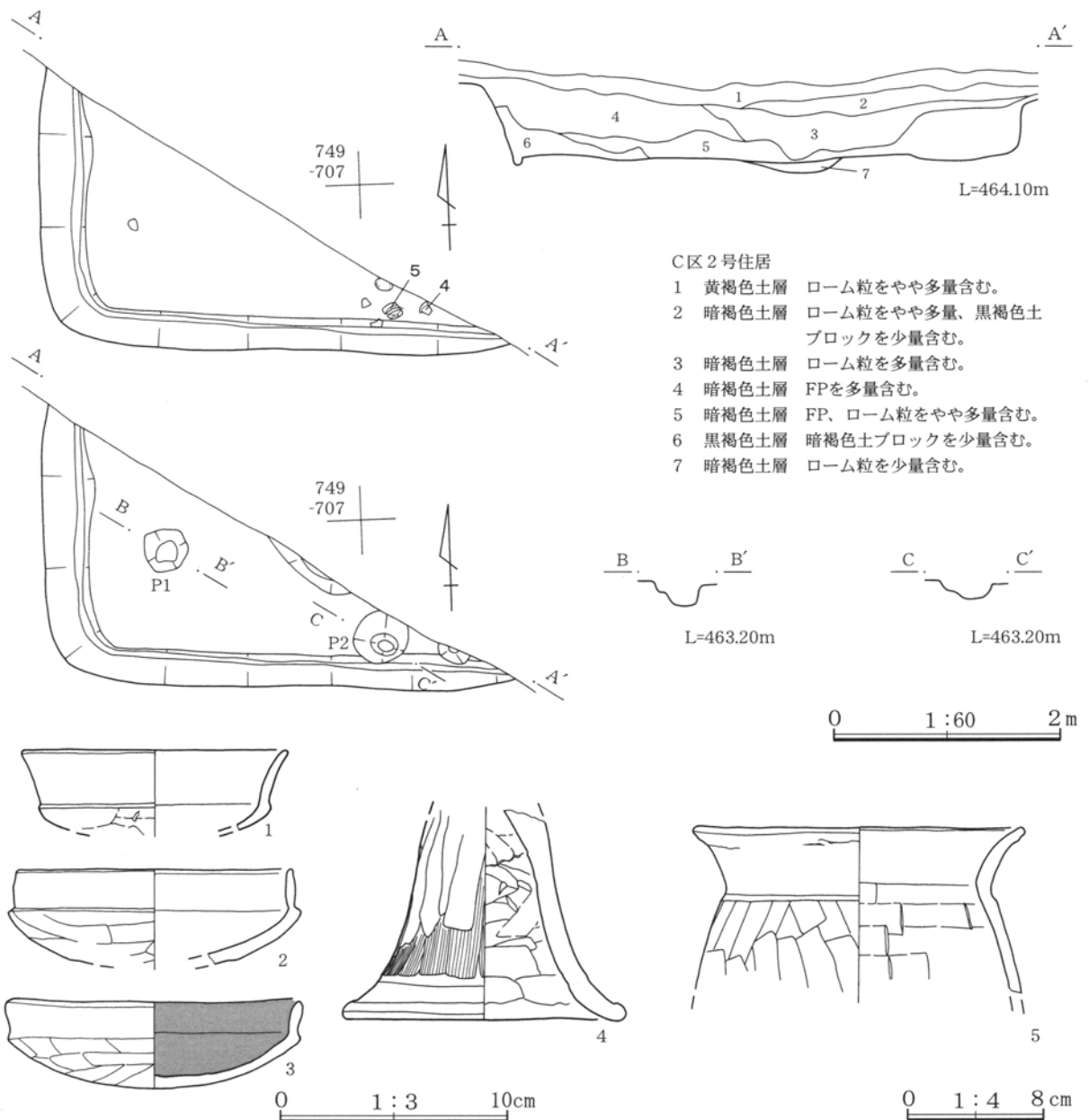
認した。

柱穴 2基確認した。P1は40×30×20cm、P2は45×45×15cmであるが、柱穴とは断定しがたい。

掘り方 床面より10cmほど落ち込む部分があるが、全体的に平坦である。

遺物 坏(1・2・3)は埋土中から出土した。高坏(4)・甕(5)が南壁寄りの床直上から出土した。(観P.136)

所見 埋土や出土遺物から7世紀前葉と考えられる。



第40図 C区2号住居と出土遺物

3. 古墳～平安時代の遺構と遺物

C区3号住居 (第41～46図 PL14・PL38～41)

位置 761-728 方位 N-14°-W

形状 隅丸方形。

規模 6.3×6.2m 面積 37.3㎡

重複 C区3号住居→C区1・4号掘立柱建物→C区1号畑・C区28号土坑。

埋土 FPの混入はない。ロームブロックを多く含む黒褐色土で埋没する。

床面 確認面より65cm下にロームブロックを多量に含む暗褐色土で厚さ約5cmの貼床を施す。住居の中央では地山のロームを床面とする。

周溝 規模は幅約20×深さ約20cmで、竈を除き全周する。

竈 東壁面のほぼ中央を掘り込んで造られている。ハードロームを竈の袖として掘り残し、板状の礫を用いて補強する。燃烧部には支脚と思われる石材・高坏の脚部が据えられていた。また、竈周辺には天井の補強に用いられたと思われる粗粒輝石安山岩が散乱していた。確認長は151cm、燃烧部幅は48cm。

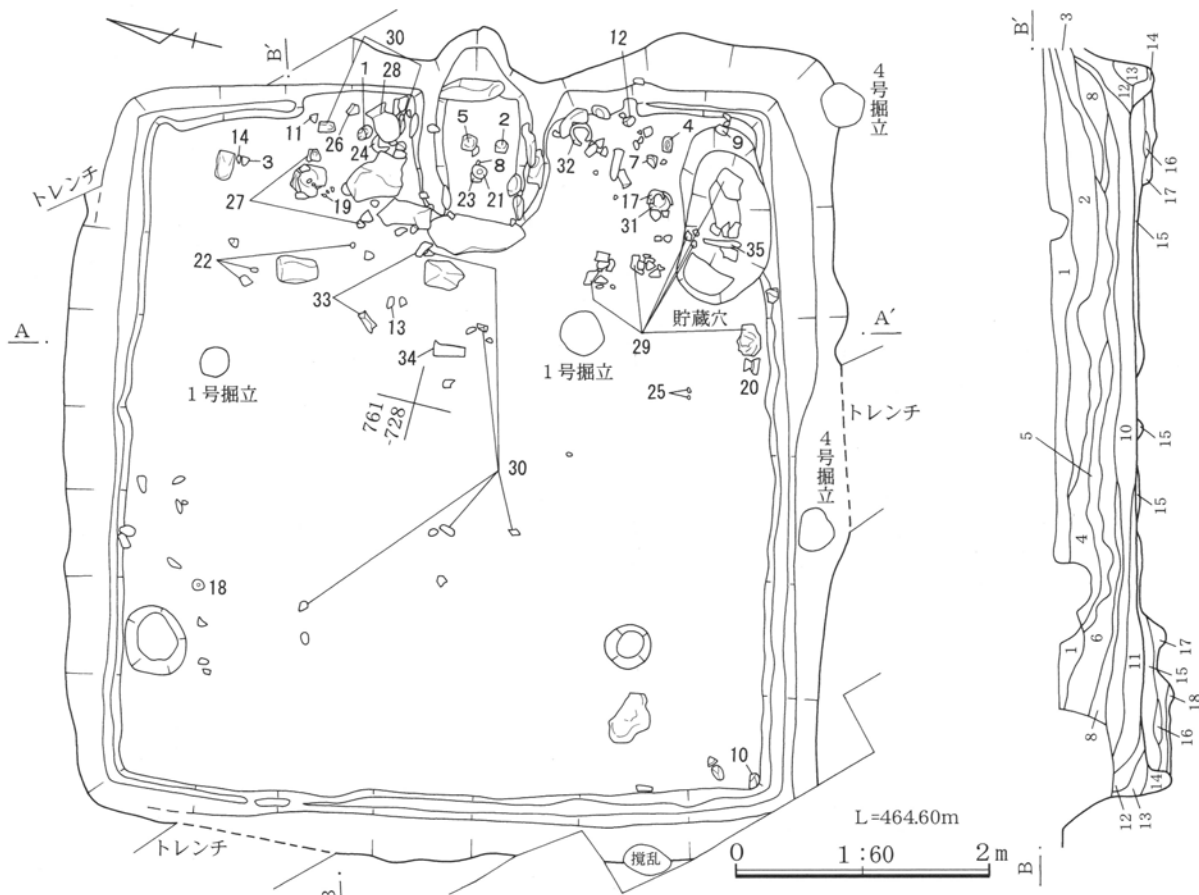
貯蔵穴 形状は隅丸方形。規模は120×68×75cmで南東隅に設ける。

柱穴 ピットを4基検出した。いずれのピットもW形の断面を呈し、埋土はほぼ同様であった。一方が主柱、もう一方が支柱であったと思われる。

掘り方 中央部分を4×4mの方形に残し、周りを幅127×深さ19cmで溝状に掘り囲む。P1とP3のほぼ中間では100×20cmの間仕切り溝を確認した。

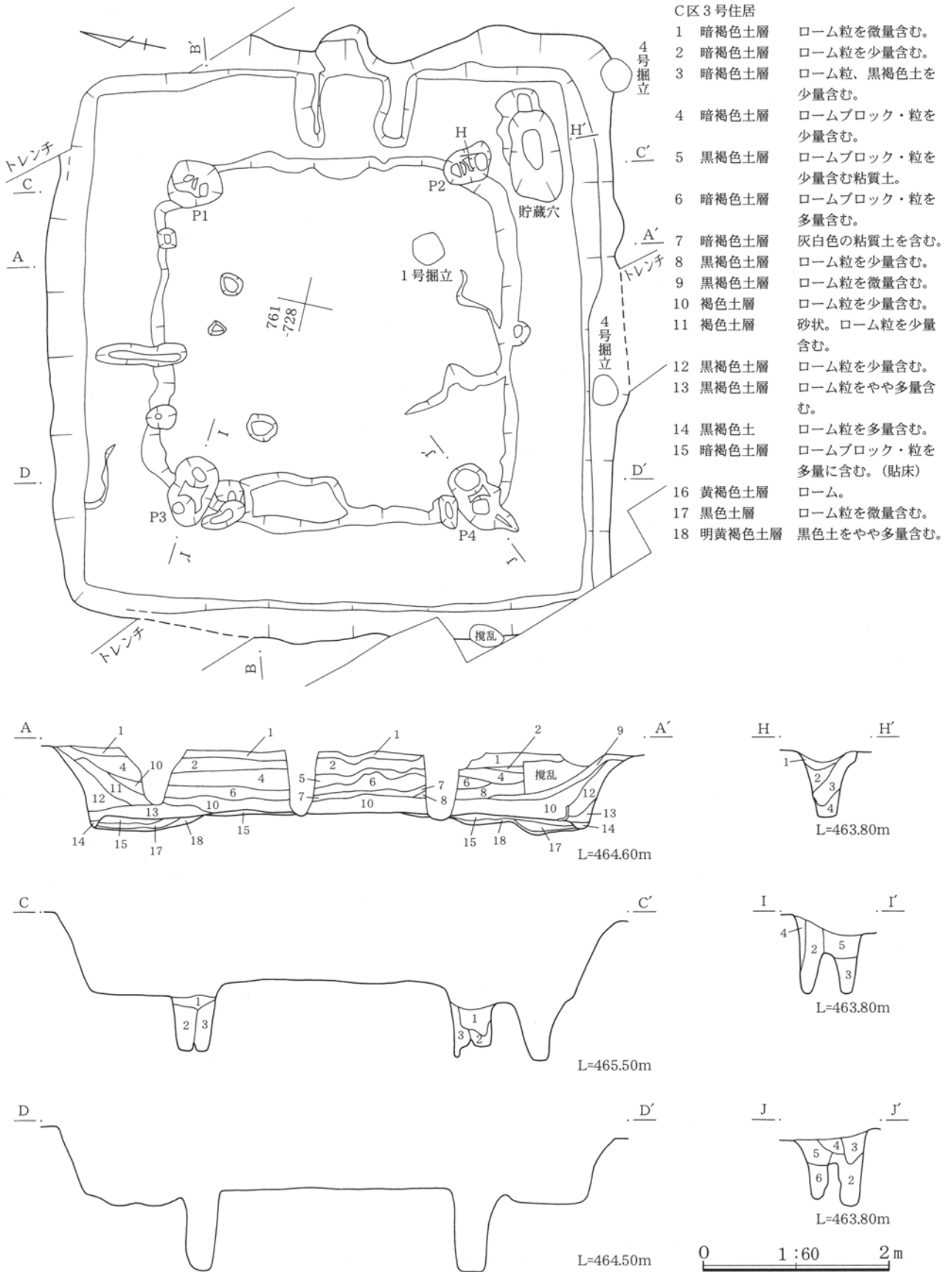
遺物 竈の燃烧部には高坏脚部(23)に高坏(21)の坏部がかぶせられた状態で出土した。竈からは坏(2・5・8)も出土している。甑(35)は貯蔵穴から出土した。須恵器蓋(18)は北壁西寄りの床直上より出土した。床直上からは坏(1・4・7・9・11・12・17)・高坏(19・20)・甕(24・26・29～32)など多数出土している。(観P.136～138)

所見 出土遺物から6世紀前葉と考えられる。

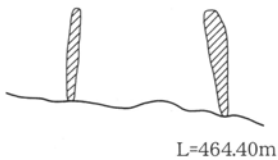
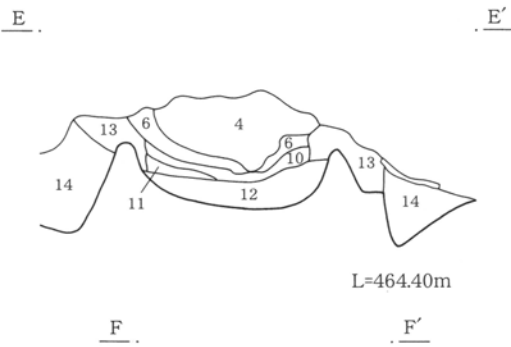
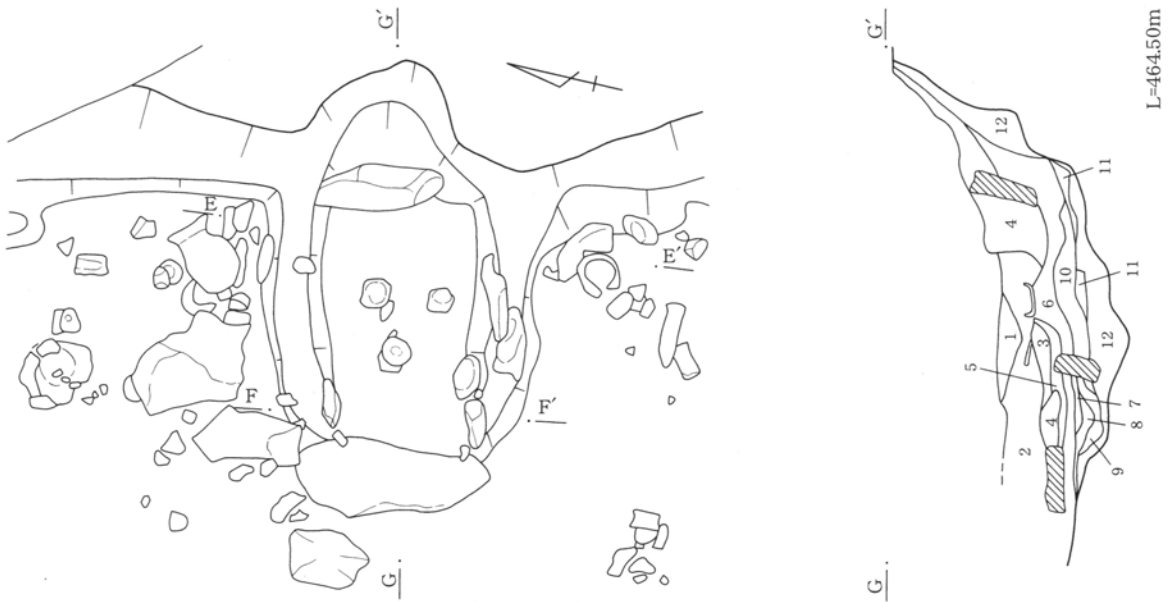


第41図 C区3号住居(1)

第3章 検出された遺構と遺物



3. 古墳～平安時代の遺構と遺物



C区3号住居竈

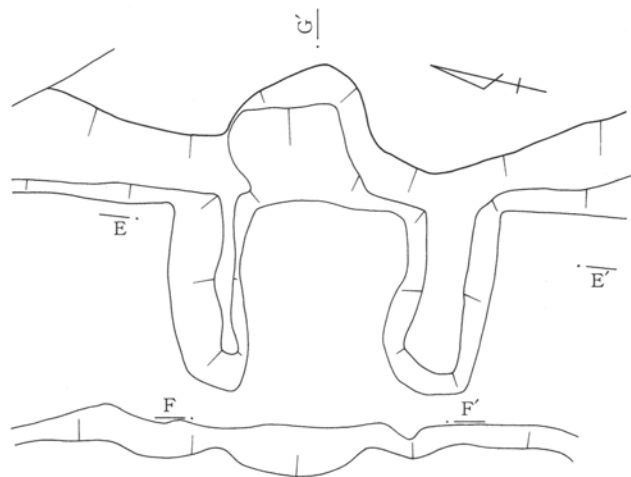
- | | | |
|----|----------|-----------------------|
| 1 | にぶい黄褐色土層 | ローム粒を少量含む。粘質土。 |
| 2 | 暗褐色土層 | ローム粒、炭化物、粘質土ブロックを含む。 |
| 3 | 暗褐色土層 | 2層土に黄褐色土ブロックが混じる。 |
| 4 | にぶい黄褐色土層 | ロームブロック、炭化物、焼土を含む粘質土。 |
| 5 | にぶい黄褐色土層 | 3層土に黒色土を含む。 |
| 6 | にぶい黄褐色土層 | 焼土ブロック、炭化物を含む粘質土。 |
| 7 | 赤褐色土層 | 白色粘質土を含む。 |
| 8 | 焼土層 | |
| 9 | 黒褐色土層 | 灰層 |
| 10 | にぶい黄褐色土層 | 炭化物、粘土粒を含む粘質土。 |
| 11 | 赤褐色土層 | 焼土、炭化物を含む。 |
| 12 | 黒褐色土層 | ロームを多量含む。 |
| 13 | にぶい黄褐色土層 | 粘質土。 |
| 14 | 黒褐色土層 | ローム粒・ブロックをやや多量含む。 |

C区3号住居貯蔵穴

- | | | |
|---|-------|---------------|
| 1 | 暗褐色土層 | ローム粒を少量含む粘質土。 |
| 2 | 暗褐色土層 | ローム粒を多量含む砂質土。 |
| 3 | 黒褐色土層 | ローム粒を多量含む。 |
| 4 | 黒褐色土層 | ローム粒をやや多量含む。 |

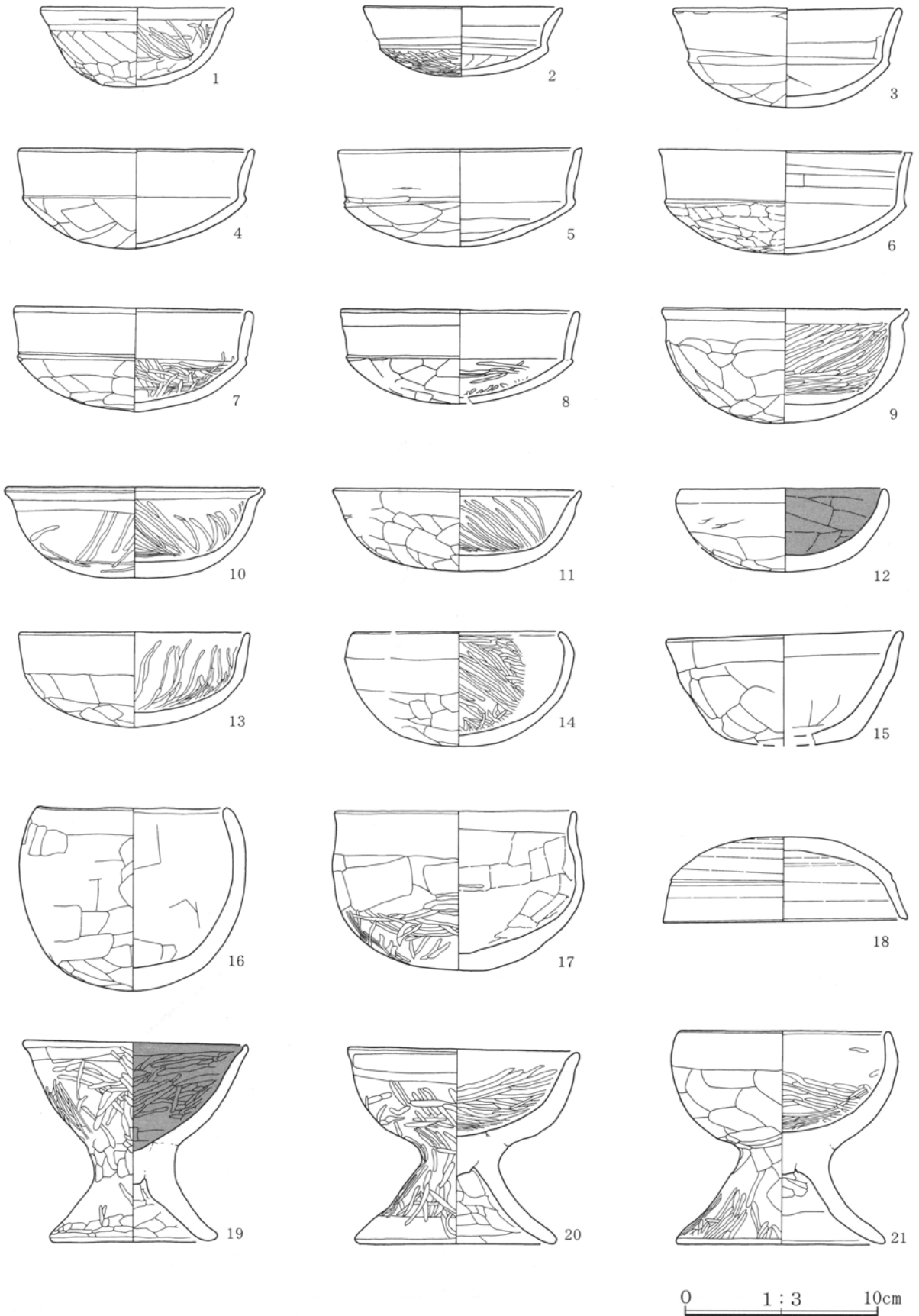
C区3号住居P 1～4

- | | | |
|---|-------|-------------------|
| 1 | 黒褐色土層 | ロームブロック・粒をやや多量含む。 |
| 2 | 暗褐色土層 | ロームブロック・粒を多量含む。 |
| 3 | 明褐色土層 | ローム主体土。 |
| 4 | 黄褐色土層 | ロームを含む粘質土。 |
| 5 | 黄褐色土層 | ロームブロックと黒褐色土の混土。 |
| 6 | 黒色土層 | ロームを少量含む。 |



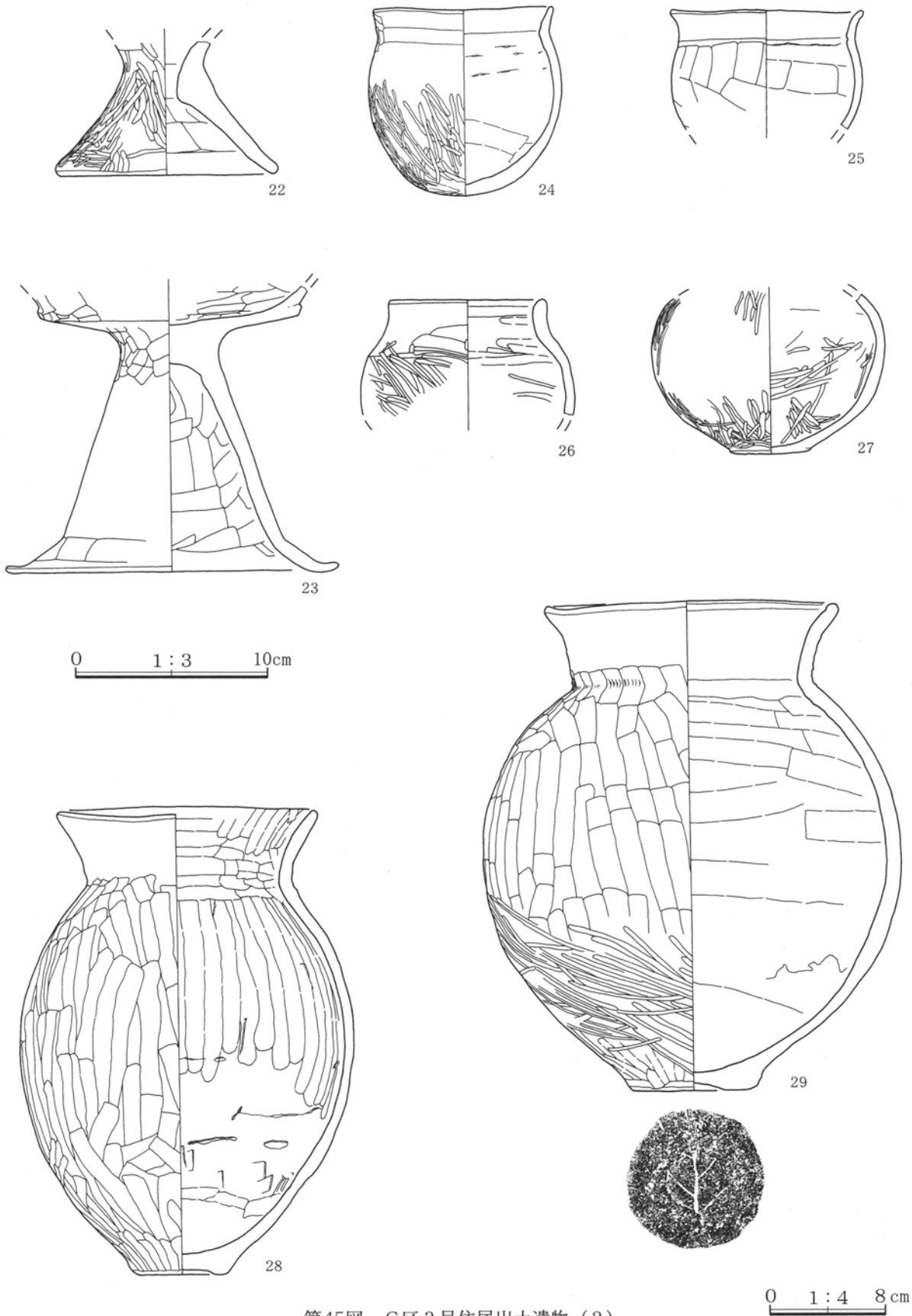
第43図 C区3号住居 (3)

第3章 検出された遺構と遺物

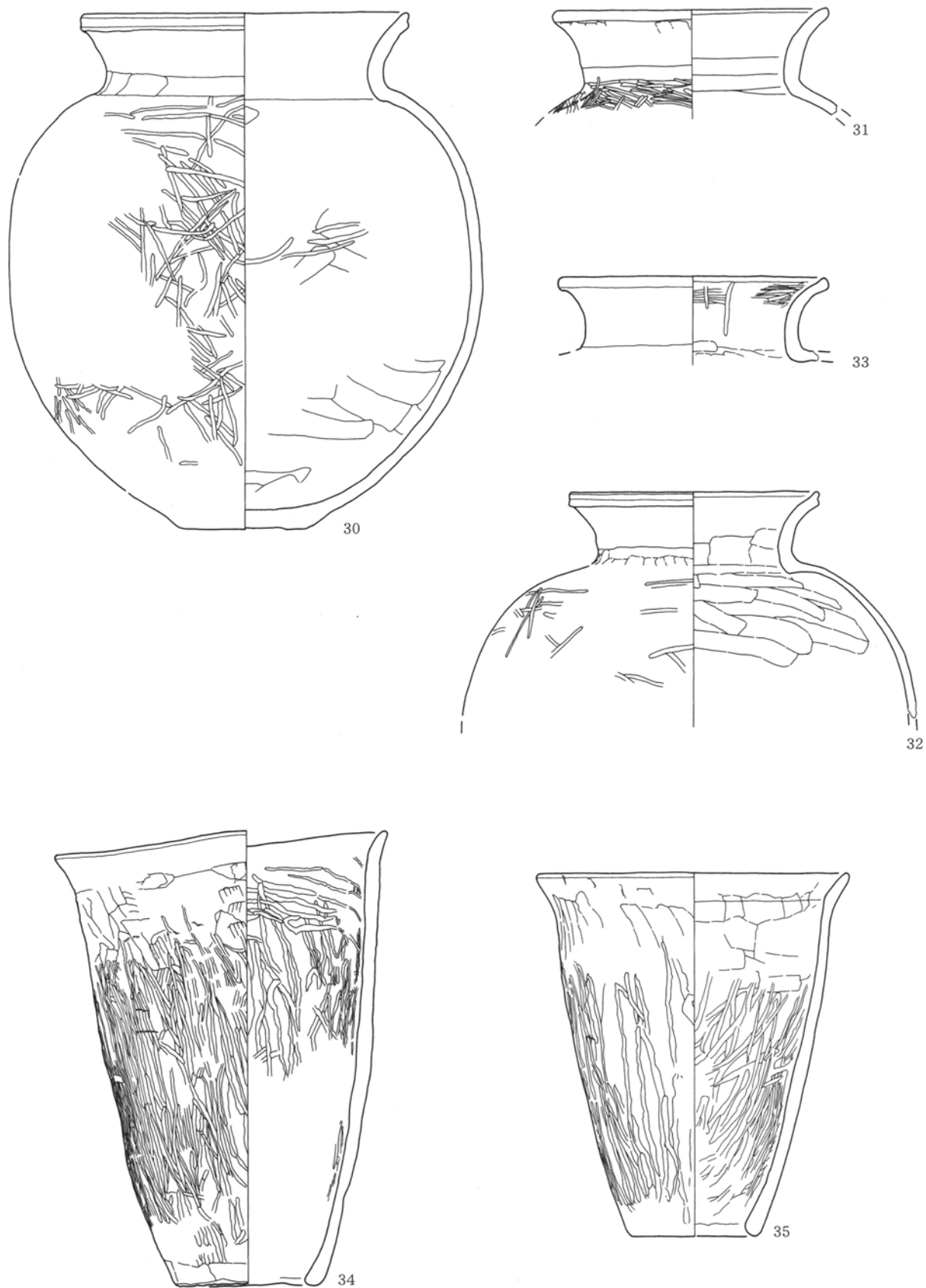


第44図 C区3号住居出土遺物(1)

3. 古墳～平安時代の遺構と遺物



第45図 C区3号住居出土遺物(2)



第46図 C区3号住居出土遺物(3)

0 1:4 8cm

3. 古墳～平安時代の遺構と遺物

C区4号住居 (第47～50図 PL15・41・42)

位置 770-725 方位 N-24°-E

形状 隅丸方形。

規模 4.5×4.0m 面積 17.3㎡

重複 C区4号住居→C区10号住居→C区8号住居。

埋土 FPは含まない。ロームを多量に含む褐色土で埋没する。

床面 確認面より60cm下にロームと黒色土を用いた約20cmの貼床を施す。住居の北西部分は10号住居との重複のため貼床は確認できなかった。

周溝 竈を除き全周すると思われるが北側は10号住居と重複するため未確認。規模は幅15cm×深さ7cmである。

竈 東壁面のやや北寄りを掘り込んで造られている。ハードロームを竈の袖として掘り残し、さらにデイサイト質凝灰岩や破損した甑を用いて補強している。

確認長は118cm、燃焼部幅は26cm。

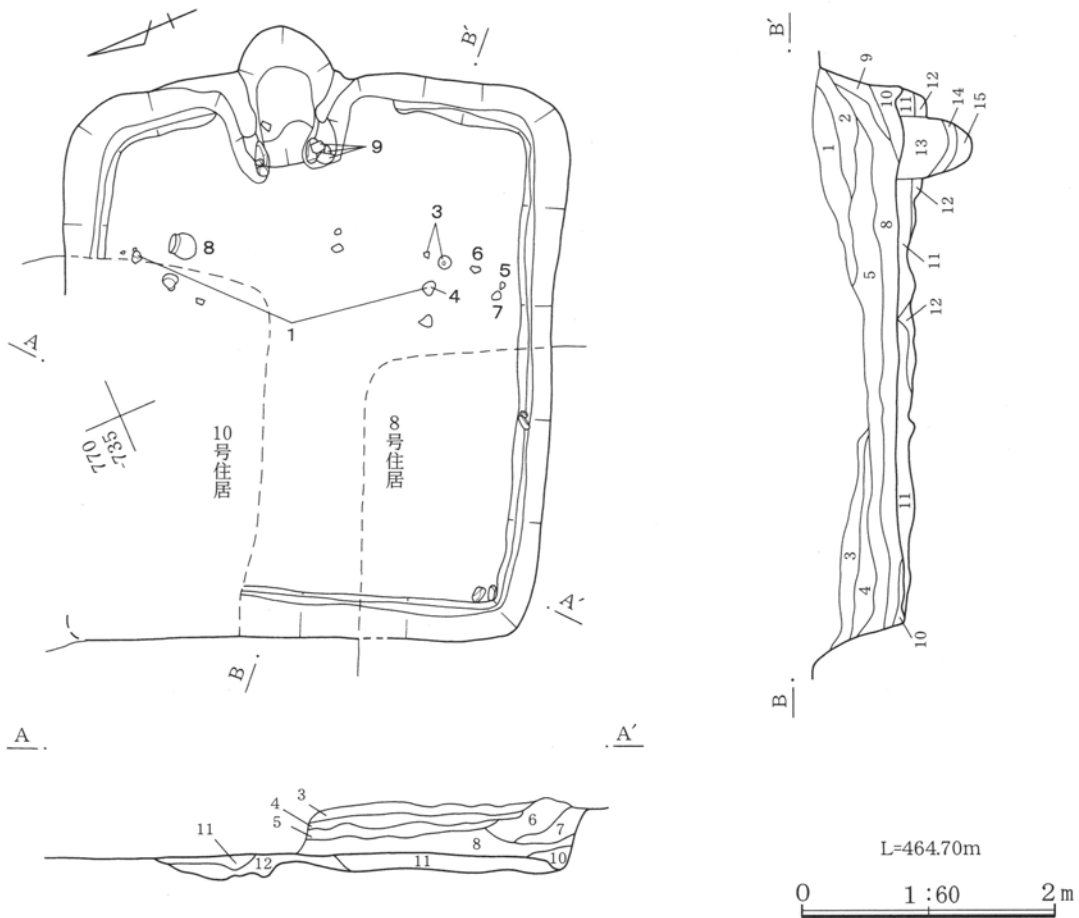
貯蔵穴 形状はほぼ円形。規模は50×50×35cmで南東隅に設ける。

柱穴 5基検出した。P1は40×35×60cm、P2は45×35×40cm、P3は40×35×45cm、P4は45×40×40cm、P5は45×45×80cmである。P1～4は住居の対角線上に並び、柱穴であると考えられる。

掘り方 床面より約17cmで掘り方面となる。住居のほぼ中央に110×100×90cmの床下土坑を設ける。床下土坑の周辺に住居を掘削したときの工具痕が認められた。

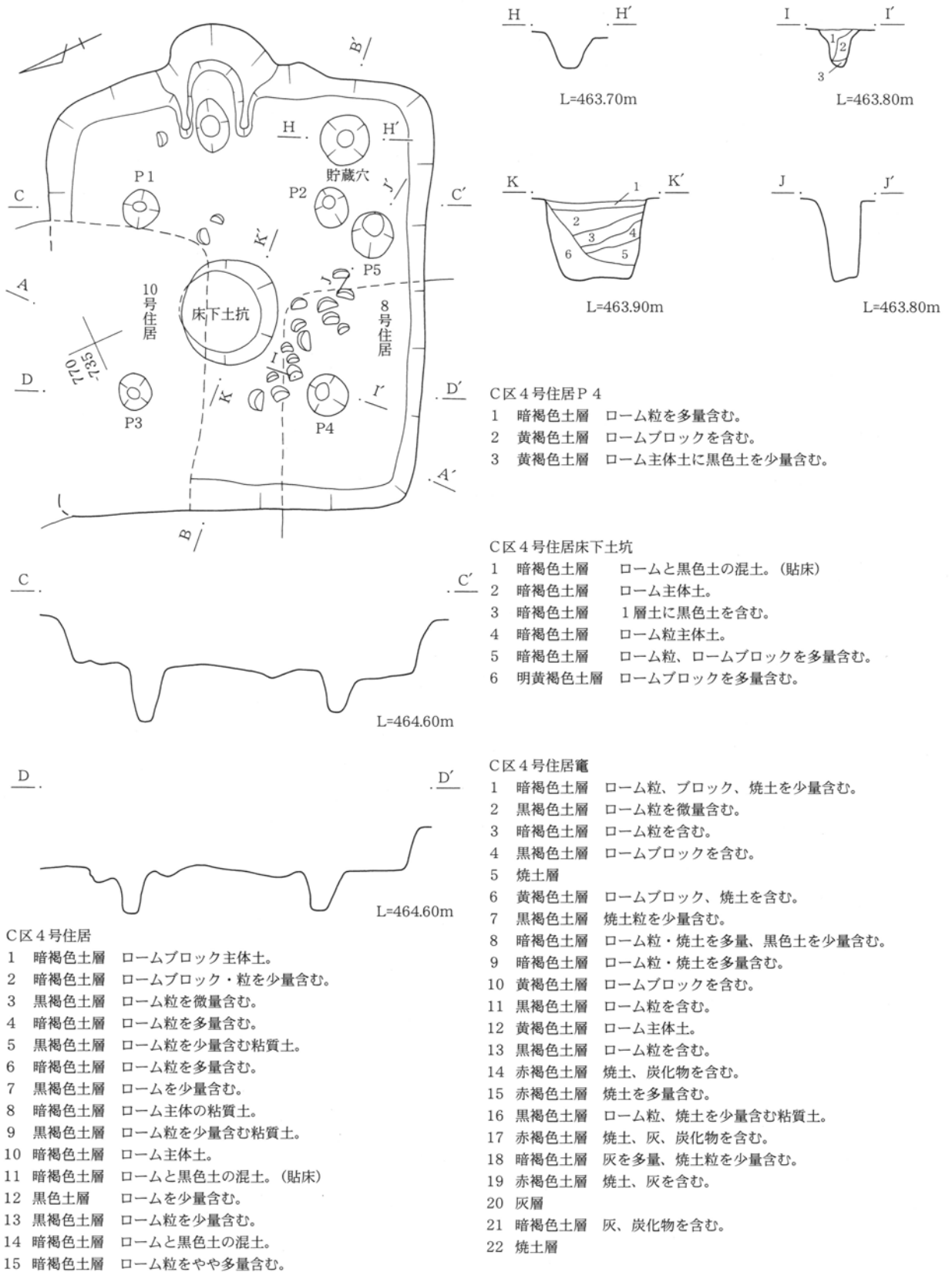
遺物 坏(4・5・6)・高坏(7)・甕(8)が床直上から、甑(9)が竈の袖部から出土している。(観P.138)

所見 出土遺物から6世紀前葉と考えられる。

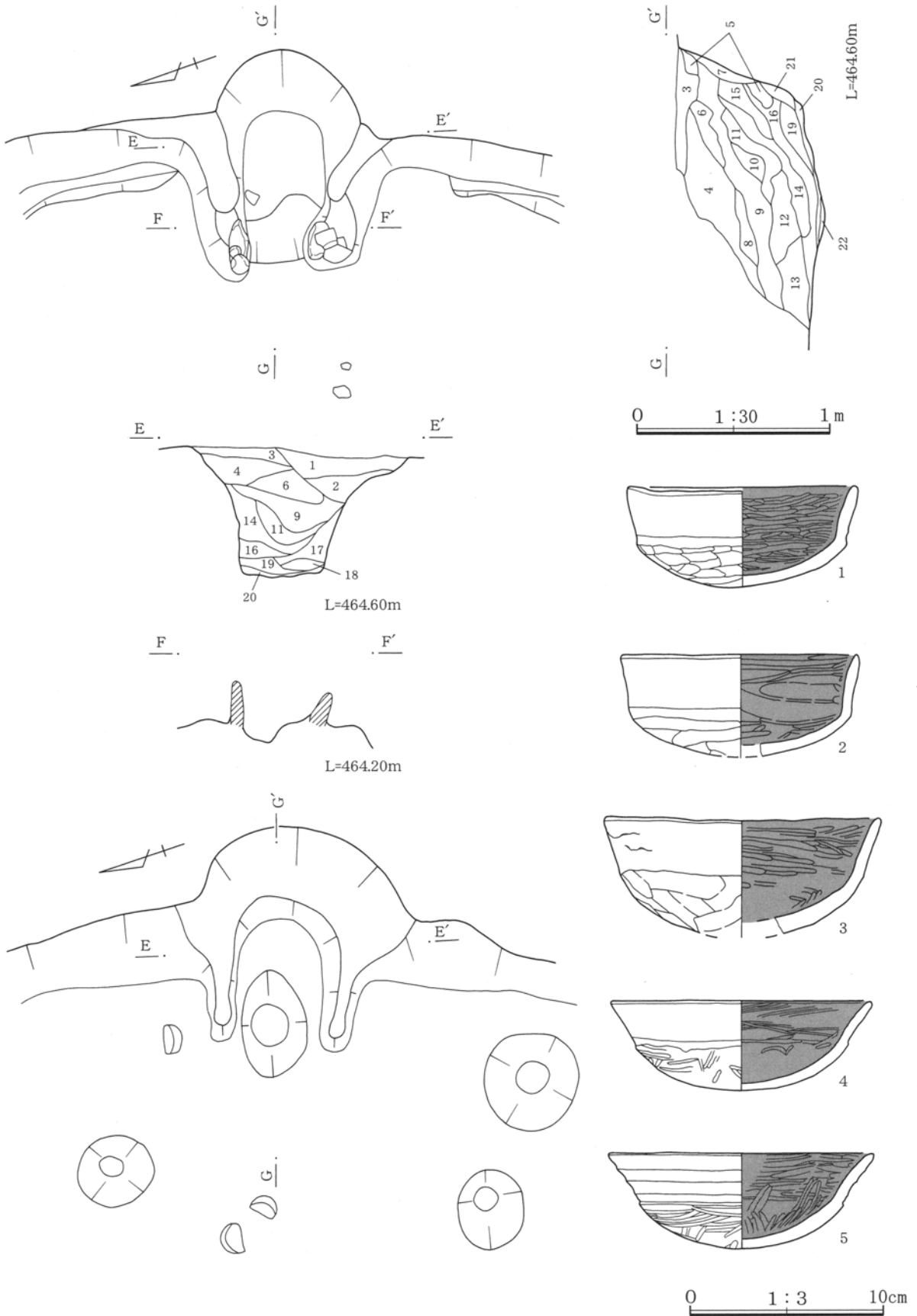


第47図 C区4号住居 (1)

第3章 検出された遺構と遺物

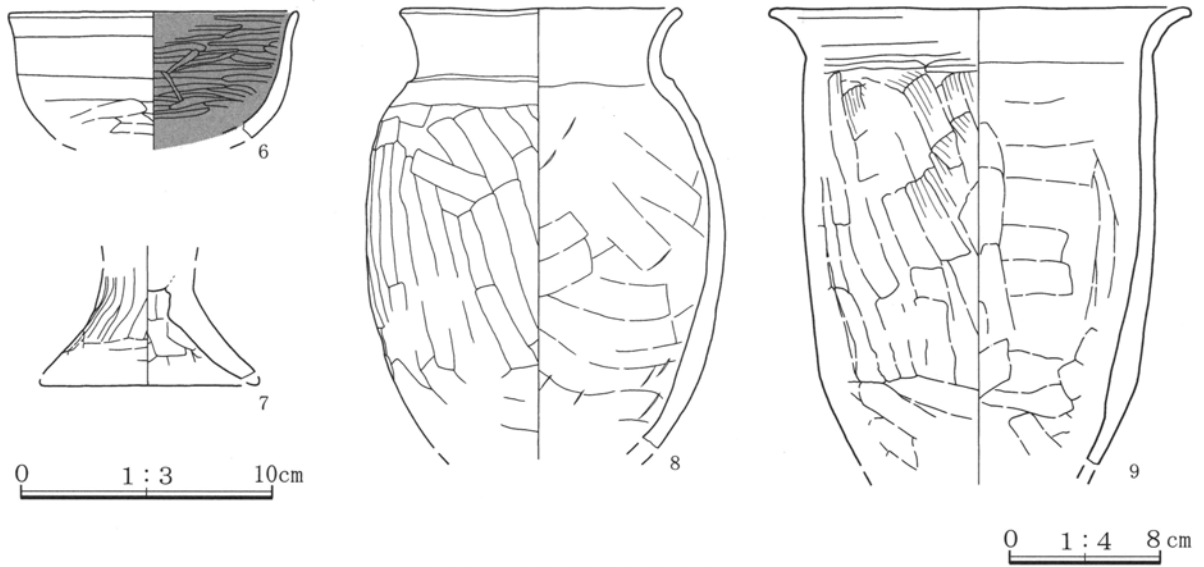


3. 古墳～平安時代の遺構と遺物



第49図 C区4号住居(3)と出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



第50図 C区4号住居出土遺物(2)

C区5号住居 (第51~54図 PL15・42~44)

位置 770-740 方位 N-21°-W

形状 未確認。

規模 5.0×2.0m以上 面積 7.4㎡以上

重複 C区5号住居→C区8号住居。

埋土 住居の埋土中にはFPを含まない。埋土は暗褐色土で、ロームブロックを多量に含んでいる。

床面 確認面から90cm下にロームと黒色土を用いて厚さ約8cmの平坦な貼床を施す。

周溝 北壁に幅15cm×深さ10cm、南壁に幅20×深さ5cmの規模で確認した。

竈 東壁面のほぼ中央を掘り込んで造られている。デイサイト質凝灰岩を左右袖に設置して芯材とする。竈の天井部にも同様の石材を配置していた。燃

焼部には支脚と思われる石材が据えられている。確認長は138cm、燃焼部幅は38cm。

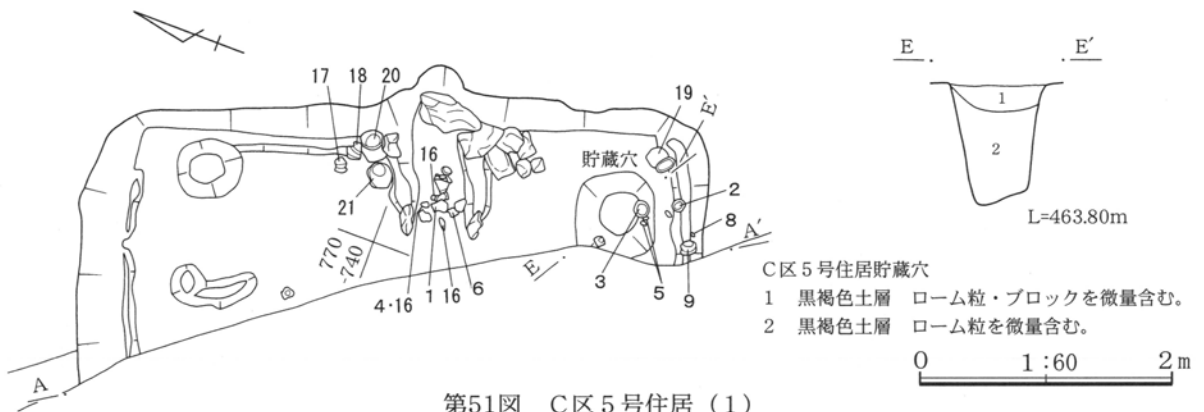
貯蔵穴 形状は隅丸方形。規模は65×62×95cmで南東隅に設ける。

柱穴 45×42×70cmのピットを1基確認した。

掘り方 床面から5~10cm下で掘り方面となる。P1から北壁に向かって幅30cm×深さ15cmの溝状の落ち込みを検出した。

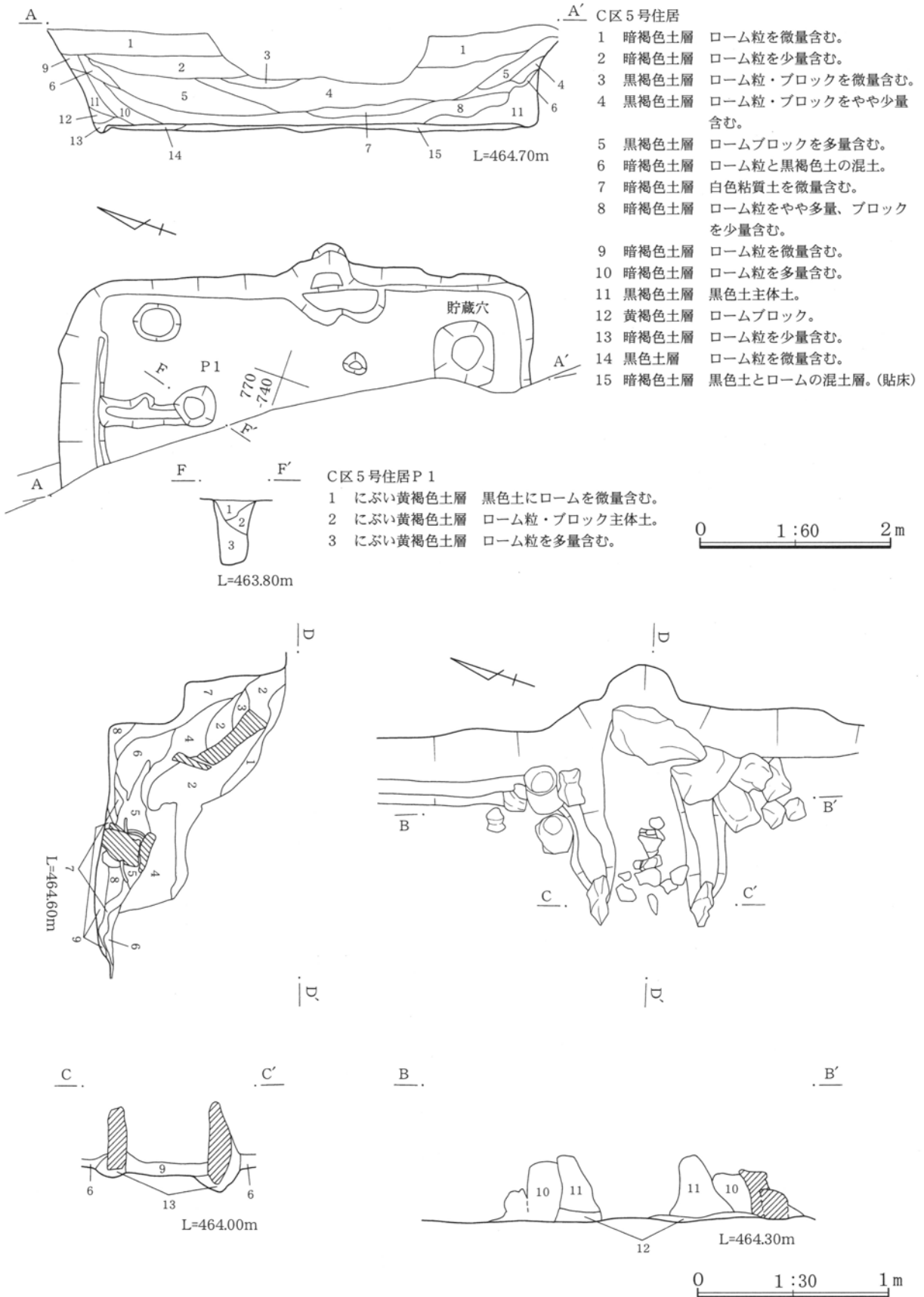
遺物 竈付近に遺物が集中する。床直上から坏(2)・小型甕(17~19)が、竈の北側に並んだ状態で甕(20・21)が、竈からは坏(1・4・6・7・10)・高坏(16)が出土した。炭化材も微量出土している。(観P.139・140)

所見 出土遺物から5世紀後葉と考えられる。



第51図 C区5号住居(1)

3. 古墳～平安時代の遺構と遺物

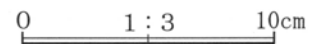
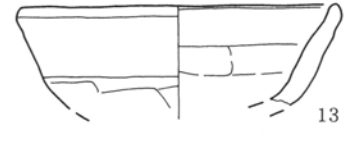
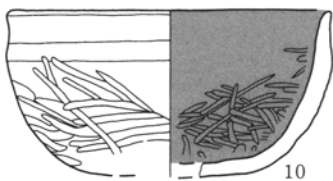
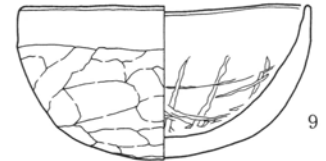
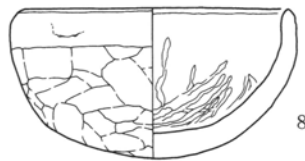
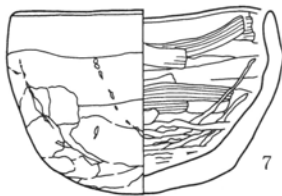
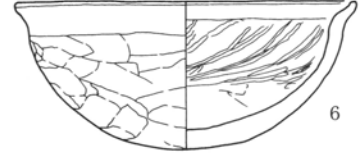
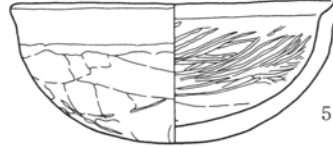
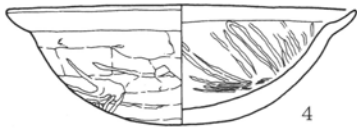
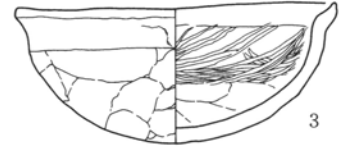
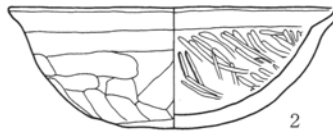
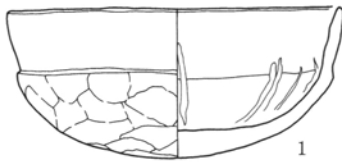
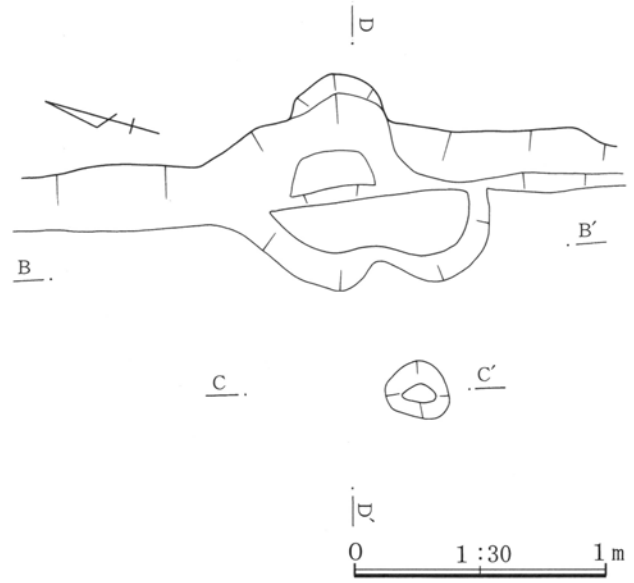


第52図 C区5号住居(2)

第3章 検出された遺構と遺物

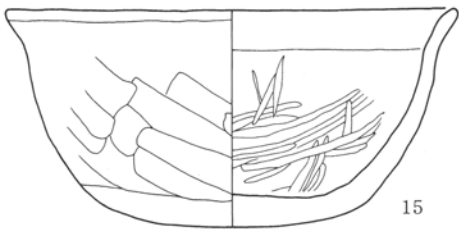
C区5号住居竈

- 1 黒褐色土層 粘土ブロック、ローム粒を含む。
- 2 にぶい黄褐色土層 ローム粒、黒色土を微量含む粘質土。
- 3 にぶい黄褐色土層 粘質土。
- 4 暗褐色土層 ローム粒、炭化物を含む。
- 5 にぶい黄褐色土層 ローム粒を微量含む粘質土。
- 6 黒褐色土層 ローム粒、粘質土、焼土を多量含む。
- 7 焼土層
- 8 灰層
- 9 焼土層 かたくしまる。
- 10 暗褐色土層 ローム粒を少量含む粘質土。
- 11 にぶい黄褐色土層 ローム粒を微量含む粘質土。
- 12 黒色土層 粘質土。
- 13 にぶい黄褐色土層 粘質土。

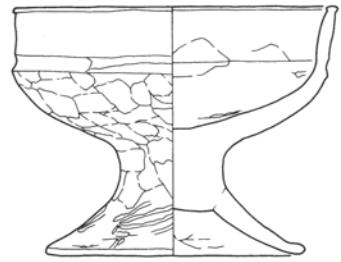


第53図 C区5号住居と出土遺物(1)

3. 古墳～平安時代の遺構と遺物

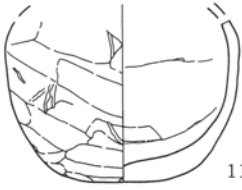


15

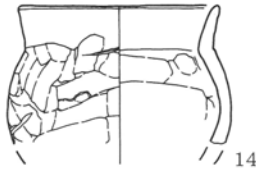


16

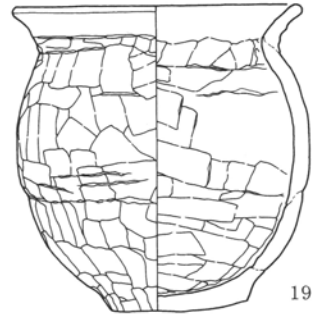
0 1:3 10cm



11



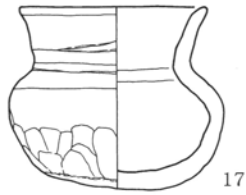
14



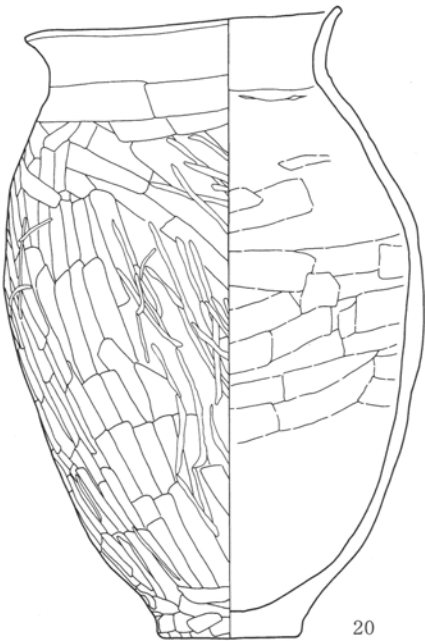
19



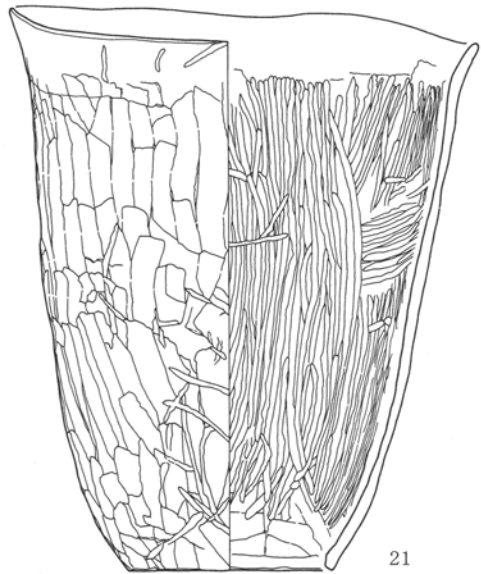
18



17



20



21

0 1:4 8cm

第54図 C区5号住居出土遺物(2)

第3章 検出された遺構と遺物

C区6号住居 (第55~57図 PL16・44・45)

位置 782-740 方位 N-4°-E

形状 隅丸方形と思われる。

規模 3.8×3.6m 面積 11.0㎡以上

重複 C区50号土坑→C区6号住居。

埋土 埋土中にはFPを含まない。ロームを多量含む暗褐色土により人為的に埋没する。

床面 確認面から60cm下にロームと黒色土を用いた約17cmの平坦な貼床を施す。

周溝 北壁に幅10×深さ5cmの規模で確認した。

竈 東壁面やや南寄りを掘り込んで造られている。

粗粒輝石安山岩を左右袖に設置している。竈の西には天井部に使用されたと考えられる石材が散乱して

いた。確認長は135cm、燃焼部幅は31cm。

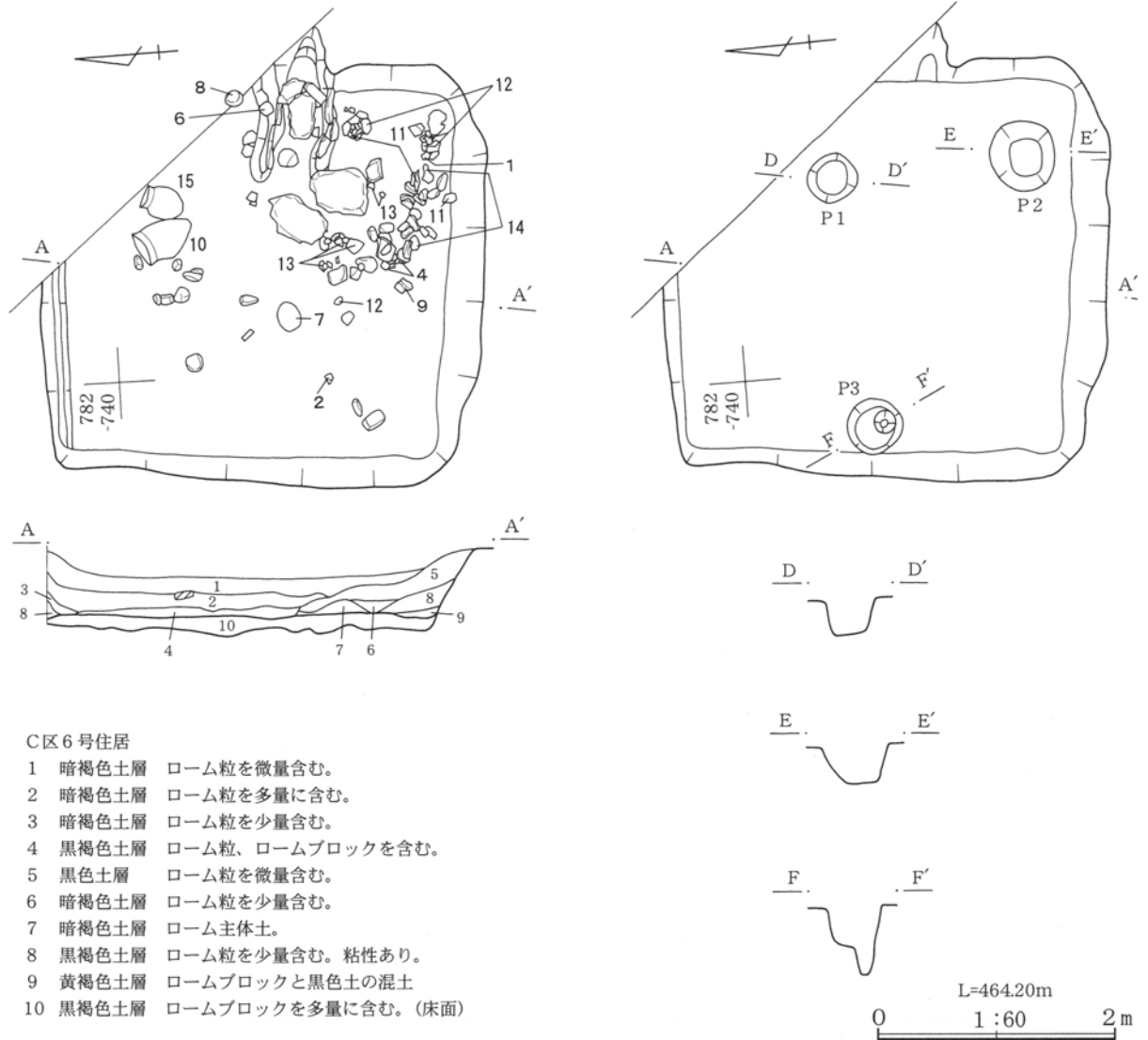
貯蔵穴 P2は貯蔵穴の可能性あり。

柱穴 ピットを3基検出した。P1は42×40×32cm、P2は59×55×32cm、P3は49×45×60cmであるが、いずれも柱穴とは断定しがたい。

掘り方 床面から10~17cm下で掘り方面となる。

遺物 住居の東半分に遺物が集中する。坏(1)・高坏(4)が床直上から出土した。鉢(7)には底部をふさぐ土器片が付随する。甕(10・15)は横倒しで押しつぶされた状態で出土した。炭化材も微量出土している (観P.140)

所見 出土遺物から5世紀中葉と考えられる。

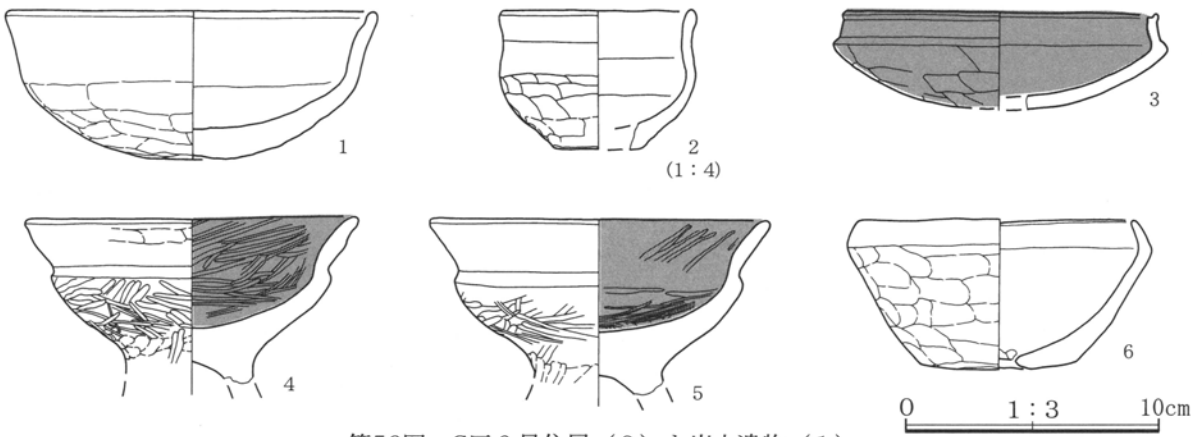
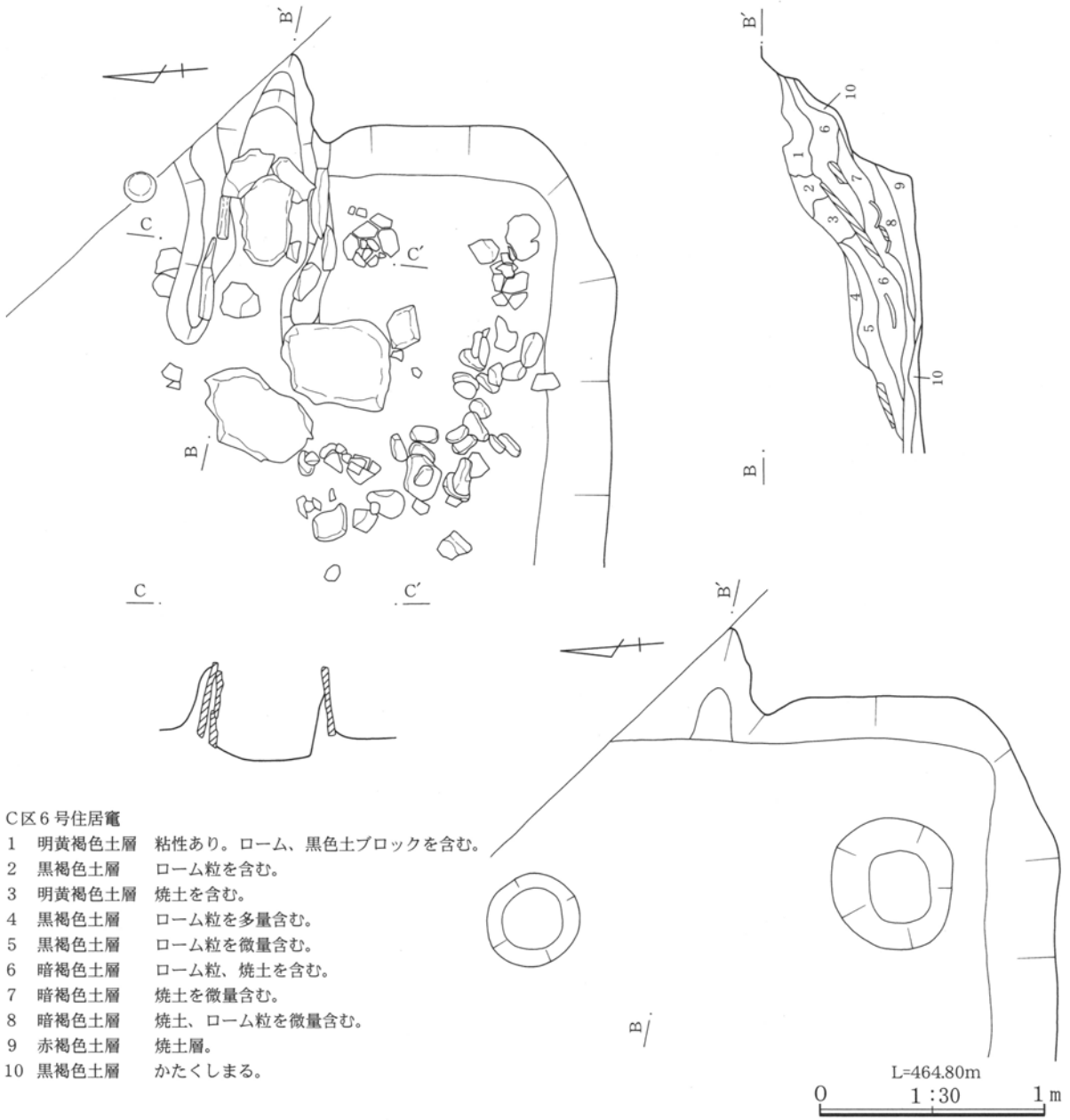


C区6号住居

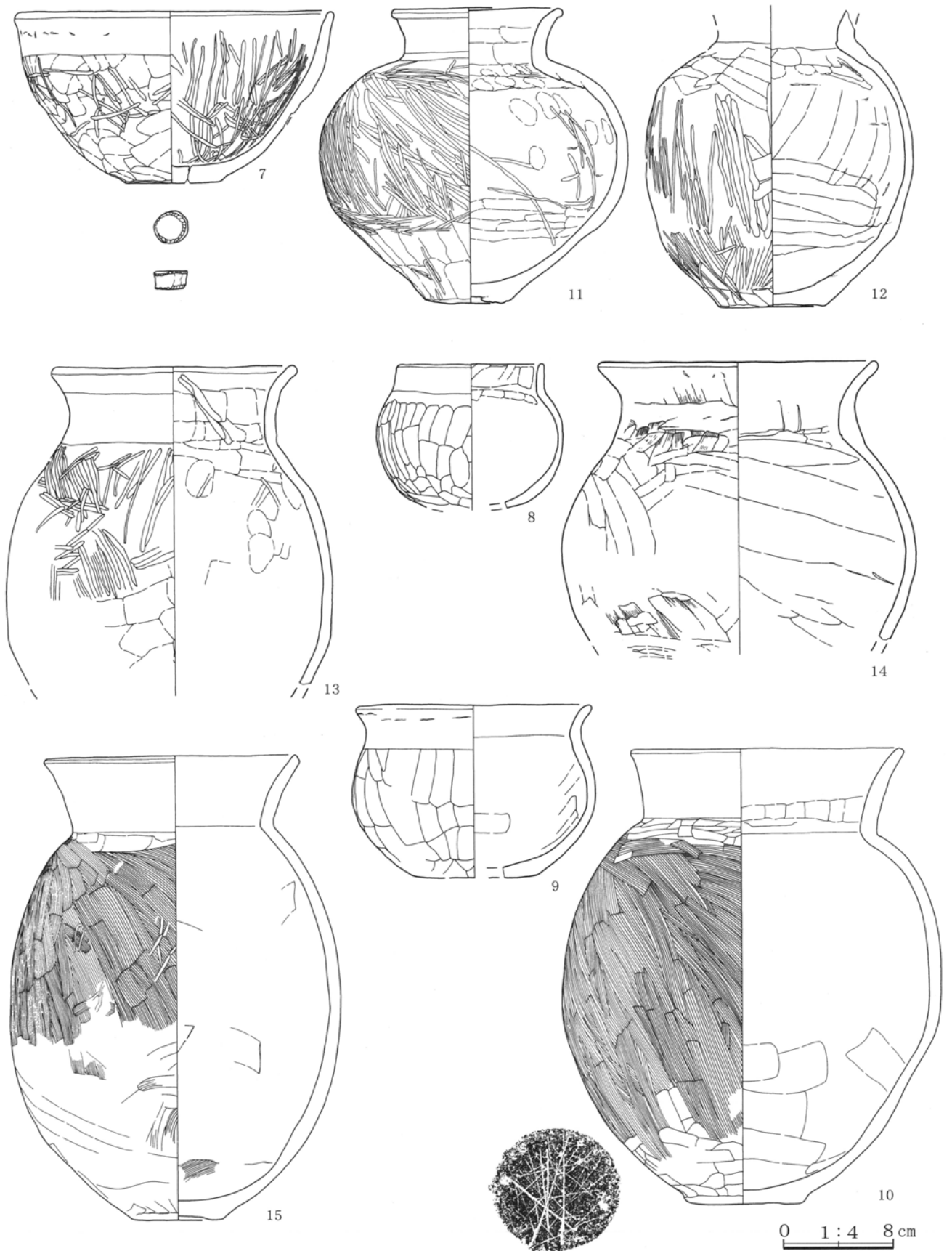
- 1 暗褐色土層 ローム粒を微量含む。
- 2 暗褐色土層 ローム粒を多量に含む。
- 3 暗褐色土層 ローム粒を少量含む。
- 4 黒褐色土層 ローム粒、ロームブロックを含む。
- 5 黒色土層 ローム粒を微量含む。
- 6 暗褐色土層 ローム粒を少量含む。
- 7 暗褐色土層 ローム主体土。
- 8 黒褐色土層 ローム粒を少量含む。粘性あり。
- 9 黄褐色土層 ロームブロックと黒色土の混土
- 10 黒褐色土層 ロームブロックを多量に含む。(床面)

第55図 C区6号住居 (1)

3. 古墳～平安時代の遺構と遺物



第56図 C区6号住居 (2) と出土遺物 (1)



第57図 C区6号住居出土遺物(2)

3. 古墳～平安時代の遺構と遺物

C区7号住居 (第58～60図 PL17・45～47)

位置 773-733 方位 N-20°-W

形状 隅丸方形と思われる。

規模 4.5×3.2m以上 面積 11.0㎡以上

重複 C区7号住居→C区10号住居。

埋土 1層はFPの一次堆積層である。2層以下にFPの混入は見られず、ロームを多量に含む褐色土が主体である。

床面 確認面から100cm下にロームと黒色土を用いて厚さ約10cmの貼床を施す。東側ではローム地山を床面とする。

周溝 南壁から南西隅にかけて幅10cm×深さ5

cmの周溝を確認した。

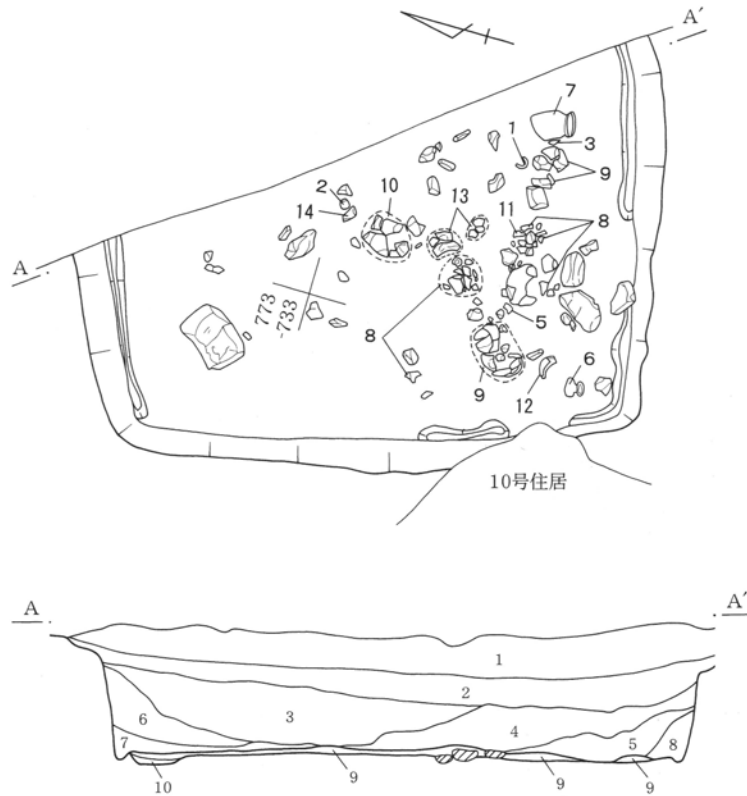
貯蔵穴 部分調査のため未確認である。

柱穴 ピットを2基検出した。P1は35×31×60cm、P2は41×41×50cmである。

掘り方 床面から5cm～10cm下で掘り方面となる。南北壁それぞれから幅12cm×深さ8cmの溝状の落ち込みを有する。

遺物 住居の南半分に遺物が集中する。床直上からは土師器坏(1～3・5)・高坏(6)・壺(13)・甑(14)・甕(7～12)が出土した。(観P.140・141)

所見 出土遺物から5世紀中葉と考えられる。



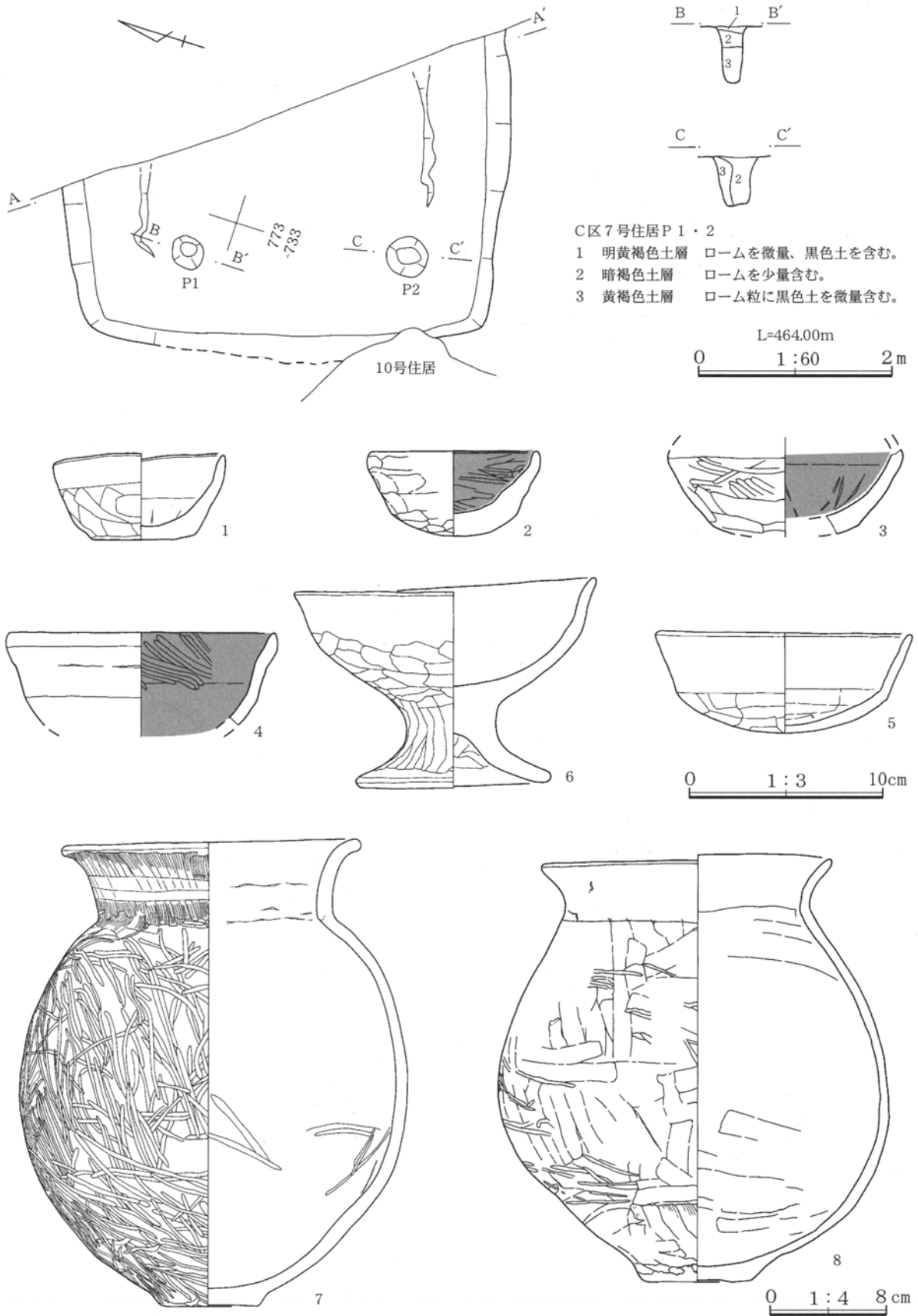
C区7号住居

- | | | |
|---------|---------|-----------------------|
| 1 FP層 | 6 暗褐色土層 | ローム粒を微量含む。 |
| 2 暗褐色土層 | 7 暗褐色土層 | ローム粒を少量含む。 |
| 3 暗褐色土層 | 8 黒褐色土層 | ローム粒を微量含む。 |
| 4 黒褐色土層 | 9 暗褐色土層 | ローム粒、ロームブロックを少量含む粘質土。 |
| 5 黒褐色土層 | 10 黒色土層 | ローム粒を微量含む粘質土。 |

L=465.00m
0 1:60 2m

第58図 C区7号住居(1)

第3章 検出された遺構と遺物

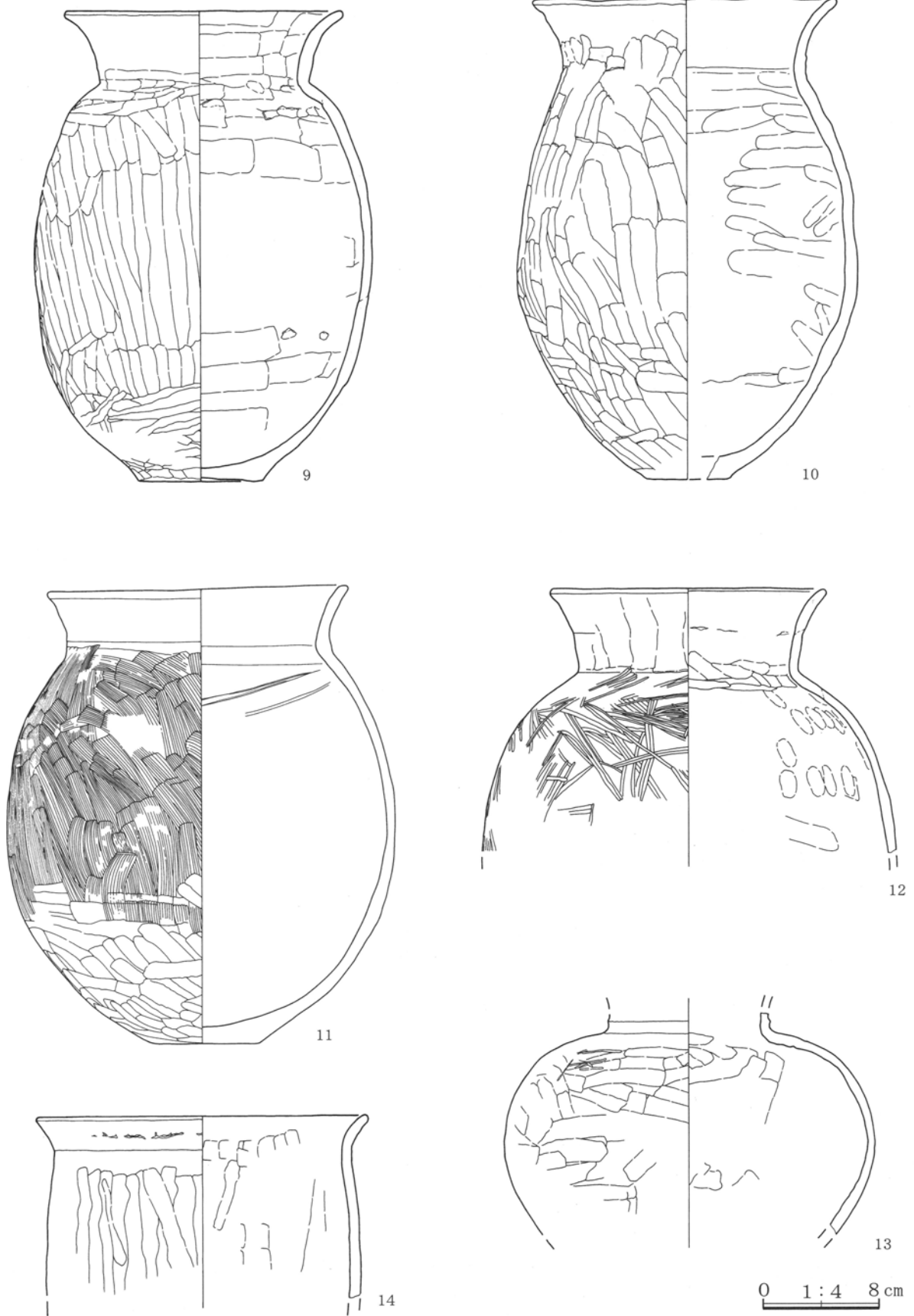


C区7号住居P1・2

- 1 明黄褐色土層 ロームを微量、黒色土を含む。
- 2 暗褐色土層 ロームを少量含む。
- 3 黄褐色土層 ローム粒に黒色土を微量含む。

第59図 C区7号住居(2)と出土遺物(1)

3. 古墳～平安時代の遺構と遺物



第60図 C区7号住居出土遺物(2)

第3章 検出された遺構と遺物

C区9号住居 (第61図 PL17・47)

位置 744-713 方位 N-35°-W

形状 部分調査のため未確認。

規模 1.2m以上×1.1m以上 面積 1.1㎡以上

重複 なし。

埋土 FPを含まない。ロームを多量含む暗褐色土で埋没する。

床面 確認面より110cm下にロームと暗褐色土を用いて貼床を施す。

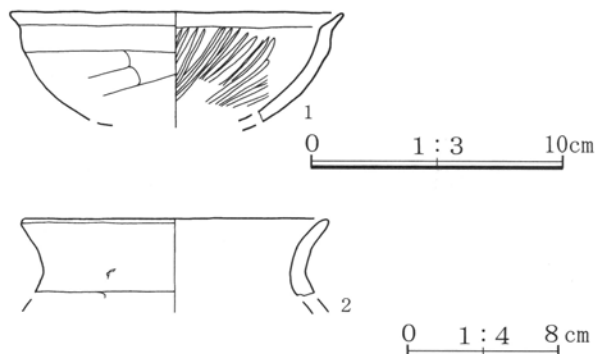
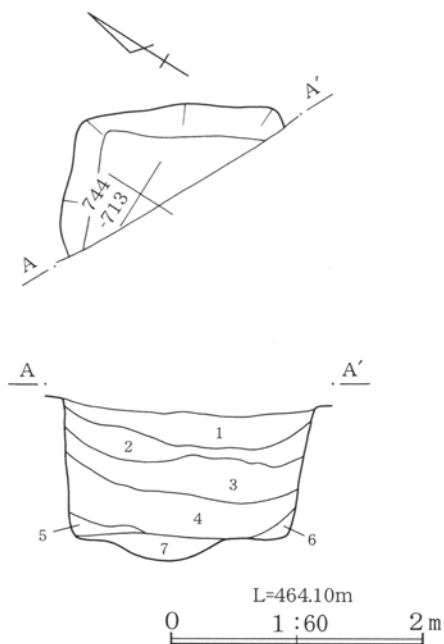
周溝 なし。

柱穴 確認できなかった。

掘り方 床面より20cmほど落ち込む。

遺物 床直上からの遺物はない。埋土中より土師器坏(1)・甕(2)が出土している。(観P.141)

所見 出土遺物から5世紀後葉と考えられる。



C区9号住居

- | | |
|------------|-----------------------|
| 1 暗褐色土層 | ローム粒を微量含む。 |
| 2 暗褐色土層 | ローム粒を少量、ロームブロックを含む。 |
| 3 黒褐色土層 | ローム粒を少量、ロームブロックを微量含む。 |
| 4 にぶい黄褐色土層 | ロームブロックを多量に含む。 |
| 5 黒褐色土層 | ローム粒を微量含む。 |
| 6 にぶい黄褐色土層 | ロームブロックを少量含む。 |
| 7 黄褐色土層 | ロームブロックと暗褐色土の混土。 |

第61図 C区9号住居と出土遺物

C区10号住居 (第62・63図 PL17・47)

位置 770-735 方位 N-61°-W

形状 隅丸方形と思われる。

規模 3.2×3.1m 面積9.6㎡

重複 C区4・7号住居→C区10号住居

埋土 FPを多量含む暗褐色土。

床面 確認面より80cm下で、ハードロームの地山を直接床面としている。

竈 北東隅を掘り込んで竈を設ける。石材は使用せず、ロームを用いて構築されていた。確認長は86cm、

燃烧部幅は23cm。

貯蔵穴 形状は楕円形。規模は49×40×45cmで、竈の南に設ける

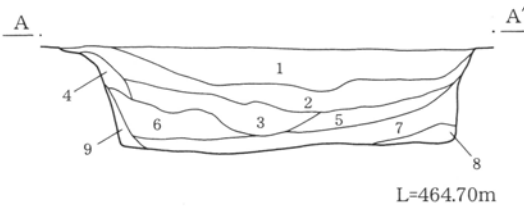
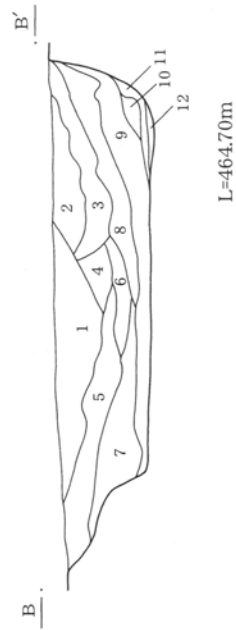
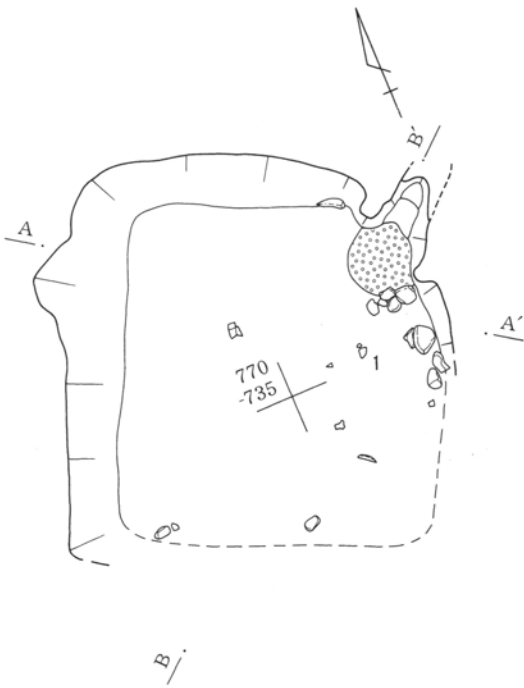
柱穴 なし。

掘り方 床下土坑などの施設は存在しなかった。4号住居の掘り方面より8~10cm深い。

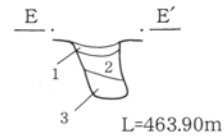
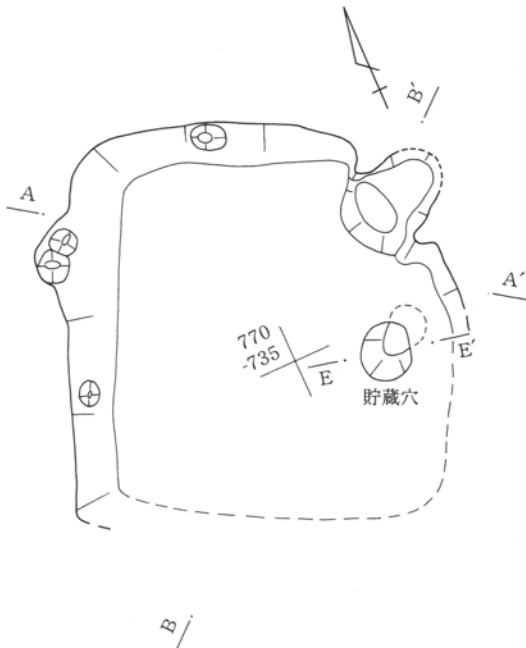
遺物 床面からの遺物は小型甕(1)のみで貯蔵穴の北から出土した。埋土中からは甗(2)・甕(3)が出土している。(観P.141)

所見 埋土や出土遺物から6世紀後葉と考えられる。

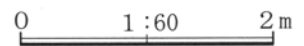
3. 古墳～平安時代の遺構と遺物



- C区10号住居
- 1 暗褐色土層 FPをやや多量含む。
 - 2 暗褐色土層 FPを多量含む砂質土。
 - 3 暗褐色土層 FP・ローム粒を少量含む。
 - 4 暗褐色土層 FPを多量含む。
 - 5 暗褐色土層 FPをやや多量、ローム粒を多量含む。
 - 6 暗褐色土層 FPを多量含む。
 - 7 暗褐色土層 FPを少量、ローム粒・ブロックを含む。
 - 8 暗褐色土層 ローム粒を多量、FPを少量含む。
 - 9 暗褐色土層 FPを少量、ローム粒を微量含む。
 - 10 赤褐色土層 ローム粒・焼土粒を多量含む。
 - 11 明黄褐色土層 ロームブロック主体土。
 - 12 赤褐色土層 焼土層。

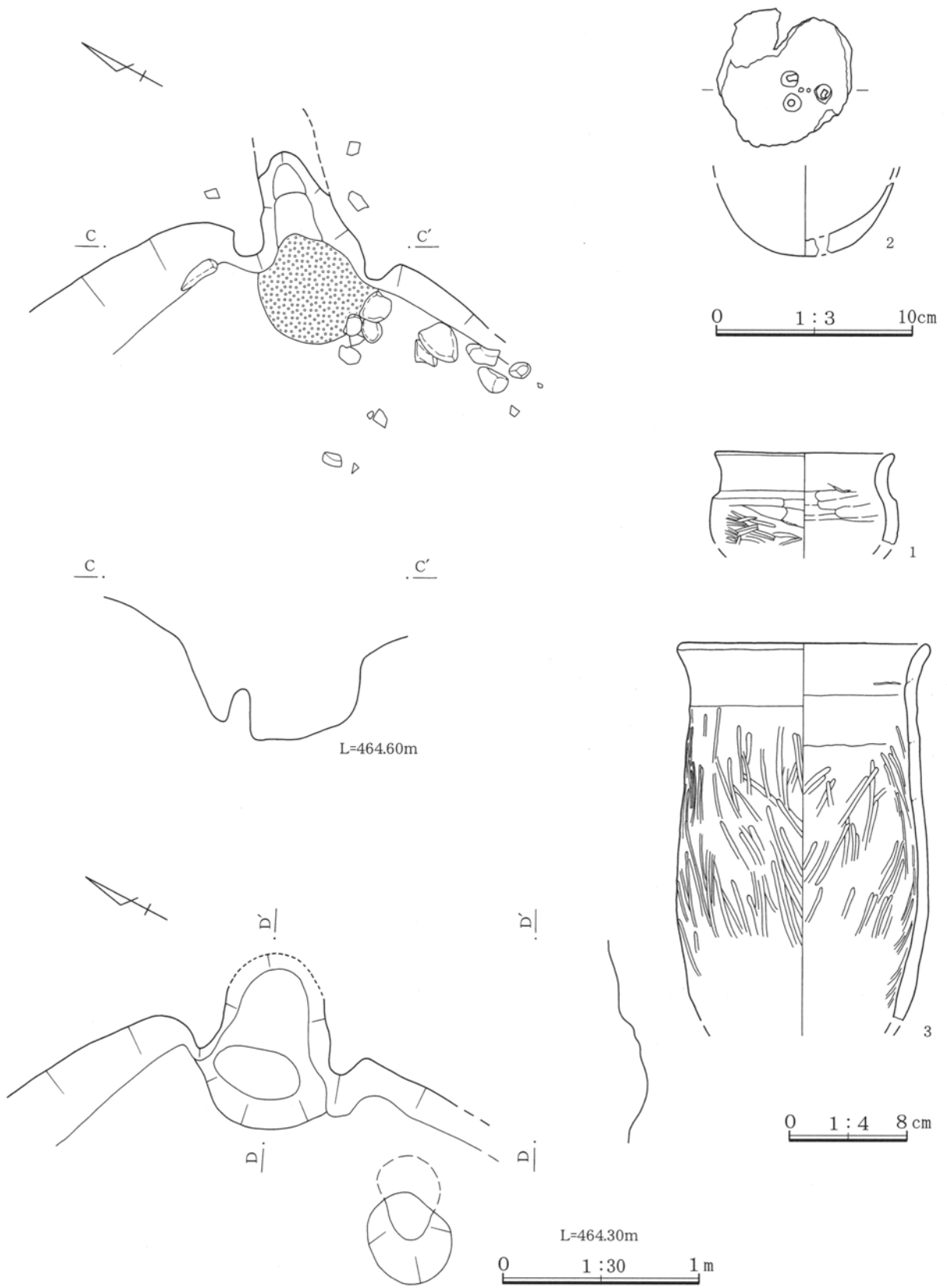


- C区10号住居貯蔵穴
- 1 暗褐色土層 FPを少量含む。
 - 2 暗褐色土層 FPを多量、ローム粒を少量含む。
 - 3 暗褐色土層 FPを多量含む。



第62図 C区10号住居 (1)

第3章 検出された遺構と遺物



第63図 C区10号住居(2)と出土遺物

3. 古墳～平安時代の遺構と遺物

C区11号住居 (第64図 PL17・47)

位置 738-688 方位 N-58°-W

形状 部分調査のため未確認。

規模 2.7m以上×1.0m以上 面積2.3㎡以上

重複 C区11号住居→C区1号古墳

埋土 埋土にはFPを含まない。

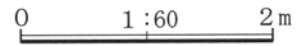
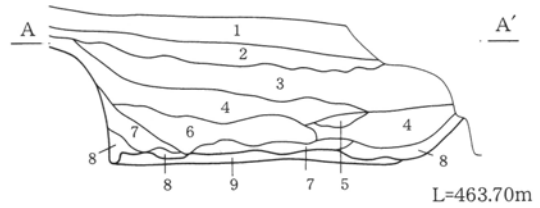
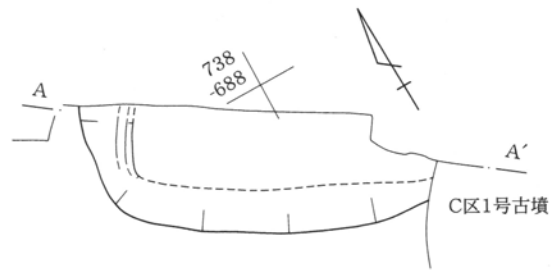
床面 確認面より121cm下にロームと黒褐色土を混ぜた厚さ約10cmの貼り床を施す。

周溝 なし。

掘り方 床面より5cm～10cmで掘り方面となる。

遺物 床直上からの遺物はない。埋土中から土師器
 坏(1)・甕(2)が出土している。(観P.142)

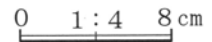
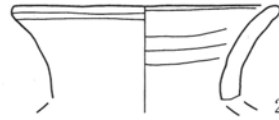
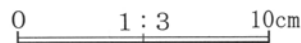
所見 埋土から6世紀中葉以前と考えられる。



C区11号住居

- 1 FP層
- 2 黒褐色土層 FPを含まず。
- 3 褐色土層 ローム粒をやや多量含む。
- 4 暗褐色土層 ローム粒を少量含む。

- 5 黒褐色土層 ローム粒を少量含む。
- 6 褐色土層 ローム粒をやや多量、ロームブロックを含む。
- 7 黒褐色土層 ローム粒を微量含む。
- 8 黄褐色土層 ローム粒を多量に含む。
- 9 黄褐色土層 ハードロームに黒褐色土が混じる。(貼床)



第64図 C区11号住居と出土遺物

C区15号住居 (第65・66図 PL17・47・48)

位置 729-688 方位 N-14°-E

形状 隅丸長方形。

規模 5.2×3.2m 面積 17.9㎡

重複 C区15号住居→C区1号古墳

埋土 2層以下にはFPを含まない。

床面 確認面より49cm下で床面となる。

周溝 竈付近と北壁を除いて幅20cm×深さ10cmの周溝を確認した。

竈 東壁面のやや南よりを掘り込んで造られている。石材を袖の補強材としてに据え付けている。確

認長は100cm、燃烧部幅は80cm。

貯蔵穴 形状は長方形。70×60×65cm規模で南東隅に設ける。

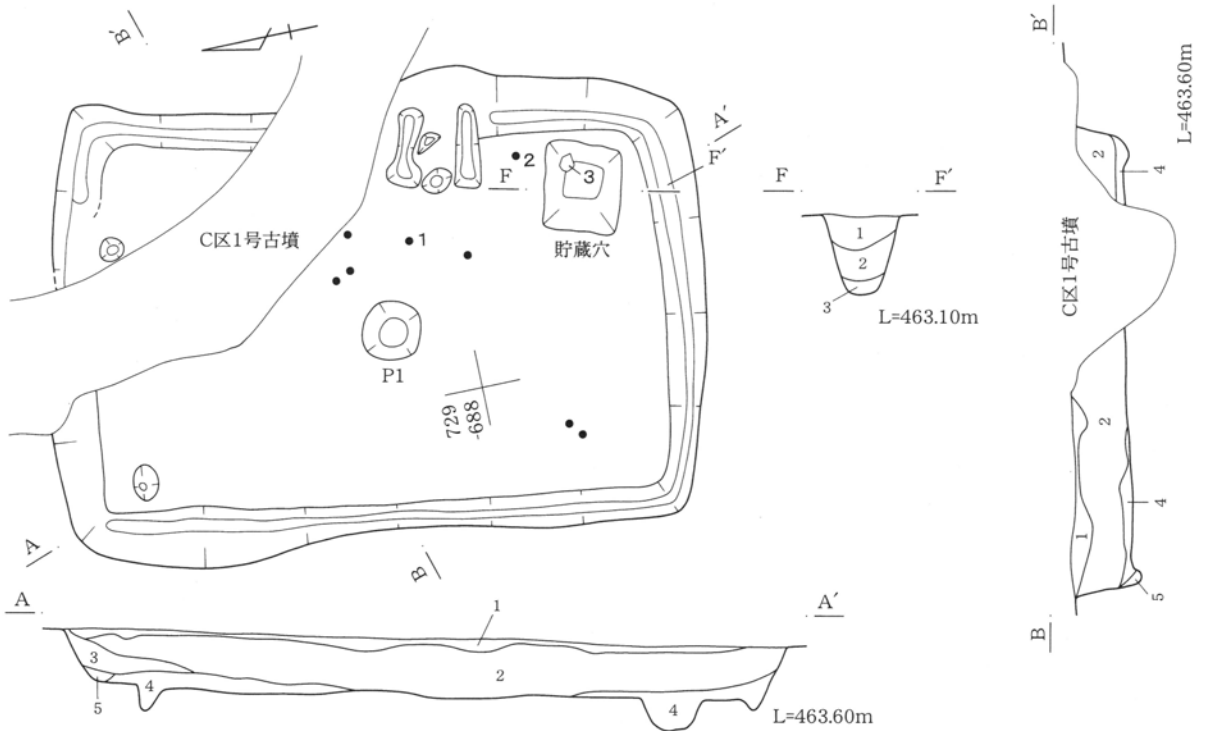
柱穴 住居のほぼ中央に49×46cmのピットを1基確認した。

掘り方 なし。

遺物 竈付近の床直上から坏(1)・高坏(2)、竈から甕(4)、貯蔵穴からは小型甕(3)が出土している。(観P.142)

所見 出土遺物から5世紀中葉であると考えられる。

第3章 検出された遺構と遺物



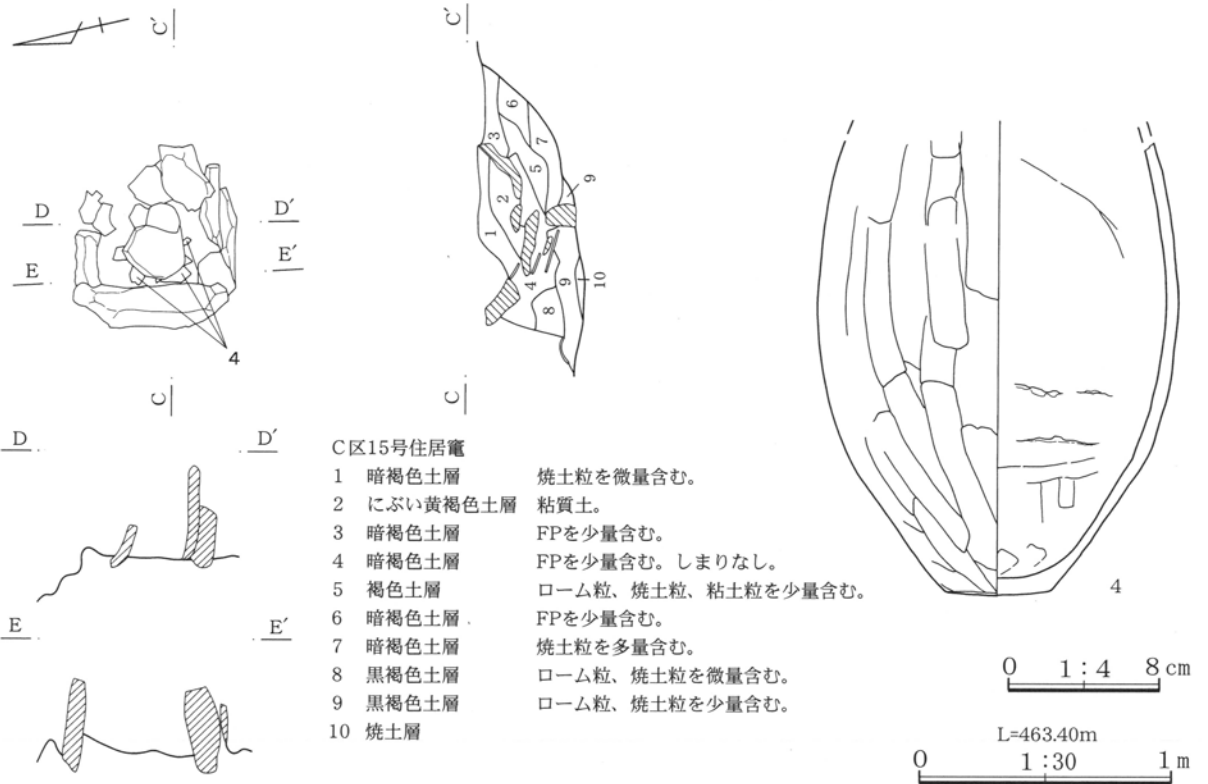
C区15号住居

- 1 黒褐色土層 FP、ローム粒を微量含む。
- 2 黒褐色土層 ローム粒を微量含む。
- 3 黒褐色土層 ローム粒を微量含む。
- 4 黒褐色土層 ローム粒、ロームブロックをやや多量含む。
- 5 黒褐色土層 ローム粒をやや多量含む。

C区15号住居貯蔵穴

- 1 黒褐色土層 ローム粒、焼土粒を微量含む。粘性あり。
- 2 にぶい黄褐色土層 ローム主体土。黒褐色土を少量含む。
- 3 暗褐色土層 ローム粒を微量含む。

0 1:60 2m

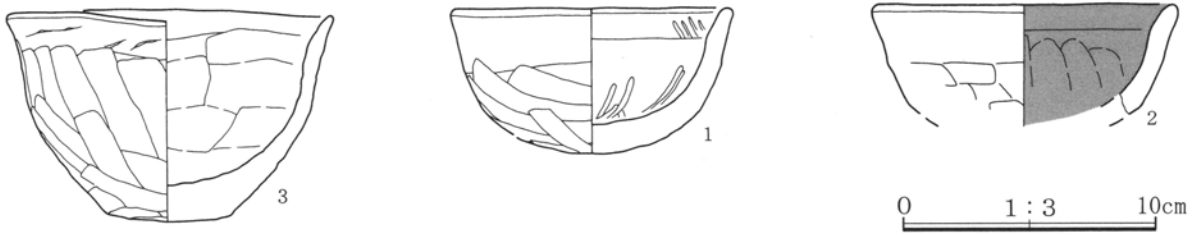


C区15号住居竈

- 1 暗褐色土層 焼土粒を微量含む。
- 2 にぶい黄褐色土層 粘質土。
- 3 暗褐色土層 FPを少量含む。
- 4 暗褐色土層 FPを少量含む。しまりなし。
- 5 褐色土層 ローム粒、焼土粒、粘土粒を少量含む。
- 6 暗褐色土層 FPを少量含む。
- 7 暗褐色土層 焼土粒を多量含む。
- 8 黒褐色土層 ローム粒、焼土粒を微量含む。
- 9 黒褐色土層 ローム粒、焼土粒を少量含む。
- 10 焼土層

第65図 C区15号住居と出土遺物 (1)

3. 古墳～平安時代の遺構と遺物



第66図 C区15号住居出土遺物(2)

C区16号住居(第67図 PL18・48)

位置 722-678 方位 N-22°-E

形状 未確認。規模 3.5m×2.7m以上

面積 7.6㎡以上

重複 C区55号土坑→C区16号住居

埋土 FPを含まない。

床面 確認面から45cm下で床面となる。全体的に平坦であるが、北東隅に147×78×5cmの長方形の落ち込みが認められた。北壁寄りの床面に焼土

を確認した。

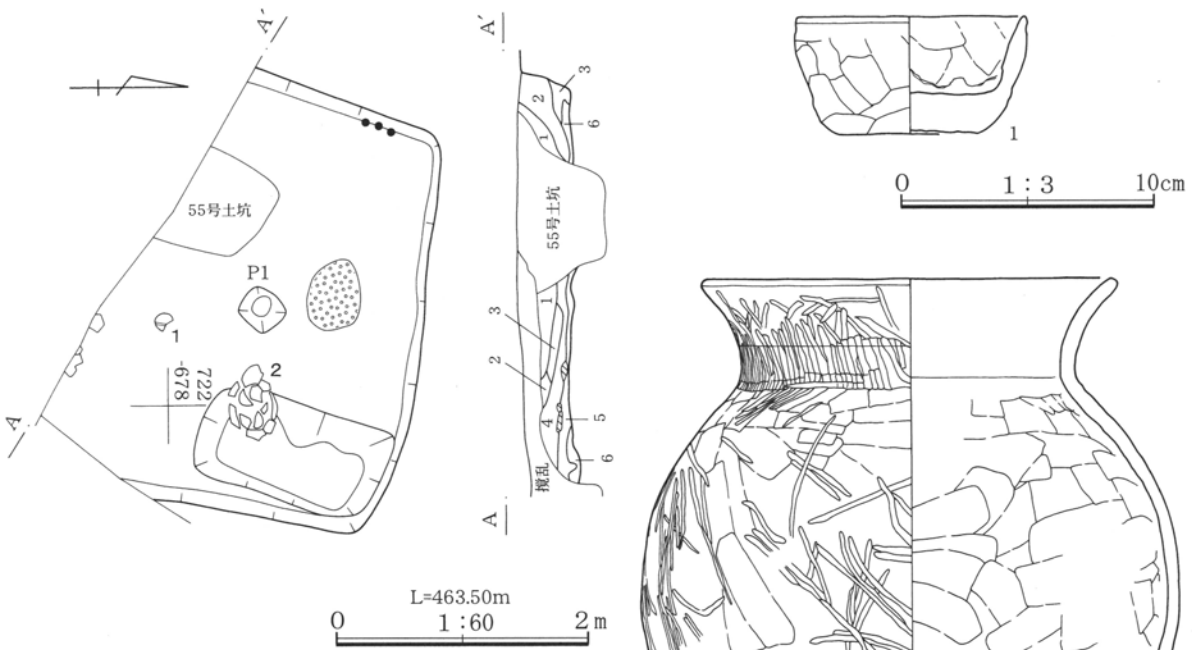
周溝 なし。竈 未確認。

貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 P1は35×30×24cmの規模である

遺物 土師器坏(1)が床直上、甕(2)が長方形の落ち込みから出土した。(観P.142)

所見 出土遺物から5世紀代の住居であると考えられる。



C区16号住居

- 1 黒褐色土層 ローム粒を微量含む。
- 2 黒褐色土層 ローム粒を微量含む。やや粘性あり。
- 3 黒褐色土層 ローム粒と黒褐色土の混土。
- 4 黒褐色土層 にぶい黄褐色土ブロックを少量含む。
- 5 黒褐色土層 かたくしまる。粘性あり。
- 6 黄褐色土層 黒色土を少量含む。

第67図 C区16号住居と出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

C区1号住居 (第68~70図 PL18・48・49)

位置 747-717 方位 N-19°-E

形状 隅丸方形と思われる。

規模 3.6m×2.8m以上 面積 9.3㎡以上

重複 なし。

埋土 FPをやや多量含む暗褐色土が主体である。

床面 確認面より70cm下に、黒色土にローム粒を少量含んだ厚さ5~10cmの貼り床を施す。東側に比べ西側部分がやや高いが全体的に平坦である。

周溝 なし。

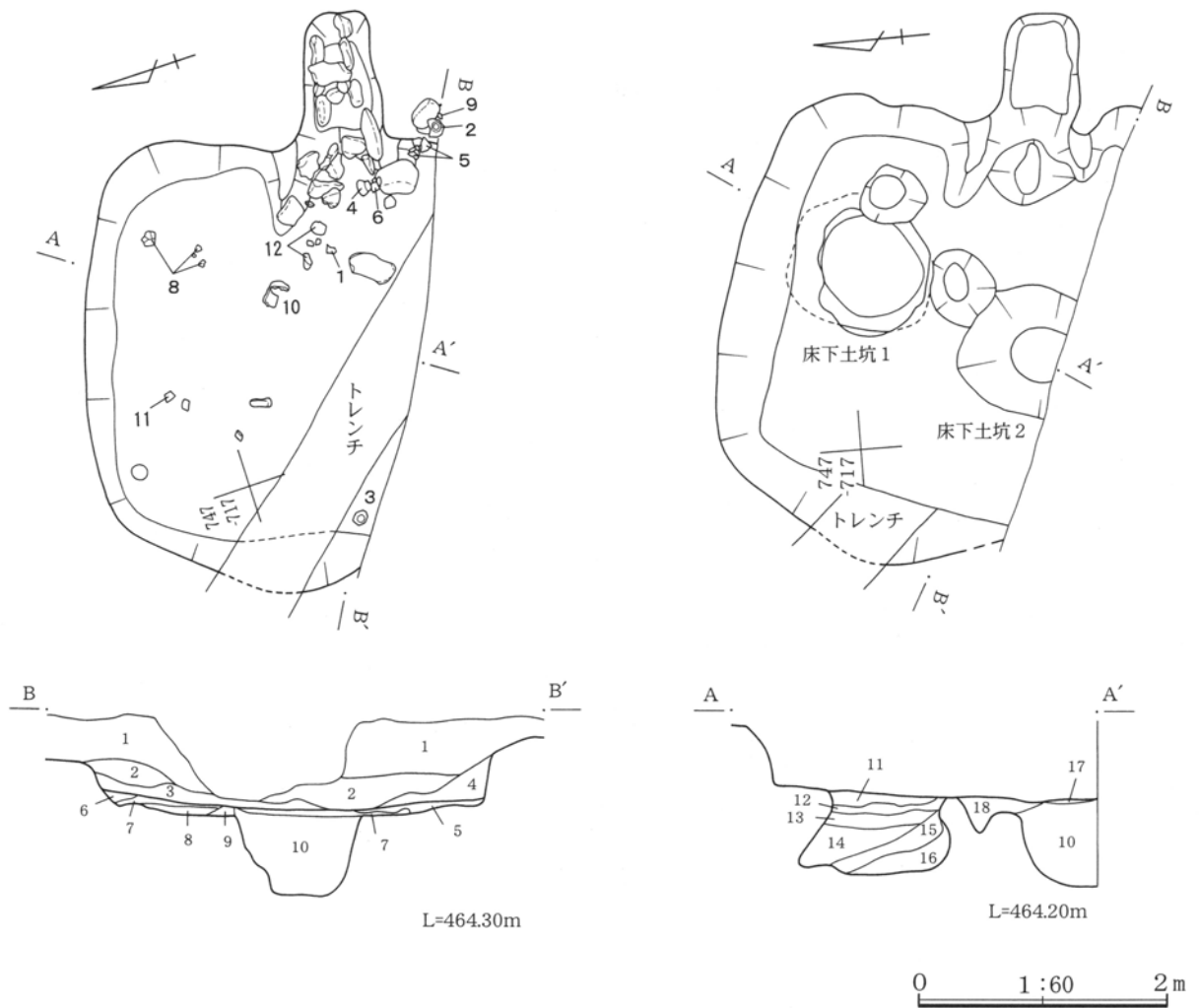
竈 東壁面を掘り込んで造られている。煙道部は北側に扁平な川原石を3個、南側には4個を並べている。天井部に粗粒輝石安山岩が用いられていた。確認長は171cm、燃烧部幅は48cm。

貯蔵穴 未確認。 柱穴 なし。

掘り方 床面より5~10cmで掘り方面となる。床下土坑を2基を確認した。規模は、土坑1が110×110×60cm、土坑2が105×75×65cm以上である。土坑1はフラスコ状を呈する。いずれの土坑もロームを多量に含む黒色土で埋め戻されている。

遺物 床直上からは、土師器甕(8)・須恵器甕(10)が出土した。竈からは須恵器碗(4)・土師器甕(6)が出土した。他の遺物は埋土中からの出土である。須恵器(1)には「大井」の刻書が認められた。(P.142・143)

所見 出土遺物から9世紀第4四半期と考えられる。



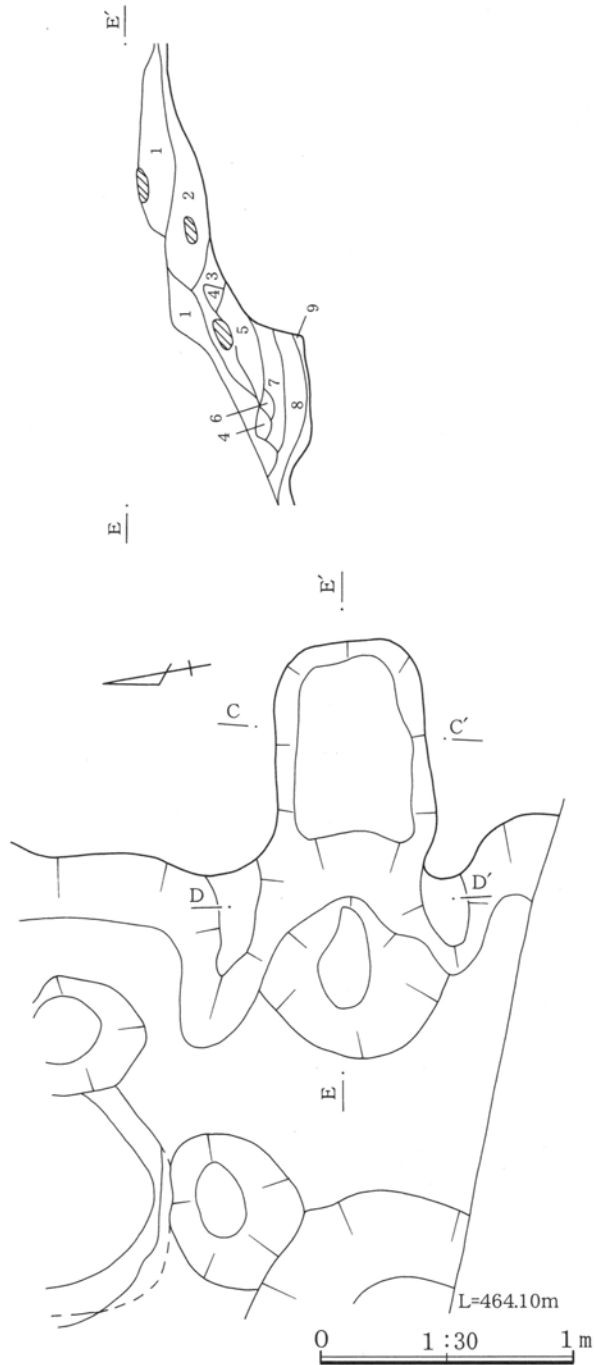
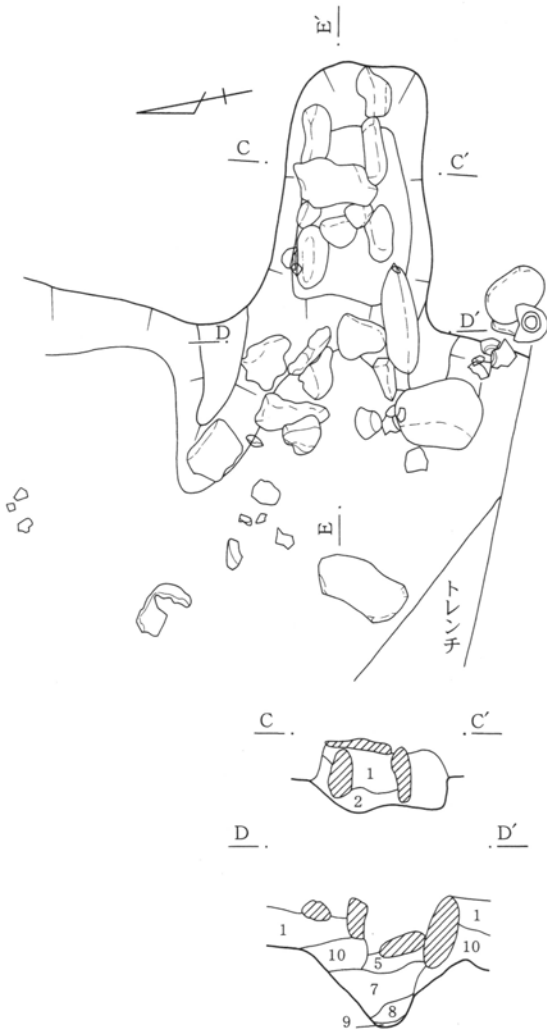
第68図 C区1号住居(1)

3. 古墳～平安時代の遺構と遺物

C区1号住居

- 1 暗褐色土層 FPをやや多量含む。
- 2 暗褐色土層 FP、ローム粒を少量含む。
- 3 暗褐色土層 FPを多量含む。
- 4 黒褐色土層 ローム粒を少量含む。
- 5 黒色土層 ローム粒を少量含む。(貼床)
- 6 黒色土層 FP、焼土粒を含む。
- 7 黒色土層 ローム粒を含む、焼土粒、灰を少量含む。
- 8 黒色土層 ローム粒をやや多量に含む。
- 9 黒褐色土層 ローム粒を少量含む。
- 10 明黄褐色土層 ロームブロック主体土。

- 11 黒褐色土層 ロームブロック、FPを少量含む。
- 12 暗褐色土層 ロームブロックを少量含む。
- 13 暗褐色土層 ローム粒を多量含む。
- 14 暗褐色土層 ローム粒、ブロックをやや多量含む。
- 15 暗褐色土層 ローム粒、ブロックを多量含む。
- 16 明黄褐色土層 ロームブロック主体土。
- 17 黒色土層 ローム粒を少量含む。
- 18 明黄褐色土層 ロームブロックと黒色土の混土。

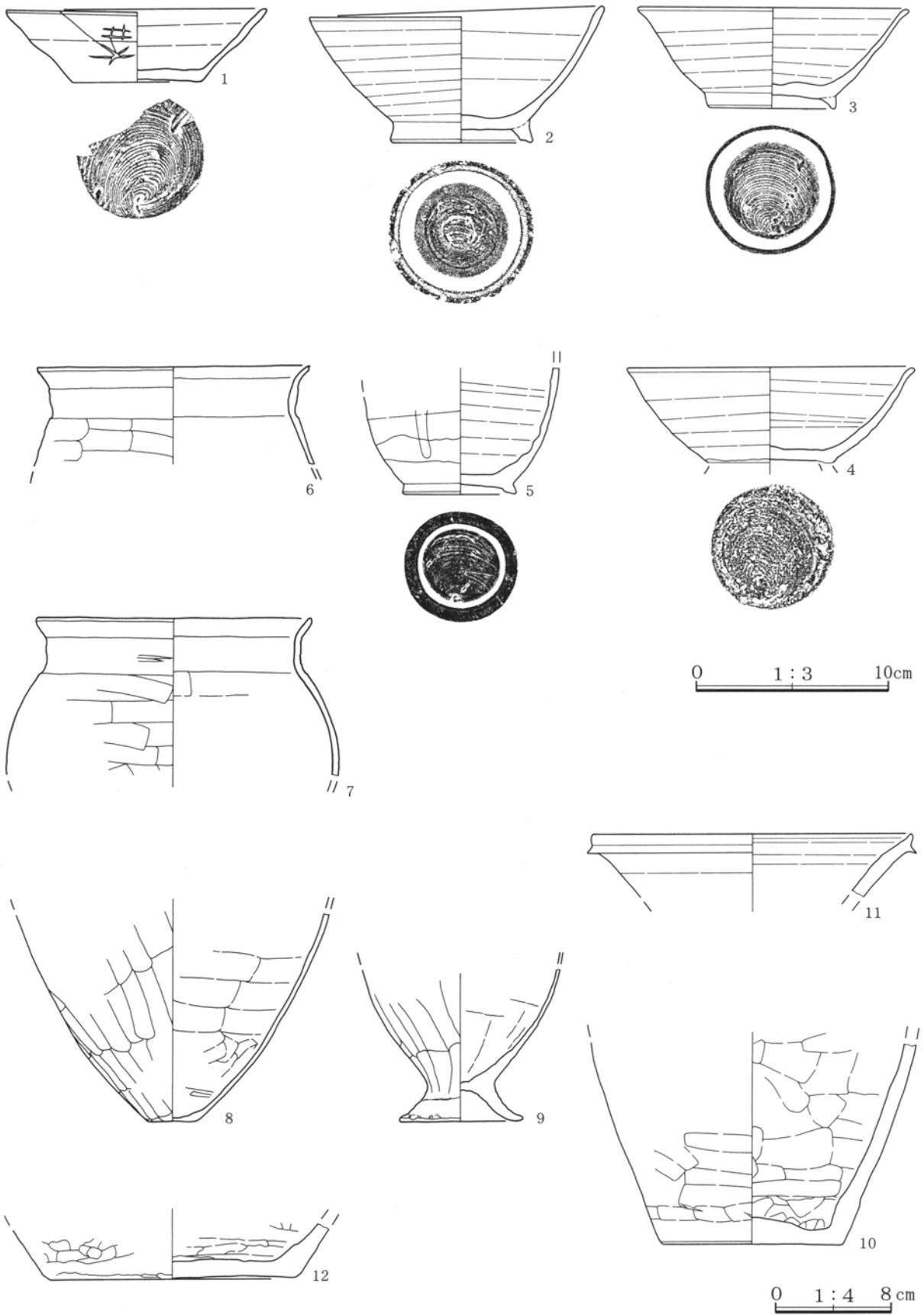


C区1号住居電

- 1 黒褐色土層 ローム粒を微量含む。
- 2 黒褐色土層 ローム粒を少量含む。
- 3 暗褐色土層 ローム粒、焼土粒を微量含む。
- 4 明黄褐色土層 ローム。
- 5 暗褐色土層 ローム粒、焼土粒、炭化物を含む。
- 6 灰層
- 7 明赤褐色土層 焼土。
- 8 黒褐色土層 焼土粒、炭化物を少量含む。
- 9 赤褐色土層 焼土。
- 10 黒褐色土層 ローム粒を微量含む。

第69図 C区1号住居(2)

第3章 検出された遺構と遺物



第70図 C区1号住居出土遺物

3. 古墳～平安時代の遺構と遺物

C区8号住居 (第71・72図 PL18・49)

位置 767-738 方位 N-20°-E

形状 隅丸長方形と思われる。

規模 3.70m以上×3.05m 面積 9.6㎡以上

重複 C区4号住居→C区8号住居

埋土 FPをやや多量含む暗褐色土により埋没する。

床面 確認面から30cm下にFPを微量含む黒褐色土で厚さ約10cmの貼床を施す。

周溝 なし。

竈 東壁に造られていた。遺存状況が不良で、ロー

ムを用いて袖を構築していたと思われる。

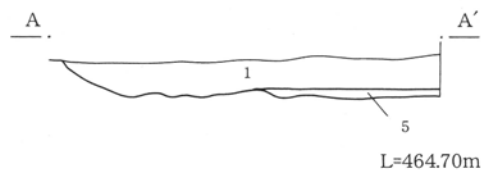
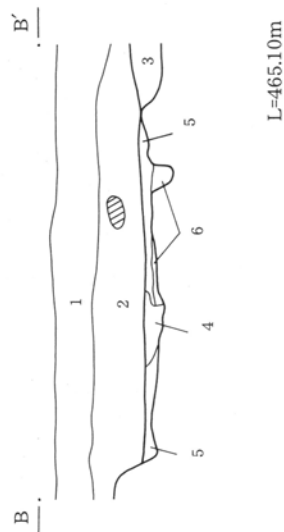
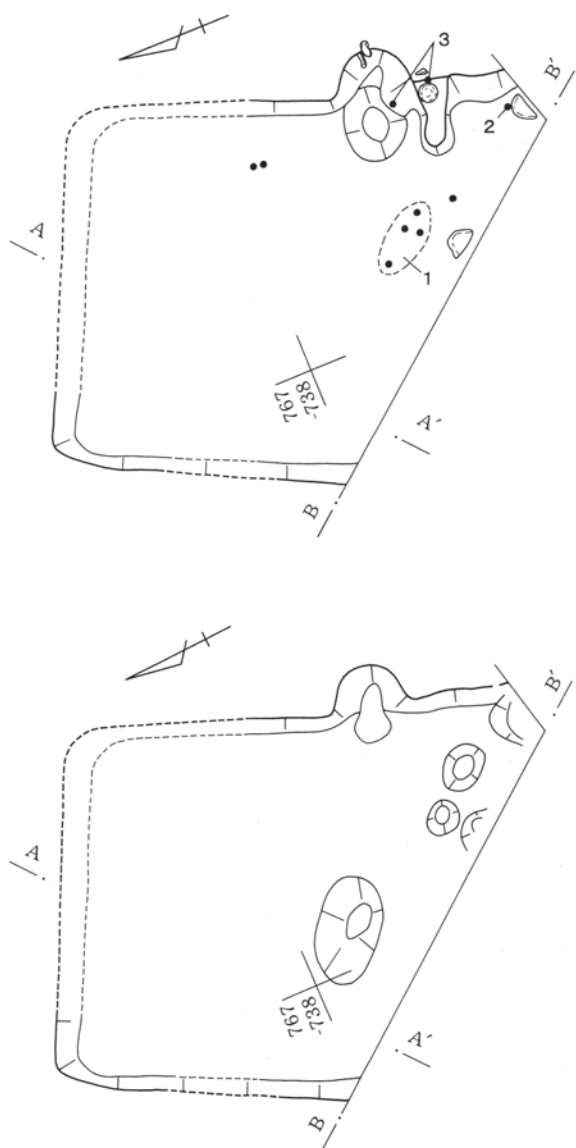
貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 落ち込みは何か所か見られたが、明確な柱穴は確認できなかった。

掘り方 床面から5cm～10cmで掘り方面となる。住居のほぼ中央でやや落ち込む部分がある。

遺物 床直上より須恵器碗(1)・羽釜(2)が、竈より須恵器甕片(3)が出土した。(観P.143)

所見 出土遺物から10世紀第1四半期の住居と考えられる。



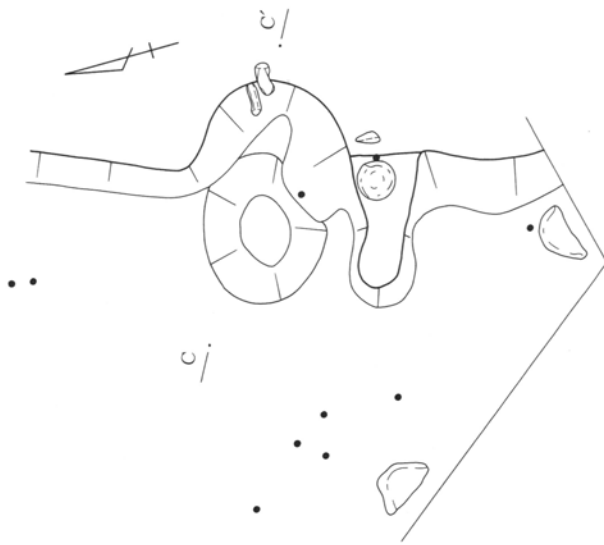
C区8号住居

- 1 FP混土層
- 2 暗褐色土層 FPをやや多量含む。
- 3 暗褐色土層 FPを少量含む。
- 4 黒褐色土層 FPを微量含む。
- 5 黒褐色土層 FPを微量含む。(床面)
- 6 黒褐色土層 FPを微量含む。

0 1:60 2m

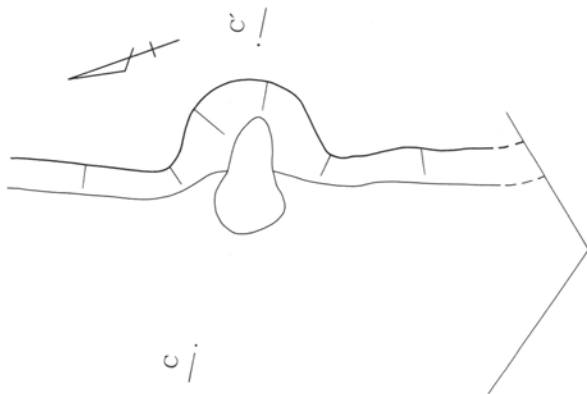
第71図 C区8号住居(1)

第3章 検出された遺構と遺物

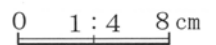
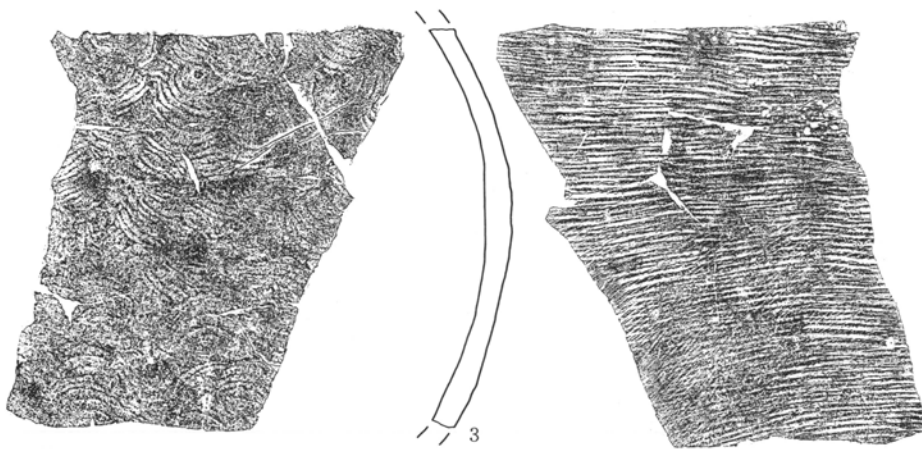
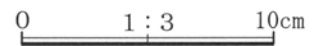
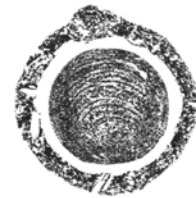
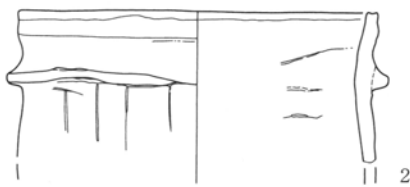
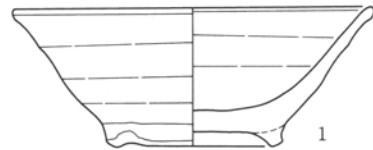
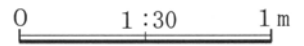


C区8号住居竈

- 1 暗褐色土層 FP、ローム粒を少量含む。
- 2 暗褐色土層 FPを少量含む。
- 3 暗褐色土層 ローム粒を多く含む。
- 4 黄褐色土層 ロームと黒褐色土の混土。



L=464.50m



第72図 C区8号住居(2)と出土遺物

3. 古墳～平安時代の遺構と遺物

C区12号住居 (第73～75図 PL19・49)

位置 799-752 方位 N-25°-E

形状 隅丸方形。

規模 4.3m×4.2m 面積 18.4㎡

重複 C区63・64・71号土坑→C区5号掘立柱建物→C区12号住居。

埋土 FPをやや多量含む褐色土。

床面 確認面より75cm下で褐色土にロームを混ぜた厚さ約10cmの貼床を施す。

周溝 幅20×深さ16cmで竈を除き全周する。

竈 東壁面のやや南よりを掘り込んで造られている。ハードロームを竈の袖として掘り残し、さらに粗粒輝石安山岩を用いて補強する。確認長は130cm、燃焼部幅82cm。

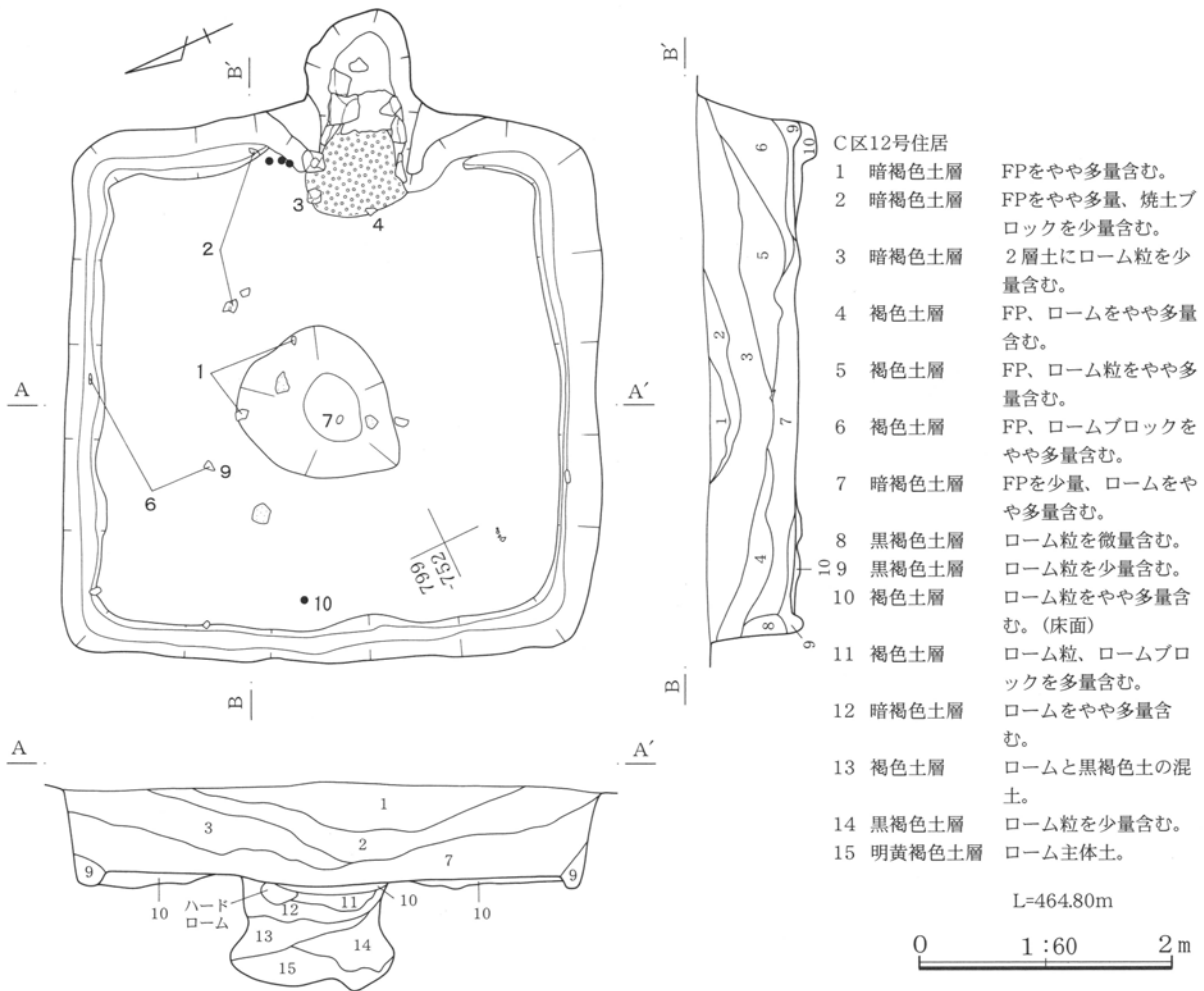
貯蔵穴 南東隅に落ち込みが認められた。

柱穴 なし。

掘り方 床面より5～14cmで掘り方面となる。中央付近に1基、南壁・北壁側にそれぞれ1基ずつ、合計3基の床下土坑を確認した。土坑1が139×92×50cmの隅丸長方形、土坑2が120×120×80cmでフラスコ状を呈し、土坑3が94×81×72cmの楕円形である。土坑の埋土はハードロームブロック主体土であった。土坑3には焼土も少量含まれていた。また住居の四隅にはそれぞれ同一レベルまで掘り下げた凹みが認められた。

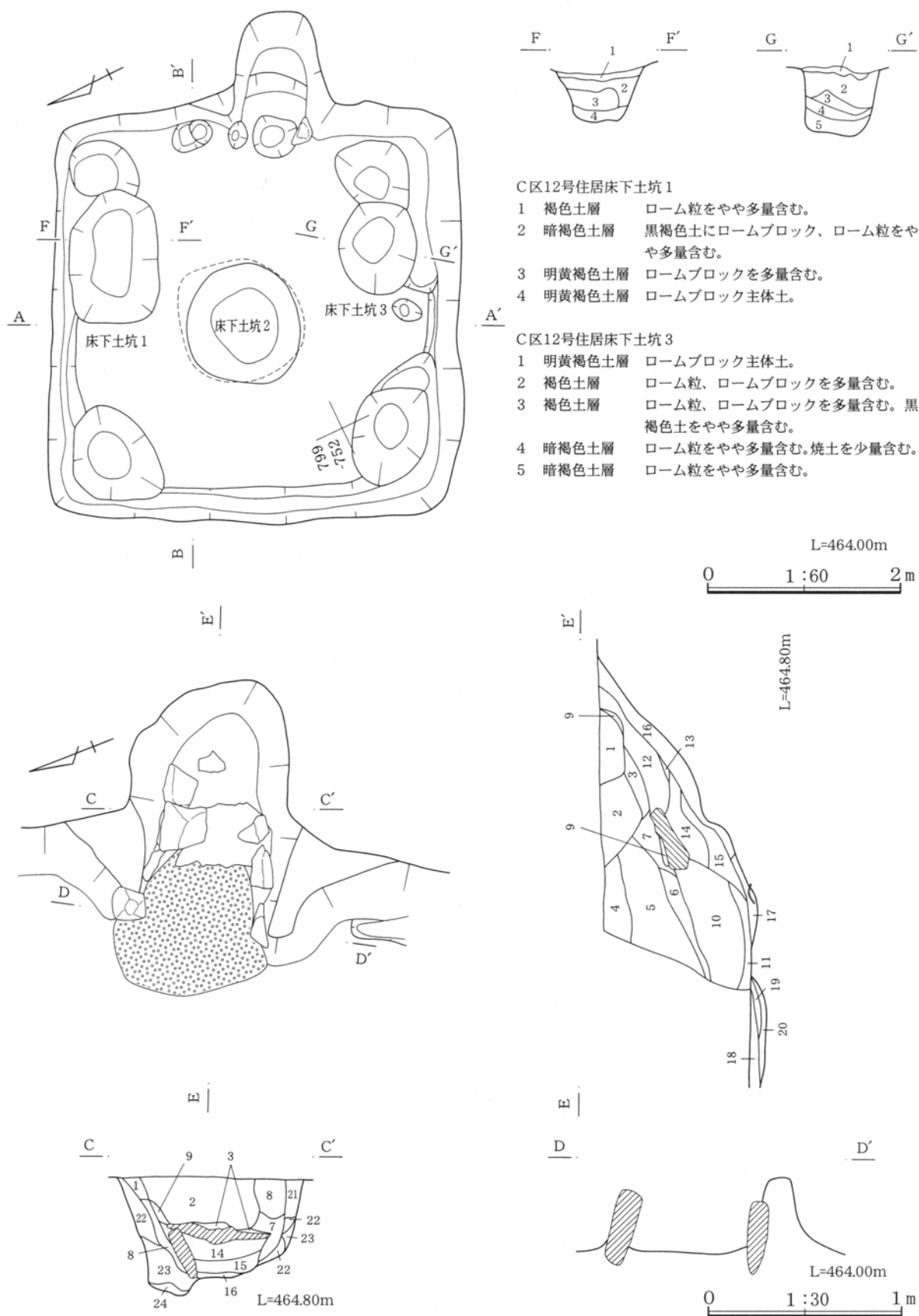
遺物 竈付近の床直上より須恵器坏(3・4)が出土した。須恵器坏(1)には「万」、坏(7)には「森」の墨書が見られる。鉄製品(10)も埋土中から出土している。(観P.143)

所見 出土遺物から9世紀第1四半期の住居と考えられる。



第73図 C区12号住居(1)

第3章 検出された遺構と遺物



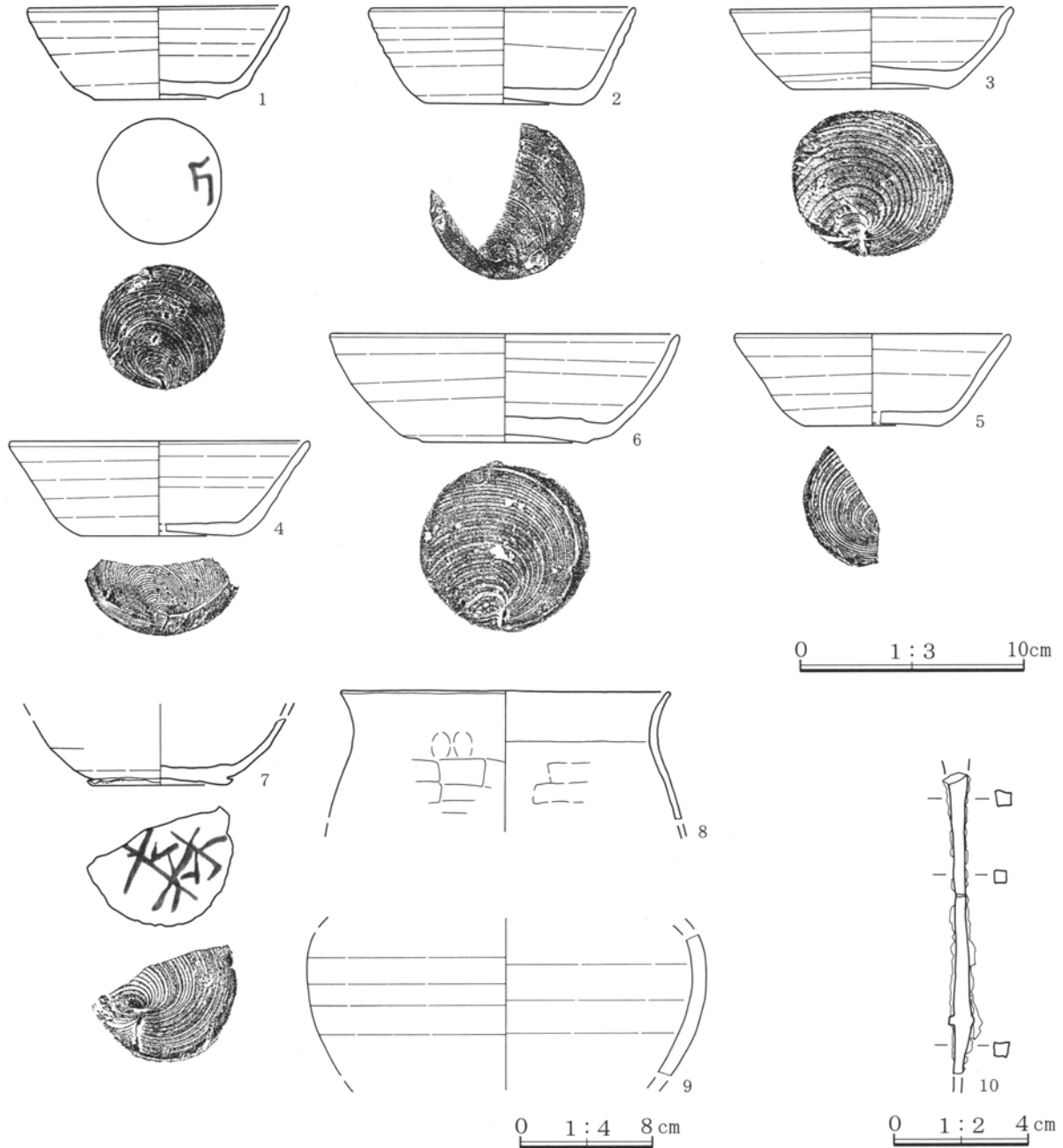
第74図 C区12号住居(2)

3. 古墳～平安時代の遺構と遺物

C区12号住居竈

- 1 暗褐色土層 ローム粒をやや多量、焼土粒を少量含む。
- 2 暗褐色土層 FP粒を含む。焼土粒を少量含む。
- 3 黄褐色土層 黒褐色土を少量含む。
- 4 暗褐色土層 ローム粒をやや多量含む。
- 5 暗褐色土層 ローム粒、FPを少量含む。
- 6 暗褐色土層 ローム粒をやや多量含む。
- 7 明黄褐色土層 粘性あり。ローム。
- 8 明黄褐色土層 カマドの側面。
- 9 明橙色土層 焼土。7層土が焼けたもの。
- 10 黒褐色土層 ローム粒を少量、FPをやや多量含む。
- 11 赤褐色土層 黒褐色土を多量含む。
- 12 黒褐色土層 焼土粒を微量含む。

- 13 焼土層
- 14 黒褐色土層 焼土粒、ローム粒を微量含む。
- 15 暗褐色土層 ローム粒と黒色土の混土。
- 16 黒褐色土層 ローム粒を少量含む。
- 17 赤褐色土層 焼土層。ローム地山が焼けたもの。
- 18 暗褐色土層 ローム粒、焼土粒を少量含む。
- 19 黄褐色土層 ロームブロック、ローム粒と暗褐色土の混土。
- 20 黄褐色土層 ローム主体土。
- 21 黒褐色土層 ローム粒を少量含む。
- 22 黒褐色土層 ローム粒、焼土粒を微量含む。
- 23 暗褐色土層 ローム漸位層。
- 24 ローム層



第75図 C区12号住居出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

C区13号住居 (第76~78図 PL19・20・50)

位置 810-750 方位 N-21°-E

形状 隅丸長方形。

規模 4.0×3.0m 面積 11.4㎡

重複 C区58号土坑→C区13号住居。

埋土 FPを含む褐色土で埋没する。2層には大量の炭化材が含まれている。

床面 確認面より63cm下で床面となる。床下土坑上にはロームと褐色土の貼床を施す。

周溝 竈を除き幅15×深さ10cmの溝が全周する。

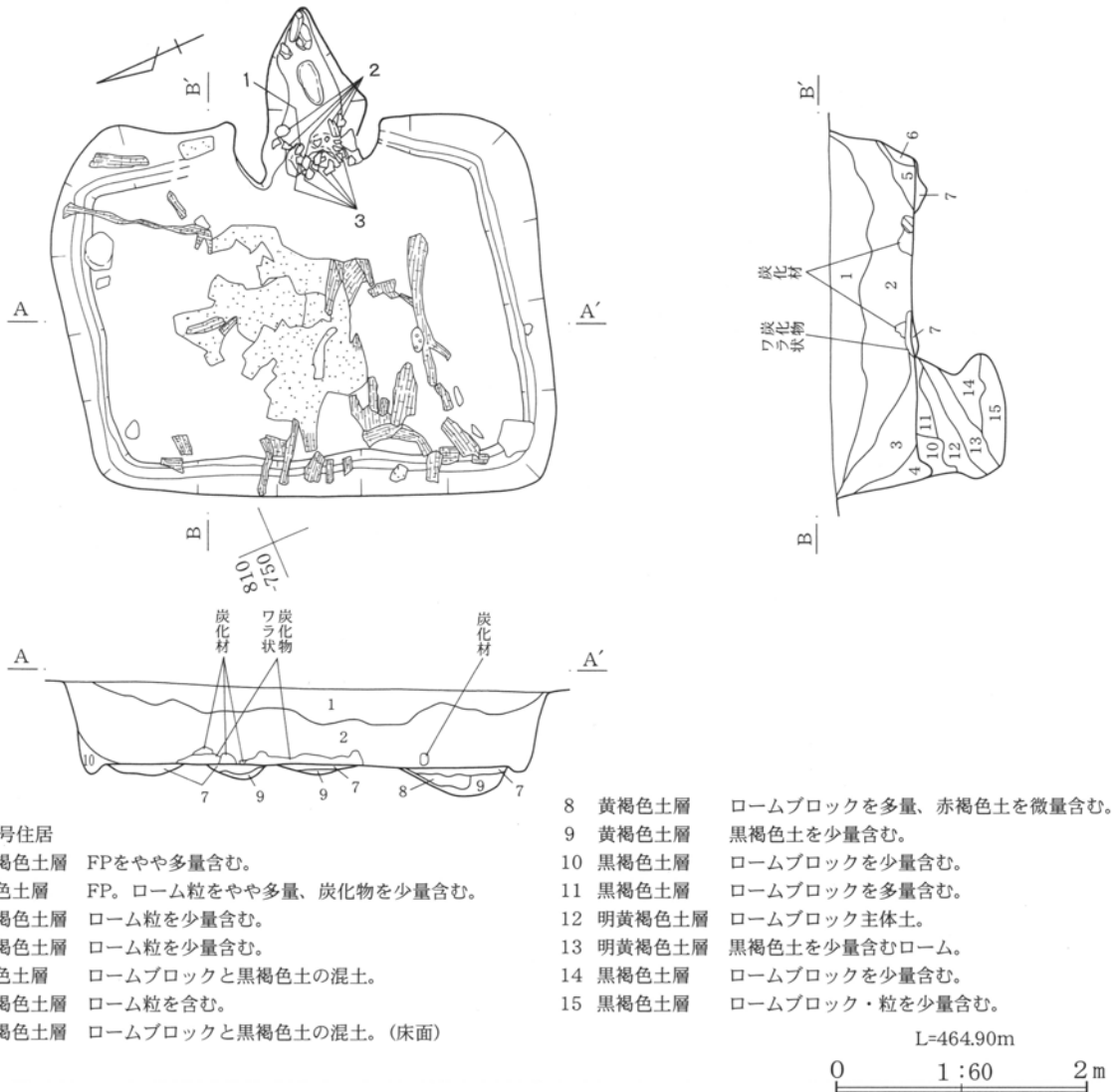
竈 東壁面のやや南よりを掘り込んで造られている。ロームと粗粒輝石安山岩を用いて竈を構築している。確認長は140cm、燃焼部幅は88cm。

貯蔵穴 なし。 柱穴 なし。

掘り方 床面より10~20cmで掘り方面となる。床下土坑2基を確認した。土坑1は130×100×72cmでフラスコ状を呈する。土坑2は112×62×65cm、形状は楕円形である。いずれの土坑もハードロームブロックを含む土で埋め戻されている。

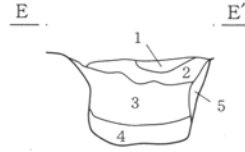
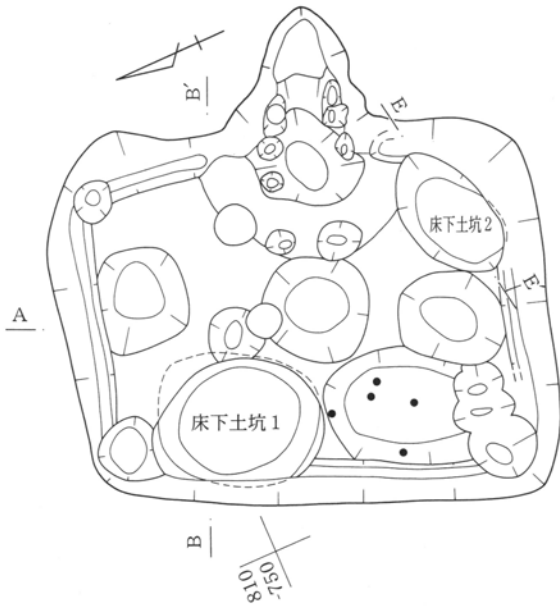
遺物 遺物は少ない。竈から土師器甕(1~3)が出土した。また、床上にニレ属の板状炭化材、ワラ状炭化物を確認した。図化するには至らなかったが床下からも土器細片が出土している。(観P.143・144)

所見 出土遺物から9世紀第3四半期の住居と考えられる。



第76図 C区13号住居 (1)

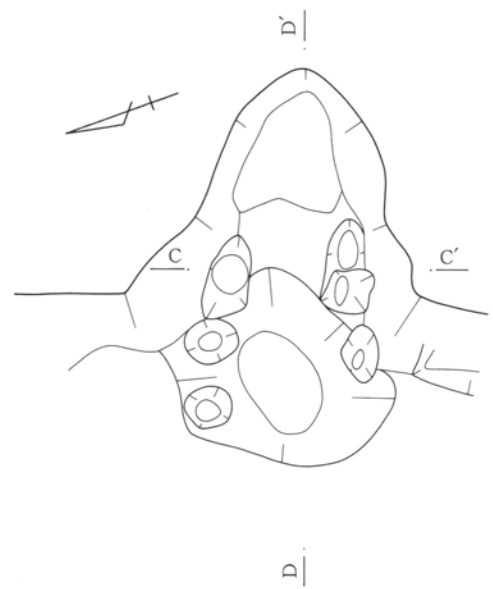
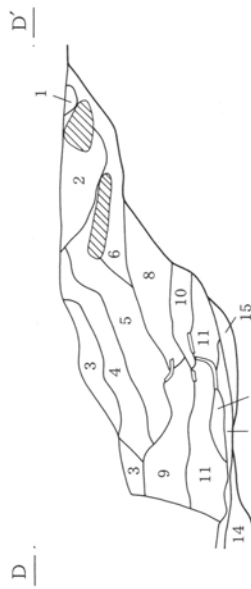
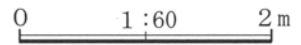
3. 古墳～平安時代の遺構と遺物



C区13号住居床下土坑2

- 1 黒褐色土層 ローム粒を少量含む。
- 2 黄褐色土層 ローム粒、ロームブロックを多量含む。
- 3 黄褐色土層 ローム粒、ロームブロックと黒褐色土の混土。
- 4 暗褐色土層 ローム主体土。黒褐色土を少量含む。
- 5 暗褐色土層 ローム粒を微量含む。

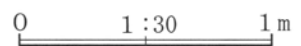
L=464.30m



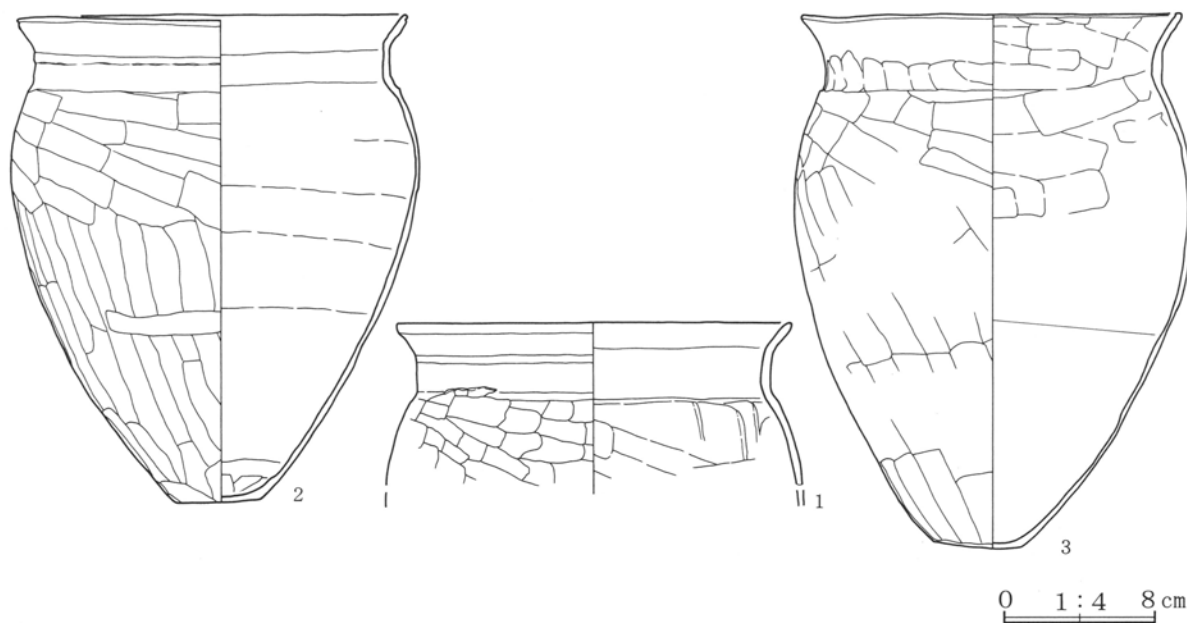
C区13号住居竈

- 1 赤褐色土層 焼土層。
- 2 黄褐色土層 粘性あり。カマドの構築材。
- 3 暗褐色土層 FP、ローム粒を少量含む。
- 4 黄褐色土層 FP、暗褐色土層を少量含む。
- 5 暗褐色土層 ローム粒を少量、焼土、炭化物を微量含む。
- 6 暗褐色土層 ローム粒、焼土、炭化物を微量含む。
- 7 暗褐色土層 ローム粒を微量含む。
- 8 黄褐色土層 焼土、炭化物を少量含む。粘性あり。
- 9 暗褐色土層 FP、ローム粒を少量含む。
- 10 暗褐色土層 ローム粒、焼土粒をやや多量含む。
- 11 暗褐色土層 FP、ローム粒、焼土粒を微量含む。
- 12 褐色土層 炭化物をやや多量含む。
- 13 灰層
- 14 黒褐色土層 ロームブロックを多量含む。
- 15 焼土層

L=464.90m



第77図 C区13号住居(2)



第78図 C区13号住居出土遺物

C区14号住居 (第79図 PL20)

位置 806-743 方位 N-46°-W

形状 部分調査のため未確認。

規模 3.4×1.2m以上 面積 2.8㎡以上

重複 なし。

埋土 FPを含む暗褐色土。

床面 確認面より78cm下に黒褐色土とロームブロックを混合した貼床を施す。

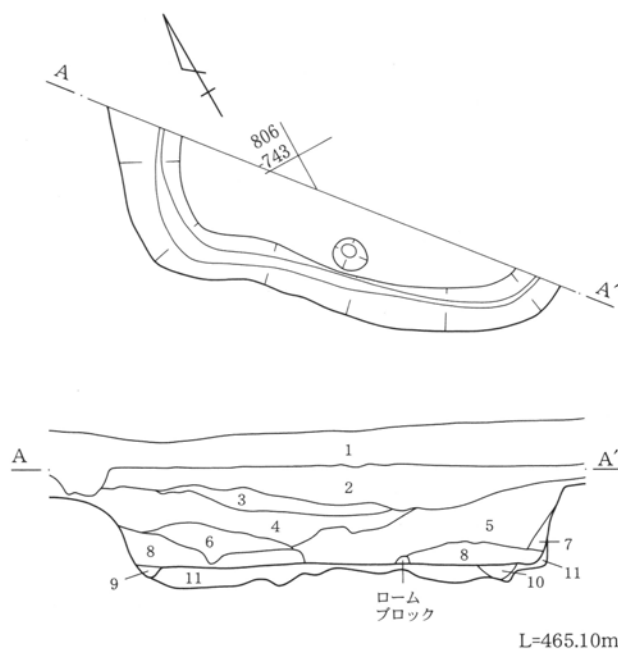
周溝 幅15cm×深さ10cmの溝を検出した。

柱穴 未確認。

掘り方 床面より5~20cmで掘り方面となる。

遺物 なし。

所見 遺物がないため時期の特定はできないが、埋土にFPが含まれていることから6世紀中葉以降の住居であると考えられる。



C区14号住居

- 1 表土
- 2 暗褐色土層 FPをやや多量含む。
- 3 褐色土層 FPを少量、ローム粒をやや多量含む。
- 4 暗褐色土層 FP、ローム粒を少量含む。
- 5 褐色土層 FPを少量、ロームブロックを多量含む。

- 6 暗褐色土層 FPを微量、ロームブロックを多量含む。
- 7 黒褐色土層 FP、ローム粒を少量含む。
- 8 黒褐色土層 ローム粒を微量含む。
- 9 黒褐色土層 ローム粒、ロームブロックを少量含む。床面。
- 10 黒褐色土層 ローム粒をやや多量含む。しまりなし。
- 11 黄褐色土層 ロームブロックと黒褐色土の混土。

第79図 C区14号住居

3. 古墳～平安時代の遺構と遺物

(3) 掘立柱建物

A区1号掘立柱建物 (第80図 PL20)

位置 667-852 方位 N-10°-W

形状 柱間が1間×1間の正方形。

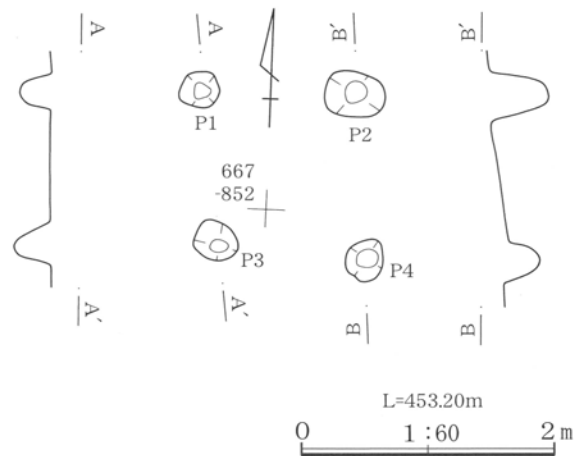
規模 1.68×1.20m P1 27×33×26cm P2 36×78×48cm P3 33×36×30cm P4 33×30×26cm

重複 なし。

埋土 柱穴の埋土にはFPを含まない。

遺物 なし。

所見 埋土から6世紀中葉以前と考えられる。



第80図 A区1号掘立柱建物

B区1号掘立柱建物 (第81図 PL20)

位置 765-795 方位 N-73°-E

形状 柱間が2間×3間の長方形か。

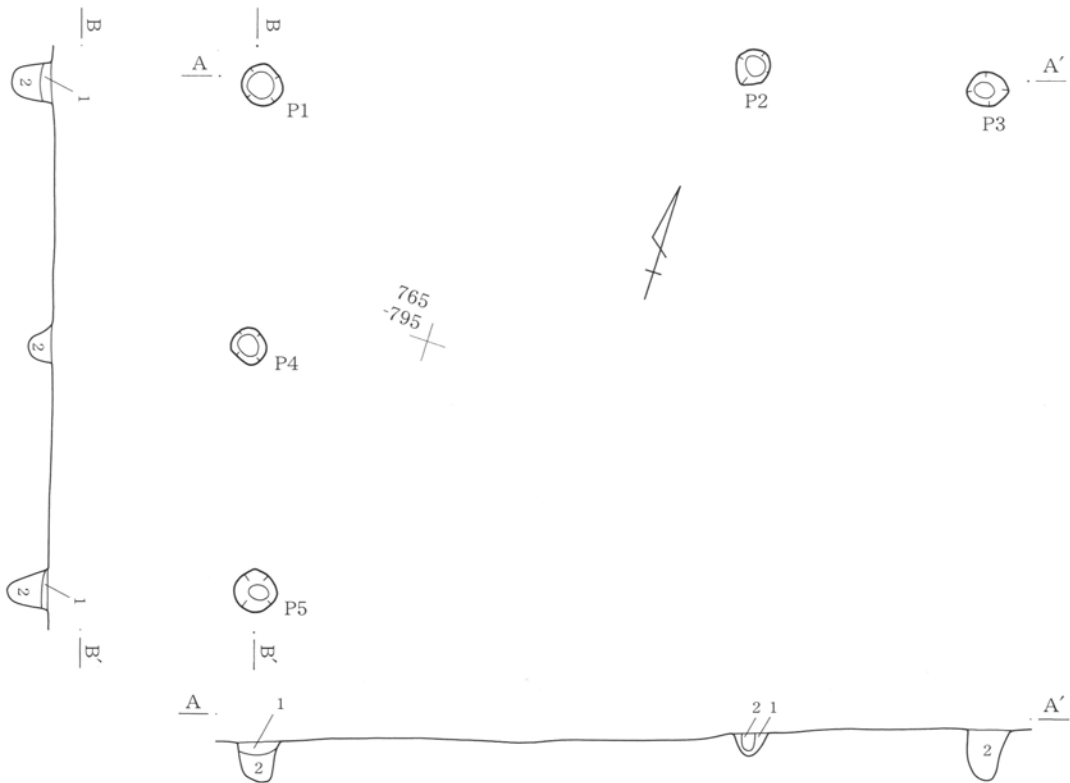
規模 調査範囲内では5.76×4.20m P1 33×33×32cm P2 33×26×20cm P3 34×26×42cm P4 30×26×19cm P5 35×35×31cm

重複 B区25・31号土坑→B区1号掘立柱建物。

埋土 柱穴の埋土にはFPを含む。

遺物 なし。

所見 埋土から6世紀中葉以降と考えられる。



B区1号掘立柱建物

1 褐色土層 FPを多量、ローム粒を少量含む。

2 黒褐色土層 FPを多量、黒色土を少量含む。

第81図 B区1号掘立柱建物

第3章 検出された遺構と遺物

B区2号掘立柱建物 (第82図 PL20)

位置 760-805 方位 N-85°-W

形状 柱間が1間×1間の長方形。

規模 2.54×2.64m P1 50×46×28cm P2 55×45×39cm
P3 59×54×41cm P4 55×50×39cm

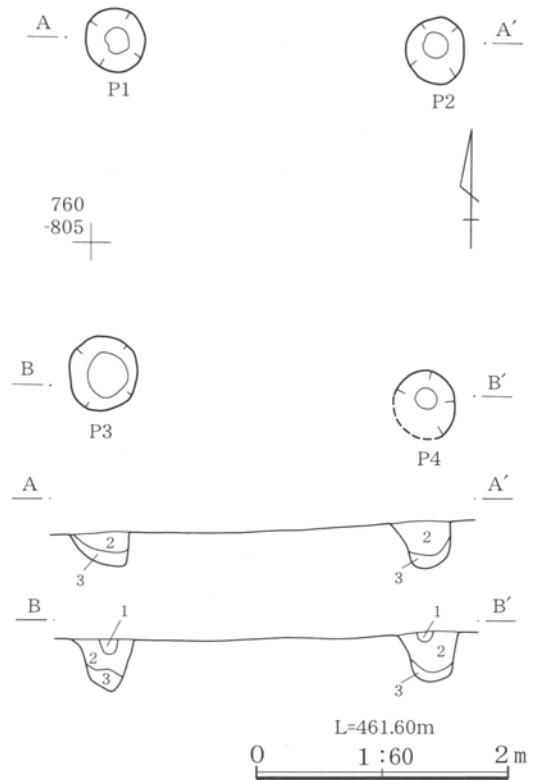
重複 B区26号土坑→B区2号掘立柱建物

埋土 柱穴の埋土にはFPを含む。

遺物 なし。

所見 埋土から6世紀中葉以降のものと考えられる。

- B区2号掘立柱建物
- 1 黒褐色土層 FPを微量含む。
 - 2 黒褐色土層 FPを多量含む。
 - 3 黒褐色土層 FPをやや多量含む。



第82図 B区2号掘立柱建物

B区3号掘立柱建物 (第83図 PL21)

位置 760-810 方位 N-30°-W

形状 柱間が1間×1間の長方形。

規模 2.38×2.00m P1 36×35×17cm P2 36×30×18cm
P3 31×30×19cm P4 36×35×8cm

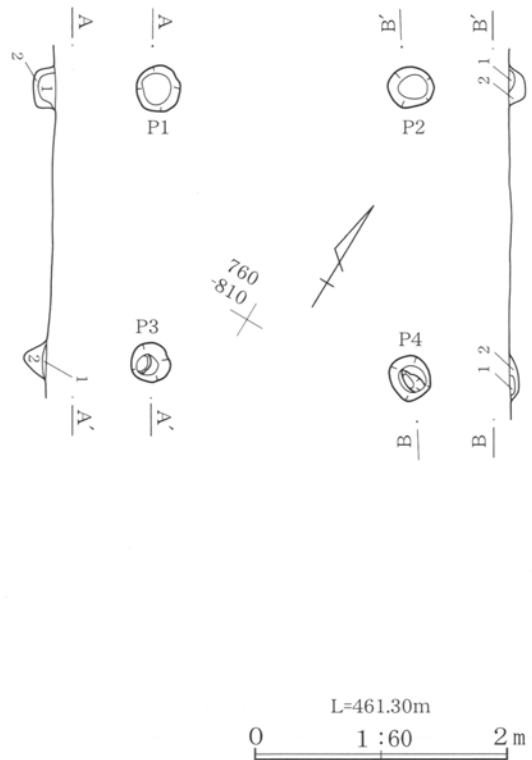
重複 B区30号土坑→B区3号掘立柱建物。

埋土 柱穴の埋土にはFPを含む。

遺物 なし

所見 埋土から6世紀中葉以降のものと考えられる。

- B区3号掘立柱建物
- 1 黒褐色土層 FPを多量含む。
 - 2 褐色土層 ロームを多量含む。



第83図 B区3号掘立柱建物

3. 古墳～平安時代の遺構と遺物

B区4号掘立柱建物 (第84図 PL21)

位置 755-815 方位 N-40°-W

形状 柱間が1間×1間の長方形。

規模 3.00×2.72m P1 55×50×14cm P2 80×48×25cm P3 55×46×21cm P4 52×50×13cm

重複 B区32・33号土坑→B区4号掘立柱建物。

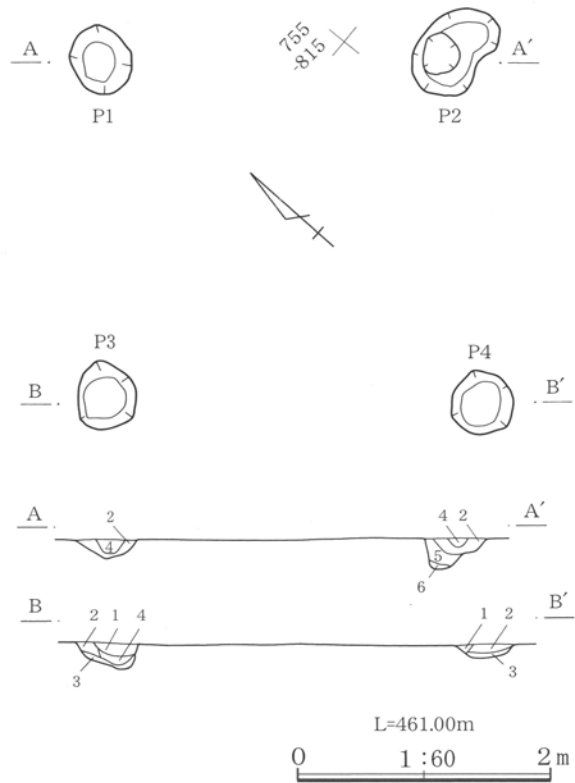
埋土 柱穴の埋土にはFPを含む。

遺物 なし。

所見 埋土から6世紀中葉以降のものと考えられる。

B区4号掘立柱建物

- 1 黒褐色土層 ローム漸移層土をやや多量含む。
- 2 黒色土層 FPを多量含む。
- 3 黒褐色土層 ローム粒をやや多量含む。
- 4 黒色土層 FPを少量含む。
- 5 黒色土層 FPを多量含む。
- 6 褐色土層 ローム主体土。



第84図 B区4号掘立柱建物

B区5号掘立柱建物 (第85図 PL21)

位置 748-823 方位 N-48°-W

形状 柱間が1間×1間の長方形。

規模 2.50×2.46m P1 55×35×11cm P2 65×45×19cm P3 60×45×12cm P4 54×26×15cm

重複 なし。

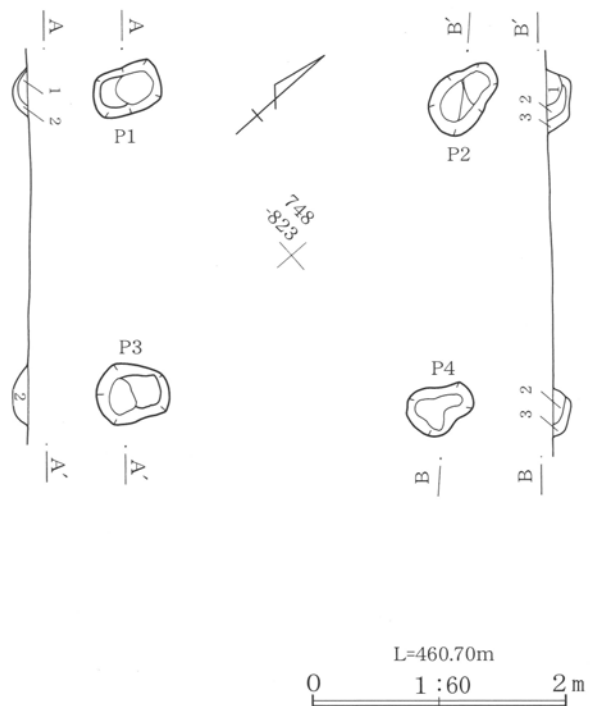
埋土 柱穴の埋土にはFPを含む。

遺物 なし。

所見 埋土から6世紀中葉以降のものと考えられる。

B区5号掘立柱建物

- 1 黒褐色土層 FPをやや多量含む。
- 2 黒褐色土層 FPを多量含む。
- 3 褐色土層 ソフトローム主体土。



第85図 B区5号掘立柱建物

第3章 検出された遺構と遺物

B区6号掘立柱建物 (第86図 PL21)

位置 745-815 方位 N-73°-W

形状 2間×3間の長方形か。

規模 調査範囲内では4.78×3.70mである。 P1 55×50×24cm P2 55×45×25cm P3 46×45×26cm P4 79×55×41cm P5 60×39×

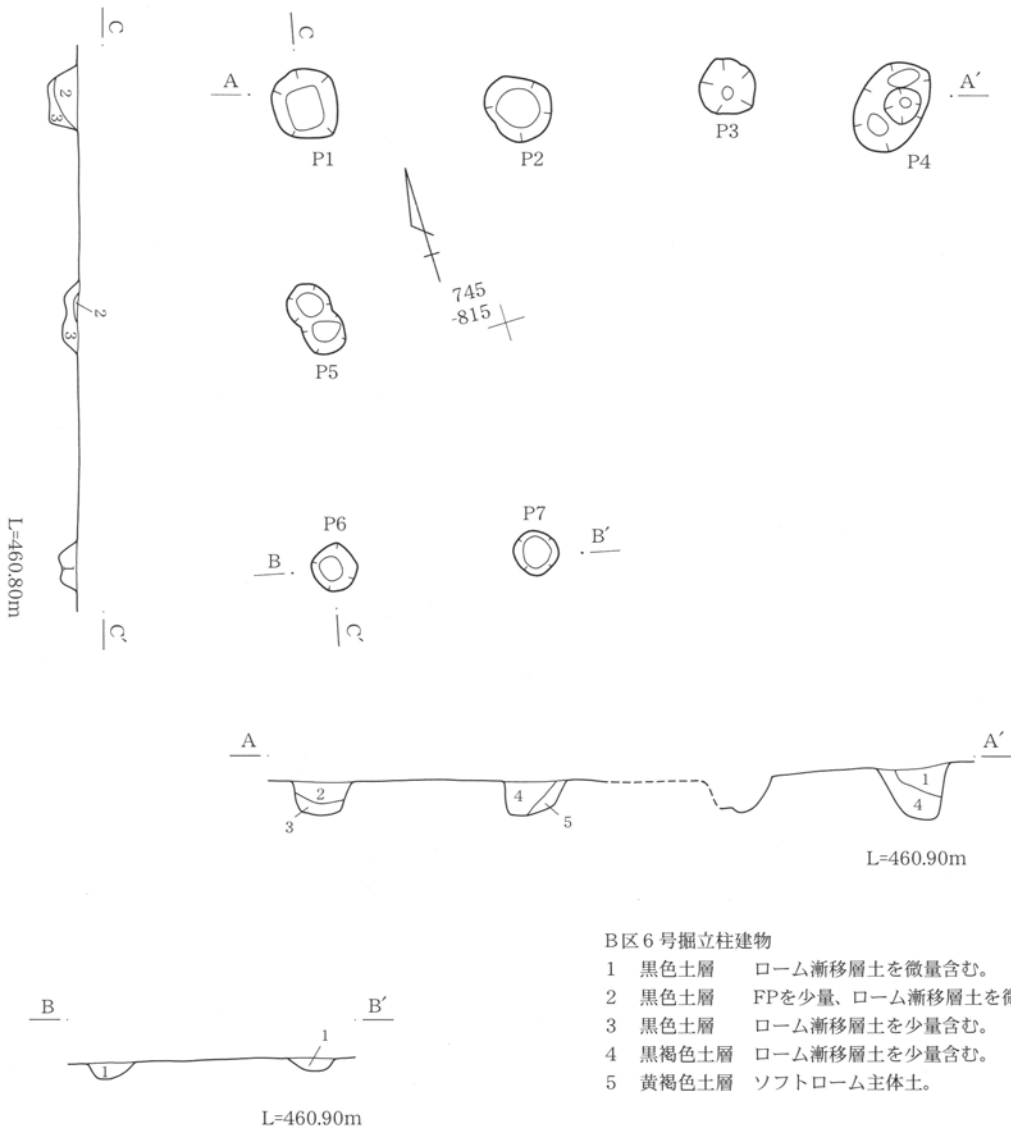
12cm P6 27×26×14cm P7 36×35×10cm

重複 B区35号土坑→B1号住居→B区6号掘立柱建物

埋土 柱穴の埋土にはFPを含む。

遺物 なし。

所見 埋土から6世紀中葉以降のものと考えられる。



第86図 B区6号掘立柱建物

3. 古墳～平安時代の遺構と遺物

C区1号掘立柱建物 (第87図 PL21)

位置 760-725 方位 N-17°-W

形状 柱間は1間×2間の長方形。

規模 2.94×2.70m P1 38×32×52cm P2 57×52×31cm P3 36×30×45cm P4 45×44×76cm P5 33×30×75cm P6 51×47×

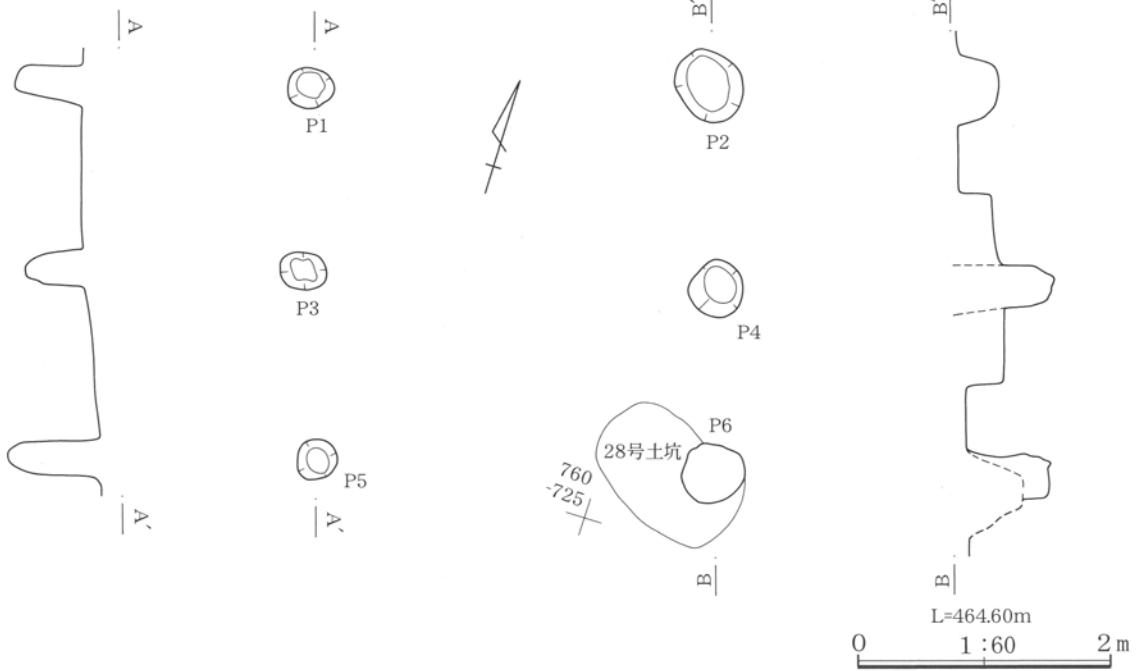
64cm

重複 C区3号住居→C区1号掘立柱建物

埋土 柱穴の埋土にはFPを含まない。

遺物 なし。

所見 埋土や重複関係から6世紀前半～中葉であると考えられる。



第87図 C区1号掘立柱建物

C区4号掘立柱建物 (第88図 PL21)

位置 757-727 方位 N-10°-W

形状 柱間は2間×1間の長方形。

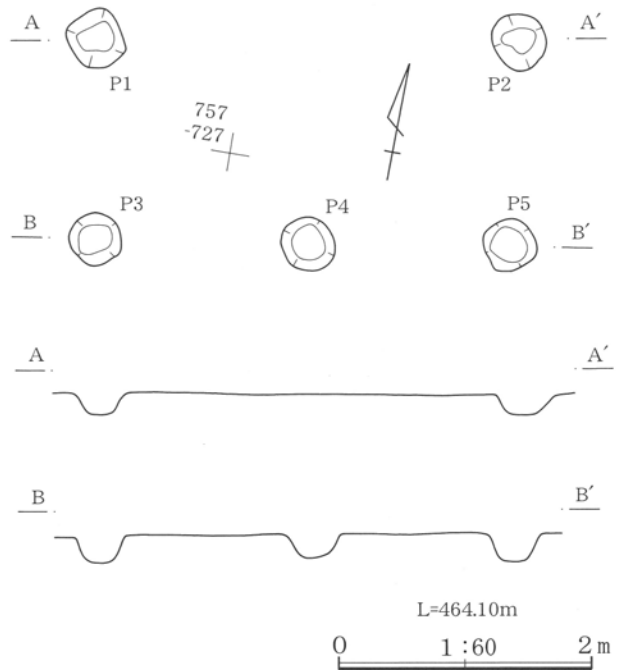
規模 3.30m×1.60m P1 49×42×16cm P2 45×41×15cm P3 43×42×20cm P4 44×40×17cm P5 40×39×21cm

重複 C区3号住居と重複するが新旧関係は不明。

埋土 埋土にはFPを含まない。

遺物 なし。

所見 埋土から6世紀中葉以前と考えられる。



第88図 C区4号掘立柱建物

第3章 検出された遺構と遺物

C区2号掘立柱建物(第89図 PL21)

位置 785-745 方位 N-15°-W

形状 柱間は2間×2間で正方形に近い。

規模 4.90×4.80m P1 76×59×30cm P2
61×47×29cm P3 63×47×26cm P4 74×
49×24cm P5 112×80×30cm P6 73×
40×28cm P7 72×50×33cm P8 51×49×

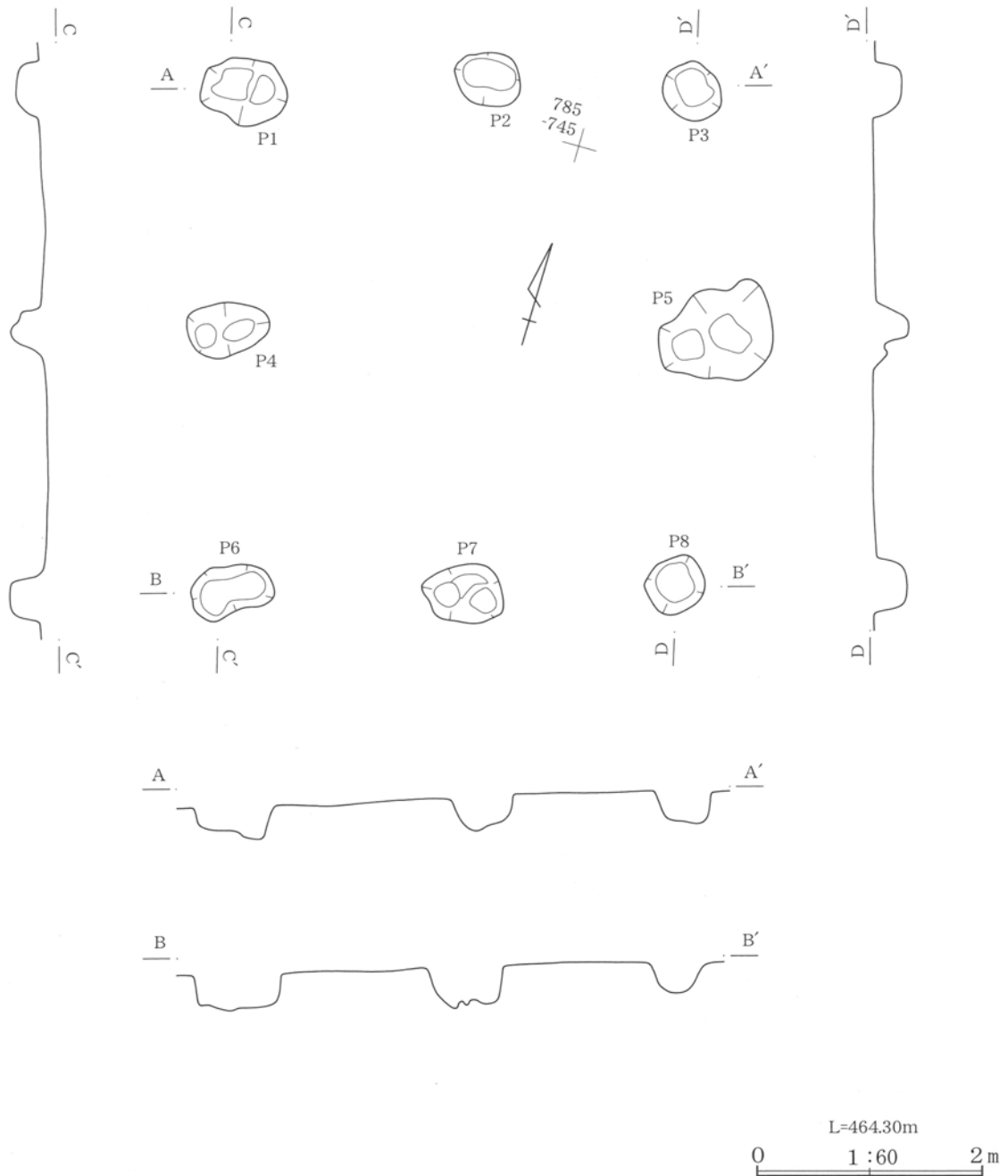
25cm

重複 なし。

埋土 柱穴の埋土にはFPを含まない。

遺物 なし。

所見 埋土から6世紀中葉以前と考えられるが、詳細な時期は不明である。



第89図 C区2号掘立柱建物

3. 古墳～平安時代の遺構と遺物

C区3号掘立柱建物 (第90図 PL21)

位置 777-742 方位 N-20°-W

形状 柱間が1間×1間の長方形。

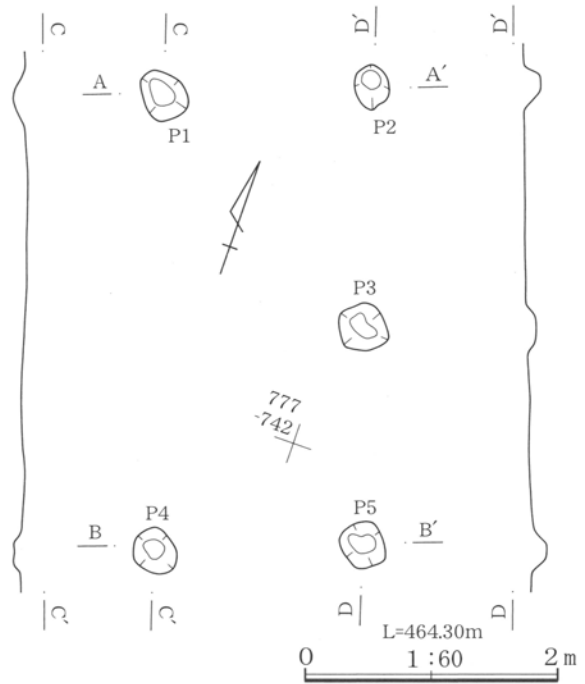
規模 3.60×1.80m P1 42×36×7cm P2 36×26×13cm P3 43×39×5cm P4 39×30×4cm P5 36×33×6cm

重複 なし。

埋土 柱穴の埋土にはFPを含まない。

遺物 なし。

所見 埋土から6世紀中葉以前と考えられる。



第90図 C区3号掘立柱建物

C区5号掘立柱建物 (第91図 PL21)

位置 800-750 方位 N-26°-E

形状 柱間が2間×1間の長方形

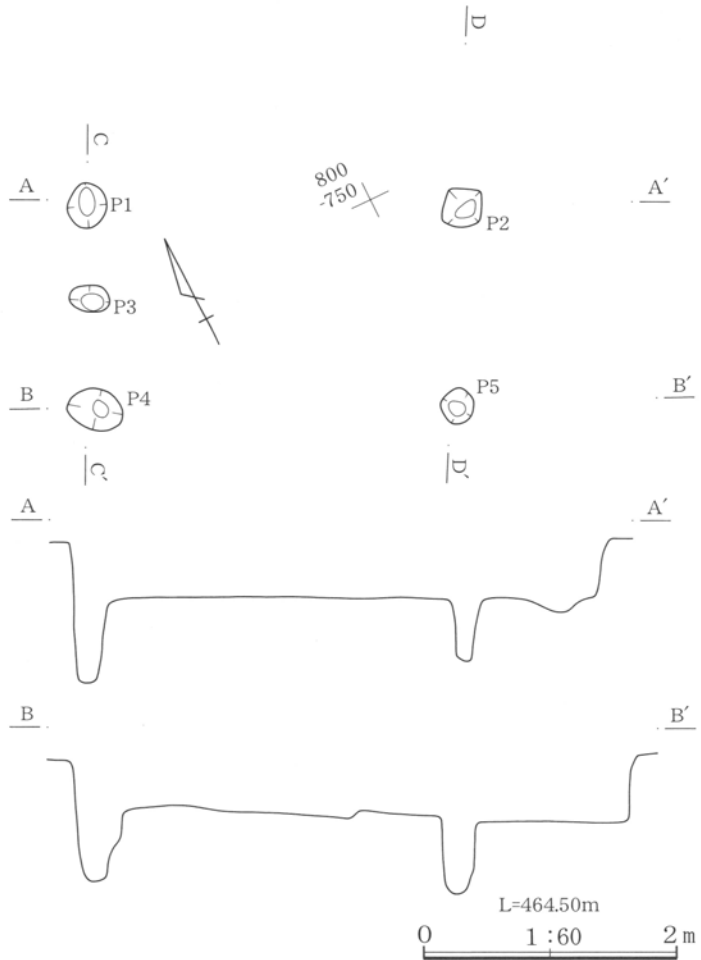
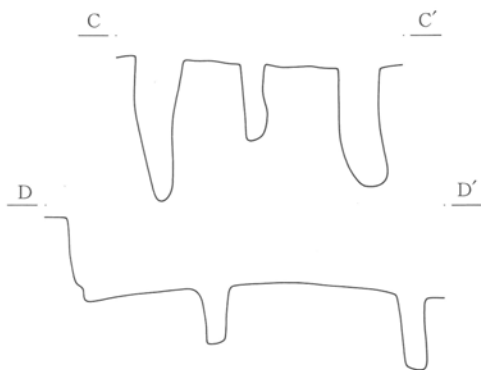
規模 2.98×1.64m P1 36×30×112cm P2 35×30×57cm P3 32×20×100cm P4 45×34×54cm P5 29×25×56cm

重複 C区5号掘立柱建物→C区12号住居

埋土 埋土にはFPを含まず。

遺物 なし。

所見 埋土および重複関係から6世紀中葉～9世紀第4四半期の遺構と考えられる。



第91図 C区5号掘立柱建物

第3章 検出された遺構と遺物

(4) 古墳

A区1号古墳 (第92~98図 PL22・51~53)

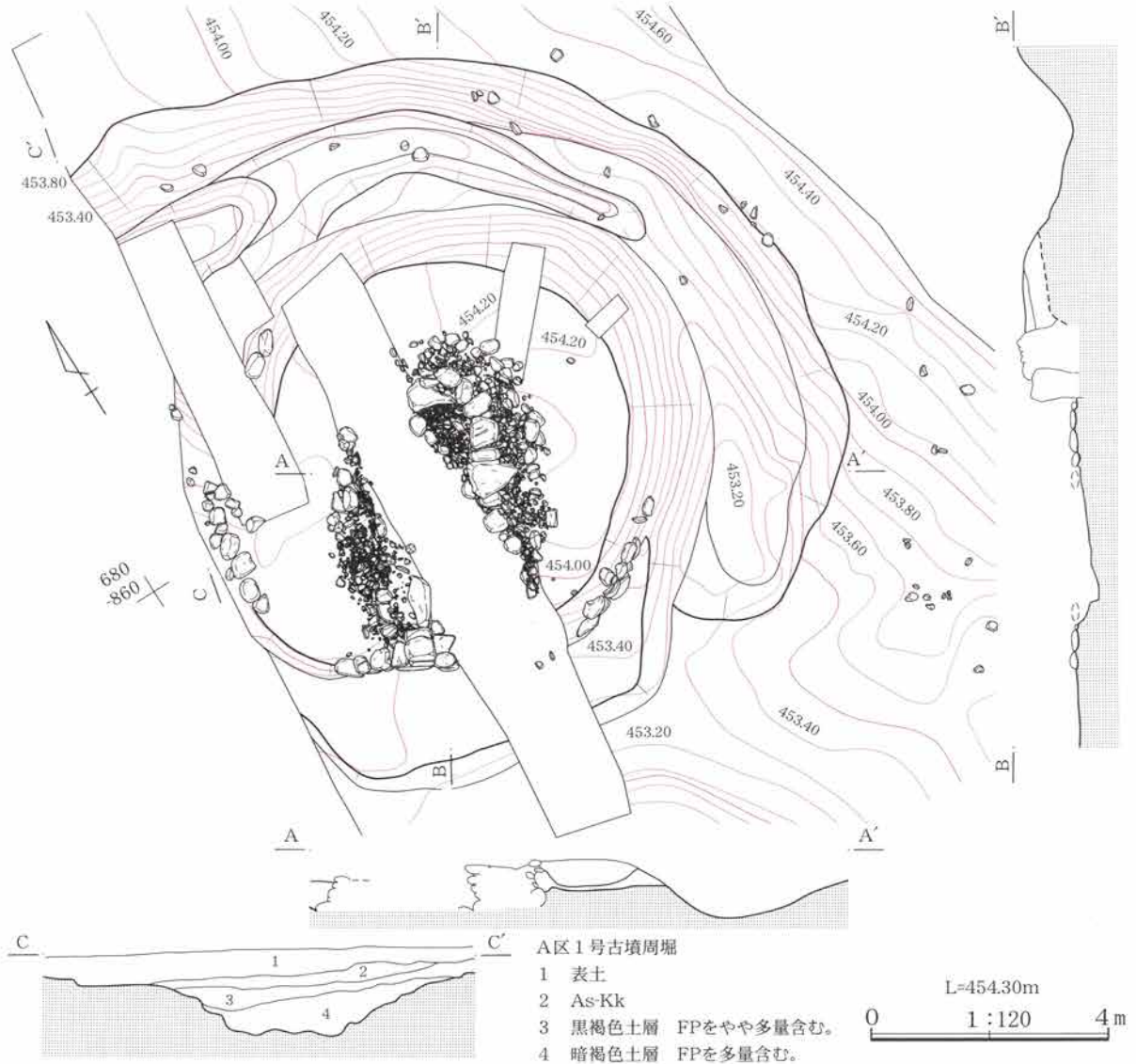
位置 A区の北端、680-860グリッドに位置する。付近の標高は454mを測る。北側17mにはB区1号古墳が存在する。調査前は畑地だったため、現状では墳丘を確認することができなかった。古墳の北側には石室や裏込めに使用されていたと思われる礫が散乱していた。

墳丘と外部施設 墳丘は、大半が調査以前に消失、また本調査前の試掘の際に大きく破壊されてしまっていた。このため、墳丘が残存していたのは奥壁の北側と玄室右壁の東側にかけての部分のみであった。残りのよい部分では旧地表面より56cmの高さ

まで遺存する。形状は、葺石の根石部分で計測すると直径約8mの円墳である。

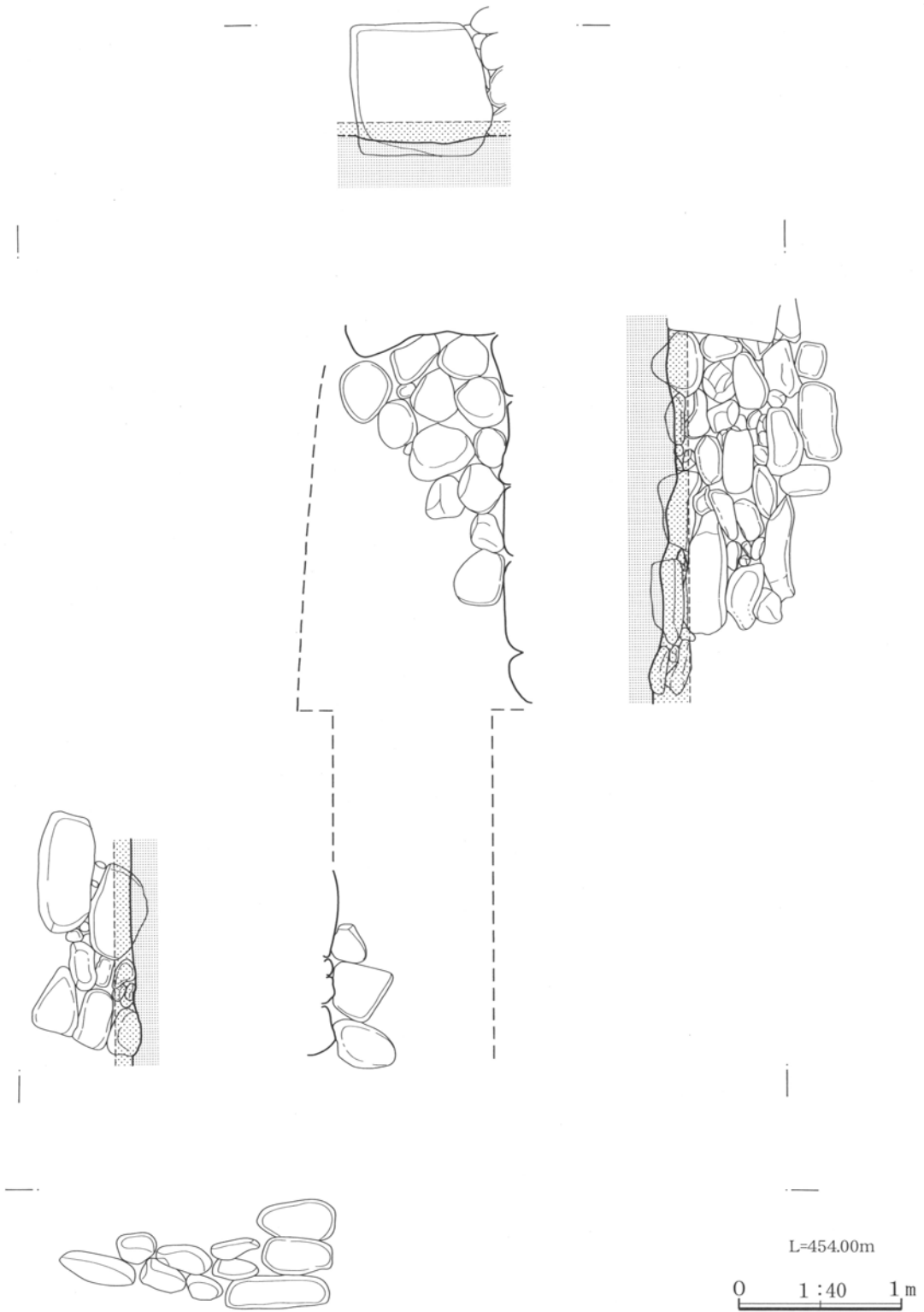
葺石はほとんどが失われていたが、石室開口部の西側と墳丘の南側で根石とその上に2段ほど積み上げた状態で残存している。周堀内には崩落したと思われる礫が確認できた。墳丘正面の葺石は、他の部分と比べると直線的に並べられているので、前庭を意識した構造であると考えられる。

周堀は、調査区域が限られていたため全容を明らかにすることができなかった。石室入口付近が大きくとぎれ、それ以外の部分は古墳を取り囲んでいると考えられる。墳丘北側では幅3.5m、深さ1m、東側では幅3.6m、深さ0.7mである。埋土の上層に



第92図 A区1号古墳全体図

3. 古墳～平安時代の遺構と遺物



第93図 A区1号古墳石室

As-Kkが堆積している。

主体部の構造 石室は自然石乱石積両袖型横穴式石室である。開口方向はS-31°-Wである。石室の規模は全長4.60mを測る。石室の破壊が著しいため、

羨道および玄室の計測は不可能である。

石室入口には、舗石の上に扁平な川原石が1段積みまれている。これは、石室閉塞石が残されているものと思われる。

第3章 検出された遺構と遺物

羨道は左壁が長さ1.5m、高さ0.7m残っている。石室入口は川原石を3段小口積みにし、入り口から1mの部分では2段横積みしている。

玄室は、奥壁と右壁一部を残している。奥壁は高さ80cm、幅85cmの輝石安山岩を地山に平積みしている。側壁は、輝石安山岩が主体で一部変玄武岩が使用されている。積み方は小口積みが主体であり一部横積みされている。

床面は、5cm大の玉砂利が15cmの厚さで敷き詰められていた。その下部には扁平な川原石を主体とした舗石面を確認することができた。舗石に使用された石材は輝石安山岩で、大きさは25~42cmである。なお石室展開図中の平面図は舗石面、側壁立面図は石室構築面を掲載している。

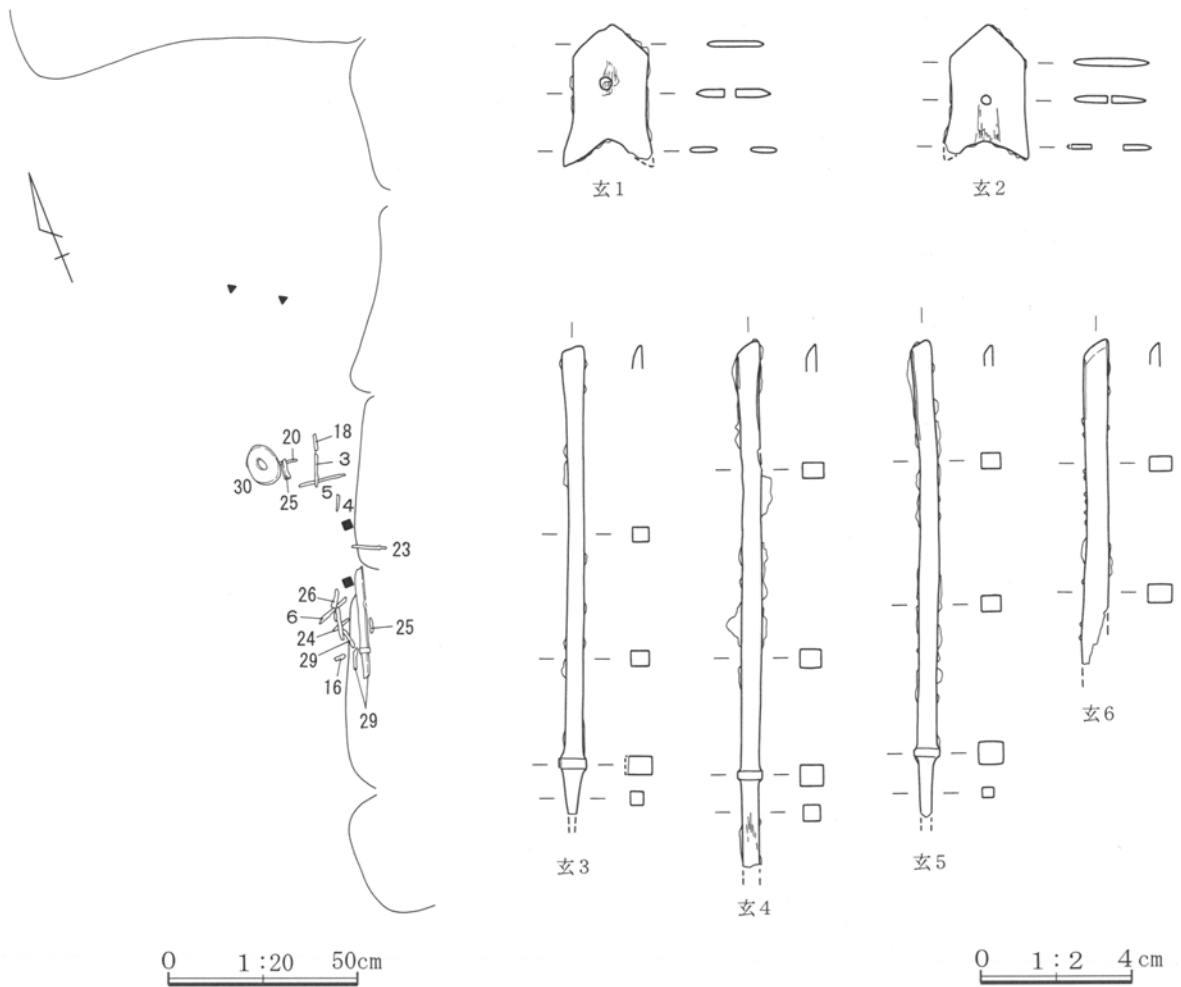
出土遺物 玄室からは、刀1、鏢2、刀子4、鉄鏃24、耳環1、ビーズ玉6などが出土している。出

土位置は右壁際の南寄りである。直刀(玄室-29)は鋒を北、刃部を左壁に向けた状態で出土した。人骨は玄室中央やや北よりから出土した。周堀からは土師器坏・盤、須恵器坏・蓋・瓶・短頸壺・長頸壺・平瓶・甕などが出土している。掲載遺物の他にも須恵器・甕が多数出土した。(観P.144・145・148・149)

石室の構築状況 石室裏込は、主として5cm~人頭大の輝石安山岩を使用し、壁石を馬蹄形状に取り囲んでいる。範囲は主軸方向で0.8m、短軸方向で0.7mである。外縁は川原石を石垣状に積み上げている。

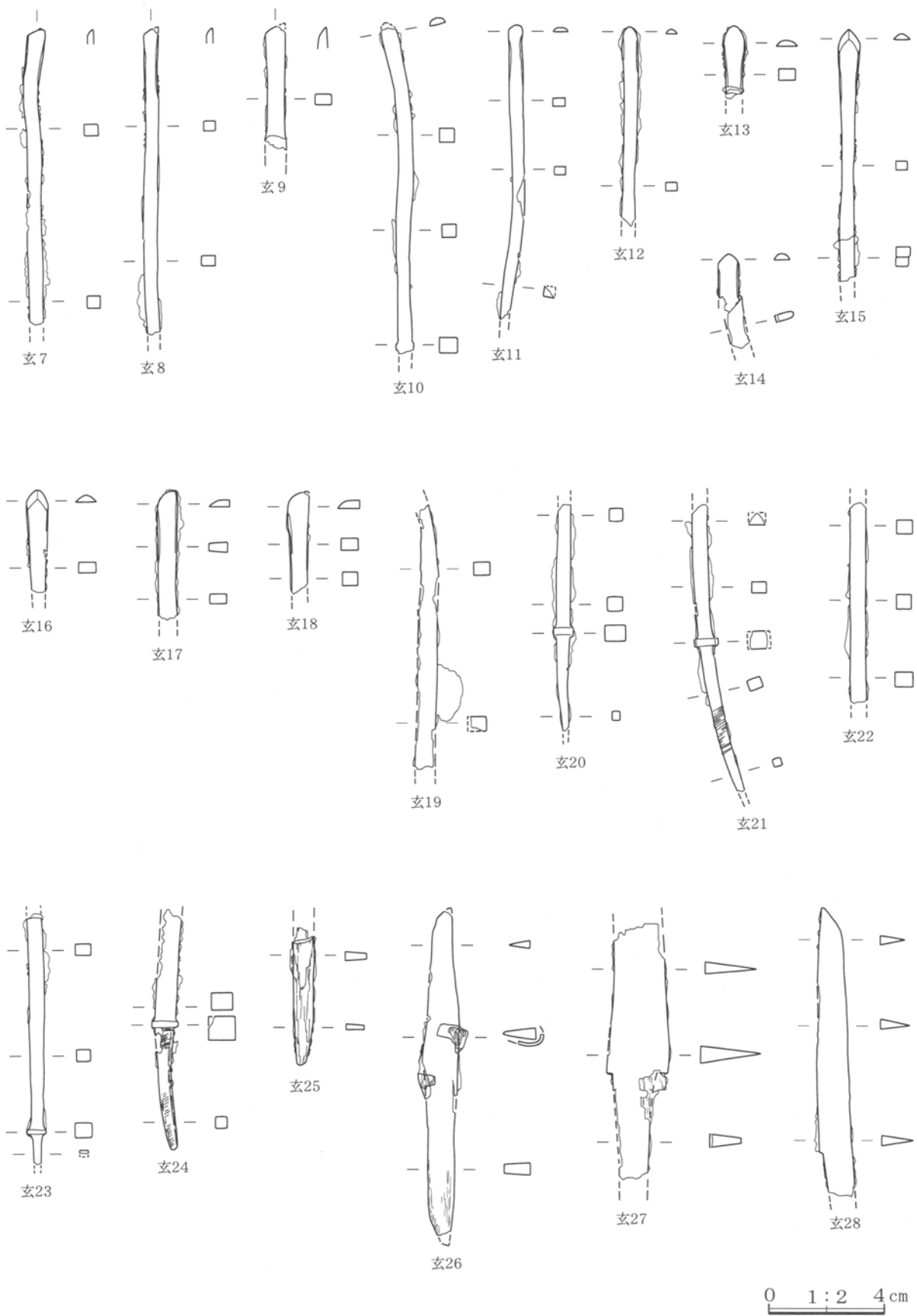
石室掘り方は、FPを含む黒褐色土の地山に直接根石を設置する構造であった。

所見 石室の形態や出土遺物から、7世紀代の古墳と考えられる。



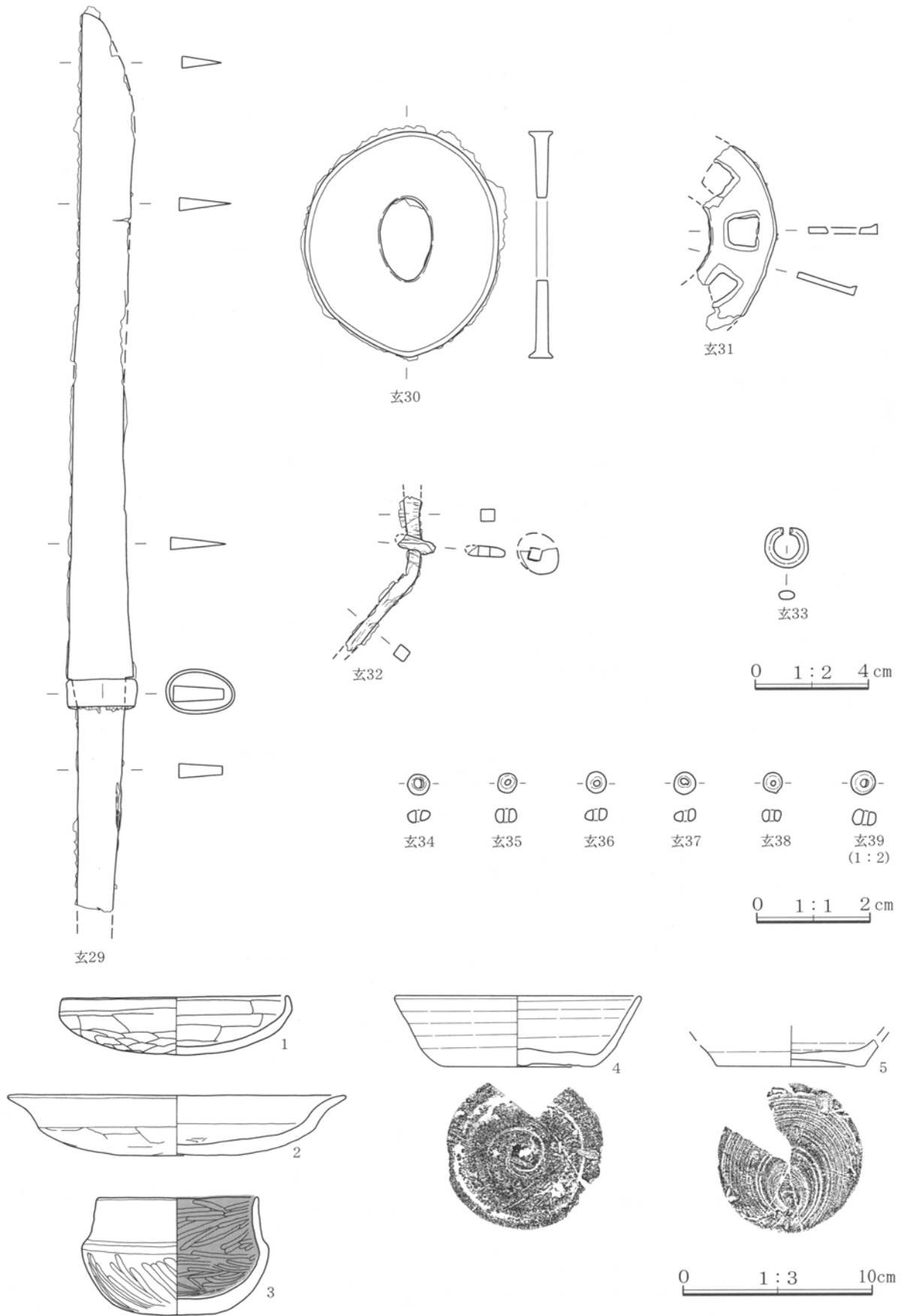
第94図 A区1号古墳玄室・玄室出土遺物(1)

3. 古墳～平安時代の遺構と遺物



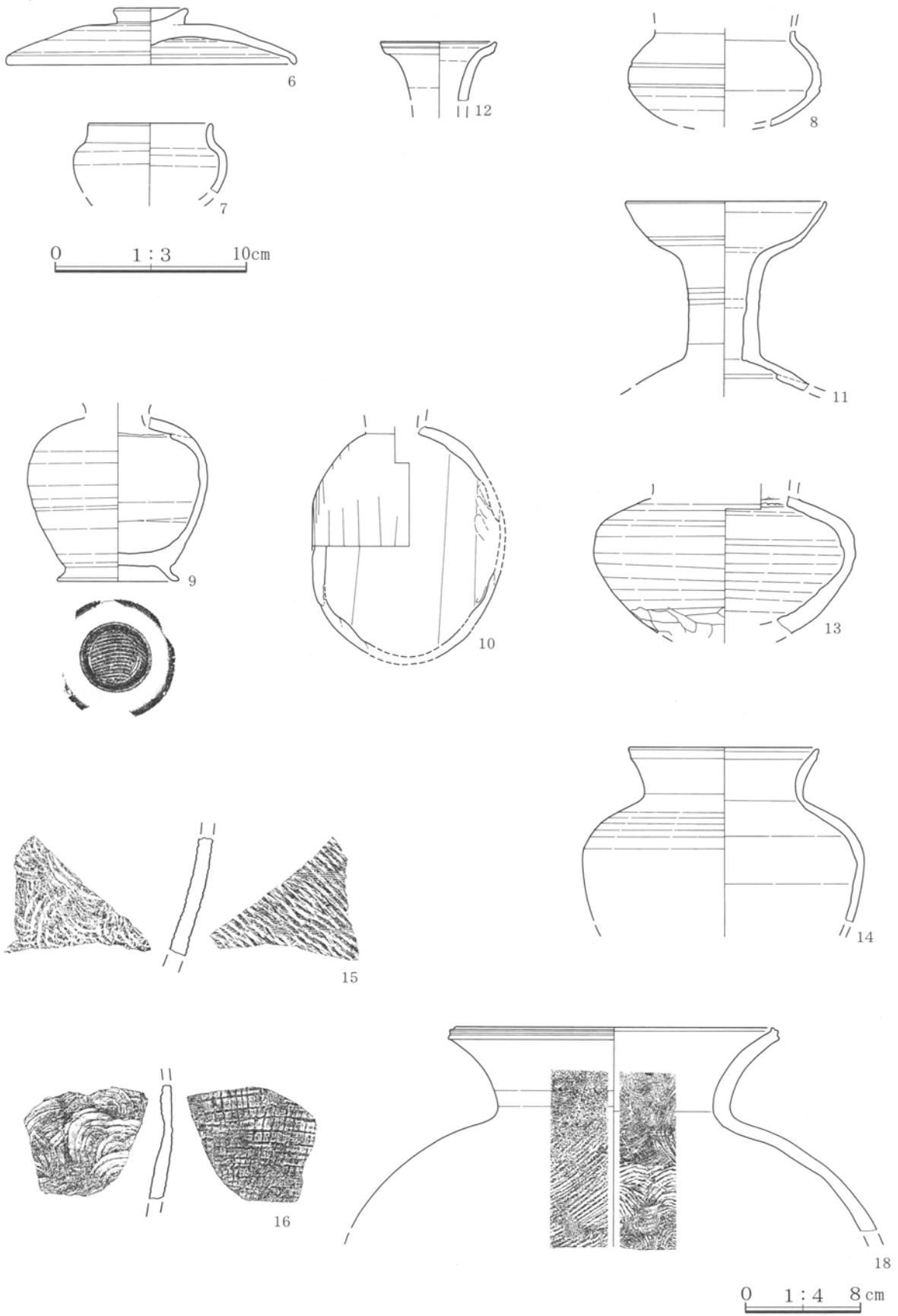
第95図 A区1号古墳玄室出土遺物(2)

第3章 検出された遺構と遺物

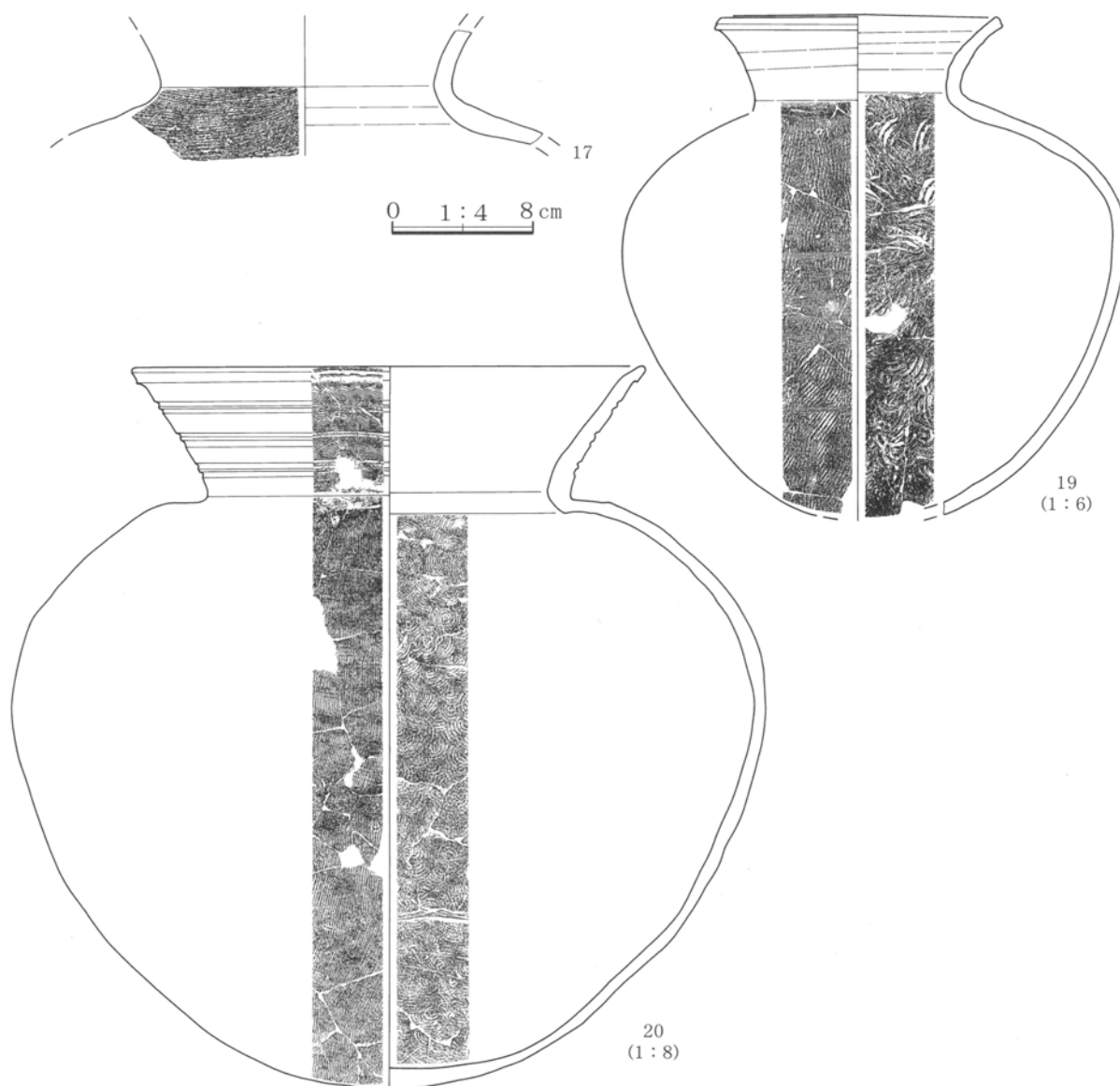


第96図 A区1号古墳玄室出土遺物(3)・石室外出土遺物(1)

3. 古墳～平安時代の遺構と遺物



第97図 A区1号古墳石室外出土遺物(2)



第98図 A区1号古墳石室外出土遺物（3）

A区2号古墳（第99～105図 PL23・24・54～57）

位置 A区の南端645～845グリッドに位置する。付近の標高は453mを測る。北側38mにはA区1号古墳が存在する。調査前は畑地として利用されていて、現状では墳丘の確認は不可能であった。調査区の南東隅には石室に使用されていたと思われる礫が散在していた。

墳丘と外部施設 墳丘の大半は調査以前に消失していたが、残りのよい部分では旧地表面から50cmの高さまで確認できた。形状は、葺石の根石部分で計

測すると直径約8mの円墳である。

葺石はほとんどが失われており、石室開口部の両側で2～3段ほど、それ以外は根石のみの遺存であった。周堀内には崩落したと思われる礫が確認できた。墳丘を正面から見ると、石室開口部両側の葺石は直線的に並べられ、前庭を意識しているものと考えられる。

周堀は石室入口付近が大きくとぎれている。それ以外の部分は古墳を取り囲んでいると思われるが、東側は調査区外のため全容は未確認である。墳丘西側では幅6.2m、深さ1.0m、北側では幅3.7m、深さ

3. 古墳～平安時代の遺構と遺物

0.8mである。FPを多量に含む黒褐色土で埋没していた。

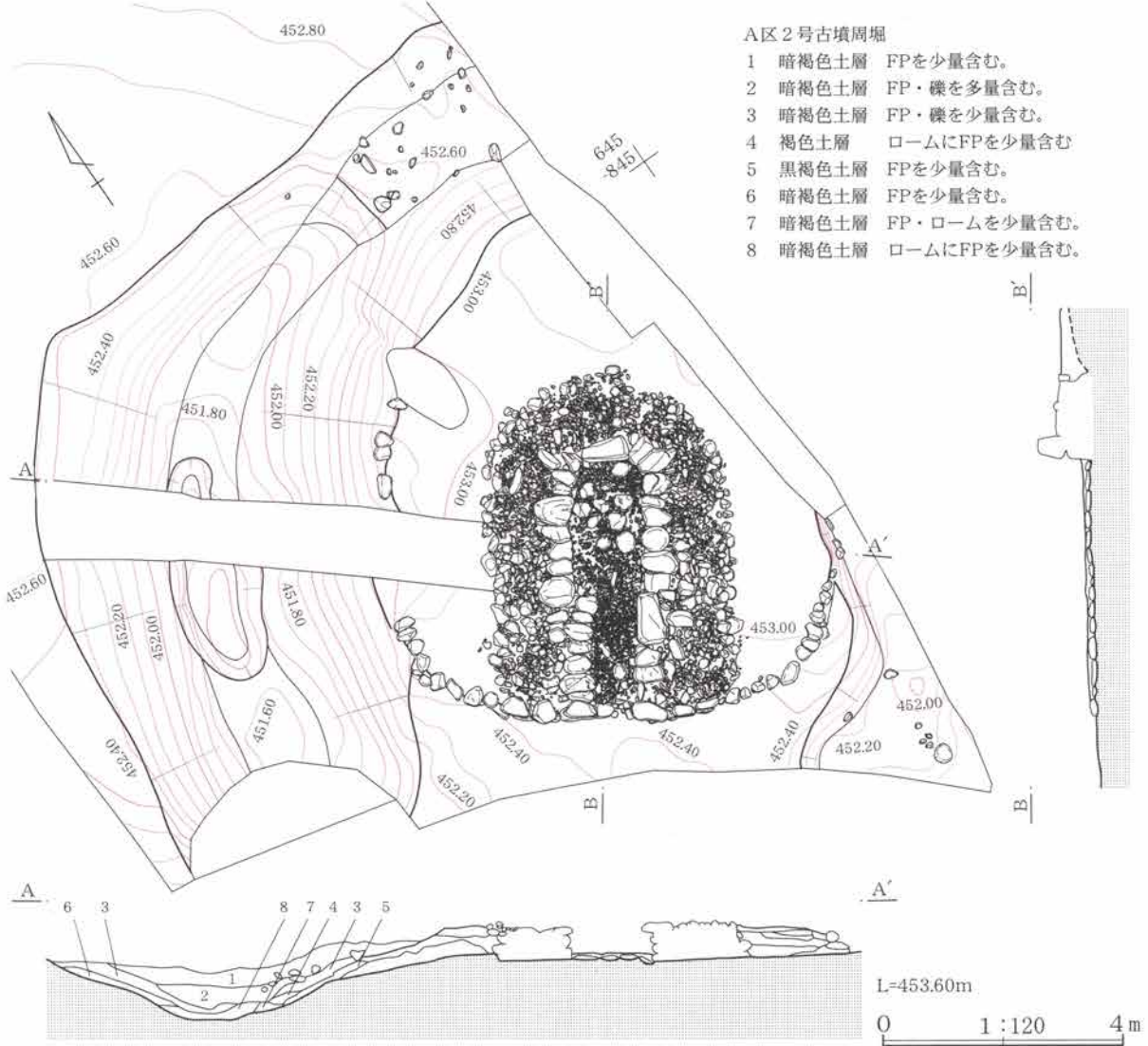
主体部の構造 石室は自然石乱石積両袖型横穴式石室である。開口方向はS-36°-Wである。石室の規模は全長4.34mを測る。羨道の長さは2.10m、幅は石室入口部で0.67m、奥部で0.82mを有する。玄室の規模は長さ2.25m、奥幅0.90m、前幅1.20mである。天井石の全ておよび壁石の上層部が失われているため、現存する高さは羨道部が0.55m、玄室が0.80mである。

羨道部は全体にわたって中小の礫が詰め込まれ、石室が閉塞されていた。玄室には同様の礫は認められないことから、この礫群は当時の閉塞状況を残しているものと考えられる。羨道入口は55cm大の川

原石を右壁で3段、左壁で2段積み上げ、入口構造を意識していると考えられる。

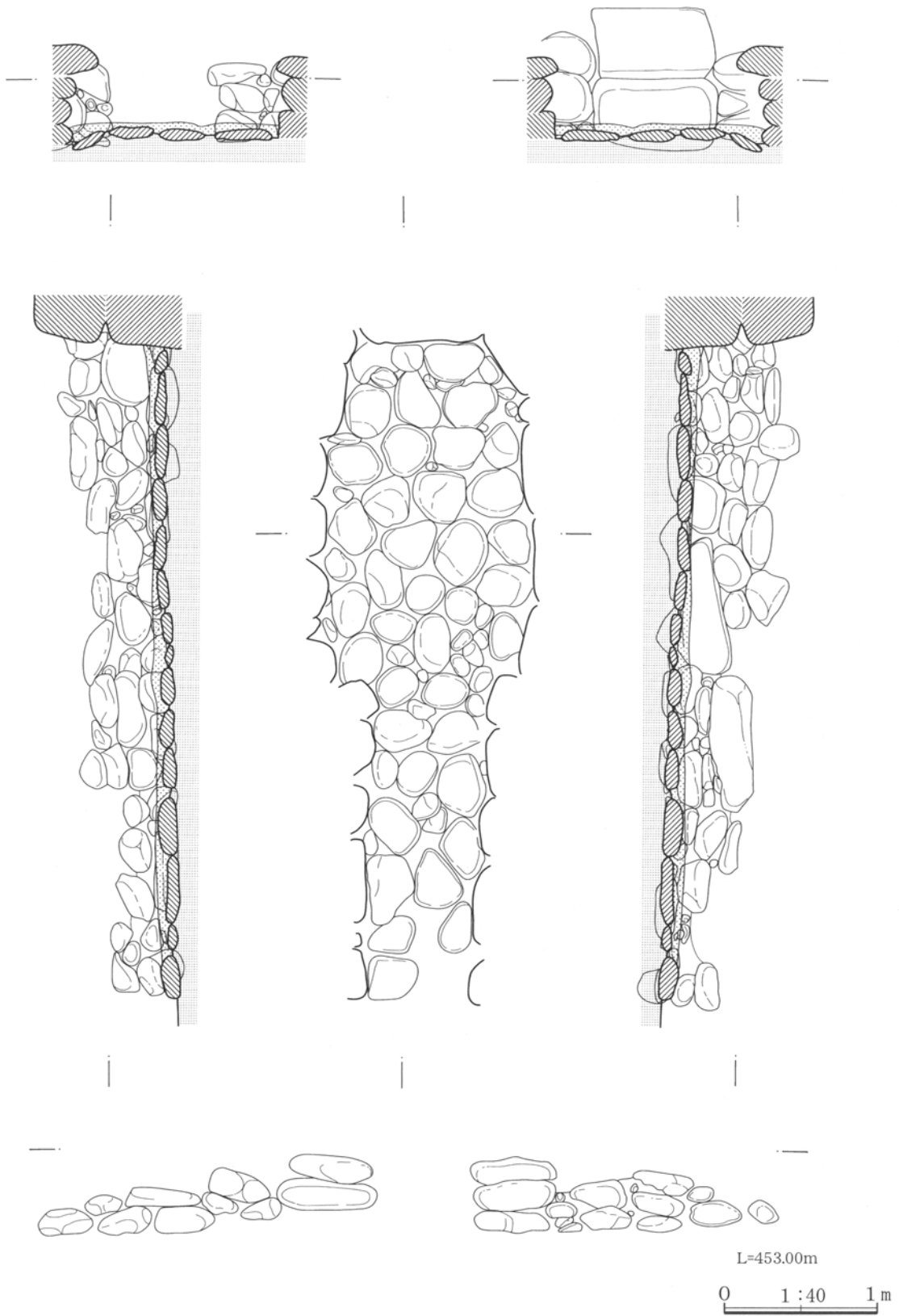
玄室はやや胴張りで、中心より20cm袖寄りの位置に最大幅を有する。奥幅は90cm、前幅は120cmで、差は30cmである。奥壁は、下段に幅82cm、高さ46cm、上段に幅77cm、高さ46cmの輝石安山岩を平積みしている。側壁は、右壁の袖付近で幅88cm、高さ34cmほどの石を横積みし、それ以外は小振りの石を小口積みしている。石材は輝石安山岩が主体で溶結凝灰岩・変玄武岩・かんらん岩なども混在している。

床面の遺存状況は良好で、5～15cm大の小円礫を含む暗褐色土が8cmほどの厚さで敷かれている。玄室から羨道にかけてほぼ同じレベルである。下部



第99図 A区2号古墳全体図

第3章 検出された遺構と遺物



第100図 A区2号古墳石室

には舗石面が確認された。20~50cmの扁平な輝石安山岩を、ほぼ水平な状態で地山に直接敷き詰めて

いる。なお、石室平面図には舗石面での状態を掲載している。

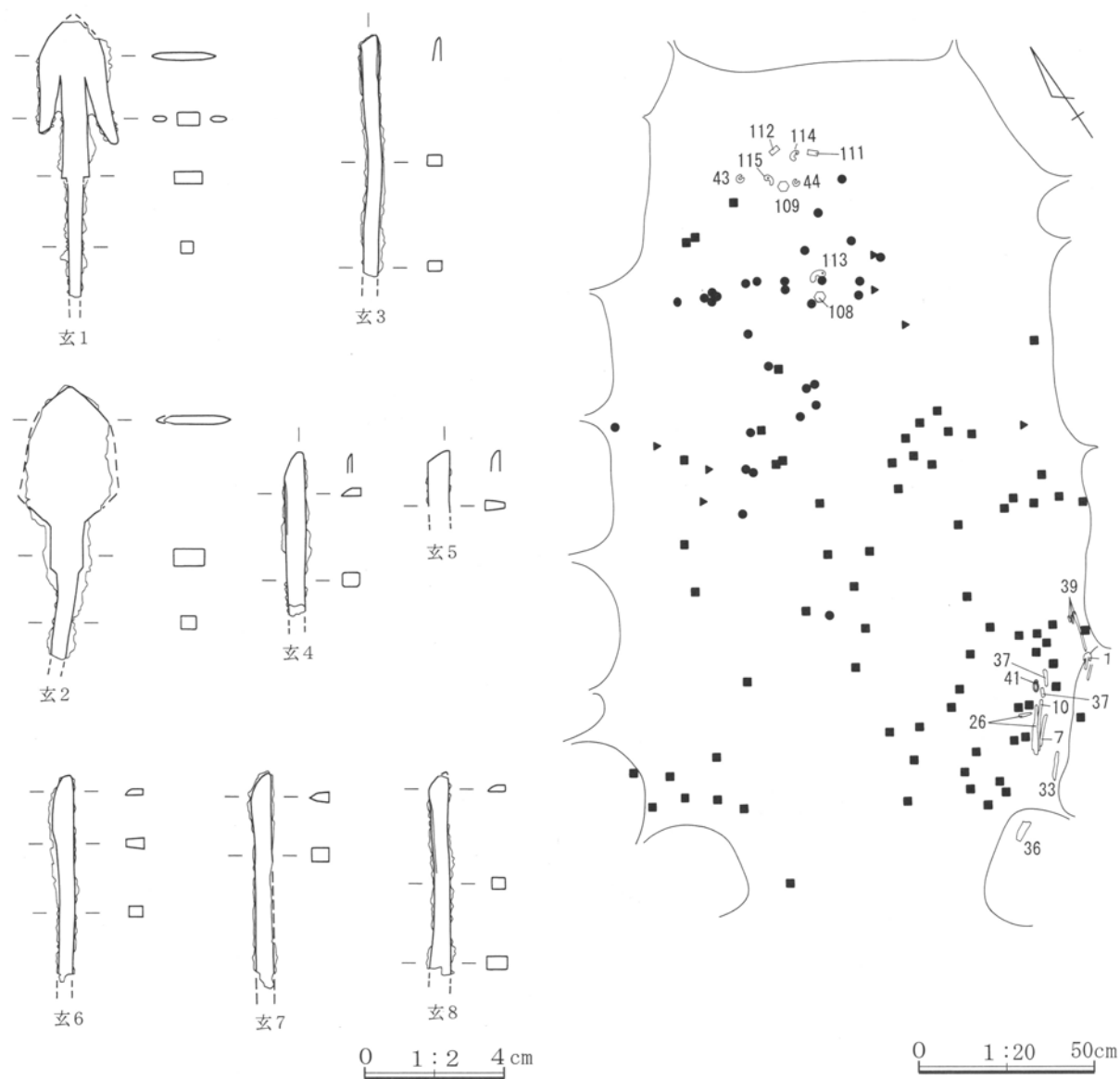
3. 古墳～平安時代の遺構と遺物

出土遺物 玄室からは、鉄製品と玉類が多量に出土している。鉄製品は床面に散在しているが、右壁際にやや集中している。刀子9、刀装具3、鉄鏃30、耳環2、勾玉5、切り子玉3、管玉2、小玉63などが出土した。耳環（玄43・44）および玉類は中央部の奥壁寄りに集中している。玉類の周辺からは人骨片も出土した。墳丘周辺および周堀からは、土師器坏、須恵器坏・長頸壺・平瓶・甕等がある。なお、掲載遺物のほかに周堀から須恵器甕の破片が多数出土している。（観P.145・149～151）

石室の構築状況 石室裏込は、5～45cmの輝石安山岩や変玄武岩を使用し、壁石の周りを馬蹄形状に取り囲んでいた。範囲は主軸方向1.1m、短軸方向1.0mで、外縁は川原石を石垣状に積み上げている。

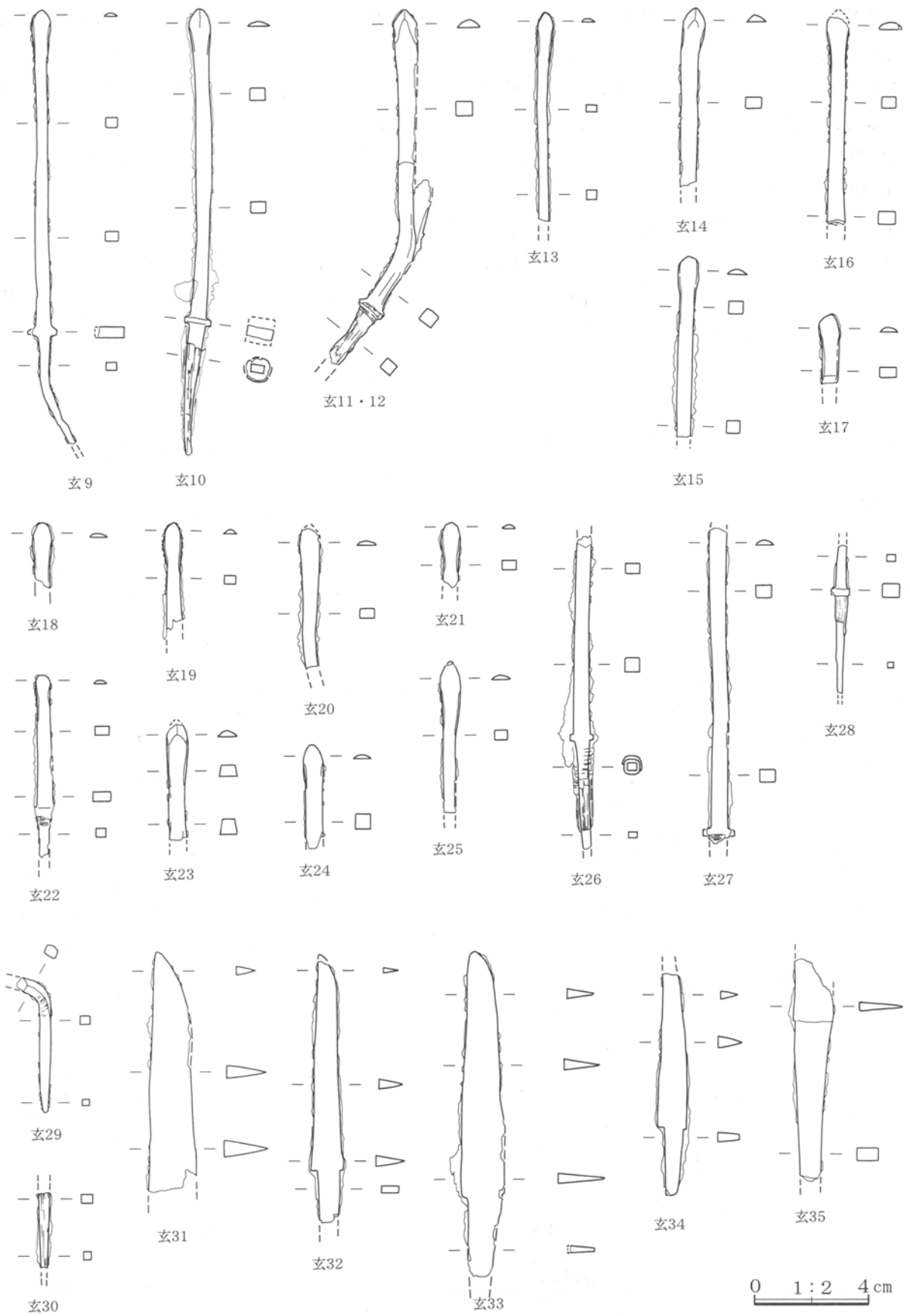
石室掘り方は、FPを含む暗褐色土上に直接根石を設置している。底面には根石を据えた深さ3～5cmの凹地が残っていた。

所見 古墳構築面の下層にはFPの1次堆積層が確認されている。出土遺物や石室の形態から7世紀代の古墳であると考えられる。



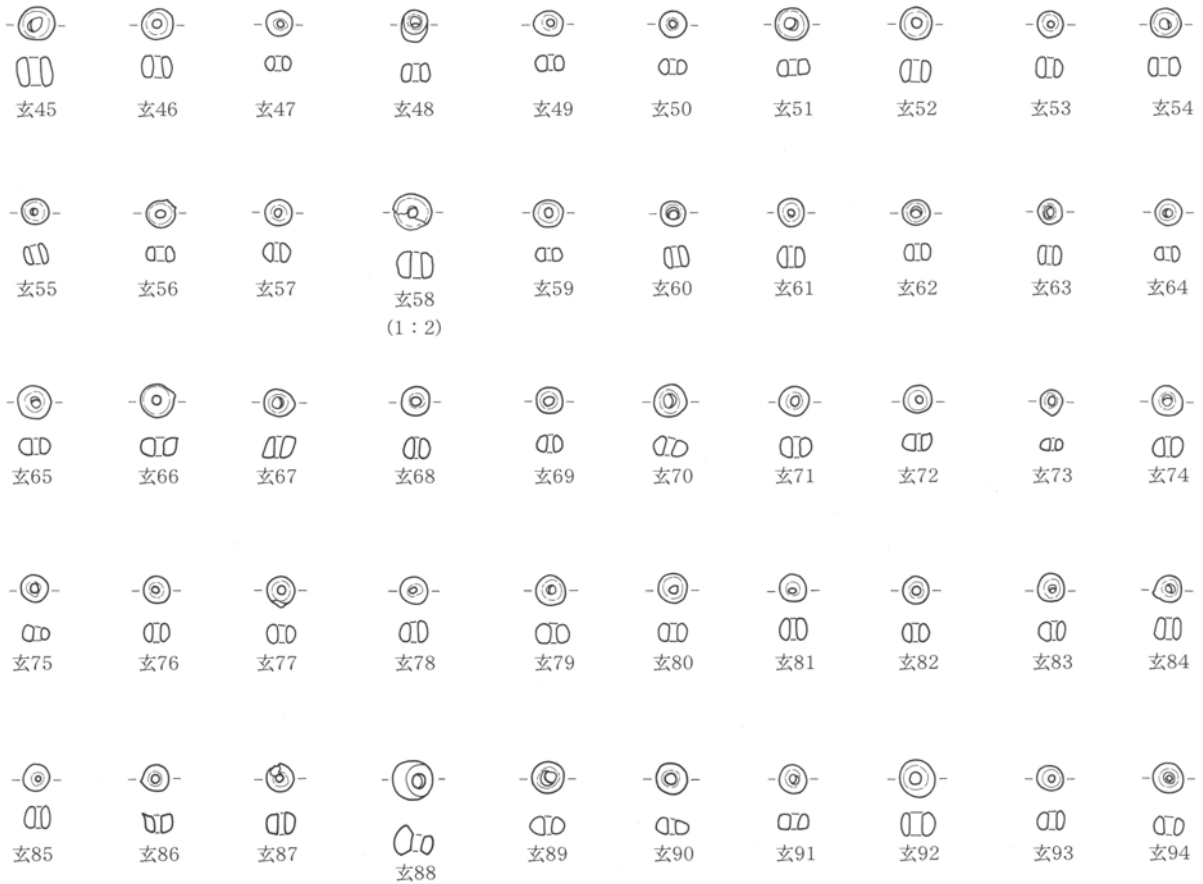
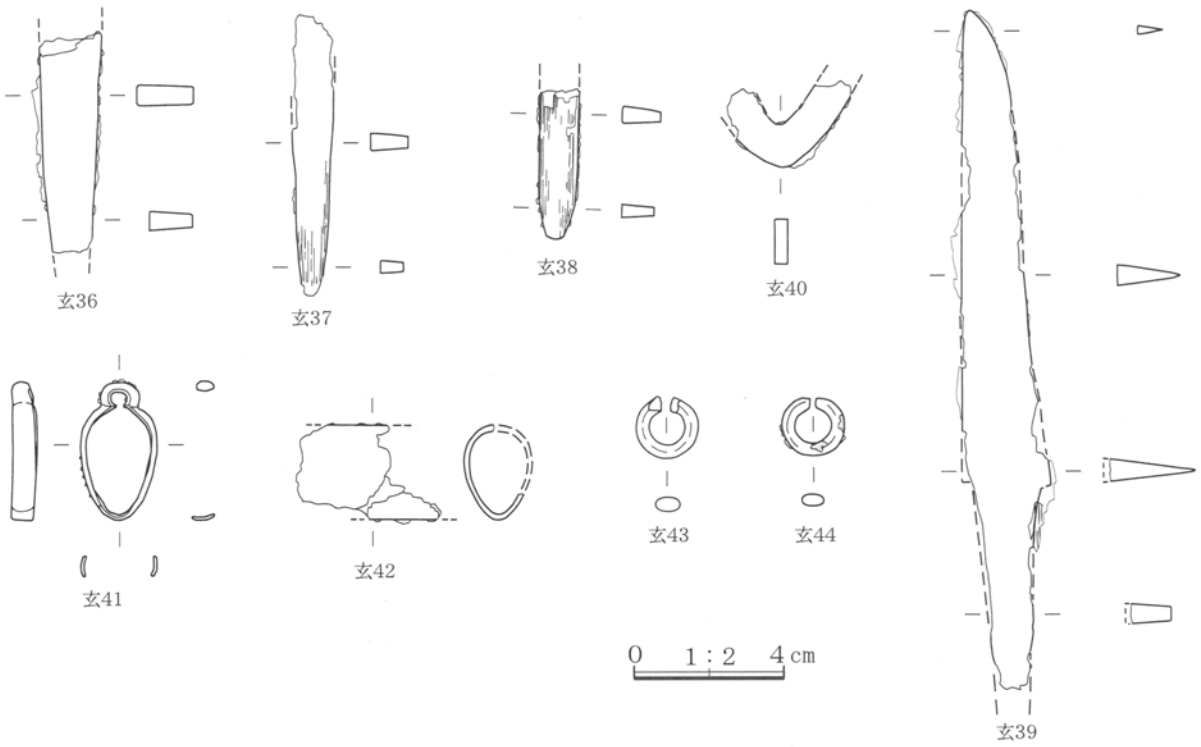
第101図 A区2号古墳玄室・玄室出土遺物（1）

第3章 検出された遺構と遺物



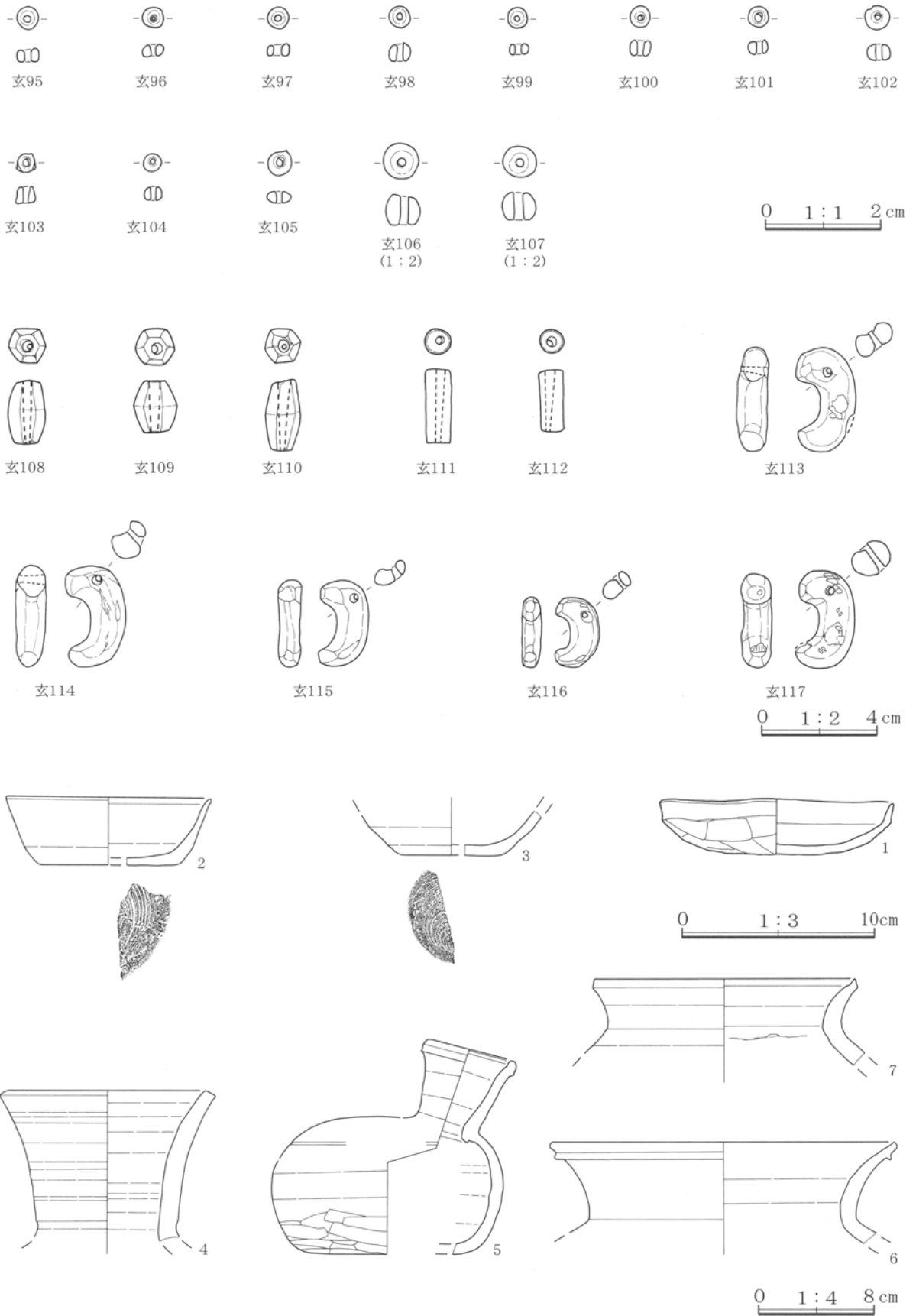
第102図 A区2号古墳玄室出土遺物(2)

3. 古墳～平安時代の遺構と遺物



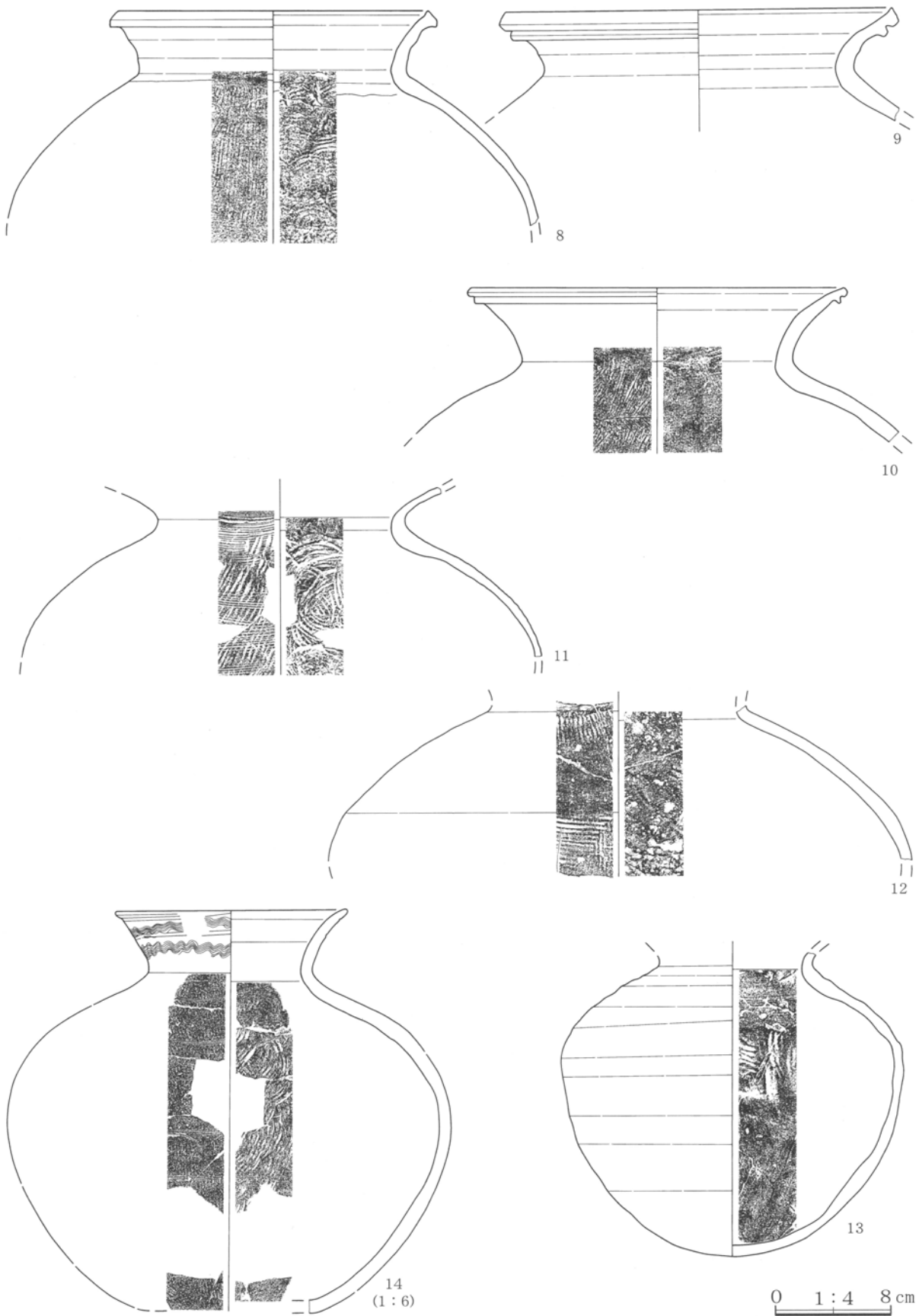
第103図 A区2号古墳玄室出土遺物(3)

第3章 検出された遺構と遺物



第104図 A区2号古墳玄室出土遺物(4)・石室外出土遺物(1)

3. 古墳～平安時代の遺構と遺物



第105図 A区2号古墳石室外出土遺物(2)

第3章 検出された遺構と遺物

B区1号古墳（第106～116図、PL24・25・58～64）

位置 B区の南端700-855グリッドに位置する。付近の標高は455mを測る。南側12mにはA区1号古墳が存在する。調査前は樹木が植えられ、墳丘の高まりを確認することはできなかった。石室入り口の南側には重機で掘削された痕跡があり、前庭が想定される部分が失われていた。この攪乱には天井石や裏込めに使われたと思われる礫が投棄されていた。A区1・2号古墳が比較的緩やかな斜面に構築されているのに対し、本古墳は東から西にかけて約13度下る地形に位置する。

墳丘と外部施設 墳丘の大半は調査以前にほとんど消失していたが、残りのよい部分では旧地表面から76cmほど確認できた。形状は、葺石の根石部分で計測すると直径約8mの円墳である。

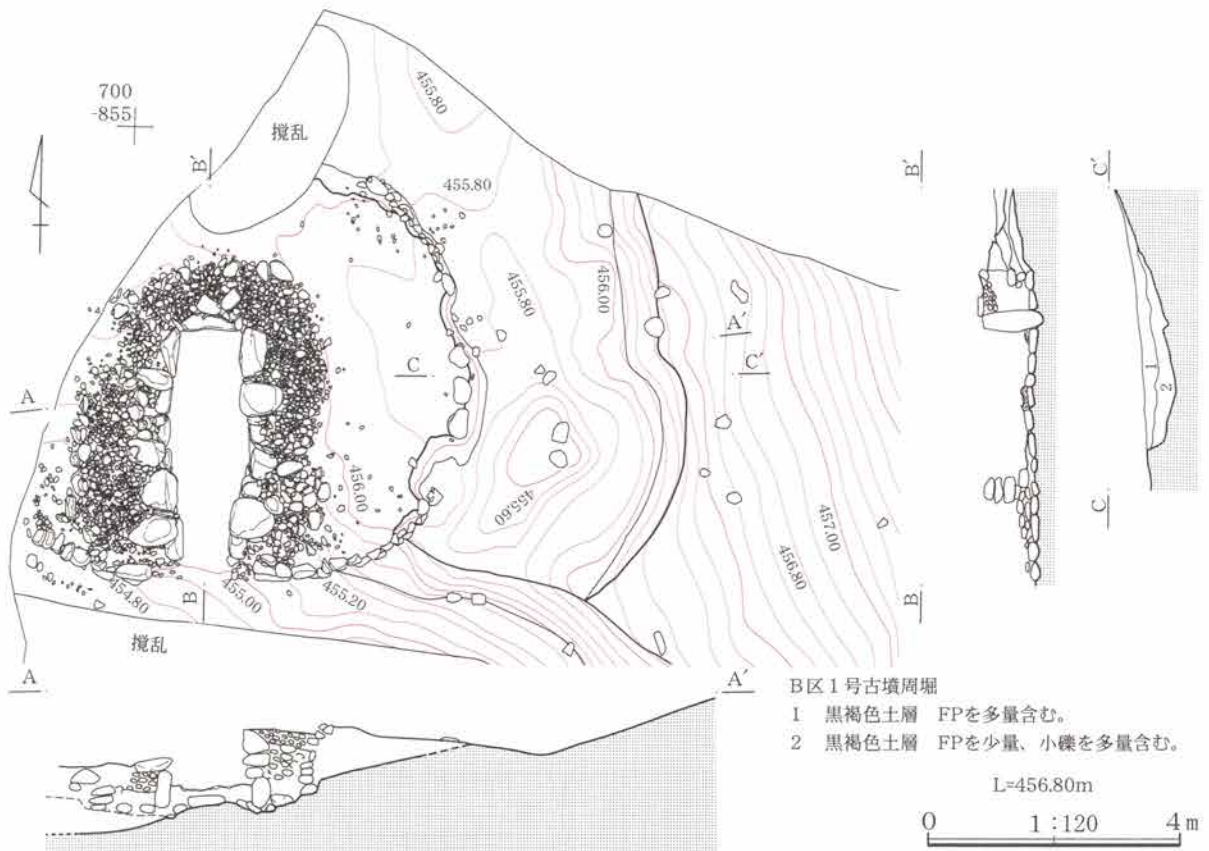
葺石は、開口部から東側半分ほど根石が残り、遺存状況のよいところでは3段ほど積み上げた状態であった。また、周堀内には崩落したと思われる石が

確認できた。開口部両側の葺石は直線的に並べられており、前庭を意識しているものと考えられる。

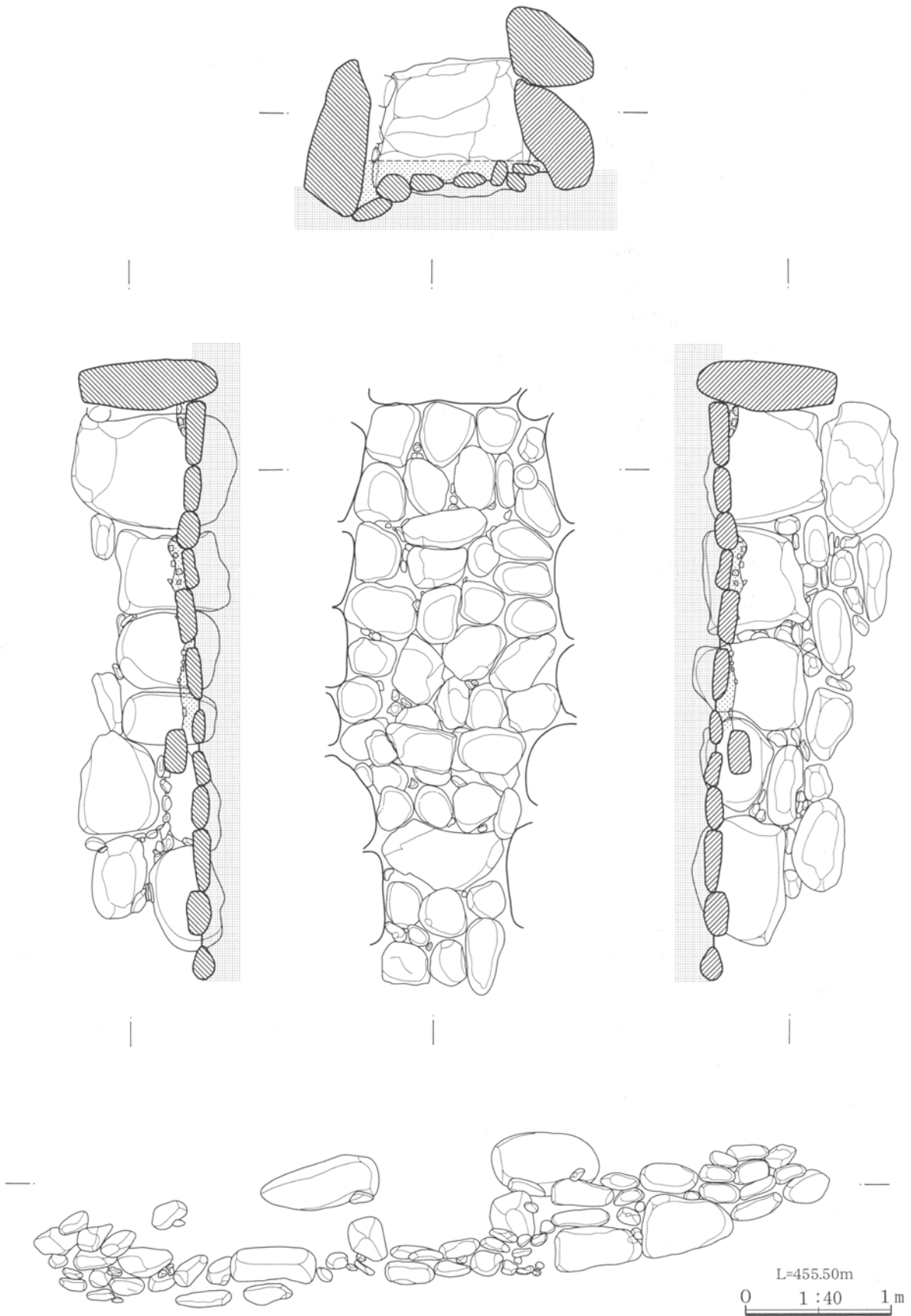
周堀は全体的に浅く、不明瞭である。規模は墳丘東側がもっとも深く、葺石の根石からの深さは約0.4m、幅3.05mである。FPを含む暗褐色土で埋没していた。

主体部の構造 石室は、自然石乱石積両袖型横穴式石室である。開口方向は真南である。石室の規模は全長4.10mを測る。羨道の長さは1.65m、幅は石室入口部で0.86m、奥部で1.32mである。高さは0.98mまで遺存している。玄室の規模は、長さ2.45m、奥幅1.28m、前幅1.36mである。壁石は、右壁1.30m、左壁0.90mの高さまで遺存している。

玄室は、奥壁に幅110cm、高さ94cmのやや大ぶりの自然石を平積みしている。側壁は、右壁には幅62～80cmの石を3石平積みし、その上にやや小振りの石を小口積みまたは横積みしている。左壁は幅36～80cmの石を4石平積みしている。



第106図 B区1号古墳全体図



第107図 B区1号古墳石室

第3章 検出された遺構と遺物

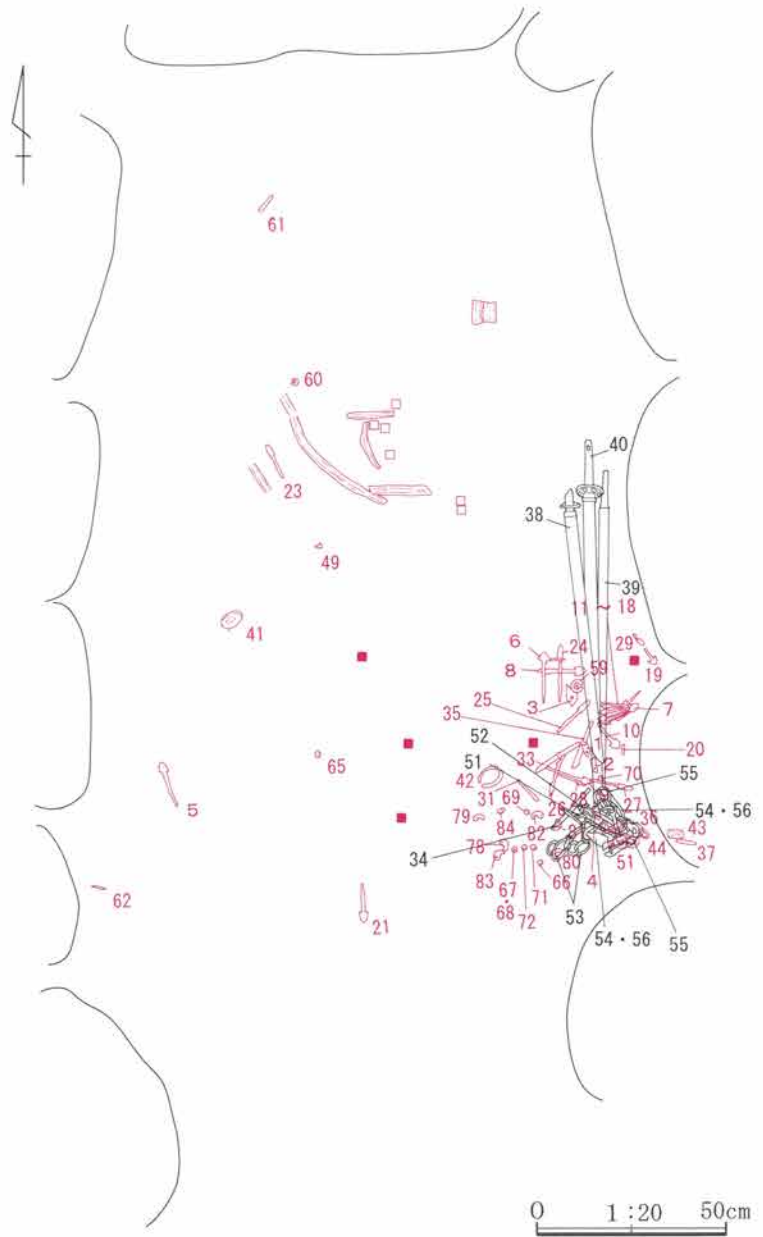
羨道は、左右壁ともに自然石を2石ずつ平積みし、2段目からは横積みしている。また長さ26cm、45cm、50cmの框石が設置されていた。框石上には長さ約45cmの川原石が5段ほど小口積みにされ、閉塞を行っていた。

床面は攪乱を受けていたが、部分的に5～15cmの礫を含む暗褐色土が遺存していた。この下部に20～50cmの扁平な川原石を敷き詰めた舗石面を検出した。舗石は玄室の東側は比較的水平に敷かれているが、左壁側は地山の傾斜に沿うように斜めに設置されている。

出土遺物 玄室からは馬具・大刀などの鉄製品が多量に出土した。大刀（玄38・39・40）は玄室東壁の羨道寄りで鋒を南に向けた状態で出土した。上から38・40・39の順に重ねられており、刃部は38が西、39と40が東を向いている。38と40は鐔が装着された状態であった。轡（玄51・52・53）、鐙鞆（玄54・55）、鉸具（玄56）は大刀の鋒付近で折り重なるように出土した。なお、馬具については「第4章-3」を参照されたい。鉄鎌（玄11～18）は大刀の刃部直下から7本まとまった状態で出土した。その他、刀子・鉄鎌・勾玉・小玉などが玄室東壁の羨道寄りの位置から出土している。遺物が1か所にまとめられていることから、追葬の可能性も考えられる。人骨及び歯は、玄室の中央やや奥壁寄りから出土している。人骨についての鑑定結果は「第5章-3」を参照されたい。

須恵器は全て周堀から出土している。提瓶・台付長頸壺・甕片が出土した。（観P145・146）

石室の構築状況 石室裏込は、5～40cmの川原石



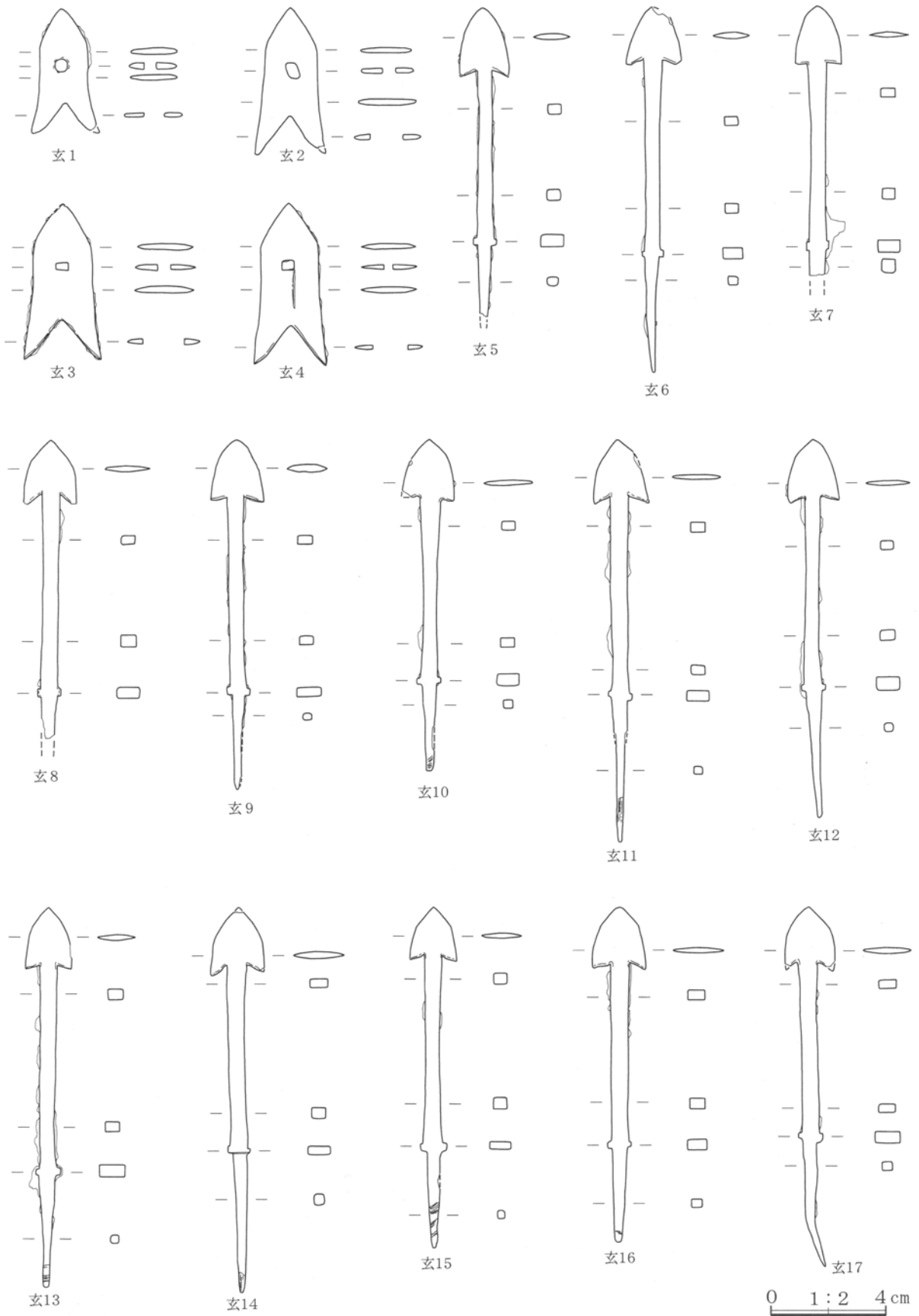
第108図 B区1号古墳玄室

を使用して壁石の周りを馬蹄形状に取り囲んでい
る。範囲は主軸方向で0.95m、短軸方向で0.98mで
外縁は川原石を石垣状に積み上げている。

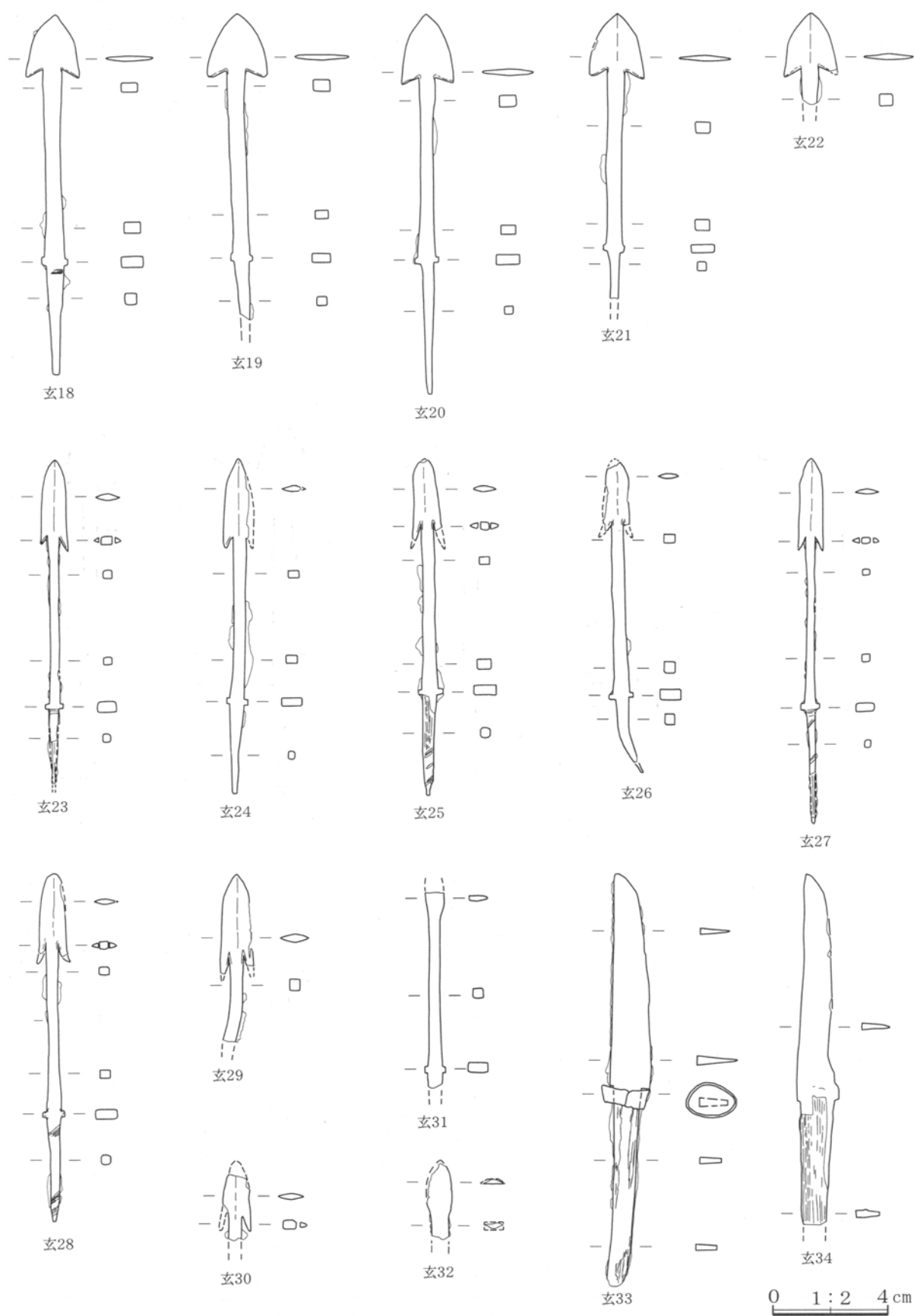
石室掘り方はレベルのやや高い石室東側を30cm
ほど掘り込んではいるものの、FPを含む暗褐色土
に直接根石を設置している。底面には根石を据えた
深さ3～5cmの凹地が残っていた。

所見 出土遺物や石室の形態から7世紀代の古墳で
あると考えられる。

3. 古墳～平安時代の遺構と遺物

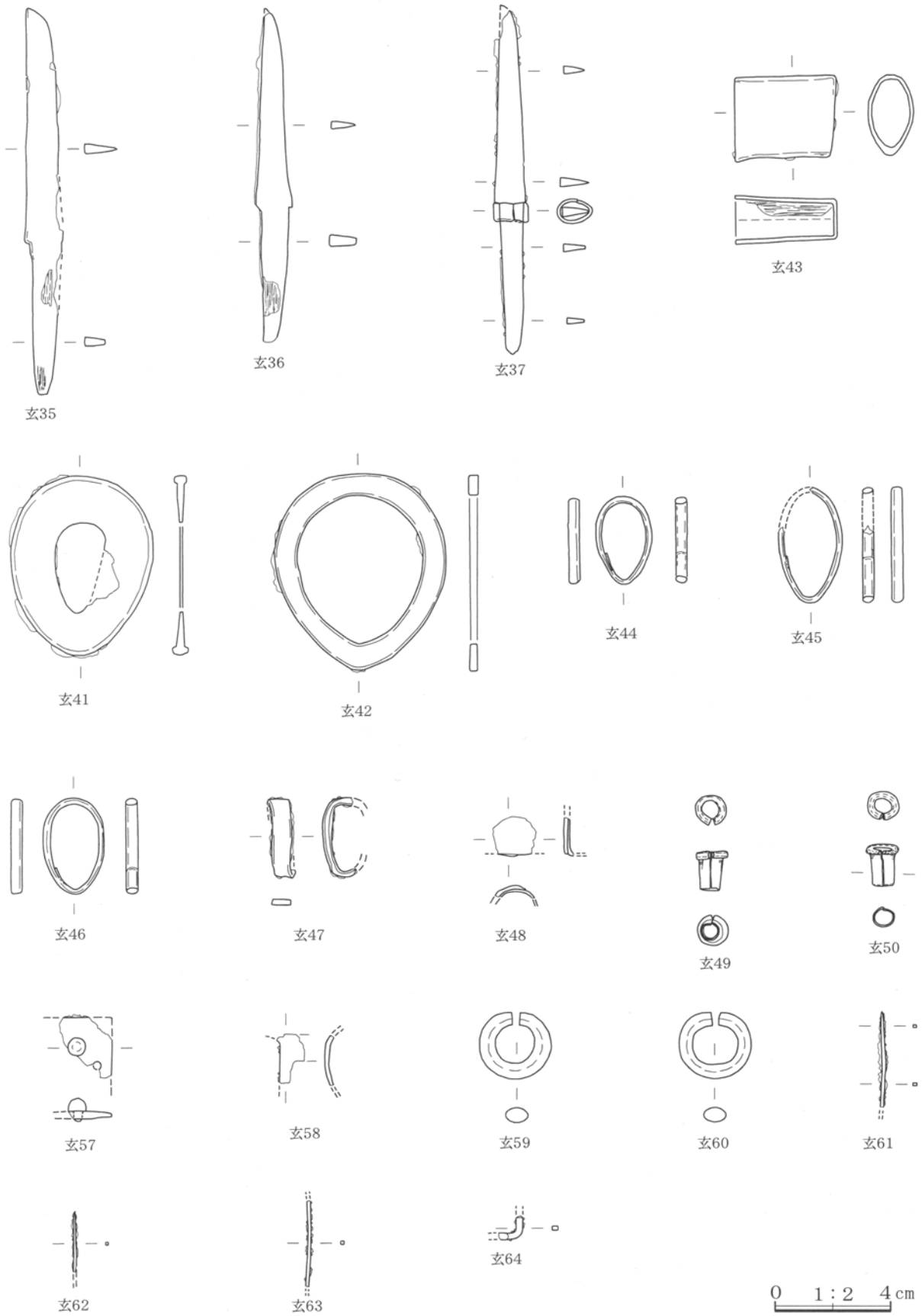


第109図 B区1号古墳玄室出土遺物(1)

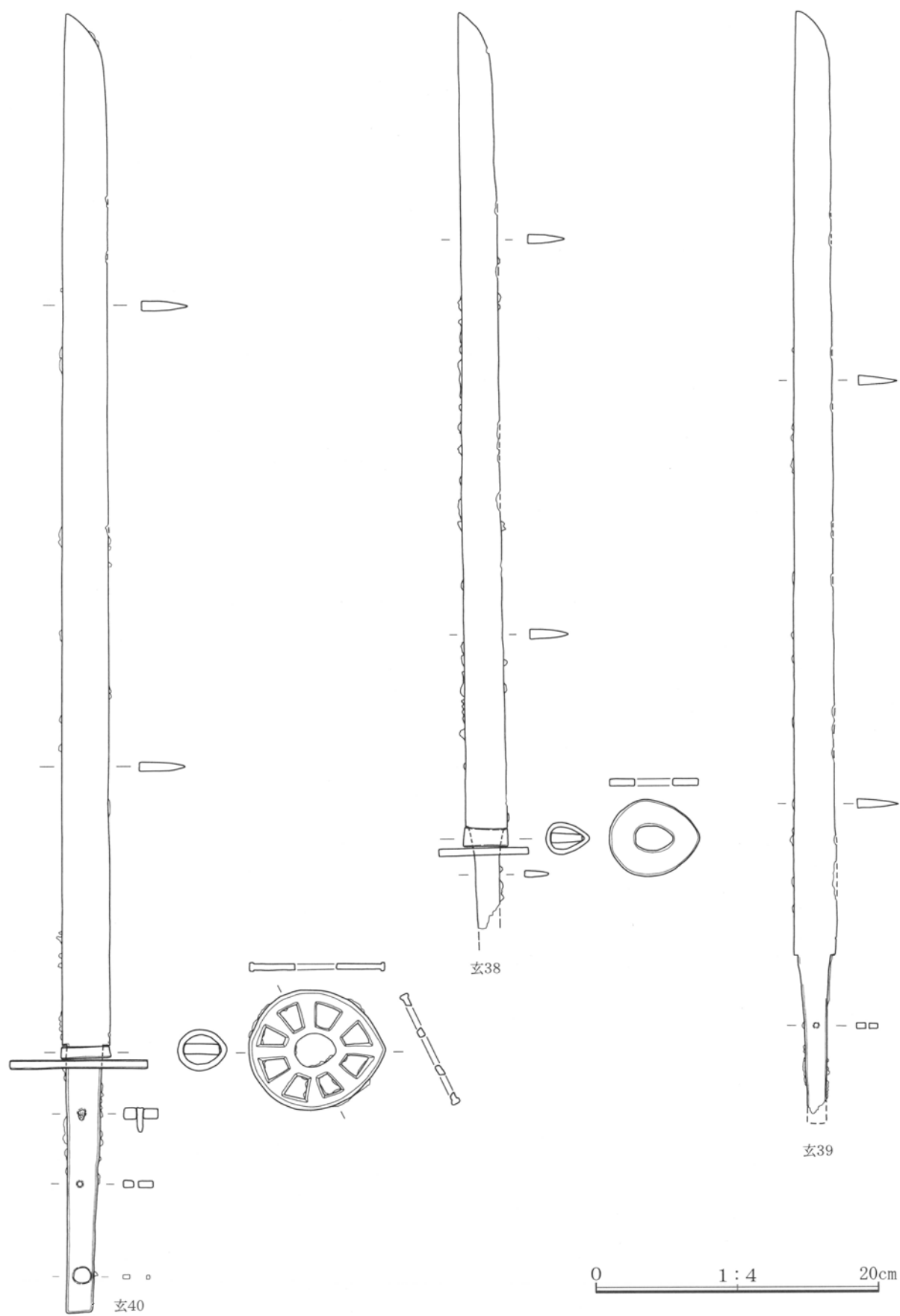


第110図 B区1号古墳玄室出土遺物(2)

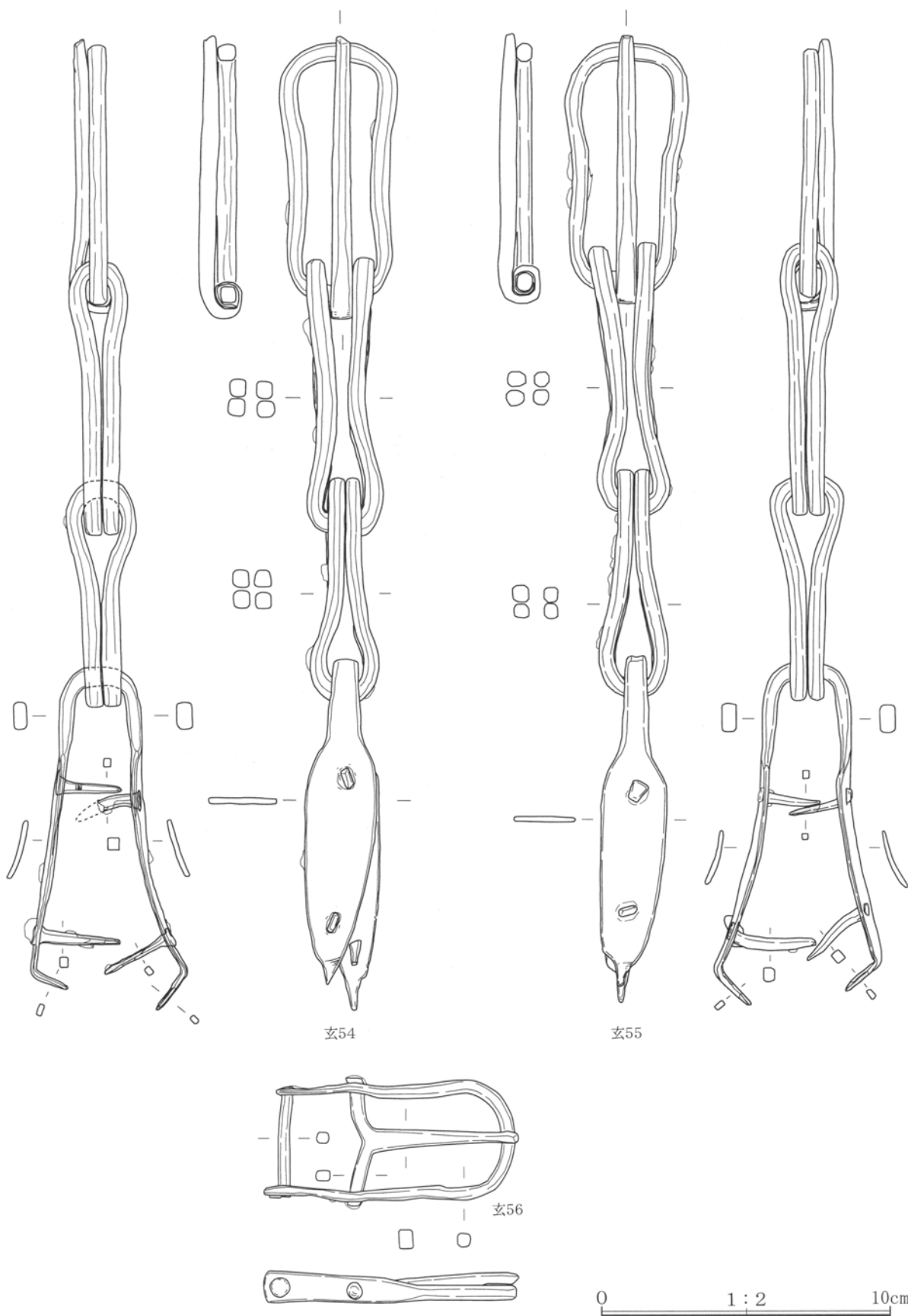
3. 古墳～平安時代の遺構と遺物



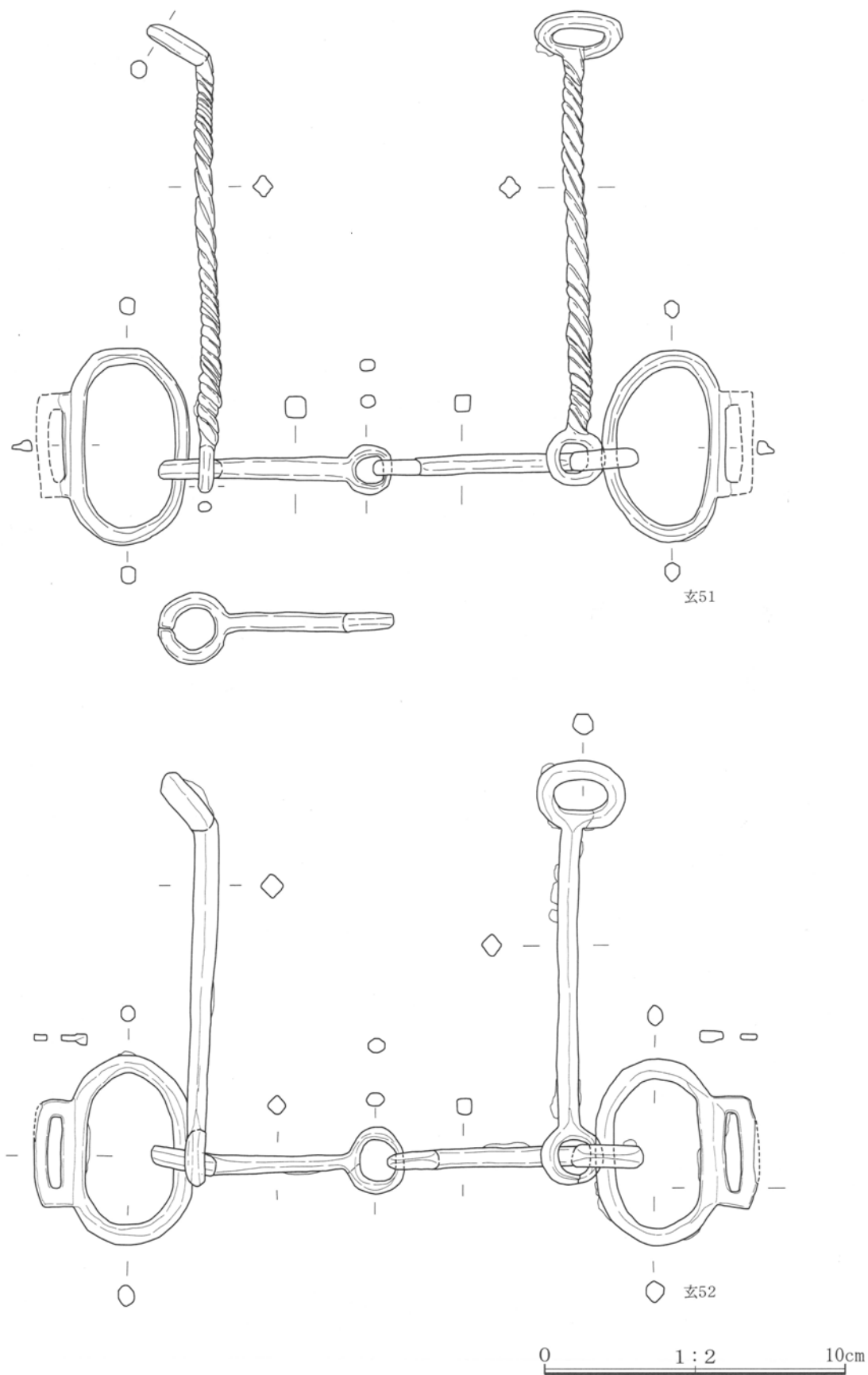
第111図 B区1号古墳玄室出土遺物(3)



第112図 B区1号古墳玄室出土遺物(4)

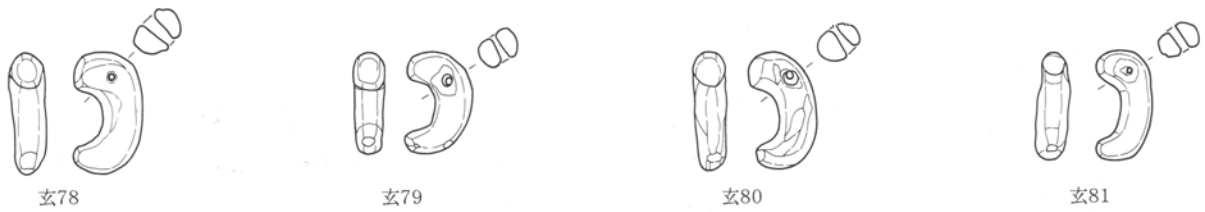
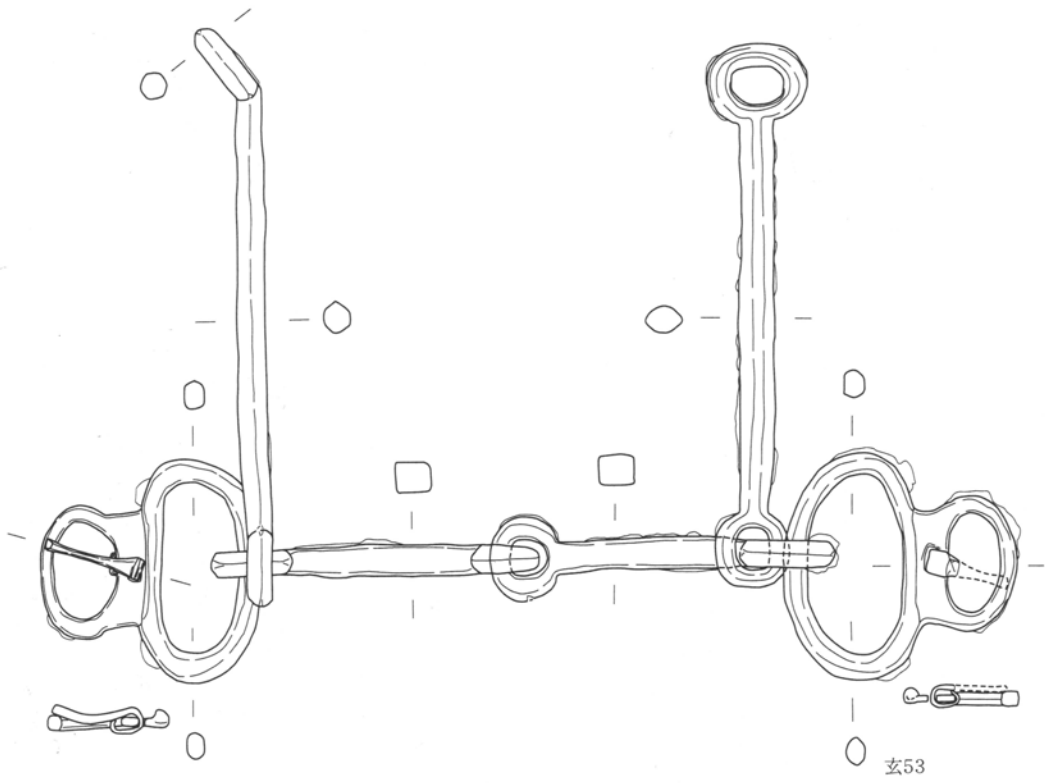


第113図 B区1号古墳玄室出土遺物(5)



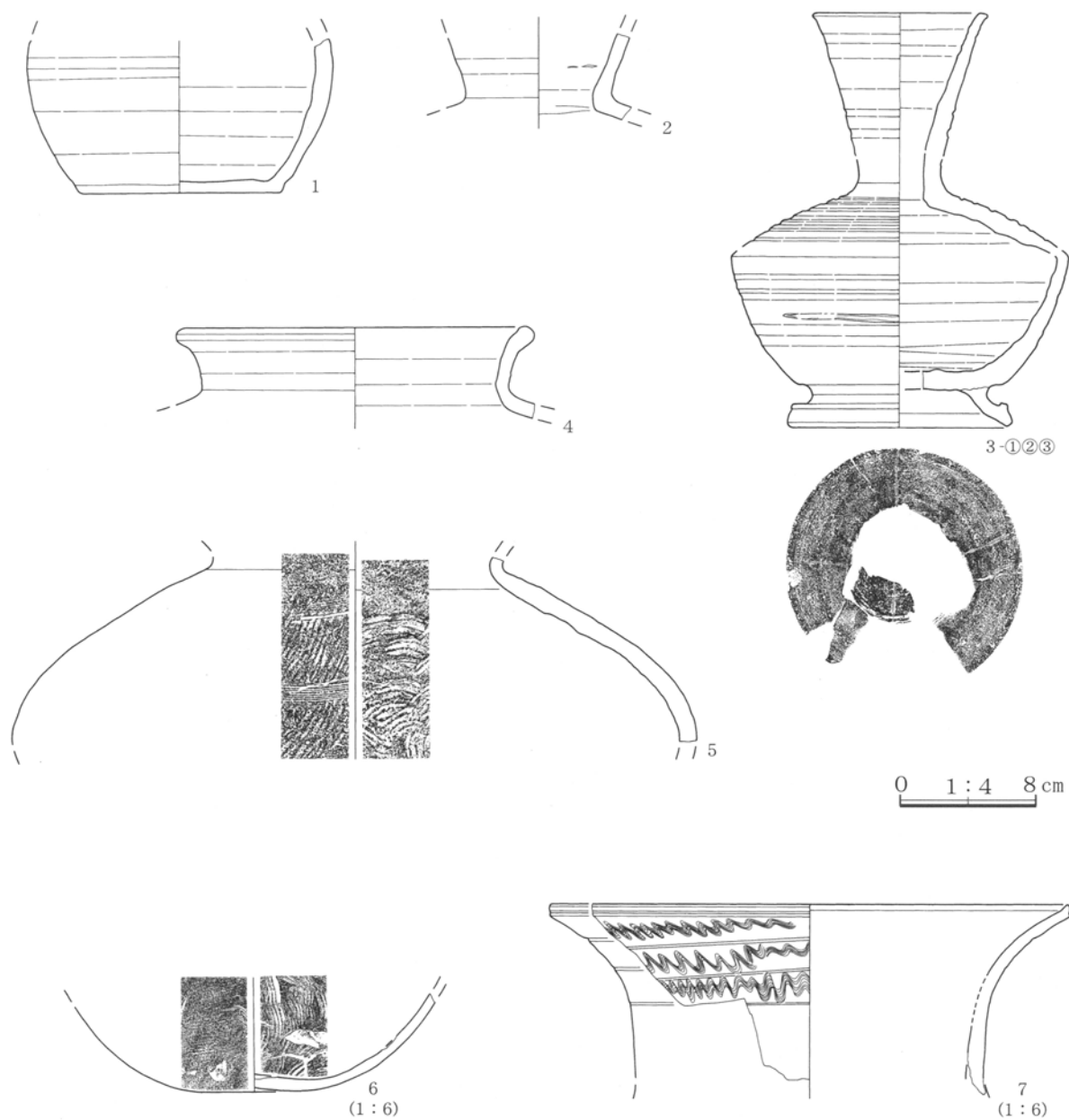
第114図 B区1号古墳玄室出土遺物(6)

3. 古墳～平安時代の遺構と遺物



第115図 B区1号古墳玄室出土遺物(7)

第3章 検出された遺構と遺物



第116図 B区1号古墳石室外出土遺物

B区2号古墳（第117～118図 PL25・64・65）
位置 B区のほぼ中央、750-805グリッドに位置する。大部分が調査区外のため周堀の一部が検出された。

墳丘と外部施設 墳丘は削平されており、葺き石、盛土ともに検出されなかった。

周堀の規模は、最大幅1.6m、深さ20cmである。埋土はFPを含む黒褐色土であった。主体部は検出されなかったが、墳丘裾部や周堀内には裏込に使用

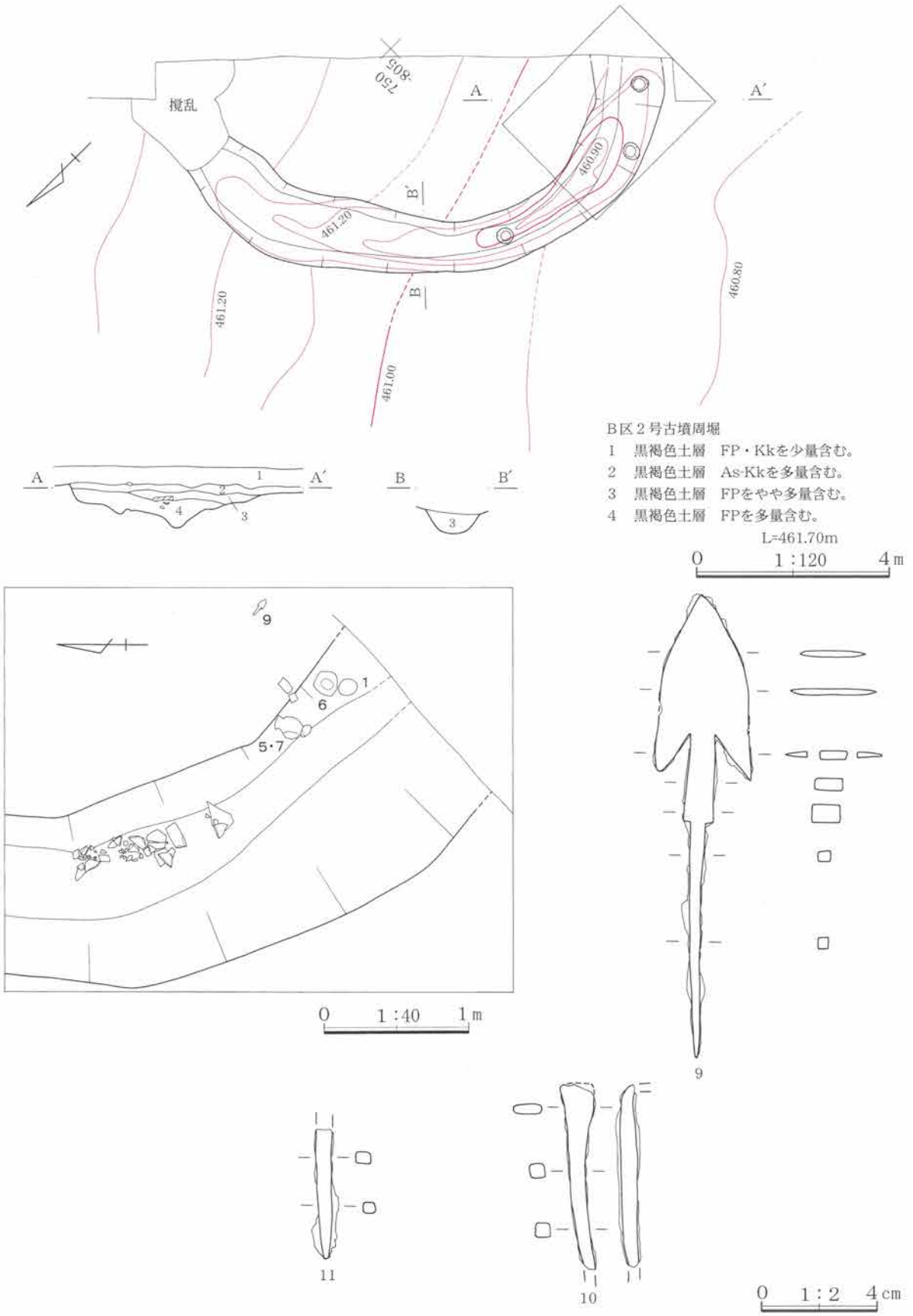
されたと思われる礫が散在していた。古墳の規模は周堀から推定すると直径10.5mほどの円墳であったと思われる。

出土遺物 周堀より須恵器杯、短頸壺、甕などが出土した。また、墳丘裾部より鉄鎌が検出された。

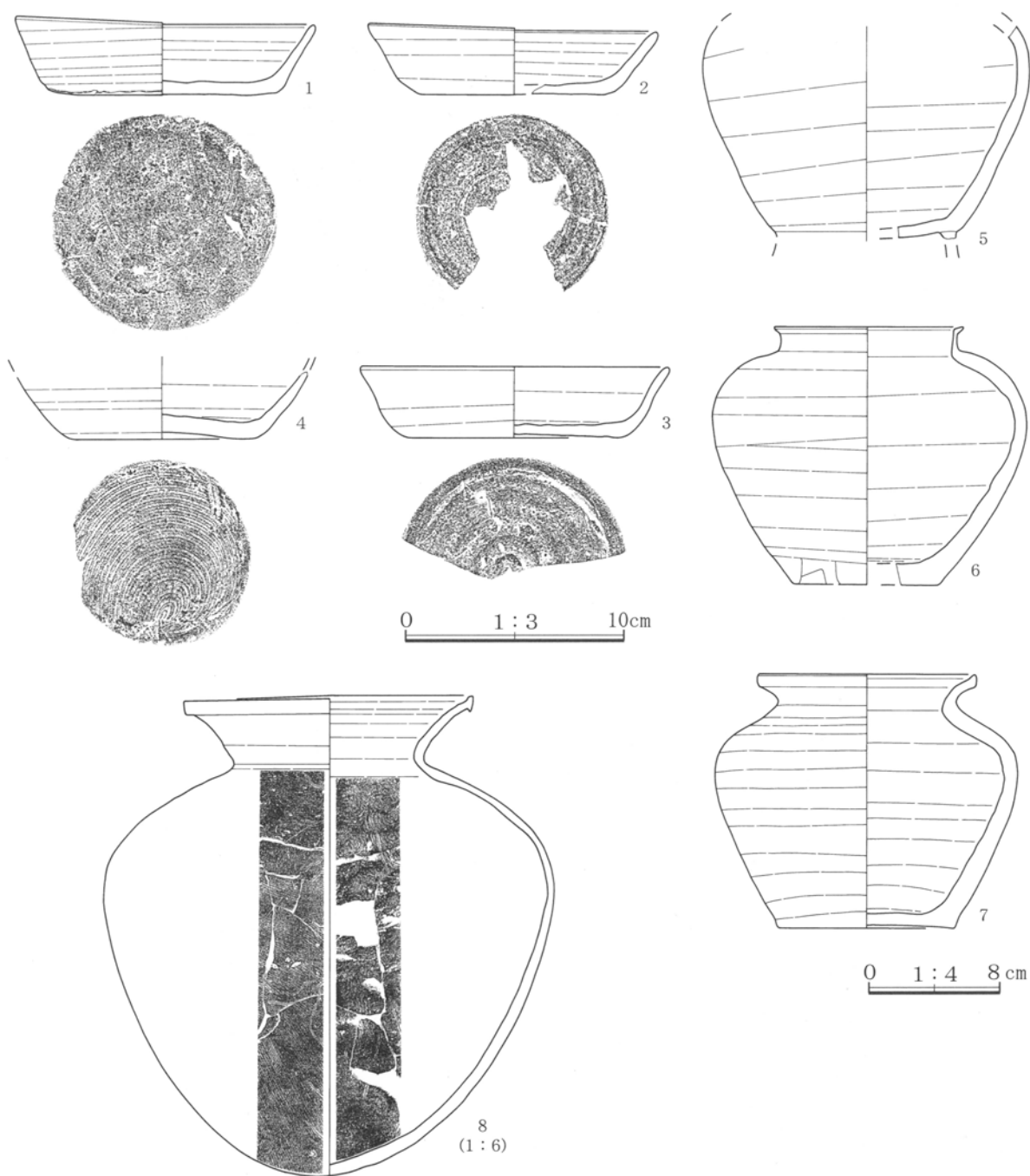
（観P.145・146・151～153）

所見 埴輪が出土しないことや出土遺物から7世紀代の古墳と考えられるが詳細は不明である。

3. 古墳～平安時代の遺構と遺物



第117図 B区2号古墳周堀・出土遺物(1)



第118図 B区2号古墳出土遺物(2)

C区1号古墳(第119・120図 PL65)

位置 C区の東端、730-680グリッドに位置する。私道があり調査できる範囲が限定されたが、周堀と舗石と思われる扁平な礫群を検出した。

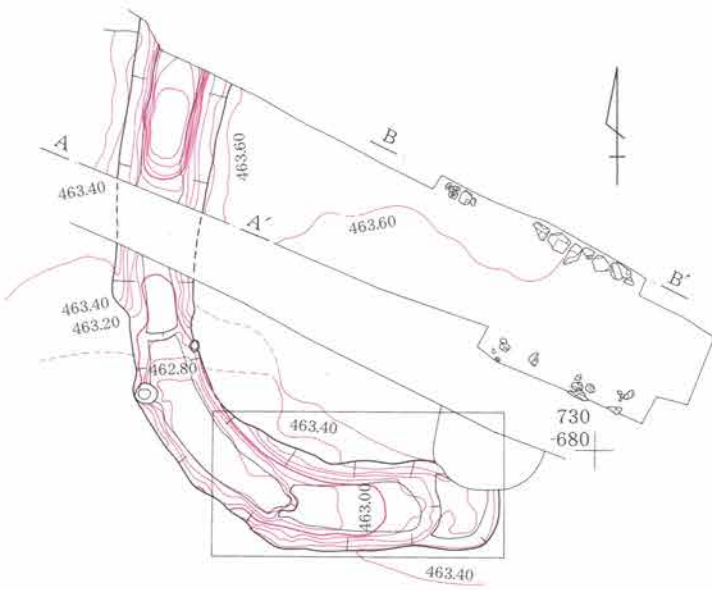
墳丘と外部施設 葺き石や盛土も削平されており、墳丘の規模は不明である。周堀の規模から推定すると直径10.2mほどの円墳であったと思われる。

周堀は、南側がとぎれている。最大幅は1.5m、深さ0.7mでFPを含む黒褐色土で埋没していた。

出土遺物 遺物は全て周堀からで、土師器坏、須恵器坏、碗、蓋、盤、長頸壺、甕などが出土している。(観P.146・147)

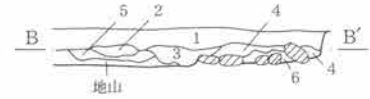
所見 埴輪が出土しないことや出土遺物から7世紀代の古墳と考えられる。

3. 古墳～平安時代の遺構と遺物



C区1号古墳周堀

- 1 暗褐色土層 FPをやや多量含む。
- 2 暗褐色土層 FPを少量含む。
- 3 褐色土層 FPを少量、ロームを多量含む。

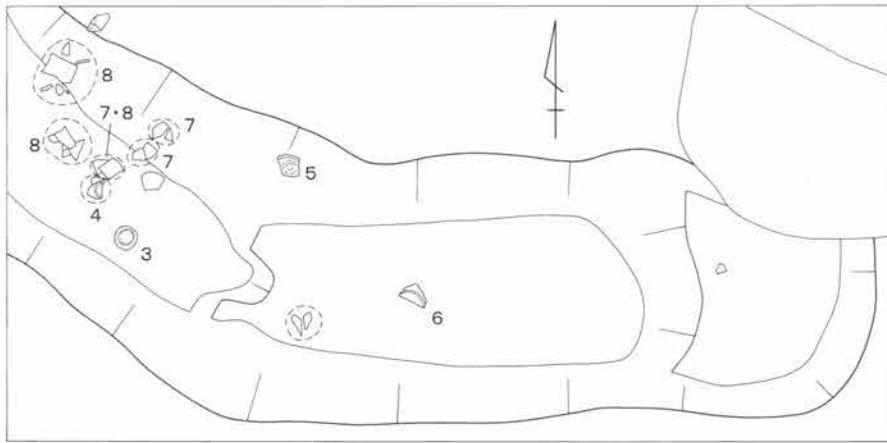


C区1号古墳

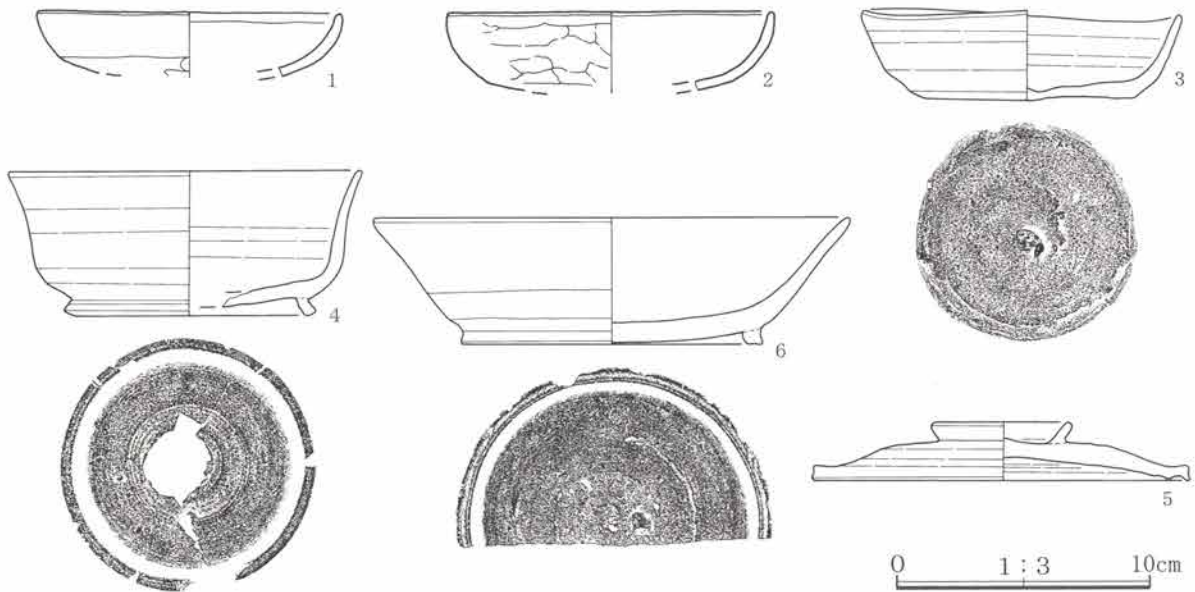
- 1 暗褐色土層 FPを少量含む。
- 2 暗褐色土層 こぶし大の礫層
- 3 暗褐色土層 5~20cmの礫を含む。
- 4 暗褐色土層 FPを少量含む。
- 5 黒褐色土層 FPを多量含む。
- 6 暗褐色土層 小礫を多量含む。

L=463.90m

0 1:120 4m

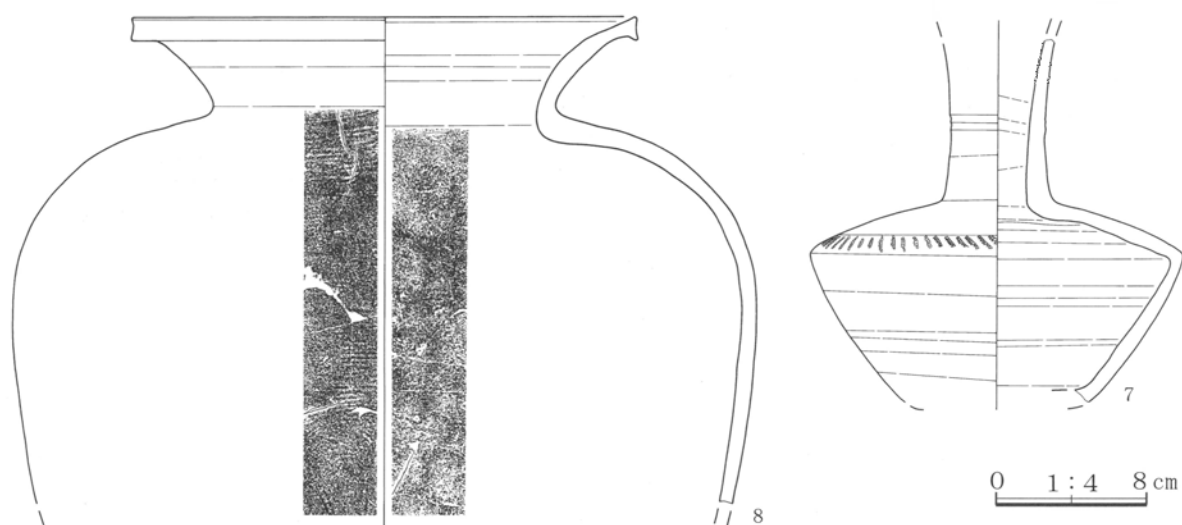


0 1:40 1m



第119図 C区1号古墳周堀・出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



第120図 C区1号古墳出土遺物(2)

(5) 集石・土坑

A区1号集石(第121図 PL26・66)

位置 672-850

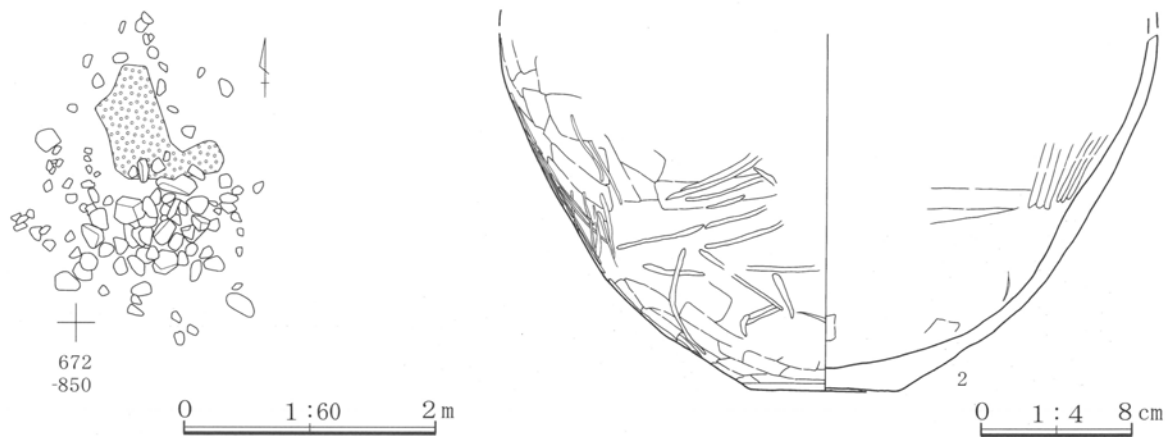
規模 2.7×2.1mの範囲に礫が集中する。

重複 なし。

遺物 土師器甕が出土している。掲載遺物のほかにも甕底部片4、胴部片2、その他細片が多数検出された。

(観P.147)

所見 出土遺物やFP直下の遺構であることから6世紀前半のものであると思われる。



第121図 A区1号集石と出土遺物

3. 古墳～平安時代の遺構と遺物

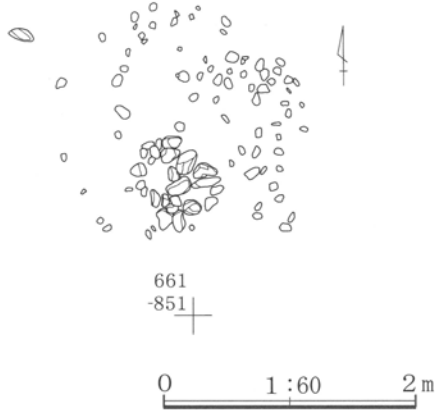
A区2号集石 (第122図 PL26・66)

位置 661-851

規模 1.9×2.5mの範囲に礫が集中する。

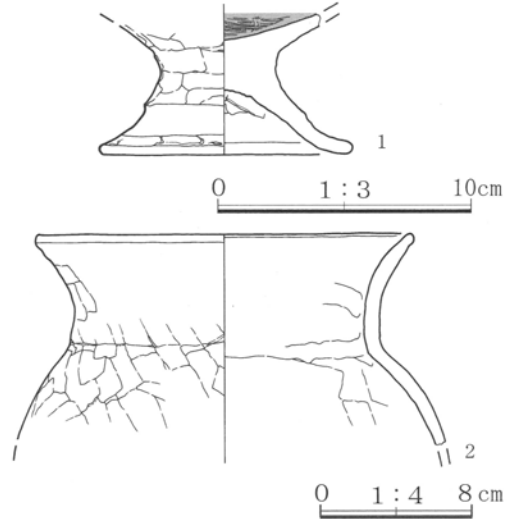
重複 なし。

遺物 土師器高坏・甕が出土している。取上遺物の



ほかにも土師器坏片1、甕口縁細片6、底部片2などが検出された。(観P.147)

所見 出土遺物やFP直下の遺構であることから6世紀前半のものであると思われる。



第122図 A区2号集石と出土遺物

A区3号集石 (第123図 PL26・66)

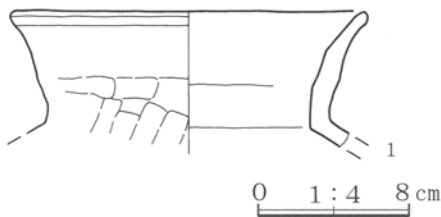
位置 649-850

規模 3.0×1.8mの範囲に礫が集中する。

重複 なし。

遺物 土師器甕が出土している。取上遺物のほかにも土師器甕口縁片7が検出された。(観P.147)

所見 出土遺物やFP直下の遺構であることから6世紀前半のものであると思われる。



第123図 A区3号集石と出土遺物

A区4号集石 (第124図 PL26・66)

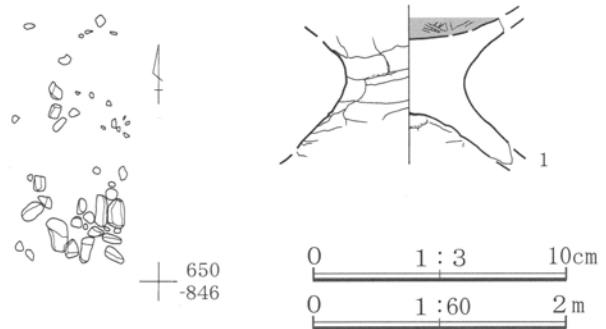
位置 650-846

規模 2.0×1.0mの範囲に礫が集中する。

重複 なし。

遺物 土師器高坏が出土している。取上遺物のほかにも土師器甕口縁片が検出された。(観P.147)

所見 出土遺物やFP直下の遺構であることから6世紀前半のものであると思われる。



第124図 A区4号集石と出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

A区6号集石 (第125図 PL26・66)

位置 640-850

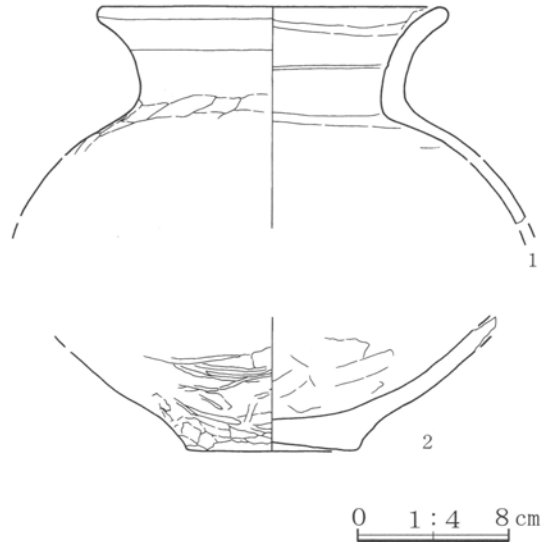
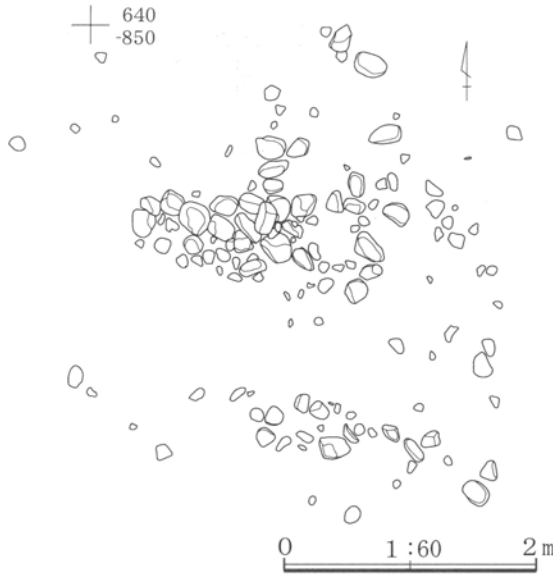
規模 4.0×4.1mの範囲に礫が集中する。

重複 A区6号集石→A区2号古墳

遺物 土師器甕が出土している。取上遺物のほかに

も土師器甕口縁片3、底部片4などが検出された。
(観P.147)

所見 出土遺物やFP直下の遺構であることから6世紀前半のものであると思われる。



第125図 A区6号集石と出土遺物

C区1号集石 (第126図 PL26)

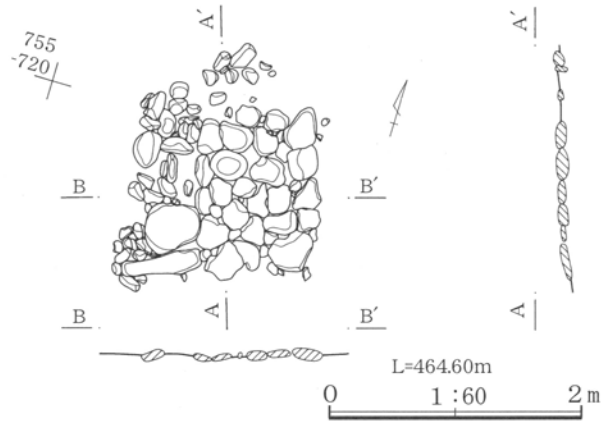
位置 755-720

規模 2.0×2.0mのほぼ方形に川原石が敷かれていた。石材は粗粒輝石安山岩が多数を占める。

重複 なし。

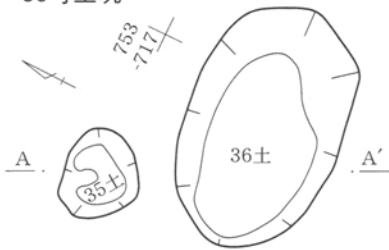
遺物 なし。

所見 礫の下位には遺構は存在せず、性格は不明である。時期は、FP下の黒褐色土の直上に礫が敷かれ、FPを含む暗褐色土直下で検出されたことから、古墳時代後期以前のものであると思われる。



第126図 C区1号集石

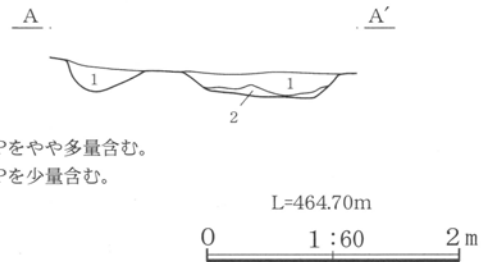
C区35・36号土坑



C区35・36号土坑

1 暗褐色土層 FPをやや多量含む。

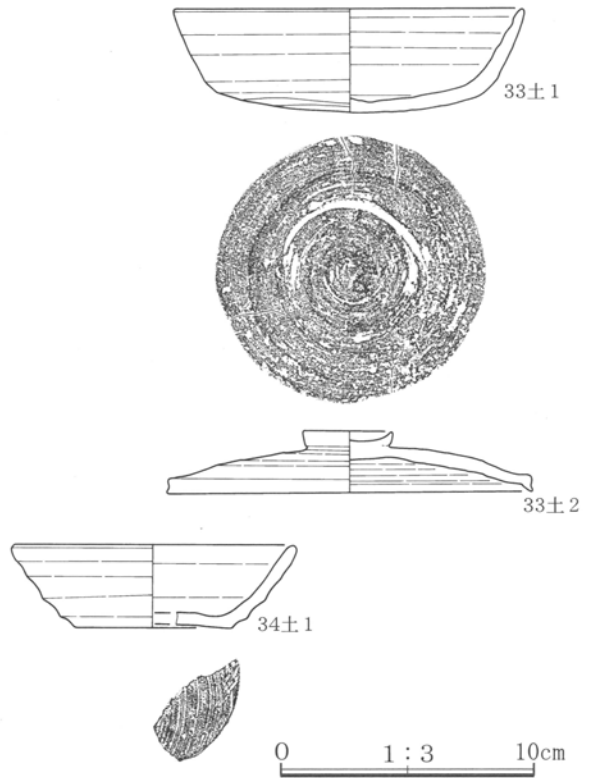
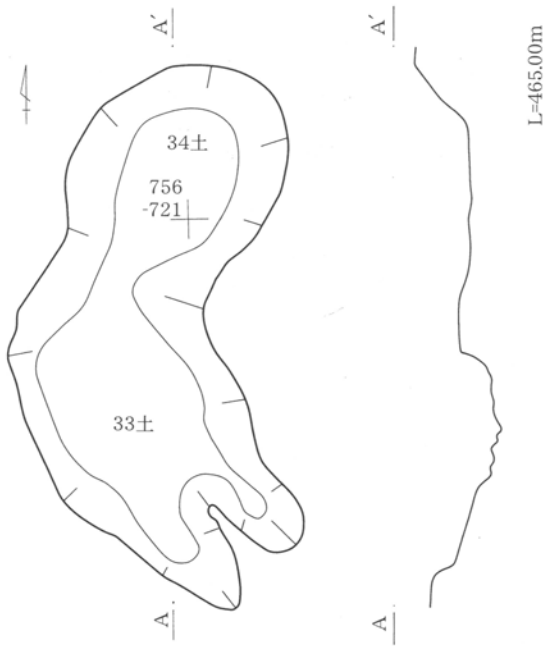
2 暗褐色土層 FPを少量含む。



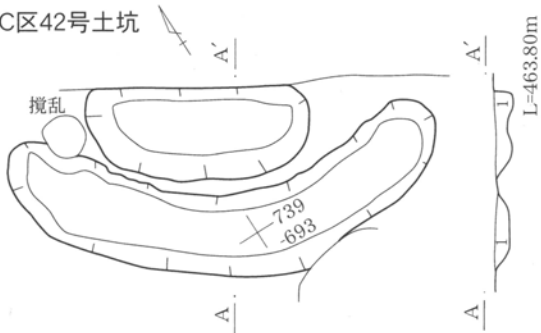
第127図 C区35・36号土坑

3. 古墳～平安時代の遺構と遺物

C区33・34号土坑

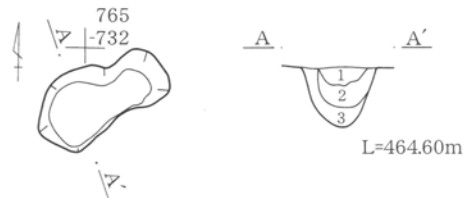


C区42号土坑



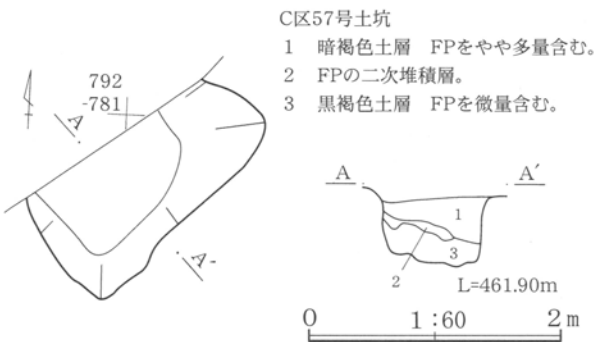
C区42号土坑
1 FPの二次堆積層。

C区44号土坑

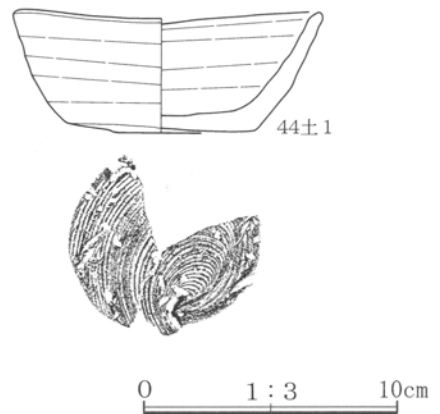


C区44号土坑
1 暗褐色土層 FPをやや多量含む。
2 黒褐色土層 ローム粒をやや多量、FPを少量含む。
3 暗褐色土層 ローム粒、FPを少量含む。

C区57号土坑



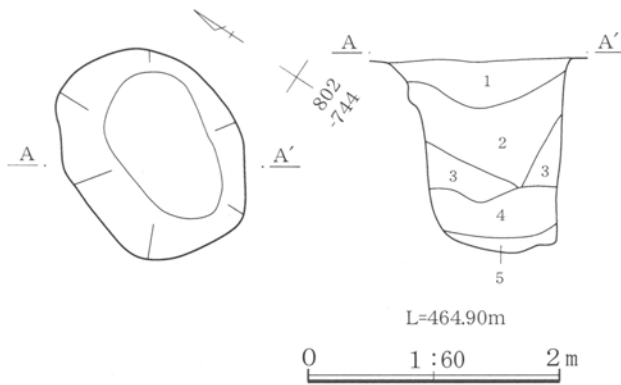
C区57号土坑
1 暗褐色土層 FPをやや多量含む。
2 FPの二次堆積層。
3 黒褐色土層 FPを微量含む。



第128図 C区33・34・42・44・57号土坑と出土遺物

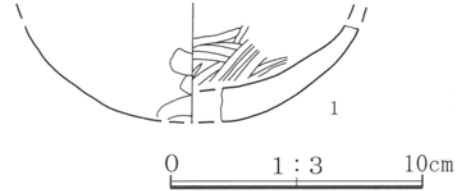
第3章 検出された遺構と遺物

C区52号土坑

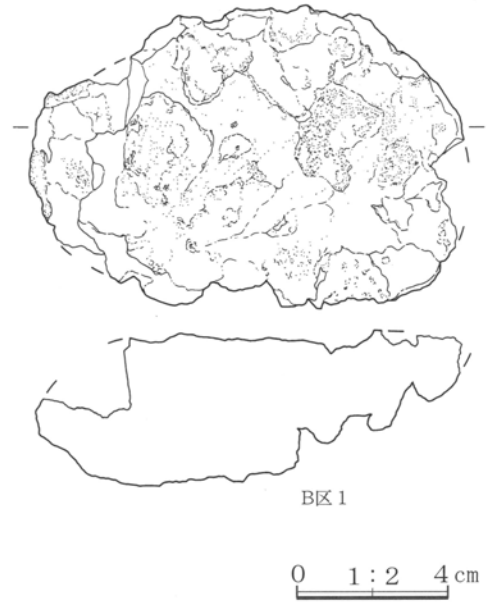
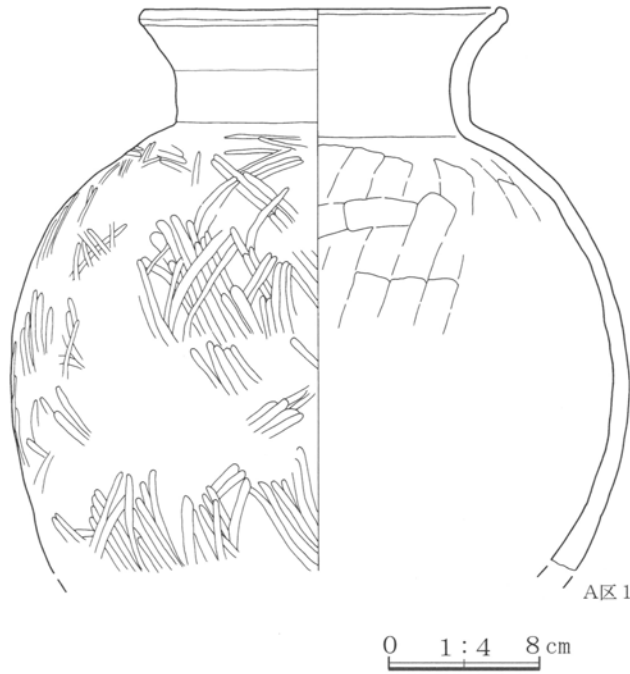


C区52号土坑

- 1 黒褐色土層 ローム粒をやや多量含む。
- 2 暗褐色土層 ローム粒、ロームブロックをやや多量含む。
- 3 黒褐色土層 ロームブロックを多量含む。
- 4 明黄褐色土層 黒褐色土を少量、黄色パミスを微量含む。
- 5 黒褐色土層 ソフトローム主体土。



(6) 遺構外出土遺物



第129図 C区52号土坑と出土遺物・遺構外出土遺物

第3表 古墳～平安時代土坑一覧表 (第127図～129図 PL27)

遺構名	グリッド	長軸方位	形状	規模 (cm)			備考 (重複、出土遺物、時期等)
				長軸	短軸	深さ	
C33号土坑	756-721	N-30°-E	楕円形	-	159	54	C34号土坑と重複 (新旧不明)。須恵器環、蓋。6 C 中葉以降。
C34号土坑	756-721	N-25°-W	不定形	-	165	45	須恵器環。古墳時代後期以降。
C35号土坑	753-717	-	楕円形	72	63	24	古墳時代後期以降。
C36号土坑	752-717	-	楕円形	201	126	21	古墳時代後期以降。
C42号土坑	739-693	-	不定形	345	72	18	倒木痕か。
C44号土坑	765-732	N-60°-E	楕円形	111	54	48	須恵器環。古墳時代後期以降。
C52号土坑	802-744	N-33°-E	楕円形	168	138	123	土師器環。古墳時代後期以降。
C57号土坑	792-781	-	長方形か	174	-	57	古墳時代後期以降。

4. 中近世の遺構と遺物

(1) 概要

中近世の遺構は、屋敷跡1軒、畑1、土坑墓18基、土坑17基である。B区の土坑墓からは遺存状態のよい人骨が出土している。

(2) 屋敷跡

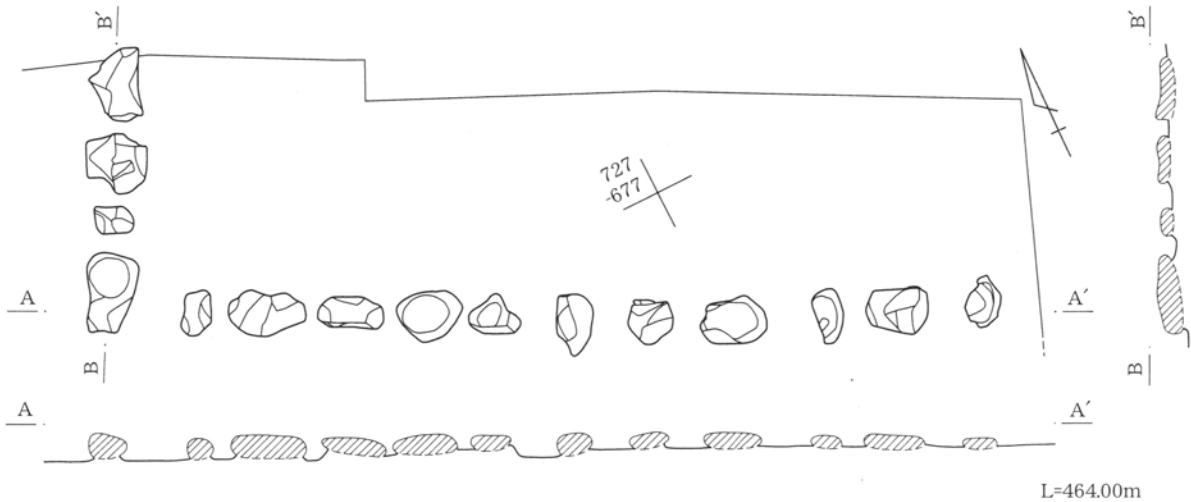
C区1号屋敷跡 (第130図 PL28)

位置 727-677 方位 N-63°-W

形状・規模 30~65cmの扁平な川原石を2.3×7.3mにほぼ一直線上に並べる。部分調査のため全体は把握できなかった。

重複 C区54号土坑と重複するが新旧は不明。

所見 建物礎石と思われる。調査が行われる前まで、屋敷跡のやや南側に幕末頃に建造された民家があったことから、それ以前の屋敷跡であると考えられる。



(3) 畑跡

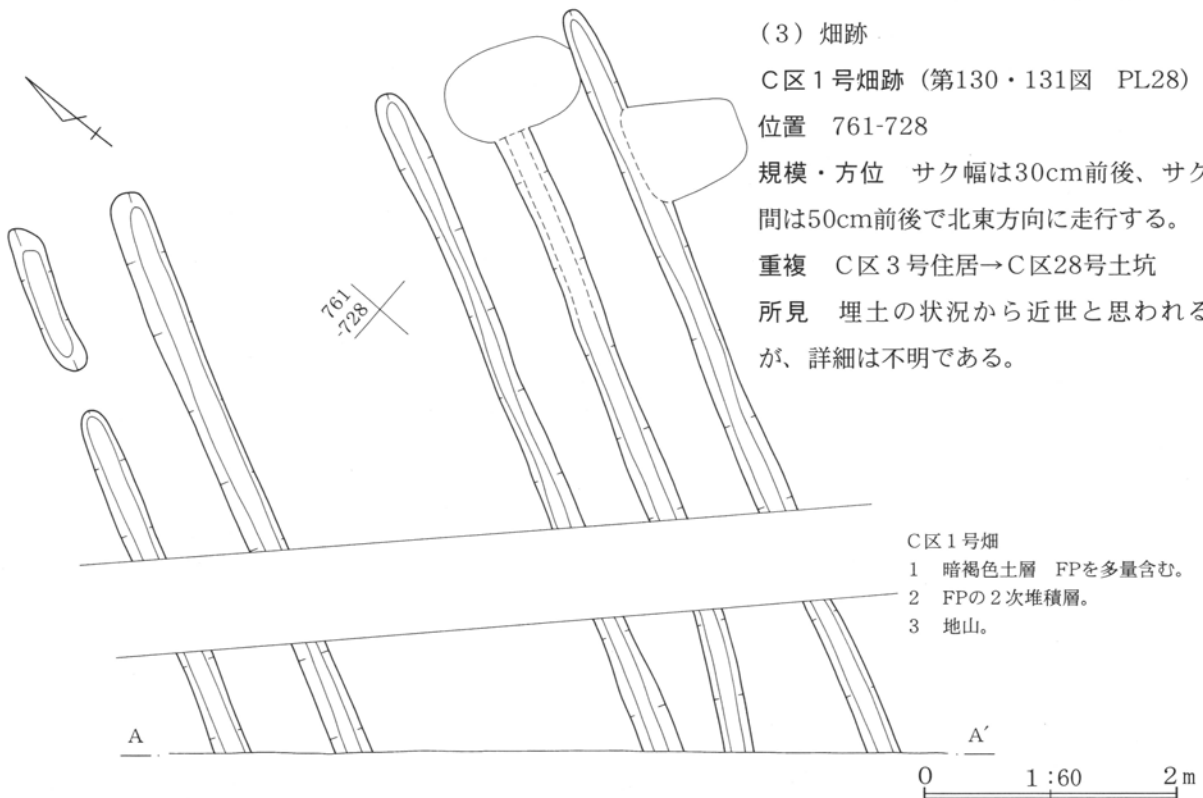
C区1号畑跡 (第130・131図 PL28)

位置 761-728

規模・方位 サク幅は30cm前後、サク間は50cm前後で北東方向に走行する。

重複 C区3号住居→C区28号土坑

所見 埋土の状況から近世と思われるが、詳細は不明である。

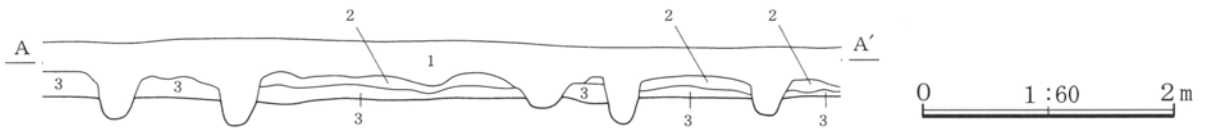


C区1号畑

- 1 暗褐色土層 FPを多量含む。
- 2 FPの2次堆積層。
- 3 地山。

第130図 C区1号屋敷跡・C区1号畑跡 (1)

第3章 検出された遺構と遺物



(4) 土坑墓

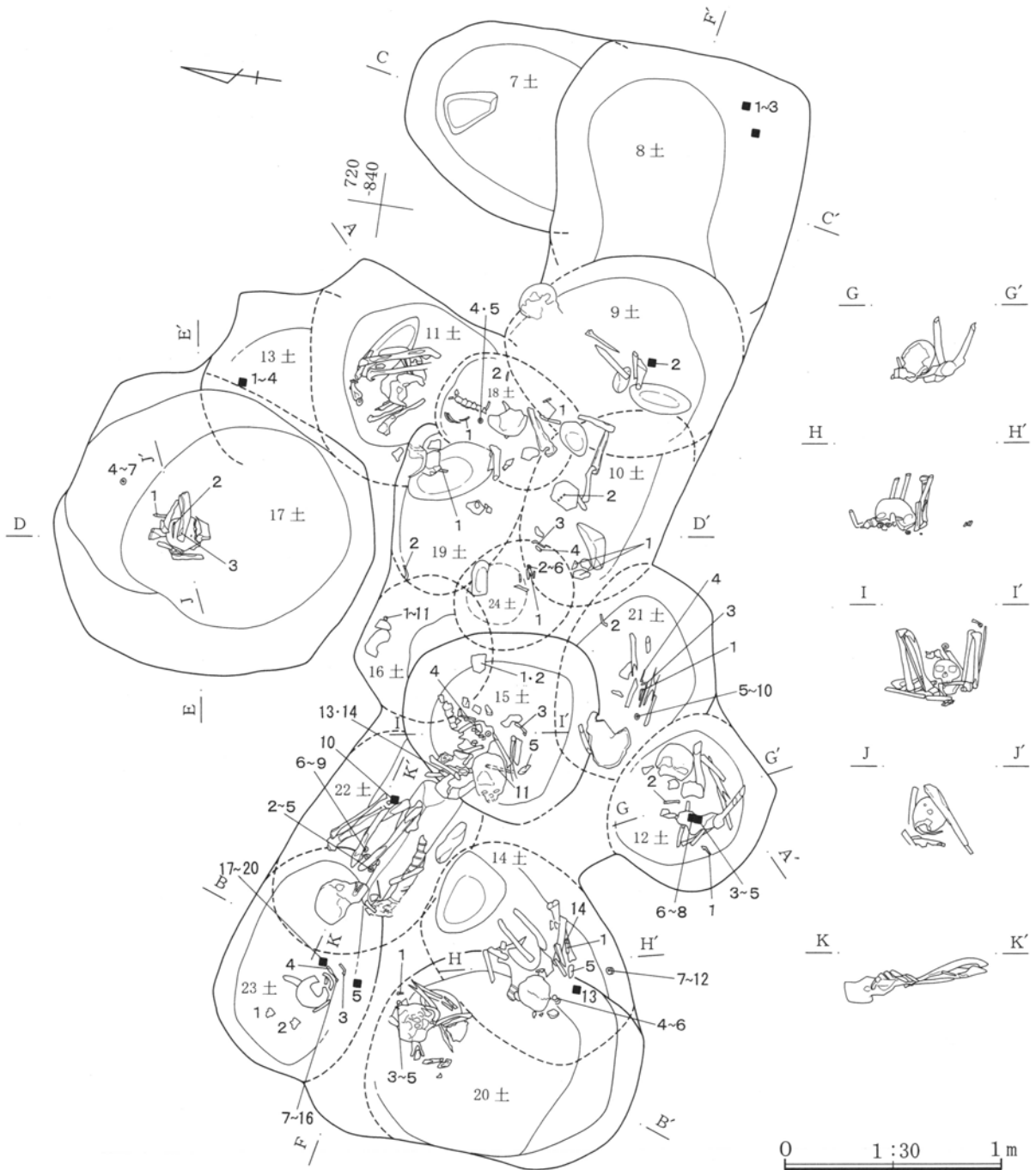
B区7~24号土坑 (第131~139図 PL28・29・67~69)

位置 720-840 B区の南の斜面に位置する。

出土遺物 埋葬品としては寛永通宝、キセル、火打

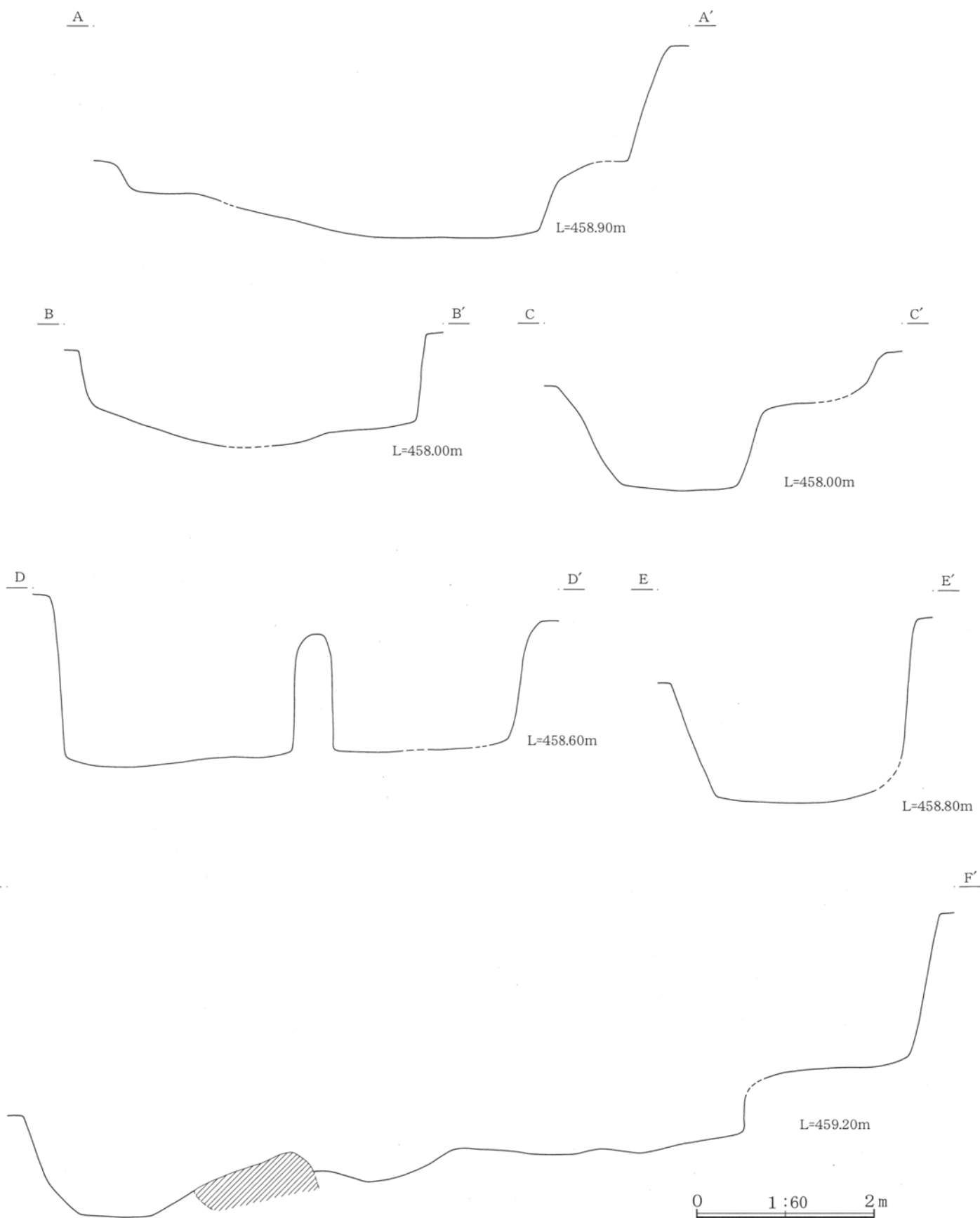
金等が多数出土している。(観P.155~158)

所見 土坑墓群は密接して存在していたため、新旧関係は不明瞭であった。22号土坑は寝棺であるが、他の土坑は座棺である。人骨については、「第5章-5」を参照されたい。



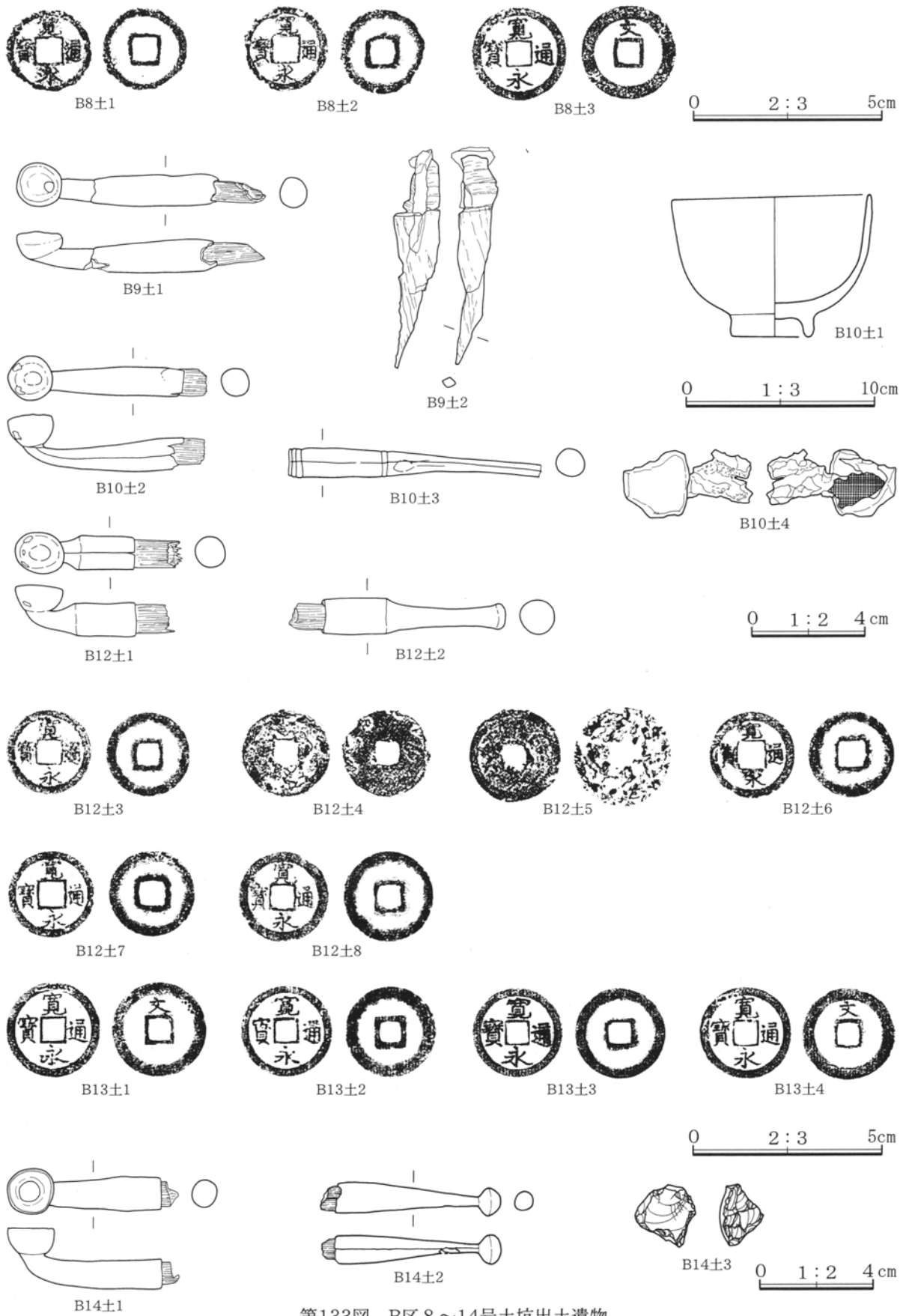
第131図 C区1号畑跡(2)・B区7~24号土坑(1)

4. 中近世の遺構と遺物



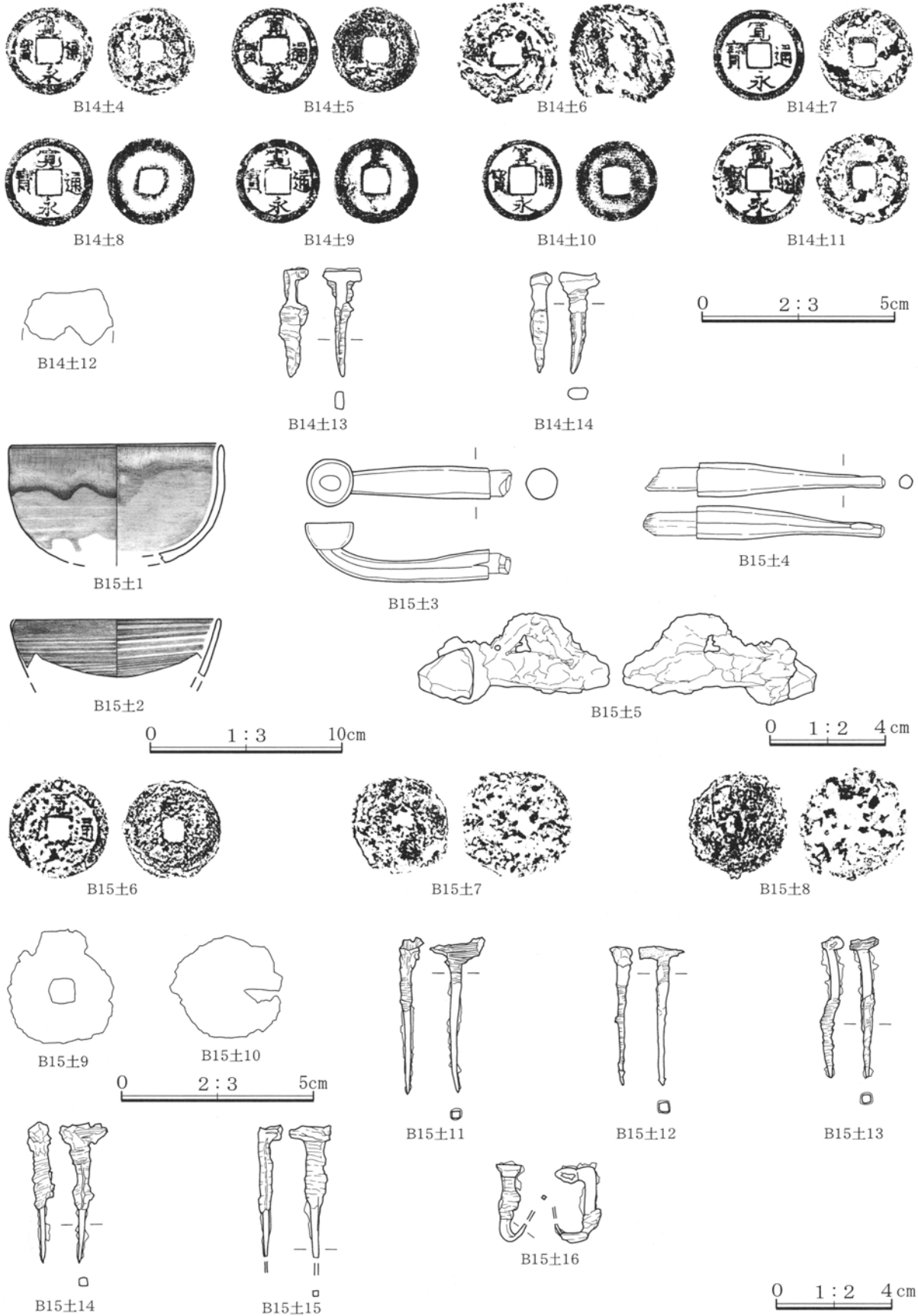
第132図 B区7~24号土坑(2)

第3章 検出された遺構と遺物



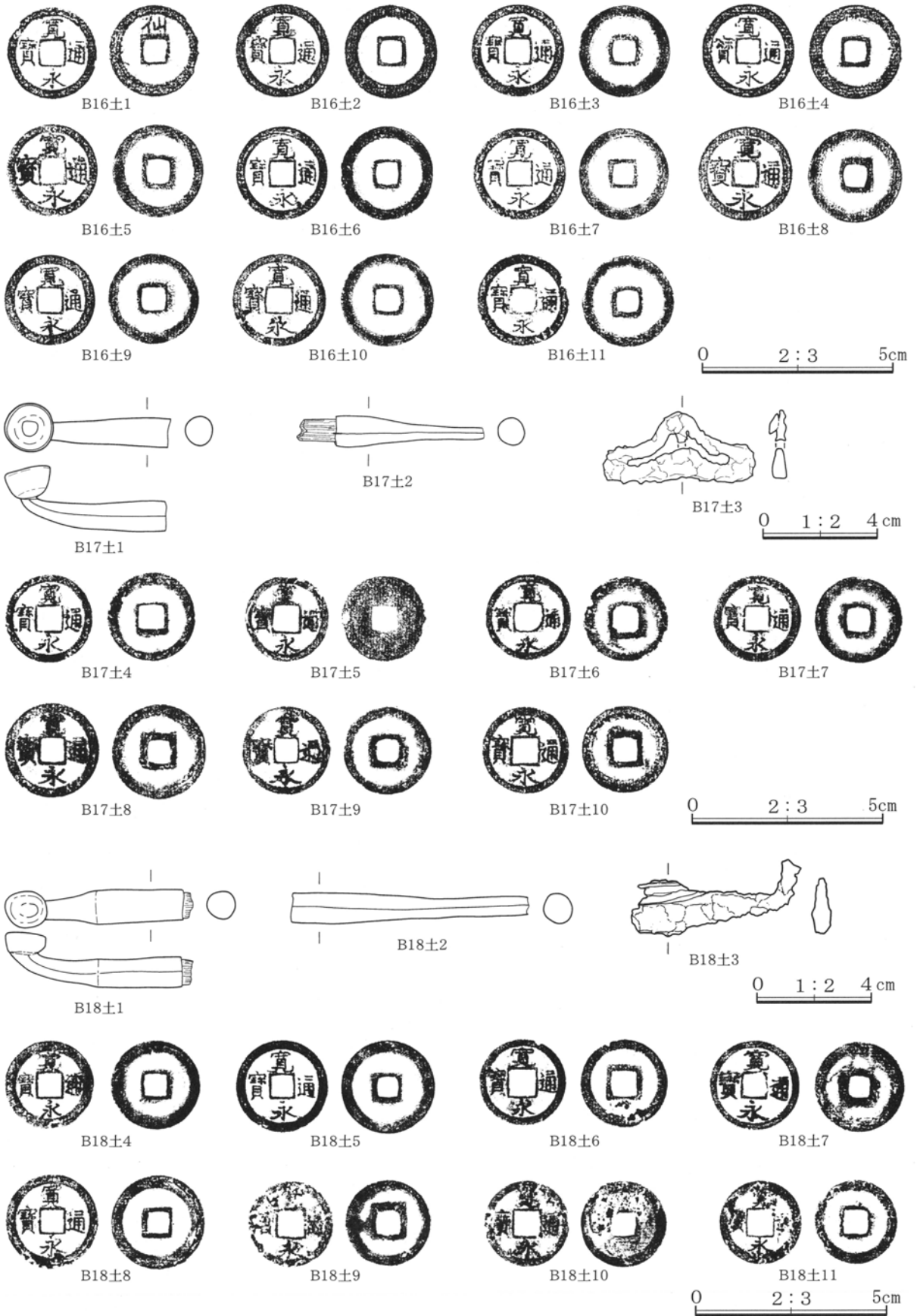
第133図 B区8~14号土坑出土遺物

4. 中近世の遺構と遺物



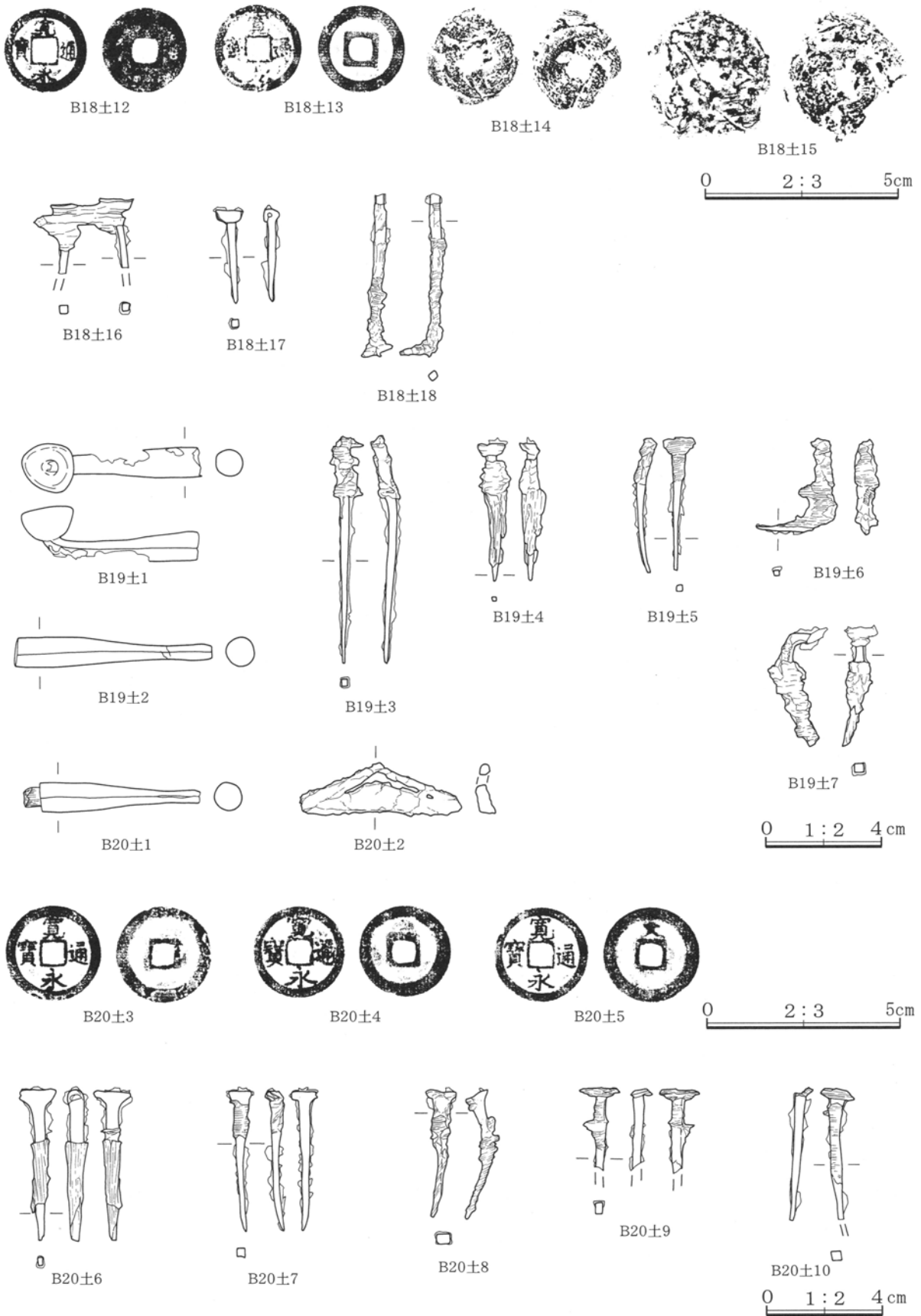
第134図 B区14・15号土坑出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物



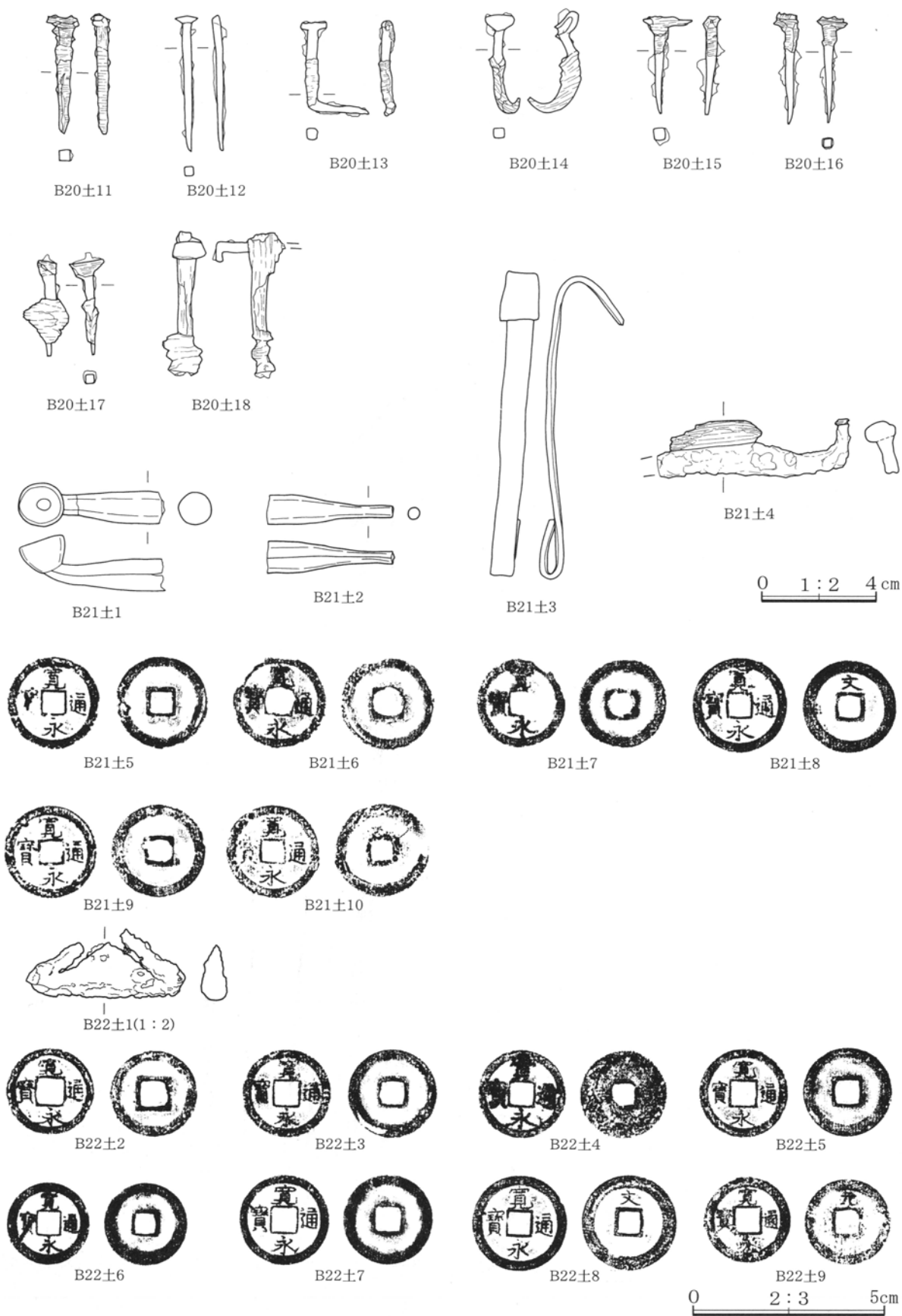
第135図 B区16~18号土坑出土遺物

4. 中近世の遺構と遺物



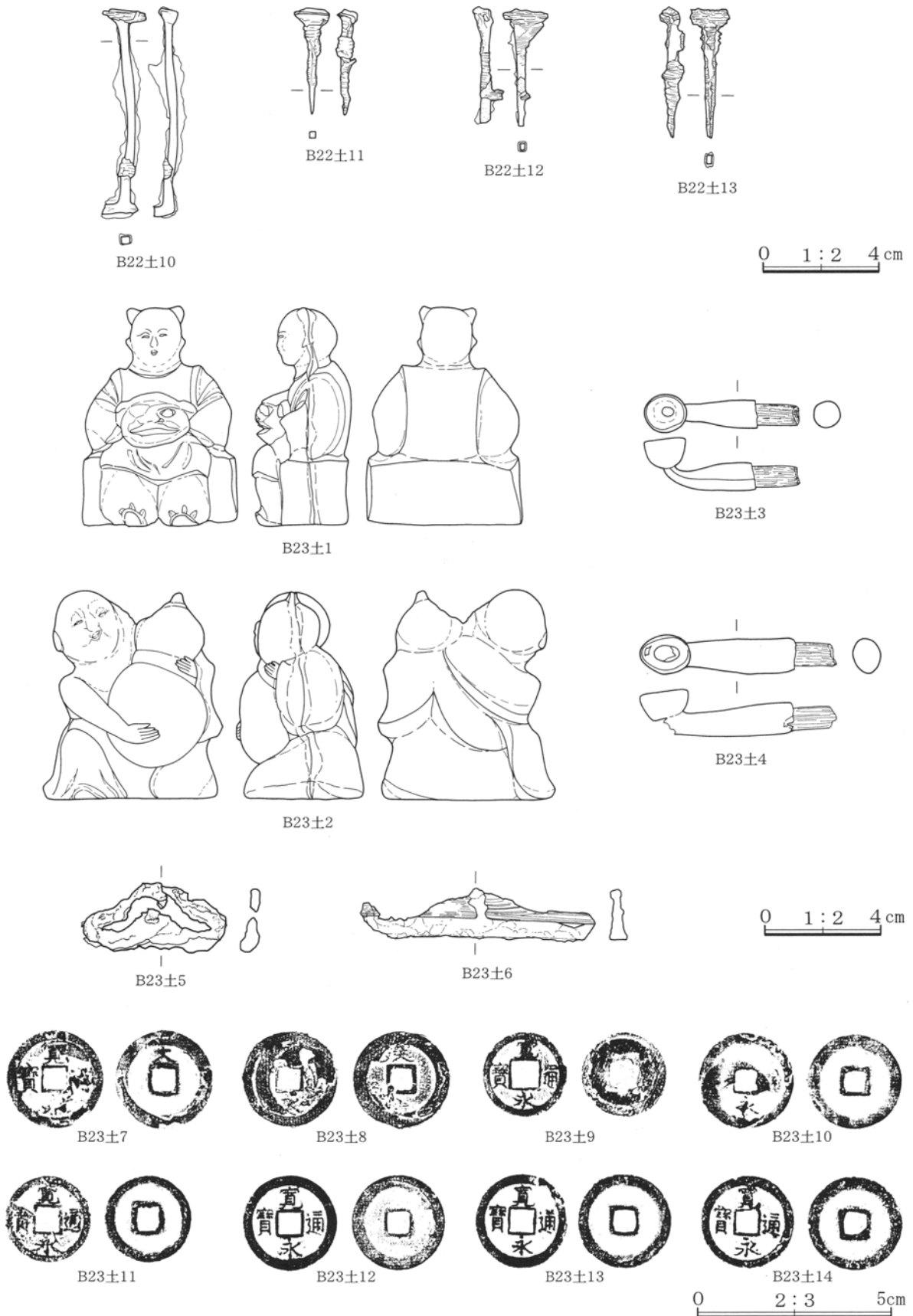
第136図 B区18~20号土坑出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物



第137図 B区20～22号土坑出土遺物

4. 中近世の遺構と遺物



第138図 B区22・23号土坑出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物



B23±15



B23±16



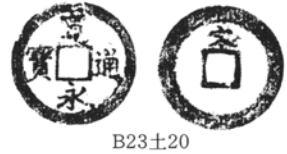
B23±17



B23±18



B23±19



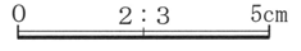
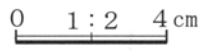
B23±20



B23±21



B23±22



B24±1



B24±2



B24±3



B24±4



B24±5



B24±6



B7~24±一括1



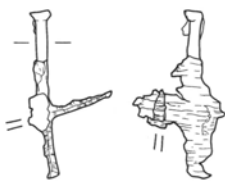
B7~24±一括2



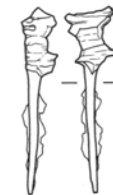
B7~24±一括3



B7~24±一括4



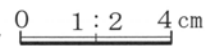
B7~24±一括6



B7~24±一括5



B7~24±一括7



第139図 B区23・24号土坑・7~24号土坑出土遺物

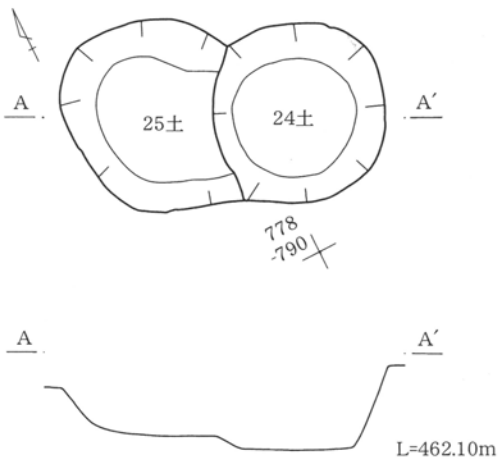
4. 中近世の遺構と遺物

第4表 中近世土坑墓一覧表 (第131図～139図 PL28・29、67～69)

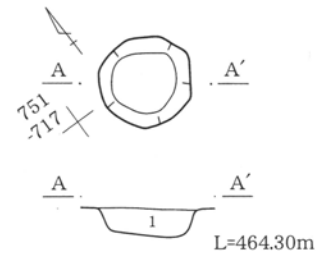
遺構名	人骨出土状況	被葬者		出土遺物
		年齢	性別	
B区7号土坑	×	—	—	なし。
B区8号土坑	○	不明	不明	銅銭3
B区9号土坑	○	成人	男	煙管雁首1、釘
B区10号土坑	○	成人	男	陶器1、煙管雁首1、煙管吸い口1、火打金1、釘 (未掲載)
B区11号土坑	○	30代	男	なし。
B区12号土坑	○	老齡	男	煙管雁首1、煙管吸い口1、銅銭6
B区13号土坑	○	—	—	銅銭4
B区14号土坑	○	老齡	女	煙管雁首1、煙管吸い口1、火打石1、銅銭9、釘
B区15号土坑	○	40代	男	陶器2、煙管雁首1、煙管吸い口1、火打金1、銅銭5、釘
B区16号土坑	○	未成年	不明	銅銭11
B区17号土坑	○	老齡	男	煙管雁首1、煙管吸い口1、火打金1、銅銭7
B区18号土坑	○	50代	男	煙管雁首1、煙管吸い口1、火打金1、銅銭12、釘
B区19号土坑	○	老齡	女	煙管雁首1、煙管吸い口1、釘
B区20号土坑	○	30代	女	煙管吸い口1、火打金1、銅銭3、釘
B区21号土坑	○	成人	女	煙管雁首1、煙管吸い口1、吊金具1、火打金1、銅銭6
B区22号土坑	○	40代	男	火打金1、銅銭8、釘
B区23号土坑	○	30代	女	土人形2、煙管雁首2、火打金2、銅銭14、釘
B区24号土坑	○	成人	女	火打金1、銅銭5

(5) 土坑

C区24・25号土坑

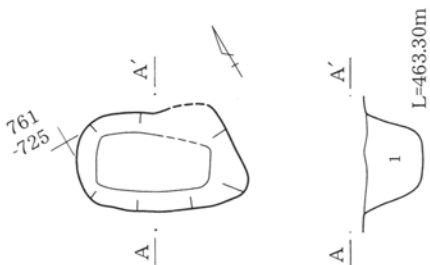


C区26号土坑



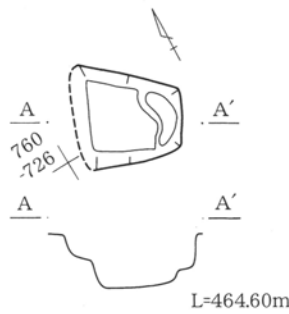
C区26号土坑
1 暗褐色土層 FPを少量含む。

C区28号土坑

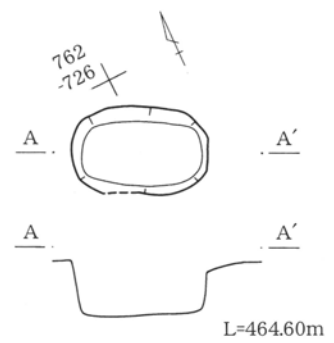


C区28号土坑
1 10cm～30cmの川原石

C区29号土坑



C区30号土坑

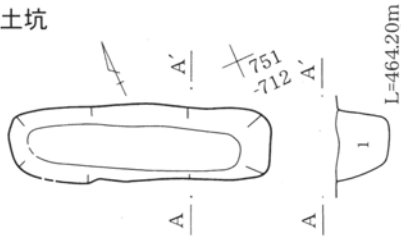


0 1:60 2m

第140図 B区24・25号土坑・C区26・28～30号土坑

第3章 検出された遺構と遺物

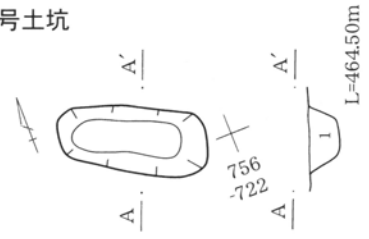
C区31号土坑



C区31号土坑

1 暗褐色土層 As-Bをやや多量、FPを少量含む。

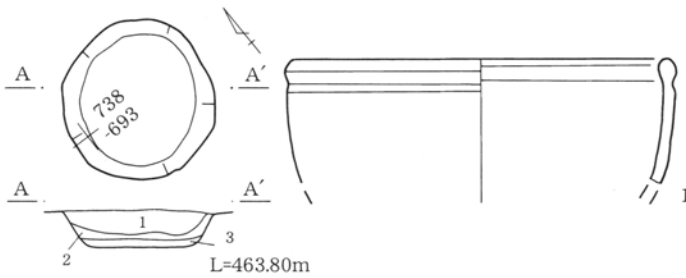
C区32号土坑



C区32号土坑

1 暗褐色土層 FPを少量含む。

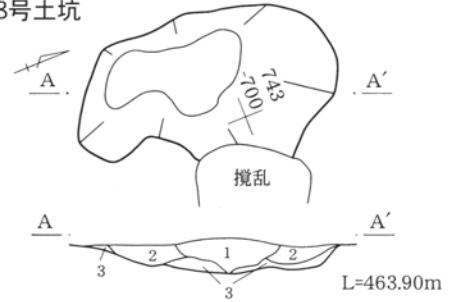
C区37号土坑



C区37号土坑

1 浅黄橙色土層 ローム主体土。灰黄褐色土を少量含む。
2 灰黄褐色土層 底部に板が敷かれる。
3 浅黄橙色土層 ローム主体土。

C区38号土坑

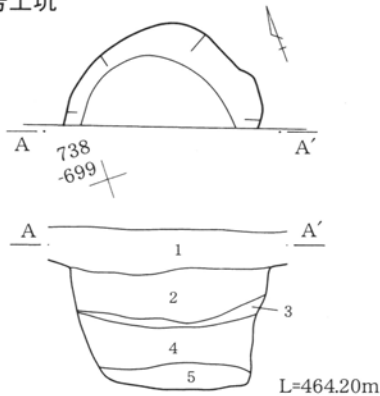


C区38号土坑

1 焼土層。
2 FPの二次堆積層。
3 黒褐色土層



C区40号土坑



C区40号土坑

1 表土
2 暗褐色土層 FPを少量含む砂質土。
3 浅黄橙色土層 ローム主体土
4 暗褐色土層 FPを少量、ローム粒を多く含む砂質土。
5 暗褐色土層 FP、ローム粒を少量含む。

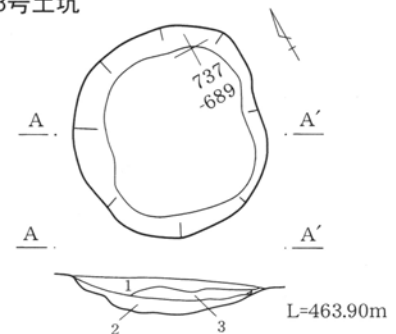
C区39号土坑



C区39号土坑

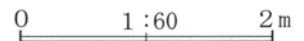
1 暗褐色土層 FPを少量含む砂質土。

C区43号土坑

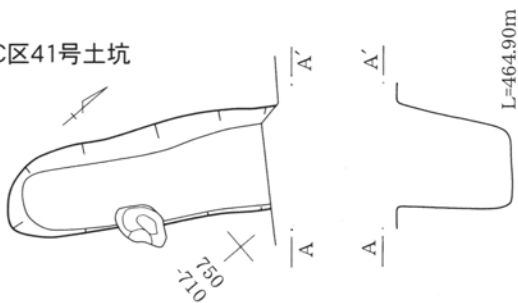


C区43号土坑

1 褐色土層 ローム粒を多量、FPを少量含む砂質土。
2 暗褐色土層 ロームブロック、FPを少量含む。
3 暗褐色土層 FPを少量含む。

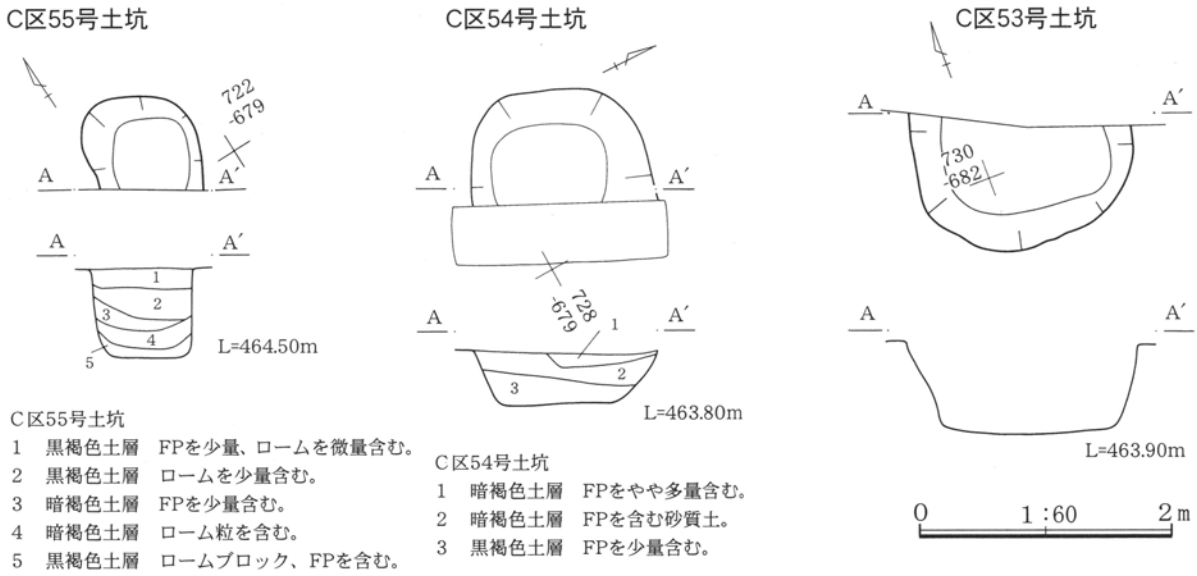


C区41号土坑

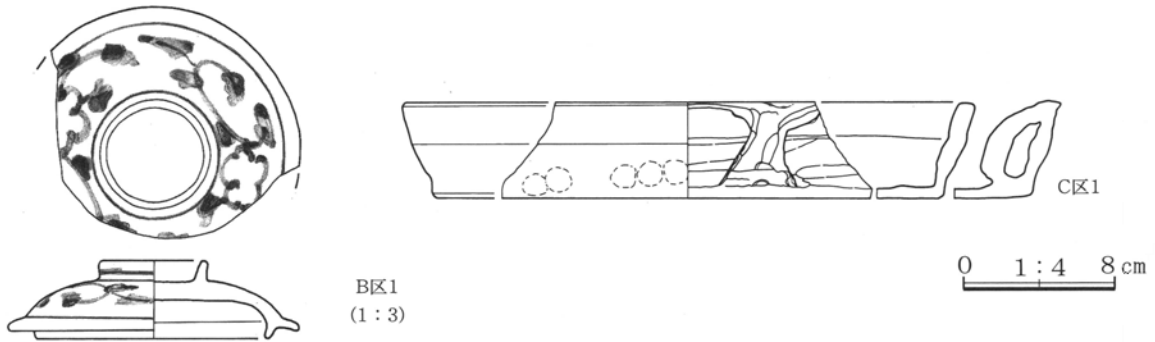


第141図 C区31・32・37～41・43号土坑と出土遺物

4. 中近世の遺構と遺物



(6) 遺構外出土遺物



第142図 C区53～55号土坑・遺構外出土遺物

第5表 中近世土坑一覧表 (第140図～142図 PL30・31・69)

遺構名	グリッド	長軸方位	形状	規模			備考 (重複、出土遺物、時期等)
				長軸	短軸	深さ	
C区24号土坑	778-790	N-25°-E	楕円形か	138	126	67	34号土坑と重複
C区25号土坑	778-790	-	不定形	120+	153	38	
C区26号土坑	751-717	N-30°-E	円形	73	72	24	中世以降。
C区28号土坑	761-725	N-63°-W	長方形	139	80	45	川原石が充填。近世。
C区29号土坑	760-726	N-32°-E	長方形	84	78	42	川原石が充填。近世。
C区30号土坑	762-726	N-27°-E	長方形	108	70	44	川原石が充填。近世。
C区31号土坑	751-712	N-65°-W	長方形	213	60	42	中世以降。
C区32号土坑	756-722	N-65°-W	長方形	120	54	24	中世以降。
C区37号土坑	738-693	N-50°-E	円形	128	121	30	板状の木質。近世。
C区38号土坑	743-700	N-20°-E	不定形	210	110	26	
C区39号土坑	744-712	N-67°-W	長方形	144	56	27	中世以降。
C区40号土坑	738-699	N-24°-E	円形か	155	83	99	近世。
C区41号土坑	750-710	N-30°-E	長方形	208	82	90	中世以降。
C区43号土坑	737-689	N-15°-E	楕円形	167	148	27	近世。
C区53号土坑	730-682	N-20°-E	不明	174	110	72	
C区54号土坑	728-679	N-64°-E	長方形か	145	92	43	
C区55号土坑	722-679	N-18°-E	長方形か	94	75	72	

第3章 検出された遺構と遺物

出土遺物観察表（縄文～平安）※古墳玄室出土遺物は除く。

B区2号土坑（第6図 P L32）

番号	種類 器種	出土 位置	部位 残存	計測値	①胎土②焼成③色調	成・整形の特徴	備考
1	深鉢	埋土	破片	口底高 5.2+	①細かい砂粒を含む ②硬い ③赤褐色	幅5ミリの半截竹管による平行沈線に燃る文様施文。口縁部は「く」の字状に屈曲するが、剥離している。諸磯b式	
2	深鉢	埋土	破片	口底高 6.9+	①砂粒・雲母が目立 ②ややざらつく ③にぶい赤褐色	RLとLRの羽状縄文を交互に施文し、菱形を構成する。諸磯b式。	
3	深鉢	埋土	破片	口底高 -	①細かい砂粒を含む ②硬い ③橙色	幅5ミリの半截竹管による平行沈線に燃る文様施文。口縁部は「く」の字状に屈曲する。地文は、RLの縄文が施文される。剥離している。諸磯b式	

B区3号土坑（第7図 P L32）

1	深鉢	埋土	破片	口底高 2.2+	①細かい砂粒を含む ②やや軟質 ③にぶい赤褐色	幅5ミリの平行沈線が横位に乱雑に施文される。諸磯b式土器。	
---	----	----	----	----------	-------------------------------	-------------------------------	--

B区30号土坑（第9図 P L32）

1	石器 スクレーパー	埋土	-	長幅厚 4.2 6.8 1.2	-	横長に母岩から剥離されている。裏面に細かい剥離による刃部が付けられている。	黒色頁岩 重量29.8g
---	--------------	----	---	-----------------------	---	---------------------------------------	-----------------

C区23号土坑（第17図 P L32）

1	鉢	埋土	破片	口底高 3.7+	①1mm程度の小石・雲母を含む ②やや軟質 ③黄褐色	幅4ミリの平行沈線による横位施文。諸磯b式～諸磯c式。	
2	鉢	埋土	破片	口底高 2.8+	①1mm程度の小石・雲母を含む ②やや軟質 ③にぶい橙色	幅4ミリの平行沈線を縦矢羽根状に施文し、底部に至る屈曲部を横位の平行沈線で胴部文様帯を区画する。諸磯c式。	

A区遺構外遺物（第24図 P L32）

1	石器 石鏃	-	-	口底高 2.8+ 1.5 0.3	-	有茎の石鏃。	黒色頁岩 重量1.1g
---	----------	---	---	------------------------	---	--------	----------------

B区遺構外（第24図 P L32）

1	石器 石鏃	-	-	口底高 4.2+ 1.0 0.5	-	有茎の石鏃。柳葉状の形をする。	黒色安山岩 重量2.3g
2	石器 スクレーパー	-	-	口底高 4.9 5.8 2.1	-	右側縁部に細かい剥離調整痕が見られる。	黒色頁岩 重量75.2g
3	石器 石斧	-	-	口底高 11.7 4.1 0.9	-	基部から刃部にかけて側縁部が直線的に広がる。先端の刃部は、丸みを帯び摩滅している。	細粒輝石安山岩 重量70.7g
4	石器 石斧	-	-	口底高 14.8 6.2 1.2	-	短冊形になる。側縁部は直線的で細かい剥離調整を持つ。先端の刃部は一部欠損している。	細粒輝石安山岩 重量121.1g

C区遺構外遺物（第24図 P L32）

1	深鉢	-	-	口底高 5.7+	①繊維・砂粒多い ②やや軟質 ③赤褐色	RLとLRの羽状縄文を交互に施文し、菱形を構成する。胎土に繊維を含む。有尾式。	
2	石製品	-	-	口底高 10.9 9.1 4.8	-	凹みは、緩い傾斜で、浅鉢状になる。反対面は、丸みを持ち磨かれている。	粗粒輝石安山岩 重量688.2g

遺物観察表

B区3号住居 (第26・27図 P L32・33)

番号	種類 器種	出土 位置	部位 残存	計測値	①胎土②焼成③色調	成・整形の特徴	備考
1	弥生土器 ミニチュア鉢	床直	完形	口 7.2 底 2.1 高 3.2	①白色粒含 ②酸化焰 ③橙色	内外面とも粗い研磨。	樽式
2	弥生土器 高環	床直	脚部	口 - 底 9.1 高 -	①白色粒含 ②酸化焰 ③橙色	内外面とも丁寧な研磨。	
3	弥生土器 高環	埋土	脚部	口 - 底 - 高 -	①黒色粒含 ②酸化焰 ③橙色	外面研磨、内面撫で。	
4	弥生土器 蓋	床直	摘部	摘 - 裾 - 高 -	①白色粒少 ②酸化焰 ③橙色	外面研磨、内面粗い研磨。	
5	弥生土器 蓋	床直	2/3	摘 4.0 裾 14.0 高 7.1	①黒色粒含 ②酸化焰 ③にぶい橙色	内外面刷毛目のち研磨、裾部内面が煤ける。	樽式
6	弥生土器 鉢	埋土	1/2	口(9.0) 底 3.5 高 4.5	①白色粒含 ②酸化焰 ③橙色	刷毛目のち内外面とも丁寧な研磨。	樽式
7	弥生土器 甕	埋土	口縁～ 胴部2/5	口 17.2 底 - 高 -	①白色粒多 ②酸化焰 ③暗褐色土	頸部に横線、その上下に1段ずつの波状文、櫛歯は乱れており幅7mm/4本。胴外面と内面全体に研磨。	樽式
8	弥生土器 甕	埋土	頸部破 片	口 - 底 - 高 -	①白色粒少 ②酸化焰 ③にぶい褐色	細かく止めながらの波状文。内面研磨。	樽式
9	弥生土器 小型甕	埋土	底部	口 - 底 4.8 高 -	①白色粒含 ②酸化焰 ③にぶい褐色	内外面刷毛目のち研磨。	
10	弥生土器 甕	埋土	肩部破 片	口 - 底 - 高 -	①白色粒少 ②酸化焰 ③にぶい黄橙色	頸部に横線ないし間隔の広い簾状文、肩に1段の波状文、櫛歯幅13mm/9本。外面刷毛目のち研磨、内面研磨。乾燥時にネズミ等による引っ掻き傷あり。	
11	弥生土器 甕	床直	口縁1/5	口 13.0 底 - 高 6.2+	①白色粒含 ②酸化焰 ③橙色	口縁～頸部に6～7段の波状文、施文は下から上、時計回り、櫛歯幅は10mm/6本。外面刷毛目、内面横研磨。	樽式
12	弥生土器 甕	埋土	頸～胴 部1/6	口 - 底 - 高 13.4+	①黒色粒含 ②酸化焰 ③浅黄橙色	口縁は複数段の粘土帯を廻らし、下端をヘラで刻む。頸部はスリットによる縦区画分割で櫛歯波状文充填を一区画おきに施す。肩部3本単位の櫛歯で模様、その下に大振りの波状文、施文は反時計回り。胴部全体に縄文(原体は附加条2種軸縄RL付加と思われる)。胴上位に12単位の同心円状を描く。外面撫で、内面は横位研磨。	東関東系
13	弥生土器 甕	埋土	底部片	口 - 底 5.2 高 -	①白色粒少 ②酸化焰 ③にぶい橙色	内外面研磨。	樽式
14	弥生土器 甕	埋土	口縁部	口 19.4 底 - 高 7.1+	①白色粒多 ②酸化焰 ③赤褐色	口縁1段、頸に5～6段の波状文、施文は下から上、時計回り、櫛歯幅は12mm/6本。外面は縦刷毛目、内面は横研磨。	
15	弥生土器 小型甕	床直	口縁欠	口 10.0 底 5.2 高 15.3	①白色粒多 ②酸化焰 ③褐色	頸部に2段の波状文、肩に2ヶ対の円形貼付文(横ヘラ沈線)、櫛歯幅は11mm/8本。内外面とも丁寧な研磨。口縁直下に煤付着。	樽式
16	弥生土器 甕	床直	ほぼ完 形	口 13.3 底 6.5 高 22.8	①白色粒含 ②酸化焰 ③褐色	口～頸部に7段の波状文を重ねる。施文は下から上、時計回り、櫛歯幅11mm/6本。口～頸部に縦刷毛目、胴外面と内面全体に研磨。口～肩外面に煤付着。	樽式
17	弥生土器 甕	床直	ほぼ完 形	口 14.0 底 7.8 高 24.7	①白色粒多 ②酸化焰 ③明褐色	頸部に乱れた等間隔止簾状文。口～頸部に3～4段の乱れた波状文を廻らす。肩に1～2段の波状文。継ぎ目は5～6ヶ所。櫛歯本体は幅14mm/10本。口縁部折り返し部外面に櫛状具による刻目。口縁部に縦刷毛目、胴部研磨、内面研磨。胴上位～口縁外面に煤付着。	
18	弥生土器 甕	床直	口縁～ 胴部1/2	口 21.0 底 - 高 -	①白色粒多 ②酸化焰 ③浅黄橙色	口～頸部に7段の波状文、施文は下から上、時計回り、櫛歯の幅14mm/8本。口～頸部に刷毛目とヘラ撫で。外面胴部と内面全体に刷毛目のち荒い研磨。外面全体に煤付着。	樽式
19	弥生土器 紡錘車	床直	完形	径 5.2 孔 0.65 厚 1.5	①白色粒多 ②酸化焰 ③橙色	表裏とも粗い研磨。	重量45.52g

第3章 検出された遺構と遺物

番号	種類 器種	出土 位置	部位 残存	計測値	①胎土②焼成③色調	成・整形の特徴	備考
20	石器 石庖丁か	埋土	1/2	縦 3.6 横 4.2 厚 0.6	—	石材は粗粒輝石安山岩。	重量6.66g

B区遺構外遺物 (第27図 P L34)

1	弥生土器 甕	—	口～頸 部1/6	口(11.8) 底 - 高 3.2+	①白色粒少 ②酸化焰 ③明褐色	頸部に2段波状文、時計回り。櫛歯幅11mm/7～8本。	樽式
2	弥生土器 甕	—	頸部破 片	口 - 底 - 高 -	①白色粒多 ②酸化焰 ③暗オリーブ色	頸部に二簾止め簾状文、その上位に一段の波状文。櫛歯幅は13mm/9本。無文部は縦研磨。	樽式
3	弥生土器 壺	—	肩部破 片	口 - 底 - 高 -	①白色粒含 ②酸化焰 ③橙色	波状文2段以上。刺突と木口面を押捺した円形貼付文を付す。櫛幅22mm/11～12本。	樽式
4	弥生土器 甕	—	頸部破 片	口 - 底 - 高 -	①白色粒含 ②酸化焰 ③にぶい赤褐色	等間隔止簾状文のち上下に波状文。櫛歯幅17mm/12本。施文は時計回り。内面研磨。乾燥時におけるネズミ等による爪先の引掻傷あり。	樽式

C区遺構外遺物 (第27図 P L34)

1	弥生土器 甕	—	口縁～ 胴部下 位1/4	口 14.5 底 - 高 13.1+	①白色粒含 ②酸化焰 ③にぶい褐色	口～頸部に7段の波状文。施文は下から上、時計回り。櫛歯幅は12mm/8～9本。胴外面研磨、内面刷毛目のち研磨。	樽式
---	-----------	---	--------------------	--------------------------	-------------------------	---	----

A区1号住居 (第30・31図 P L34～36)

1	土師器 坏	床直	完形	口 10.5 底 - 高 3.7	①黒色粒少 ②酸化焰 ③橙色	外面 口縁部横撫で、体～底部ヘラ削り。 内面 口縁部横撫で、体部撫で。	
2	土師器 坏	床直	完形	口 11.2 底 - 高 3.7	①白色粒少 ②酸化焰 ③にぶい褐色	外面 口縁部横撫で、体～底部ヘラ削り。 内面 口縁部横撫で、体部撫で。	
3	土師器 坏	床直	ほぼ完 形	口 12.0 底 - 高 3.2	①白色粒少 ②酸化焰 ③橙色	外面 口縁部横撫で、体～底部ヘラ削り後撫で。 内面 口縁～体部横撫で、底部撫で。	
4	土師器 坏	床直	完形	口 11.8 底 - 高 3.7	①黒色粒少 ②酸化焰 ③橙色	外面 口縁部横撫で、体～底部撫で。 内面 口縁～底部横撫で、底部撫で。	
5	土師器 坏	竈	完形	口 11.9 底 - 高 4.7	①白色粒少 ②酸化焰 ③浅黄褐色	外面 口縁部横撫で、体～底部ヘラ削り。 内面 口縁～底部ヘラ磨き。内黒。	
6	土師器 坏	埋土	口縁～ 底部1/2	口 12.6 底 - 高 5.4	①白色粒少 ②酸化焰 ③浅黄褐色	外面 口縁部横撫で、体～底部ヘラ撫で。 内面 口縁～底部ヘラ磨き。内黒。	
7	土師器 坏	床直	ほぼ完 形	口 12.4 底 - 高 5.1	①白色粒少 ②酸化焰 ③にぶい褐色	外面 口縁部横撫で、体～底部ヘラ撫で。 内面 口縁～底部ヘラ磨き。内黒。	
8	土師器 坏	床直	口縁～ 底部4/5	口 12.5 底 - 高 3.3	①白色粒含 ②酸化焰 ③橙色	外面 口縁部横撫で、体～底部ヘラ削り。 内面 口縁～底部ヘラ磨き。内黒。	
9	土師器 坏	埋土	口縁～ 底部3/5	口 13.3 底 - 高 5.8	①白色粒多 ②酸化焰 ③橙色	外面 口縁部横撫で後ヘラ磨き、体～底部ヘラ磨き。 内面 口縁～底部ヘラ磨き。内黒。	
10	土師器 甕	貯蔵穴	完形	口 14.0 底 5.3 高 16.0	①白色粒多 ②酸化焰 ③にぶい褐色	外面 口縁部横撫で、胴部ヘラ削り。 内面 口縁部横撫で、胴部ヘラ撫で。	
11	土師器 甕	埋土	口縁～ 底部4/5	口 14.4 底 7.2 高 18.0	①白色粒多 ②酸化焰 ③赤褐色	外面 口縁部横撫で、胴部ヘラ削り、底部ヘラ削り。 内面 口縁部横撫で、胴部ヘラ撫で。	
12-①	土師器 甕	貯蔵穴	胴部下 位～底 部	口 - 底 6.9 高 16.3+	①白色粒含 ②酸化焰 ③明褐色	外面 胴部下位ヘラ撫で、底部未調整。 内面 ヘラ撫で。	

遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	部位 残存	計測値	①胎土②焼成③色調	成・整形の特徴	備考
12-②	土師器 甕	貯蔵穴	口縁～ 胴部中 位	口 21.3 底 - 高 27.8+	①白色粒含 ②酸化焰 ③にぶい黄橙色	外面 口縁部横撫で、胴部上位刷毛目、胴部中位ヘラ撫で。 内面 口縁部横撫で、胴部上位丁寧な撫で。	
13	土師器 甕	貯蔵穴	口縁～ 胴部中 位	口 20.0 底 - 高 (21.7)+	①白色粒多 ②酸化焰 ③橙色	胴部被熱。 外面 口縁部横撫で、胴部ヘラ削り。 内面 口縁部横撫で、胴部ヘラ磨き。	
14	土師器 甕	貯蔵穴	口縁～ 胴部下 位3/5	口 19.9 底 - 高 33.3	①白色粒含 ②酸化焰 ③にぶい黄橙色	外面 口縁部横撫で、胴部磨きに近い撫で。 内面 口縁部横撫で、胴部ヘラ撫で。	
15	土師器 甕	貯蔵穴	口縁～ 底部4/5	口 22.6 底 - 高 30.0	①白色粒多 ②酸化焰 ③にぶい黄橙色	外面 口縁部横撫で、胴部上位ヘラ磨き、中～低位撫で、底部ヘラ削り。 内面 口縁部横撫で、胴部撫で後ヘラ磨き。	
16	土師器 甕	貯蔵穴	口縁～ 胴部下 位	口 22.6 底 - 高 33.9+	①白色粒多 ②酸化焰 ③にぶい黄橙色	外面 口縁部横撫で、胴部上～中位刷毛目、体部下位ヘラ撫で。 内面 口縁部横撫で、胴部ヘラ撫で。	
17	土師器 甕	床直	底部片	口 - 底 - 高 -	①白色粒多 ②酸化焰 ③にぶい黄橙色	外面 ヘラ磨き。 内面 ヘラ撫で。	
18	土師器 甕	貯蔵穴	ほぼ完 形	口 22.0 底 6.6 高 34.8	①白色粒多 ②酸化焰 ③にぶい橙色	外面 口縁部横撫で、胴部ヘラ削り後ヘラ撫で、底部未調整。 内面 口縁部横撫で後ヘラ磨き、胴部ヘラ撫で後、ヘラ磨き。	
19	鉄製品 鏃か	埋土	茎部か	長 7.3 幅 0.7 厚 0.4	-	木質が残る。重量5.5g。	
20	環状 鉄製品	埋土	2/3	長 7.3 幅 3.5 厚 1.3	-	鉄斧などの締め金具か。	
21	鉄製品 鏃	床直	刃部	長 15.3+ 幅 2.7 重 26.9	-	刃部に研ぎ減りが見られる。	
22	石製品 砥石	床直	破片	長 6.2+ 幅 5.0 厚 3.3	-	砥沢石。	

A区2号住居 (第35図 P L36・37)

1	土師器 杯	埋土	ほぼ完 形	口 10.9 底 - 高 4.2	①赤褐色粒含 ②酸化焰 ③にぶい黄橙色	外面 口縁部横撫で、体～底部ヘラ撫で。 内面 口縁部横撫で、体～底部ヘラ磨き。内黒。	
2	土師器 杯	貯蔵穴	口縁～ 底部1/4	口 (6.0) 底 - 高 5.2	①白色粒含 ②酸化焰 ③橙色	外面 口縁部横撫で、体～底部撫で後部分的にヘラ磨き。 内面 口縁～底部ヘラ磨き。内黒。	
3	土師器 杯	竈	口縁～ 底部4/5	口 13.7 底 - 高 6.4	①白色粒多 ②酸化焰 ③にぶい橙色	外面 口縁部横撫で、体～底部撫で。 内面 口縁～底部ヘラ磨き。内黒。	
4	土師器 小型壺	床直	口縁～ 底部1/2	口 10.8 底 - 高 8.2	①白色粒少 ②酸化焰 ③にぶい褐色	外面 口縁部横撫で、胴～底部撫で。 内面 口縁部横撫で、胴部撫で、底部ヘラ磨き。	
5	土師器 甕	貯蔵穴	口縁頭 部1/5	口 (18.7) 底 - 高 13.0+	①白色粒多 ②酸化焰 ③にぶい橙色	外面 口縁部横撫で、胴部ヘラ磨き。 内面 口縁部横撫で、胴部横ヘラ撫で。	
6	土師器 甕	埋土	口縁～ 胴部1/2	口 17.5 底 - 高 -	①白色粒多 ②酸化焰 ③にぶい褐色	外面 口縁部横撫で、胴部ヘラ磨き。 内面 口縁部横撫で後ヘラ磨き、胴部ヘラ撫で。	
7	土師器 甕	床直	口縁～ 胴部1/2	口 22.0 底 - 高 34.0+	①白色粒多 ②酸化焰 ③橙色	外面 口縁部横撫で、肩～胴部中位刷毛目、胴部下位ヘラ削り。 内面 口縁部横撫で、胴部ヘラ撫で。	

第3章 検出された遺構と遺物

B区1号住居 (第36図 P L37)

番号	種類 器種	出土 位置	部位 残存	計測値	①胎土②焼成③色調	成・整形の特徴	備考
1	土師器 坏	床直	口縁～ 底部3/5	口 9.9 底 - 高 4.7	①白色粒少 ②酸化焰 ③にぶい褐色	外面 口縁部横撫で、体～底部磨きに近い撫で。 内面 口縁部横撫で、体～底部ヘラ磨き。内黒。	
2	土師器 坏	竈	口縁～ 底部1/2	口 9.2 底 - 高 4.3	①白色粒含 ②酸化焰 ③褐色	外面 口縁部ヘラ磨き、体～底部ヘラ削り。 内面 口縁部横撫で、体～底部ヘラ磨き。内黒。	

B区2号住居 (第39図 P L37・38)

1	土師器 坏	床直	完形	口 13.2 底 - 高 5.4	①白色粒多 ②酸化焰 ③にぶい黄橙色	外面 口縁部横撫で、体部ヘラ磨き、底部ヘラ削り。 内面 口縁部横撫で、体部ヘラ磨き。内黒。	
2	土師器 坏	埋土	ほぼ完 形	口 13.2 底 - 高 5.7	①白色粒多 ②酸化焰 ③にぶい黄橙色	外面 口縁部横撫で、体～底部撫で、体部部分的にヘラ磨き。 内面 口縁～体部ヘラ磨き、底部撫で。内黒。	
3	土師器 坏	床直	口縁～ 底部3/4	口 12.2 底 - 高 5.6	①白色粒少 ②酸化焰 ③にぶい橙色	外面 口縁部横撫で、体～底部ヘラ磨き。 内面 口縁部横撫で、体～底部ヘラ磨き。内黒。	
4	土師器 高坏	埋土	坏～脚 部2/3	口 22.3 底 14.8 高 14.6	①白色粒多 ②酸化焰 ③にぶい橙色	外面 坏部ヘラ磨き、脚部ヘラ削り、裾部横撫で後ヘラ磨き。 内面 坏部ヘラ磨き、脚部撫で、裾部横撫で。内黒。	
5	土師器 甕	竈	胴～底 部1/2	口 - 底 - 高 22.0+	①白色粒多 ②酸化焰 ③にぶい橙色	外面 胴部上～中位ヘラ磨き、下位撫で、底部未調整。 内面 ヘラ撫で。	
6	土師器 甕	竈	口縁～ 胴部	口 17.3 底 - 高 31.8+	①白色粒含 ②酸化焰 ③にぶい褐色	外面 口縁部横撫で、胴部ヘラ削り。 内面 口縁部横撫で、胴部ヘラ撫で。	

C区2号住居 (第40図 P L38)

1	土師器 坏	埋土	口縁～ 体部1/5	口 11.7 底 - 高 -	①白色粒少 ②酸化焰 ③橙色	外面 口縁部横撫で、体部撫で。 内面 口縁部横撫で、体部撫で。	
2	土師器 坏	埋土	1/4	口 12.2 底 - 高 -	①白色粒少 ②還元焰 ③にぶい橙色	外面 口縁部横撫で、体～底部ヘラ削り。 内面 口縁部横撫で、体部撫で。	
3	土師器 坏	埋土	1/3	口 13.1 底 - 高 -	①白色粒少 ②還元焰 ③にぶい橙色	外面 口縁部横撫で、体～底部ヘラ削り。 内面 口縁部横撫で、体部撫で。内黒。	
4	土師器 高坏	床直	脚部1/2	口 - 底 12.6 高 (9.1)+	①白色粒多 ②酸化焰 ③にぶい黄橙色	外面 脚部ヘラ削り、刷毛目。裾部横撫で。 内面 上位ヘラ撫で、下位ヘラ削り。裾部横撫で。	
5	土師器 甕	床直	口縁～ 胴部上 位1/4	口 19.5 底 - 高 9.8+	①白色粒多 ②酸化焰 ③にぶい黄橙色	外面 口縁部横撫で、胴部ヘラ削り。 内面 口縁部横撫で、胴部横ヘラ削り。	

C区3号住居 (第44～46図 P L38～41)

1	土師器 坏	床直	完形	口 10.0 底 - 高 4.1	①白色粒少 ②酸化焰 ③橙色	外面 口縁部横撫で、体部ヘラ削り。 内面 口縁部横撫で、体部ヘラ撫で後ヘラ磨き。	
2	土師器 坏	竈	完形	口 10.4 底 - 高 3.6	①白色粒含 ②酸化焰 ③橙色	外面 口縁部横撫で、体部ヘラ削り後ヘラ磨き。 内面 口縁部横撫で、体部～底部ヘラ撫で後、体部横撫で。	
3	土師器 坏	埋土	完形	口 11.8 底 - 高 5.1	①白色粒多 ②酸化焰 ③橙色	外面 口縁部横撫で、体部ヘラ削り。 内面 口縁部横撫で、体部撫で。	
4	土師器 坏	床直	ほぼ完 形	口 12.4 底 - 高 5.2	①白色粒含 ②酸化焰 ③赤橙色	外面 口縁部横撫で、体～底部ヘラ削り。 内面 口縁部横撫で、体部撫で。	
5	土師器 坏	竈	完形	口 12.5 底 - 高 5.0	①白色粒少 ②酸化焰 ③赤褐色	外面 口縁部横撫で、体部ヘラ削り後撫で。 内面 口縁～体部横撫で。	

遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	部位 残存	計測値	①胎土②焼成③色調	成・整形の特徴	備考
6	土師器 坏	貯蔵穴	口縁～ 底部2/3	口 13.1 底 - 高 5.3	①黒色粒少 ②酸化焰 ③明赤褐色	外面 口縁部横撫で、体部ヘラ削り後撫で。 内面 口縁～体部横撫で。	
7	土師器 坏	床直	口縁～ 底部1/2	口 12.2 底 - 高 5.3	①白色粒少 ②酸化焰 ③橙色	外面 口縁部横撫で、体部撫で。 内面 口縁部横撫で、体部ヘラ磨き。	
8	土師器 坏	竈	口縁～ 底部4/5	口 12.3 底 - 高 4.9	①白色粒少 ②酸化焰 ③明赤褐色	外面 口縁部横撫で、体部ヘラ削り後撫で。 内面 口縁部横撫で、体部ヘラ磨き。	
9	土師器 坏	床直	完形	口 12.6 底 - 高 5.9	①黒色粒少 ②酸化焰 ③赤橙色	外面 口縁部横撫で、体部ヘラ削り後撫で。 内面 口縁部横撫で、体部横撫で後ヘラ磨き。	
10	土師器 坏	埋土	口縁～ 底部1/2	口 13.4 底 - 高 4.7	①黒色粒含 ②酸化焰 ③明赤褐色	外面 口縁部横撫で、体部ヘラ磨き。 内面 口縁部横撫で、体部放射状ヘラ磨き。	
11	土師器 坏	床直	口縁～ 底部2/3	口(12.8) 底 - 高 4.2	①黒色粒含 ②酸化焰 ③橙色	外面 口縁部横撫で、体～底部ヘラ削り。 内面 口縁部横撫で、口縁～体部放射状ヘラ磨き。	
12	土師器 坏	床直	口縁～ 底部3/5	口 10.6 底 - 高 4.3	①黒色粒多 ②酸化焰 ③明赤褐色	外面 口縁部横撫で、体～底部ヘラ削り 内面 口縁～底部撫で。内黒。	
13	土師器 坏	埋土	口縁～ 底部2/3	口(12.0) 底 - 高 4.9	①白色粒少 ②酸化焰 ③淡橙色	外面 口縁部横撫で、体部撫で。 内面 口縁部横撫で、体部ヘラ磨き。	
14	土師器 坏	埋土	口縁～ 体部2/5	口 10.6 底 - 高 5.9	①黒色粒含 ②酸化焰 ③にぶい橙色	外面 口縁部横撫で、体～底部ヘラ削り。 内面 口縁～底部ヘラ磨き。	
15	土師器 坏	埋土	2/3	口 12.2 底 - 高 5.7	①白色粒含 ②酸化焰 ③橙色	外面 口縁部横撫で、体部ヘラ撫で。 内面 口縁部横撫で、体部ヘラ撫で。	
16	土師器 坏	埋土	口～底 部2/3	口 9.8 底 - 高 8.4	①白色粒多 ②酸化焰 ③橙色	外面 口縁部横撫で、体部撫で。 内面 口縁部横撫で、体部ヘラ撫で。	
17	土師器 坏	床直	完形	口 12.5 底 - 高 8.2	①白色粒多 ②酸化焰 ③橙色	外面 口縁部横撫で、体部ヘラ撫で後ヘラ磨き。 内面 口縁部横撫で、体部ヘラ撫で。	
18	須恵器 蓋	床直	完形	摘 裾 6.4 高 4.4	①白色粒多 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形。外面天井部左回転ヘラ削り調整。	
19	土師器 高坏	床直	坏部1/2 欠損	口 11.5 底 8.4 高 10.3	①白色粒含 ②酸化焰 ③橙色	外面 口縁部横撫で、坏体部ヘラ磨き、脚部撫で。 内面 口縁部横撫で、坏体部ヘラ磨き、脚部撫で。内黒。	
20	土師器 高坏	床直	ほぼ完 形	口 12.0 底 10.0 高 10.1	①白色粒含 ②酸化焰 ③橙色	外面 口縁部横撫で、坏部ヘラ磨き、脚部ヘラ磨き、裾部横撫で。 内面 坏部ヘラ磨き、脚部撫で、裾部横撫で。	
21	土師器 高坏	竈	ほぼ完 形	口 10.7 底 10.9 高 11.0	①白色粒多 ②酸化焰 ③赤褐色	外面 口縁部横撫で、坏部撫で、脚部ヘラ磨き。 内面 口縁部横撫で、坏部ヘラ磨き、脚部撫で、裾部横撫で。	
22	土師器 高坏	埋土	脚部	口 - 底 11.0 高 6.9+	①白色粒含 ②酸化焰 ③橙色	外面 ヘラ磨き。 内面 脚部上半ヘラ撫で、脚部下半～裾部横撫で。	
23	土師器 高坏	竈	坏底～ 脚部4/5	口 - 底(17.2) 高(14.6)+	①白色粒含 ②酸化焰 ③橙色	外面 坏底部ヘラ撫で、脚部上位ヘラ撫で、裾部横撫で。 内面 坏底部ヘラ撫で、脚部撫で、裾部横撫で。	支脚として使用
24	土師器 小型甕	床直	完形	口 12.5 底 - 高 12.9	①白色粒含 ②酸化焰 ③橙色	外面 口縁～頸部横撫で、胴～底部ヘラ磨き。 内面 口縁～頸部横撫で、胴～底部ヘラ撫で。	
25	土師器 小型甕	埋土	口縁～ 胴部2/5	口 13.4 底 - 高 7.3+	①白色粒含 ②酸化焰 ③にぶい橙色	外面 口縁部横撫で、胴部ヘラ削り。 内面 口縁部横撫で、胴部横ヘラ撫で。	

第3章 検出された遺構と遺物

番号	種類 器種	出土 位置	部位 残存	計測値	①胎土②焼成③色調	成・整形の特徴	備考
26	土師器 小型甕	床直	口縁～ 胴部1/3	口 10.8 底 - 高 8.0+	①白色粒少 ②酸化焰 ③明赤褐色	外面 口縁部横撫で、胴部ヘラ磨き。 内面 口縁部横撫で、胴部上位ヘラ撫で、中位ヘラ磨き。	
27	土師器 小型甕	埋土	胴～底 部3/5	口 - 底 5.6 高 11.0+	①黒色粒少 ②酸化焰 ③橙色	外面 胴部ヘラ磨き、底部撫で。 内面 胴部ヘラ撫で後ヘラ磨き。	
28	土師器 甕	埋土	完形	口 18.1 底 6.0 高 32.6	①白色粒多 ②酸化焰 ③にぶい褐色	外面 口縁部横撫で、胴部ヘラ削り。 内面 口縁部撫で、胴部上位指撫で、下位ヘラ撫で。	
29	土師器 甕	床直	ほぼ完 形	口 20.3 底 8.7 高 34.1	①白色粒含 ②酸化焰 ③にぶい黄橙色	外面 口縁部横撫で、頸部刷毛目、胴部上位ヘラ削り、胴部下位ヘ ラ磨き、底部木葉痕。 内面 口縁部横撫で、胴部ヘラ撫で。	
30	土師器 甕	床直	口縁～ 底部2/5	口(22.7) 底 9.0 高(35.6)	①白色粒多 ②酸化焰 ③にぶい橙色	外面 口縁部横撫で、胴部ヘラ磨き。 内面 口縁部横撫で、胴部ヘラ撫で。	
31	土師器 甕	床直	口縁～ 頸部	口 19.2 底 - 高 7.2+	①白色粒多 ②酸化焰 ③橙色	外面 口縁部横撫で、頸部ヘラ磨き。 内面 口縁部横撫で、頸部撫で。	
32	土師器 甕	床直	口縁～ 胴部上 位2/3	口 17.5 底 - 高(16.0)+	①白色粒多 ②酸化焰 ③にぶい黄橙色	外面 口縁部横撫で、胴部ヘラ磨き。 内面 口縁部横撫で、胴部撫で。	
33	土師器 甕	埋土	口縁～ 頸部3/4	口 19.0 底 - 高(6.0)+	①白色粒多 ②酸化焰 ③灰白色	外面 口縁部横撫で。 内面 口縁部横撫で後ヘラ磨き。	転用器台か
34	土師器 甕	埋土	口縁～ 胴部3/5	口 24.6 底 10.0 高 31.7	①白色粒含 ②酸化焰 ③明赤褐色	外面 口縁部横撫で、胴部ヘラ磨き。 内面 口縁部横撫で、胴部ヘラ磨き。	
35	土師器 甕	貯蔵穴	1/4	口 21.7 底 9.1 高 25.2	①白色粒含 ②酸化焰 ③明赤褐色	外面 口縁部横撫で、頸部撫で、胴部ヘラ磨き。 内面 口縁部横撫で、胴部ヘラ削り後ヘラ磨き。	

C区4号住居(第49・50図 P L42)

1	土師器 杯	埋土	ほぼ完 形	口 11.9 底 - 高 5.2	①白色粒含 ②酸化焰 ③にぶい黄橙色	外面 口縁部横撫で、体～底部ヘラ削り 内面 口縁～底部横撫で後ヘラ磨き。内黒。	
2	土師器 杯	埋土	1/2	口 12.2 底 - 高(5.3)	①白色粒含 ②酸化焰 ③にぶい黄橙色	外面 口縁部横撫で、体部丁寧な撫で。 内面 口縁～体部横撫で後ヘラ磨き。内黒。	
3	土師器 杯	埋土	1/2	口 14.3 底 - 高 -	①白色粒少 ②酸化焰 ③にぶい黄橙色	外面 口縁部横撫で、体～底部ヘラ削り後撫で。 内面 口縁部横撫で後ヘラ磨き、体部ヘラ磨き。内黒。	
4	土師器 杯	床直	2/3	口 13.5 底 - 高 4.6	①白色粒少 ②酸化焰 ③橙色	外面 口縁部横撫で、体部ヘラ削り後ヘラ磨き。 内面 口縁部横撫で、全面にヘラ磨き。内黒。	
5	土師器 杯	床直	1/2	口 13.6 底 - 高 5.0	①白色粒含 ②酸化焰 ③にぶい黄橙色	外面 口縁部横撫で、体～底部ヘラ磨き。 内面 口縁部横撫で後ヘラ磨き、体部ヘラ磨き。内黒。	
6	土師器 杯	床直	口縁～ 体部1/4	口 11.0 底 - 高 -	①白色粒少 ②酸化焰 ③にぶい黄橙色	外面 口縁部横撫で、体部ヘラ撫で。 内面 口縁～体部ヘラ磨き。内黒。	
7	土師器 高杯	床直	脚部1/2	口 - 底 - 高 4.5+	①黒色粒含 ②酸化焰 ③にぶい赤褐色	外面 脚部縦ヘラ撫で、裾部横撫で。 内面 ヘラ削り。	
8	土師器 甕	床直	口縁～ 胴部下 位	口 14.9 底 - 高 23.4+	①白色粒少 ②酸化焰 ③にぶい黄褐色	外面 口縁部横撫で、胴部ヘラ削り。 内面 口縁部横撫で、胴部ヘラ撫で。	
9	土師器 甕	甕	口縁胴 部1/4	口 22.4 底 - 高 23.7+	①白色粒多 ②酸化焰 ③橙色	外面 口縁部横撫で、胴部ヘラ撫で。 内面 口縁部横撫で、胴部横ヘラ撫で。	

遺物観察表

C区5号住居 (第53・54図 P L42~44)

番号	種類 器種	出土 位置	部位 残存	計測値	①胎土②焼成③色調	成・整形の特徴	備考
1	土師器 杯	竈	ほぼ完 形	口 13.3 底 - 高 5.9	①白色粒多 ②酸化焰 ③にぶい橙色	外面 口縁部横撫で、体～底部ヘラ撫で。 内面 口縁部横撫で、体部ヘラ磨き。	
2	土師器 杯	床直	ほぼ完 形	口 13.2 底 - 高 4.7	①赤褐色粒含 ②酸化焰 ③赤褐色土	外面 口縁部横撫で、体～底部ヘラ削り。 内面 口縁部横撫で、体部ヘラ磨き。	
3	土師器 杯	埋土	完形	口 12.8 底 - 高 5.5	①白色粒少 ②酸化焰 ③橙色	外面 口縁部横撫で、体部ヘラ撫で。 内面 口縁部横撫で、体部撫で後放射状ヘラ磨き。	
4	土師器 杯	竈	ほぼ完 形	口 13.9 底 - 高 4.7	①赤褐色粒含 ②酸化焰 ③明赤褐色	外面 口縁部横撫で、体部ヘラ撫で後ヘラ磨き。 内面 口縁部横撫で、体部放射状ヘラ磨き。	粘土付着
5	土師器 杯	埋土	ほぼ完 形	口 13.1 底 - 高 5.5	①赤褐色粒含 ②酸化焰 ③赤褐色	外面 口縁部横撫で、体部ヘラ撫で、底部ヘラ磨き。 内面 口縁部横撫で、体部横撫で後放射状ヘラ磨き。	
6	土師器 杯	竈	3/5	口 13.5 底 - 高 5.8	①赤褐色粒含 ②酸化焰 ③明赤褐色	外面 口縁部横撫で、体部ヘラ撫で。 内面 口縁部横撫で、体～底部横撫で後放射状ヘラ磨き。	
7	土師器 杯	竈	完形	口 10.5 底 - 高 7.4	①白色粒含 ②酸化焰 ③橙色	外面 口縁部横撫で、体部撫で。 内面 口縁部横撫で、体部ヘラ撫で後ヘラ磨き。	
8	土師器 杯	埋土	ほぼ完 形	口 11.3 底 - 高 5.9	①白色粒多 ②酸化焰 ③明赤褐色	外面 口縁部横撫で、体～底部ヘラ撫で。 内面 体部ヘラ磨き。	
9	土師器 杯	埋土	ほぼ完 形	口 11.6 底 - 高 6.0	①白色粒含 ②酸化焰 ③にぶい赤褐色	外面 口縁部横撫で、体部ヘラ撫で。 内面 口縁部横撫で、体部ヘラ磨き。	
10	土師器 杯	竈	1/4	口 (12.9) 底 - 高 -	①白色粒含 ②酸化焰 ③にぶい橙色	外面 口縁部横撫で、体部ヘラ磨き、底部ヘラ削り。 内面 口縁部横撫で、体部ヘラ磨き。内黒。	
11	土師器 小型甕	埋土	底部3/5	口 - 底 4.2 高 8.5+	①白色粒多 ②酸化焰 ③明赤褐色	外面 胴部ヘラ撫で後、ヘラ磨き、底部ヘラ削り。 内面 胴～底部ヘラ撫で。	
12	土師器 高坏か	埋土	口縁～ 体部1/2	口 13.0 底 - 高 -	①白色粒含 ②酸化焰 ③明橙色	外面 口縁部横撫で、体部ヘラ削り。 内面 口縁部横撫で、体部撫で。	
13	土師器 高坏か	埋土	口縁～ 体部1/4	口 12.8 底 - 高 -	①白色粒含 ②酸化焰 ③にぶい橙色	外面 口縁部横撫で、体部ヘラ削り。 内面 口縁部横撫で。	
14	土師器 小型甕	埋土	口縁～ 胴中央 部1/4	口 (10.7) 底 - 高 7.4+	①白色粒多 ②酸化焰 ③赤褐色	外面 口縁部横撫で、胴部撫で。 内面 口縁部横撫で、胴部ヘラ撫で。	
15	土師器 小型甕	埋土	口縁～ 底部1/4	口 18.0 底 - 高 8.5	①白色粒多 ②酸化焰 ③橙色	外面 口縁部横撫で、胴部ヘラ削り後撫で、底部ヘラ削り。 内面 口縁部横撫で、胴部ヘラ磨き。	
16	土師器 高坏	竈	ほぼ完 形	口 12.8 底 10.2 高 9.8	①白色粒含 ②酸化焰 ③明赤褐色	外面 口縁部横撫で、坏底～脚部撫で、脚部下位ヘラ磨き、裾部横 撫で。 内面 口縁部横撫で、坏体部撫で、裾部横撫で。	粘土付着
17	土師器 小型甕	床直	完形	口 10.0 底 - 高 9.6	①白色粒含 ②酸化焰 ③にぶい橙色	外面 口縁部横撫で、胴部下位ヘラ削り。 内面 口縁部横撫で、胴部ヘラ撫で。	
18	土師器 小型甕	床直	ほぼ完 形	口 10.6 底 6.4 高 13.3	①白色粒含 ②酸化焰 ③橙色	外面 口縁～頭部横撫で、胴部ヘラ撫で、一部ヘラ磨き。底部ヘラ 削り。 内面 口縁部横撫で、胴部ヘラ撫で。	
19	土師器 小型甕	床直	ほぼ完 形	口 15.4 底 7.3 高 16.1	①白色粒多 ②酸化焰 ③橙色	外面 口縁部横撫で、体部上位ヘラ撫で、体部下位ヘラ削り、底部 ヘラ削り。 内面 口縁部横撫で、体部横ヘラ撫で。	

第3章 検出された遺構と遺物

番号	種類 器種	出土 位置	部位 残存	計測値	①胎土②焼成③色調	成・整形の特徴	備考
20	土師器 甕	床直	完形	口 16.9 底 7.0 高 32.7	①白色粒含 ②酸化焰 ③橙色	外面 口縁部横撫で、体部ヘラ削り、中位部分的にヘラ磨き。 内面 口縁部横撫で、体部横ヘラ撫で	
21	土師器 甌	床直	ほぼ完 形	口 24.6 底 10.7 高 30.0	①白色粒含 ②酸化焰 ③橙色	外面 口縁部横撫で、胴部上位ヘラ削り後撫で、胴部下位ヘラ削り。 内面 口縁部横撫で、胴部ヘラ磨き。	

C区6号住居 (第56・57図 P L44・45)

1	土師器 杯	床直	2/3	口 14.7 底 - 高 5.8	①白色粒多 ②酸化焰 ③橙色	外面 口縁部横撫で、体へ底部ヘラ削り。 内面 口縁へ体部横撫で。	
2	土師器 小型鉢	埋土	1/2	口 10.4 底 4.4 高 7.3	①白色粒多 ②酸化焰 ③橙色	外面 口縁へ胴部上位横撫で、中位ヘラ削り、下位撫で。 内面 口縁部横撫で、胴部へ底部撫で。	
3	土師器 杯	埋土	1/4	口 12.4 底 - 高 3.8	①白色粒含 ②酸化焰 ③黄灰色	外面 口縁部横撫で、体部ヘラ削り。 内面 口縁部横撫で。内黒。	
4	土師器 高坏	床直	坏部	口 13.2 底 - 高(6.5)+	①白色粒多 ②酸化焰 ③にぶい黄橙	外面 口縁部横撫で、体部ヘラ磨き、坏底部撫で。 内面 口縁へ坏体部横撫で後ヘラ磨き。内黒。	
5	土師器 高坏	床直	坏部	口 13.4 底 - 高(7.0)	①白色粒含 ②酸化焰 ③明黄褐色	外面 口縁部横撫で、体部ヘラ磨き、坏底部撫で。 内面 口縁へ坏体部横撫で後ヘラ磨き。内黒。	
6	土師器 坏	甕	完形	口 11.0 底 6.0 高 5.9	①白色粒少 ②酸化焰 ③にぶい橙色	底部穿孔。 外面 口縁部横撫で、体部撫で、底部ヘラ削り。 内面 口縁部横撫で、体部へ底部ヘラ撫で。	底部穿孔
7	土師器 鉢	床直	完形	口 23.4 底 7.0 高 12.4	①白色粒多 ②酸化焰 ③にぶい橙色	焼成後底部穿孔。 外面 口縁部横撫で、胴部撫で、部分的にヘラ磨き。 内面 口縁部横撫で、胴部ヘラ磨き。	底部穿孔
8	土師器 小型甕	埋土	ほぼ完 形	口 10.7 底 - 高(10.5)	①白色粒多 ②酸化焰 ③橙色	焼成後底部穿孔。 外面 口縁部横撫で、胴部ヘラ削り。 内面 口縁部横撫で、胴部へ底部ヘラ撫で。	底部穿孔
9	土師器 鉢	床直	口縁へ 底部1/2	口 17.0 底 9.0 高 12.6	①白色粒多 ②酸化焰 ③にぶい黄橙色	外面 口縁部横撫で、胴部ヘラ削り、底部ヘラ削り。 内面 口縁部横撫で、胴部横ヘラ撫で。	
10	土師器 甕	床直	ほぼ完 形	口 19.8 底 8.0 高 33.3	①白色粒多 ②酸化焰 ③にぶい橙色	外面 口縁部横撫で、胴部刷毛目、底部木葉痕。 内面 口縁部横撫で、胴部ヘラ撫で。	
11	土師器 壺	床直	口縁へ 底部2/3	口 12.5 底 6.0 高 21.4	①白色粒多 ②酸化焰 ③にぶい黄橙色	外面 口縁部横撫で、胴部上へ中位ヘラ磨き、下位縦ヘラ削り後ヘラ撫で、底部ヘラ削り。 内面 口縁部横撫で、胴部上位指撫で、胴部下位横ヘラ撫で。	
12	土師器 壺	床直	頸へ底 部4/5	口 - 底 7.7 高(21.6)+	①白色粒含 ②酸化焰 ③にぶい褐色	外面 頸部横撫で、胴部上位ヘラ撫で、中へ下位ヘラ磨き、底部ヘラ削り。 内面 頸部横撫で、胴部ヘラ撫で。	
13	土師器 甕	床直	口縁へ 胴部1/2	口 17.8 底 - 高(23.3)+	①白色粒多 ②酸化焰 ③にぶい橙色	外面 口縁部横撫で、胴部上へ中位ヘラ磨き。 内面 口縁部横撫で、胴部ヘラ撫で。	
14	土師器 甕	埋土	口縁へ 胴部下 位2/5	口 20.5 底 - 高 21.5+	①白色粒含 ②酸化焰 ③橙色	外面 口縁部横撫で、胴部ヘラ撫で。 内面 口縁部横撫で、胴部横ヘラ撫で。	
15	土師器 甕	床直	ほぼ完 形	口 18.5 底 6.5 高 33.9	①白色粒多 ②酸化焰 ③橙色	外面 口縁部横撫で、胴部上へ中位刷毛目、底部未調整。 内面 口縁部横撫で、胴部ヘラ撫で。	

C区7号住居 (第59・60図 P L45~47)

1	土師器 坏	床直	完形	口 8.9 底 5.4 高 4.4	①白色粒少 ②酸化焰 ③橙色	外面 口縁部横撫で、体部撫で。 内面 口縁部横撫で、体へ底部ヘラ撫で。	
---	----------	----	----	-------------------------	----------------------	--	--

遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	部位 残存	計測値	①胎土②焼成③色調	成・整形の特徴	備考
2	土師器 坏	埋土	1/2	口底 8.9 底高 - 4.3	①白色粒含 ②酸化焰 ③にぶい赤褐色	外面 口縁～体部撫で、底部ヘラ削り。 内面 ヘラ削り。内黒。	
3	土師器 坏	床直	体部1/3	口底 - 底高 4.3+	①白色粒少 ②酸化焰 ③にぶい黄橙色	外面 体部ヘラ削り後上位のみヘラ磨き。 内面 体部ヘラ撫で。内黒。	
4	土師器 坏	埋土	口縁1/5	口底 14.0 底高 - -	①白色粒少 ②酸化焰 ③にぶい褐色	外面 口縁部横撫で、体部撫で。 内面 口縁部ヘラ磨き。内黒。	
5	土師器 坏	床直	ほぼ完 形	口底 13.2 底高 - 5.1	①黒色粒含 ②酸化焰 ③橙色	外面 口縁部横撫で、体～底部ヘラ削り。 内面 口縁部横撫で、体～底部ヘラ撫で。	
6	土師器 高坏	埋土	ほぼ完 形	口底 15.6 底高 10.0 10.8	①白色粒含 ②酸化焰 ③橙色	外面 口縁部横撫で、坏底部ヘラ削り後撫で、脚部撫で、裾部横撫 で。 内面 口縁部刷毛目、坏体部撫で、脚部ヘラ削り、裾部横撫で。	
7	土師器 甕	床直	完形	口底 20.5 底高 6.3 32.1	①白色粒多 ②酸化焰 ③橙色	外面 口縁部刷毛目後横撫で、胴部ヘラ削り後ヘラ磨き、底部ヘラ 削り。 内面 口縁部横撫で、胴部撫で後一部ヘラ磨き。	
8	土師器 甕	床直	ほぼ完 形	口底 19.9 底高 7.4 29.5	①白色粒多 ②酸化焰 ③橙色	外面 口縁部横撫で、胴部ヘラ撫で、胴部下位ヘラ磨き、底部ヘラ 削り。 内面 口縁部横撫で、体部横ヘラ撫で。	
9	土師器 甕	床直	口縁～ 底部2/3	口底 19.3 底高 8.6 32.6	①白色粒含 ②酸化焰 ③黄褐色	外面 口縁部横撫で、胴部上～中位なで、胴部下位ヘラ磨き、底部 ヘラ削り。 内面 口縁部横撫で、胴部横ヘラ撫で。	
10	土師器 甕	床直	胴部底 部1/2	口底 21.0 底高 (5.8) 33.5	①白色粒含 ②酸化焰 ③にぶい黄橙色	外面 口縁部横撫で、胴部ヘラ削り、底部ヘラ削り。 内面 口縁部横撫で、胴部指撫で。	
11	土師器 甕	床直	口縁～ 底部4/5	口底 21.0 底高 7.5 31.8	①白色粒含 ②酸化焰 ③にぶい橙色	外面 口縁部横撫で、胴部上～中位刷毛目、胴部低位ヘラ削り、底 部ヘラ削り。 内面 口縁部横撫で、胴部ヘラ撫で。	
12	土師器 甕	床直	口縁～ 胴部中 位1/2	口底 19.0 底高 (18.3)+	①白色粒含 ②酸化焰 ③にぶい黄褐色	外面 口縁部横撫で、胴部上～中位ヘラ磨き。 内面 口縁部横撫で、頸部ヘラ撫で、胴部撫で。	
13	土師器 壺	床直	頸～胴 部中位 3/5	口底 - 底高 - 15.2+	①白色粒含 ②酸化焰 ③明赤褐色	外面 胴部撫で。 内面 胴部ヘラ撫で。	
14	土師器 甕	床直	口縁～ 胴部上 位1/5	口底 23.1 底高 - 高(12.5)+	①白色粒多 ②酸化焰 ③明褐色	外面 口縁部横撫で、胴部上位撫で。 内面 口縁部横撫で、胴部上位ヘラ撫で。	

C区9号住居 (第61図 P L47)

1	土師器 坏	埋土	口縁～ 体部1/5	口底 (13.2) 底高 - -	①白・黒色粒含 ②酸化焰 ③赤褐色	外面 口縁部横撫で、体部ヘラ削り。 内面 口縁部横撫で、体部ヘラ磨き。	
2	土師器 甕	埋土	口縁部 1/5	口底 16.3 底高 - 4.1+	①白色粒含 ②酸化焰 ③にぶい橙色	外面 横撫で。 内面 横撫で。	

C区10号住居 (第63図 P L47)

1	土師器 小型甕	床直	口縁～ 胴部1/5	口底 (12.1) 底高 - 6.2+	①黒色粒含 ②酸化焰 ③褐色	外面 口縁部横撫で、胴部ヘラ削り後ヘラ磨き。 内面 口縁部横撫で、胴部撫で。	
2	土師器 甕	埋土	底部片	口底 - 底高 (3.8)+	①白色粒含 ②酸化焰 ③橙色	外面 底部撫で。 内面 底部ヘラ撫で。焼成前内面より底部穿孔。	円孔3
3	土師器 甕	埋土	口縁～ 胴部2/5	口底 17.2 底高 - 25.4+	①黒色粒含 ②酸化焰 ③にぶい褐色	外面 口縁部横撫で、胴部ヘラ撫で後ヘラ磨き。 内面 口縁部横撫で、胴部ヘラ磨き。	

第3章 検出された遺構と遺物

C区11号住居 (第64図 P L 47)

番号	種類 器種	出土 位置	部位 残存	計測値	①胎土②焼成③色調	成・整形の特徴	備考
1	土師器 坏	埋土	口縁～ 底部1/5	口 (13.0) 底 - 高 -	①白色粒含 ②酸化焰 ③橙色	外面 口縁部横撫で、体部ヘラ削り。 内面 口縁部横撫で、体部ヘラ磨き。	
2	土師器 甕	埋土	口縁部 1/4	口 14.2 底 - 高 -	①白色粒含 ②酸化焰 ③橙色	外面 横撫で。 内面 横撫で。	

C区15号住居 (第65・66図 P L 47・48)

1	土師器 坏	床直	口縁～ 底部2/3	口 11.2 底 - 高 5.7	①黒色粒少 ②酸化焰 ③黄褐色	外面 口縁部横撫で、体～底部ヘラ削り。 内面 口縁部横撫で後ヘラ磨き、体～底部ヘラ磨き。	
2	土師器 高坏か	床直	口縁～ 体部1/5	口 12.0 底 - 高 -	①白色粒含 ②酸化焰 ③橙色	外面 口縁部横撫で、体部ヘラ削り。 内面 口縁部横撫で、体部撫で。内黒。	
3	土師器 小型甕	貯蔵穴	ほぼ完 形	口 13.0 底 4.8 高 8.3	①白色粒多 ②酸化焰 ③にぶい橙色	外面 口縁部横撫で、胴部ヘラ削り、底部ヘラ削り。 内面 口縁部横撫で、胴部ヘラ撫で。	
4	土師器 甕	竈	胴～底 部1/4	口 - 底 5.6 高 24.3+	①白色粒多 ②酸化焰 ③にぶい赤褐色	外面 胴部ヘラ削り。 内面 胴部撫で。	

C区16号住居 (第67図 P L 48)

1	土師器 坏	床直	口縁～ 底部2/3	口 9.1 底 5.4 高 4.6	①白色粒多 ②酸化焰 ③にぶい黄橙色	外面 口縁部横撫で、体部ヘラ削り。 内面 口縁部横撫で、体部撫で。	
2	土師器 甕	床直	口縁～ 底部3/5	口 21.8 底 5.2 高 31.2	①白色粒多 ②酸化焰 ③にぶい橙色	外面 口縁部横撫で後刷毛目、胴部ヘラ上位ヘラ磨き。 内面 口縁部横撫で、胴部ヘラ撫で。	

C区1号住居 (第70図 P L 48・49)

1	須恵器 坏	埋土	口縁～ 底部1/3	口 13.6 底 6.7 高 (3.7)	①白色粒多 ②還元焰 ③黒色	ロクロ整形、底部左回転糸切り。黒色処理。体部刻書「大井」	刻書
2	土師器 碗	埋土	口縁～ 底部 3/4	口 15.2 底 7.5 高 7.0	①白・黒色粒含 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、底部回転糸切り、高台貼付時回転撫で。	
3	須恵器 碗	埋土	口縁～ 底部2/3	口 14.0 底 5.8 高 5.2	①白色粒含 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、底部右回転糸切り、高台貼付時回転撫で。	
4	須恵器 碗	竈	口縁～ 底部 1/2	口 14.8 底 - 高 -	①白色粒少 ②酸化焰 ③浅黄橙色	ロクロ整形、底部回転糸切り、付け高台欠損後削りによる再調整。	
5	須恵器 台付壺	埋土	胴部～ 底部	口 - 底 - 高 8.7+	①黒色粒含 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、胴部下位ヘラ削り、底部右回転糸切り、高台貼付時回転撫で。自然釉付着。	
6	土師器 甕	竈	口縁～ 頸部1/6	口 19.0 底 - 高 6.8+	①白色粒含 ②酸化焰 ③にぶい黄橙色	外面 口縁部横撫で、頸部ヘラ削り。 内面 口縁部横撫で、頸部撫で。	
7	土師器 甕	埋土	口縁～ 胴部上 位1/8	口 19.0 底 - 高 10.9+	①白色粒少 ②酸化焰 ③にぶい褐色	外面 口縁部横撫で、胴部ヘラ削り。 内面 口縁部横撫で、胴部横方向ヘラ撫で。	
8	土師器 甕	床直	胴部下 位～底 部	口 - 底 3.2 高 14.4+	①黒色粒少 ②酸化焰 ③褐色	外面 ヘラ削り。 内面 横ヘラ撫で。	
9	土師器 台付甕	埋土	胴部下 位～台 部	口 - 底 8.5 高 10.3+	①白色粒少 ②酸化焰 ③赤褐色	外面 胴部ヘラ削り、台部横撫で。 内面 胴部ヘラ撫で、台部横撫で。	

遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	部位 残存	計測値	①胎土②焼成③色調	成・整形の特徴	備考
10	須恵器 甕	床直	胴部下 位～底 部	口 - 底 12.4 高 14.0+	①赤褐色粒含 ②還元焰 ③にぶい橙色	ロクロ整形。胴部下位へら削り。	10c
11	須恵器 甕	埋土	口縁片	口 22.0 底 - 高 -	①白色粒少 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形。	
12	須恵器 甕	埋土	胴部低 位～底 部1/4	口 - 底 16.9 高 3.7+	①白色粒含 ②還元焰 ③褐灰色	胴部低位へら削り。	

C区8号住居（第72図 P L49）

1	須恵器 碗	床直	2/3	口 14.2 底 7.0 高 5.5	①白色粒多 ②酸化焰 ③にぶい黄橙色	ロクロ整形、右回転糸切り、高台貼付時回転撫で。	
2	須恵器 羽釜	床直	口縁部 1/8	口 19.0 底 - 高 7.6+	①白色粒多 ②還元焰気味 ③灰色	外面 口縁部横撫で、胴部上方向へら削り。 内面 横撫で。	
3	須恵器 甕	竈	胴部片	口 - 底 - 高 -	①白色粒多 ②還元焰 ③灰色	外面 平行叩き目後、クシ状工具による斜め方向の撫で。 内面 同心円状アテ目。	

C区12号住居（第75図 P L49）

1	須恵器 坏	埋土	1/2	口 11.7 底 5.6 高 4.1	①白色粒含 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、底部右回転糸切り未調整。墨書「万」	墨書「万」
2	須恵器 坏	床直	2/3	口 11.9 底 7.0 高 4.3	①白色粒多 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、底部右回転糸切り後周辺部右回転篋削り。体部内外面に自然釉。	
3	須恵器 坏	床直	1/2	口 12.6 底 6.8 高 3.6	①白色粒多 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、底部左回転糸切り未調整。	
4	須恵器 坏	床直	1/3	口 13.5 底 7.0 高 4.3	①白色粒多 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、底部右回転糸切り未調整。	
5	須恵器 坏	埋土	1/4	口 12.3 底 6.0 高 4.1	①白色粒小 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、底部右回転糸切り未調整。	
6	須恵器 坏	埋土	1/2	口 15.7 底 7.4 高 4.9	①白色粒含 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、底部左回転糸切り未調整。	
7	須恵器 坏	埋土	口縁～ 底部1/2	口 - 底 6.0 高 (3.0)	①白色粒多 ②還元焰 ③にぶい黄橙色	ロクロ整形、底部右回転糸切り未調整。底部墨書「森」	墨書「森」
8	土師器 甕	埋土	口縁～ 頸部1/8	口 (20.0) 底 - 高 7.5+	①粗砂、白色粒 ②酸化焰 ③橙色	外面 口縁部横撫で、頸部へら削り。 内面 口縁部横撫で、頸部横へら撫で。	
9	須恵器 甕	埋土	胴部片	口 - 底 - 高 (8.5)+	①白色粒含 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形。	
10	鉄製品 鎌か	埋土	頭～茎 部	全長 8.9+	-	刃部なし。	8.08g

C区13号住居（第78図 P L50）

1	土師器 甕	竈	口縁～ 胴部上 位1/5	口 21.1 底 - 高 (8.5)+	①白色粒多 ②酸化焰 ③明赤褐色	外面 口縁部横撫で、胴部上位斜め方向へら削り。 内面 口縁部横撫で、胴部上位へら撫で。	
2	土師器 甕	竈	口縁～ 底部4/5	口 20.7 底 4.5 高 26.1	①白色粒含 ②酸化焰 ③にぶい橙色	外面 口縁部横撫で、胴部上位斜め方向、中～下位斜め方向へら削り、底部へら削り。 内面 口縁部横撫で、胴部横へら撫で。	

第3章 検出された遺構と遺物

番号	種類 器種	出土 位置	部位 残存	計測値	①胎土②焼成③色調	成・整形の特徴	備考
3	土師器 甕	竈	口縁～ 底部4/5	口 20.1 底 - 高 28.1	①粗砂 ②酸化焰 ③赤褐色	外面 口縁部横撫で、胴部ヘラ削り、底部ヘラ削り。 内面 口縁部横撫で、胴部横ヘラ撫で。	

A区1号古墳（第96～98図 P L50～53）

1	土師器 坏	石室外	口縁底 部4/5	口 12.0 底 - 高 5.0	①黒色粒少 ②酸化焰 ③橙色	外面 口縁部横撫で、体～底部ヘラ削り。 内面 口縁部横撫で、体部ヘラ撫で。	
2	土師器 盤	石室外	口縁～ 底部1/2	口 17.9 底 - 高 3.2	①白色粒含 ②酸化焰 ③明赤褐色	外面 口縁部横撫で、体～底部ヘラ削り。 内面 口縁部横撫で、体～底部撫で。	
3	土師器 坏	石室外	ほぼ完 形	口 8.6 底 - 高 6.1	①白色粒多 ②酸化焰 ③にぶい橙色	外面 口縁部横撫で、体部ヘラ磨き。 内面 口縁部横撫で、体～底部ヘラ磨き。内黒。	
4	須恵器 坏	周堀	口縁～ 底部3/5	口 13.0 底 8.0 高 3.8	①白色粒多 ②還元焰 ③黄褐色	ロクロ整形、底部右回転筥切り後雑な手持ちヘラ削り。	
5	須恵器 坏	周堀	底部の み	口 - 底 7.9 高 2.0	①白色粒含 ②還元焰 ③浅黄橙色	ロクロ整形、底部右回転糸切り未調整。	
6	須恵器 蓋	石室外	2/5	摘 柄 3.9 高 15.2 3.9	①白色粒含 ②還元焰 ③灰色	内面に重ね焼き痕。ロクロ整形、天井部回転筥削り。	
7	須恵器 短頸壺	石室外	口縁～ 胴部1/2	口 6.6 底 - 高 3.6+	①白色粒含 ②還元焰 ③黄灰色	ロクロ整形。	
8	須恵器 短頸壺	周堀	頸～胴 部1/5	口 - 底 - 高 (6.7)+	①白色粒多 ②還元焰 ③にぶい赤褐色	ロクロ整形、肩部沈線2条、胴部下位回転筥削り後撫で。	
9	須恵器 台付壺	周堀	胴～底 部1/2	口 - 底 8.5 高 11.3+	①白色粒含 ②還元焰 ③オリーブ灰色	紐作り、ロクロ整形。胴部低位回転筥削り、底部静止糸切り後付高台。	
10	須恵器 提瓶	周堀	胴部～ 底部3/5	口 - 底 - 高 (16.5)+	①白色粒多 ②還元焰 ③灰色	紐作り、ロクロ整形。胴部低位回転筥削り。胴部に穿孔し、口縁部接合。	
11	須恵器 長頸壺か	石室外	胴部1/2	口 14.0 底 - 高 -	①白色粒多 ②還元焰 ③灰白色	口縁部沈線1条、頸部沈線2条浅いかき目。	
12	須恵器 瓶か	周堀	口縁～ 頸部1/2	口 8.2 底 - 高 -	①白色粒含 ②還元焰 ③灰オリーブ	口縁部沈線1条。	
13	須恵器 平瓶	石室外	胴部1/2	口 - 底 - 高 9.6+	①白色粒多 ②還元焰 ③黄灰色	ロクロ整形、天井部浅いかき目、胴部下位ヘラ削り。	12と同一個体か
14	須恵器 短頸壺	周堀	口縁～ 胴部1/2	口 13.3 底 - 高 11.9+	①白色粒少 ②還元焰 ③灰オリーブ	ロクロ整形。胴部浅いかき目。	
15	須恵器 甕	周堀	胴部片	口 - 底 - 高 -	①白色粒含 ②還元焰 ③灰色	外面 平行叩き目、カキ目調整。 内面 同心円状アテ目。	
16	須恵器 甕	周堀	胴部片	口 - 底 - 高 -	①白色粒含 ②還元焰 ③浅黄橙色	外面 格子叩き目。 内面 同心円状アテ目。	
17	須恵器 甕	周堀	頸部	口 - 底 - 高 -	①白色粒多 ②還元焰 ③灰白色	外面 平行叩き目。	
18	須恵器 甕	石室外	口縁～ 胴部中 位1/3	口 22.9 底 - 高 14.1+	①白色粒少 ②還元焰 ③灰色	外面 胴部平行叩き。 内面 胴部同心円状の当て具痕。	

遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	部位 残存	計測値	①胎土②焼成③色調 ・ 成形の特徴	備考
19	須恵器 甕	石室外	口縁～ 胴部下 位3/5	口 24.2 底 - 高 43.2	①白色粒多 ②還元焰 ③暗オリーブ灰	外面 胴部平行叩き、カキ目調整。 内面 同心円状アテ目。
20	須恵器 大甕	周堀	口縁～ 底部	口 58.0 底 - 高 82.0	①白色粒含 ②還元焰 ③灰色	口縁部沈線 2・2・2 条で 4 段に区画、上 3 段に波状文各 1 条。 外面 平行叩き目。内面 同心円状アテ目。

A区2号古墳 (第104・105図 P L54・55)

1	土師器 坏	周堀	口縁～ 底部1/2	口 12.0 底 - 高 2.8	①黒色粒少 ②酸化焰 ③橙色	外面 口縁部横撫で、体～底部ヘラ削り。 内面 口縁～体部横撫で、底部撫で。
2	須恵器 坏	周堀	口縁～ 底部1/4	口 (10.6) 底 (7.0) 高 3.5	①白色粒少 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、底部右回転糸切り後周辺部ヘラ削り。
3	須恵器 坏	周堀	体～底 部1/4	口 - 底 (5.0) 高 -	①白色粒少 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、底部右回転糸切り。
4	須恵器 長頸壺か	周堀	口縁～ 頸部2/5	口 (15.0) 底 - 高 10.1+	①白色粒含 ②還元焰 ③暗赤褐色	ロクロ整形。頸部に沈線 1 条。
5	須恵器 横瓶	周堀	胴部～ 口縁2/5	口 (6.0) 底 (10.0) 高 14.9	①白色粒少 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、頸部横撫で、胴部下位手持ちヘラ削り。肩部沈線 1 条。
6	須恵器 甕	周堀	口縁片	口 (22.0) 底 - 高 -	①白色粒含 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形。
7	須恵器 甕	周堀	口縁片	口 18.0 底 - 高 -	①白色粒多 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形。
8	須恵器 甕	周堀	口縁～ 胴部上 位1/4	口 21.6 底 - 高 10.8+	①白色粒含 ②還元焰 ③灰黄色	外面 平行叩き目。 内面 同心円状アテ目。
9	須恵器 甕	周堀	口縁部 1/3	口 26.8 底 - 高 7.8+	①白色粒少 ②還元焰 ③灰色	外面 平行叩き目。 内面 無紋アテ目か。
10	須恵器 甕	周堀	口縁～ 頸部1/5	口 23.0 底 - 高 10.8+	①白色粒多 ②還元焰 ③灰色	外面 平行叩き目。 内面 無紋アテ目。
11	須恵器 甕	石室外	頸部～ 胴部上 位1/3	口 - 底 - 高 -	①白色粒少 ②還元焰 ③灰色	外面 平行叩き目、カキ目調整。 内面 同心円状アテ目。
12	須恵器 甕	周堀	肩部片	口 - 底 - 高 -	①白色粒少 ②還元焰 ③灰白色	外面 平行叩き目、一部スリ消し。 内面 同心円状アテ目か。
13	須恵器 甕	周堀	口縁欠 損	口 - 底 - 高 21.0+	①黒色粒含 ②還元焰 ③オリーブ黒	外面 平行叩き目。頸部ロクロ整形痕。 内面 同心円状アテ目。
14	須恵器 甕	周堀	口縁～ 胴部低 位3/5	口 24.0 底 - 高 41.4+	①白色粒含 ②還元焰 ③オリーブ黒	外面 口縁部沈線 2 条、波状文 2 条。胴部平行叩き目、クシ状工具 によるカキ目 8 条。 内面 胴部同心円状アテ目。

B区1号古墳 (第116図 P L58)

1	須恵器 壺	石室外	胴～底 部1/2	口 - 底 11.6 高 9.0+	①白色粒多 ②還元焰 ③灰色	紐作り、ロクロ整形。胴部浅いカキ目。
2	須恵器 提瓶	石室外	頸部1/2	口 - 底 - 高 -	①白色粒多 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形。

第3章 検出された遺構と遺物

番号	種類 器種	出土 位置	部位 残存	計測値	①胎土②焼成③色調	成・整形の特徴	備考
3	須恵器 台付 長頸壺	周堀	口縁～ 底部1/2	口(10.5) 底12.7 高(24.3)	①白色粒多 ②還元焰 ③オリーブ黒	紐作り、ロクロ整形。口縁部焼成前に歪み。頸部沈線2条、天井部沈線8条、胴部荒いヘラ撫で、底部に記号か。	
4	須恵器 甕	石室外	口縁一 部	口(21.1) 底- 高-	①白色粒多 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形。	
5	須恵器 甕	周堀	胴部片	口- 底- 高-	①白色粒多 ②還元焰 ③オリーブ黒	外面 平行叩き目、カキ目調整。 内面 同心円状アテ目。	
6	須恵器 甕	周堀	底部片	口- 底10.0 高8.6+	①白色粒少 ②還元焰 ③黒褐色	外面 平行叩き目。スリ消し 内面 同心円状アテ目。	
7	須恵器 甕	周堀	口縁部 1/5	口- 底- 高-	①白色粒含 ②還元焰 ③オリーブ黒	外面 口縁部カキ目調整後、沈線で4段に区画、上3段に各1条の波状文。	

B区2号古墳(第117・118図 P L64・65)

1	須恵器 杯	周堀	口縁～ 底部2/3	口13.7 底10.4 高3.6	①白・黒色粒少 ②還元焰? ③暗灰黄色	ロクロ整形、底部手持ちヘラ削り。	
2	須恵器 杯	周堀	口縁～ 底部4/5	口13.2 底8.5 高3.3	①白色粒多 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、底部右回転ヘラ削り。	
3	須恵器 杯	周堀	口縁～ 底部2/5	口14.1 底9.9 高3.2	①白色粒少 ②還元焰 ③黄灰色	ロクロ整形、回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り。	
4	須恵器 杯	周堀	口縁～ 底部1/2	口- 底8.5 高3.1	①白色粒含 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、底部左回転糸切り未調整。	
5	須恵器 台付 長頸壺	周堀	胴～底 部2/5	口- 底- 高12.7	①白色粒多 ②還元焰 ③灰色	紐作り、ロクロ整形、底部貼付高台。	
6	須恵器 短頸壺	周堀	ほぼ完 形	口11.5 底8.7 高15.7	①白色粒多 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形。内面より底部穿孔。	
7	須恵器 短頸壺	周堀	口縁～ 底部3/5	口13.4 底10.8 高15.5	①白色粒多 ②還元焰 ③灰色	紐作り、ロクロ整形。	
8	須恵器 甕	周堀	口縁～ 底部4/5	口26.4 底- 高43.6	①白色粒少 ②還元焰 ③オリーブ灰色	外面 胴部平行叩き目。 内面 同心円状アテ目、スリ消し。	
9	鉄製品 鏃	周堀	完形	全長16.0 刃長6.3 刃厚0.2	-	有頸腸挟長三角形鏃	27.5g
10	鉄製品 釘か	周堀	-	全長6.4+	-	釘と思われるが、頭部が不明瞭。	10.8
11	鉄製品 釘か	周堀	-	全長4.4+	-	釘の頭部が欠落したものか。	4.4g

C区1号古墳(第119・120図 P L65)

1	土師器 杯	周堀	口縁1/5	口(12.0) 底- 高-	①細砂、黒色粒 ②酸化焰 ③明赤褐色	外面 口縁部横撫で、体部ヘラ削り。 内面 口縁部横撫で。	
2	土師器 杯	周堀	口縁1/5	口(12.9) 底- 高3.1	①白色粒少 ②酸化焰 ③橙色	外面 口縁部横撫で、底部ヘラ削り。 内面 口縁部横撫で。	

遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	部位 残存	計測値	①胎土②焼成③色調	成・整形の特徴	備考
3	須恵器 坏	周堀	完形	口 12.1 底 8.2 高 3.6	①白色粒少 ②還元焰? ③にぶい黄橙色	ロクロ整形、回転筒切り後手持ちへら削り周辺部撫で。	
4	須恵器 碗	周堀	ほぼ完 形	口 14.0 底 10.0 高 5.7	①白色粒含 ②還元焰 ③灰白色	焼成後外側から底部穿孔。ロクロ整形、高台貼付後右回転撫で。	
5	須恵器 蓋	周堀	ほぼ完 形	摘 5.6 裾 14.4 高 2.3	①白色粒多 ②還元焰 ③灰白色	焼成時の歪み、外面端部重ね焼き痕。ロクロ整形、摘み貼付後内外面に回転撫で。	8 c 中
6	須恵器 盤	周堀	口縁～ 底部1/2	口 18.8 底 12.0 高 5.0	①白色粒多 ②還元焰 ③オリーブ色	ロクロ整形。底部付け高台。	
7	須恵器 長頸壺	周堀	頸～胴 部3/5	口 - 底 - 高 (19.2)+	①白色粒 ②還元焰 ③オリーブ色	頸部沈線2条、肩部沈線2条の間に列点文。天井部カキ目、胴部下位回転筒削り。	
8	須恵器 甕	周堀	口縁～ 胴部1/4	口 26.7 底 - 高 26.6+	①白色粒含 ②還元焰 ③灰白色	外面 平行叩き目、胴部上位回転撫で。 内面 無紋アテ目。	

A区1号集石 (第121図 P L66)

1	土師器 甕	埋土	口縁～ 胴部中 位1/3	口 23.1 底 - 高 (21.7)+	①白色粒含 ②酸化焰 ③浅黄橙色	外面 口縁部横撫で、頸部刷毛目、胴部へら撫で。 内面 口縁部撫で、胴部へら撫で。	
2	土師器 甕	埋土	底部・ 胴部2/5	口 - 底 7.8 高 (18.6)+	①白色粒多 ②酸化焰 ③にぶい黄橙色	外面 胴部下位へら撫で後部分的にへら磨き。底部未調整。 内面 胴部下位指撫で、底部へら撫で。	

A区2号集石 (第122図 P L66)

1	土師器 高坏	埋土	坏底部 ～脚部	口 - 底 10.0 高 5.5+	①白色粒少 ②酸化焰 ③橙色	外面 脚部上位撫で、裾部横撫で。 内面 坏底部へら磨き、脚部上位へら撫で、裾部横撫で。内黒。	
2	土師器 甕	埋土	口縁～ 頸部3/5	口 20.2 底 - 高 11.1+	①黒色粒含 ②酸化焰 ③にぶい黄橙色	外面 口縁部横撫で、頸部へら撫で。 内面 口縁部横撫で、頸部へら撫で。	

A区3号集石 (第123図 P L66)

1	土師器 甕	埋土	口縁片	口 19.0 底 - 高 -	①粗砂、白色粒 ②酸化焰 ③にぶい黄橙色	外面 口縁部横撫で。 内面 口縁部横撫で。	
---	----------	----	-----	----------------------	----------------------------	--------------------------	--

A区4号集石 (第124図 P L66)

1	土師器 高坏	埋土	坏底部 ～脚部	口 - 底 - 高 5.7	①白色粒含 ②酸化焰 ③橙色	外面 坏底部～脚部横撫で。 内面 坏底部へら磨き、脚部上位へら撫で、裾部横撫で。内黒。	
---	-----------	----	------------	---------------------	----------------------	--	--

A区6号集石 (第125図 P L66)

1	土師器 甕	埋土	胴部中 位～底 部2/5	口 (18.7) 底 - 高 (11.5)+	①白色粒多 ②酸化焰 ③橙色	外面 口縁部横撫で、胴部撫で。 内面 口縁部横撫で、胴部撫で。	
2	土師器 甕	埋土	胴部下 位～底 部2/5	口 - 底 9.2 高 8.1+	①白色粒多 ②酸化焰 ③橙色	外面 胴部下位へら磨き、底部へら削り。 内面 胴部下位へら撫で。	

C区33号土坑 (第128図 P L66)

1	須恵器 坏	埋土	ほぼ完 形	口 13.8 底 - 高 4.1	①白色粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、底部右回転へら削り。	
2	須恵器 蓋	埋土	4/5	摘 3.5 裾 14.4 高 2.4	①白色粒含 ②還元焰 ③灰白色	環状摘みの中央部やや盛り上がる。ロクロ整形、摘み付近貼付時の撫で。	

第3章 検出された遺構と遺物

C区34号土坑 (第128図 P L67)

番号	種類 器種	出土 位置	部位 残存	計測値	①胎土②焼成③色調	成・整形の特徴	備考
1	須恵器 坏	埋土	口縁～ 底部1/4	口 11.3 底 6.2 高 3.3	①白色粒多 ②還元焰 ③灰黄色	ロクロ整形、底部糸切り痕。	

C区44号土坑 (第128図 P L67)

1	須恵器 坏	埋土	2/3	口 12.2 底 7.4 高 4.5	①白色粒含 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、底部左回転糸切り未調整。	
---	----------	----	-----	--------------------------	----------------------	--------------------	--

C区52号土坑 (第129図 P L67)

1	土師器 坏	埋土	底部1/5	口 - 底 - 高 -	①粗砂、白色粒 ②酸化焰 ③明赤褐色	外面 ヘラ削り。 内面 ヘラ磨き。	
---	----------	----	-------	-------------------	--------------------------	----------------------	--

A区遺構外出土遺物 (第129図 P L67)

1	土師器 甕	表採	口縁～ 胴部1/4	口 19.2 底 - 高 29.5+	①白色粒含 ②酸化焰 ③にぶい黄橙色	外面 口縁部横撫で、胴部ヘラ磨き。 内面 口縁部横撫で、胴部上位ヘラ撫で、下位撫で。	
---	----------	----	--------------	--------------------------	--------------------------	---	--

B区遺構外出土遺物 (第129図 P L67)

1	鉄製品 碗型滓	表採	-	-	-		
---	------------	----	---	---	---	--	--

古墳玄室出土遺物観察表

※鉄鏡の種類および各部位については第144図を参照。

※馬具の計測値については第143・144図を参照。

A区1号古墳 (第94～96図 P L52・53)

番号	種類	計測値・特徴等													備考	
		全長	刃部			頸部				関部		茎部		重量 (g)		
			刃長	刃幅	刃厚	頸長	頸幅A	頸厚A	頸幅B	頸厚B	関幅	関厚	茎長	茎幅		
1	A	3.75	3.75	1.90	0.20										4.8	1孔を有し、木質が遺存する。
2	A	3.40	3.40	1.90	0.20										4.2	1孔の下部に木質遺存する。
3	F	12.40+	0.20			11.00	0.40	0.40	0.45	0.40	0.70+	0.50	1.20+	0.35	10.3	刃部が先端に集約される。
4	F	13.90+	0.35			11.40	0.55	0.40	0.55	0.50	0.60	0.60	2.25	0.45	12.8	刃部が先端に集約される。
5	F	12.60+	0.30			10.80	0.50	0.40	0.50	0.40	0.95	0.60	1.50+	0.30	10.8	刃部が先端に集約される。
6	F	8.60+	0.45			8.15+	0.60	0.40	0.65	0.50					7.6	刃部が先端に集約される。
7	F	10.30+	0.20			10.10+	0.45	0.40	0.45	0.45					7.6	刃部が先端に集約される。
8	F	10.65+	0.20			10.45+	0.40	0.35	0.45	0.35					6.3	刃部が先端に集約される。
9	F	4.30+	0.30+			4.00+	0.60	0.40							3.4	刃部が先端に集約される。
10	G	11.35+	0.25+	0.55	0.25	11.00	0.50	0.50	0.50	0.50	0.60	0.55	0.10		9.7	刃部が先端に集約される。
11	G	10.25+	0.20	0.50	0.15	10.05+	0.45	0.30	0.40	0.30					5.5	刃部が先端に集約される。
12	G	6.90+	0.35	0.35	0.15	6.55+	0.40	0.30							4.1	刃部が先端に集約される。
13	G	2.55+	0.65	0.70	0.20	1.90+	0.60	0.40							1.8	刃部が先端に集約される。
14	G	3.30+	0.40	0.50	0.20	2.90+	0.55+	0.25							1.8	刃部が先端に集約される。
15	G	8.75+	0.80	0.55	0.20	7.95+	0.40	0.30							5.5	刃部が先端に集約される。
16	G	3.55+	0.60	0.70	0.20	2.95+	0.55	0.40							2.7	刃部が先端に集約される。
17	C	4.50+	0.60	0.70	0.30	3.90+	0.60	0.30							5.2	刃部が先端に集約される。
18	C	3.55+	0.65+	0.75	0.30	2.90+	0.50	0.50							2.6	刃部が先端に集約される。
19	鏡	9.30+				9.30+	0.55	0.50	0.65+	0.50					7.0	刃部なし。
20	鏡	7.90+				4.65+			0.55	0.50	0.70	0.55	3.25	0.30	6.1	刃部なし。
21	鏡	10.00+				5.00+			0.50	0.40	0.75+	0.60	5.00+	0.50	8.1	刃部なし。
22	鏡	7.00+				7.00+	0.60	0.50	0.60	0.60					8.8	刃部なし。
23	鏡	8.60+				7.55+	0.50	0.40	0.45	0.40	0.60	0.50	1.05+	0.25	7.3	刃部なし。
24	鏡	8.35+				4.10+			0.70	0.60	0.90	0.85	4.25	0.40	7.1	刃部なし。

遺物観察表

番号	種類	計測値												備考					
		全長	刃部			頭部					関部		茎部		重量 (g)				
			刃長	刃幅	刃厚	頭長	頭幅A	頭厚A	頭幅B	頭厚B	関幅	関厚	茎長			茎幅			
25	刀子	4.80+				刃部なし。茎に木質あり。													
26	刀子	(11.3)	5.62+	0.70	0.20	木質、鏝の一部残存。												13.50	木質あり、鏝一部残存。
27	刀	8.90+	5.20+	1.75	0.40	両関。木質、鏝の一部が残存。												27.40	木質あり、鏝一部残存。
28	刀子	10.10+	8.50	1.00	0.30	背関が残存。刃関は不明瞭。												12.20	
29	刀	31.70+	24.50	1.85	0.45	茎尻欠損。両関。鏝、木質あり。												127.90	
30	鏝	全長8.00 幅6.95 無窓、無裝飾。断面T字状。												108.3					
31	鏝	全長6.50+ 透かし穴3残存。												16.0					
32	釘か	全長5.45+ 厚さ0.5												4.2	木質あり。				
33	耳環	外径1.51 内径0.90 銅芯金張製。																	
34	小玉	直径0.40	孔径0.18	厚さ0.22		ガラス製、色調は緑。													
35	小玉	直径0.36	孔径0.14	厚さ0.24		ガラス製、色調は紺。													
36	小玉	直径0.39	孔径0.15	厚さ0.23		ガラス製、色調は紺。													
37	小玉	直径0.38	孔径0.16	厚さ0.23		ガラス製、色調は濃紺。													
38	小玉	直径0.34	孔径0.13	厚さ0.22		ガラス製、色調は紺。													
39	小玉	直径0.84	孔径0.23	厚さ0.67		蛇紋岩製。													

A区2号古墳 (第101~104図 P L55~57)

番号	種類	計測値												備考					
		全長	刃部			頭部					関部		茎部		重量 (g)				
			刃長	刃幅	刃厚	頭長	頭幅A	頭厚A	頭幅B	頭厚B	関幅	関厚	茎長			茎幅			
1	B	7.95+	3.25	1.85	0.20	2.90	0.65	0.40					3.40	0.35	11.8	深い逆刺を有する。			
2	有頭長三角形鏝	7.90+	3.20	1.90+	0.25	1.25	0.90	0.50					2.40	0.45	13.7	逆刺は無いと考えられる。			
3	E	6.95+	0.30			6.65	0.40	0.35	0.40	0.30					4.1	刃部が先端に集約される。			
4	C	4.70+	0.85			3.85+	0.50	0.40							3.0	刃部が先端に集約される。			
5	E	2.00+	0.50			1.50	0.55	0.25							1.0	刃部が先端に集約される。			
6	C	6.00+	0.70	0.50	0.20	4.10+	0.55	0.35	0.40	0.30					4.0	刃部が先端に集約される。			
7	C	6.15+	0.50	0.55	0.30	5.30	0.50	0.40							4.7	刃部が先端に集約される。			
8	C	5.70+	0.70+	0.50	0.20	5.00+	0.40	0.35							3.0	刃部が先端に集約される。			
9	G	15.25+	0.45	0.45	0.15	10.60	0.40	0.35	0.45	0.35	0.90+	0.40	3.75	0.35	9.9	刃部が先端に集約される。			
10	G	15.70	0.60	0.75	0.20	10.50	0.55	0.45	0.55	0.40	0.91	0.20+	4.60	0.25	13.6	刃部が先端に集約される。			
11	G	12.80+	0.50	0.80	0.30	9.60	0.60	0.50	0.50	0.50			2.00	0.45	15.5	刃部が先端に集約される。			
12	G	3.30+	0.90	0.15	0.60	2.40+	0.35	0.60								刃部が先端に集約される。			
13	G	7.30+	0.50	0.45	0.15	6.80+	0.35	0.25	0.35	0.35					3.8	刃部が先端に集約される。			
14	G	6.30+	0.60	0.70	0.25	5.70+	0.55	0.40							5.7	刃部が先端に集約される。			
15	G	6.40+	0.30	0.70	0.20	5.30	0.50	0.45	0.45	0.45					5.6	刃部が先端に集約される。			
16	G	7.30+	0.50+	0.70+	0.25	6.80+	0.50	0.40	0.60	0.45					7.5	刃部が先端に集約される。			
17	G	2.45	0.80	0.65	0.20	1.65	0.60	0.35							1.7	刃部が先端に集約される。			
18	G	2.30+	0.60	0.60	0.15	1.30+									1.4	刃部が先端に集約される。			
19	G	3.80+	0.55	0.45	0.15	2.80+	0.40	0.30							2.2	刃部が先端に集約される。			
20	G	5.00+	0.75+	0.70	0.15	4.10	0.50	0.35							3.4	刃部が先端に集約される。			
21	G	2.30+	0.40	0.45	0.15	1.40+	0.50	0.35							1.6	刃部が先端に集約される。			
22	G	6.40+	0.30	0.45	0.15	4.70	0.60	0.30	0.60	35.00			1.40+	0.30	4.5	刃部が先端に集約される。			
23	G	4.10+	0.45+	0.60	0.40	3.30+	0.60	0.40							3.6	刃部が先端に集約される。			
24	G	3.65+	0.70	0.60	0.15	2.95+	0.55	0.55							2.9	刃部が先端に集約される。			
25	G	5.25+	(0.85)	0.65	0.25	4.50+	0.45	0.35							3.9	刃部が先端に集約される。			
26	鏝	11.00+				7.20+	0.50	0.35	0.50	0.50			3.80+	0.35	10.0	刃部なし。			
27	鏝	11.10+	0.75	0.60	0.15	10.10	0.55	0.45	0.55	0.45			0.25+		10.8	刃部一部欠損。			
28	鏝	5.20+				1.80+			0.60	0.25	0.60	0.50	3.40+	0.20	2.4	刃部なし。			
29	鏝	4.70+											4.70+	0.35	2.1	刃部なし。			
30	鏝	2.60+											2.60+	0.25	1.1	刃部なし。木質あり。			
31	刀子	8.40+	8.40+	1.60	0.60	刃部片。												15.5	
32	刀子	9.20+	7.30+	0.80	0.30	両関。												8.9	
33	刀子	11.45+	8.60	1.25	0.35	両関。												17.0	
34	刀子	7.80+	5.45+	0.80	0.40	両関。												6.9	
35	刀子	7.75+	2.15+			刃部一部残存。背関がわずかに残る。												13.7	
36	刀子	5.90+				刃部なし。												15.6	
37	刀子	7.45+				刃部なし。												10.9	
38	刀子	4.00+				刃部なし。茎に木質あり。												5.9	
39	刀子	18.00+	12.50	1.60	0.55	背関欠損。												41.0	

第3章 検出された遺構と遺物

番号	種類	計測値												備考				
		全長	刃部			頸部				関部		茎部			重量 (g)			
			刃長	刃幅	刃厚	頸長	頸幅A	頸厚A	頸幅B	頸厚B	関幅	関厚	茎長			茎幅		
40	喰出鏝か	長さ2.30+	無窓、無装飾。															5.1
41	足金物	長さ3.70	幅2.00	銅芯金張製。銅のつなぎ目明瞭。										2.6				
42	鞘間金具か	長さ3.86+	高さ1.50	幅1.58+										4.8				
43	耳環	外径1.65	内径0.95	銅芯金張製。										5.4				
44	耳環	外径1.60	内径1.00	銅芯金張製。布付着。										5.2				
45	小玉	直径0.51	孔径0.16	厚さ0.41	ガラス製、色調は緑。													
46	小玉	直径0.47	孔径0.11	厚さ0.31	ガラス製、色調は紺。													
47	小玉	直径0.39	孔径0.09	厚さ0.23	ガラス製、色調は紺。													
48	小玉	直径0.38	孔径0.12	厚さ0.27	ガラス製、色調は紺。													
49	小玉	直径0.38	孔径0.10	厚さ0.22	ガラス製、色調は青。													
50	小玉	直径0.38	孔径0.11	厚さ0.21	ガラス製、色調は青。													
51	小玉	直径0.44	孔径0.18	厚さ0.23	ガラス製、色調は紺。													
52	小玉	直径0.43	孔径0.12	厚さ0.31	ガラス製、色調は紺。													
53	小玉	直径0.39	孔径0.08	厚さ0.28	ガラス製、色調は青。													
54	小玉	直径0.43	孔径0.16	厚さ0.26	ガラス製、色調は紺。													
55	小玉	直径0.35	孔径0.09	厚さ0.31	ガラス製、色調は緑。													
56	小玉	直径0.37	孔径0.11	厚さ0.20	ガラス製、色調は紺。切断痕あり。													
57	小玉	直径0.37	孔径0.08	厚さ0.29	ガラス製、色調は青。													
58	小玉	直径0.97	孔径0.22	厚さ0.66	ガラス製、色調は緑。劣化した表面の一部が剥離。													
59	小玉	直径0.40	孔径0.11	厚さ0.19	ガラス製、色調は紺。													
60	小玉	直径0.33	孔径0.10	厚さ0.31	ガラス製、色調は青。													
61	小玉	直径0.36	孔径0.09	厚さ0.27	ガラス製、色調は紺。													
62	小玉	直径0.38	孔径0.10	厚さ0.23	ガラス製、色調は青。													
63	小玉	直径0.36	孔径0.13	厚さ0.26	ガラス製、色調は青。													
64	小玉	直径0.35	孔径0.11	厚さ0.19	ガラス製、色調は紺。													
65	小玉	直径0.43	孔径0.12	厚さ0.23	ガラス製、色調は紺。													
66	小玉	直径0.45	孔径0.11	厚さ0.25	ガラス製、色調は紺。切断痕あり。													
67	小玉	直径0.36	孔径0.13	厚さ0.39	ガラス製、色調は緑。													
68	小玉	直径0.38	孔径0.11	厚さ0.31	ガラス製、色調は紺。													
69	小玉	直径0.36	孔径0.14	厚さ0.22	ガラス製、色調は青。													
70	小玉	直径0.42	孔径0.15	厚さ0.26	ガラス製、色調は紺。													
71	小玉	直径0.42	孔径0.15	厚さ0.26	ガラス製、色調は紺。やや劣化。													
72	小玉	直径0.37	孔径0.10	厚さ0.23	ガラス製、色調は紺。													
73	小玉	直径0.31	孔径0.10	厚さ0.19	ガラス製、色調は青。													
74	小玉	直径0.41	孔径0.12	厚さ0.29	ガラス製、色調は紺。													
75	小玉	直径0.37	孔径0.11	厚さ0.22	ガラス製、色調は紺。													
76	小玉	直径0.37	孔径0.10	厚さ0.26	ガラス製、色調は紺。													
77	小玉	直径0.39	孔径0.10	厚さ0.25	ガラス製、色調は紺。やや劣化。													
78	小玉	直径0.38	孔径0.08	厚さ0.28	ガラス製、色調は青。													
79	小玉	直径0.41	孔径0.12	厚さ0.25	ガラス製、色調は紺。													
80	小玉	直径0.40	孔径0.12	厚さ0.24	ガラス製、色調は紺。													
81	小玉	直径0.37	孔径0.07	厚さ0.28	ガラス製、色調は紺。													
82	小玉	直径0.36	孔径0.10	厚さ0.23	ガラス製、色調は青。													
83	小玉	直径0.37	孔径0.09	厚さ0.23	ガラス製、色調は紺。													
84	小玉	直径0.37	孔径0.13	厚さ0.28	ガラス製、色調は青。製作痕あり。													
85	小玉	直径0.36	孔径0.07	厚さ0.29	ガラス製、色調は青。													
86	小玉	直径0.40	孔径0.11	厚さ0.28	ガラス製、色調は紺。製作痕あり。													
87	小玉	直径0.38	孔径0.09	厚さ0.29	ガラス製、色調は紺。一部欠損。													
88	小玉	直径1.25	孔径0.60	厚さ1.15	蛇紋岩製、色調は黒。一部欠損。													
89	小玉	直径0.44	孔径0.19	厚さ0.26	ガラス製、色調は紺。													
90	小玉	直径0.44	孔径0.14	厚さ0.24	ガラス製、色調は紺。													
91	小玉	直径0.37	孔径0.12	厚さ0.23	ガラス製、色調は紺。													
92	小玉	直径0.47	孔径0.90	厚さ0.25	ガラス製、色調は緑。													
93	小玉	直径0.37	孔径0.90	厚さ0.25	ガラス製、色調は青。													
94	小玉	直径0.42	孔径0.80	厚さ0.24	ガラス製、色調は青。													
95	小玉	直径0.38	孔径0.13	厚さ0.23	ガラス製、色調は紺。													
96	小玉	直径0.38	孔径0.11	厚さ0.22	ガラス製、色調は紺。													
97	小玉	直径0.39	孔径0.11	厚さ0.20	ガラス製、色調は青。													
98	小玉	直径0.38	孔径0.11	厚さ0.21	ガラス製、色調は青。製作痕あり。													

遺物観察表

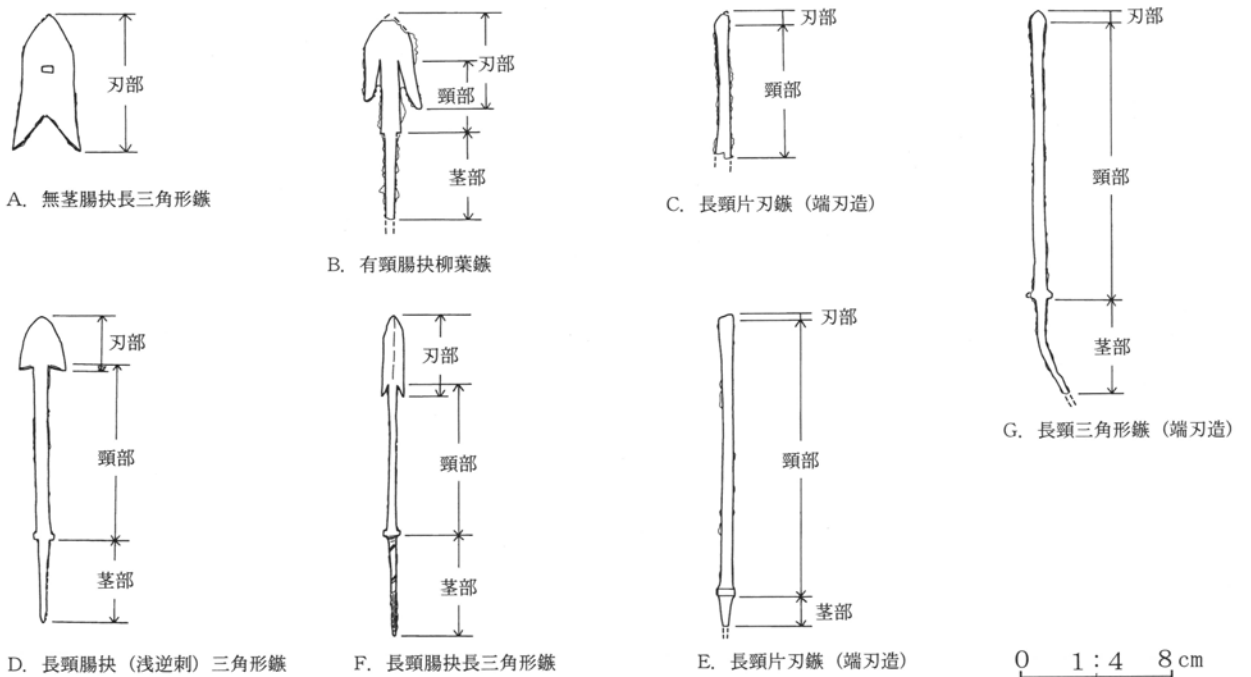
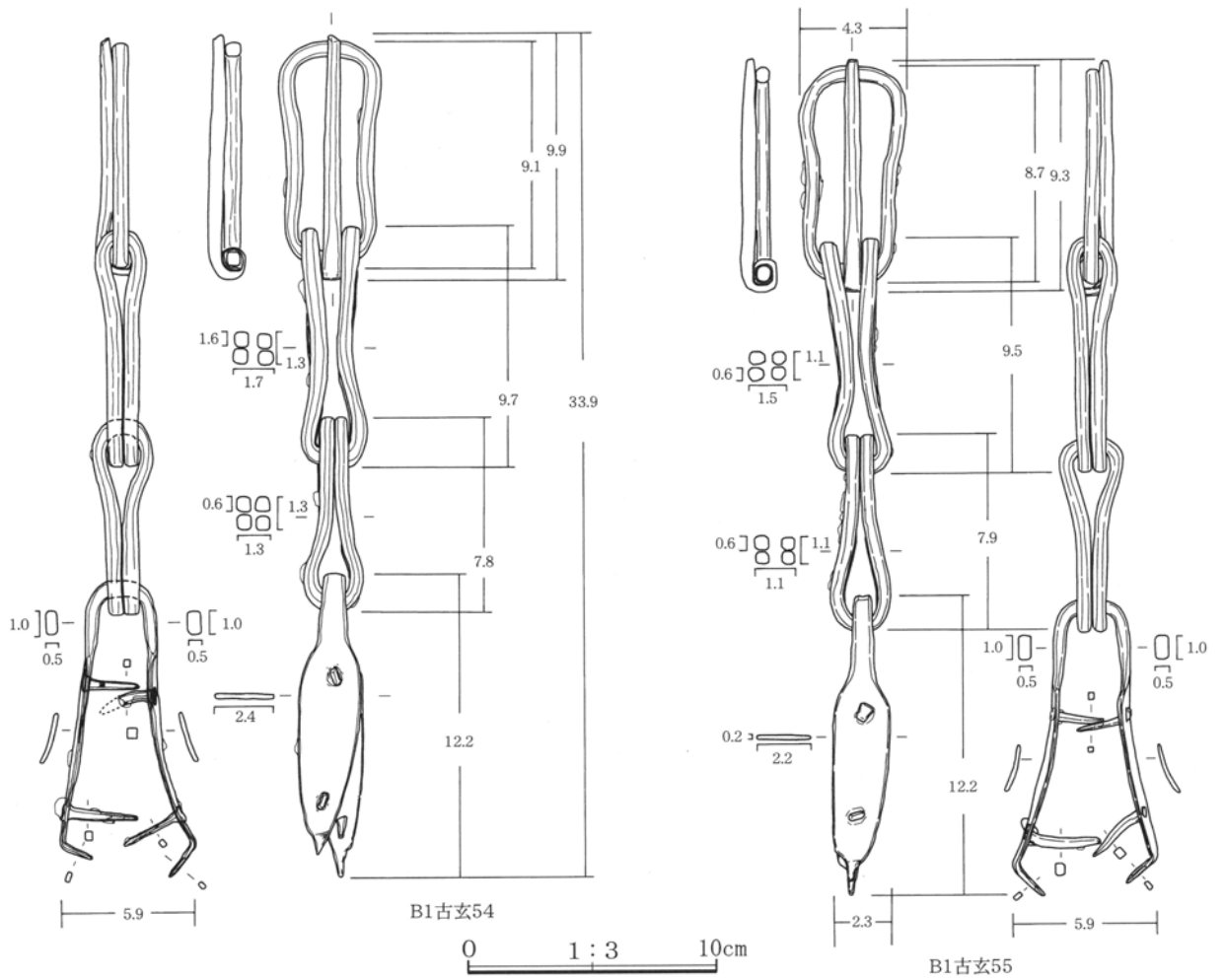
番号	種類	計測値													備考	
		全長	刃部			頸部					関部		茎部			重量 (g)
			刃長	刃幅	刃厚	頸長	頸幅A	頸厚A	頸幅B	頸厚B	関幅	関厚	茎長	茎幅		
99	小玉	直径0.36	孔径0.09	厚さ0.20	ガラス製、色調は青。											
100	小玉	直径0.38	孔径0.11	厚さ0.26	ガラス製、色調は青。やや劣化。											
101	小玉	直径0.37	孔径0.13	厚さ0.26	ガラス製、色調は青。製作痕あり。											
102	小玉	直径0.42	孔径0.10	厚さ0.27	ガラス製、色調は紺。一部欠損。											
103	小玉	直径0.34	孔径0.13	厚さ0.31	ガラス製、色調は青。製作時の凹凸が顕著。											
104	小玉	直径0.31	孔径0.08	厚さ0.25	ガラス製、色調は黄。やや劣化。											
105	小玉	直径0.41	孔径0.11	厚さ0.24	ガラス製、色調は紺。製作痕あり。											
106	小玉	直径1.25	孔径0.26	厚さ1.03	蛇紋岩製。上面に凹み。											
107	小玉	直径1.05	孔径0.27	厚さ0.91	蛇紋岩製。											
108	切子玉	最大径1.25	最大孔径0.29	長さ2.17	石英製、片面穿孔。6面のうち、2面で中央の稜線なし。											
109	切子玉	最大径1.34	最大孔径0.37	長さ1.75	石英製、片面穿孔。											
110	切子玉	最大径1.26	最大孔径0.39	長さ2.43	石英製、片面穿孔。丁寧な磨き。											
111	管玉	最大径0.89	最大孔径0.25	長さ2.51	珪質頁岩製、片面穿孔。											
112	管玉	最大径0.81	最大孔径0.32	長さ2.13	珪質頁岩製、片面穿孔。											
113	勾玉	幅2.10	最大孔径0.24	長さ3.58	ぎよくずい製、片面穿孔。一部欠損。											
114	勾玉	幅2.05	最大孔径0.37	長さ3.48	ぎよくずい製、片面穿孔。											
115	勾玉	幅2.07	最大孔径0.30	長さ2.95	ぎよくずい製、片面穿孔。											
116	勾玉	幅1.49	最大孔径0.17	長さ2.38	ぎよくずい製、片面穿孔。											
117	勾玉	幅1.91	最大孔径0.31	長さ3.28	ぎよくずい製、片面穿孔。											

B区1号古墳 (第109~115図 PL58~64)

番号	種類	計測値													備考		
		全長	刃部			頸部					関部		茎部			重量 (g)	
			刃長	刃幅	刃厚	頸長	頸幅A	頸厚A	頸幅B	頸厚B	関幅	関厚	茎長	茎幅			
1	A	4.30	4.30	1.70	0.20												大きな一孔木質遺存無し
2	A	5.10	5.10	1.90	0.20												大きな一孔木質遺存無し
3	A	5.40	5.40	2.20	0.22												大きな方形の一孔木質無
4	A	5.60	5.60		0.21												大きな方形の一孔木質遺存
5	D	10.70+	2.40		0.20	6.10		0.41		0.40		0.42	2.50+	0.35			浅い逆刺を有する。
6	D	12.70	2.00	1.30	0.20	6.95	0.50	0.30	0.50	0.30	0.75	0.40	4.00	0.35	9.3		浅い逆刺を有する。
7	D	9.30+	2.00	1.40	0.20	6.55	0.55	0.30	0.50	0.40	0.80	0.40	0.80+	0.50	8.4		浅い逆刺を有する。
8	D	10.40+	2.25	1.60	0.20	7.15	0.50	0.30	0.50	0.40	0.80	0.40	1.45+		10.1		浅い逆刺を有する。
9	D	12.20	2.20		0.22	6.90		0.35		0.33		0.32	3.30				浅い逆刺を有する。
10	D	11.50	2.00	1.70	0.20	6.55	0.50	0.30	0.50	0.30	0.80	0.40	3.00	0.35	9.4		浅い逆刺を有する。
11	D	13.95	2.20	1.70	0.20	7.00	0.50	0.40	0.55	0.35	0.80	0.40	5.00	0.35	11.6		浅い逆刺を有する。
12	D	13.15	2.20	1.60	0.20	6.55	0.50	0.30	0.50	0.40	0.80	0.40	4.40	0.35	10.7		浅い逆刺を有する。
13	D	11.10	2.10	1.30	0.20	7.20	0.55	0.40	0.50	0.35	0.90	0.40	3.90	0.30	11.1		浅い逆刺を有する。
14	D	13.20	2.20	1.80	0.20	6.55	0.60	0.30	0.50	0.40	0.80	0.30	4.80	0.40	10.9		浅い逆刺を有する。
15	D	11.80	1.80	1.40	0.20	6.90	0.50	0.40	0.50	0.40	0.80	0.30	3.30	0.30	9.4		浅い逆刺を有する。
16	D	11.65	2.10	1.80	0.20	6.30	0.60	0.35	0.50	0.35	0.75	0.40	3.25	0.40	9.4		浅い逆刺を有する。
17	D	12.50	2.05	1.70	0.20	6.00	0.60	0.30	0.60	0.30	0.80	0.40	4.45	0.40	9.7		浅い逆刺を有する。
18	D	12.50	2.10	1.60	0.20	6.60	0.60	0.30	0.55	0.40	0.80	0.40	3.80	0.40	11.1		浅い逆刺を有する。
19	D	10.60+	2.20	1.90	0.20	6.40	0.60	0.40	0.50	0.30	0.75	0.30	2.00	0.40	10.3		浅い逆刺を有する。
20	D	13.20	2.40	1.80	0.20	6.30	0.60	0.40	0.50	0.35	0.80	0.35	4.50	0.30	11.3		浅い逆刺を有する。
21	D	9.90+	2.15	1.80	0.20	6.10	0.50	0.40	0.50	0.40	0.80	0.30	1.65+	0.30	8.9		浅い逆刺を有する。
22	D	3.20+	2.20	1.70	0.20	1.00+	0.50	0.40							2.6		浅い逆刺を有する。
23	E	11.30+	3.20		0.22	6.10		0.30		0.32		0.41	2.65+	0.30			弱い稜を持ち逆刺有り
24	E	11.65	3.10		0.20	5.80	0.40	0.30	0.40	0.30	0.70	0.30	3.10+	0.20	6.5		弱い稜を持ち逆刺を有する。
25	E	11.70	2.80	0.80	0.20	6.05	0.40	0.30	0.50	0.40	0.80	0.40	3.50	0.40	7.4		弱い稜を持ち逆刺を有する。
26	E	10.50+	2.40+	0.80	0.20	6.20	0.40	0.30	0.40	0.40	0.80	0.40	2.20	0.40+	6.4		弱い稜を持ち逆刺を有する。
27	E	12.80	3.25		0.20	6.05		0.22		0.30		0.35	4.00	0.35			弱い稜を持ち逆刺を有する。
28	E	12.10	2.80	0.70+	0.20	6.10	0.40	0.30	0.35	0.30	0.70	0.35	3.60	0.30	7.0		弱い稜を持ち逆刺を有する。
29	E	5.85+	3.45	1.00		2.40+	0.40	0.40							4.1		弱い稜を持ち逆刺を有する。
30	E	2.30+	2.00+	0.90	0.20	0.85	0.45	0.30							1.2		刃部が先端に集約される。
31	鎌	6.80+				6.30			0.40	0.40	0.70	0.40	0.50+		4.1		刃部なし。
32	Gカ	2.65+															

第3章 検出された遺構と遺物

番号	種類	計測値・特徴等												備考	
		全長	刃部			頭部				関部		茎部			重量 (g)
			刃長	刃幅	刃厚	頭長	頭幅A	頭厚A	頭幅B	頭厚B	関幅	関厚	茎長		
33	刀子	14.4	7.50	1.0	0.2	両関。鑷が残る。鑷の上に鞘、茎部に柄と思われる木質あり。						22.6			
34	刀子	12.2+	7.90	1.0	0.2	両関。木質あり。刃部に研ぎ減りが認められる。						11.2			
35	刀子	13.5	8.20	1.1	0.4	刃部一部欠損。両関。茎部に木質あり。						12.8			
36	刀子	11.4+	6.85	0.8	0.2	両関。木質あり。刃部に研ぎ減りが認められる。						10.4			
37	刀子	12.0+	6.69	1.0	0.3	両関。鑷が残る。刃部に布目あり。						11.8			
38	大刀	64.9+	57.90	2.7	0.6	茎尻欠損。両関。鑷が残る。倒卵型の無窓鏝あり。						540	鏝6.4×5.4 70.1g		
39	大刀	78.0+	66.80	2.7	0.7	茎尻欠損。両関。目釘穴1。						560			
40	大刀	91.6	72.70	3.3	0.6	完形。両関、一文字尻、目釘穴2、懸通穴あり。八窓鏝装着。						1080	鏝9.8×8.5 124.5g		
41	鏝	長さ6.3 幅5.0 無窓、無装飾。T字状の断面を有する。										21.1			
42	刀装具か	長さ7.1 幅5.9													
43	鞘尻	長さ3.5 高さ3.0 幅1.6 鉄材厚さ0.15~0.2 鉄製。内部に木質あり。										17.2			
44	賣金具	長さ3.0 幅2.0 倒卵形、銅地金鍍金。銅の接合痕明瞭。										2.7			
45	賣金具	長さ4.0 幅2.2 倒卵形、銅地金鍍金。銅の接合痕明瞭。一部欠損。										2.8			
46	賣金具	長さ3.0 幅2.1 倒卵形、銅地金鍍金。銅の接合痕明瞭。										4.6			
47	鑷	長さ3.3 幅1.1+ 厚さ0.2										2.9			
48	鑷か	長さ1.35+ 幅1.55+ 厚さ0.2										1.2			
49	鶏目	長さ1.4 直径1.1 銅地、縁部に金鍍金。										1.2			
50	鶏目	長さ1.5 直径1.1 銅地、縁部に金鍍金。													
51	轡	計測値は第143図を参照。													
52	轡	計測値は第143図を参照。													
53	轡	計測値は第143図を参照。													
54	鍔粗	計測値は第144図を参照。													
55	鍔粗	計測値は第144図を参照。													
56	鉸具	長さ8.9 幅4.2 刺金長5.9 T字状の刺金が完存する。										41.6			
57	飾り金具	長さ2.2 幅1.8 鉸長さ0.8 鉸が1ヶ残存。孔1有り。										1.9			
58	飾り金具か	長さ1.7 幅0.95										0.5			
59	耳環	外径2.50 内径1.36 銅芯金張製。										4.3			
60	耳環	外径2.40 内径1.55 銅芯金張製。										4.9			
61	工具	長さ3.3+ 厚さ0.1 先端は針状。										0.2			
62	工具	長さ2.15+ 厚さ0.1 先端は針状。													
63	工具	長さ3.0+ 厚さ0.1										0.1			
64	不明	長さ0.85×0.8 厚さ0.2×0.15										0.3			
65	小玉	直径0.74 孔径0.56 厚さ0.25 ガラス製、色調は緑。													
66	小玉	直径0.69 孔径0.31 厚さ0.51 ガラス製、色調は紺。													
67	小玉	直径0.74 孔径0.35 厚さ0.32 ガラス製、色調は緑。表面は劣化。													
68	小玉	計測不能。ガラス製、色調は緑。劣化した表面が剥離。													
69	小玉	直径0.83 孔径0.34 厚さ0.55 蛇紋岩製。													
70	小玉	直径0.94 孔径0.32 厚さ0.62 蛇紋岩製。													
71	小玉	直径0.95 孔径0.23 厚さ0.64 ガラス製、色調不明。表面全体が劣化。													
72	小玉	直径1.32 孔径0.24 厚さ1.10 蛇紋岩製。													
73	小玉	直径0.94 孔径0.32 厚さ0.62 蛇紋岩製。													
74	小玉	直径1.14 孔径0.27 厚さ0.87 蛇紋岩製。上面に凹み。													
75	小玉	直径1.01 孔径0.29 厚さ0.82 蛇紋岩製。													
76	小玉	直径1.15 孔径0.24 厚さ0.95 蛇紋岩製。一部欠損。													
77	小玉	直径0.86 孔径0.25 厚さ0.63 蛇紋岩製。													
78	勾玉	幅1.79 最大孔径0.34 長さ3.12 ぎよくずい製、片面穿孔。													
79	勾玉	幅1.76 最大孔径0.28 長さ2.72 ぎよくずい製、片面穿孔。													
80	勾玉	幅1.72 最大孔径0.36 長さ3.11 ぎよくずい製、片面穿孔。													
81	勾玉	幅1.41 最大孔径0.20 長さ2.81 ぎよくずい製、片面穿孔。													
82	勾玉	幅2.01 最大孔径0.44 長さ3.19 ぎよくずい製、片面穿孔。													
83	勾玉	幅1.72 最大孔径0.33 長さ3.12 ぎよくずい製、両面穿孔。													
84	切り玉	最大幅1.16 最大孔径0.30 長さ1.21 石英製、片面穿孔。													



第144図 馬具 (鞍轡) の計測値・鉄鐵の種類

遺物観察表

出土遺物観察表（中近世）

B区8号土坑（第133図）

番号	種類	器種・器形	計測値	特徴・その他	備考
1	銅製品	銭	直径2.30 孔径0.64 厚さ0.10	新寛永通宝。	
2	銅製品	銭	直径2.28 孔径0.64 厚さ0.13	新寛永通宝。	
3	銅製品	銭	直径2.50 孔径0.58 厚さ0.14	新寛永通宝。背文「文」	

B区9号土坑（第133図 P L67）

1	銅製品	煙管雁首	全長7.10 火皿径1.15 肩径1.16	火皿は碗型、脂返の湾曲なし。	羅宇竹残存。
2	鉄製品	釘	全長7.40 幅0.45	木質が付着する。	

B区10号土坑（第133図 P L67）

1	陶器	碗	口径10.4 高さ7.3 底径3.8	瀬戸・美濃系	
2	銅製品	煙管雁首	全長6.00 火皿径1.10 肩径1.10	火皿は碗型、脂返はやや湾曲する。	羅宇竹残存。
3	銅製品	煙管吸い口	全長8.90 口付径0.45 肩径1.05	肩から口付部まで細長い。肩の両端に凹線あり。	
4	鉄製品	火打金	全長4.0+ 幅1.6 厚さ0.4	捻り鎌形。火打石付着。布目が残る。	

B区12号土坑（第133図 P L67）

1	銅製品	煙管雁首	全長4.25 火皿径1.10 肩径1.10	火皿は碗型、脂返の湾曲がなく、肩部が一段太くなる。	羅宇竹残存。
2	銅製品	煙管吸い口	全長6.30 口付径0.90 肩径1.05	肩が一段太く、口付部は肥厚する。	羅宇竹残存。
3	銅製品	銭	直径2.30 孔径0.59 厚さ0.12	新寛永通宝。	
4	銅製品	銭	直径2.30 孔径0.60 厚さ0.10	文字判別不可。	
5	銅製品	銭	直径2.62 孔径0.50 厚さ0.43	寛永通宝。2枚付着する。裏側に有機物片付着。	
6	銅製品	銭	直径2.31 孔径0.70 厚さ0.10	新寛永通宝。	
7	銅製品	銭	直径2.30 孔径0.67 厚さ0.10	新寛永通宝。	
8	銅製品	銭	直径2.40 孔径0.60 厚さ0.15	新寛永通宝。	

B区13号土坑（第133図）

1	銅製品	銭	直径2.52 孔径0.59 厚さ0.12	新寛永通宝。背文「文」	
2	銅製品	銭	直径2.43 孔径0.53 厚さ0.11	古寛永通宝。	
3	銅製品	銭	直径2.40 孔径0.56 厚さ0.11	古寛永通宝。	
4	銅製品	銭	直径2.50 孔径0.60 厚さ0.12	新寛永通宝。背文「文」	

B区14号土坑（第133・134図 P L67）

1	銅製品	煙管雁首	全長5.40 火皿径1.60 肩径1.05	火皿は碗型、脂返はやや湾曲する。	羅宇竹残存。
2	銅製品	煙管吸い口	全長5.90 口付径1.00 肩径1.00	頭蓋骨中・羅宇竹残存	羅宇竹残存。
3	石製品	火打石	長さ 2.2	使用痕あり。	チャート
4	銅製品	銭	直径2.36 孔径0.60 厚さ0.10	新寛永通宝。	
5	銅製品	銭	直径2.30 孔径0.68 厚さ0.10	新寛永通宝。	
6	銅製品	銭	直径2.52 孔径0.44 厚さ0.36	文字判別不可。木質が付着する。	
7	銅製品	銭	直径2.46 孔径0.57 厚さ0.15	新寛永通宝。	
8	銅製品	銭	直径2.31 孔径0.61 厚さ0.08	新寛永通宝。	
9	銅製品	銭	直径2.24 孔径0.63 厚さ0.10	新寛永通宝。	
10	銅製品	銭	直径2.18 孔径0.68 厚さ0.08	新寛永通宝。	
11	銅製品	銭	直径2.50 孔径0.57 厚さ0.20	古寛永通宝。	
12	銅製品	銭	測定不能	文字判別不可。欠損品。	
13	鉄製品	釘	全長3.65 幅0.30	木質が付着する。	
14	鉄製品	釘	全長3.45 幅0.65	木質が付着する。	

B区15号土坑（第134図 P L67・68）

1	陶器	碗	口径10.8 高 - 底 -	瀬戸・美濃系	1/4残存。
2	陶器	碗	口径10.8 高 - 底 -	瀬戸・美濃系。	口縁片
3	銅製品	煙管雁首	全長6.40 火皿径1.65 肩径1.05	火皿は碗型、脂返はやや湾曲し、凹みあり。	羅宇竹残存。
4	銅製品	煙管吸い口	全長6.45 口付径0.45 肩径1.15	肩は太くなるが段差は見られない。	羅宇竹残存。
5	鉄製品	火打金	全長5.60 幅 2.40 厚さ0.40	捻り鎌形。火打石、炭化物付着（火口か）。表面に布目。	火打ち石は石英
6	銅製品	銭	直径2.62 孔径0.55 厚さ0.18	寛永通宝。	
7	銅製品	銭	直径孔径厚さ	文字判別不可。	
8	銅製品	銭	直径孔径厚さ	文字判別不可。	
9	銅製品	銭	直径孔径厚さ	文字判別不可。	
10	銅製品	銭	直径孔径厚さ	文字判別不可。	
11	鉄製品	釘	全長5.15 幅0.30	木質が付着する。	

第3章 検出された遺構と遺物

番号	種類	器種・器形	計測値	特徴・その他	備考
12	鉄製品	釘	全長4.80 幅0.35	木質が付着する。	
13	鉄製品	釘	全長4.75 幅0.30	木質が付着する。	
14	鉄製品	釘	全長4.75 幅0.30	木質が付着する。	
15	鉄製品	釘	全長4.50 幅0.25	木質が付着する。	
16	鉄製品	釘	全長2.65 幅0.10	釣り針状に曲がり、木質が付着する。	

B区16号土坑（第135図）

1	銅製品	銭	直径2.43 孔径0.57 厚さ0.15	新寛永通宝。背文「仙」	
2	銅製品	銭	直径2.46 孔径0.58 厚さ0.12	新寛永通宝。	
3	銅製品	銭	直径2.43 孔径0.61 厚さ0.12	新寛永通宝。	
4	銅製品	銭	直径2.50 孔径0.57 厚さ0.13	新寛永通宝。	
5	銅製品	銭	直径2.45 孔径0.60 厚さ0.14	古寛永通宝。	
6	銅製品	銭	直径2.44 孔径0.60 厚さ0.14	新寛永通宝。	
7	銅製品	銭	直径2.45 孔径0.55 厚さ0.14	新寛永通宝。	
8	銅製品	銭	直径2.52 孔径0.58 厚さ0.10	古寛永通宝。	
9	銅製品	銭	直径2.40 孔径0.61 厚さ0.11	新寛永通宝。	
10	銅製品	銭	直径2.48 孔径0.62 厚さ0.10	新寛永通宝。	
11	銅製品	銭	直径2.44 孔径0.57 厚さ0.13	新寛永通宝。	

B区17号土坑（第135図 P L68）

1	銅製品	煙管雁首	全長5.40 火皿径1.60 肩径1.10	火皿は碗型、脂返やや湾曲する。	羅宇竹残存。
2	銅製品	煙管吸い口	全長5.15 口付径0.40 肩径1.05	首から肩にかけて緩やかに太くなる。口付部は細い。	羅宇竹残存。
3	鉄製品	火打金	全長5.30 幅2.30 厚さ0.40	捻り鎌形。	
4	銅製品	銭	直径2.32 孔径0.63 厚さ0.12	新寛永通宝。	
5	銅製品	銭	直径2.26 孔径0.66 厚さ0.10	新寛永通宝。	
6	銅製品	銭	直径2.27 孔径0.65 厚さ0.12	新寛永通宝。	
7	銅製品	銭	直径2.30 孔径0.60 厚さ0.08	新寛永通宝。	
8	銅製品	銭	直径2.50 孔径0.60 厚さ0.12	古寛永通宝。	
9	銅製品	銭	直径2.35 孔径0.58 厚さ0.10	古寛永通宝。	
10	銅製品	銭	直径2.29 孔径0.62 厚さ0.10	新寛永通宝。	

B区18号土坑（第135・136図 P L68）

1	銅製品	煙管雁首	全長6.10 火皿径1.40 肩径1.05	火皿は碗型、脂返はやや湾曲、肩は一段太くなる。	羅宇竹残存。
2	銅製品	煙管吸い口	全長8.25 口付径0.60 肩径1.10	首から肩にかけて緩やかに太くなる。口付部はやや太い。	羅宇竹残存。
3	鉄製品	火打金	全長5.5+ 幅1.90 厚さ0.70	鋸形。木質が付着する。	
4	銅製品	銭	直径2.32 孔径0.60 厚さ0.10	新寛永通宝。	
5	銅製品	銭	直径2.48 孔径0.54 厚さ0.12	新寛永通宝。	
6	銅製品	銭	直径2.29 孔径0.65 厚さ0.14	新寛永通宝。	
7	銅製品	銭	直径2.37 孔径0.55 厚さ0.14	寛永通宝。	
8	銅製品	銭	直径2.50 孔径0.56 厚さ0.12	新寛永通宝。	
9	銅製品	銭	直径2.26 孔径0.65 厚さ0.10	新寛永通宝。	
10	銅製品	銭	直径2.29 孔径0.65 厚さ0.12	新寛永通宝。	
11	銅製品	銭	直径2.20 孔径0.64 厚さ0.13	古寛永通宝。	
12	銅製品	銭	直径2.20 孔径0.63 厚さ0.07	新寛永通宝。	
13	銅製品	銭	直径2.27 孔径0.60 厚さ0.10	寛永通宝。	
14	銅製品	銭	直径2.40 孔径 - 厚さ0.17	文字判別不可。	
15	銅製品	銭	直径2.78 孔径 - 厚さ0.50	文字判別不可。木質、布目が付着。	
16	鉄製品	釘	計測不能	頂上部は水平な逆円形。木質が付着する。	2本。
17	鉄製品	釘	全長3.25 幅0.25	木質が付着する。	
18	鉄製品	釘	全長5.60 幅0.30	切釘か。木質が付着する。	

B区19号土坑（第136図 P L68）

1	銅製品	煙管雁首	全長6.10 火皿径1.75 肩径1.00	火皿は碗型。脂返部は腐食。	
2	銅製品	煙管吸い口	全長6.70 口付径0.40 肩径1.00	首から肩にかけて緩やかに太くなる。肩に刻印「本石刻」。	羅宇竹残存。
3	鉄製品	釘	全長7.70 幅0.25	木質が付着する。	
4	鉄製品	釘	全長4.75 幅0.15	頂上部は水平な逆円形。木質が付着する。	
5	鉄製品	釘	全長4.55 幅0.20	木質が付着する。	
6	鉄製品	釘	全長3.20 幅0.20	L字状に曲がり、木質が付着する。	
7	鉄製品	釘	全長4.15 幅0.30	L字状に曲がり、木質が付着する。	

遺物観察表

B区20号土坑 (第136・137図 P L68)

番号	種類	器種・器形	計測値	特徴・その他	備考
1	銅製品	煙管吸い口	全長5.50 火皿径0.40 肩径1.00	肩は太くなるが段差は見られない。口付部は細い。	羅宇竹残存。
2	鉄製品	火打金	全長5.50 幅 1.70 厚さ0.40	捻り鎌形。	
3	銅製品	銭	直径2.52 孔径0.57 厚さ0.12	新寛永通宝。	
4	銅製品	銭	直径2.40 孔径0.57 厚さ0.12	古寛永通宝。	
5	銅製品	銭	直径2.50 孔径0.59 厚さ0.11	新寛永通宝。	
6	鉄製品	釘	全長5.35 幅0.15	木質が付着する。厚さ1.7cmの木材を固定。	
7	鉄製品	釘	全長4.90 幅0.30	木質が付着する。	
8	鉄製品	釘	全長4.35 幅0.45	木質が付着する。厚さ1.5cmの木材を固定。	
9	鉄製品	釘	全長2.90+ 幅0.25	木質が付着する。	
10	鉄製品	釘	全長4.50 幅0.30	木質が付着する。	
11	鉄製品	釘	全長4.00 幅0.40	木質が付着する。	
12	鉄製品	釘	全長4.70 幅0.30	木質が付着する。	
13	鉄製品	釘	全長3.10 幅0.38	木質が付着する。厚さ1.4cmの木材を固定。	
14	鉄製品	釘	全長3.45 幅0.40	木質が付着する。厚さ1.4cmの木材を固定。	
15	鉄製品	釘	全長3.40 幅0.40	木質が付着する。	
16	鉄製品	釘	全長3.70 幅0.30	木質が付着する。	
17	鉄製品	釘	全長3.20 幅0.30	木質が付着する。	
18	鉄製品	釘	計測不能	木質が付着する。厚さ1.1cmの木材を固定。	2本。

B区21号土坑 (第137図 P L69)

1	銅製品	煙管雁首	全長5.00 火皿径1.60 肩径1.10	火皿は碗型、脂返はやや湾曲し、肩に緩やかな段をもつ。	羅宇竹残存。
2	銅製品	煙管吸い口	全長4.30 口付径0.45 肩径1.10	肩は太くなるが段はもたない。口付部は細い。	
3	銅製品	吊金具	全長10.6		
4	鉄製品	火打金	全長6.60+ 幅 1.80 厚さ0.40	鋌形。木質が残る。	
5	銅製品	銭	直径2.43 孔径0.57 厚さ0.13	新寛永通宝。	
6	銅製品	銭	直径2.48 孔径0.72 厚さ0.12	新寛永通宝。	
7	銅製品	銭	直径2.33 孔径0.60 厚さ0.12	古寛永通宝。	
8	銅製品	銭	直径2.50 孔径0.55 厚さ0.14	新寛永通宝。背文「文」	
9	銅製品	銭	直径2.48 孔径 0.56 厚さ0.16	新寛永通宝。	
10	銅製品	銭	直径2.48 孔径0.55 厚さ0.16	新寛永通宝。背文「文」	

B区22号土坑 (第137・138図 P L69)

1	鉄製品	火打金	全長5.40 幅 1.80+ 厚さ0.50	捻り鎌形。	
2	銅製品	銭	直径2.30 孔径0.68 厚さ0.12	新寛永通宝。	
3	銅製品	銭	直径2.33 孔径0.63 厚さ0.12	寛永通宝。	
4	銅製品	銭	直径2.36 孔径0.57 厚さ0.13	古寛永通宝。	
5	銅製品	銭	直径2.36 孔径0.64 厚さ0.10	新寛永通宝。	
6	銅製品	銭	直径2.19 孔径0.56 厚さ0.10	新寛永通宝。	
7	銅製品	銭	直径2.40 孔径0.67 厚さ0.08	新寛永通宝。	
8	銅製品	銭	直径2.53 孔径0.57 厚さ0.13	新寛永通宝。背文「文」	
9	銅製品	銭	直径2.27 孔径0.60 厚さ0.12	新寛永通宝。背文「元」。木質が付着する。	
10	鉄製品	釘	全長7.00 幅0.30	木質が付着する。	
11	鉄製品	釘	全長3.65 幅0.18	木質が付着する。	
12	鉄製品	釘	全長4.05 幅0.20	木質が付着する。	
13	鉄製品	釘	全長4.40 幅0.18	木質が付着する。	

B区23号土坑 (第138・139図 P L69)

1	土製品	人形	高さ7.40 幅 5.3 厚さ3.40	前後型合わせ。接合部に削り調整。底部はふさがない。	
2	土製品	人形	高さ6.60 幅 5.4 厚さ3.70	前後型合わせ。接合部に削り調整。底部に穿孔。	
3	銅製品	煙管雁首	全長3.80 火皿径1.40 肩径0.95	火皿は碗型、脂返はやや湾曲、肩に緩やかな段をもつ。	羅宇竹残存。
4	銅製品	煙管雁首	全長5.30 火皿径1.70 肩径1.05	火皿は碗型、脂返は湾曲しない。	羅宇竹残存。
5	鉄製品	火打金	全長4.90 幅 2.00 厚さ0.40	捻り鎌形。木質が付着する。	
6	鉄製品	火打金	全長8.10 幅 1.60 厚さ0.60	鋌形。木質が残る。	
7	銅製品	銭	直径2.54 孔径0.60 厚さ0.14	新寛永通宝。背文「文」	
8	銅製品	銭	直径2.52 孔径0.55 厚さ0.13	新寛永通宝。背文「文」	
9	銅製品	銭	直径2.20 孔径0.70 厚さ0.12	新寛永通宝。	
10	銅製品	銭	直径2.50 孔径0.53 厚さ0.12	寛永通宝。	
11	銅製品	銭	直径2.28 孔径0.59 厚さ0.12	新寛永通宝。	
12	銅製品	銭	直径2.46 孔径0.59 厚さ0.12	新寛永通宝。	
13	銅製品	銭	直径2.43 孔径0.60 厚さ0.14	新寛永通宝。	

第3章 検出された遺構と遺物

番号	種類	器種・器形	計測値	特徴・その他	備考
14	銅製品	銭	直径2.42 孔径0.57 厚さ0.13	新寛永通宝。	
15	銅製品	銭	直径2.49 孔径0.58 厚さ0.14	新寛永通宝。	
16	銅製品	銭	直径2.36 孔径0.60 厚さ0.14	寛永通宝。	
17	銅製品	銭	直径2.50 孔径0.60 厚さ0.11	新寛永通宝。背文「文」	
18	銅製品	銭	直径2.40 孔径0.60 厚さ0.11	新寛永通宝。	
19	銅製品	銭	直径2.43 孔径0.58 厚さ0.13	新寛永通宝。	
20	銅製品	銭	直径2.50 孔径0.58 厚さ0.13	寛永通宝。背文「文」	
21	鉄製品	釘	全長3.60 幅0.25	木質が付着する。厚さ1.2cmの木材を固定。	
22	鉄製品	釘	全長3.65 幅0.30	木質が付着する。厚さ1.1cmの木材を固定。	

B区24号土坑（第139図 P L69）

1	鉄製品	火打金	全長4.80+ 幅 0.80 厚さ0.40	捻り鎌形。	
2	銅製品	銭	直径2.35 孔径0.67 厚さ0.12	新寛永通宝	
3	銅製品	銭	直径2.30 孔径0.63 厚さ0.11	新寛永通宝。	
4	銅製品	銭	直径2.40 孔径0.75 厚さ0.13	北宋銭、皇宋通宝（篆書体）。	初鑄1039年。
5	銅製品	銭	直径2.40 孔径0.60 厚さ0.10	新寛永通宝。	
6	銅製品	銭	直径2.50 孔径0.60 厚さ0.12	古寛永通宝。	

B区7～24号土坑一括（第139図 P L69）

1	銅製品	煙管吸い口	全長7.90 口付径0.75 肩径1.10	首から肩にかけて緩やかに太くなる。口付部は肥厚する。	
2	鉄製品	釘	全長5.00 幅0.25	木質が付着する。	
3	鉄製品	釘	全長4.50 幅0.35	木質が付着する。	
4	鉄製品	釘	全長4.80 幅0.35	木質が付着する。	
5	鉄製品	釘	全長5.90 幅0.35	木質が付着する。	
6	鉄製品	釘	全長4.45 幅0.30	木質が付着する。	
7	鉄製品	釘	全長4.75 幅0.35	木質が付着する。	

C区37号土坑（第141図 P L69）

1	陶器	鉢	口径(20.0) 底径 - 高さ -	瀬戸見・美濃系。内外面施釉。	口縁片
---	----	---	--------------------	----------------	-----

C区38号土坑（第141図 P L69）

1	陶器	すり鉢	口径 - 底径10.0 高さ -		底部片
---	----	-----	------------------	--	-----

B区遺構外遺物（第142図 P L69）

1	磁器	蓋	口径(11.6) 摘径 4.0 高さ 3.1	波佐見系。	
---	----	---	------------------------	-------	--

C区遺構外遺物（第142図 P L69）

1	在地系土器	焙烙	口径 - 底径 - 高さ 5.1	燻し焼成。	
---	-------	----	------------------	-------	--

第4章 まとめと考察

1. 調査のまとめ

縄文時代 土坑68基の調査を行った。土坑の形状や深さからB区30・35号土坑、C区23号土坑を除く65基が陥し穴である。土坑から出土した土器は前期中葉のものが主体である。

弥生時代 遺構は後期の竪穴住居1軒のみである。村内では、平坦地の広がる橋詰遺跡や高野原遺跡で、同時期の竪穴住居が確認されている。また、天神、谷地、立岩などの平坦地に遺物が散布している。本遺跡周辺も薄根川と田沢川に挟まれた平地が広がり、弥生時代後期の集落が存在する可能性が考えられる。

古墳時代 本遺跡で最も多くの遺構が確認された時期である。後期の竪穴住居15軒、終末期の横穴式古墳3基、古墳の周堀2、集石遺構6、土坑8基の調査を行った。

住居の時期は、埋土中のFPの有無で大きく2つの時期にわけ、さらに内斜口縁や模倣坏、甕の出土状況を主に分類し、各遺構の所見に記した。しかしながら土師器のセット関係を明確に提示できる住居が少なく、不確定的な要素を含んでいることも否めない。今後、調査事例が増え、利根・沼田地域の編年が確立されたときに再検討する必要がある。

また、15軒の竪穴住居のうちC区3～7・9・11・15・16号住居は、埋土中にFPを含まず、廃絶からFPが降下するまでにほぼ埋没していた。C区3号住居を例にあげると、床面から約60cmまでロームを含む暗褐色土で埋没し、埋土中にFPは混入しない。6世紀前半の沼田市岡谷十二遺跡の6号住居は、FPが床面から約25cmの高さまでレンズ状堆積し、5世紀代の同市下川田平井遺跡32号住居は、壁際に黒色土が堆積した後にFPで埋没している。よってC区3号住居の埋土は自然堆積によるものである可能性は低い。また、埋土が屋根材の一部であることも考えられるが、土葺屋根の厚さについては

渋川市中筋遺跡や北群馬郡子持村黒井峯遺跡の焼失住居で約10cmであることが報告されている。C区3号住居からは炭化材は確認されておらず、屋根の崩落により住居が一気に埋没したとは考えにくい。よって、これら住居群は何らかの制約により埋め戻された可能性が高いと思われる。

終末期に属する古墳からは、極めて遺存状態のよい馬具が出土した。近隣の古墳群では薄根川の対岸に位置する沼田市秋塚古墳群3号墳から鉄製轡1点、鉄製鍔組1組が、14号墳から鉄製鍔組の一部が出土している。また、約1km下流に位置する沼田市奈良古墳群では、13号墳の鉄製轡1点を始め、鍔組や鉸具などの馬具が多数出土している。(第6表) 村内では、生品地区の西川原古墳(『上毛古墳綜覧』63号墳)から鍔、天神古墳群から鉄製轡が出土したという記録がある。利根・沼田地域は馬の生産集団との関係が指摘されている。今回の調査で出土した豊富な馬具類は、この集団との深い関係をうかがわせる重要な資料である。

第6表 周辺古墳群の出土馬具

古墳	出土馬具
秋塚3号墳	鉄製轡1点、鍔組1組
秋塚14号墳	鍔組(鉸具・兵庫鎖)1
奈良ヤ号墳	鉄製鉸具6
奈良ソ号墳	鉄製轡、鉸具2
奈良ヲ号墳	鉄製鉸具
奈良カ号墳	鉄製鍔組1組、鉄製鉸具2
奈良13号墳	鉄製轡1
奈良17号墳	鍔組1、鉸具1
生品西浦遺跡B区1号古墳	轡3、鍔組1組、鉸具1

平安時代 遺構は竪穴住居4軒である。古墳の周堀には8世紀代の遺物が混入するが、遺跡地に集落が再形成されるのは9世紀になってからである。生品は律令制下の男信郷に想定されており、今後同時期の資料の増加が期待される。

近世以降 遺構は屋敷跡1、畑跡1、土坑墓18基、土坑17基である。土坑墓からは、遺物が多数出土している。

①煙管 雁首12点、吸い口10点が出土した。古泉弘編年(古泉1985)を参考に分類すると、第4段

第4章 まとめと考察

階（補強帯が消失したもの・18世紀前半）と第5段階（脂返し湾曲が小さいもの・18世紀後半）に該当する。

②銭貨 92点出土した。うち新寛永通宝は63点で、銭貨が出土した土坑墓すべてに含まれていた。字体による鑄造年代の識別は行わなかったが、背文は「文」10点、「仙」1点、「元」1点がである。

③釘 8・9・14・15・18・19・20・22・23号土坑から出土している。これらの土坑は埋葬の際に木棺を使用していたものと考えられる。

④火打金 鋸形3点、捻り鎌形7点が出土した。

⑤人骨 16基から出土している。遺存状態は比較的良好である。詳細は「第5章-4」を参照されたい。

他にも土人形、陶器、銅製吊り金具などが出土している。

以上、各時代の調査結果について簡単に述べた。紙面と期間の都合上、十分に検討することができなかったが、今回の調査成果が地域史解明の端緒となれば幸いである。

《参考文献》

- 石井克己1990「黒井峯遺跡の集落構造研究（1）－榛名火山の爆発で埋もれた西組遺跡－」『群馬考古学手帳』1
石野博信他1998『古墳時代の研究』7・8
今井孝次1937『川場村誌』
大木紳一郎2004「群馬北部の弥生社会－後期弥生集落の分析から－」『研究紀要22』財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
大西雅広2000「民具資料からみた吉井火打ち金」『群馬考古学手帳』10
尾崎喜左雄1977『上野国の古墳と文化』
小野山節1990「古墳時代の馬具」『日本馬具大観』第一巻古代上
金箱文夫1984「近世の釘」『物質文化』43
川場村誌編纂委員会1951『川場村の歴史と文化』
群馬県1938『上毛古墳綜覧』
群馬県古墳時代研究会1999『群馬県内の横穴式石室Ⅱ（東毛編）』
古泉弘1985「江戸の街の出土遺物－その展望－」『季刊考古学』第13号
後藤守一1996『新版日本刀講座第8巻(外装編)』
鹿田雄三1988「利根・沼田の古墳分布－盆地における古墳分布と地域拡大－」『群馬の考古学』
渋川市教育委員会1988『中筋遺跡』
昭和村教育委員会1996『川額軍原Ⅰ遺跡』
杉山秀宏1995「群馬県出土の鉄鏃について」『群馬県内古墳出土の武器・武具』
田中広明1995「関東西部における律令制成立までの土器様相と歴史的動向－群馬・埼玉県を中心にして－」『東国土器研究』第4号
沼田市1995『沼田市史 資料編1 原始古代・中世』
沼田市2000『沼田市史 通史編1 原始古代・中世』
沼田市教育委員会1991『秋塚古墳群Ⅰ』
沼田市教育委員会1992『秋塚古墳群Ⅱ』
沼田市教育委員会1994『秋塚古墳群Ⅲ』
沼田市教育委員会1996『町田上原遺跡・岡谷十二遺跡・岡谷西原遺跡』
沼田市教育委員会2001『奈良古墳群』
深澤敦仁1992「土葺屋根構造を有する竪穴式住居址について」『群馬考古学手帳』3
松本保1988「古墳時代後期における群馬県北部の土器様相－黒色土師器の検討から－」『東国史論』第3号
右島和夫他2003『古墳構築の復元的研究』
右島和夫2004「昭和村の古墳」『群馬歴史散歩』184号
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団1983『奥原古墳群』
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団1985『石墨遺跡』
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団1985『糸井宮前遺跡』
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団1988『後田遺跡Ⅱ』
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団1988『田篠上平遺跡』
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団1989『師遺跡・鎌倉遺跡』
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団1989『門前橋詰・外海戸遺跡・高野原遺跡』
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団1992『神保下條遺跡』
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団1999『綿貫観音山古墳Ⅱ』
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団2001『石墨遺跡（沼田チェーンベース地点Ⅰ）』
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団2004『多田山古墳群 今井三騎堂遺跡・今井見切塚遺跡－古墳時代編－』

2. 生品・奈良古墳群出土の鉄鏃について～古墳群間の比較～

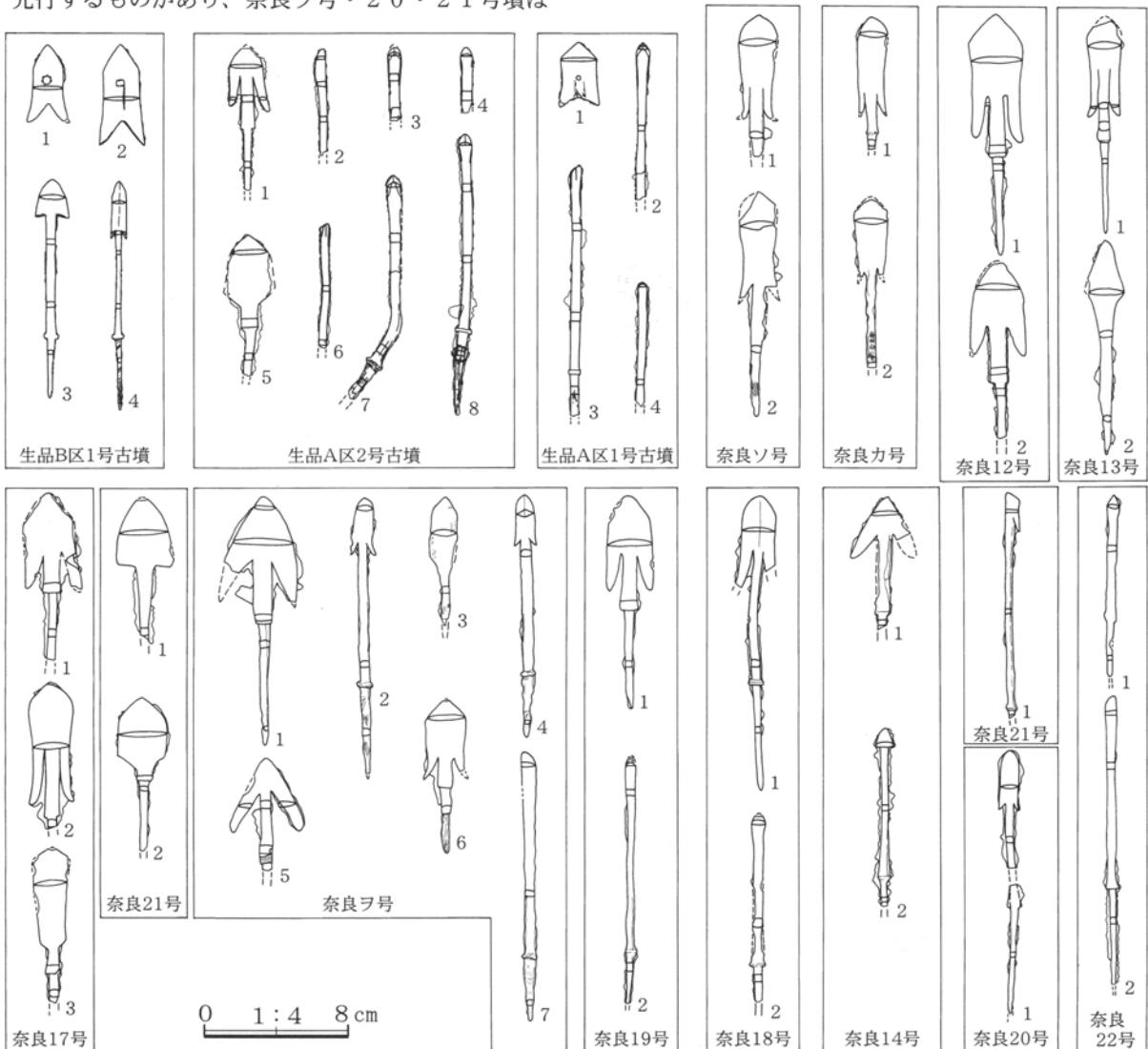
杉山 秀宏

生品古墳群の調査で、3基の古墳から鉄鏃が出土している。生品古墳群の近隣で、多くの鉄製品が出土しており、比較的古墳群の内容も分かる奈良古墳群出土の鉄鏃との比較を行う。

生品古墳群出土の鉄鏃は時期的には7世紀前半から後半にかけてのものと考えられる。古墳群中で一番古いものはB区1号古墳であり、7世紀前半と考えられる。A区2号古墳は長頸鏃の端刃造りの状況から7世紀前半～中頃に比定され、A区1号古墳が同じく端刃造の状況から7世紀中頃以降に比定される。

奈良古墳群出土の鉄鏃は、時期的に生品古墳群に先行するものがあり、奈良ヲ号・20・21号墳は

6世紀後半に遡るものと考えられる。その他の鏃は基本的に7世紀代のものと考えられるが、広根鏃が多く、今ひとつ年代比定の作業が遅れている鏃群であるので明瞭な年代を比定することが困難である。ここでは、奈良古墳群と生品古墳群出土の鉄鏃の組成に注目してみる。一番大きな相違は奈良古墳群出土の鉄鏃には、無茎の鏃が無いということである。ただ、奈良古墳群出土とのみ判明している鏃には無茎の腸袂長三角形鏃があり、奈良古墳群にもあったことは事実だが、調査して出土古墳名の分かる資料中には無く、生品古墳群と比較して組成面で相違があることが言えるだろう。



第145図 生品・奈良古墳群出土鉄鏃

3. B区1号古墳出土の馬具について

佐藤 信孝

B区1号古墳の横穴式石室の右袖の玄門部に近いところに、大刀とともに一箇所から良好な状態で出土している。轡3点、鐙左右1点ずつの一組、鉸具1点が主なものである。

環状鏡板付轡の研究は山ノ井清人、花谷浩、岡安光彦らによってなされている。今回の各部品の詳細な名称の多くは、岡安光彦による用語に従い、鐙については、斉藤弘による鐙鞞金具研究の用語を使用する。

玄52の大型矩形環状鏡板付轡は鉄製で鏡板、銜、引手の連結方法をみると銜先環に鏡板と引手端環が連結された2連式である。楕円形の環に「回」字状の形をした鉄板を鍛接し、馬の面繫に繋がる長方形の立聞とした鏡板である。手綱に繋がる引手は1条線で引手壺は「く」の字状に屈曲しており、その根元付近には環状に丸めた鉄棒の先を鍛接したつなぎ目が確認できる。また銜先環に連結する引手の端環の先端部において、鍛接によるつなぎ目が確認できる。断面形は鏡板が六角形、銜が四角形、引手の柄が四角形、引手壺は六角形に鍛打されている。さらに銜先環と連結する引手の端環と銜の連結部（^{くぐみ}脚）には磨耗がみられ、実際に使用されていた可能性が高い。

玄51の鉄製大型矩形立聞環状鏡板付轡の連結方法は、銜先環に鏡板と引手端環が連結された2連式であり玄52の轡と共通している。立聞の上部が欠損しているが、楕円形の環に「回」字状の形をした鉄板を鍛接し、大型矩形立聞を持っている点でも玄52と同じである。一方引手には柄に対して右方向の振じりを施していることが特徴的で、この振じりの幅は均等ではなく、引手壺の側と銜に連結する環の密度が高い。引手壺は「く」の字状に屈曲している。引手壺には鍛接したつなぎ目が明瞭に見られるが、銜に連結する環の部分では肉眼で観察することは出来なかった。一方で銜先環の頂部に鍛接によるつなぎ目が確認できた。

轡が3点出土している中で唯一鏡板の形状が異なるのが玄53の鉄製鉸具造立聞環状鏡板付轡である。鏡板、銜、引手の連結方法は、銜先環に鏡板と引手端環が連結された2連式である。鏡板は他の2例よりもつぶれた楕円形を呈しており、鉸具を鍛接して立聞としている。鉸具の基部を方形に穿孔し、それに刺金の根元を挿入し巻き付けて可動部を作っている。刺金は可動部が平たく、先端に向けて細くなっている。手綱に繋がる引手は1条線で引手壺は「く」の字状に屈曲している。引手壺や端環の鍛接によるつなぎ目は肉眼では確認できなかった。断面形は鏡板が六角形、銜が四角形、引手の柄と引手壺は六角形に鍛打されている。特徴的なのは素材の鉄が太いことが指摘できる。とくに銜、引手で顕著にみられる。銜は0.9×0.8cm、引手は1.0×0.7cmを測り、断面形は平たい六角形状に鍛打している。他の轡よりも太い素材を使用している特徴が見られる。

環状鏡板付轡の編年研究では岡安光彦（岡安1984）が代表的である。岡安によれば、引手に振れの無い大型矩形立聞環状鏡板付轡が3点の中では古く7世紀初頭、引手に振じりを施す大型矩形立聞環状鏡板付轡と偏平化した鏡板を特徴とする鉸具造立聞環状鏡板付轡を7世紀前半としている。

引手に振じりを施した環状鏡板付轡の例は大型矩形立聞、鉸具造立聞の両方に見られ、類例も多い。沼田盆地周辺をみると、昭和村鍛谷地2号墳から出土した引手に振じりを施した大型矩形立聞環状鏡板付轡がある。また群馬県南部では、榛名町奥原古墳群、榛東村39号墳、伊勢崎市波志江今宮7号墳、土坑と住居内から出土した高崎市下佐野遺跡等が挙げられる。しかしこれらの引手に施した振じりは、B区1号墳の引手の振じりのような密度のバラつきがなく、均等な幅で振じられている。以上の県内における例と比べると、B区1号墳の引手の振じりを除けば、大型矩形立聞環状鏡板付轡2点と鉸具造

3. B区1号古墳出土の馬具について

立聞環状鏡板付轡1点において使用した鉄材の違いが見られる。これらによって時期によって使用した鉄の素材の違い、轡を製作した工房差を示唆できる可能性がある。

轡の他に玄54・55のような一組になる鏡の鏡鞆金具が出土している。

轡が3点出土しているのに対して、鏡は1組出土しているのみである。2個体がほぼ完形で残存しており、同じ形状から1組の鏡であったと思われる。環状の鉸具の基部に刺金を巻きつけ、2連の兵庫鎖を連結し、木製鏡を取り付ける吊金具が残存している。吊金具には木質が見られ、下方向へ広がっている点から三角錐形の木製壺鏡が垂下されていたものと推測できる。吊金具と木製鏡の接合には頭部を片側に折り曲げた釘を4本使用しており、吊金具の先端が細く尖らせ木製鏡を挟み込んで固定していたと考えられる。また鏡が1組出土していることから、馬の装着時における鏡の左右の位置を考えると、吊金具が軽い「八」の字状になっている。「八」の字状の狭まった方を前として考えると、鉸具の刺金が両方とも外側を向く。このことを考慮すると、鏡の左右の位置の違いが考えられるであろう。齊藤弘の三E式に近く、年代を7世紀初頭段階の特徴として考えたい。

《参考文献》

- 岡安光彦 1984「いわゆる素環の轡について」『日本古代文化研究』創刊号 古墳文化研究会
神谷佳明他 1995『波志江今宮遺跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団
小村正行 1996『川額軍原Ⅰ遺跡』群馬県昭和村教育委員会
齊藤弘 1986「古墳時代の壺鏡の分類と編年」『日本古代文化研究』3
新藤彰 1985『榛東村39号墳（雛子遺跡）発掘調査報告書』榛東村教育委員会
専修大学考古学研究室 2003『剣崎長瀬西5・27・35号墳』
外山政子他 1986『下佐野遺跡Ⅱ地区（1）』群馬県埋蔵文化財調査事業団
羽鳥政彦他 1991『陣場・庄司原古墳群』群馬県勢多郡富士見村教育委員会
花谷浩 1983「素環鏡板付轡の編年とその性格」『山陰考古学の諸問題』山本清先生喜寿記念論集刊行会
松本浩一他 1983『奥原古墳群』群馬県埋蔵文化財調査事業団
山ノ井清人 1983「環状鏡板付轡の編年と系譜—特に五箇古墳。小野巢根第4号墳の位置づけを目的として」『唐澤考古』二 唐澤考古会

馬具の一部の可能性が考えられる鉄製の鉸具が出土している。馬蹄形の環の基部にT字の刺金と横棒を持つ鉸具で、1点のみの出土である。使用された目的は不明であるが、富士見村の上庄司原2号墳では2つの鉸具と対になるように、間の兵庫鎖がない状態で鏡の吊金具が出土している。富士見村の例からも兵庫鎖が金属ではなく有機質の鏡鞆を使用していた可能性が考えられるが、B区1号古墳に関しては断定できない。

最後に馬具副葬古墳の組合せをみていきたい。群馬県内において環状鏡板付轡がまとめて出土している例を挙げると、昭和村の鍛谷地2号墳、榛名町の奥原49号墳、高崎市の剣崎長瀬西35号墳等がある。とくに生品西浦遺跡に近い昭和村の鍛谷地2号墳の馬具の組み合わせが大型矩形立聞環状鏡板付轡2点、鉸具造立聞環状鏡板付轡1点、鏡鞆金具3組に加え、鏡の数が轡の数に対応して出土している点で類似する。他の古墳の出土例をみると盗掘などにより古墳があらわれている可能性が考えられる。轡の形状をみれば県内で出土した他の例と同様に1つの古墳に副葬された標準的なセットと見てよいだろう。

第5章 自然科学分析と鑑定

1. A区の自然科学分析

群馬県、生品西浦遺跡の火山灰分析

株式会社 古環境研究所

1. はじめに

群馬県域とその周辺に分布する後期更新世以降に形成された地層の中には、赤城、榛名、浅間など北関東地方とその周辺の火山、中部地方や中国地方さらには九州地方などの火山に由来するテフラ（火山砕屑物、いわゆる火山灰）が多く認められる。テフラの中には、噴出年代が明らかにされている示標テフラがあり、これらとの層位関係を遺跡で求めることで、遺構の構築年代や遺物包含層の堆積年代を知ることができるようになっている。

そこで、年代が不明な土層が検出された生品西浦遺跡においても、地質調査を行い土層層序を記載するとともに、テフラ検出分析と屈折率測定を行って示標テフラの層位を把握し、土層の層位や年代に関する資料を収集することになった。調査分析の対象となった地点は、A区東壁、A区1号墳墳丘部、A区2号墳周堀西地点、A区2号墳墳丘部東壁である。また2号墳周堀東地点でも、採取された試料について分析を行った。

2. 土層層序

(1) A区東壁

A区東壁では、下位より黒灰褐色土（層厚9cm以上）、成層した黄白色軽石層（層厚29cm）、黄白色軽石混じり黒灰褐色土（層厚28cm、軽石の最大径33mm）、暗灰褐色砂質表土（層厚16cm）が認められる（図1）。これらのうち成層した軽石層は、下部のより粗粒の黄白色軽石層（層厚15cm、軽石の最大径97mm、石質岩片の最大径37mm）と上部の黄白色軽石層（層厚14cm、軽石の最大径37mm、石質岩片の最大径21mm）からなる。

このテフラ層は、その層相から6世紀中葉に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳伊香保テフラ（Hr-FP、新井、1962、新井、1962、坂口、1986、早田、1989、町田・新井、1992）に同定される。

(2) A区1号墳墳丘部

A区1号墳墳丘部では、下位より黄白色軽石層（層厚5cm以上、軽石の最大径31mm、石質岩片の最大径14mm）、黄白色軽石混じり暗灰色砂層（層厚7cm、軽石の最大径7mm）、黄白色軽石混じり黒灰褐色土（層厚12cm、軽石の最大径27mm）、黄白色軽石混じり暗灰褐色土（層厚21cm、軽石の最大径39mm）、粗粒軽石を含む黄褐色細粒軽石層（層厚4cm、軽石の最大径29mm、石質岩片の最大径2mm）、黄白色軽石混じり黒灰褐色土（層厚19cm）が認められる（図2）。これらのうち黄白色軽石層は、層相からHr-FPに同定される。

(3) A区2号墳周堀西地点

A区2号墳周堀西地点では、下位より黄白軽石を多く含む暗褐色土（層厚54cm、軽石の最大径32mm）、黄白色軽石混じり黒褐色土（層厚12cm、軽石の最大径22mm）、黄褐色粗粒火山灰層（層厚0.7cm）、暗灰褐色土（層厚0.5cm）、粗粒軽石を含む黄褐色細粒軽石層（層厚5cm、軽石の最大径31mm、石質岩片の最大径2mm）が認められる（図3）。黄褐色粗粒火山灰については、A区2号墳周堀東地点でも認めることが

できた。

(4) A区2号墳墳丘部東壁

A区2号墳墳丘部東壁では、下位より黄白軽石層（層厚5cm以上、軽石の最大径47mm、石質岩片の最大径9mm）、黄白色軽石混じり暗灰色砂層（層厚11cm、軽石の最大径12mm）、黄白色軽石混じり暗灰褐色土（層厚20cm以上）が認められる（図4）。これらのうち黄白色軽石層は、層相からHr-FPに同定される。

3. テフラ検出分析

(1) 分析試料と分析方法

テフラ層の特徴と、降灰層準を求めるために、土層断面から採取された9点を対象にテフラ検出分析を行った。分析の手順は次の通りである。

- 1) 試料10gを秤量。
- 2) 超音波洗浄により泥分を除去。
- 3) 80°Cで恒温乾燥。
- 4) 実体顕微鏡下で観察し、テフラ粒子の量や特徴を把握。

(2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を表6に示す。A区1号墳墳丘部では、試料8から試料3にかけて、さほど発泡が良くない白色軽石（最大径12.9mm）が比較的多く含まれている。白色軽石の班晶としては、斜方輝石や角閃石が認められる。試料3には、比較的良好に発泡した淡褐色軽石（最大径3mm）がごく少量含まれている。軽石の班晶には、斜方輝石や単斜輝石が含まれている。試料1のテフラ層には、比較的良好に発泡した淡褐色軽石（最大径7.1mm）や褐色軽石（最大径7.2mm）がとくに多く含まれている。両者が斑状に混じたものもある。軽石の班晶には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。

A区2号墳周堀西地点の試料2のテフラ層には、比較的良好に発泡した淡褐色軽石（最大径6.8mm）が比較的多く含まれている。軽石の班晶には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。試料1のテフラ層には、比較的良好に発泡した淡褐色軽石（最大径7.8mm）や褐色軽石（最大径4.3mm）がとくに多く含まれている。両者が斑状に混じたものもある。軽石の班晶には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。

A区2号墳墳丘部東壁の試料1には、さほど発泡が良くない白色軽石（最大径14.3mm）が多く含まれている。白色軽石の班晶としては、斜方輝石や角閃石が認められる。また2号墳周堀東地点の試料1のテフラ層には、比較的良好に発泡した淡褐色軽石（最大径8.2mm）が比較的多く含まれている。軽石の班晶には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。

4. 屈折率測定

(1) 測定試料と測定方法

示標テフラとの同定を行うために、A区2号墳周堀西地点の試料2と試料1の2層のテフラについて、温度一定型屈折率測定法（新井，1972，1993）により、テフラ粒子の屈折率測定を試みた。

(2) 測定結果

屈折率測定の結果を表7に示す。A区2号墳周堀西地点の試料2に含まれる火山ガラスの屈折率（n）は、1.525-1.530である。重鉱物としては、斜方輝石や単斜輝石が含まれている。斜方輝石の屈折率（n）は、1.708-1.710である。また試料1に含まれる火山ガラスの屈折率（n）については、microliteが多く含まれて

第5章 自然科学分析と鑑定

おり、高精度の測定は困難であった。重鉱物としては、斜方輝石や単斜輝石が含まれている。斜方輝石の屈折率 (n) は、1.708-1.710である。

5. 考察

屈折率測定の対象となった試料のうち、試料2のテフラ層については、層位、層相、軽石の岩相、重鉱物の組み合わせ、さらに火山ガラスや斜方輝石の屈折率などから、1108 (天仁元) 年に浅間火山から噴出した浅間Bテフラ (As-B, 荒牧, 1968, 新井, 1979) に同定される。またその上位のテフラ層は、層位、層相、軽石の岩相、重鉱物の組み合わせ、さらに斜方輝石の屈折率などから、1128 (大治3) 年に浅間火山から噴出した浅間粕川テフラ (As-Kk, 早田, 1991, 1995) に同定される。

以上のことから、A区1号墳墳丘部の試料3に含まれる淡褐色軽石は、層位や岩相などからAs-Bに由来すると考えられる。またA区1号墳墳丘部試料1や2号墳周堀東地点のテフラ層は、層相や含まれる軽石などから、As-Kkに同定される。

テフラ検出分析により検出された白色軽石は、岩相や重鉱物の組み合わせなどから、Hr-FPに由来すると考えられる。したがって、A区2号墳墳丘部東壁で見られた砂層については、層相も合わせるとHr-FPの水成再堆積層と思われる。

6. 小結

生品西浦遺跡において、地質調査とテフラ検出分析さらに屈折率測定を行った。その結果、下位より榛名二ツ岳伊香保テフラ (Hr-FP, 6世紀中葉)、浅間Bテフラ (As-B, 1108年)、浅間粕川テフラ (As-Kk, 1128年) を検出することができた。

文献

- 新井房夫 (1962) 関東盆地北西部地域の第四紀編年. 群馬大学紀要自然科学編, 10, p.1-79.
- 新井房夫 (1972) 斜方輝石・角閃石の屈折率によるテフラの同定—テフロクロロジーの基礎的研究. 第四紀研究, 11, p.254-269.
- 新井房夫 (1979) 関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層. 考古学ジャーナル, no.53, p.41-52.
- 新井房夫 (1993) 温度一定型屈折率測定法. 日本第四紀学会編「第四紀試料分析法—研究対象別分析法」, p.138-148.
- 荒牧重雄 (1968) 浅間火山の地質. 地団研専報, no.45, 65p.
- 町田 洋・新井房夫 (1992) 火山灰アトラス. 東京大学出版会, 276p.
- 坂口 一 (1986) 榛名二ツ岳起源FA・FP層下の土師器と須恵器. 群馬県教育委員会編「荒砥北原遺跡・今井 神社古墳群・荒砥青柳遺跡」, p.103-119.
- 早田 勉 (1989) 6世紀における榛名火山の2回の噴火とその災害. 第四紀研究, 27, p.297-312.
- 早田 勉 (1991) 浅間火山の生い立ち. 佐久考古通信, no.53, p.2-7.
- 早田 勉 (1995) テフラからさぐる浅間山の活動史. 御代田町誌自然編, p.22-43.
- 早田 勉 (1996) 関東地方～東北地方南部の示標テフラの諸特徴—とくに御岳第1テフラより上位のテフラについて—. 名古屋大学加速器質量分析計業績報告書, 7, p.256-267.

第6表 A区におけるテフラ検出分析結果

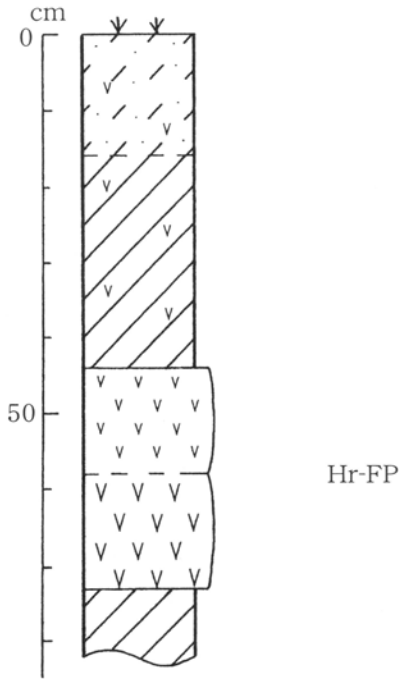
地点	試料	軽石の量	軽石の色調	軽石の最大径
1号古墳墳丘部	1	++++	淡褐>褐	7.1, 7.2
	3	++	白>淡褐	12.9, 3.0
	5	++	白	10.4
	7	++	白	9.9
	8	++	白	11.1
2号古墳周堀西	1	++++	淡褐>褐	7.8, 4.3
	2	++	淡褐	6.8
2号古墳墳丘部東壁	1	+++	白	14.3
2号古墳周堀東	1	++	淡褐	8.2

++++: とくに多い, +++: 多い, ++: 中程度, +: 少ない, -: 認められない, 最大径の単位は, mm.

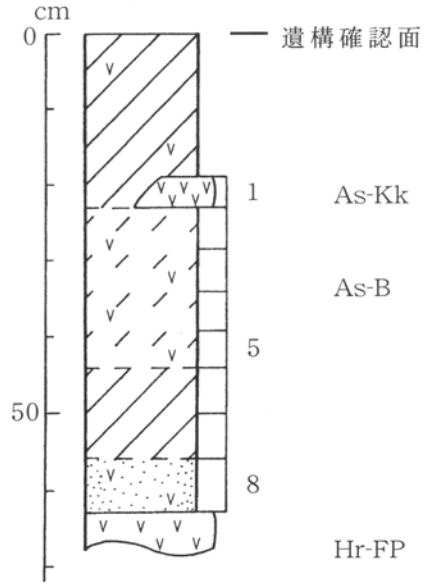
第7表 A区における屈折率測定結果

地点	試料	火山ガラス (n)	重鉱物	斜方輝石 (γ)
2号古墳周堀西	1	-	opx>cpx	1.708-1.710
2号古墳周堀西	2	1.525-1.530	opx>cpx	1.708-1.710

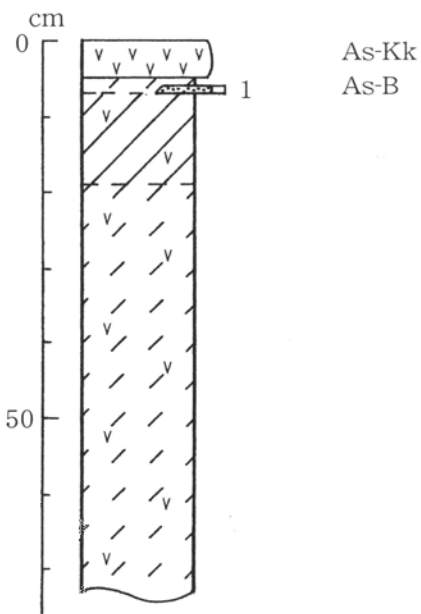
屈折率の測定は, 温度一定型屈折率測定法 (新井, 1972, 1993) による.
opx: 斜方輝石, cpx: 単斜輝石.



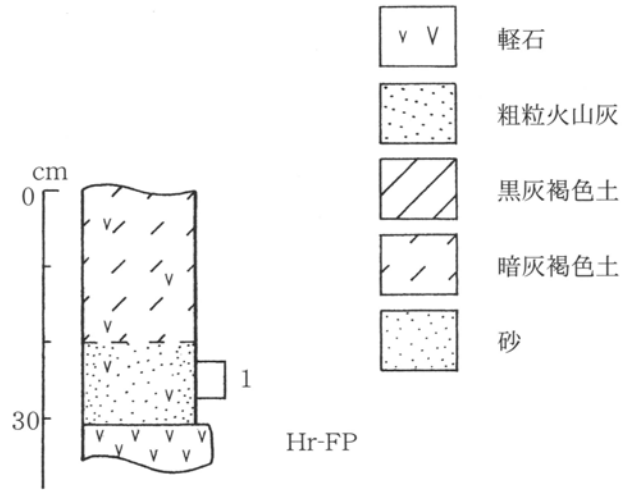
(図1) A区東壁の土層柱状図



(図2) A区1号墳墳丘部の土層柱状図
数字はテフラ分析の試料番号



(図3) A区2号墳周堀西地点の
土層柱状図数字はテフラ
分析の試料番号



(図4) A区2号墳墳丘部東壁の土層柱状図
数字はテフラ分析の試料番号

第146図 A区火山灰分析結果

2. C区の自然科学分析

株式会社 古環境研究所

(1) 生品西浦遺跡における火山灰分析

1. はじめに

群馬県北部とその周辺に分布する後期更新世以降に形成された地層の中には、赤城、榛名、浅間など北関東地方とその周辺の火山、中部地方や中国地方さらには九州地方などの火山に由来するテフラ（火山碎屑物、いわゆる火山灰）が多く認められる。テフラの中には、噴出年代が明らかにされている指標テフラがあり、これらとの層位関係を遺跡で求めることで、土層の層位や年代のみならず遺構の構築年代や遺物包含層の堆積年代を知ることができるようになっている。

そこで、層位や年代が不明なテフラや土層が検出された川場村生品西浦遺跡においても、地質調査を行って土層の層序を記載するとともに、テフラ検出分析を行って指標テフラとの同定を行い、土層の層位や年代に関する資料を収集することになった。調査分析の対象となった地点は、C区深掘トレンチである。

2. 土層の層序

C区深掘トレンチでは、下位より暗灰褐色砂質土（層厚15cm以上）、砂混じり暗灰褐色土（層厚25cm）、亜円礫層（層厚5cm、礫の最大径66mm）、亜円礫混じりで色調が若干暗い灰褐色土（層厚42cm、礫の最大径16mm）、砂混じり灰褐色土（層厚18cm）、若干色調が暗い灰褐色土（層厚19cm）、褐色軽石混じり灰褐色土（層厚22cm）、若干灰色がかかった褐色土（層厚16cm）、砂混じりで黄色がかかった褐色土（層厚21cm）、黄色細粒火山灰層ブロックを含む黄褐色土（層厚12cm）、灰色がかかった褐色土（層厚17cm）、黒灰色粗粒火山灰混じり橙色軽石層（層厚15cm、軽石の最大径7mm、石質岩片の最大径2mm）、砂混じりで黄色がかかった褐色土（層厚26cm）、黄色軽石を多く含む黄褐色土（層厚7cm、軽石の最大径6mm）、黄色軽石混じりで若干灰色がかかった黄褐色土（層厚17cm、軽石の最大径5mm）が認められる（図1）。

これらのうち、黒灰色粗粒火山灰混じり橙色軽石層については、層相から約1.9～2.4万年前に浅間火山から噴出した浅間板鼻褐色軽石群（As-BP Group, 新井, 1962, 早田, 未公表資料）の中・上部に同定される。

またその上位の土層中に多く含まれる黄色軽石については、その層位や色調、さらにテフラの分布などを合わせて考慮すると、約1.8万年前に浅間火山から噴出したと考えられている浅間白糸軽石（As-Sr, 町田ほか, 1984, 早田, 1996）に由来すると考えられる。

3. テフラ検出分析

(1) 分析試料と分析方法

指標テフラの層位を明らかにするために、C区深掘トレンチにおいて層界にかからないように基本的に5cmごとに設定採取された試料のうち、11点を対象にテフラ検出分析を行った。分析の手順は次の通りである。

- 1) 試料10gを秤量。
- 2) 超音波洗浄により泥分を除去。
- 3) 80°Cで恒温乾燥。

第5章 自然科学分析と鑑定

4) 実体顕微鏡下で観察し、テフラ粒子の量や特徴を把握。

(2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を表8に示す。分析では、軽石やスコリアは検出されなかった。試料9より上位では、無色透明のバブル型ガラスが認められる。その中では、試料7に多くの火山ガラスが含まれている。

4. 考察

分析により無色透明のバブル型ガラスが多く検出された黄色細粒火山灰層については、その層位や層相を考慮すると、約2.4～2.5万年前*1に南九州地方の始良カルデラから噴出した始良Tn火山灰(AT, 町田・新井, 1976, 1992, 松本ほか, 1987, 池田ほか, 1995)と考えられる。それより下位のテフラ粒子のうち、褐色の軽石については、その層位や岩相などから、浅間火山に由来すると推定される。さらに重鉍物分析などにより、榛名系テフラや広域テフラなどとの層位関係が明らかにされれば、この軽石についても詳細がわかる可能性がある。

本遺跡とその周辺には、後期旧石器時代だけでも、上述したテフラのほかに、榛名箱田テフラ(Hr-HA, 早田, 1996)、As-BP Groupの下部、浅間荻生軽石(As-Hg, 早田, 1995, 1996)、浅間大窪沢軽石群(As-Ok Group: As-Ok1およびAs-Ok2: 約1.6～1.7万年前*1, 中沢ほか, 1984, 早田, 1996)、浅間板鼻黄色軽石(As-YP, 約1.3～1.4万年前*1, 新井, 1962, 町田・新井, 1992)など多くのテフラが分布している。本遺跡およびその周辺における調査の際には、詳細な編年研究の基礎資料として、引き続いてテフラに関する分析が実施されることが期待される。

5. まとめ

川場村生品西浦遺跡において、地質調査とテフラ検出分析を行った。その結果、下位より始良Tn火山灰(AT, 約2.4～2.5万年前*1)、浅間板鼻褐色軽石群(As-BP Group, 約1.9～2.4万年前*1)の中・上部、浅間白糸軽石(As-Sr, 約1.8万年前)などの指標テフラを検出することができた。

*1 放射性炭素(14C)年代測定

文献

新井房夫(1962) 関東盆地北西部の第四紀編年. 群馬大学紀要自然科学編, 10, p.1-79.

新井房夫(1979) 関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層. 考古学ジャーナル, no.157, p.41-52.

池田晃子・奥野 充・中村俊夫・小林哲夫(1995) 南九州, 始良カルデラ起源の大隅降下軽石と入戸火砕流中の炭化樹木の加速器14C年代. 第四紀研究, 34, p.377-379.

町田 洋・新井房夫(1976) 広域に分布する火山灰-始良Tn火山灰の発見とその意義-. 科学, 46, p.339-347.

町田 洋・新井房夫(1992) 火山灰アトラス. 東京大学出版会, 276p.

町田 洋・新井房夫・小田静夫・遠藤邦彦・杉原重夫(1984) テフラと日本考古学-考古学研究に関するテフラのカタログ. 渡辺直経編「古文化財に関する保存科学と人文・自然科学-総括報告書」, p.865-928.

2. C区の自然科学分析

松本英二・前田保夫・竹村恵二・西田史朗（1987）始良Tn火山灰（AT）の14C年代. 第四紀研究, 26, p.79-83.

村山雅史・松本英二・中村俊夫・岡村 真・安田尚登・平 朝彦（1993）四国沖ピストンコア試料を用いたAT火山灰噴出年代の再検討—タンデトロン加速器質量分析計による浮遊性有孔虫の14C年代. 地質雑, 99, p.787-798.

中沢英俊・新井房夫・遠藤邦彦（1984）浅間火山, 黒斑～前掛期のテフラ層序. 日本第四紀学会講演要旨集, no.14, p.69-70.

早田 勉（1989）6世紀における榛名火山の2回の噴火とその災害. 第四紀研究, 27, p.297-312.

早田 勉（1991）浅間火山の生い立ち. 佐久考古通信, no.53, p.2-7.

早田 勉（1995）テフラからさぐる浅間山の活動史. 御代田町誌自然編, p.22-43.

早田 勉（1996）関東地方～東北地方南部の示標テフラの諸特徴—とくに御岳第1テフラより上位のテフラについて—. 名古屋大学加速器質量分析計業績報告書, 7, p.256-267.

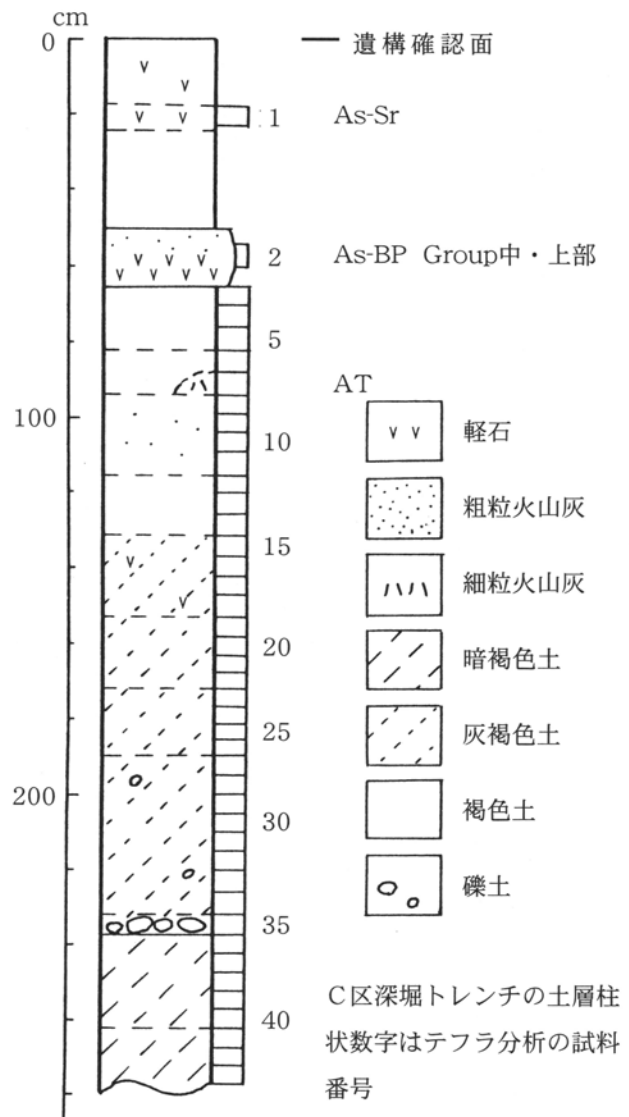
第8表 C区におけるテフラ検出分析結果

試料	軽石・スコリア			火山ガラス		
	量	色調	最大径	量	形態	色調
3	-	-	-	+	bw	無色透明
5	-	-	-	++	bw	無色透明
7	-	-	-	+++	bw	無色透明
9	-	-	-	+	bw	無色透明
11	-	-	-	-	-	-
13	-	-	-	-	-	-
17	-	-	-	-	-	-
21	-	-	-	-	-	-
25	-	-	-	-	-	-
33	-	-	-	-	-	-
39	-	-	-	-	-	-

+++：とくに多い, ++：多い, ++：中程度, +：少ない, -：認められない.

認められない.

最大径の単位は, mm, bw：バブル型, pm：軽石型



第147図 C区火山灰分析結果

第5章 自然科学分析と鑑定

(2) 生品西浦遺跡における樹種同定

1. はじめに

木材はセルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、解剖学的形質の特徴から概ね属レベルの同定が可能である。木材は花粉などの微化石と比較して移動性が少ないことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能であり、遺跡から出土したものについては木材の利用状況や流通を探る手がかりとなる。

2. 試料

試料は、古墳時代前期の焼失家屋（5号住、6号住、13号住）から出土した炭化材4点である。

3. 方法

試料を割折して新鮮な基本的三断面（木材の横断面、放射断面、接線断面）を作製し、落射顕微鏡によって50～1000倍で観察した。同定は解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

4. 結果

結果を表9に示し、主要な分類群の顕微鏡写真を示す。以下に同定の根拠となった特徴を記す。

ニレ属 *Ulmus* ニレ科

横断面：年輪のはじめに中型から大型の道管が1～3列配列する環孔材である。孔圏部外の小道管は多数複合して花束状、接線状、斜線状に比較的規則的に配列する。早材から晩材にかけて道管の径は急激に減少する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、小道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。放射組織は同性で、すべて平伏細胞からなる。

接線断面：放射組織は同性放射組織型で、1～6細胞幅ぐらいである。

以上の形質よりニレ属に同定される。なお、5号住No.15の試料は、ニレ属の特徴を示すものの、炭化による変形などが著しく不明瞭な点が多いことから、ニレ属？とした。

5. 所見

分析の結果、焼失家屋の6号住と13号住から出土した炭化材はいずれもニレ属、5号住から出土した炭化材はニレ属？と同定された。ニレ属には、ハルニレ、オヒョウなどがあり、北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布する落葉の高木である。材は器具、旋作、薪炭などに用いられる。

文献

佐伯浩・原田浩（1985）針葉樹材の細胞。木材の構造，文永堂出版，p.20-48.

佐伯浩・原田浩（1985）広葉樹材の細胞。木材の構造，文永堂出版，p.49-100.

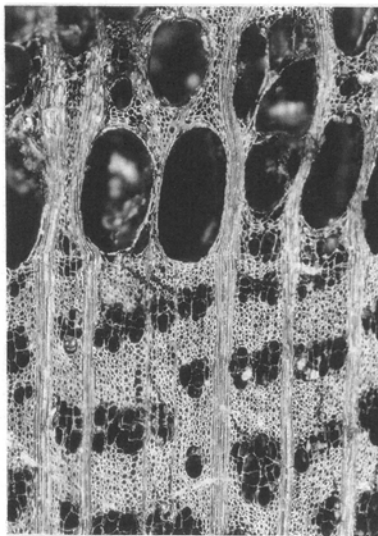
島地謙・伊東隆夫（1988）日本の遺跡出土木製品総覧，雄山閣，p.296

山田昌久（1993）日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成，植生史研究特別第1号，植生史研究会，p.242

第9表 生品西浦遺跡における樹種同定結果

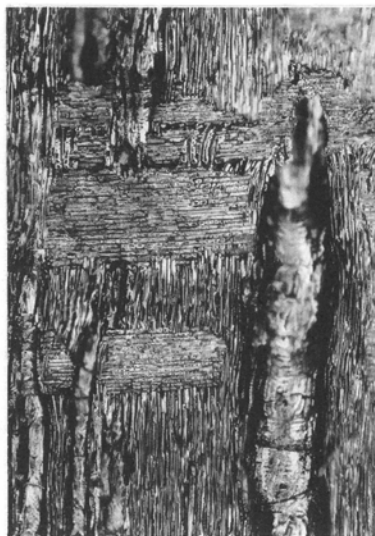
試料	結果 (学名/和名)	
5号住居No.15	Ulmus?	ニレ属?
6号住居No.26	Ulmus	ニレ属
13号住居No.1	Ulmus	ニレ属
13号住居No.5	Ulmus	ニレ属

生品西浦遺跡の炭化材



横断面 ————— : 0.4mm

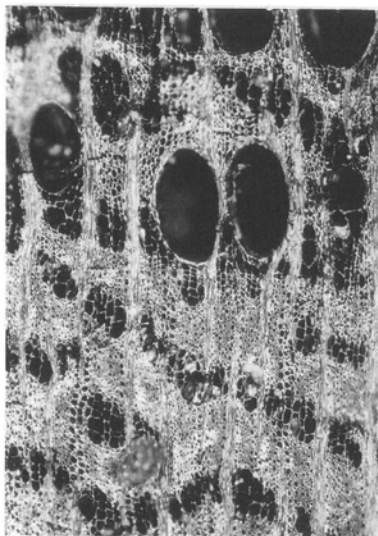
1. 13号住 No.1 ニレ属



放射断面 ————— : 0.4mm



接線断面 ————— : 0.2mm



横断面 ————— : 0.4mm

2. 13号住 No.5 ニレ属



放射断面 ————— : 0.4mm



接線断面 ————— : 0.2mm

第5章 自然科学分析と鑑定

(3) 生品西浦遺跡における植物珪酸体分析（灰像分析）

1. 試料

分析試料は、焼失家屋から採取されたワラ状炭化物である。

2. 分析法

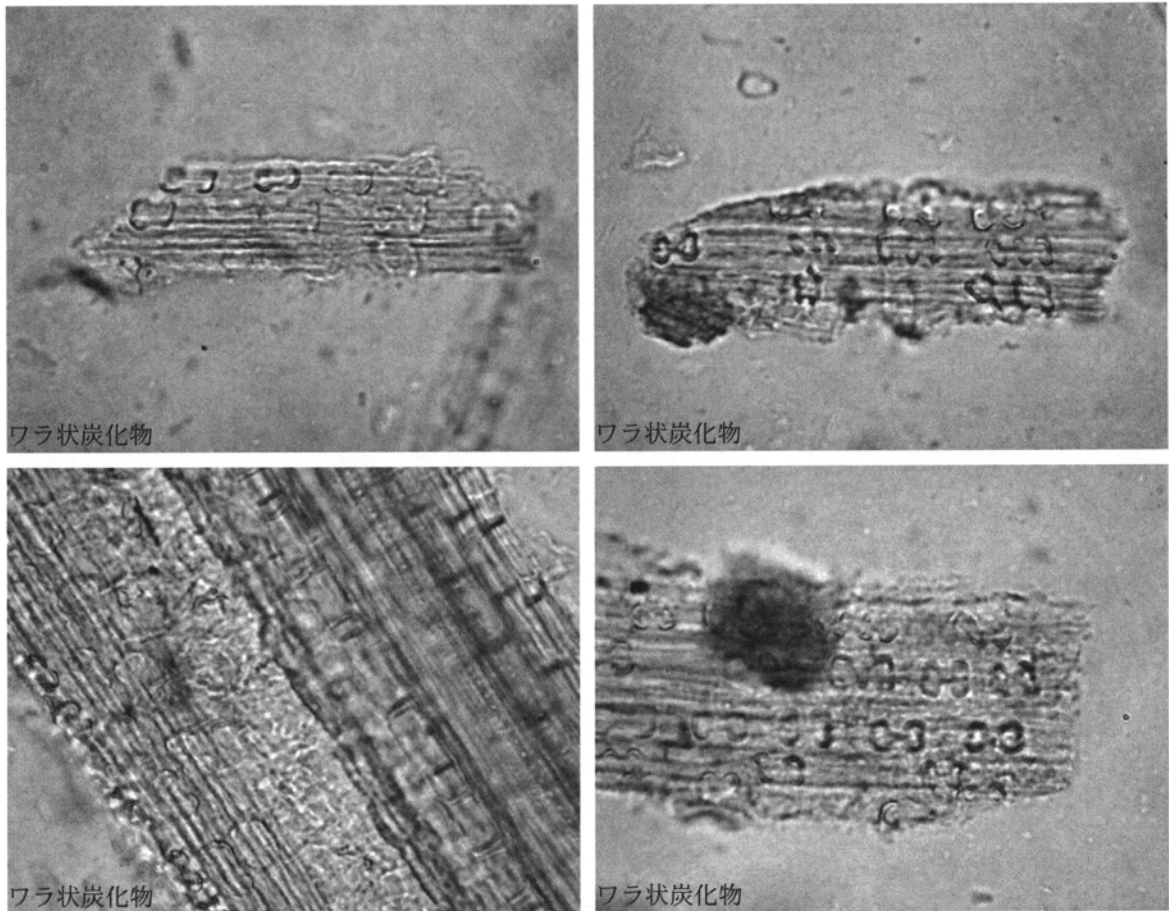
電気炉灰化法（550℃・6時間）によって灰化し、オイキットで封入してプレパラートを作成した。検鏡は偏光顕微鏡を用いて、100～400倍の倍率で行った。なお、灰化物の内部を調べるために、灰像組織の一部を破壊して観察を行った。

3. 結果と所見

分析の結果、部分的にススキ属型の短細胞を含む細胞組織片が認められたが、ススキ属の機動細胞珪酸体は認められなかった（顕微鏡写真参照）。機動細胞珪酸体は葉身のみで形成されるが、短細胞珪酸体は茎部（葉鞘を含む）などでも形成される。これらのことから、ワラ状炭化物にはススキ属もしくはその近縁種のイネ科植物の茎部が含まれていると考えられる。

文献

杉山真二（2000）植物珪酸体（プラント・オパール）. 考古学と植物学. 同成社, p.189-213.



灰像の顕微鏡写真

50 μm

3. 生品西浦古墳出土人骨

植崎 修一郎

はじめに

生品西浦古墳は、群馬県利根郡川場村大字生品字西浦に所在する。村道生品下り線建設に伴い、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団による発掘調査が、平成13(2001)年7月～同15(2003)年9月まで行われた。生品西浦古墳のA区1号古墳・A区2号古墳・B区1号古墳・B区2号古墳・C区1号古墳の5基の古墳の調査が行われたが、この内、A区1号古墳・A区2号古墳・B区1号古墳の3基の古墳の石室から人骨が出土したので、以下に報告する。古墳の形態は、横穴式石室を持つ円墳であり、時代は、墳墓の形態と出土遺物より、7世紀代の時期に比定されている。しかしながら、これらの古墳は、墳丘部が削平されており、人骨の残存状態も極めて悪い。出土人骨は、清掃後できるかぎりの接着復元を行った後、写真撮影・観察・計測を行った。なお、歯の計測方法は藤田の方法(藤田, 1949)に従った。また、古墳時代人の歯の比較データは、松村(Matsumura, 1995)を引用した。

1. A区1号古墳出土人骨

A区1号古墳の大きさは、直径約8mであり、石室の大きさは全長約4.6mである。

出土人骨の残存状態は非常に悪く、歯の歯冠部破片のみであり、接着復元することは不可能であった。従って、本古墳被葬者を明らかにすることは不可能である。

2. A区2号古墳出土人骨

A区2号古墳の大きさは、直径約8mであり、石室の大きさは全長約4.3mである。

(1) 出土部位

出土人骨の残存状態は非常に悪く、歯の歯冠部が出土している。

(2) 被葬者の個体数

出土歯には、重複部位が認められないため、被葬

者の個体数は、1個体であると推定される。しかしながら、出土人骨の量及び数が非常に少ないため、1個体以上埋葬されていた可能性もある。

(3) 被葬者の性別

歯の歯冠計測値から、被葬者の性別は、女性であると推定される。

(4) 被葬者の死亡年齢

歯の咬耗度を観察すると、歯にはほとんど咬耗が認められないため、被葬者の死亡年齢は、約10歳代であると推定される。

(5) 被葬者の古病理

出土歯には、俗に虫歯と呼ばれる齲蝕は認められなかった。また、歯石も認められなかった。

3. B区1号古墳出土人骨

B区1号古墳の大きさは、直径約8mであり、石室の大きさは全長約4.1mである。

(1) 出土部位

出土人骨の残存状態は、悪い。主な出土部位は、遊離歯及び左右大腿骨片である。

(2) 被葬者の個体数

出土歯では、下顎右第2大臼歯に重複部位が認められた。それ以外の歯の咬耗度を観察すると、咬耗が進んだ個体とあまり進んでいない個体が認められるため、被葬者の個体数は3個体であると推定される。ただし、中近世人骨に良く認められる事例であるが、一方の側の歯を使用して皮革をなめしたり、樹皮をしごくことで、同一個体でも左右の咬耗度が異なる場合が多々ある。もし、今回の出土歯がその事例にあたるとすれば、被葬者の個体数は2個体となる。実際、出土歯は、まとまった箇所から出土しており、さらに、形態も似ているため、同一個体である可能性が高いと推定される。なお、出土人骨では、重複部位が認められず、左右大腿骨は同一個体であると推定される。

第5章 自然科学分析と鑑定

(3) 性別

歯の歯冠計測値から、被葬者の性別は、男性2体・女性1体であると推定される。なお、左右大腿骨は、大きさが小さく華奢であるため、女性個体のものであると推定される。但し、前出の被葬者の個体数の項でも論じたように、歯を道具として使用した場合は、男性個体は1個体となる。

(4) 被葬者の死亡年齢

歯の咬耗度から、被葬者の死亡年齢は、男性2体は、1体が約30歳代であり、もう1体が約40歳代であると推定される。女性1体の死亡年齢は、約40歳代であると推定される。但し、前出の個体数及び性別の項で論じたように、歯を道具として使用した場合は、約30歳代男性と約40歳代女性となる。しかしながら、女性が歯を道具として使用した場合は、男性と同様に約30歳代なのかもしれない。

(5) 被葬者の古病理

出土歯には、俗に虫歯と呼ばれる齲蝕は認められなかった。また、歯石も認められなかった。

まとめ

生品西浦古墳のA区1号古墳・A区2号古墳・B区1号古墳から、古墳時代人骨が出土した。A区1号古墳出土人骨は、残存状態が非常に悪いため、被葬者を明らかにすることはできなかった。A区2号古墳には、約10歳代の女性1体が埋葬されたと推定された。しかしながら、人骨の残存状態が悪いため、1個体以上埋葬されていた可能性もある。B区1号古墳には、約40歳代の男性・約30歳代の男性・約40歳代の女性の3体が埋葬されていたと推定された。しかしながら、もし、歯を道具として使用したと想定すると、約30歳代の男性1体と約30歳代の女性1体の可能性もある。

謝辞

本人骨を記載する機会を与えていただき、本人骨に関する考古学的情報を与えていただいた、(財)群埋文の齊田智彦氏に感謝いたします。

引用文献及び参考文献

- 藤田恒太郎 1949 歯の計測規準について、「人類学雑誌」、第61巻。
- 権田和良 1959 歯の大きさの性差について、「人類学雑誌」、第67巻。
- 池田次郎 1993 「古墳人」『古墳時代の研究1、総論・研究史』、雄山閣出版。
- 城 一郎 1938 「古墳時代日本人骨の人類学的研究」、人類学輯報、第1号。
- MATSUMURA, Hirofumi 1995 A microevolutional history of the Japanese people as viewed from dental morphology. National Science Museum Monographs No.9, National Science Museum, Tokyo.
- 榑崎修一郎 1998 安坪古墳群出土人骨(Ⅱ)、『長根遺跡群Ⅴ』、吉井町教育委員会。
- 榑崎修一郎 1999 川井箱石遺跡出土人骨、『川井箱石遺跡』、川井箱石遺跡調査会。
- 榑崎修一郎 2000 高瀬24号墳出土人骨、『高瀬24号古墳(桐瀬古墳群)』、富岡市教育委員会。
- 榑崎修一郎 2002 樽野本3号墳出土人骨、「赤城村歴史資料館紀要」、第4集
- 榑崎修一郎 2002 倉賀野東古墳群大道南群出土人骨、「高崎市史研究」、16号。
- 榑崎修一郎 2003 第3章浅間山古墳出土人骨、『浅間山古墳』、伊勢崎市教育委員会。
- 榑崎修一郎 2005 第9章安坪古墳群出土人骨(Ⅲ・Ⅳ)、『安坪古墳群』、吉井町教育委員会 [印刷中]
- 榑崎修一郎 2005 Ⅳ 亀岡軽浜遺跡第1号墳出土人骨、『亀岡軽浜遺跡』、尾島町教育委員会 [印刷中]

3. 生品西浦古墳出土人骨

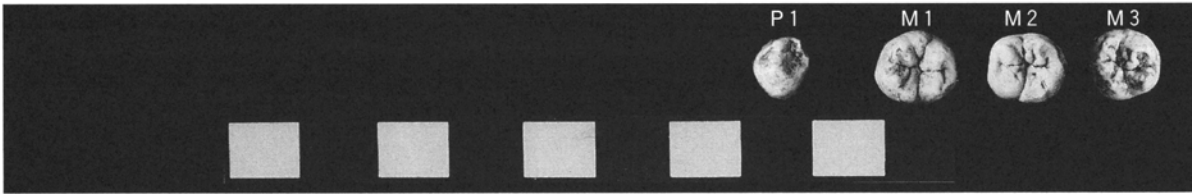


図1 生品西浦A区2号古墳出土人骨出土歯

註：P1（第1小白歯）・M1（第1大白歯）・M2（第2大白歯）・M3（第3大白歯）を意味する。

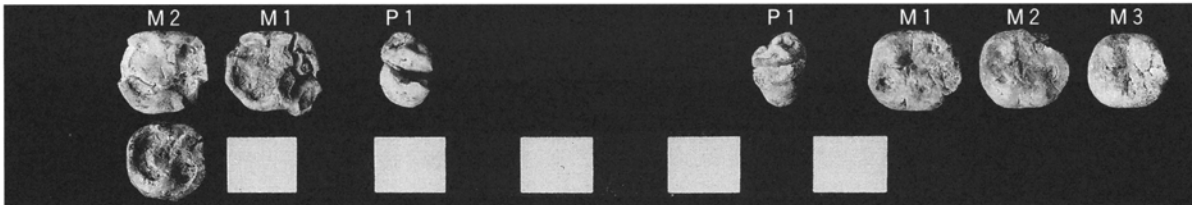


図2 生品西浦B区1号古墳出土人骨出土歯

註：P1（第1小白歯）・M1（第1大白歯）・M2（第2大白歯）・M3（第3大白歯）を意味する。

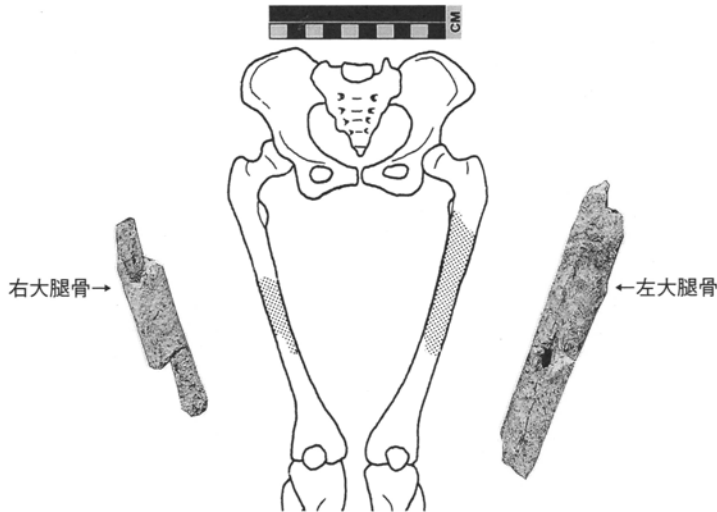


図3 生品西浦B区1号古墳出土人骨 [左右大腿骨]

表1. 生品西浦古墳出土永久歯歯冠計測値及び比較表

歯種	計測項目	生品西浦古墳				東日本古墳時代人*		西日本古墳時代人*		現代日本人**	
		A区2号		B区1号墳		♂	♀	♂	♀	♂	♀
		左	右	左	右						
下	P1	MD 7.4	計測不能	—	計測不能	7.38	6.97	7.42	7.32	7.31	7.19
	BL	8.8	—	—	—	8.24	7.92	8.52	8.01	8.06	7.77
	M1	MD 11.3	計測不能	—	12.7	11.67	11.20	11.91	11.43	11.72	11.32
	BL	10.4	—	—	11.1	11.28	10.81	11.40	10.81	10.89	10.55
	M2	MD 10.9	破損	11.0	12.3	11.21	10.71	11.39	11.03	11.30	10.89
	BL	10.1	11.6	10.5	11.0	10.79	10.28	10.96	10.32	10.53	10.20
顎	M3	MD 9.7	—	—	11.5	—	—	—	—	10.96	10.65
	BL	9.9	—	—	10.5	—	—	—	—	10.28	10.02

- 註1. 計測値の単位は、すべて「mm」である
- 註2. 歯種は、P1(第1小白歯)・M1(第1大白歯)・M2(第2大白歯)・M3(第3大白歯)を意味する。
- 註3. 計測項目は、MD(歯冠近遠心径)・BL(歯冠唇頬舌径)を意味する。
- 註4. 「破損」は、歯冠が破損しており計測ができなかったことを示す。
- 註5. 「計測不能」は、歯冠の亀裂で計測ができなかったことを示す。
- 註6. 古墳時代人の比較データは、MATSUMURA(1995)より引用。
- 註7. 現代日本人の比較データは、権田(1959)より引用。

4. 生品西浦遺跡出土人骨

檜崎 修一郎

はじめに

生品西浦遺跡は、群馬県利根郡川場村大字生品字西浦に所在する。村道生品下り線建設に伴い、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団による発掘調査が、平成13(2001)年7月～同15(2003)年9月まで行われた。生品西浦遺跡のB区8号・9号・10号・11号・12号・14号・15号・16号・17号・18号・19号・20号・21号・22号・23号・24号の16基の土坑より人骨が出土したので、以下に報告する。人骨の所属年代は、主に副葬品より、近世に比定されている。なお、本土坑群は、密接して存在しているために、正確な土坑の大きさは不明である。さらに、新旧関係も不明である。

出土人骨は、すでに調査担当者により清掃が完了していたので、できるかぎりの接着復元を行い、写真撮影・観察・計測を行った。

なお、人骨の計測はマルティン [Martin] の方法(馬場、1991)に従い、歯の計測は藤田の方法(藤田、1949)に従った。頭蓋骨の比較データの内、中世人は鈴木・林・田邊・佐倉(1956)を用い、近世人は鈴木(1967)を用いた。また、歯の比較データの内、中近世人はMATSUMURA[松村](1995)を用い、現代人は権田(1959)を用いた。さらに、四肢骨の比較データの内、中世人は松下(2002)を用い、近世人は遠藤・北條・木村(1967)を用いた。

1. 8号土坑出土人骨 (2002年9月9日出土)

人骨の残存量が少ないために、被葬者の特質を明らかにするのは不可能である。

2. 9号土坑出土人骨 (2002年9月18日出土)

(1) 人骨の出土部位

出土人骨の残存状態は悪い。わずかに、左尺骨片・右脛骨片・右腓骨片が出土している。

(2) 副葬品

副葬品は、煙管及び鉄製の釘が1点ずつ出土して

いる。

(3) 被葬者の頭位・埋葬状態

出土人骨の残存状態が悪いため、被葬者の頭位は不明である。埋葬状態は、出土人骨の出土状況から、恐らく座葬であると推定される。

(4) 被葬者の個体数

出土人骨には重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体であると推定される。

(5) 被葬者の性別

出土人骨の残存状態は悪いが、人骨が比較的大きく頑丈であるため、被葬者の性別は男性であると推定される。

(6) 被葬者の死亡年齢

人骨の残存状態が悪いため、被葬者の死亡年齢は成人としか推定できない。

3. 10号土坑出土人骨 (2002年9月19日出土)

(1) 人骨の出土部位

人骨の残存状態は、非常に悪い。わずかに、右大腿骨片が出土している。

(2) 副葬品

副葬品は、碗1点、煙管及び火打金が1点ずつ出土している。

(3) 被葬者の頭位・埋葬状態

出土人骨の残存状態が悪いため、被葬者の頭位は不明である。埋葬状態は、出土人骨の出土状況から、恐らく座葬であると推定される。

(4) 被葬者の個体数

出土人骨には重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体であると推定される。

(5) 被葬者の性別

出土大腿骨が比較的大きく頑丈であるため、被葬者の性別は男性であると推定される。

(6) 被葬者の死亡年齢

人骨の残存状態が悪いため、被葬者の死亡年齢は成人としか推定できない。

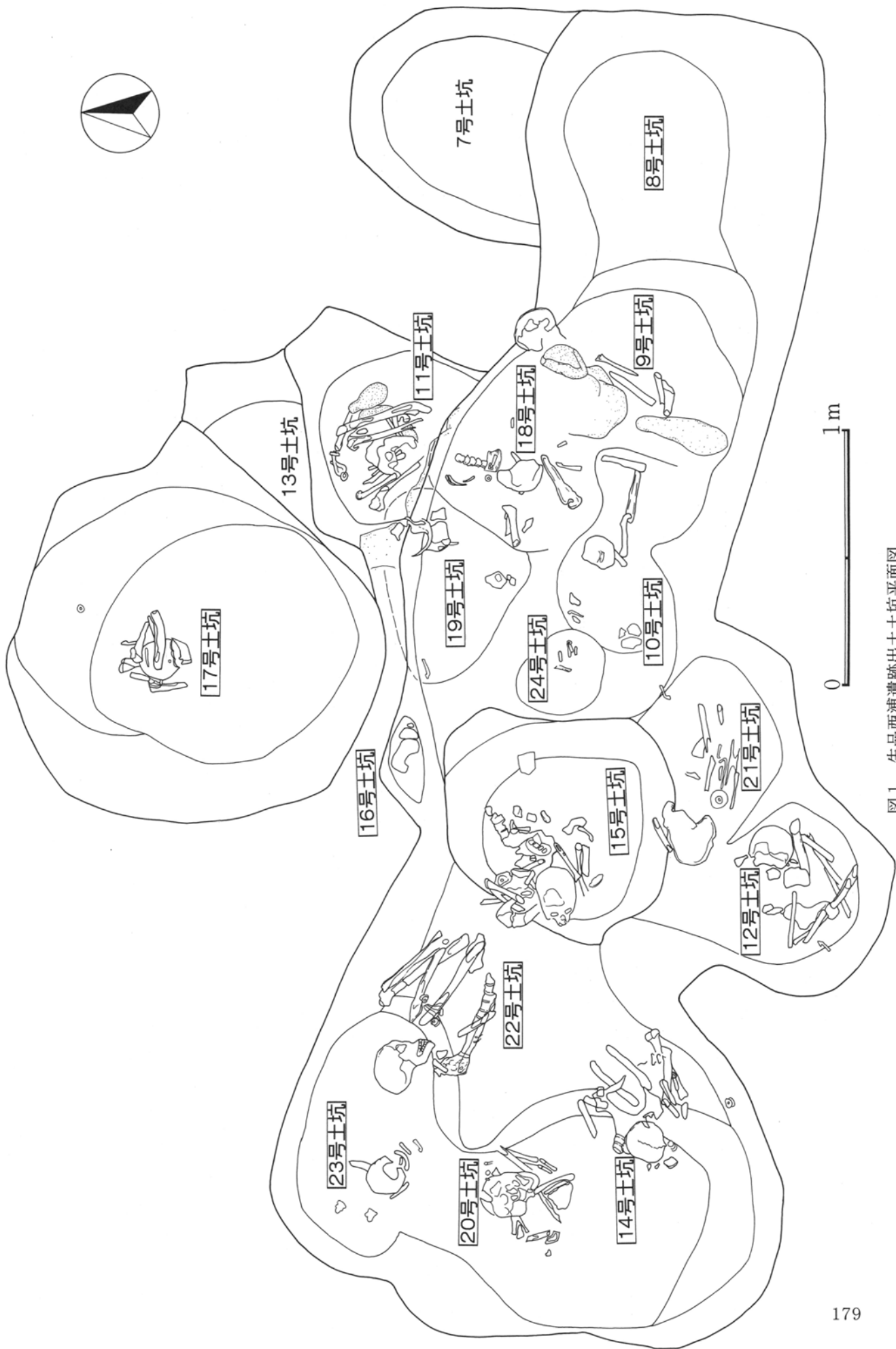


图1 生品西浦浦遺跡出土土坑平面图

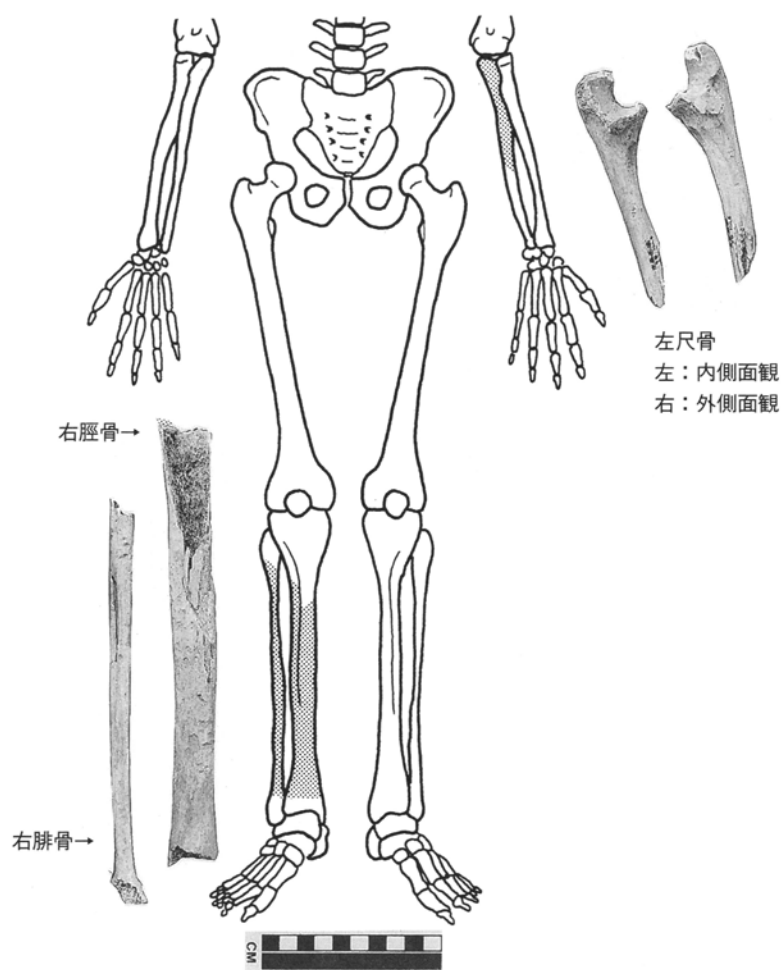


図2 生品西浦遺跡9号土坑出土人骨四肢骨

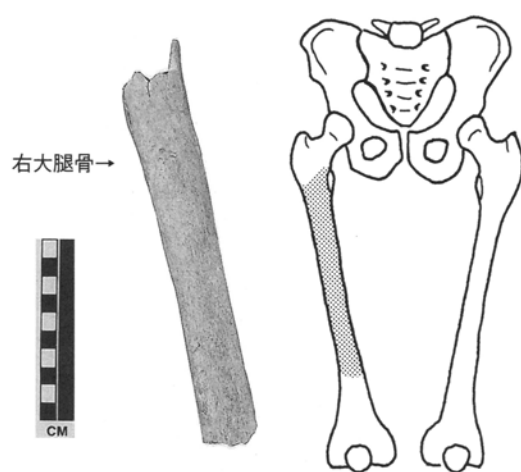


図3 生品西浦遺跡10号土坑出土人骨四肢骨

4. 生品西浦遺跡出土人骨

4. 11号土坑出土人骨 (2002年9月10日~18日出土)



図4 生品西浦遺跡11号土坑出土人骨出土状況

(1) 人骨の出土部位

人骨の残存状態は、比較的良好である。人骨の出土部位は、ほぼ全身に及ぶ。

(2) 副葬品

副葬品は、検出されていない。

(3) 被葬者の頭位・埋葬状態

被葬者の頭位は不明である。埋葬状態は、出土人骨の出土状況から、恐らく座葬であると推定される。

(4) 被葬者の個体数

出土人骨には重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体であると推定される。

(5) 被葬者の性別

出土人骨は比較的大きく頑丈であるため、被葬者の性別は男性であると推定される。

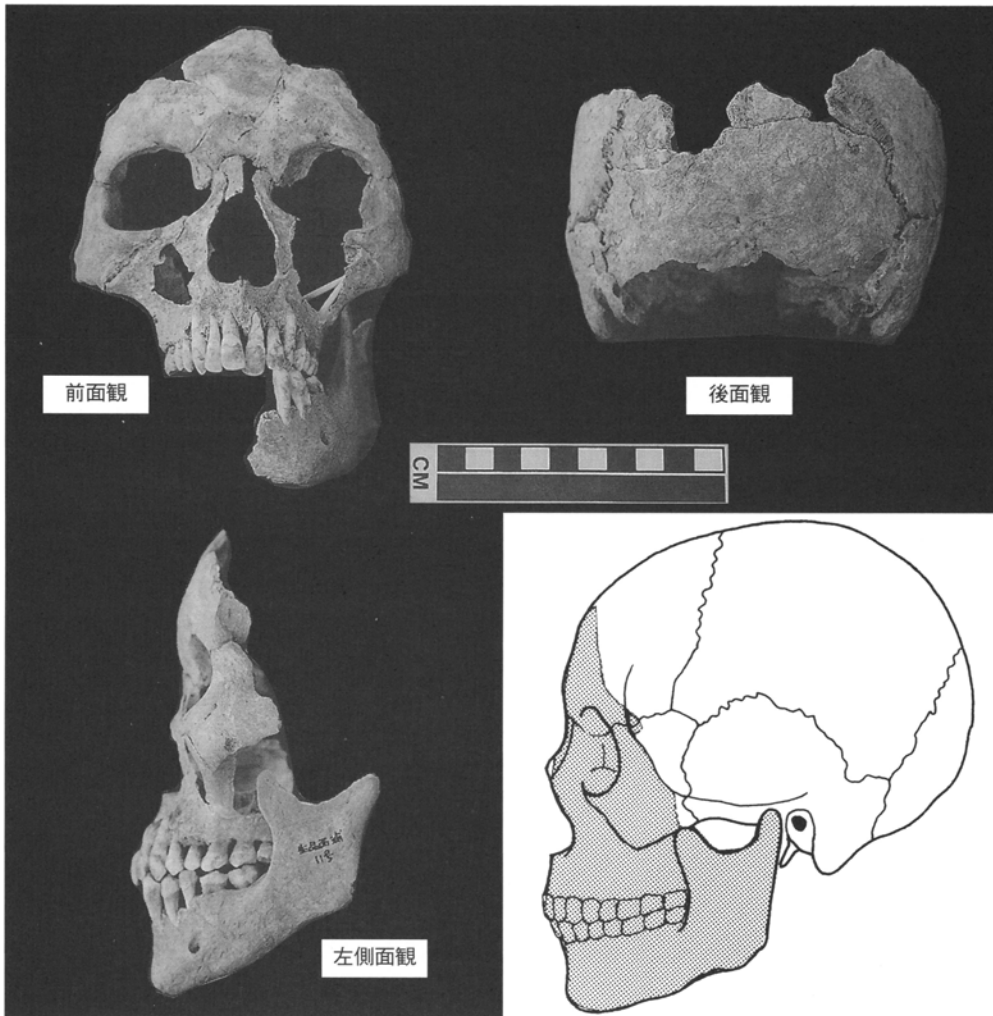


図5 生品西浦遺跡11号土坑出土人骨頭蓋骨

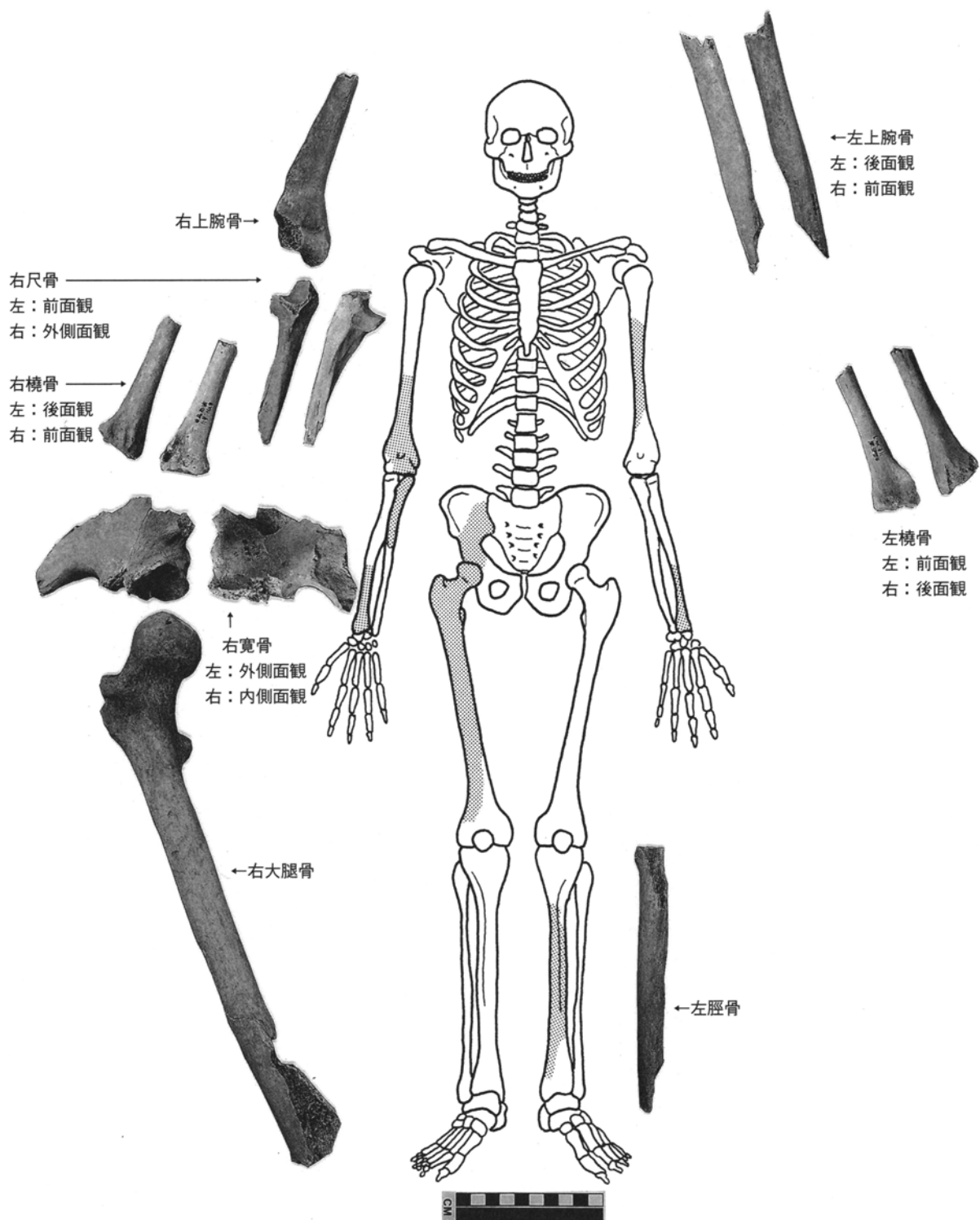


図6 生品西浦遺跡11号土坑出土人骨四肢骨

4. 生品西浦遺跡出土人骨

(6) 被葬者の死亡年齢

歯の咬耗度を観察すると、上顎切歯から小白歯ではエナメル質のみであるのに対し、下顎切歯は象牙質が線状にまた下顎臼歯は象牙質が点状に露出するマルティンの2度の状態である。従って、被葬者の死亡年齢は約30歳代であると推定される。ところが、上下顎臼歯特に第1大白歯は、象牙質が面状に露出しており上下顎の切歯とは咬耗の度合いが異なる。これは、臼歯に関しては通常の咬耗ではなく異常磨耗であり、咬耗が実際の年齢よりも早く進んでいる可能性が高い。恐らく、皮革をなめしたり、樹皮をしごいて繊維にする作業を行ったことが推定される。なお、「咬耗」とは咀嚼・咬合によるものを言い、「磨耗」とは咀嚼以外の器械的作用による硬

組織の消耗を言う（鈴木、1964）。一方、頭蓋骨の主要縫合の内、ラムダ（人字）縫合はまだ癒合しておらず開放の状態である。このことから、被葬者の死亡年齢が約30歳代であることを支持する。

(7) 出土人骨の出自

頭蓋骨の非計測的形質を観察すると、眼窩上孔が認められず、舌下神経管二分が認められたため、本被葬者は在来系であると推定される。

(8) 被葬者の古病理

①歯石：上下顎の歯すべてに、歯石の付着あるいは付着していた痕跡が認められた。

②齲蝕（虫歯）：出土歯には、俗に虫歯と呼ばれる齲蝕は認められなかった。

5. 12号土坑出土人骨（2002年9月10日～18日出土）



図7 生品西浦遺跡12号土坑出土人骨出土状況

(1) 人骨の出土部位

人骨の残存状態は、比較的良好である。人骨の出土部位は、ほぼ全身に及ぶ。

(2) 副葬品

副葬品は、煙管及び銭貨7点が出土している。

(3) 被葬者の頭位・埋葬状態

被葬者の頭位は不明である。埋葬状態は、出土人骨の出土状況から、恐らく座葬であると推定される。

(4) 被葬者の個体数

出土人骨には重複部位が認められないため、被葬

者の個体数は1個体であると推定される。

(5) 被葬者の性別

頭蓋骨を観察すると、眉弓の発達が悪く、眼窩上縁がある程度鋭く、前頭結節や後頭結節が認められるように見える。しかしながら、歯の計測値が比較的大きく、四肢骨、特に大腿骨の骨頭は大きく頑丈であるため、被葬者の性別は男性であると推定される。前出の後頭結節は、恐らく、土圧による変形によるものと思われる。

(6) 被葬者の死亡年齢

出土人骨の上下顎を観察すると、上顎では右側第2切歯及び同犬歯のみが残存しており、その他の歯は生前脱落をしており歯槽が閉鎖し吸収されている状態である。また、下顎では、右側第1大白歯及び第3大白歯と左側第2大白歯が顎骨に植立している状態である。なお、左側第3大白歯は顎骨に埋伏している状態である。恐らく、萌出過程で、歯冠部が第2大白歯の歯根にあたって萌出できなかったものと推定される。右側第2大白歯及び左側第1大白歯は生前脱落をしており、歯槽が閉鎖して吸収されている状態である。その他、左側第2小白歯は、歯槽が開放しており、顎骨に植立していたと推定される

第5章 自然科学分析と鑑定

が、歯が出土していないので確定できない。以上の歯以外はほとんどが生前脱落をしたものと推定される。さらに、頭蓋骨の主要縫合である冠状縫合・矢状縫合を観察すると、内板は癒合して閉鎖している状態であるが、外板は癒合しておらず開放の状態である。したがって、被葬者は老齢であった可能性が高い。しかしながら、頭蓋縫合の癒着度は個人差が大きいので、参考程度にしかならないとも言われている。以上を総合して、被葬者の死亡年齢は老齢であると推定される。

(7) 出土人骨の形態

頭蓋骨

後頭部は破損しており、頭型を確定することはできないが、恐らく、短頭であると推定される。

(8) 出土人骨の出自

頭蓋骨の非計測的形質を観察すると、眼窩上孔が認められたので、本被葬者は渡来系であると推定される。

(9) 被葬者の古病理

①歯石：出土歯16本には、歯石の付着及び痕跡は認められなかった。

②齲蝕（虫歯）：上顎右犬歯の遠心面歯頸部に、俗に虫歯と呼ばれる齲蝕が認められた。

③歯の異常磨耗：下顎右第1大臼歯の頬側面は、エナメル質がすべて磨耗し、角度を成して象牙質が露出している。これは、歯で皮革をなめしたり樹皮をしごいて繊維にする作業を行ったことが推定される。

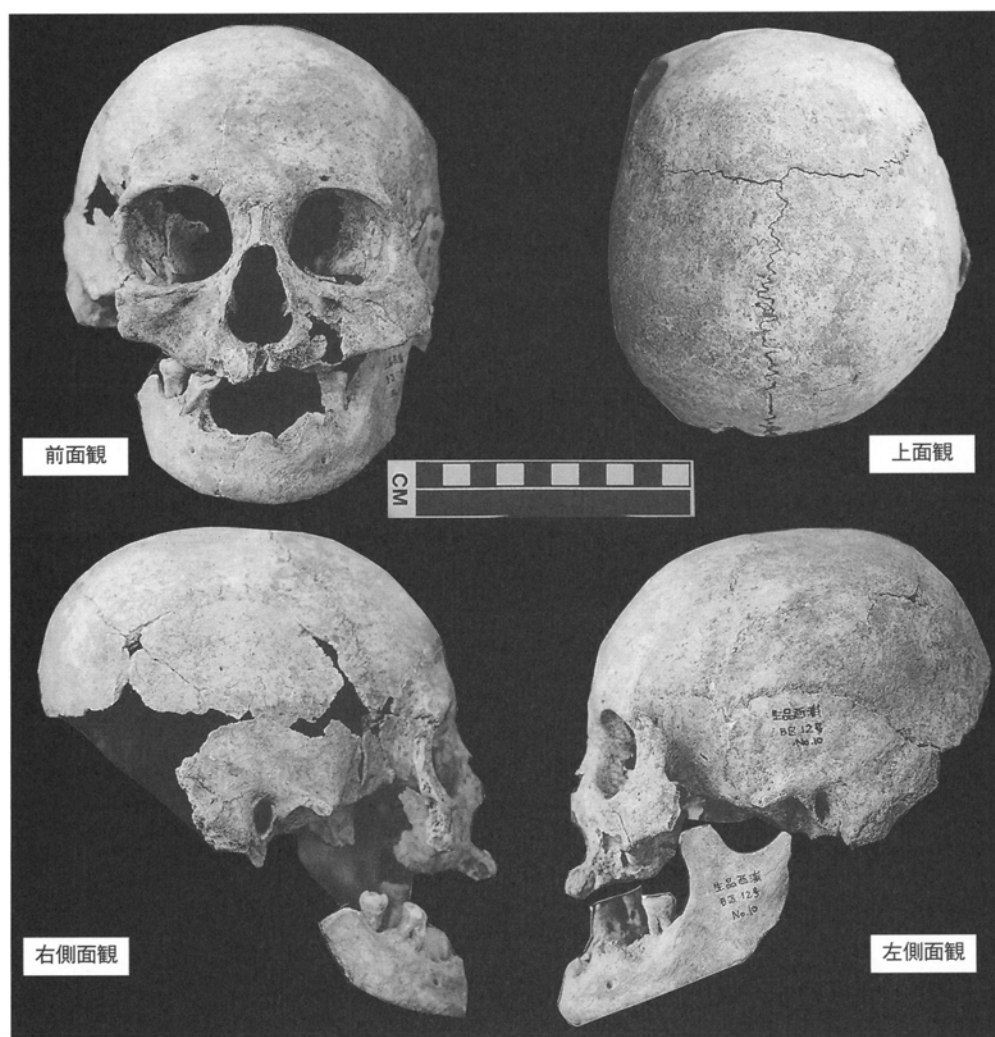


図8 生品西浦遺跡12号土坑出土人骨頭蓋骨

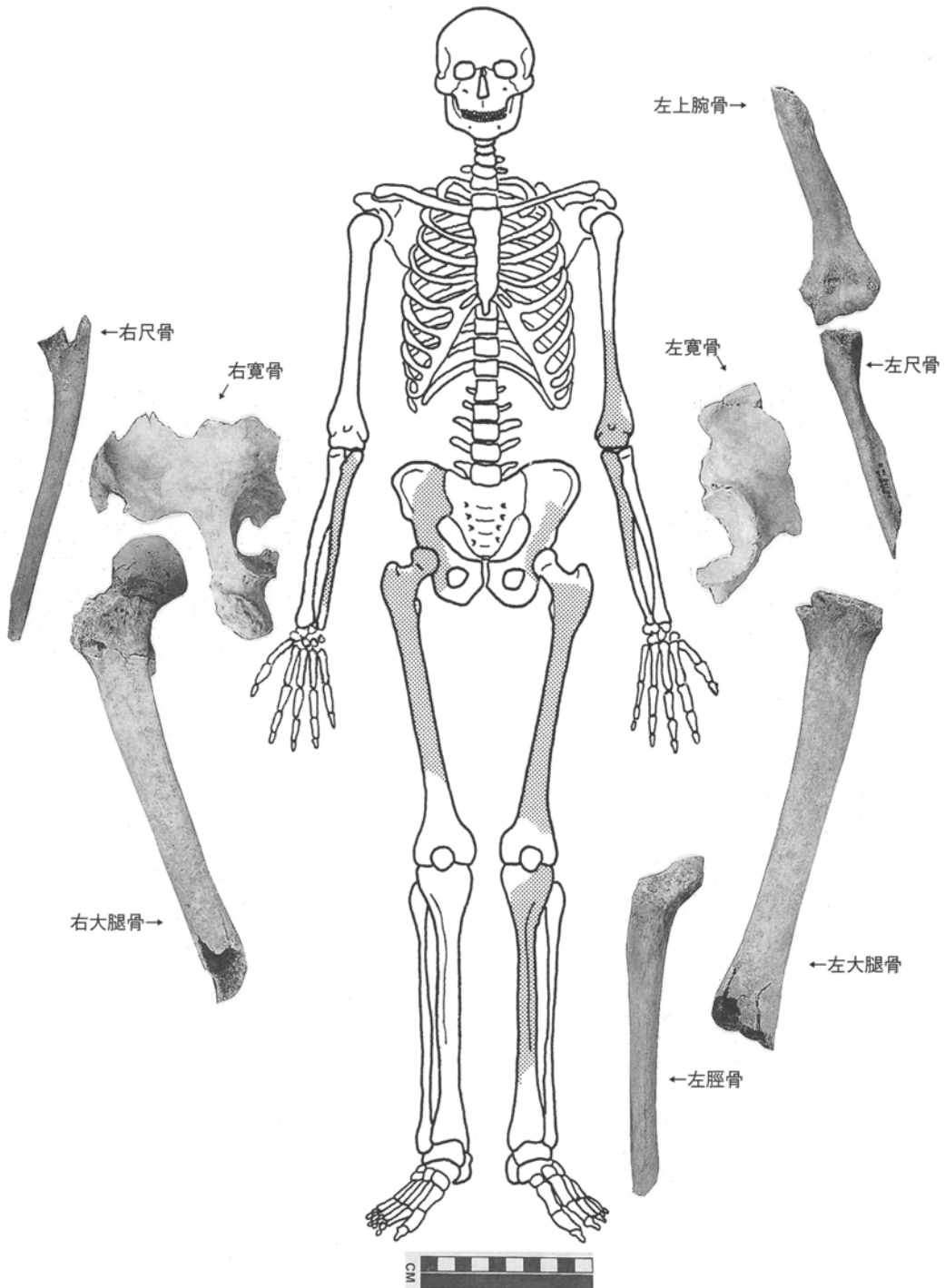


图9 生品西浦遺跡12号土坑出土人骨四肢骨

6.14号土坑出土人骨(2002年9月19日～24日出土)

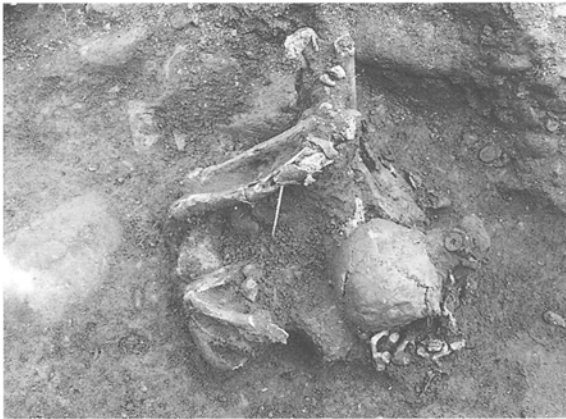


図10 生品西浦遺跡14号土坑出土人骨出土状況

(1) 人骨の出土部位

出土人骨の残存状態は、比較的良好である。頭蓋骨及び主に下肢骨が出土している。

(2) 副葬品

副葬品は、煙管・火打石・銭貨9点・鉄製の釘2点が出土している。

(3) 被葬者の頭位・埋葬状態

被葬者の頭位は、不明である。埋葬状態は、出土人骨の出土状況から、座葬であると推定される。鉄製の釘が出土していることから、木棺に埋葬したと推定される。

(4) 被葬者の個体数

出土人骨には重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体であると推定される。

(5) 被葬者の性別

頭蓋骨を観察すると、前頭結節及び後頭結節が認められる。また、眉弓は発達しておらず眼窩上縁も鋭い。さらに、四肢骨の大きさは小さく華奢である。左寛骨の大座骨切痕の角度は大きく、前耳状面溝が認められる。以上を総合して、被葬者の性別は女性であると推定される。なお、前耳状面溝は、子供の妊娠あるいは出産に関連すると推定されているので、被葬者は経産婦であった可能性が高い。

(6) 被葬者の死亡年齢

出土人骨の上下顎を観察すると、すべての歯が生前に脱落した状態であり、歯槽が閉鎖した無歯顎で

ある。また、頭蓋骨の主要縫合である、冠状縫合・矢状縫合・ラムダ（人字）縫合を観察すると、冠状縫合及び矢状縫合は、内板及び外板共に癒合して閉鎖した状態である。ラムダ（人字）縫合は、内板はほぼ癒合して閉鎖しなかった状態で、外板は痕跡的である。冠状縫合及び矢状縫合が閉鎖する年齢は、約50歳～60歳とされている。したがって、被葬者の死亡年齢は老齢であると推定される。

(7) 出土人骨の頭蓋骨の形態

出土頭蓋骨の頭型は、短頭である。通常、近世人骨の場合、男性は長頭に近い中頭型であり、女性は短頭に近い中頭型が多い。その点で、本被葬者は女性人骨としては、進歩的（現代的）である。

(8) 被葬者の生前の身長

右脛骨を観察すると、上端部は破損しているものの、最大長を計測すると、280mmであった。この計測値から、藤井(1960)の式で被葬者の生前の身長を推定すると約139cmとなった。ただ、上端部が破損しているので、復元して、最大長が285mmと290mmの場合を想定すると、被葬者の身長は、それぞれ約141cmと約142cmになる。北里大学の平本嘉助による江戸時代人骨の右大腿骨を使用した研究では、江戸時代人男性の平均身長は157.1cm [最大167.2cm、最小147.2cm] であり、女性の平均身長は145.6cm [最大157.1cm、最小137.6cm] である（平本、1972）。本被葬者は、不確実ではあるが、江戸時代人女性としては、小柄であったと推定される。

(9) 出土人骨の出自

頭蓋骨の非計測的形質を観察すると、眼窩上孔が認められ、舌下神経管二分は認められなかった。したがって、本被葬者は渡来系であると推定される。

(10) 被葬者の古病理

①腰椎の癒合

出土脊椎骨を観察すると、第4及び第5腰椎が癒合していた。これは、老年性変化として、腰が曲がりあまり動かすことがなかったために癒合したものと推定される。しかしながら、第5腰椎と仙骨との癒合は認められなかった。

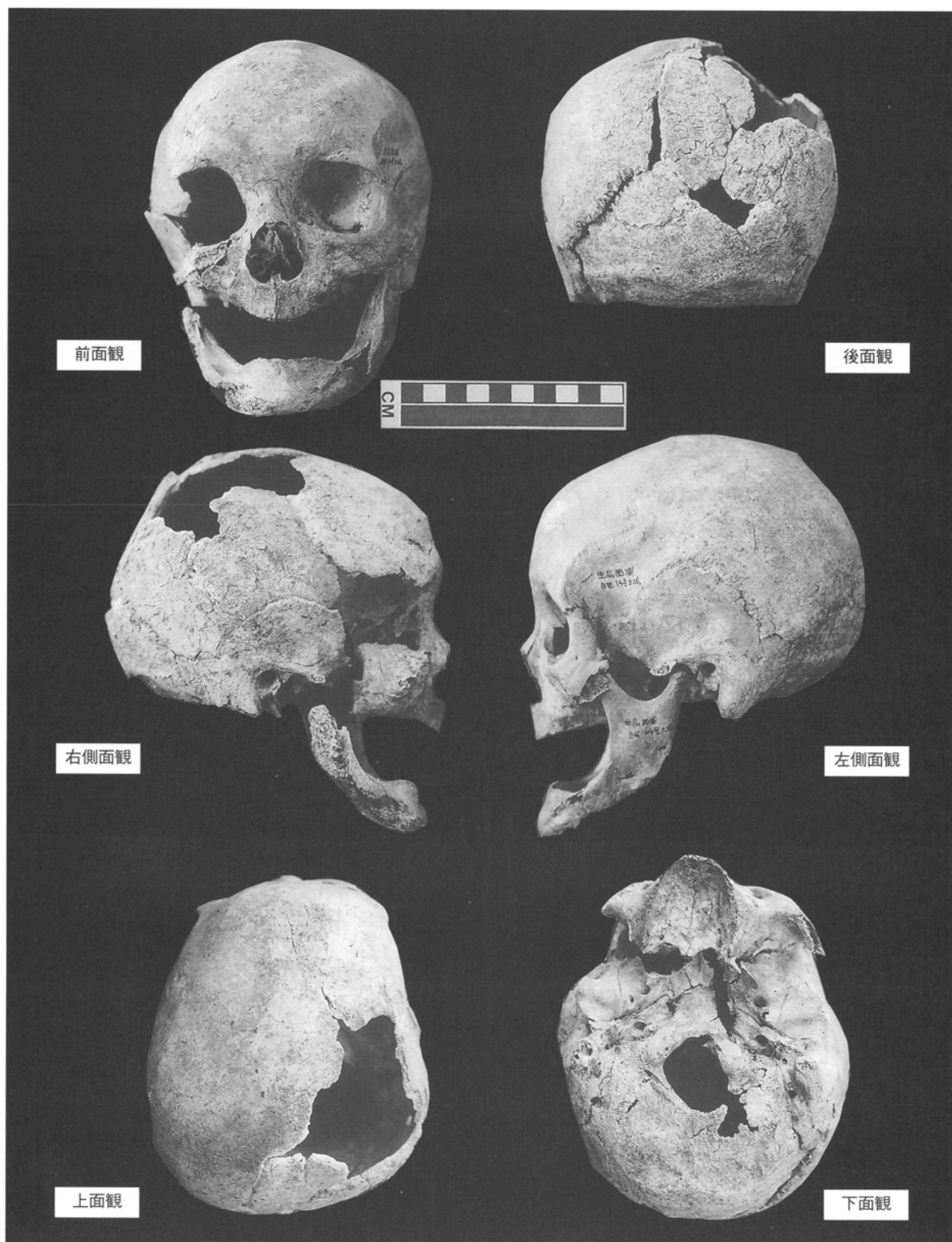


图11 生品西浦遺跡14号土坑出土人骨頭蓋骨

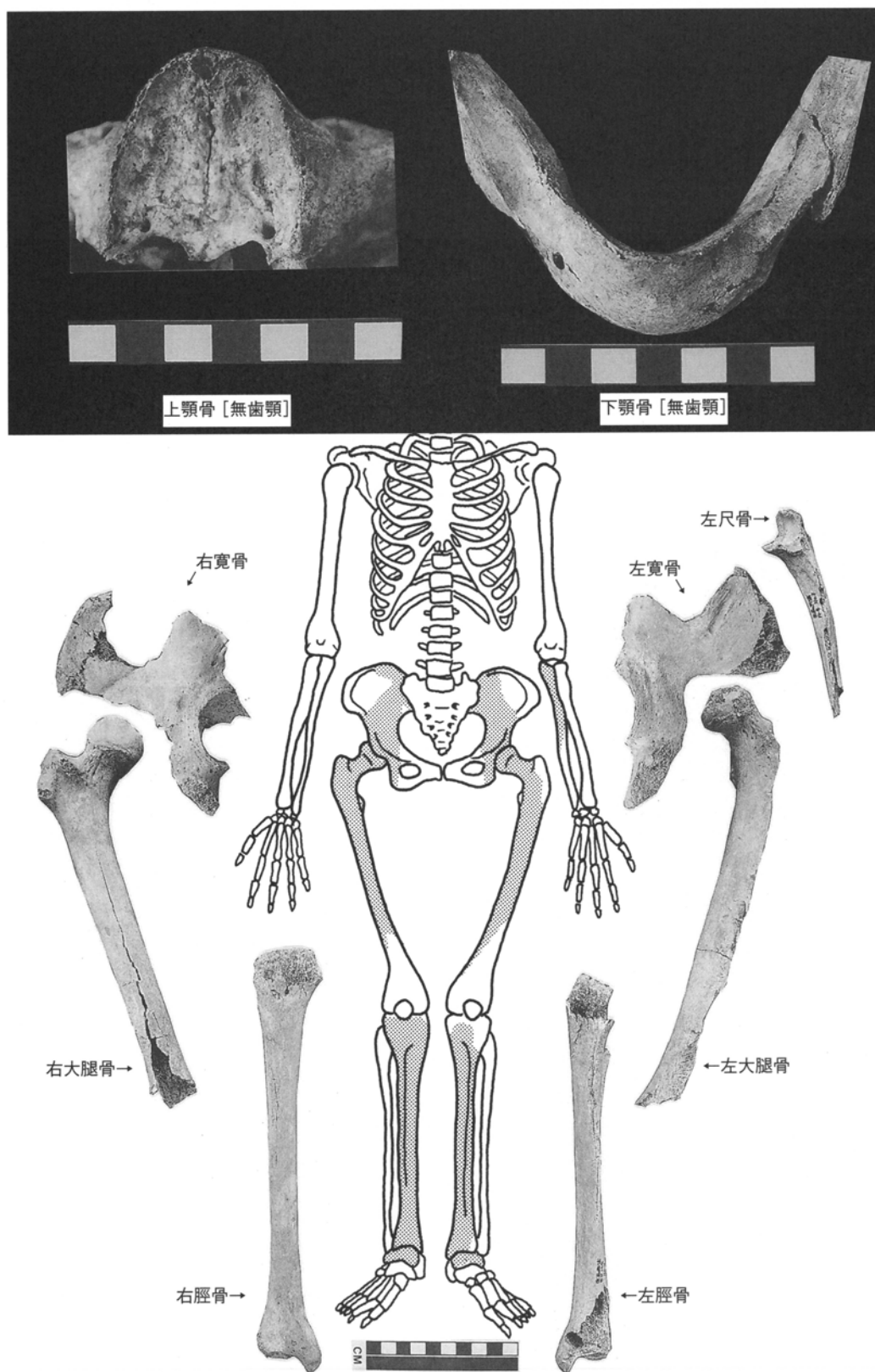


図12 生品西浦遺跡14号土坑出土人骨四肢骨

②棘形成（リップング）

出土脊椎骨を観察すると、脊椎骨の椎体部に棘形

成（リップング）が認められた。これは、加齢に伴う現象と推定されている。

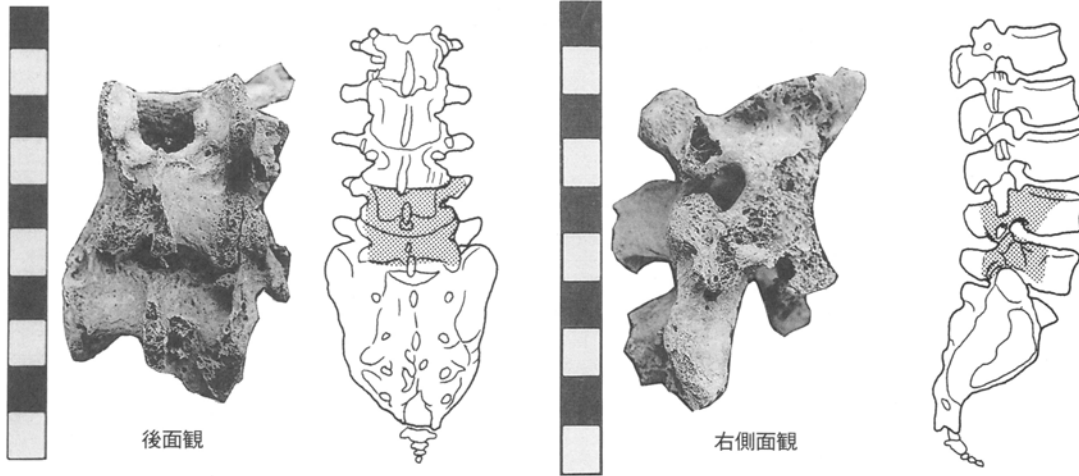


図13 生品西浦遺跡14号土坑出土人骨脊椎骨〔第4・5腰椎〕の古病理〔癒合〕

7.15号土坑出土人骨(2002年9月9日～24日出土)



図14 生品西浦遺跡15号土坑出土人骨出土状況

(1) 人骨の出土部位

人骨の残存状態は、比較的良好である。人骨の出土部位は、ほぼ全身に及ぶ。

(2) 副葬品

副葬品は、瀬戸美濃陶器の碗2点・煙管・火打金・古銭5点・鉄製の釘6点が出土している。

(3) 被葬者の頭位・埋葬状態

被葬者の頭位は、不明である。埋葬状態は、出土人骨の出土状況から、座葬であると推定される。鉄製の釘が出土していることから、木棺に埋葬したと推定される。

(4) 被葬者の个体数

出土人骨には重複部位が認められないため、被葬者の个体数は1个体であると推定される。

(5) 被葬者の性別

頭蓋骨を観察すると、眉弓が発達し、乳様突起も良く発達している。また、四肢骨も大きく頑丈である。さらに、左右寛骨の大座骨切痕の角度が小さいため、被葬者の性別は男性であると推定される。

(6) 被葬者の死亡年齢

頭蓋骨は破損しているが、残存部位で頭蓋縫合を観察すると、矢状縫合及びラムダ（人字）縫合は、内板が癒合して閉鎖しており、外板は肉眼で観察できる状態である。歯の咬耗度を観察すると、上下顎の切歯・犬歯・小白歯は象牙質が線状あるいは点状に露出するマルティンの2度の状態である。ところが、上顎大臼歯は、エナメル質がほとんど見られず象牙質が面状に露出する状態である。下顎大臼歯は、出土していない。しかしながら、この上顎大臼歯の咬耗は、異常磨耗であると推定される。恐らく、歯で皮革をなめしたり、樹皮をしごいて繊維にする作業を行ったと推定される。従って、上顎大臼歯の咬耗度から死亡年齢の推定をするには危険性が

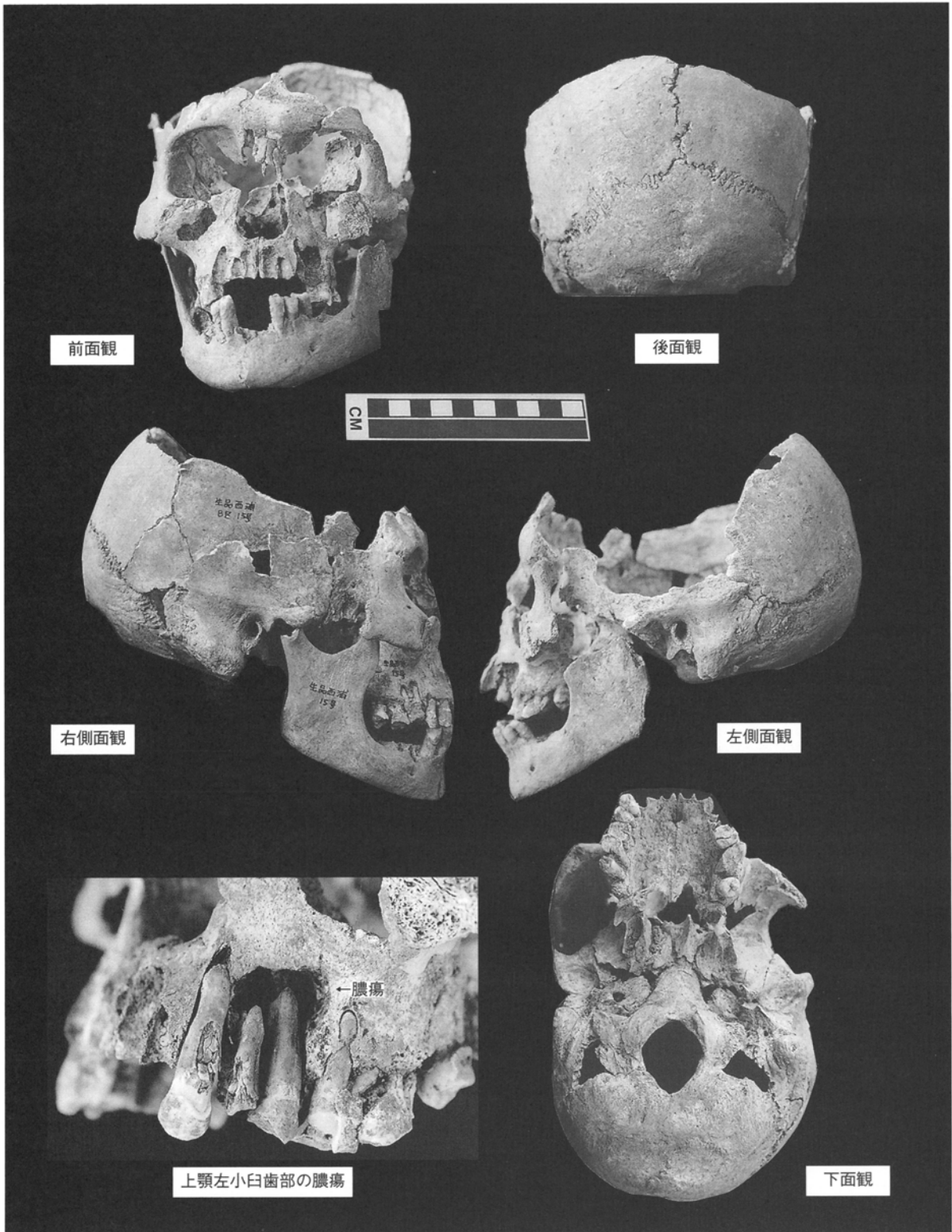


図15 生品西浦遺跡15号土坑出土人骨頭蓋骨

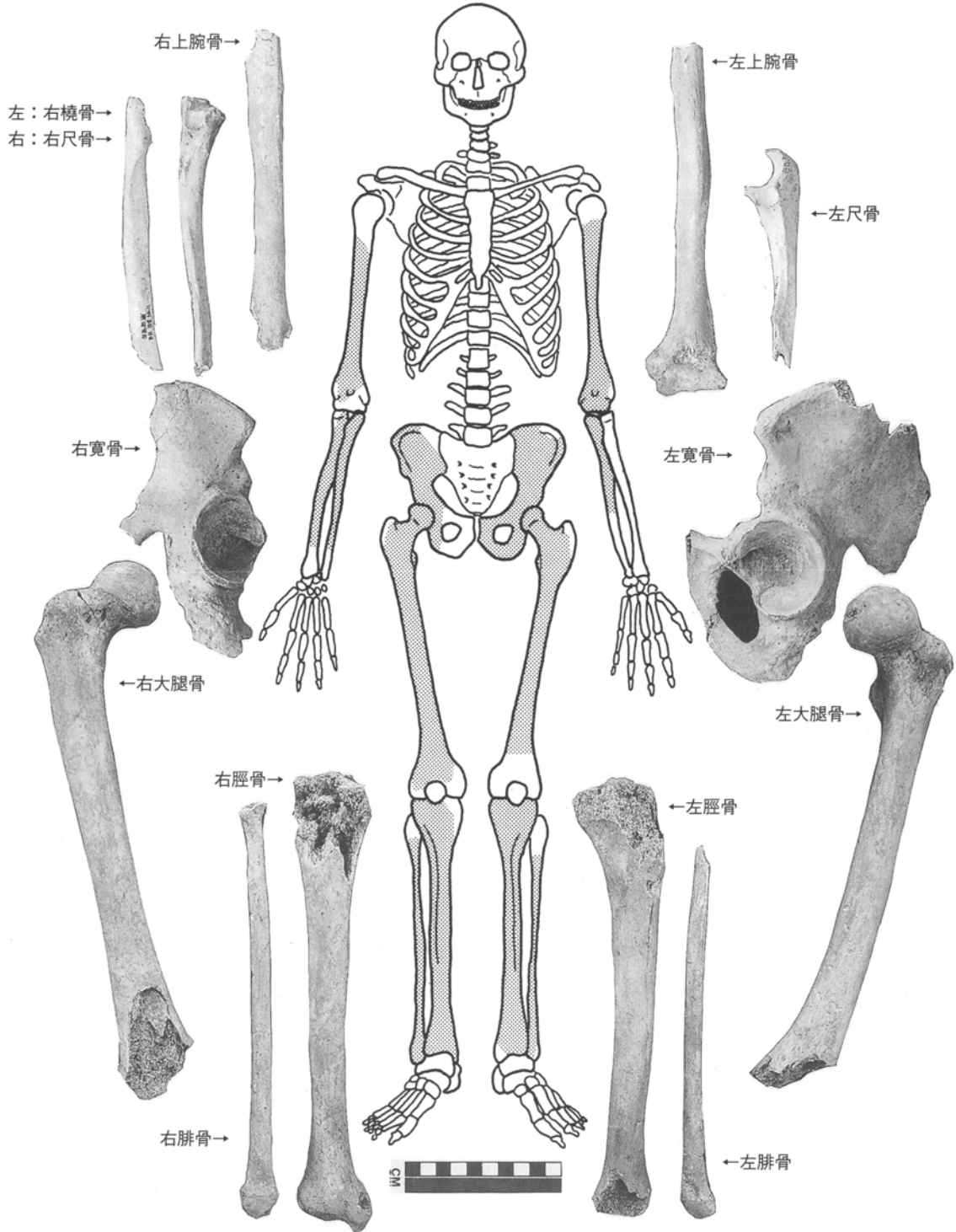


图16 生品西浦遺跡15号土坑出土人骨四肢骨

第5章 自然科学分析と鑑定

ある。総合的に、被葬者の死亡年齢は約40歳代であると推定される。

(7) 出土人骨の形態

頭蓋骨

頭頂部は破損しており、頭型を確定することはできないが、恐らく、中頭であると推定される。これは、近世男性人骨としては典型的である。

(8) 出土人骨の出自

頭蓋骨の非計測的形質を観察すると、眼窩上孔が認められ、舌下神経管二分が認められないので、本被葬者は渡来系であると推定される。

(9) 被葬者の古病理

①歯石：出土歯のすべてに、歯石の付着あるいは付着していた痕跡が認められた。

②齲蝕（虫歯）：遊離歯となっており、しかも、歯冠が齲蝕により完全に崩壊しているため、歯種の特異性は困難であるが、恐らく、上顎左第1小臼歯と下顎右第2か第3大臼歯が齲蝕に罹患していたと推定される。

③膿瘍：上顎左第1小臼歯及び第2小臼歯部は、膿瘍により、顎骨が溶解している状態である。

④関節症：右第3中手骨の頭部には、関節症による骨増殖が認められた。これは、何らかの理由でひどい突き指をした際の怪我が原因とも推定される。



図17 生品西浦遺跡15号土坑出土右第3中手骨の古病理
左から、掌側面観・内側面観・出土部位図（右手）

8. 16号土坑出土人骨（2002年9月12日出土）

(1) 人骨の出土部位

人骨の残存状態は非常に悪い。わずかに、左側頭骨片・骨片・遊離歯が出土している。

(2) 副葬品

副葬品は、銭貨11点が出土している。

(3) 被葬者の頭位・埋葬状態

出土人骨の残存状態が非常に悪いため、被葬者の頭位及び埋葬状態は不明である。

(4) 被葬者の個体数

出土人骨の残存状態は非常に悪いが、出土人骨に

は重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体であると推定される。

(5) 被葬者の性別

被葬者は、恐らく、未成年であると推定されるので、被葬者の性別は不明である。

(6) 被葬者の死亡年齢

左側頭骨を観察すると、成人にしては、椎体部が小さく華奢である。従って、被葬者の死亡年齢は未成年である可能性が高い。このことは、同土坑の大きさが小さいことから裏付けられる。

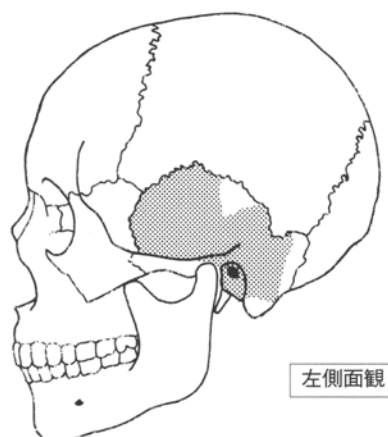
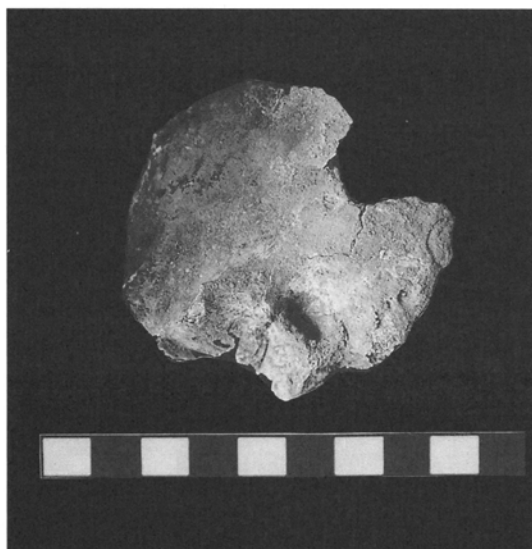


図18 生品西浦遺跡16号土坑出土人骨頭蓋骨 [右側頭骨] (左) 及び出土部位図 (右)

9. 17号土坑出土人骨 (2002年9月9日～12日出土)



図19 生品西浦遺跡17号土坑出土人骨出土状況

(1) 人骨の出土部位

人骨の残存状態は、比較的良好である。頭蓋骨及び主に下肢骨が出土している。

(2) 副葬品

副葬品は、煙管・火打金・銭貨7点が出土している。

(3) 被葬者の頭位・埋葬状態

被葬者の頭位は不明である。埋葬状態は、出土人骨の出土状況より、恐らく座葬であると推定される。

(4) 被葬者の個体数

出土人骨には重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体であると推定される。

(5) 被葬者の性別

頭蓋骨を観察すると、眉弓及び乳様突起が発達している。また、四肢骨も大きく頑丈である。さらに、左寛骨の大座骨切痕の角度が小さいため、被葬者の性別は男性であると推定される。

(6) 被葬者の死亡年齢

頭蓋骨の主要縫合である、冠状縫合・矢状縫合・ラムダ(人字)縫合を観察すると、内板は癒合して閉鎖しており、外板はほとんどが癒合して痕跡的である。また、下顎骨を観察すると、一部破損しているが、左右犬歯及び左右第1小白歯以外の歯は生前脱落で歯槽も吸収され閉鎖している状態である。上顎骨は破損しており、観察できないが、恐らく、下顎骨同様に、無歯顎の状態であったと推定される。したがって、総合的に、被葬者の死亡年齢は老齢である可能性が高い。

(7) 出土人骨の形態

頭蓋骨

頭長幅示数は、74.2と長頭である。通常、近世出土人骨は長頭に近い中頭である場合が多く、その点で珍しいと言える。

(8) 出土人骨の出自

頭蓋骨の非計測的形質を観察すると、眼窩上孔が認められなかった。また、舌下神経管二分も認めら

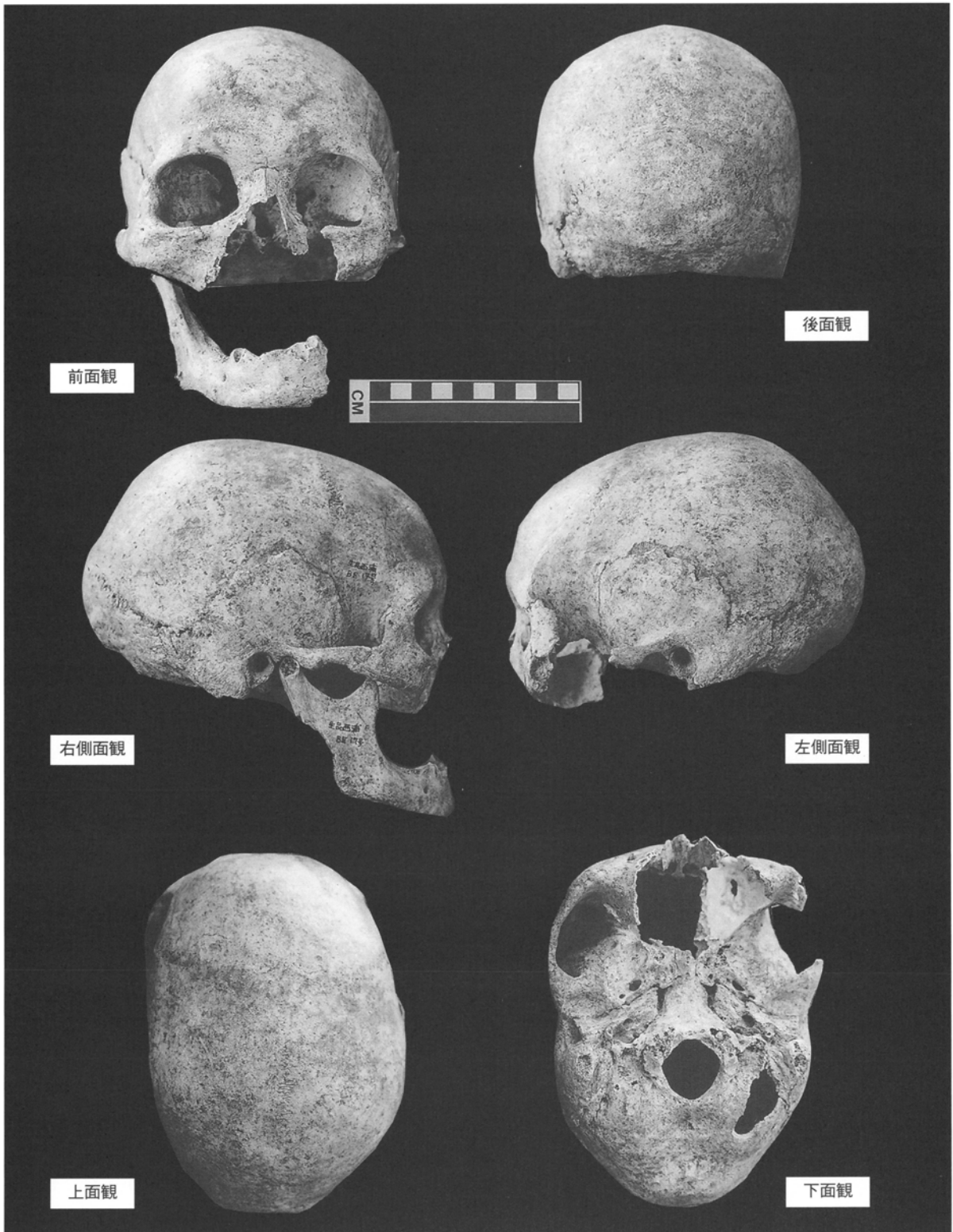


図20 生品西浦遺跡17号土坑出土人骨頭蓋骨

4. 生品西浦遺跡出土人骨

れなかった。従って、在来系か渡来系かの判別はどちらとも言えず、中間的である。しかしながら、本

個体は長頭型を有するので、恐らく、在来系に近い形質を有しているであろう。



図21 生品西浦遺跡17号土坑出土人骨四肢骨

10.18号土坑出土人骨(2002年9月10日～19日出土)



図22 生品西浦遺跡18号土坑出土人骨出土状況

(1) 人骨の出土部位

人骨の残存状態は悪い。頭蓋骨片及び下肢骨片が出土している。

(2) 副葬品

煙管・火打金・銭貨12点・鉄製釘4点が出土している。

(3) 被葬者の頭位・埋葬状態

被葬者の頭位は、不明である。埋葬状態は、出土人骨の出土状況より、座葬であると推定される。鉄製の釘が出土していることから、木棺に埋葬されたと推定される。

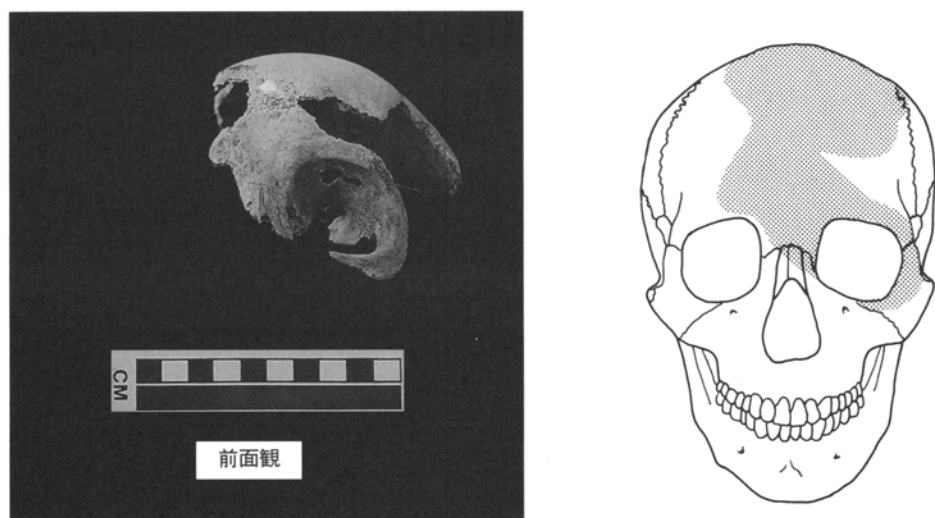


図23 生品西浦遺跡18号土坑出土人骨頭蓋骨及び出土部位図

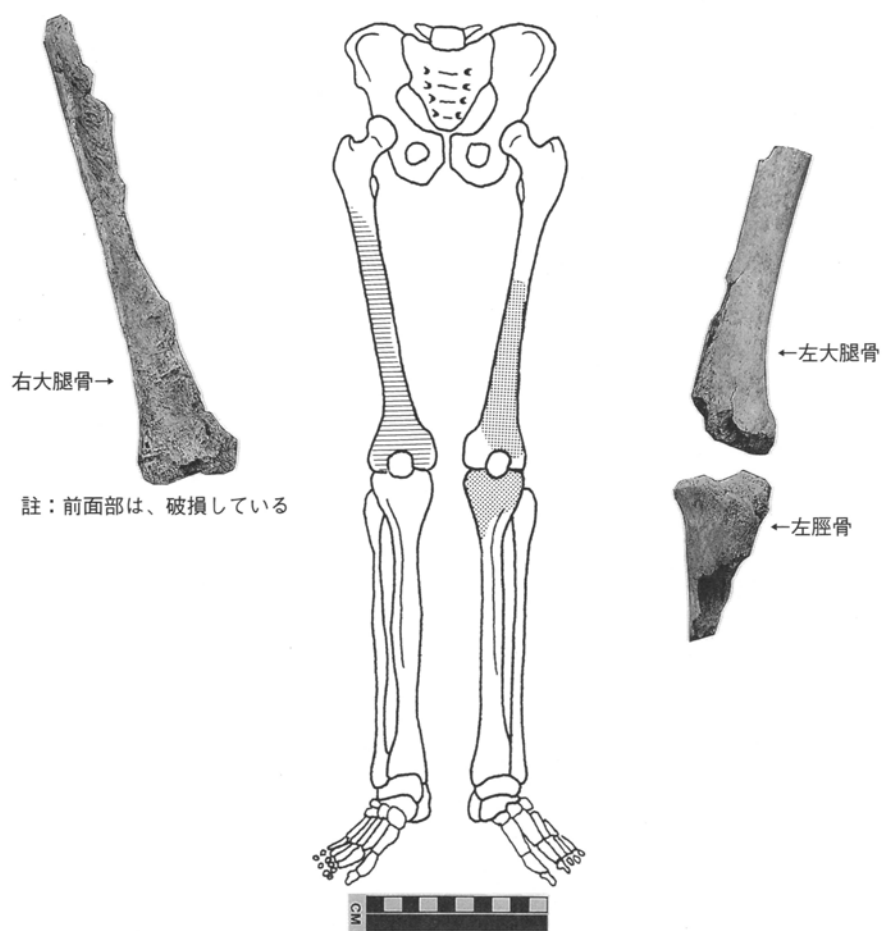


図24 生品西浦遺跡18号土坑出土人骨四肢骨

4. 生品西浦遺跡出土人骨

(4) 被葬者の個体数

出土人骨には重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体であると推定される。

(5) 被葬者の性別

頭蓋骨を観察すると、眉弓が発達し、眼窩上縁も鋭角的ではなく円みを帯びている。また、四肢骨も比較的大きく頑丈である。以上を総合して、被葬者の性別は男性であると推定される。

(6) 被葬者の死亡年齢

頭蓋骨の主要縫合である、冠状縫合及び矢状縫合を観察すると、内板及び外板共に癒合しており、閉鎖した状態である。また、眼窩部縫合の内、蝶前頭縫合は、癒合している。一方、わずかに残存している

出土歯を観察すると、犬歯は象牙質が点状に露出しているものの下顎大臼歯は象牙質が面状に露出している状態である。これは、犬歯の場合、歯のほとんどが生前脱落をし、咬合しなくなったために咬耗が進まなかったと推定すると矛盾しない。したがって、総合的に、被葬者の死亡年齢は約50歳代であると推定される。老齢個体である。

(7) 被葬者の古病理

右手のいわゆる中指の、第3基節骨と第2中節骨は癒合している。これは、恐らく、関節炎あるいは慢性関節リウマチにより、癒合を起こしたものと推定される。生前、この右手中指は約90度の角度を成して固定されており、不自由であったと推定される。



図25 生品西浦遺跡18号土坑出土第3基節骨と第2中節骨の古病理〔リウマチか関節炎による癒合〕と出土部位図
左から、内側面観・背側面観・外側面観

11.19号土坑出土人骨(2002年9月9日～18日出土)

(1) 人骨の出土部位

人骨の残存状態は、悪い。頭蓋骨片及び四肢骨片が出土しているのみである。

(2) 副葬品

煙管及び鉄製の釘5点が出土している。

(3) 被葬者の頭位・埋葬状態

被葬者の頭位は、不明である。埋葬状態は、出土人骨の出土状況より、座葬であると推定される。鉄製の釘が出土していることから、木棺に埋葬されたと推定される。

(4) 被葬者の個体数

出土人骨には重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体であると推定される。

(5) 被葬者の性別

頭蓋骨を観察すると、眉弓の発達とは認められず、頭蓋骨の厚さも薄い。歯は1本も出土しておらず、四肢骨もほとんど出土していないので被葬者の性別推定は困難である。しかしながら、頭蓋骨の観察から、被葬者の性別は、女性である可能性が高い。

(6) 被葬者の死亡年齢

頭蓋骨の主要縫合である、冠状縫合・矢状縫合・ラムダ（人字）縫合を観察すると、内板は3縫合共に癒合して閉鎖している状態である。また、外板は3縫合共に、ほとんどが癒合して痕跡的である。さらに、下顎骨を観察すると、一部破損しているが、ほとんどの歯は生前脱落で歯槽も吸収され閉鎖している無歯顎の状態である。上顎骨は破損しており、観察できないが、恐らく、下顎骨同様に、無歯顎の状態であったと推定される。したがって、総合的に、被葬者の死亡年齢は老齢である可能性が高い。

(7) 出土人骨の形態

頭蓋骨

頭蓋骨が一部破損しているために、正確な計測は不可能であるが、間違いなく、頭長幅示数は長頭であると推定される。通常、近世出土人骨は長頭に近い中頭である場合が多く、近世人骨としては珍しい。

(8) 出土人骨の出自

頭蓋骨の非計測的形質を観察すると、眼窩上孔が認められ、左側に舌下神経管二分が認められた。従って、在来系か渡来系かの判別はどちらとも言えず、中間的である。しかしながら、本個体は長頭型を有するので、恐らく、在来系に近い形質を有していると推定される。

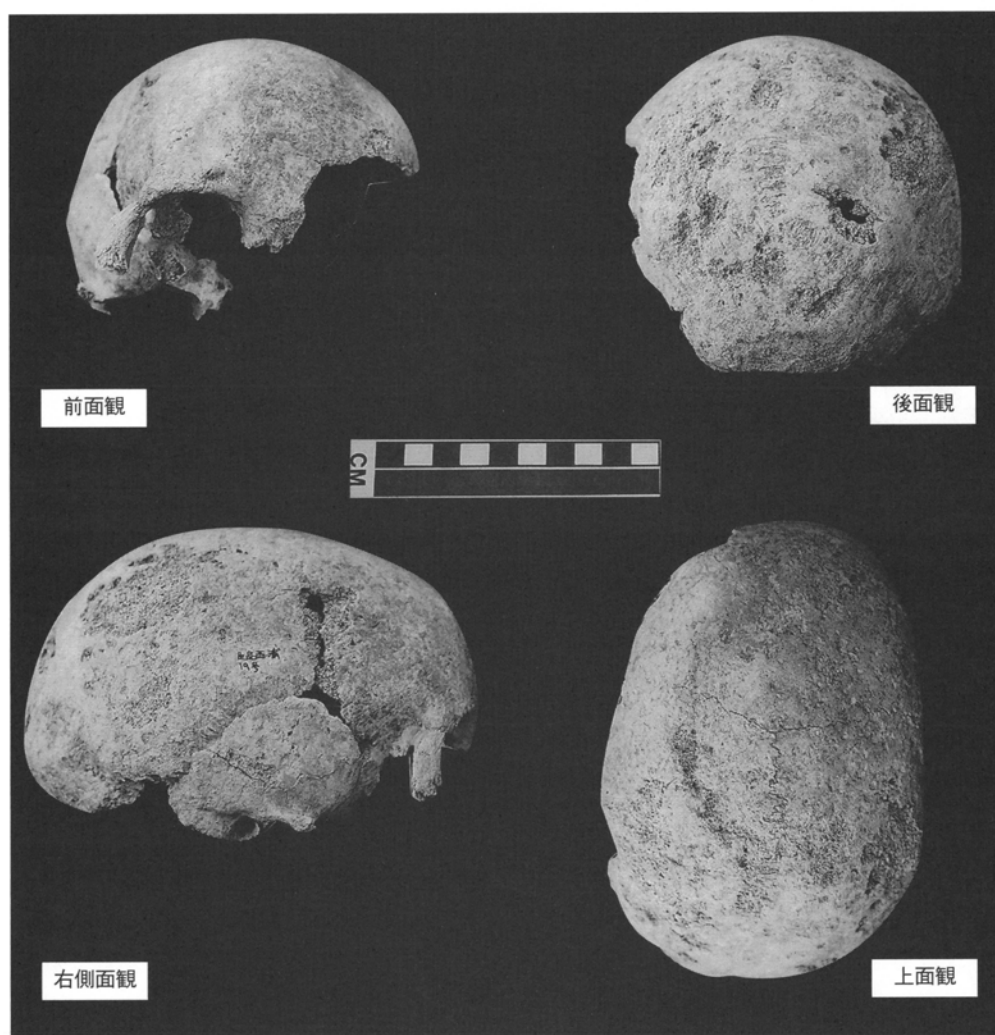


図26 生品西浦遺跡19号土坑出土人骨頭蓋骨

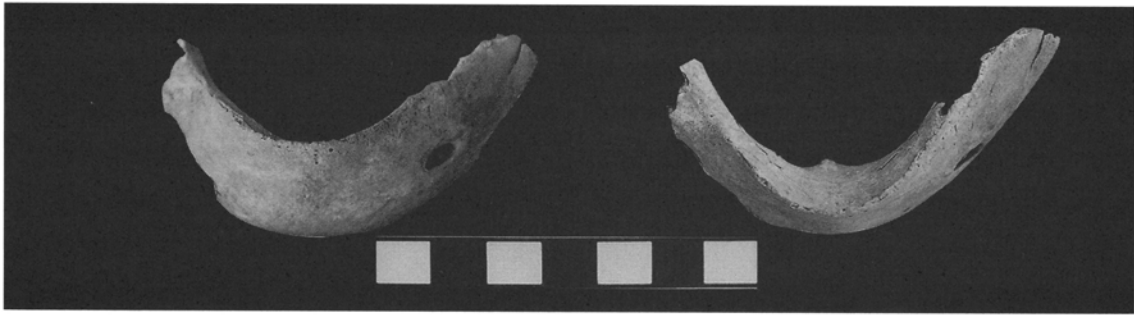


図27 生品西浦遺跡19号土坑出土人骨下顎骨〔無歯顎〕(左：前面観、右：上面観)

12. 20号土坑出土人骨(2002年9月10日～12日出土)

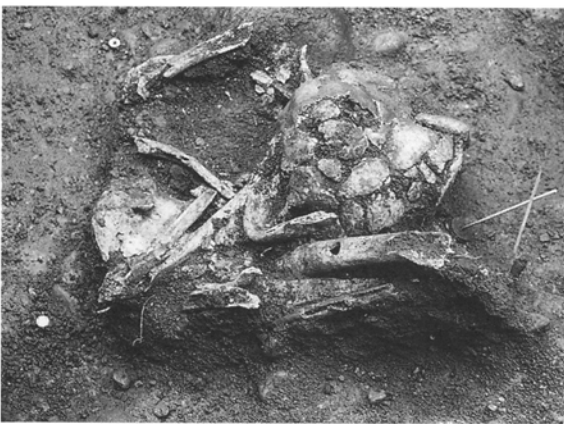


図28 生品西浦遺跡20号土坑出土人骨出土状況

(1) 人骨の出土部位

人骨の残存状態は、比較的良好である。頭蓋骨及び四肢骨の内、主に下肢骨が出土している。

(2) 副葬品

副葬品は、煙管・火打金・銭貨3点・鉄製の釘13点が出土している。

(3) 被葬者の頭位・埋葬状態

被葬者の頭位は、不明である。埋葬状態は、出土人骨の出土状況より、座葬であると推定される。鉄製の釘が出土していることから、木棺に埋葬されたと推定される。

(4) 被葬者の個体数

出土人骨には重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体であると推定される。

(5) 被葬者の性別

頭蓋骨を観察すると、眉弓の発達は認められず、眼窩上縁も鋭角的である。また、四肢骨の大きさも

小さく、華奢である。さらに、右寛骨の大座骨切痕部は角度が大きく、前耳状面溝が認められる。以上を総合して、被葬者の性別は女性であると推定される。なお、前耳状面溝は、子供の妊娠あるいは出産に関連すると推定されているので、被葬者は経産婦であった可能性が高い。

(6) 被葬者の死亡年齢

頭蓋骨の主要縫合である、冠状縫合・矢状縫合・ラムダ(人字)縫合を観察すると、3縫合共に、内板及び外板が癒合しておらず開放の状態である。歯の咬耗度を観察すると、下顎切歯は、象牙質が線状に露出するマルティンの2度の状態である。また、下顎大臼歯の咬耗は、第1大臼歯は象牙質が点状に露出しているものの、第2大臼歯及び第3大臼歯はエナメル質のみにとどまっている状態である。さらに、眼窩内の蝶前頭縫合は癒合しておらず、上顎骨の切歯縫合は癒合して消失しているものの、正中口蓋縫合及び横口蓋縫合は癒合していない状態である。以上を総合して、被葬者の死亡年齢は約30歳代であると推定される。

(7) 出土人骨の形態

頭蓋骨

右頭頂部が一部破損しており、頭型を確定することはできないが、恐らく、短頭に近い中頭であると推定される。これは、近世女性人骨としては典型的である。

(8) 出土人骨の出自

頭蓋骨の非計測的形質を観察すると、眼窩上孔が

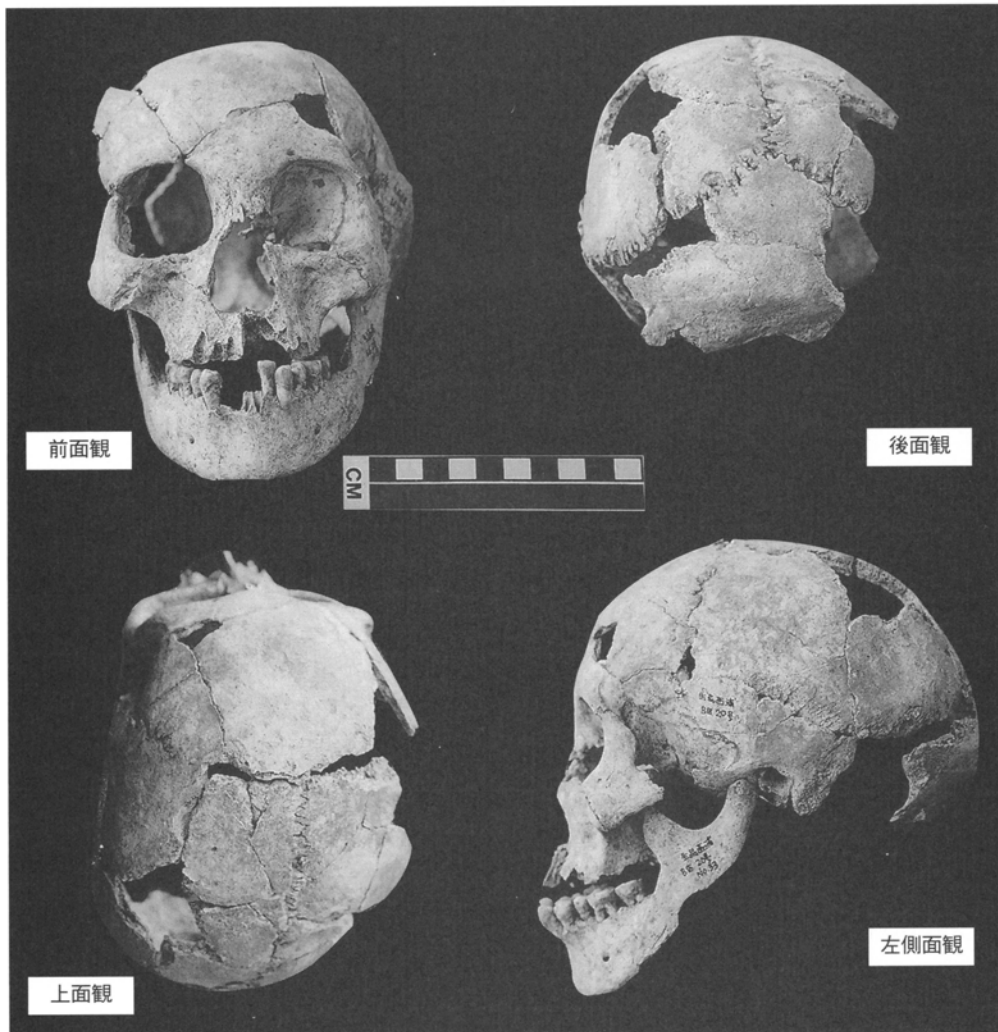


図29 生品西浦遺跡20号土坑出土人骨頭蓋骨

認められた。一方、舌下神経管二分は、破損のため観察できなかった。しかしながら、眼窩上孔が認められたため、被葬者は渡来系であると推定される。

(9) 被葬者の古病理

本被葬者の下肢骨である大腿骨・脛骨・腓骨に、骨膜炎と推定される古病理が認められた。まず、大腿骨では、左大腿骨は正常である。しかし、右大腿骨骨体部後面の粗線中央部に骨の異常増殖が認められた。次に、脛骨では、右脛骨骨体内側面に骨の樹皮状異常増殖が認められ同外側面の骨間縁に骨が盛り上がった異常増殖が認められた。また、左脛骨骨体内側面に骨の樹皮状異常増殖が認められ同外

側面の骨間縁に骨が盛り上がった異常増殖が認められた。さらに、右腓骨では、内側面に、骨が盛り上がった異常増殖が認められた。左腓骨は出土しておらず、確かめることはできないが、恐らく、左右の脛骨と腓骨は骨膜炎による骨の異常増殖でほとんど癒合に近い状態であったことが推定される。この骨膜炎は、細菌に感染したために、骨が炎症をおこした状態である。骨膜炎は、どこの骨にも出現するが、特に脛骨や腓骨によく出現することが知られている(鈴木、1998)。恐らく、生前は、歩行にも困難をきたしたであろうことが、容易に想像される。

4. 生品西浦遺跡出土人骨

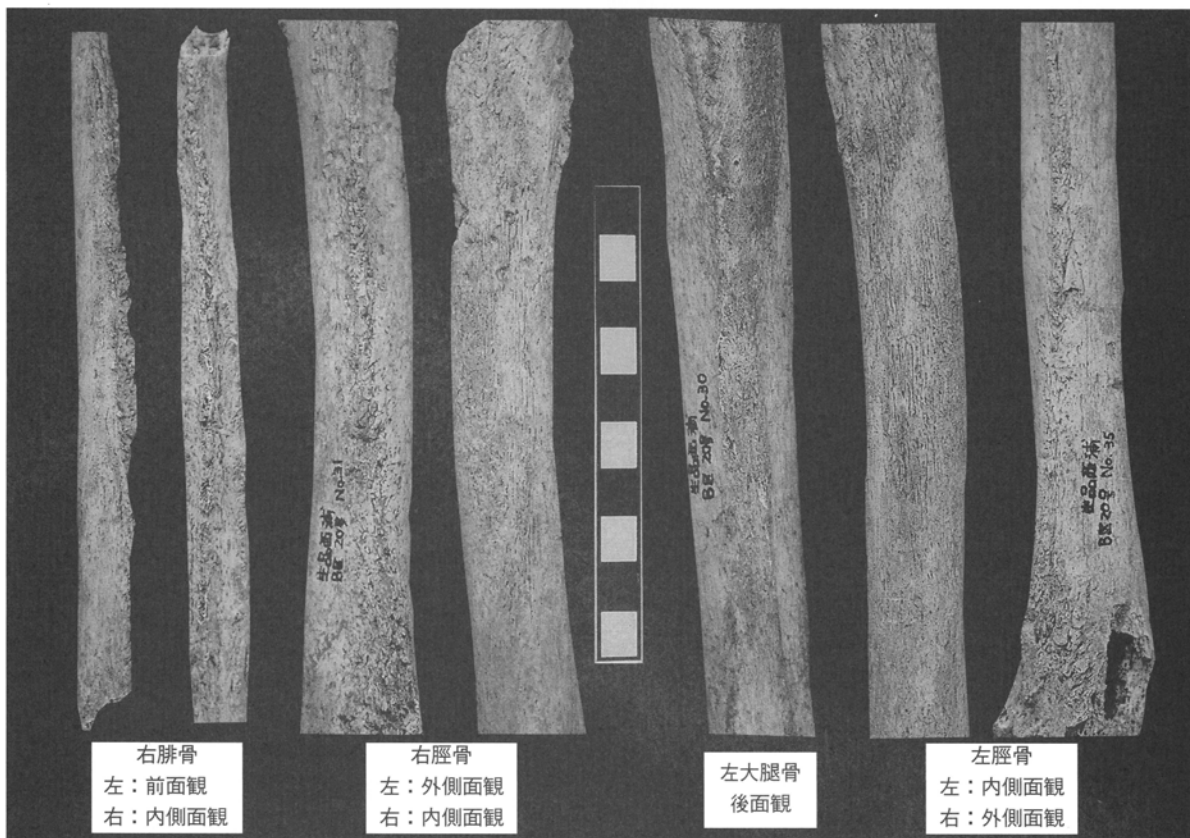
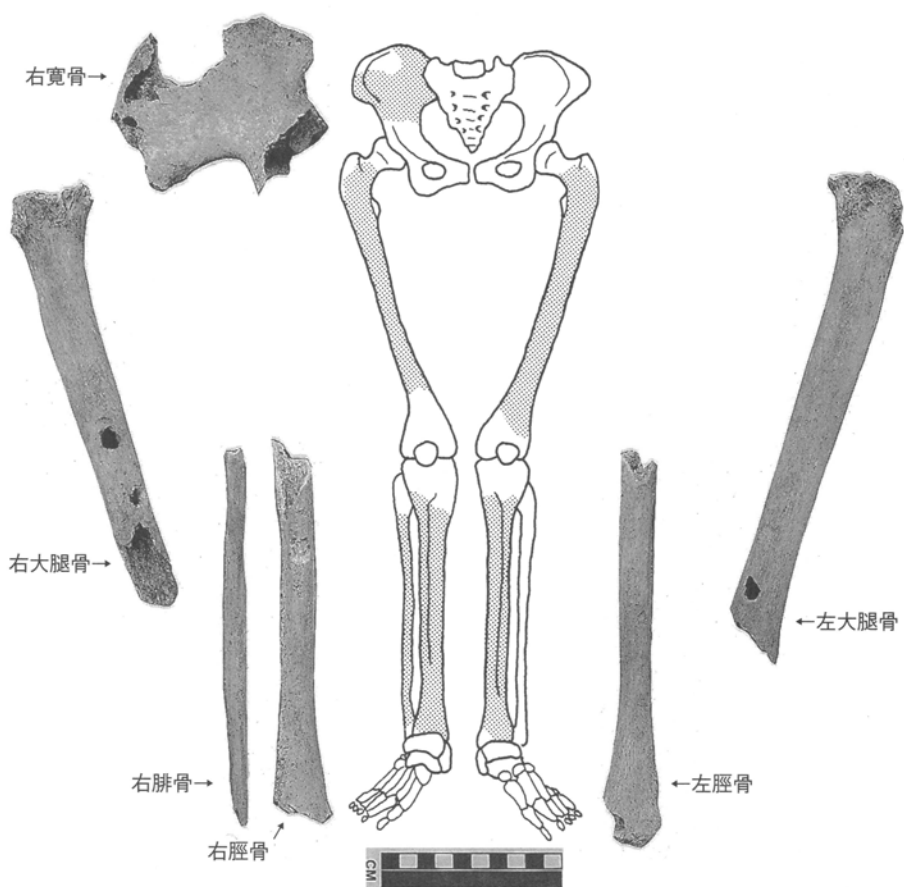


図30 生品西浦遺跡20号土坑出土人骨四肢骨（上）
及び四肢骨の古病理（下）〔骨膜炎〕

13. 21号土坑出土人骨(2002年9月18日出土)



図31 生品西浦遺跡21号土坑出土人骨出土状況

(1) 人骨の出土部位

人骨の残存状態は、非常に悪い。わずかに、右側頭骨及び左右大腿骨が出土している。

(2) 副葬品

副葬品は、煙管・銅製の吊金具・火打金・銭貨6点が出土している。

(3) 被葬者の頭位・埋葬状態

被葬者の頭位は、不明である。埋葬状態は、出土人骨の出土状況より、座葬であると推定される。

(4) 被葬者の個体数

出土人骨には重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体であると推定される。

(5) 被葬者の性別

右側頭骨を観察すると、大きさが小さく、乳様突起もあまり発達していない。さらに、左右大腿骨の大きさも小さく、華奢であるので、被葬者の性別は女性であると推定される。

(6) 被葬者の死亡年齢

出土人骨の残存状態が悪いため、被葬者の死亡年齢は成人であるとはしか推定できない。

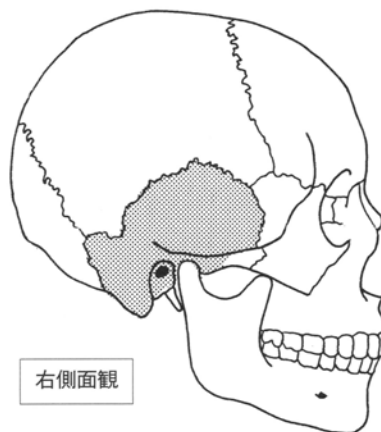
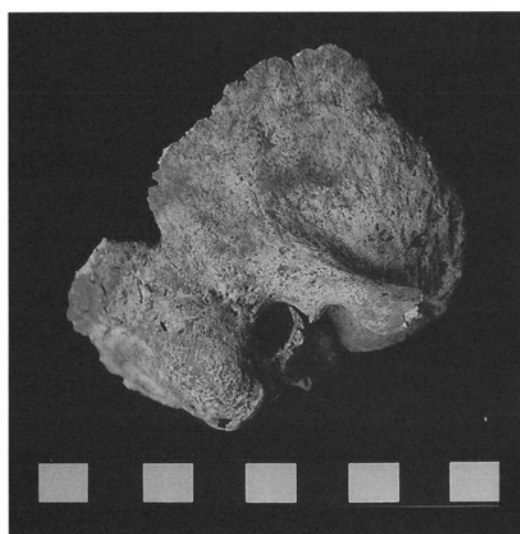


図32 生品西浦遺跡21号土坑出土人骨頭蓋骨 [右側頭骨]

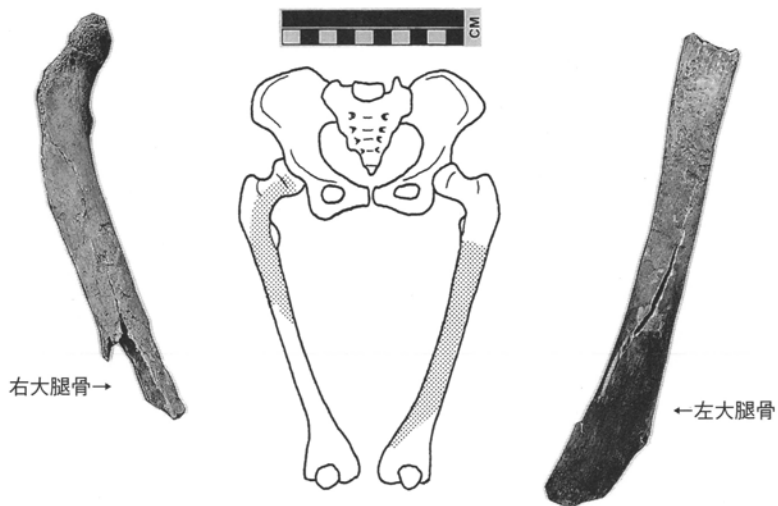


図33 生品西浦遺跡21号土坑出土人骨四肢骨

4. 22号土坑出土人骨(2002年9月18日～19日出土)



図34 生品西浦遺跡22号土坑出土人骨出土状況

(1) 人骨の出土部位

人骨の残存状態は、あまり良くない。頭蓋骨及び

四肢骨片が出土している。

(2) 副葬品

副葬品は、火打金・銭貨8点・鉄製の釘4点が出土している。

(3) 被葬者の頭位・埋葬状態

出土人骨の出土状況から、被葬者の頭位は、西側であり顔面部は東側を向いている。また、埋葬状態は左側を下にした側臥(横臥)屈葬であると推定される。鉄製の釘が出土しておりさらにその釘には木質が付着していることから、座棺ではなく、寝棺に埋葬されたと推定される。

(4) 被葬者の个体数

出土人骨には重複部位が認められないため、被葬

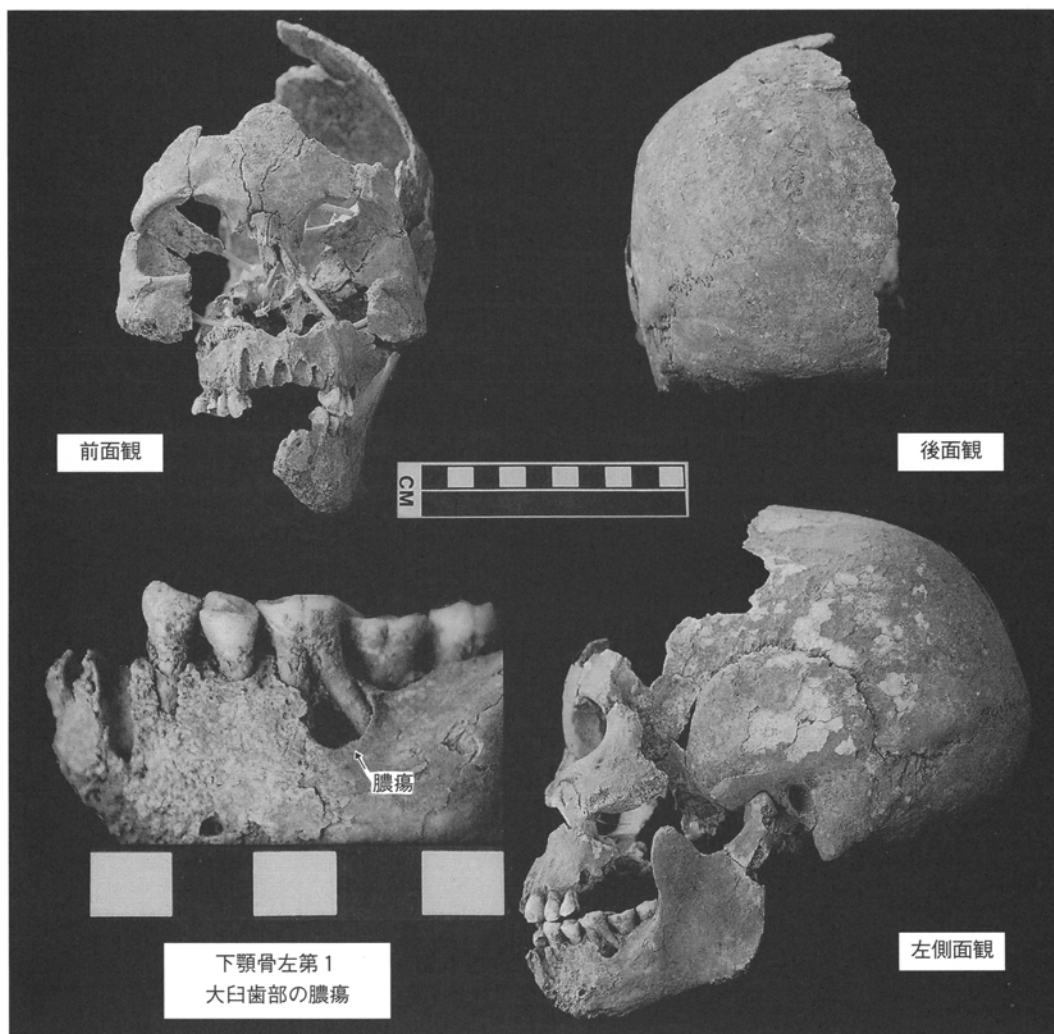


図35 生品西浦遺跡22号土坑出土人骨頭蓋骨

第5章 自然科学分析と鑑定

者の個体数は1個体であると推定される。

(5) 被葬者の性別

頭蓋骨を観察すると、眉弓・乳様突起・外後頭隆起が発達している。さらに、四肢骨も大きく頭丈であるので、被葬者の性別は男性であると推定される。

(6) 被葬者の死亡年齢

頭蓋骨は、頭頂部及び右側頭部が破損している。矢状縫合及びラムダ（人字）縫合を観察すると、内板はほぼ癒合して閉鎖している状態であり、外板も癒合しかかっている状態である。また、上顎骨では、切歯縫合は癒合しており、閉鎖している。なお、眼窩内の縫合は、まだ癒合していない。さらに、出土歯の咬耗状態を観察すると、上顎切歯は線状に象牙質が露出するマルティンの2度の状態であるが、上顎及び下顎大臼歯、特に第1及び第2大臼歯はエナメル質がほとんど咬耗によりなくなっており、象牙質が一面に露出しているマルティンの3度の状態である。これは、臼歯に関しては通常の咬耗ではな

く異常磨耗であり、咬耗が実際の年齢よりも早く進んでいる可能性が高い。恐らく、皮革をなめしたり樹皮をしごいて繊維にする作業を行ったことが推定される。以上を総合して、被葬者の死亡年齢は、約40歳代であると推定される。

(7) 出土人骨の形態

頭蓋骨

頭蓋骨は破損しており、頭型を確定することはできないが、恐らく、中頭であると推定される。これは、近世男性人骨としては典型的である。

(8) 出土人骨の出自

頭蓋骨の非計測的形質を観察すると、眼窩上孔が認められなかった。また、舌下神経管二分も認められなかった。従って、在来系か渡来系かの判別はどちらとも言えず、中間的である。

(9) 被葬者の古病理

下顎左第1大臼歯部は、膿瘍により、顎骨が溶解している状態である。

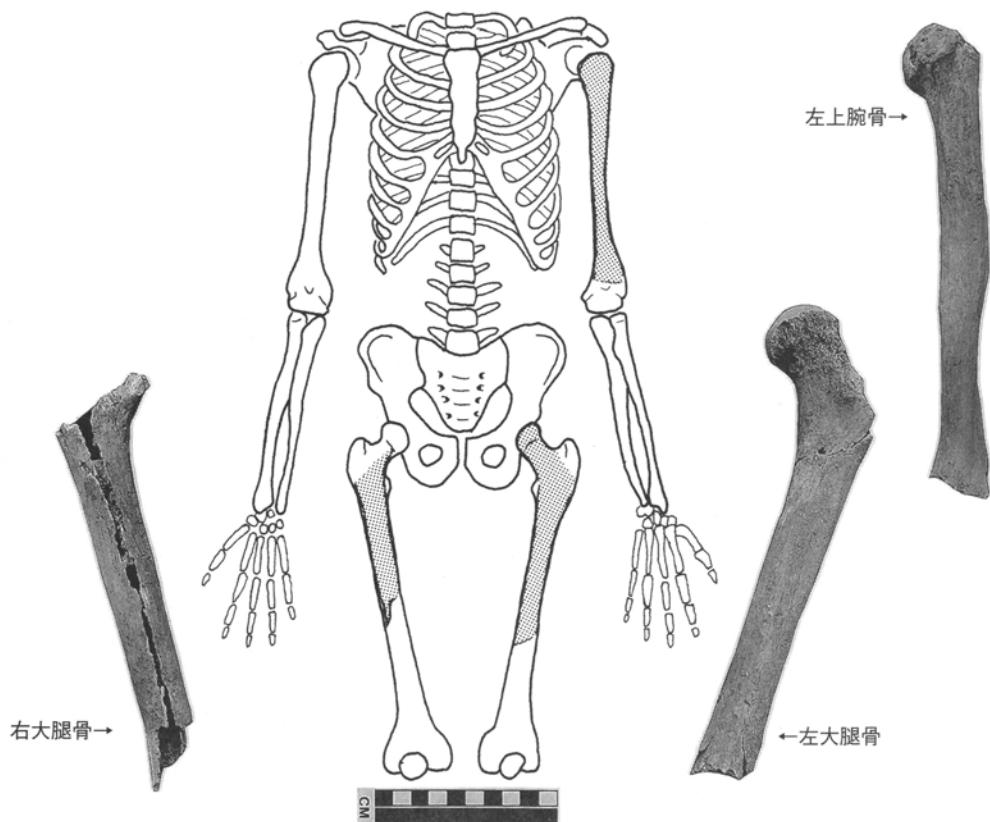


図36 生品西浦遺跡22号土坑出土人骨四肢骨

15. 23号土坑出土人骨(2002年9月10日～18日出土)



図37 生品西浦遺跡23号土坑出土人骨出土状況

(1) 人骨の出土部位

人骨の残存状態は、悪い。頭蓋骨及び四肢骨片が出土している。

(2) 副葬品

副葬品は、土製の人形2点・煙管・火打金2点・銭貨14点・鉄製の釘2点が出土している。

(3) 被葬者の頭位・埋葬状態

被葬者の頭位は、不明である。埋葬状態は、出土人骨の出土状況より、座葬であると推定される。

(4) 被葬者の個体数

出土人骨には重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体であると推定される。

(5) 被葬者の性別

頭蓋骨を観察すると、眉弓の発達が認められず、眼窩上縁も鋭角的である。また、一部残存していた左上腕骨も大きさが小さく華奢である。さらに、一部残存していた左寛骨の大座骨切痕部を観察すると、角度が大きくしかも前耳状面溝が認められた。以上を総合して、被葬者の性別は女性であると推定される。なお、前耳状面溝は、子供の妊娠あるいは出産に関連すると推定されているので、被葬者は経産婦であった可能性が高い。

(6) 被葬者の死亡年齢

頭蓋骨の主要縫合である、冠状縫合・矢状縫合・ラムダ(人字)縫合を観察すると、内板及び外板共に一部に癒合しかかっているものの、基本的に開放の状態である。出土歯の咬耗度を観察すると、切歯から大臼歯は、皆、象牙質が点状に露出するマルティンの2度の状態である。また、一部残存している



図38 生品西浦遺跡23号土坑出土人骨頭蓋骨

第5章 自然科学分析と鑑定

上顎骨を観察すると、切歯縫合は、癒合している状態である。以上を総合して、被葬者の死亡年齢は、約30歳代であると推定される。

(7) 出土人骨の形態

頭蓋骨

後頭部が破損しており、頭型を確定することはできないが、恐らく短頭に近い中頭であると推定される。これは、近世女性人骨としては典型的である。

(8) 出土人骨の出自

頭蓋骨の非計測的形質を観察すると、眼窩上孔が認められる。一方、舌下神経管二分は、破損のため観察できなかった。しかしながら、眼窩上孔が認められたため、被葬者は渡来系であると推定される。

16. 24号土坑出土人骨（2002年9月18日出土）

(1) 人骨の出土部位

人骨の残存状態は、非常に悪い。四肢骨片が、数点出土しているのみである。

(2) 副葬品

副葬品は、火打金及び銭貨5点が出土している。

(3) 被葬者の頭位・埋葬状態

人骨の残存状態が悪いため、被葬者の頭位及び埋葬状態は不明である。しかしながら、土坑の形状及び大きさから、埋葬状態は座葬であった可能性が高い。

(4) 被葬者の個体数

人骨の残存状態は悪いが、明らかな重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体であると推定される。

(5) 被葬者の性別

わずかに残存している、大腿骨遠位部及び腓骨骨体部の大きさが小さいため、被葬者の性別は女性であると推定される。

(6) 被葬者の死亡年齢

人骨の残存状態が悪いため、被葬者の死亡年齢は成人であるとし推定できない。

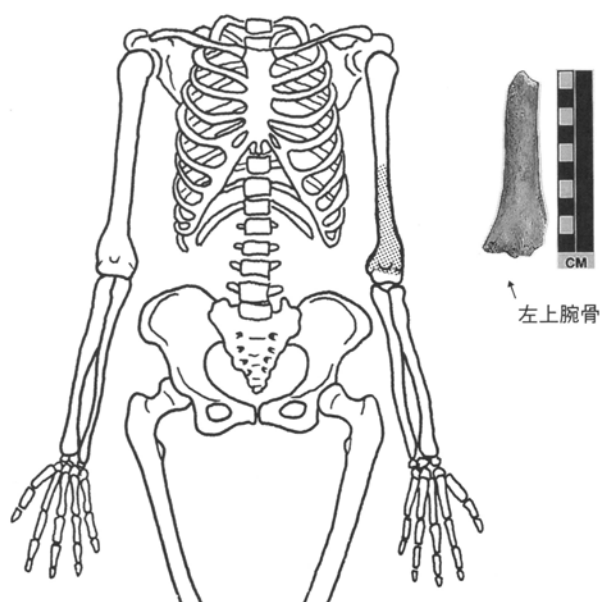


図39 生品西浦遺跡22号土坑出土人骨四肢骨まとめ

生品西浦遺跡の16基の土坑から、近世人骨が16体出土した。長年、村の共同墓地として使用し、以前に埋葬した土坑を切っているために、土坑の正確な大きさは不明である。16基の土坑中、22号土坑を除く15基が座葬である。副葬品では、被葬者の性別に関係なく煙管と火打金がセットで出土している事例が8基認められた。その他、煙管あるいは火打金出土している事例が5基認められた。同様の事例は、群馬県勢多郡赤城村の見立峯遺跡Ⅱで検出された近世の14基の土坑にも認められている（榑崎、2003）。通常、副葬品は、被葬者が生前使用していた品と一緒に埋葬したと推定されている。しかしながら、これらの事例では被葬者の性別に関連無く埋葬している点を考慮すると、この群馬県北部地域の近世においては、煙管あるいは火打金を死者の死に際して、副葬品として埋葬する風習があったと推定される。恐らく、どちらも「火」に関連する遺物であることから、魔除けの意味があったのではないかと推定される。

その他、本遺跡の特徴としては16基中、15基の被葬者が成人であり、しかも比較的死亡年齢が高いことがあげられる。それに伴い、人骨の古病理も、多数認められている。

4. 生品西浦遺跡出土人骨

謝辞

本出土人骨を記載する機会を与えていただき、本出土人骨に関する考古学的情報をいただいた(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団の齊田智彦氏に感謝いたします。また、発掘調査現場担当で、本出土人骨のクリーニングを現場で行っていただいた、群埋文の平方篤行氏に感謝いたします。

引用文献

藤井 明 1960 四肢骨長の長さとし長との関係に就いて、「順天堂大学体育学部紀要」、3: 49-61.
 藤田恒太郎 1949 歯の計測規準について、「人類学雑誌」、61(1): 1-6.
 樋田和良 1959 歯の大きさの性差について、「人類学雑誌」、67(3): 47-59.
 平本嘉助 1972 縄文時代から現代に至る関東地方人身長の時代的变化、「人類学雑誌」、80(3): 221-236.
 鈴木 尚・林 都志夫・田邊義一・佐倉 朔 1956 「XI. 頭骨の形質」、『鎌倉材木座発見の中世遺跡とその人骨』、岩波書店、p.75-148.
 鈴木 尚 1967 「VI. 頭骨」、『増上寺徳川將軍墓とその遺品・遺体』、東京大学出版会、p.121-274.
 鈴木隆雄 1998 『骨から見た日本人』、講談社

表1. 生品西浦遺跡出土人骨まとめ

No	土坑番号	個体数	性別	死亡年齢	身長	出自	その他
1	8号土坑	1個体	不明	不明	不明	不明	
2	9号土坑	1個体	男性	成人	不明	不明	
3	10号土坑	1個体	男性	成人	不明	不明	
4	11号土坑	1個体	男性	約30歳代	不明	在来系	歯の異常磨耗
5	12号土坑	1個体	男性	老齡	不明	渡来系	歯の異常磨耗
6	14号土坑	1個体	女性	老齡	141cm~142cm	渡来系	無歯顎・経産婦・腰椎の癒合
7	15号土坑	1個体	男性	約40歳代	不明	渡来系	上顎膿瘍・右手第3中手骨関節症
8	16号土坑	1個体	不明	未成年	不明	不明	
9	17号土坑	1個体	男性	老齡	不明	在来系	
10	18号土坑	1個体	男性	約50歳代	不明	不明	右手中指の関節炎・慢性関節リウマチ
11	19号土坑	1個体	女性	老齡	不明	在来系	無歯顎
12	20号土坑	1個体	女性	約30歳代	不明	渡来系	経産婦・下肢骨に骨膜炎
13	21号土坑	1個体	女性	成人	不明	不明	
14	22号土坑	1個体	男性	約40歳代	不明	中間系	下顎膿瘍
15	23号土坑	1個体	女性	約30歳代	不明	渡来系	経産婦
16	24号土坑	1個体	女性	成人	不明	不明	

表2. 生品西浦遺跡出土人骨頭蓋骨非計測の形質

観察項目	生品西浦遺跡出土人骨																													
	11号土坑			12号土坑			14号土坑			15号土坑			17号土坑			18号土坑			19号土坑			20号土坑			22号土坑			23号土坑		
	右	中央	左	右	中央	左	右	中央	左	右	中央	左	右	中央	左	右	中央	左	右	中央	左	右	中央	左	右	中央	左	右	中央	左
前頭縫合	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
眼窩上孔	-	-	-	+	+	+	-	+	+	-	+	-	-	+	-	-	+	-	-	-	+	-	-	-	-	+	-	-	-	-
副眼窩下孔	破損	破損	-	破損	破損	-	破損	破損	-	破損	破損	-	破損	破損	-	破損	破損	-	破損	破損	-	破損	破損	-	破損	破損	-	破損	破損	
副頤孔	破損	-	-	破損	-	-	破損	-	-	破損	-	-	破損	-	-	破損	-	-	破損	-	-	破損	-	-	破損	-	-	破損	-	
内側口蓋管骨橋	-	-	-	破損	破損	-	-	-	-	破損	-	-	破損	破損	-	-	-	-	破損	破損	-	-	-	-	-	-	-	破損	破損	
第3後頭顆	-	破損	-	破損	破損	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	破損	破損	-	-	-	-	-	-	破損	-	-	
前顆結節	破損	破損	破損	破損	破損	-	-	-	-	-	-	-	-	破損	破損	-	-	-	破損	破損	-	-	-	-	破損	-	-	破損	破損	
卵円孔棘連続	-	-	-	-	-	-	-	-	-	破損	-	-	-	-	-	-	-	-	破損	破損	-	-	-	-	破損	破損	+	破損	-	
鼓室骨裂孔	破損	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	破損	-	-	-	-	-	-	-	破損	-	-	
頸静脈孔二分	破損	破損	破損	破損	破損	-	-	-	-	-	-	-	-	破損	破損	破損	破損	破損	破損	破損	破損	破損	破損	破損	破損	破損	破損	破損	破損	
顆管開存	破損	破損	破損	破損	破損	破損	破損	破損	破損	-	+	-	+	破損	破損	破損	破損	破損	破損	破損	破損	破損	破損	破損	破損	破損	破損	破損	破損	
横顆骨縫合痕跡	-	-	-	破損	破損	破損	破損	破損	-	破損	-	-	破損	破損	破損	破損	破損	破損	破損	破損	-	-	-	-	破損	破損	破損	破損	破損	
頭頂切痕骨	破損	破損	破損	-	-	-	-	-	-	破損	-	-	-	破損	破損	-	-	-	破損	破損	-	-	-	-	破損	破損	-	破損	-	
アステリオン骨	-	-	-	破損	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	破損	破損	破損	破損	破損	破損	破損	破損	破損	破損	破損	
後頭乳突縫合骨	-	-	-	破損	破損	-	-	-	-	+	-	-	-	-	-	-	-	-	破損	破損	破損	破損	破損	破損	破損	破損	破損	破損	破損	
外耳道骨腫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	破損	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
顎舌骨筋神経溝骨橋	破損	-	-	破損	-	-	-	-	-	-	-	-	-	破損	破損	破損	破損	破損	破損	破損	破損	破損	破損	破損	破損	破損	破損	破損	破損	
ラムダ小骨	-	破損	-	破損	破損	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	破損	破損	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
舌下神経管二分	破損	破損	破損	破損	破損	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	破損	破損	-	-	+	破損	破損	破損	破損	破損	破損	
横後頭縫合痕跡	-	-	-	破損	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	破損	破損	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

註1: 「+」は有ることを、「-」は無いことを、「△」はわずかに有ることを示す
 註2: 「破損」は、人骨が破損して観察不能であることを示す

表3. 生品西浦遺跡出土人骨頭蓋骨計測値及び比較表

計測項目 (Martin's No.)	生品西浦遺跡出土人骨								中世人骨*		江戸時代人骨**		現代人***		
	11号土坑	12号土坑	14号土坑	15号土坑	17号土坑	19号土坑	20号土坑	22号土坑	23号土坑	♂	♀	♂	♀	♂	♀
1 脳頭蓋最大長	164	175	190	180	168	192	184.2	178.9	181.9	175.4	178.9	175.4	178.9	170.8	170.8
8 脳頭蓋最大幅	138	143	139	141	141	141	136.5	131.8	136.5	136.8	140.3	136.8	140.3	135.9	135.9
8:1 頭蓋長幅示数	87.2	79.4	87.2	74.2	87.2	74.2	74.2(長頭)	74.2(長頭)	76.9(中頭)	78.1(中頭)	78.5(中頭)	78.1(中頭)	78.5(中頭)	79.7(中頭)	79.7(中頭)
17 バジオン・プレアテ高	125	135	135	135	135	135	137.2	128.8	137.5	133.3	138.1	133.3	138.1	132.5	132.5
17:1 頭蓋高示数	76.2	71.1	76.2	71.1	76.2	71.1	75.0(高頭)	73.4(中頭)	75.6(高頭)	75.8(高頭)	77.3(高頭)	75.8(高頭)	77.3(高頭)	77.7(高頭)	77.7(高頭)
17:8 頭蓋高幅示数	87.4	144.0	87.4	155.3	87.4	144.0	99.8(狭頭)	97.6(狭頭)	98.6(狭頭)	97.5(中頭)	98.6(狭頭)	97.5(中頭)	98.6(狭頭)	97.7(中頭)	97.7(中頭)
1+8+17/3 脳頭蓋モリス	90	104	104	107	90	104	103.5	93.0	101.9	97.7	100.7	97.7	100.7	95.6	95.6
5 頭蓋底長	86	107	86	101	86	107	93.5	90.5	94.5	91.8	90.5	91.8	90.5	91.0	91.0
9 最大前頭幅	107	115	107	121	107	115	114.2	109.0	117.4	114.0	115.9	114.0	115.9	113.7	113.7
9:10 横前頭示数	80.4	83.5	80.4	83.5	80.4	83.5	81.9	80.8	80.8	80.5	80.5	80.5	80.5	81.5	81.5
9:8 横前頭頂示数	130	115	122	123	110	105	119.2	126.2	124.9	120.9	124.9	120.9	124.9	118.8	118.8
11 両耳幅	110	110	110	109	110	109	107.8	104.4	109.9	105.8	108.4	105.8	108.4	104.2	104.2
12:8 横頭頂後頭示数	76.9	77.3	76.9	77.3	76.9	77.3	77.6	78.9	78.6	76.6	77.3	76.6	77.3	76.8	76.8
13 乳線突起前幅	35	36	35	30	35	36	34.7	34.1	35.9	34.6	35.0	34.6	35.0	33.7	33.7
7 大後頭孔長	30	29	30	28	30	29	28.9	29.8	28.8	28.3	29.8	28.3	29.8	28.4	28.4
16 大後頭孔幅	85.7	93.3	85.7	93.3	85.7	93.3	82.7(中)	85.9(中)	83.4(中)	82.1(中)	85.2(中)	82.1(中)	85.2(中)	84.4(中)	84.4(中)
16:7 大後頭孔示数	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	51.6(中)	49.5(中)	52.0(中)	50.3(中)	51.3(中)	50.3(中)	51.3(中)	49.3(中)	49.3(中)
23 脳頭蓋水平度	115	122	115	140	115	122	126.5	120.9	126.7	123.7	127.4	123.7	127.4	122.1	122.1
25 正中矢状弧長	115	115	120	110	105	105	129.4	124.4	127.7	123.9	125.1	123.9	125.1	121.0	121.0
26 正中前頭頂長	100.0	116.7	100.0	116.7	100.0	116.7	117.5	114.6	119.2	113.0	119.1	113.0	119.1	114.3	114.3
28 正中後頭頂長	95.8	92.1	95.8	92.1	95.8	92.1	95.1	94.4	94.2	91.4	93.6	91.4	93.6	93.9	93.9
27:26 矢状前頭頂示数	82.1	82.1	82.1	82.1	82.1	82.1	93.1	92	92	91.2	95.4	91.2	95.4	95.4	95.4
28:26 矢状前頭後頭示数	32.0	32.0	32.0	32.0	32.0	32.0	33.8	33.6	33.9	34.3	34.3	34.3	34.3	34.2	34.2
26:25 前頭矢状弧長示数	37.3	37.3	37.3	37.3	37.3	37.3	34.2	34.6	34.2	34.3	33.7	34.3	33.7	33.8	33.8
27:25 頭頂矢状弧長示数	30.7	30.7	30.7	30.7	30.7	30.7	31.9	31.9	31.9	31.9	32	31.9	32	32	32
28:25 後頭矢状弧長示数	104	105	104	105	104	105	111.5	106.6	111.4	108.7	111.8	108.7	111.8	106.5	106.5
29 正中前頭頂長	100	100	100	109	99	99	115.7	114.6	114.6	111.2	111.8	111.2	111.8	108.6	108.6
30 正中頭頂後頭長	90.4	87.5	90.4	87.5	90.4	87.5	99.3	99.6	99.1	96.8	100.4	96.8	100.4	97.0	97.0
31 正中後頭頂長	87.0	90.0	87.0	90.0	87.0	90.0	88.2	88.2	87.9	87.9	87.9	87.9	87.9	87.4	87.4
29:26 矢状前頭彎曲示数	84.2	84.2	84.2	84.2	84.2	84.2	89.5	89.6	89.7	89.7	89.3	89.7	89.3	89.8	89.8
30:27 矢状前頭彎曲示数	70	70	70	75	70	70	75.4	72.6	72.6	85.7	84.5	85.7	84.5	84.9	84.9
31:28 矢状後頭彎曲示数	113	99	103	102	92	103	105.5	100.1	104.8	101.2	103.8	101.2	103.8	100.1	100.1
43 上頭幅	92	92	95	102	92	103	100.0	94.7	98.8	95.9	97.2	95.9	97.2	94.1	94.1
44 同眼窩幅	105	100	105	103	99	103	101.8	98.9	90.7	98.8	97.2	98.8	97.2	94.1	94.1
9:43	70	63	70	63	70	63	64.7	64.7	64.7	66.6	70.7	66.6	70.7	67.1	67.1
46 中頭幅(上頭幅)	66.7	63.0	66.7	63.0	66.7	63.0	65.6(低頭)	64.1(低頭)	69.7(低頭)	70.6(低頭)	71.8(低頭)	70.6(低頭)	71.8(低頭)	72.0(低頭)	72.0(低頭)
48:46 ウェルヒョウ上頭示数	20	21	20	25.5	20	21	19.2	19.8	18.7	17.9	18.3	17.9	18.3	18.5	18.5
50 前眼窩間幅	36	38	36	41	36	38	43.3	41.1	41.1	42.0	42.7	42.0	42.7	41.1	41.1
51 眼窩幅(右)	38	38	38	41	38	38	43.1	43.1	43.2	42.0	42.0	42.0	42.0	41.1	41.1
51 眼窩幅(左)	32	32	32	32	32	32	33.8	33.1	33.1	33.1	33.1	33.1	33.1	33.8	33.8
52 眼窩高(右)	33	32	33	32	32	32	33.7	32.9	34.4	34.9	34.3	34.9	34.3	33.8	33.8
52 眼窩高(左)	88.9	82.1	88.9	82.1	88.9	82.1	77.8(中眼窩)	80.7(中眼窩)	79.5(中眼窩)	83.3(高眼窩)	80.4(中眼窩)	83.3(高眼窩)	80.4(中眼窩)	82.4(中眼窩)	82.4(中眼窩)
52:51 眼窩示数(右)	25	23	25	25	25	25	26.6	26.6	26.2	25.1	25.0	25.1	25.0	24.5	24.5
52:51 眼窩示数(左)	50	51	50	50	50	50	51.1	46.9	49.5	49.5	52.0	49.5	52.0	49.0	49.0
55 鼻高	50.0	45.1	53.2	50.0	50.0	50.0	52.1(広鼻)	52.7(広鼻)	49.9(中鼻)	50.9(中鼻)	48.4(中鼻)	50.9(中鼻)	48.4(中鼻)	50.2(中鼻)	50.2(中鼻)
54:55 鼻示数	28	28	28	28	28	28	30.0	27.7	31.8	29.6	30.6	29.6	30.6	28.0	28.0
55(1) 梨状口高	10	10	10	11	10	10	8.0	7.9	7.6	6.8	7.0	6.8	7.0	7.1	7.1
57 鼻骨最小幅	62	47	68	68	62	47	17.9	17.6	18.4	17.5	17.9	17.5	17.9	17.5	17.5
57(1) 鼻骨最大幅	62	47	68	68	62	47	65.2	60.7	66.5	64.8	65.8	64.8	65.8	61.7	61.7
61 上顎歯槽夜起幅	39	42	39	42	39	42	43.6	43.6	44.8	44.0	44.0	44.0	44.0	42.7	42.7
62 口蓋長	39	40	39	40	39	40	41.0	38.3	40.9	40.7	40.0	40.7	40.0	38.4	38.4
63 口蓋幅	100.0	95.2	100.0	95.2	100.0	95.2	86.7(広口蓋)	88.9(広口蓋)	91.2(広口蓋)	90.9(広口蓋)	91.1(広口蓋)	90.9(広口蓋)	91.1(広口蓋)	90.4(広口蓋)	90.4(広口蓋)
63:62 口蓋示数	44	48	44	48	44	48	48.4	45.9	47.8	32.5	32.5	32.5	32.5	32.5	32.5
67 前下顎幅	24	24	25	25	24	24	32.7	28.7	34.5	31.1	31.1	31.1	31.1	31.1	31.1
69 顎高	31	37	31	39	31	37	36.6	35.7	35.7	36.6	36.6	36.6	36.6	36.6	36.6
71 下顎枝幅(左)															

写 真 图 版



1 A区第1面調査区全景（南から）



2 C区第1面調査区全景（南から）



1 C区第2面調査区全景（南から）



2 A区1号土坑全景（北東から）



3 B区1号土坑全景（西から）



4 B区2号土坑全景（南西から）



5 B区3号土坑全景（西から）



1 B区4号土坑全景 (西から)



2 B区5号土坑全景 (南から)



3 B区6号土坑全景 (南西から)



4 B区25号土坑全景 (東から)



5 B区26号土坑全景 (南から)



6 B区27号土坑全景 (西から)



7 B区28号土坑全景 (南西から)



8 B区29号土坑全景 (西から)

PL.4



1 B区30号土坑全景（北西から）



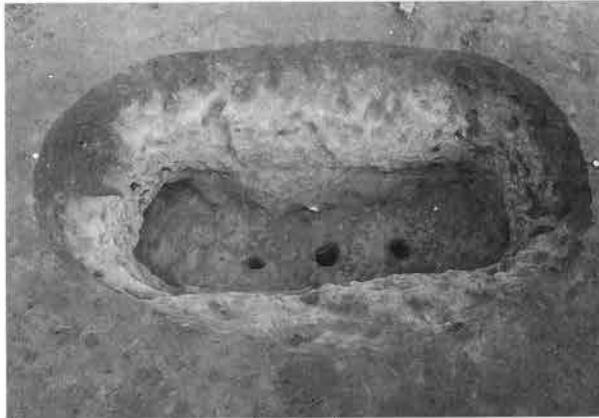
2 B区31号土坑全景（南から）



3 B区32号土坑全景（西から）



4 B区33号土坑全景（西から）



5 B区34号土坑全景（西から）



6 B区35号土坑全景（南から）



7 B区36号土坑全景（西から）



8 B区37号土坑全景（東から）



1 B区38号土坑全景（西から）



2 C区1号土坑全景（南から）



3 C区2号土坑全景（西から）



4 C区3号土坑全景（西から）



5 C区4号土坑全景（西から）



6 C区5号土坑全景（西から）



7 C区6号土坑全景（南から）



8 C区7号土坑全景（西から）

PL.6



1 C区8号土坑全景（北から）



2 C区9号土坑全景（西から）



3 C区10号土坑全景（西から）



4 C区11号土坑全景（東から）



5 C区12号土坑全景（西から）



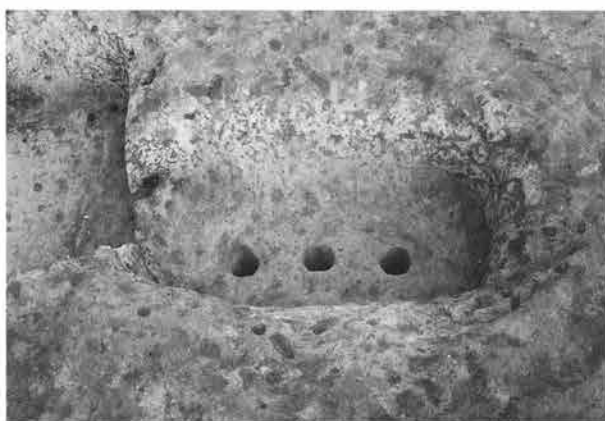
6 C区13号土坑全景（西から）



7 C区14号土坑全景（西から）



8 C区15号土坑全景（西から）



1 C区16号土坑全景 (西から)



2 C区17号土坑全景 (東から)



3 C区18号土坑全景 (東から)



4 C区19・22号土坑全景 (西から)



5 C区20号土坑全景 (南西から)



6 C区21号土坑全景 (東から)



7 C区23号土坑全景 (南から)



8 C区46号土坑全景 (西から)



1 C区49号土坑全景（西から）



2 C区50号土坑全景（北から）



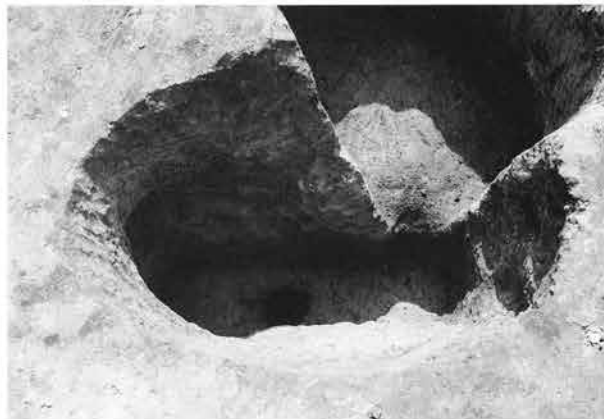
3 C区58号土坑全景（北から）



4 C区59号土坑全景（北から）



5 C区60号土坑全景（北から）



6 C区61号土坑全景（北から）



7 C区62号土坑全景（北から）



8 C区63・64号土坑全景（北から）



1 C区66号土坑全景（北から）



2 C区67号土坑全景（北から）



3 C区69号土坑全景（東から）



4 C区70号土坑全景（西から）



5 C区71号土坑全景（西から）



6 C区72号土坑全景（東から）



7 C区73号土坑全景（北から）



8 C区74号土坑全景（西から）



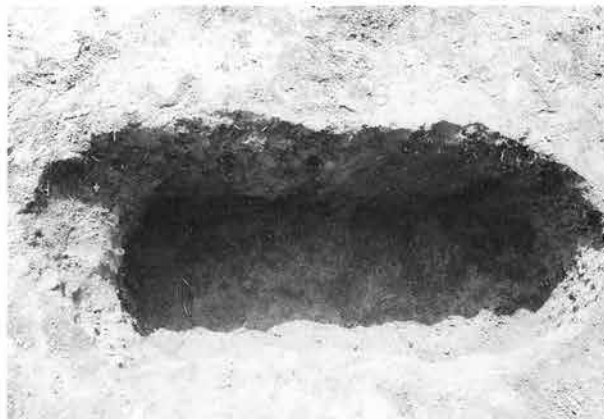
1 C区75号土坑全景（西から）



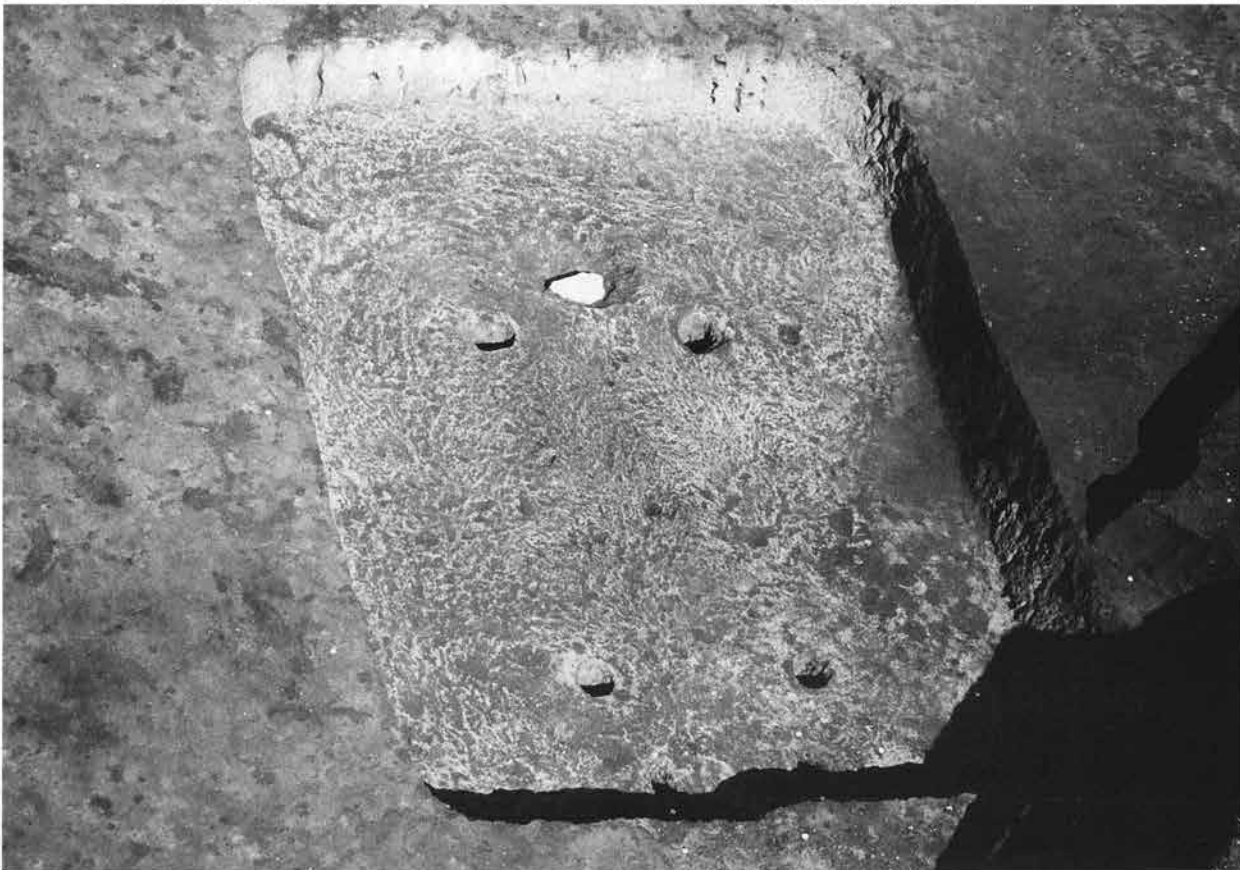
2 C区76号土坑全景（北から）



3 C区77号土坑全景（東から）



4 C区78号土坑全景（北から）



5 B区3号住居全景（西から）



1 B区3号住居遺物出土状況（北東から）



2 B区3号住居遺物出土状況（東から）



3 B区3号住居炉全景（北から）



4 B区3号住居北側工具痕（南から）



5 A区1号住居生活面全景（西から）



1 A区1号住居遺物出土状況（西から）



2 A区1号住居竈使用面全景（西から）



3 A区1号住居掘り方全景（西から）



4 A区1号住居竈掘り方全景（西から）



5 A区2号住居生活面全景（西から）



6 A区2号住居竈使用面全景（西から）



7 A区2号住居掘り方全景（西から）



8 A区2号住居竈掘り方全景（西から）



1 B区1号住居全景（西から）



2 B区1号住居竈全景（西から）



3 B区2号住居生活面全景（東から）



4 B区2号住居竈使用面全景（東から）



5 B区2号住居掘り方全景（東から）



6 B区2号住居竈掘り方全景（東から）



7 B区2号住居貯蔵穴全景（東から）



8 C区2号住居全景（西から）



1 C区3号住居掘り方全景（西から）



2 C区3号住居生活面全景（北から）



3 C区3号住居竈使用面全景（西から）



4 C区3号住居竈遺物出土状況（西から）



5 C区3号住居貯蔵穴遺物出土状況（南から）



1 C区4号住居生活面全景（西から）



2 C区4号住居竈使用面全景（西から）



3 C区4号住居掘り方全景（西から）



4 C区4号住居工具痕（北から）



5 C区5号住居生活面全景（北から）



6 C区5号住居竈遺物出土状況（西から）



7 C区5号住居掘り方全景（北から）



8 C区5号住居竈掘り方全景（西から）



1 C区6号住居遺物出土状況（西から）



2 C区6号住居生活面全景（西から）



3 C区6号住居竈使用面全景（西から）



4 C区6号住居掘り方全景（西から）



5 C区6号住居竈掘り方全景（西から）



1 C区7号住居遺物出土状況（西から）



2 C区7号住居掘り方全景（北から）



3 C区10号住居生活面全景（西から）



4 C区10号住居竈使用面全景（南から）



5 C区9号住居全景（西から）



6 C区11号住居全景（西から）



7 C区15号住居遺物出土状況（西から）



8 C区15号住居掘り方全景（西から）



1 C区16号住居遺物出土状況（南から）



2 C区16号住居掘り方全景（南から）



3 C区1号住居生活面全景（西から）



4 C区1号住居竈使用面全景（西から）



5 C区1号住居掘り方全景（西から）



6 C区1号住居竈掘り方全景（西から）



7 C区8号住居生活面全景（西から）



8 C区8号住居竈使用面全景（西から）



1 C区12号住居生活面全景（西から）



2 C区12号住居竈使用面全景（西から）



3 C区12号住居掘り方全景（西から）



4 C区12号住居竈掘り方全景（西から）



5 C区13号住居遺物出土状況（西から）



1 C区13号住居生活面全景（西から）



2 C区13号住居竈使用面全景（西から）



3 C区13号住居掘り方全景（西から）



4 C区13号住居竈掘り方全景（西から）



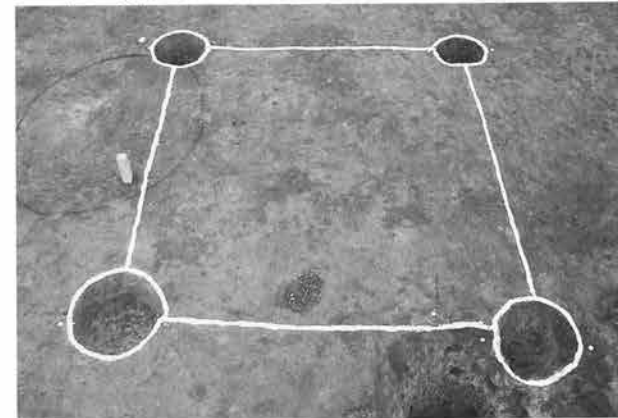
5 C区14号住居全景（南から）



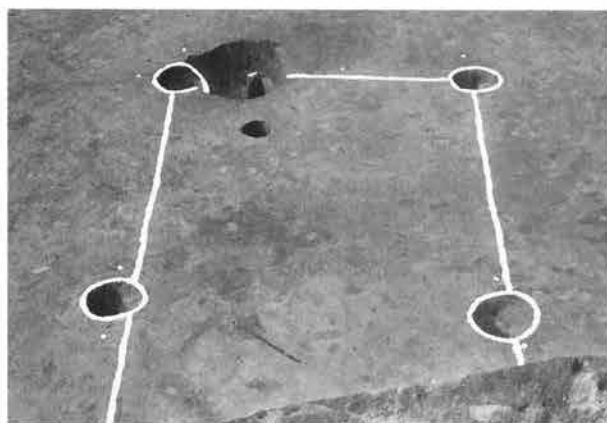
6 A区1号掘立柱建物全景（南から）



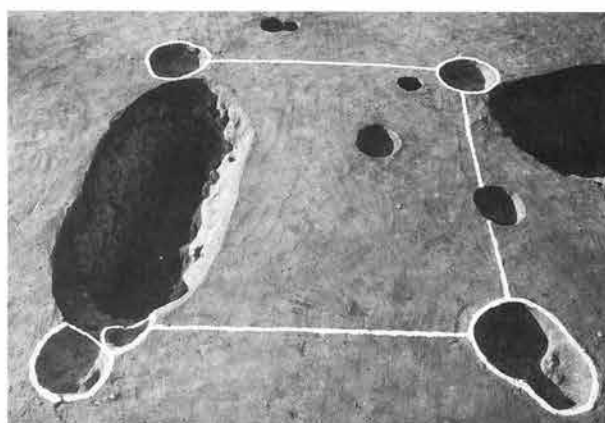
7 B区1号掘立柱建物全景（西から）



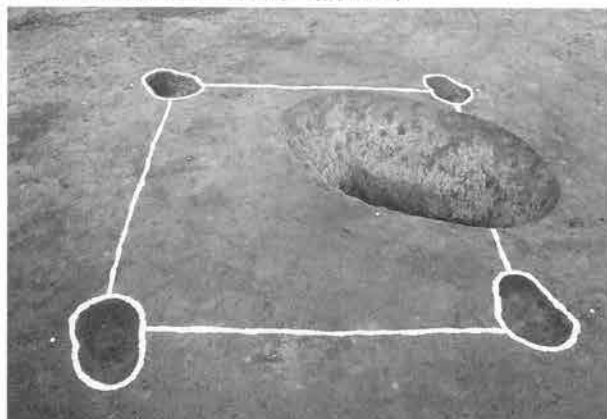
8 B区2号掘立柱建物全景（南から）



1 B区3号掘立柱建物全景 (南から)



2 B区4号掘立柱建物全景 (南から)



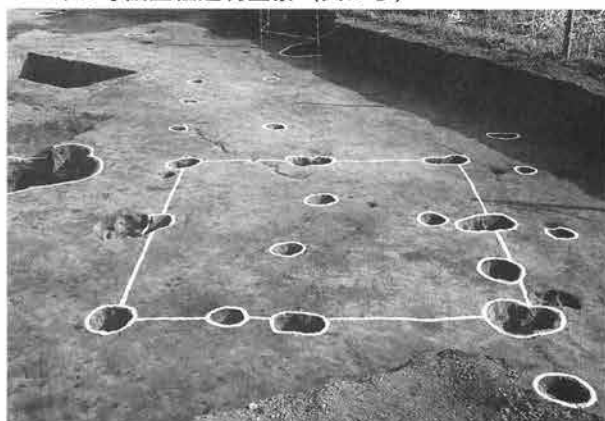
3 B区5号掘立柱建物全景 (西から)



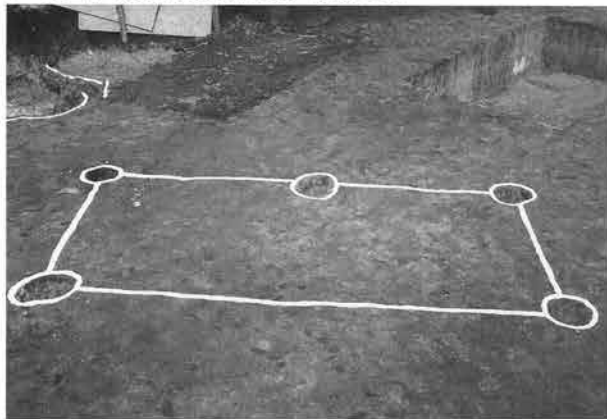
4 B区6号掘立柱建物全景 (西から)



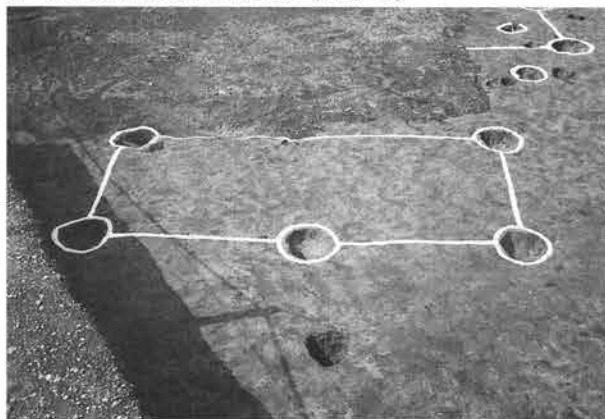
5 C区1号掘立柱建物全景 (東から)



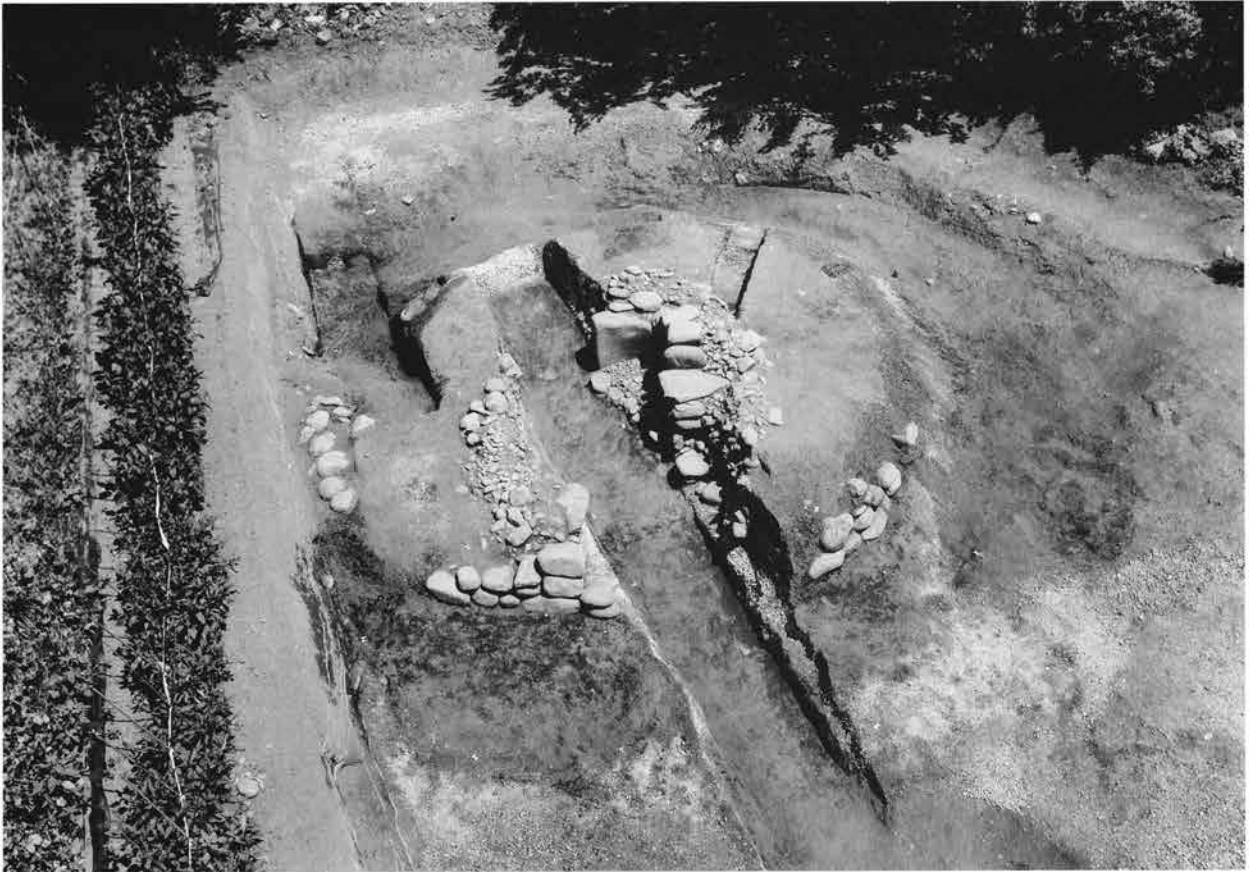
6 C区2号掘立柱建物全景 (北から)



7 C区3号掘立柱建物全景 (西から)



8 C区4号掘立柱建物全景 (南から)



1 A区1号古墳全景（南から）



2 A区1号古墳周堀セクション（東から）



3 A区1号古墳石室入口（南から）



4 A区1号古墳玄室遺物出土状況（西から）



5 A区1号古墳玄室舗石面（南から）



1 A区2号古墳全景 (南から)



2 A区2号古墳周堀セクション (南から)



3 A区2号古墳周堀全景 (南西から)



4 A区2号古墳羨道部閉塞状況 (南から)



5 A区2号古墳玄室遺物出土状況 (南から)



1 A区2号古墳玄室床面（北から）



2 A区2号古墳玄室右壁（西から）



3 A区2号古墳玄室舗石面（南から）



4 A区2号古墳石室裏込状況（東から）



5 B区1号古墳全景（南から）



1 B区1号古墳羨道部閉塞状況（南から）



2 B区1号古墳玄室遺物出土状況（西から）



3 B区1号古墳馬具出土状況（西から）



4 B区1号古墳人骨出土状況（南から）



5 B区1号古墳奥壁（南から）



6 B区1号古墳石室舗石面（北から）



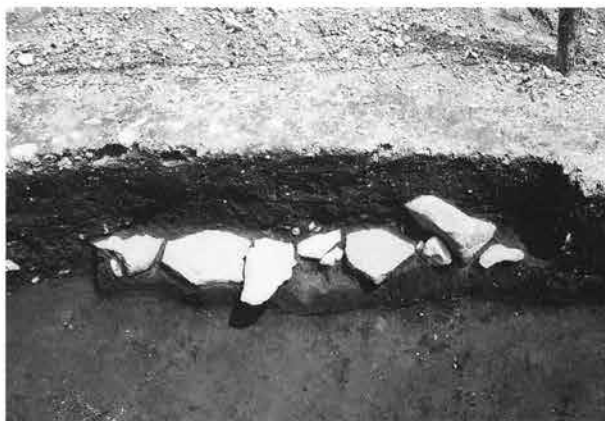
7 B区2号古墳全景（西から）



8 B区2号古墳周堀遺物出土状況（南東から）



1 C区1号古墳周堀遺物出土状況（西から）



2 C区1号古墳礫検出状況（南から）



3 A区1号集石全景（東から）



4 A区2号集石全景（南から）



5 A区3号集石全景（東から）



6 A区4号集石全景（北西から）



7 A区6号集石全景（南西から）



8 C区1号集石全景（西から）



1 C区33号土坑遺物出土状況（南から）



2 C区34号土坑遺物出土状況（西から）



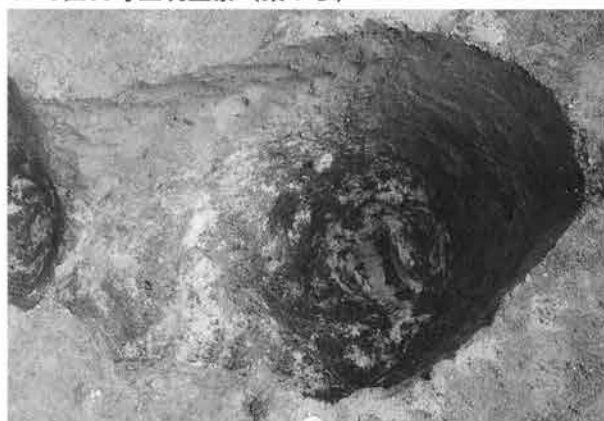
3 C区35号土坑全景（南から）



4 C区36号土坑全景（東から）



5 C区42号土坑全景（南から）



6 C区44号土坑全景（北から）



7 C区52号土坑全景（西から）



8 C区57号土坑全景（南から）



1 C区1号屋敷跡全景（北から）



2 C区1号畑全景（北から）



3 B区7~24号土坑全景（東から）



4 B区9・10・18号土坑遺物出土状況（北から）



5 B区11号土坑遺物出土状況（南から）



6 B区12号土坑遺物出土状況（南から）



7 B区14号土坑遺物出土状況（西から）



8 B区15号土坑遺物出土状況（西から）



1 B区16・19号土坑遺物出土状況（南から）



2 B区18号土坑遺物出土状況（西から）



3 B区17号土坑全景（東から）



4 B区17号土坑遺物出土状況（東から）



5 B区20号土坑遺物出土状況（南から）



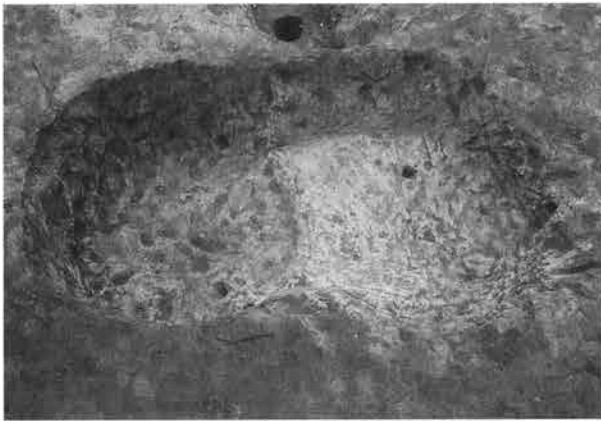
6 B区21号土坑遺物出土状況（北から）



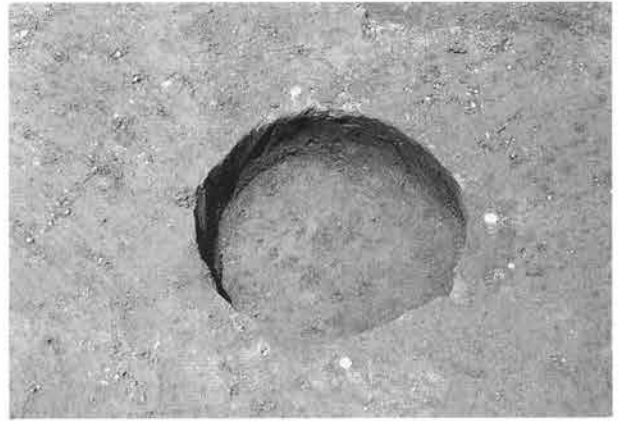
7 B区22号土坑遺物出土状況（南から）



8 B区23号土坑遺物出土状況（北東から）



1 C区24・25号土坑全景（北から）



2 C区26号土坑全景（東から）



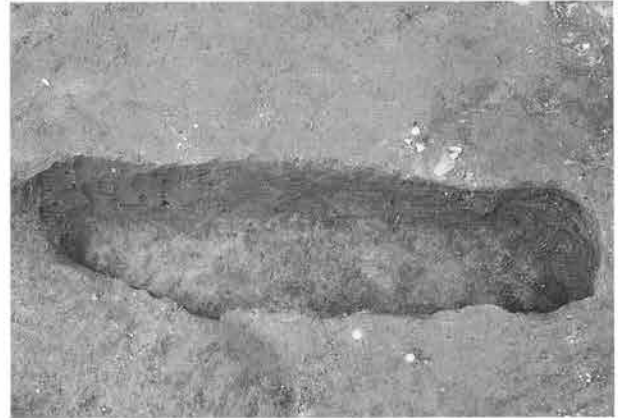
3 C区28号土坑全景（北から）



4 C区29号土坑全景（南から）



5 C区30号土坑全景（南から）



6 C区31号土坑全景（南から）



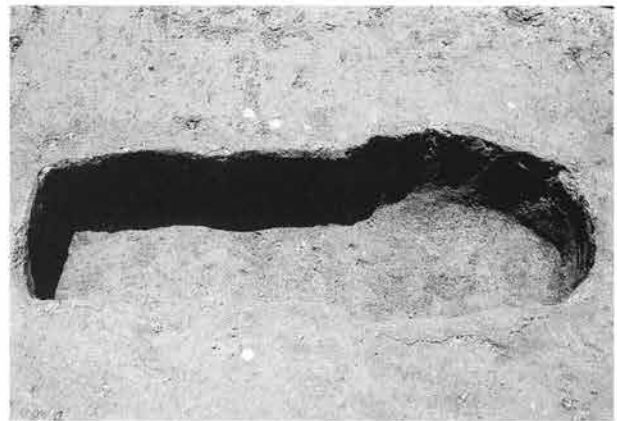
7 C区32号土坑全景（南から）



8 C区37号土坑全景（南から）



1 C区38号土坑全景 (南から)



2 C区39号土坑全景 (北から)



3 C区40号土坑全景 (南から)



4 C区41号土坑全景 (西から)



5 C区43号土坑全景 (南から)



6 C区53号土坑全景 (北から)



7 C区54号土坑全景 (西から)



8 C区55号土坑全景 (南から)





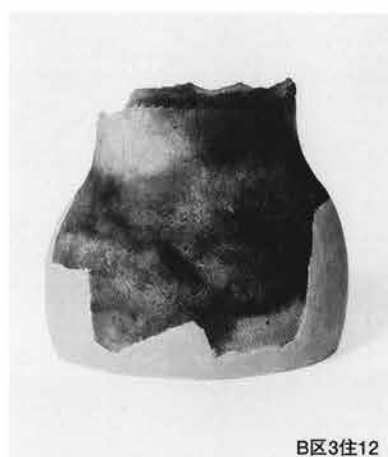
B区3住9



B区3住10



B区3住11



B区3住12



B区3住13



B区3住15



B区3住16



B区3住14



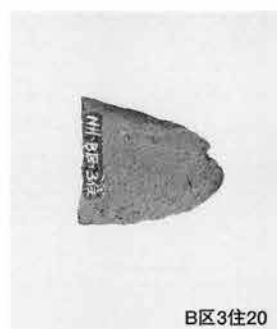
B区3住17



B区3住18



B区3住19

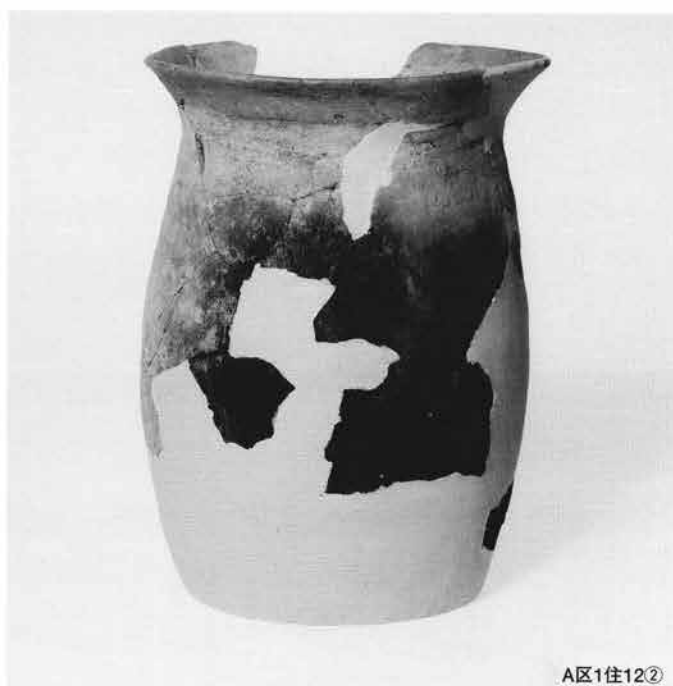


B区3住20





A区1住13



A区1住12②



A区1住12①



A区1住14



A区1住15



A区1住16



A区1住18



A区1住17



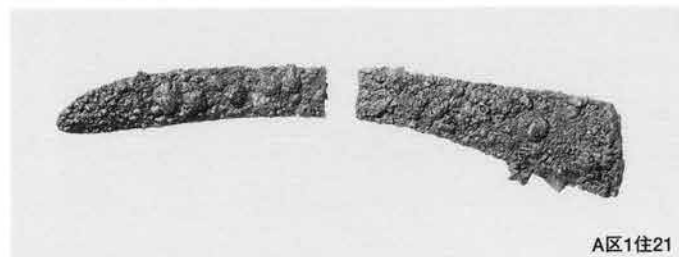
A区1住19



A区1住20



A区1住22



A区1住21



A区2住1



A区2住2



A区2住3



A区2住4



A区2住5



A区2住7



A区2住6



B区1住1



B区1住2



B区2住1



B区2住2



B区2住3



B区2住4



B区2住5



B区2住6



C区2住1



C区2住2



C区2住3



C区2住4



C区2住5



C区3住1



C区3住2



C区3住3



C区3住4



C区3住5



C区3住6



C区3住7



C区3住8



C区3住9



C区3住10



C区3住11



C区3住12



C区3住13



C区3住14



C区3住15



C区3住16



C区3住17



C区3住18



C区3住19



C区3住20



C区3住21





C区3住30



C区3住31



C区3住30



C区3住32



C区3住33



C区3住35



C区3住34

PL.42



C区4住1



C区4住2



C区4住3



C区4住4



C区4住5



C区4住6



C区4住7



C区4住8



C区4住9



C区5住1



C区5住2



C区5住3



C区5住4



C区5住5



C区5住6





C区5住21



C区6住1



C区6住2



C区6住3



C区6住4



C区6住5



C区6住6



C区6住7



C区6住8



C区6住9

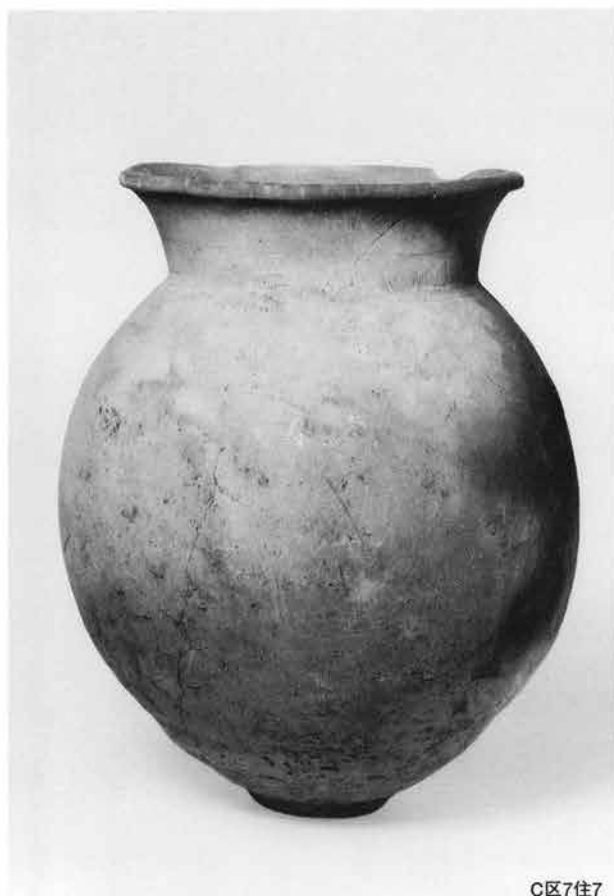


C区6住11



C区6住10





C区7住7



C区7住8



C区7住9



C区7住10



C区7住11



C区7住12



C区7住13



C区7住14



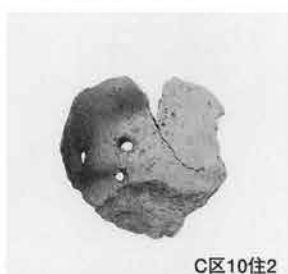
C区9住1



C区9住2



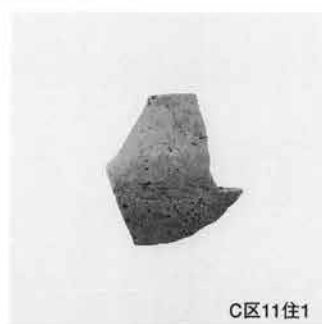
C区10住1



C区10住2



C区10住3



C区11住1



C区11住2



C区15住1



C区15住2



C区15住4



C区15住3



C区16住1



C区16住2



C区1住1



C区1住2



C区1住3



C区1住1



C区1住4



C区1住5



C区1住6



C区1住7



C区1住8



C区1住9



C区1住10



C区1住11



C区1住12



C区8住1



C区8住3



C区12住1



C区8住2



C区12住2



C区12住3



C区12住4



C区12住5



C区12住7



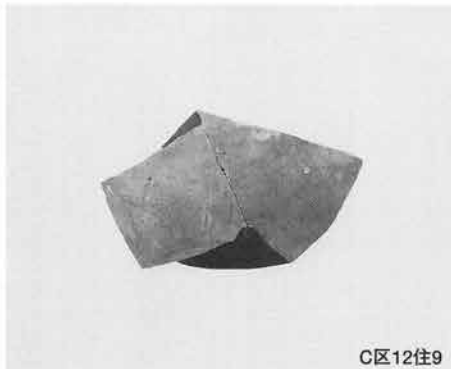
C区12住6



C区12住8



C区12住7



C区12住9



C区12住10



C区13住1



C区13住2



C区13住3



A区1古1



A区1古2



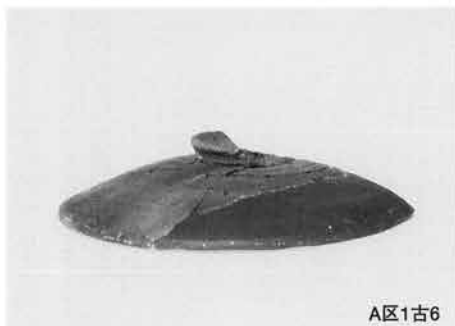
A区1古3



A区1古4



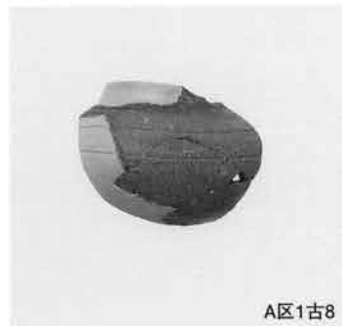
A区1古5



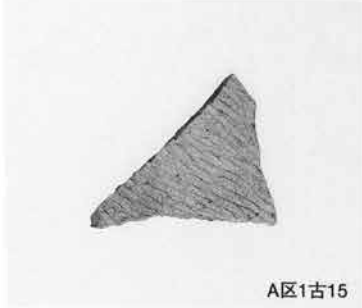
A区1古6

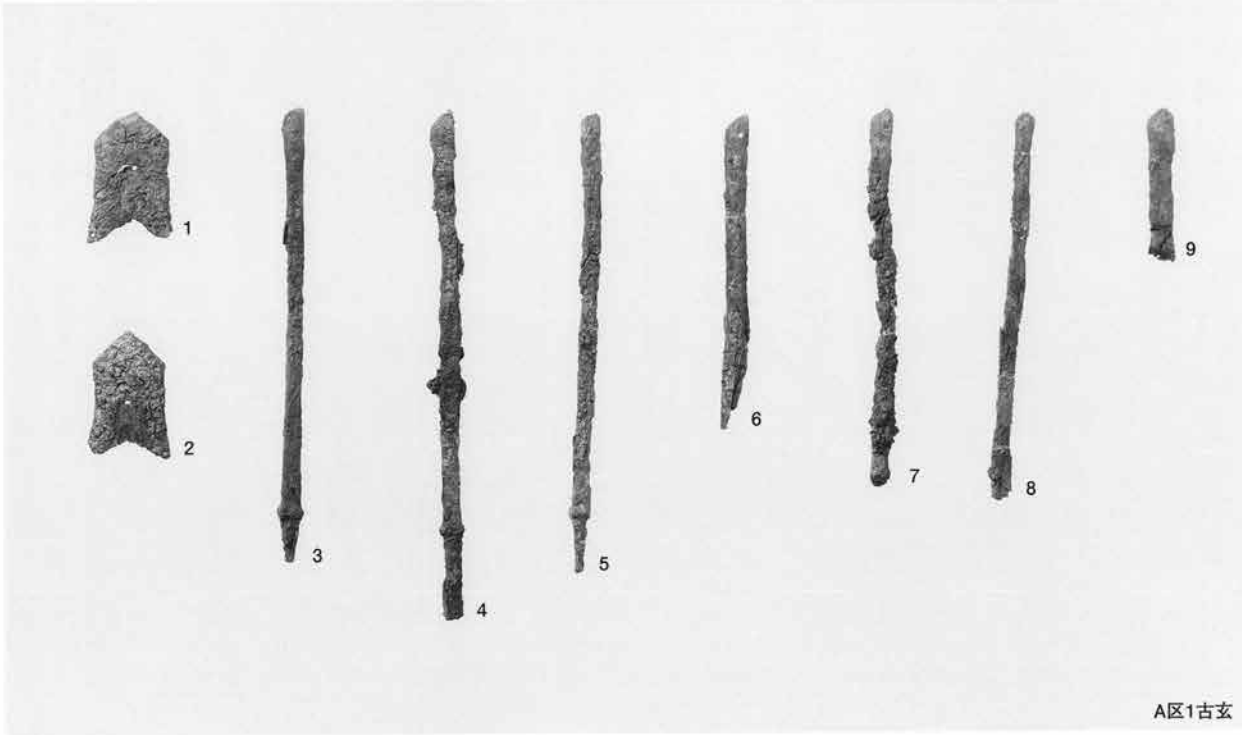
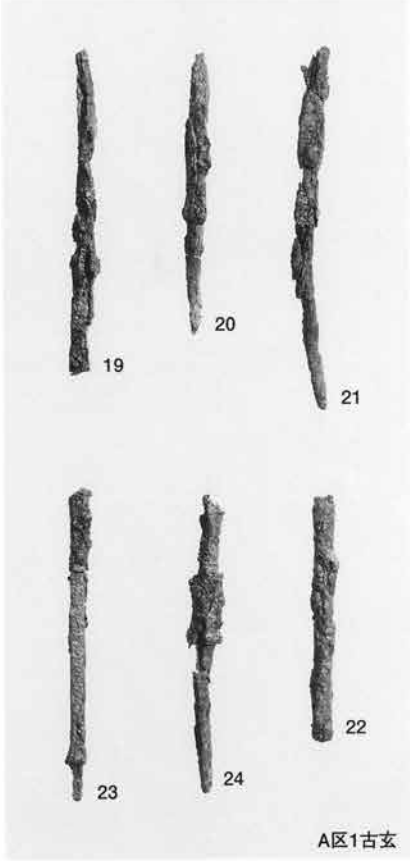


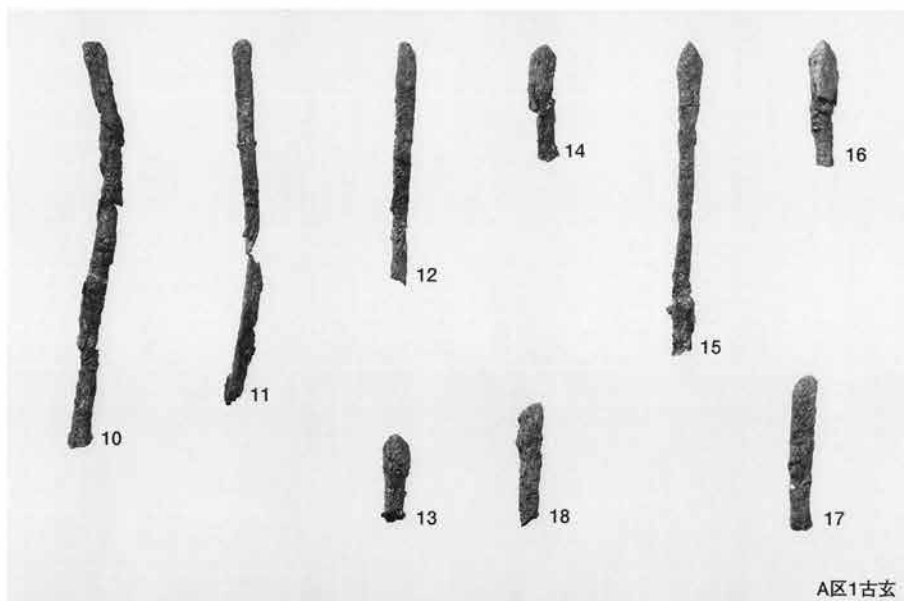
A区1古7



A区1古8







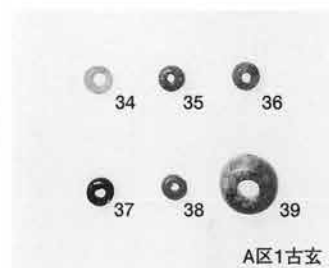
A区1古玄



A区1古玄32



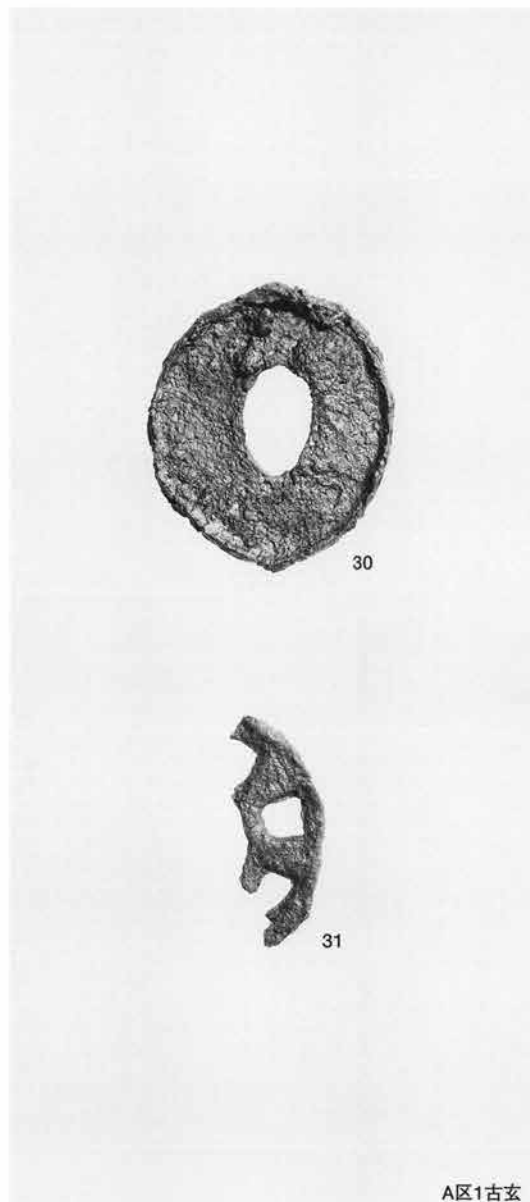
A区1古玄33



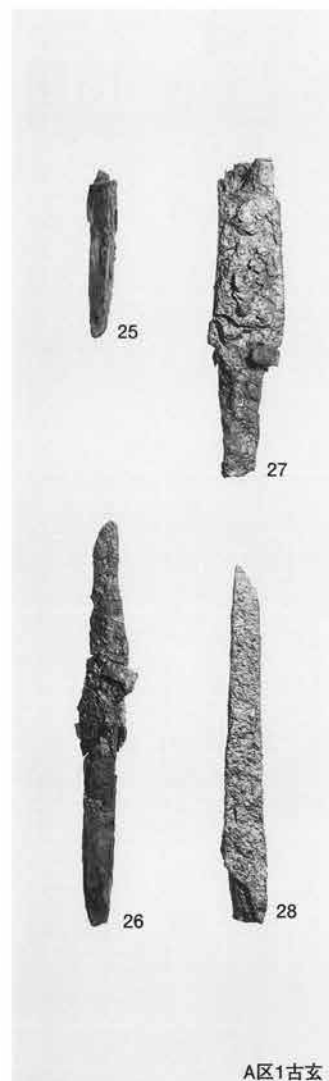
A区1古玄



A区1古玄29



A区1古玄



A区1古玄



A区2古1



A区2古2



A区2古3



A区2古4



A区2古5



A区2古6



A区2古7



A区2古8



A区2古9



A区2古10



A区2古11



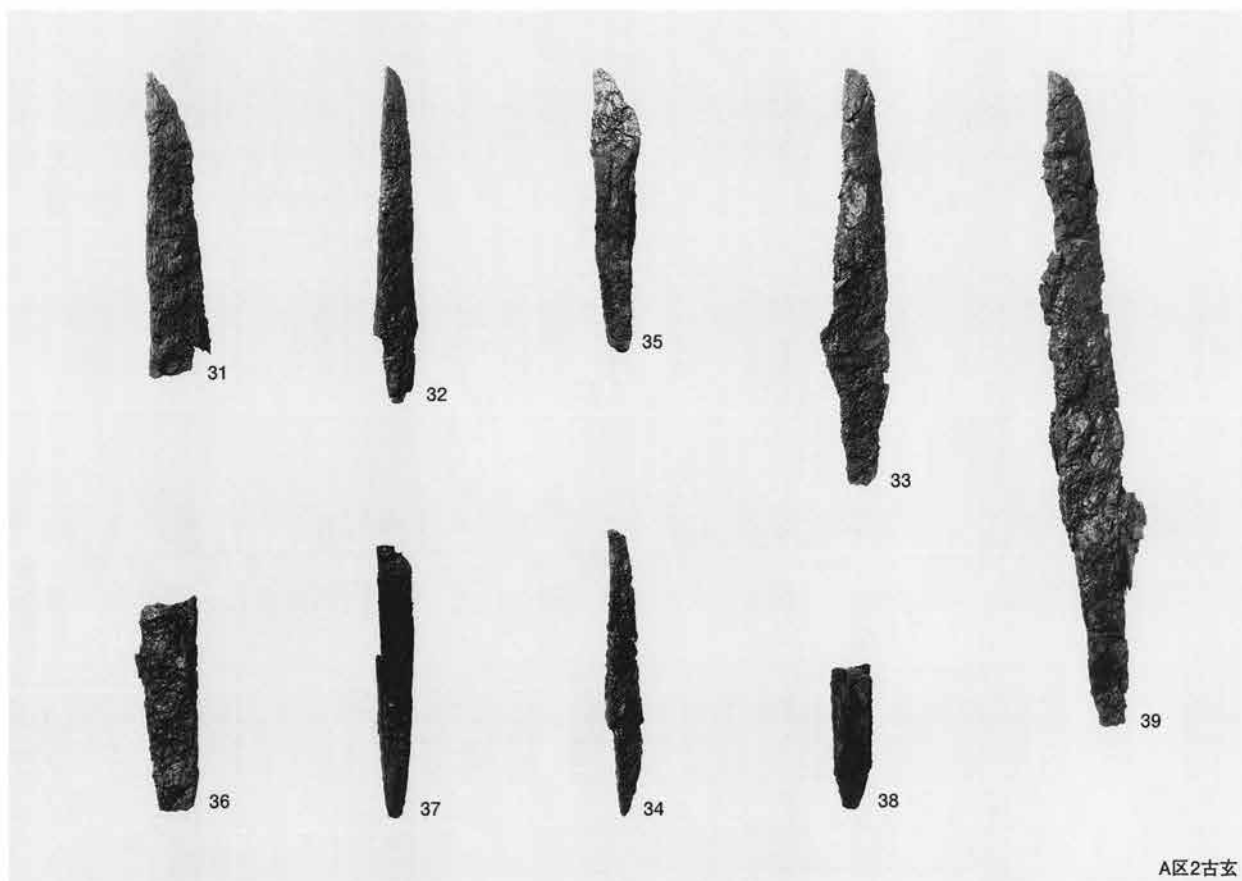
A区2古12



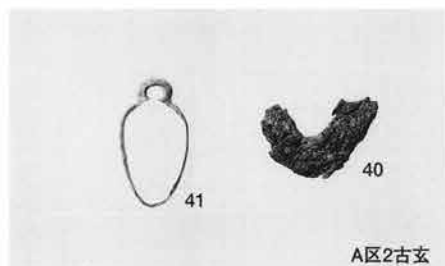
A区2古13



A区2古14



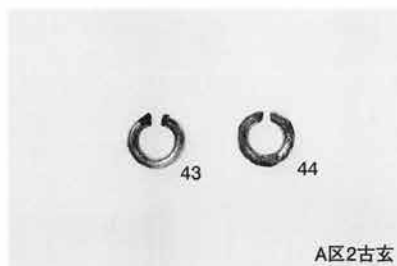
A区2古玄



A区2古玄



A区2古玄42



A区2古玄







B区1古1



B区1古2



B区1古3①



B区1古4



B区1古3②



B区1古6



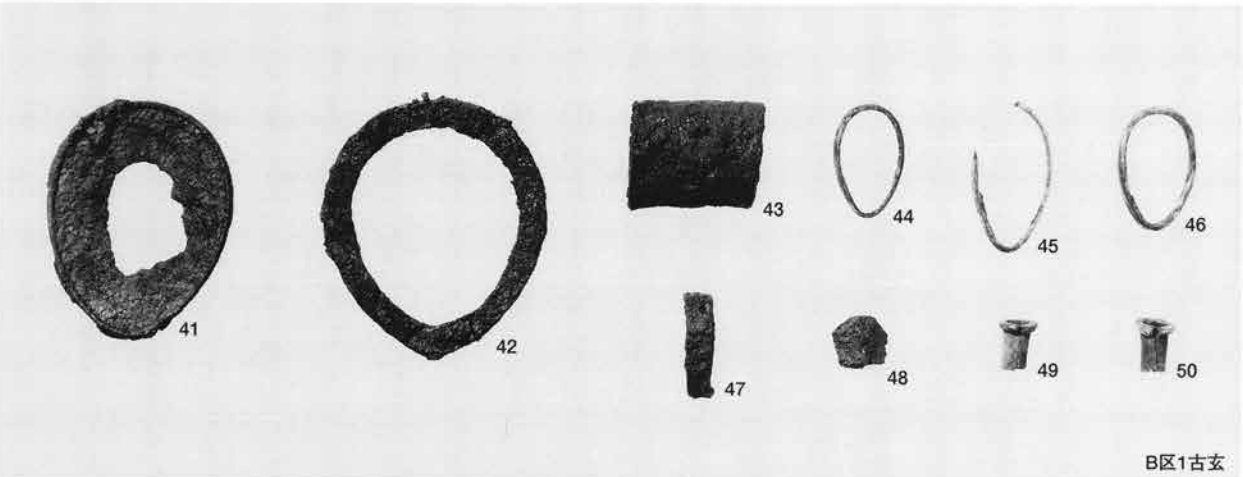
B区1古3③



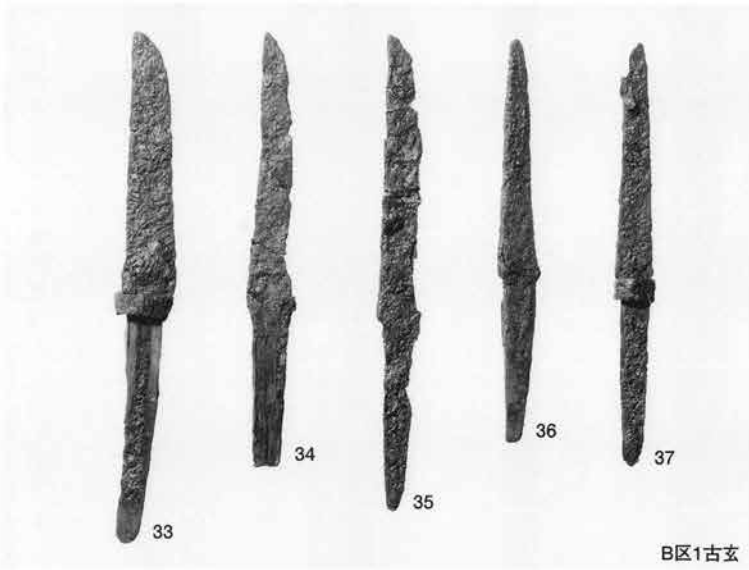
B区1古5



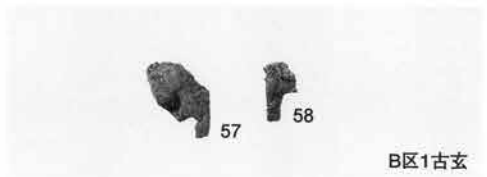
B区1古7



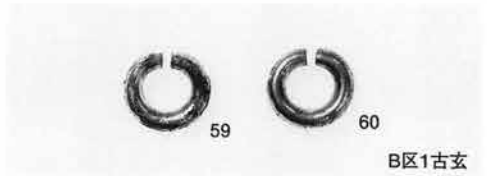
B区1古玄



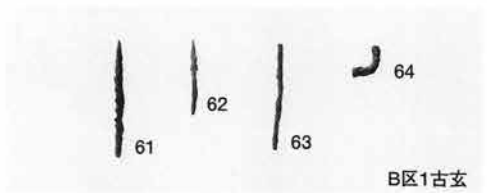
B区1古玄



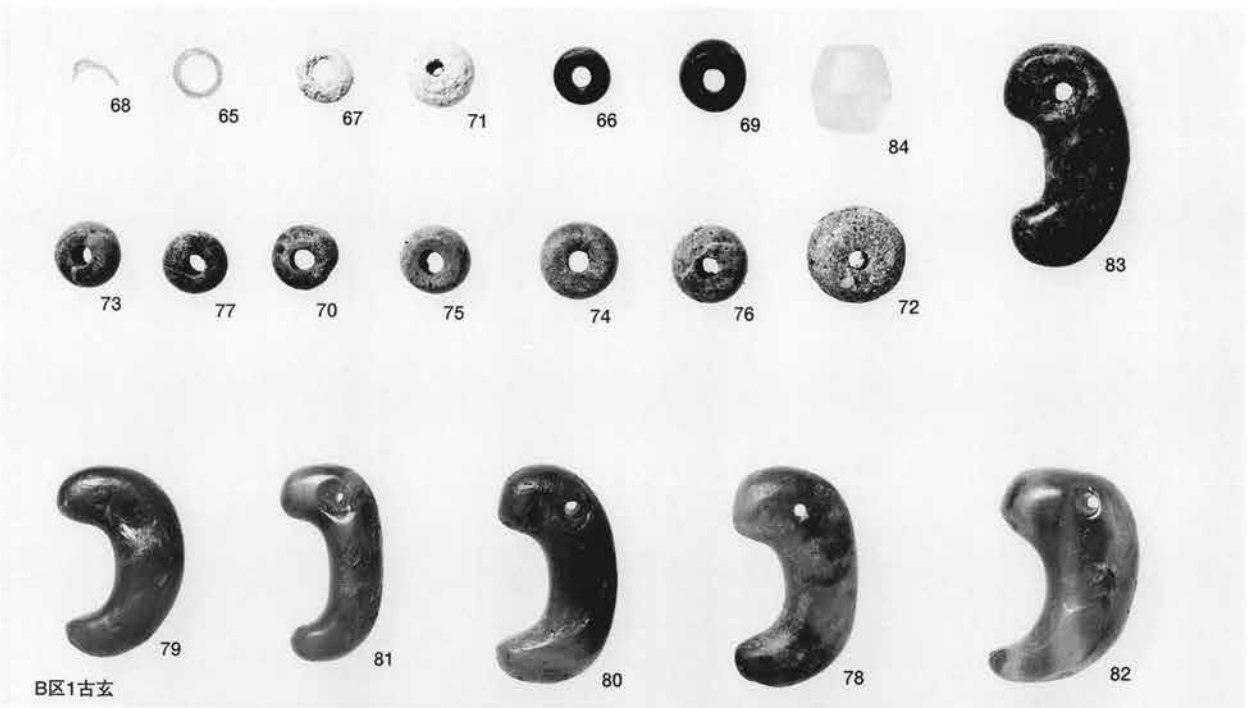
B区1古玄



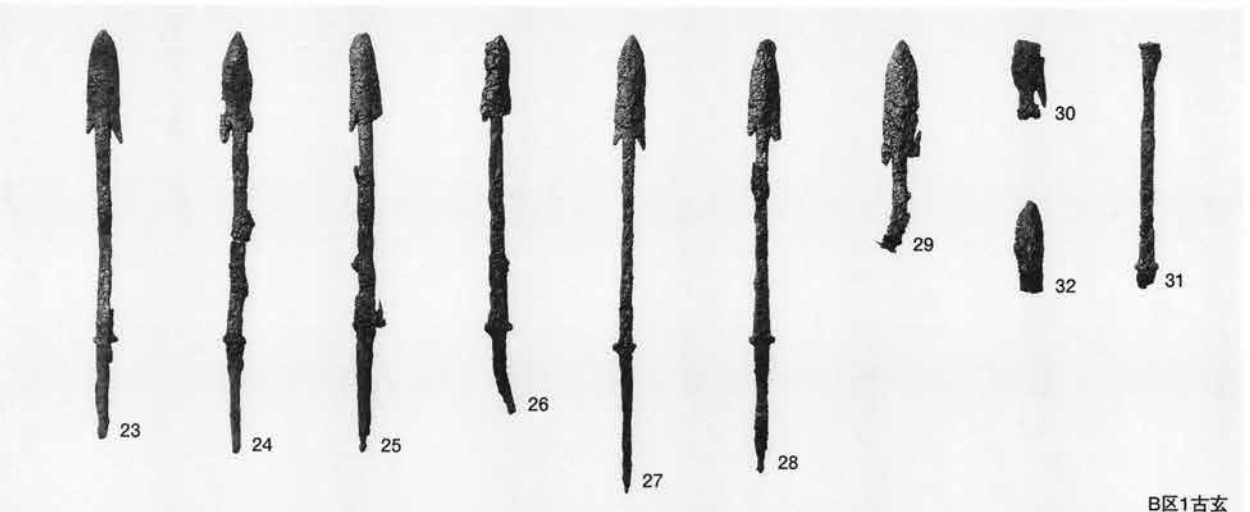
B区1古玄



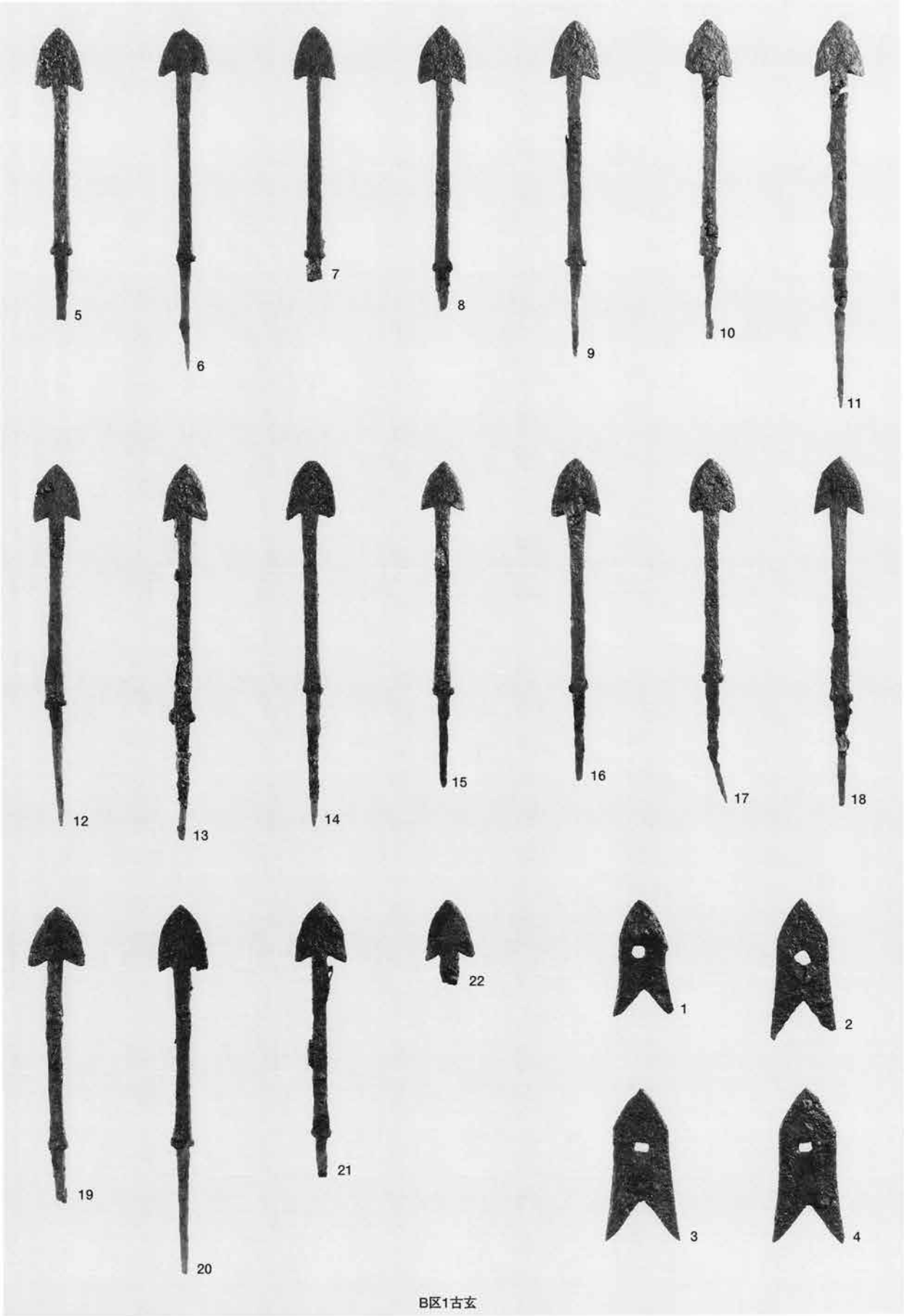
B区1古玄



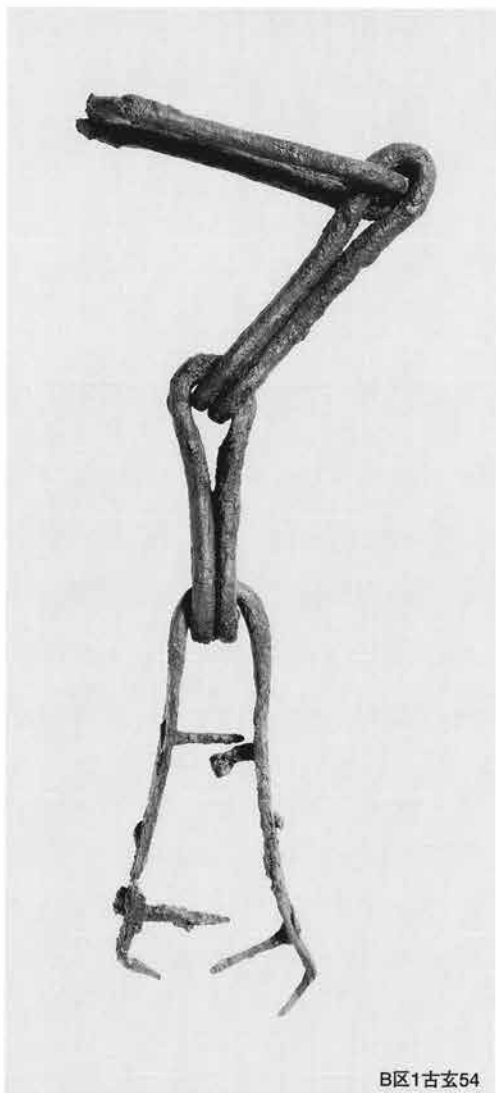
B区1古玄



B区1古玄



B区1古玄



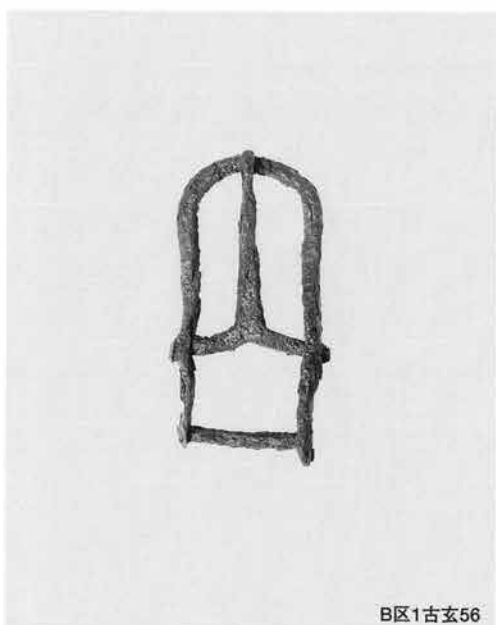
B区1古玄54



B区1古玄55

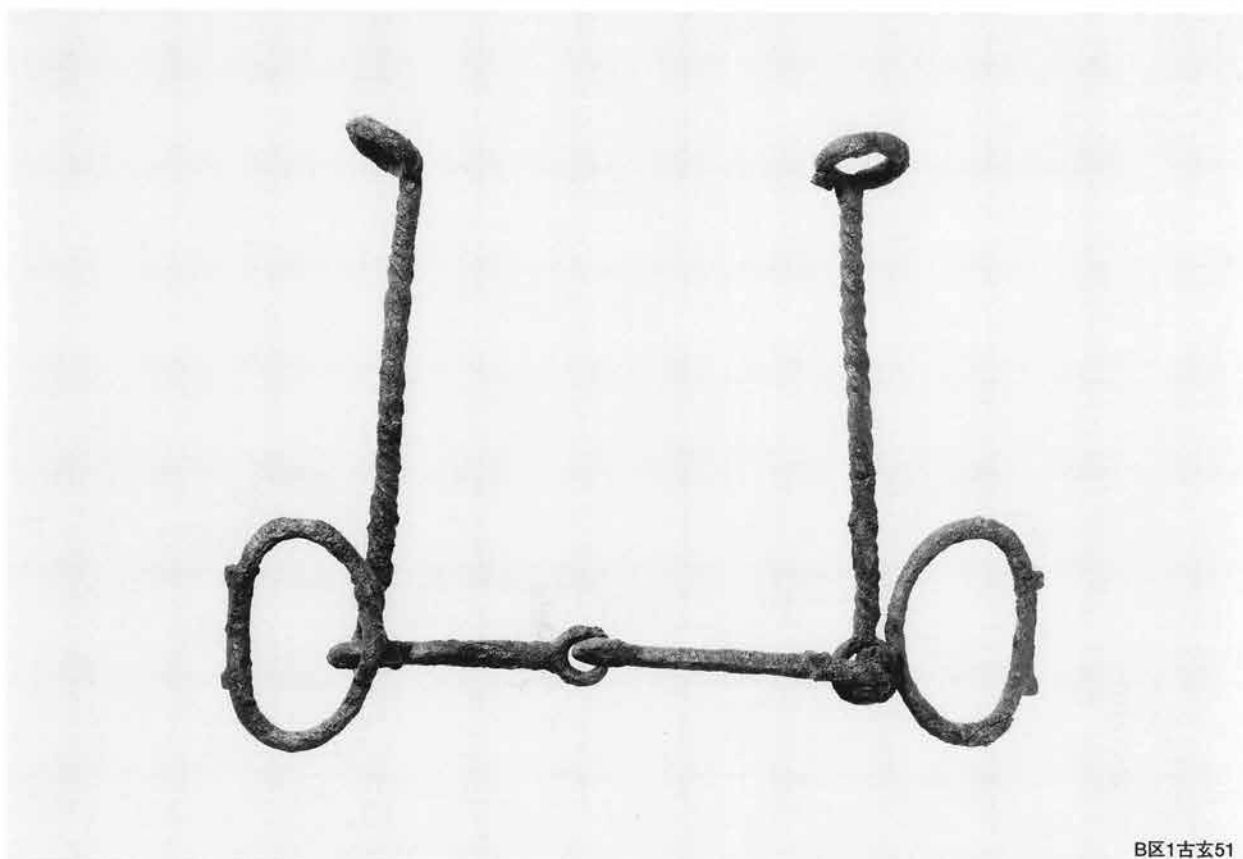


B区1古玄55

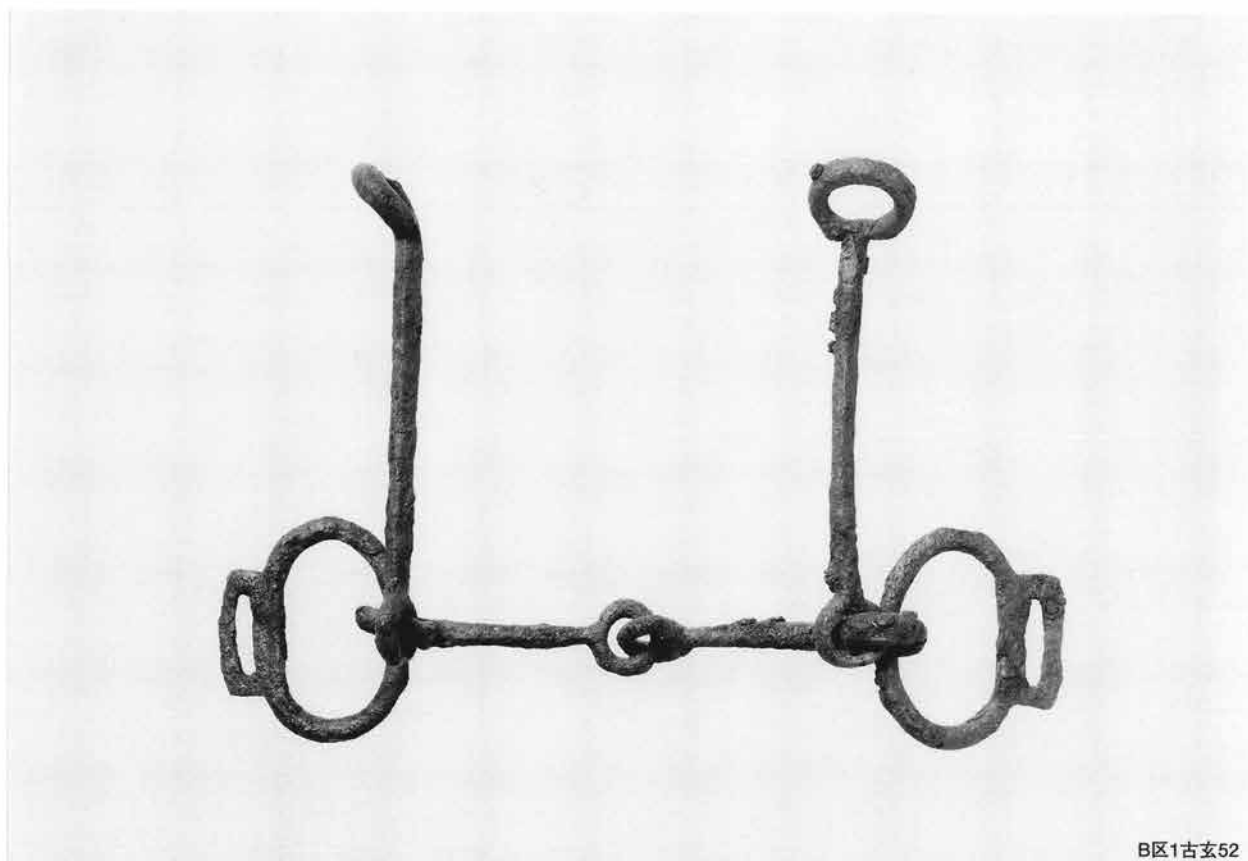


B区1古玄56

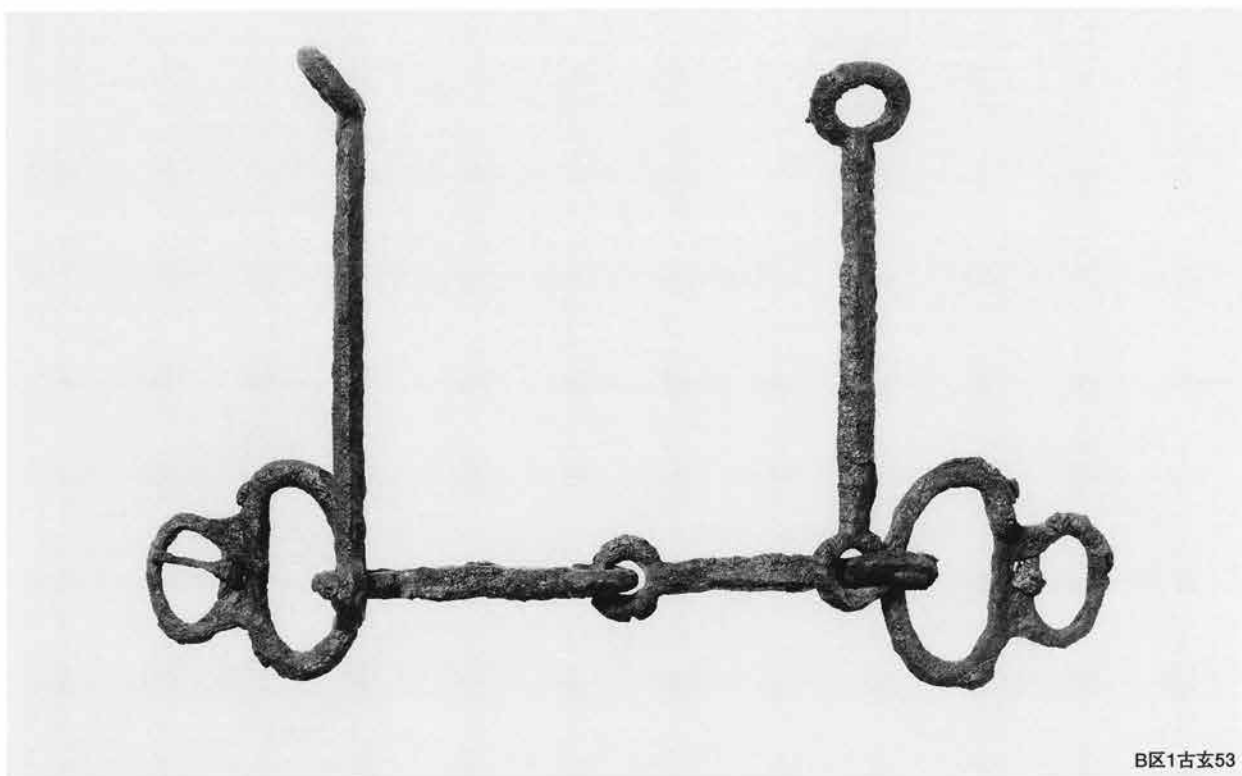




B区1古玄51



B区1古玄52



B区1古玄3



B区2古1



B区2古2



B区2古3



B区2古4



B区2古5



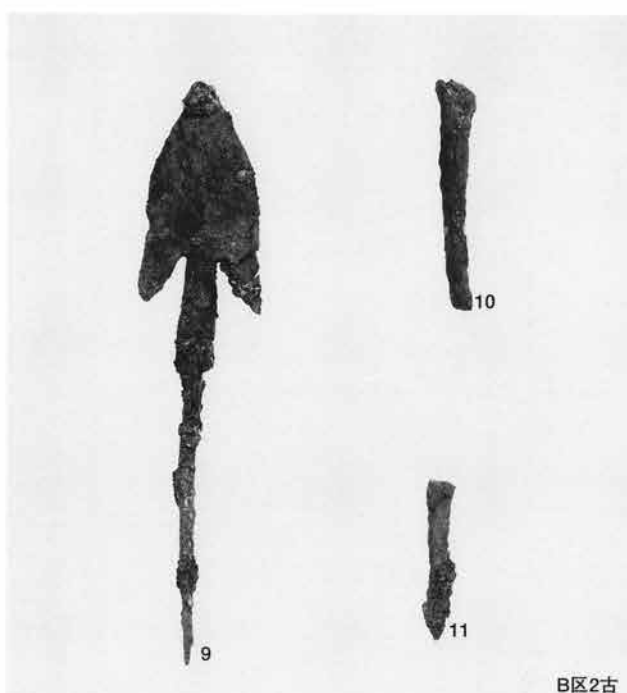
B区2古6



B区2古7



B区2古8



B区2古



C区1古1



C区1古3



C区1古4



C区1古2



C区1古5



C区1古6



C区1古7



C区1古8



A区1集1



A区1集2



A区2集1



A区2集2



A区3集1



A区4集1



A区6集1



A区6集2



C区33土坑1



C区33土坑2



C区34土坑1



C区52土坑1



C区44土坑1



A区遗構外古墳1



B区遗構外古墳1



B区9土坑1



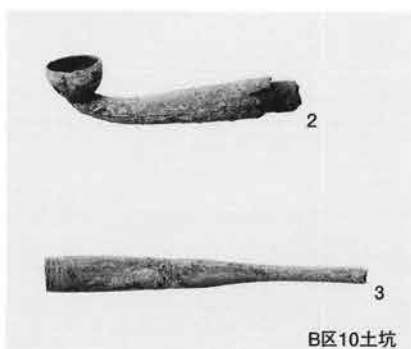
B区9土坑2



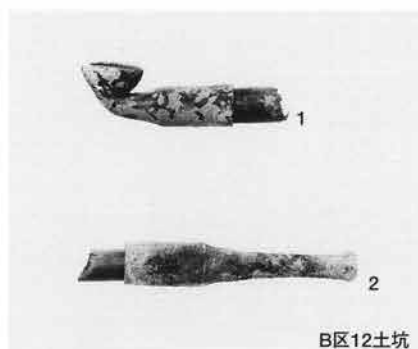
B区10土坑4



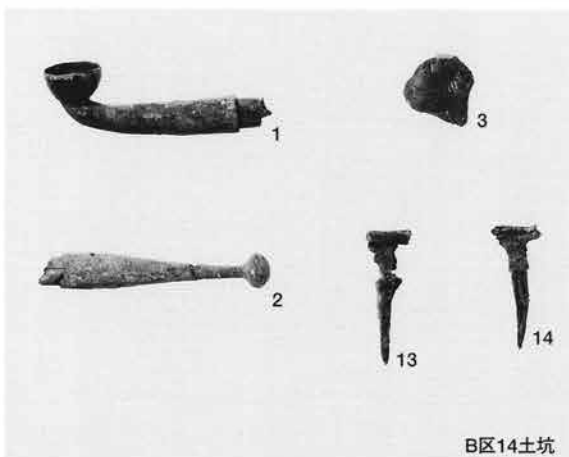
B区10土坑1



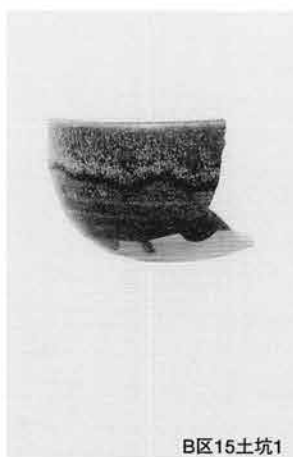
B区10土坑



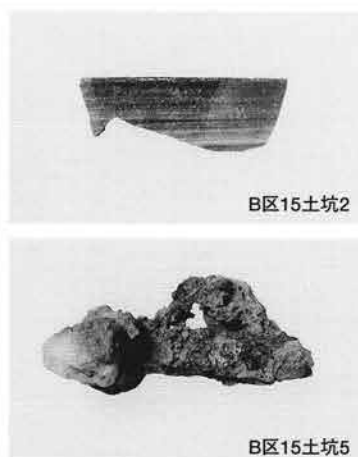
B区12土坑



B区14土坑

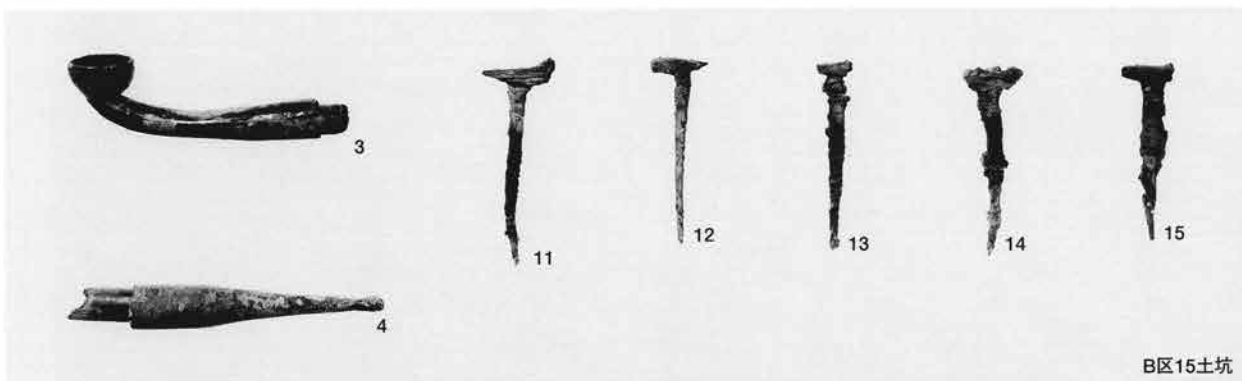


B区15土坑1

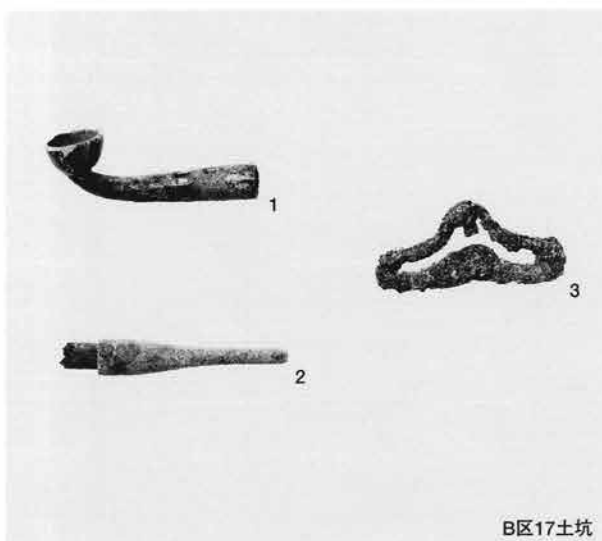


B区15土坑2

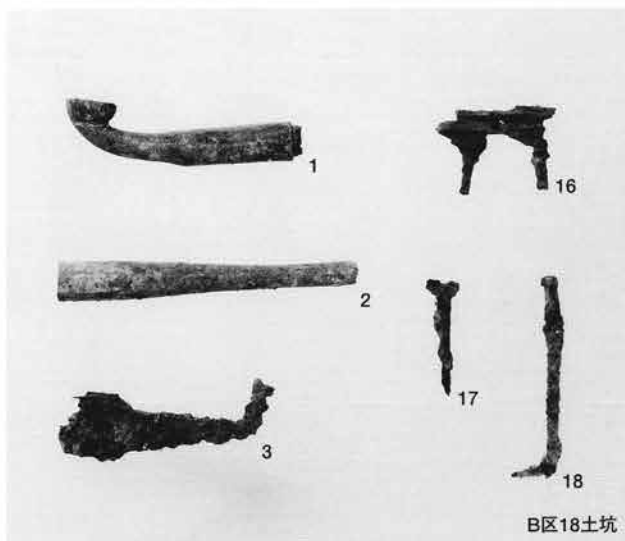
B区15土坑5



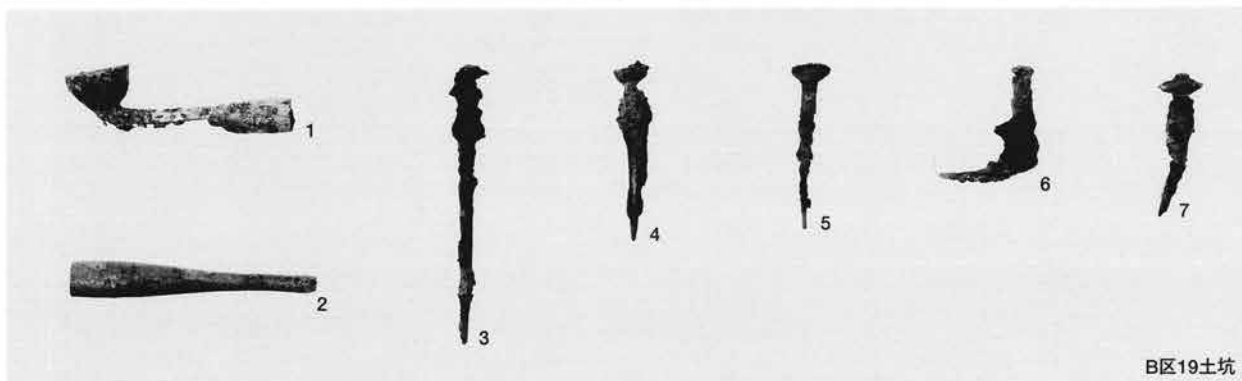
B区15土坑



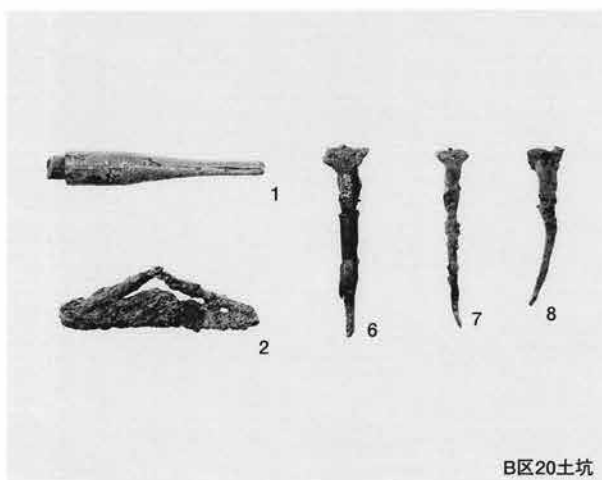
B区17土坑



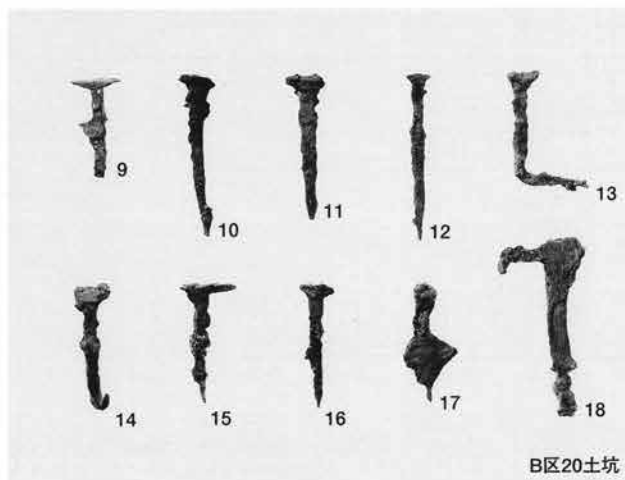
B区18土坑



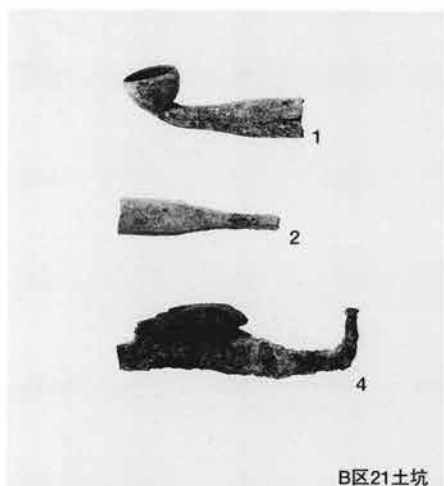
B区19土坑



B区20土坑



B区20土坑



B区21土坑



B区21土坑3



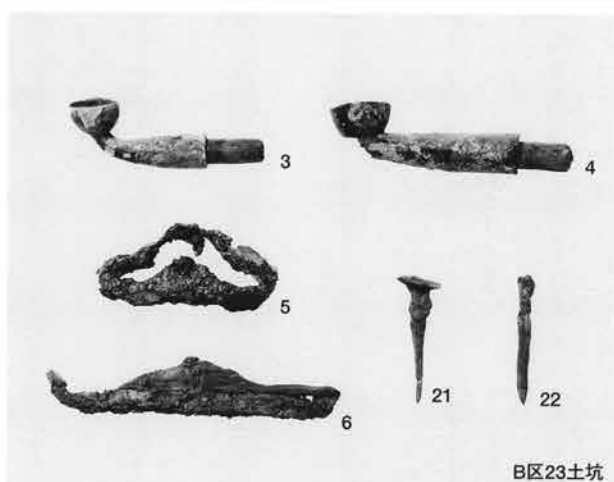
B区22土坑



B区23土坑1



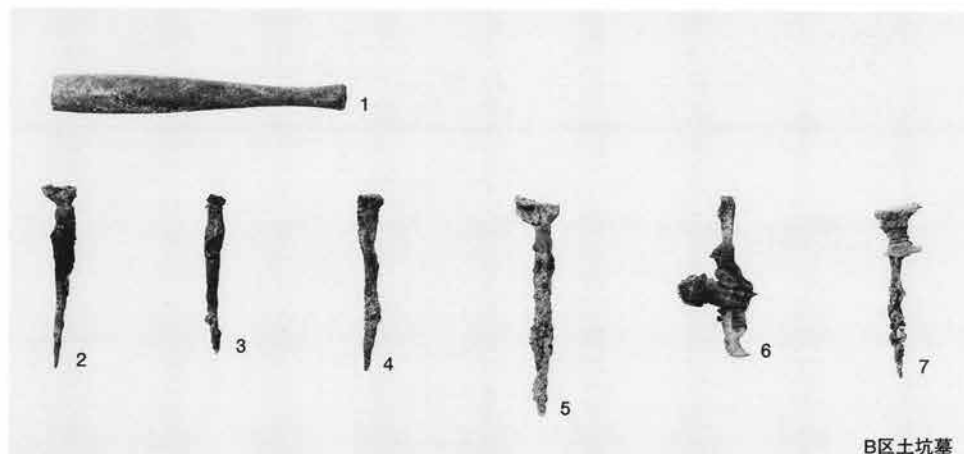
B区23土坑2



B区23土坑



B区24土坑1



B区土坑墓



C区37土坑1



C区38土坑1



B区遺構外近世1



C区遺構外近世1

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第351集

生品西浦遺跡 村道生品下り線埋蔵文化財発掘調査報告書

平成17年3月9日 印刷

平成17年3月15日 発行

編集・発行／財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒375-8555 群馬県勢多郡北橘村大字下箱田784番地の2

電話 0279-52-2511 (代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷／上武印刷株式会社



付図1 生品西浦遺跡全体図
(古墳時代以降)



付図2 生品西浦遺跡全体図 (縄文～弥生時代)

